鳥取県教育文化財団調査報告書　78

一般県道180号線道路改良工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県米子市

# 古市遺跡群3

## 古市宮ノ谷山遺跡
## 古市古墳群

2002

財団法人　鳥取県教育文化財団

鳥取県教育文化財団調査報告書　78

一般県道 180 号線道路改良工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県米子市

# 古市遺跡群 3

## 古市宮ノ谷山遺跡
## 古市古墳群

２００２

財団法人　鳥取県教育文化財団

１．遠く日本海を望む（南東から）

２．調査地全景（西から）

カラー図版２

竪穴住居跡７炭化材等検出状況（西から）

１．　竪穴住居跡７被熱粘土塊検出状況（西から）

２．　竪穴住居跡７土層断面（南から）

カラー図版４

１．　被熱硬化面２検出状況（東から）

２．　被熱硬化面１検出状況（南から）

３．　竪穴住居跡１被熱硬化面検出状況（東から）

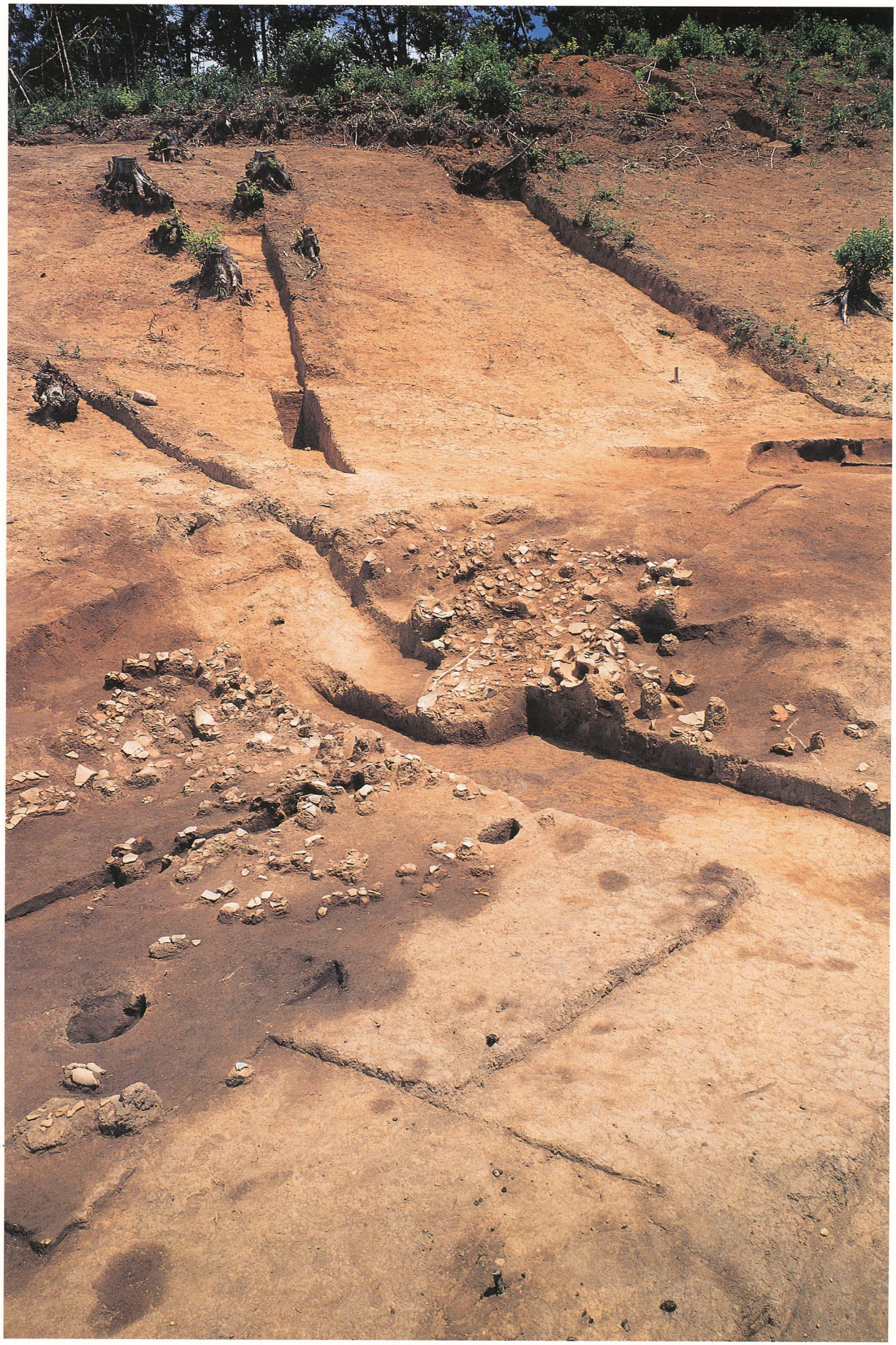
４　古市15号墳周溝内遺物出土状況（北から）

１．　ＸＶ層出土分銅形土製品

２．　古市17号墳埋葬施設１出土玉類

３．　古市15号墳周溝内出土遺物

カラー図版６



土器溜検出状況（西から）

土器溜出土遺物

カラー図版 8

土坑16出土遺物

# 序

近年、鳥取県では弥生時代において“最大級”といわれる妻木晩田（むきばんだ）遺跡、“弥生の博物館”と評される青谷上寺地（あおやかみじち）遺跡などで相次いで貴重な発見がありました。本調査地古市宮ノ谷山（ふるいちみやのたにやま）遺跡はその弥生時代から古墳、奈良、平安、鎌倉、そして室町時代にわたる複合遺跡であることがわかりました。

連綿と続く歴史の時間軸の中で、前者がある部分を横に切ったものであるのに対し、後者は縦に切ったものといえると思います。これら縦軸と横軸を織り合わせることによって歴史というものは形成されていることを私たちは知ることができます。

鳥取県も他地域と変わらず、非常に多くの情報をもつ遺跡が地中に包含されているところです。そして今までにも多くの調査を行ってきましたが、その大半が開発工事に伴うものであることはいうまでもないことでしょう。とくに先の二遺跡のような例をはじめ、さまざまな成果は広大な面積を一度に調査したために得られた結果ともいえます。今回も道路建設という、地域にとっては必要とされる事業によって調査は行われました。

こうした調査が行われていくこと、そしてそこから導き出される成果をいかに地域に還元し、また歴史研究に反映、貢献するかということは、大きな課題であると思います。 正しい歴史認識をもつためにも正確な調査およびその評価、そして情報発信をすることが必要であると考えます。今回の古市宮ノ谷山遺跡の報告がそうした歴史復元の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行までには大変多くの方々にお世話になりました。御協力、御指導賜った関係機関各位に対し心から感謝いたします。

平成１４年３月

財団法人　鳥取県教育文化財団
理事長　**有　田　博　充**

# 例　言

1．本報告書は、「一般国道180号改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査」として実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本報告書に収載した遺跡の所在地は、以下のとおりである。

古市宮ノ谷山遺跡：米子市古市字宮ノ谷山554番10、555～562、字立石山586番、587-1番

3．本報告書における方位、座標値は、国土座標第Ⅴ系の座標値である。また、レベルは海抜標高を表す。

4．本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1／50,000地形図「米子」、1／25,000地形図「母里」を使用した。

5．本発掘調査にあたり、現地指導を鳥取環境大学浅川滋男氏に、熱残留磁気測定を島根大学時枝克安氏にお願いした。また出土した製鉄関連遺物の分類をたたら研究会委員穴澤義功氏に、炭化材などの樹種同定を鳥取大学古川郁夫氏に、人骨鑑定を鳥取大学井上貴央氏に、種実同定を名古屋大学渡辺誠氏に、陶磁器類の産地同定などを広島県立美術館村上勇氏に、石材鑑定を遠藤勝壽氏にそれぞれお願いした。また時枝、古川、井上および白石純（岡山理科大学）の各氏には玉稿を賜った。記して深謝いたします。

6．本報告にあたり、花粉分析、年代測定、遺跡の航空写真撮影、遺物の保存処理をそれぞれ専門業者に、現地における基準点測量および地形測量を測量コンサルタントに委託した。

7．遺物の実測・浄書は調査員および室内整理作業員が行った。

8．掲載図面は、調査員が作成したものを調査員および室内整理作業員が浄書を行った。

9．現場の写真撮影は調査員が行い、遺物の写真撮影は独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所牛嶋　茂氏、杉本和樹氏にお願いした。

10．発掘調査によって作成された図面、写真などの記録類、および出土遺物などは鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。

11．本報告書の作成は調査員の協議に基づき執筆し、中森が編集した。文責は目次および文末に記した。

12．現地調査および報告書の作成にあたっては上記の方々のほかに、多くの方々からご指導、ご助言およびご支援いただいた。明記して深謝いたします。（敬称略、順不同）

吾郷信一（吾郷文化財研究所）、新井宏則（会見町教育委員会）、安間拓巳、石丸恵理子、河瀬正利、三浦正幸（以上広島大学）、池澤俊幸（高知県文化財団埋蔵文化財センター）、泉　潤哉（西伯町教育委員会）、五十川伸矢（京都橋女子大学）、岩田文章（淀江町教育委員会）、岡村道雄（文化庁記念物課）、小野正敏（国立歴史民俗博物館）、角田徳幸、澤田正明、中川　寧、西尾克己、東森　晋、廣江耕史、間野大丞（以上島根県埋蔵文化財調査センター）、加藤つむぎ（京都造形芸術大学）、小林義孝（大阪府文化財調査研究センター）、小原貴樹、下高瑞哉、杉谷愛象（以上米子市教育委員会）、齊藤義弘（福島市教育委員会）、佐伯純也、高橋浩樹（以上米子市教育文化事業団）、榊原博英（浜田市教育委員会）、重金　誠（能勢町教育委員会）、杉谷美恵子、谷口恭子、前田　均、山田真宏（以上鳥取市埋蔵文化財調査センター）、武田恭彰（総社市教育委員会）、辻　信広（名和町教育委員会）、長田康平（溝口町教育委員会）、中村唯史（三瓶自然館）、丹羽野　裕（島根県古代文化センター）、東森市良（前島根考古学研究会会長）、平石　充（島根県立博物館）、藤井裕之（京都大学大学院）、細田美樹（益田市教育委員会）、南　博史（京都文化博物館）、百瀬正恒（京都市埋蔵文化財研究所）、守岡正司（島根県教育庁文化財課）、山内英樹（愛媛県埋蔵文化財センター）、渡辺輝紀（日南町教育委員会）、渡辺　昇（兵庫県教育委員会）、島根県埋蔵文化財調査研究センター、米子市教育委員会

# 凡　例

1．発掘調査時における遺構名、番号は報告書作成時に大幅に変更している。新旧の対照はP．xiiに示した。なお、遺構の呼称は、例えば土坑状遺構については土坑とし、他の遺構についても「状遺構」を省略した。

2．遺跡の略称はＦＭとした。

3．本報告書における遺物番号は次のように記す。

番号のみ：土器、土製品、被熱粘土塊、焼成粘土塊　Ｗ：木製品　Ｓ：石器・石製品　Ｆ：鉄製品、製鉄関連遺物　Ｊ：玉製品

4．挿図、遺構・遺物にはそれぞれ通し番号をつけた。

5．本文中、挿図中および写真図版の遺物番号は一致する。

6．遺物実測図のうち須恵器は断面を黒塗りにし、それ以外は白抜きであらわした。また奈良～平安時代初頭の須恵器杯の底面にある糸切り痕のうち ◎ は回転、⊜ は静止糸切りであることを示す。さらに平安～鎌倉時代の土師器杯類については反転復元したものには●、部分復元のものにはその範囲を示した。

7．遺物には遺跡名略称、グリッド名、遺構名、取上げ番号、取上げ年月日を基本的に注記した。

8．遺構、遺物に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。

地山　炭化物　焼土　被熱硬化面　貼り床　粘土目貼り

赤色塗彩　黒色処理　黒斑　磨面

9．製鉄関連遺物に関しては、強力磁石（ＴＵＪＩＭＡ　ＰＵＰ－Ｍ）と特殊金属探知機による鉄塊の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を行った。資料の分類、抽出、ならびに資料観察表の作成には穴澤義功氏に依頼し、ご指導賜った。

10．遺物観察表は時期ごとに各章末に掲載し、製鉄関連遺物・鉄製品はまとめて第６章末に載せた。表については以下のとおりとする。

⑴土器についての法量は基本的に口径、器高を記載した。すべての遺物に対して、復元したものは＊印、残存値は△印を数値の前に付している。単位はcmである。

⑵製鉄関連遺物についての法量は最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。

磁着度は鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応を１～８までの数字で表現したもので、数値が大きいほど磁着度が強い。メタル度は小型金属探知機によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、基準感度は次のとおりである。

Ｈ（○）：Ｈは最高感度でごく小さな金属鉄が残留することを示す。

Ｍ（◎）：Ｍは標準感度で一般的な大きさや金属鉄が残留することを示す。

Ｌ（●）：Ｌは低感度でやや大きな金属鉄が残留することを示す。

特Ｌ（☆）：特Ｌは低感度でＬ以上の大きな金属鉄が残留することを示す。

11．遺構・遺物の時期決定には下記の文献を参照した。

清水真一　1992「因幡・伯耆地域」正岡睦夫・松本岩雄編『弥生土器の様式と編年―山陽・山陰編―』木耳社

青木遺跡発掘調査団編　1978『青木遺跡発掘調査報告書』Ⅲ　鳥取県教育委員会

八峠　興　1998「山陰における中世土器の変遷について―供膳具・煮炊具を中心として―」『中近世土器の基礎研究』ＸⅢ

同　2000「山陰における平安時代の土器・陶磁器について」『中近世土器の基礎研究』ＸＶ

# 目　次

序
例言
凡例
目次

第１章　調査の経緯 …… （中森）　1
　第１節　調査に至る経緯　1
　第２節　調査の経過　1
　第３節　調査体制　2

第２章　位置と環境 …… （浜田）　4

第３章　遺跡の概要 …… （中森）　8
　第１節　調査の方法　8
　第２節　概要　8
　第３節　調査地内の堆積　9

第４章　弥生時代の調査 …… （中森・大川）　19
　第１節　概要 …… （中森）　19
　第２節　中期後葉の遺構と遺物 …… （中森）　21
　第３節　後期の遺構と遺物 …… （中森・大川）　27

第５章　古墳時代の調査 …… （中森・下江）　60
　第１節　概要 …… （中森）　60
　第２節　検出した遺構と遺物 …… （中森・下江）　63

第６章　奈良時代後期～平安時代初頭の調査 …… （中森）　94
　第１節　概要　94
　第２節　Ⅵ層下面検出の遺構と遺物　94
　第３節　Ⅳ層下面検出の遺構と遺物　100

第７章　平安時代の調査 …… （中森）　122
　第１節　概要　122
　第２節　谷１区検出の遺構と遺物　129
　第３節　谷２区検出の遺構と遺物　143

第８章　鎌倉時代～室町時代の調査 …… （中森）159
第１節　概要 159
第２節　検出した遺構と遺物 159
第３節　出土した五輪塔について 174

第９章　時期不明の遺構 …… （中森）179
第１節　概要 179
第２節　検出した遺構 179

第 10 章　特論
特論１　古市宮ノ谷山遺跡焼失住居跡（竪穴住居跡７）出土炭化材の樹種 …… 古川郁夫　185
特論２　弥生時代焼失住居の諸問題―鳥取県における焼失住居の比較検討― … 大川泰広　189
特論３　古市宮ノ谷山遺跡の焼土跡の残留磁気測定による焼成年代推定 …… 時枝克安　195
特論４　古市宮ノ谷山遺跡における放射性炭素年代測定 …… 古環境研究所　200
特論５　米子平野における古墳時代の小古墳群の検討 …… 下江健太　202
討論６　古市宮ノ谷山遺跡出土土器の胎土分析 …… 白石　純　209
特論７　奈良時代後期～平安時代の土器様相
－古市宮ノ谷山遺跡出土資料を中心に－ …… 中森　祥　218
特論８　古市宮ノ谷山遺跡における花粉分析 …… 古環境研究所　224
特論９　古市宮ノ谷山遺跡集石７から検出された火葬人骨について …… 井上貴央　228

第 11 章　まとめ …… （中森・濵・浜田・下江・大川・川下）230

# 挿図目次


図１　調査地位置 …… 3
図２　周辺遺跡分布 …… 5
図３　調査地周辺遺跡分布 …… 7
図４　グリッド配置 …… 8
図５　調査前地形測量 …… 10
図６　調査後地形測量 …… 11
図７　調査地内遺構分布 …… 12
図８　トレンチ配置 …… 13
図９　調査地内土層断面(1) …… 14
図 10　調査地内土層断面(2) …… 15 ～ 16
図 11　調査地内土層断面(3) …… 17 ～ 18
図 12　弥生時代遺構分布 …… 19
図 13　竪穴住居跡１、土坑１ …… 20
図 14　竪穴住居跡１出土遺物 …… 21
図 15　土坑２～６および出土遺物 …… 23
図 16　テラス１および出土遺物 …… 24
図 17　ＸＩ層下層・ＸＶ層出土遺物 …… 25
図 18　竪穴住居跡２および出土遺物 …… 26
図 19　竪穴住居跡３および出土遺物 …… 27
図 20　竪穴住居跡４ …… 28
図 21　竪穴住居跡４出土遺物 …… 29
図 22　竪穴住居跡５・６および出土遺物 …… 30
図 23　竪穴住居跡７焼土検出状況
　　および土層断面 …… 32
図 24　竪穴住居跡７検出状況(1) …… 33 ～ 34
図 25　竪穴住居跡７被熱粘土塊検出状況 …… 36
図 26　竪穴住居跡７出土遺物(1) …… 37
図 27　竪穴住居跡７検出状況(2)
　　および出土遺物(2) …… 39
図 28　竪穴住居跡７土器出土状況
　　および遺物(3) …… 40
図 29　竪穴住居跡７土器出土状況
　　および遺物(4) …… 41
図 30　竪穴住居跡７出土遺物(5)
　　および完掘 …… 42
図 31　テラス２・３および出土遺物 …… 43
図 32　テラス５～７ …… 44
図 33　テラス５・７出土遺物 …… 45
図 34　テラス４および出土遺物 …… 46
図 35　土坑８および出土遺物 …… 47
図 36　土坑９ …… 48
図 37　ＸＩ層およびその他の層出土遺物 …… 49
図 38　竪穴住居跡８および出土遺物(1) …… 50
図 39　竪穴住居跡８出土遺物(2) …… 51
　　竪穴住居跡９および出土遺物 …… 51
図 40　竪穴住居跡 10 …… 52
図 41　竪穴住居跡 10 出土遺物 …… 53
図 42　古墳時代遺構分布 …… 60
図 43　古市 14 号墳および出土遺物 …… 61
図 44　古市 15 号墳調査前地形測量
　　および土層断面 …… 61
図 45　古市 15 号墳遺物出土状況 …… 62
図 46　古市 15 号墳出土遺物 …… 63
図 47　古市 16 号墳調査前地形測量 …… 64
図 48　古市 16 号墳墳丘検出状況 …… 64
図 49　古市 16 号墳遺物出土状況
　　および出土遺物 …… 65
図 50　古市 16 号墳埋葬施設１ …… 66
図 51　古市 17 号墳調査前地形測量 …… 67
図 52　古市 17 号墳埋葬施設２ …… 67
図 53　古市 17 号墳墳丘検出状況
　　および埋葬施設１ …… 68
図 54　古市 17 号墳出土遺物 …… 69
図 55　古市 18 号墳調査前地形測量 …… 69
図 56　古市 18 号墳墳丘検出状況、埋葬施設１
　　および出土遺物 …… 70
図 57　古市 19 号墳調査前地形測量 …… 72
図 58　古市 19 号墳墳丘検出状況 …… 72
図 59　古市 19 号墳埋葬施設検出状況 …… 73
図 60　古市 19 号墳埋葬施設１
　　および出土遺物 …… 74
図 61　古市 19 号墳埋葬施設２ …… 75
図 62　古市 19 号墳埋葬施設完掘 …… 76
図 63　古市 20 号墳調査前地形測量 …… 78
図 64　古市 20 号墳墳丘検出状況 …… 79
図 65　古市 20 号墳埋葬施設１検出状況 …… 80
図 66　古市 20 号墳埋葬施設１ …… 81
図 67　古市 20 号墳埋葬施設２検出状況 …… 82
図 68　古市 20 号墳埋葬施設２
　　および出土遺物 …… 83

図 69　古市 20 号墳埋葬施設 3
　　および出土遺物 …… 84
図 70　古市 21 号墳および出土遺物 …… 85
図 71　古市 22 号墳墳丘および埋葬施設 1
　　検出状況 …… 86
図 72　古市 22 号墳埋葬施設 1
　　および出土遺物 …… 87
図 73　古市 22 号墳調査前地形測量 …… 87
図 74　古市 23 号墳調査前地形測量 …… 88
図 75　古市 23 号墳墳丘、埋葬施設 1 検出状況
　　および出土遺物 …… 89
図 76　古市古墳群完掘状況(1) …… 90
図 77　古市古墳群完掘状況(2) …… 91
図 78　奈良時代後期～平安時代初頭遺構分布 …… 94
図 79　Ⅵ層下面遺構群および出土遺物 …… 95
図 80　テラス 10 …… 96
図 81　テラス 10 ～ 14、土坑 10 …… 97 ～ 98
図 82　テラス 10 ～ 14
　　およびⅣ層出土遺物(1) …… 99
図 83　Ⅳ層出土遺物(2) …… 100
図 84　Ⅳ層出土製鉄関連遺物 …… 101
図 85　テラス 15、集石 1 …… 102
図 86　テラス 15 出土遺物(1) …… 103
図 87　テラス 15 出土遺物(2) …… 104
図 88　テラス 15 および集石 1 出土遺物 …… 105
図 89　テラス 15 出土製鉄関連遺物 …… 106
図 90　テラス 16 および出土遺物 …… 107
図 91　テラス 17 および出土遺物 …… 108
図 92　Ⅲ層出土遺物 …… 109
図 93　Ⅴ層およびその他の層出土遺物 …… 110
図 94　製鉄関連遺物構成図(1) …… 112
図 95　製鉄関連遺物構成図(2) …… 113
図 96　平安時代遺構分布 …… 122
図 97　テラス 18 周辺遺構群
　　およびテラス 18 出土遺物 …… 123
図 98　テラス 19 および出土遺物(1) …… 124
図 99　テラス 19 出土遺物(2) …… 125
図 100　土器溜周辺遺構群
　　および土坑 12・13 出土遺物 …… 126
図 101　土坑 14 および出土遺物 …… 127
図 102　テラス 18・19 および土坑 14 ほか
　　出土焼成粘土塊 …… 128
図 103　土器溜検出状況 …… 130
図 104　土器溜出土遺物(1) …… 131
図 105　土器溜出土遺物(2) …… 132
図 106　土器溜出土遺物(3) …… 133
図 107　土器溜出土遺物(4) …… 134
図 108　土器溜出土遺物(5) …… 135
図 109　土器溜出土遺物(6) …… 136
図 110　土器溜出土遺物(7) …… 137
図 111　土器溜出土遺物(8) …… 138
図 112　土器溜出土遺物(9) …… 139
図 113　土器溜出土遺物（10） …… 140
図 114　土器溜および
　　周辺出土製鉄関連遺物ほか …… 141
図 115　テラス 21 ～ 23 …… 142
図 116　テラス 21 ～ 23 出土遺物 …… 143
図 117　池状遺構⑦層出土遺物 …… 144
図 118　池状遺構⑥層遺物分布
　　および土層断面 …… 144
図 119　池状遺構⑥層出土遺物 …… 145
図 120　土坑 15 …… 146
図 121　土坑 15 出土遺物 …… 147
図 122　池状遺構④層遺物分布
　　および出土遺物 …… 148
図 123　鎌倉時代～室町時代遺構分布 …… 159
図 124　土坑 16 …… 160
図 125　土坑 16 出土遺物(1) …… 161
図 126　土坑 16 出土遺物(2) …… 162
図 127　テラス 24 および出土遺物 …… 163
図 128　尾根 1 区先端部遺構群 …… 164
図 129　尾根 1 区先端部土層断面
　　および出土遺物 …… 165
図 130　集石群検出状況および集石 7 …… 166
図 131　集石 7 出土遺物 …… 167
図 132　集石 5 ・ 6 ・ 8 ・ 9
　　および出土遺物(1) …… 168
図 133　集石群出土遺物(2) …… 169
図 134　集石 3 ・ 4 および Ⅰ 層出土遺物 …… 170
図 135　谷 1 区出土遺物 …… 170
図 136　尾根 2 区土壙群および出土遺物 …… 171
図 137　溝 16 および出土遺物 …… 172
図 138　遺構外出土遺物 …… 173
図 139　時期不明遺構分布 …… 179

図 140　15 号墳下層土坑群 …… 180
図 141　17 号墳上層土坑群 …… 181
図 142　20・22・23 号墳下層土坑群 …… 182
図 143　土坑 29・36 …… 183
図 144　鳥取県内の焼失住居分布（弥生時代）… 190
図 145　焼失住居検出例① …… 192
図 146　焼失住居検出例② …… 193
図 147-1　自然残留磁気の方向 …… 198
図 147-2　自然残留磁気強度分布 …… 198
図 148　交流消磁後の残留磁気の方向 …… 198
図 149　被熱硬化面１・２の試料位置 …… 198
図 150　被熱硬化面１・２の残留磁気の平均方向
（＋印）と誤差の範囲（点線の楕円）…… 199
図 151　米子平野における前期古墳の分布 …… 202
図 152　各古墳群の配置 …… 203
図 153　各古墳群における埋葬頭位 …… 205
図 154　組み合わせ式石棺の各属性 …… 206
図 155　弥生時代時期別による胎土の比較 …… 213
図 156　遺跡出土焼成粘土と周辺で採取した
粘土との比較 …… 213
図 157　弥生土器と焼成粘土塊他との比較 …… 214
図 158　古代、中世の杯類の比較 …… 214
図 159　古代、中世の杯類と焼成粘土塊
他との比較 …… 215
図 160　古代、中世の甕と焼成粘土塊
他との比較 …… 215
図 161　10 世紀代土師器（杯甕）の
時期別の比較 …… 216
図 162　奈良時代後期～平安時代
土層堆積概念 …… 218
図 163　奈良時代後期～平安時代
土器変遷 …… 220・221
図 164-1　集石７検出状況 …… 228
図 164-2　集石７人骨出土状況 …… 228

# 写真目次

Fig. 1　竪穴住居跡１遺物出土状況（西から）… 21
Fig. 2　被熱粘土塊Ａ群検出状況（西から）…… 36
Fig. 3　古市 15 号墳周溝土層断面（南から）… 61
Fig. 4　坏と脚の接続部分（167）…… 63
Fig. 5　古市 16 号墳埋葬施設１検出状況（東から）64
Fig. 6　古市 19 号墳墓壙内土層断面（南から）… 72
Fig. 7　溝４・５完掘（南東から）…… 100
Fig. 8　溝８土層断面（東から）…… 123
Fig. 9　土器溜土器出土状況 …… 132
Fig.10　土器溜土器出土状況（西から）…… 139
Fig.11　テラス 25 完掘（北東から）…… 165
Fig.12　溝 16 遺物出土状況（東から）…… 172

# 挿表目次

表１　竪穴住居跡７出土種子一覧 …… 41
表２　弥生時代ピット一覧 …… 54
表３　第４章遺物観察表 …… 54 ～ 58
表４　被熱粘土塊観察表 …… 58
表５　弥生時代石器・石製品観察表 …… 58 ～ 59
表６　古市古墳群 …… 92
表７　玉類観察表 …… 92
表８　第５章土器観察表 …… 93
表９　奈良時代後期～平安時代初頭ピット一覧
…… 110 ～ 111
表 10　製鉄関連遺物・鉄製品観察表 …… 114 ～ 117
表 11　第６章土器観察表 …… 118 ～ 121
表 12　第６章石製品観察表 …… 121
表 13　平安時代ピット一覧 …… 149
表 14　第７章土器観察表 …… 150 ～ 156
表 15　焼成粘土塊観察表 …… 156 ～ 158
表 16　被熱粘土塊観察表 …… 158
表 17　第７章石製品観察表 …… 158
表 18　五輪塔法量比較 …… 175
表 19　鎌倉時代～室町時代ピット一覧 …… 175
表 20　第８章土器観察表 …… 176 ～ 178
表 21　第８章陶磁器観察表 …… 178
表 22　第８章石製品観察表 …… 178
表 23　竪穴住居跡７炭化材サンプル一覧 …… 188
表 24　鳥取県内の焼失住居（弥生時代）…… 190
表 25　組み合わせ式石棺の属性 …… 207
表 26　胎土分析結果一覧 …… 211
表 27　古市宮ノ谷山遺跡における花粉分析結果
…… 226

# 写真図版


＜カラー図版＞
1 -1　遠く日本海を望む（南東から）
　-2　調査地全景（西から）
2　　竪穴住居跡７炭化材等検出状況（西から）
3 -1　竪穴住居跡７被熱粘土塊検出状況(西から)
　-2　竪穴住居跡７土層断面（南から）
4 -1　被熱硬化面１検出状況（東から）
　-2　被熱硬化面２検出状況（南から）
　-3　被熱硬化面検出状況（東から）
　-4　古市 15 号墳周溝内遺物出土状況（北から）
5 -1　ＸＶ層出土分銅形土製品
　-2　古市 17 号墳埋葬施設１出土玉類
　-3　古市 15 号墳周溝内出土遺物
6　　土器溜検出状況（西から）
7　　土器溜出土遺物
8　　土坑 16 出土遺物
＜図版＞
1 -1　調査前全景（西から）
　-2　調査地遠景（北から）
2 -1　土坑６遺物出土状況（東から）
　-2　竪穴住居跡１完掘状況（北西から）
　-3　テラス１完掘状況（西から）
3 -1　竪穴住居跡１土器(1)出土状況（西から）
　-2　竪穴住居跡１出土遺物
　-3　ＸＩ層下層およびＸＶ層出土遺物
　-4　テラス１出土遺物
4　　テラス１出土遺物
5 -1　竪穴住居跡４完掘状況（北西から）
　-2　竪穴住居跡４側溝（南西から）
6 -1　遺構内出土石製品
　-2　竪穴住居跡６出土遺物
　-3　竪穴住居跡４出土土玉
　-4　竪穴住居跡４出土遺物
7 -1　竪穴住居跡６完掘状況（南から）
　-2　竪穴住居跡５完掘状況（南から）
　-3　竪穴住居跡６、Ｐ９炭化物検出状況（西から）
　-4　竪穴住居跡６、Ｐ 10 粘土塊？出土状況(西から)
8 -1　竪穴住居跡２、Ｐ６土層断面（南から）
　-2　竪穴住居跡２完掘状況（西から）
　-3　竪穴住居跡２土層断面（東から）
　-4　竪穴住居跡３完掘状況（北西から）
9 -1　竪穴住居跡２およびＸＩ層出土鉄製品
　-2　竪穴住居跡２出土遺物
　-3　竪穴住居跡２・３出土遺物
10 -1　竪穴住居跡７炭化材検出状況（南西から）
　-2　竪穴住居跡７被熱粘土塊検出状況（西から）
11 -1　竪穴住居跡７焼土検出状況（西から）
　-2　竪穴住居跡７完掘状況（北西から）
　-3　竪穴住居跡７完掘状況（南西から）
12 -1　北東壁面炭化材検出状況（南西から）
　-2　壁面炭化材（Ｗ１）検出状況（西から）
　-3　舟形？炭化材検出状況（南から）
　-4　炭化材検出状況（南から）
　-5　炭化部材検出状況（西から）
13 -1　Ｐ１検出状況（西から）
　-2　網状炭化材（Ｗ２、西から）
　-3　溝検出状況（南から）
　-4　Ｗ３出土状況（西から）
　-5　竪穴住居跡７出土遺物
14-1　被熱粘土塊（68）部分
　-2　竪穴住居跡７出土被熱粘土塊
15-1　竪穴住居跡７出土遺物
　-2　竪穴住居跡７出土炭化種子（原寸大）
16-1　土器出土状況
　-2　炭化種子出土状況
　-3　土器（72・73）出土状況（東から）
　-4　土器（69）出土状況（西から）
17　　竪穴住居跡７出土遺物
18-1　尾根１区遺構群（西から）
　-2　尾根２区テラス群（西から）
19-1　テラス４完掘状況（南西から）
　-2　焼土塊集中域検出状況（東から）
　-3　土坑８完掘状況（南西から）
20-1　テラス３出土遺物
　-2　テラス５出土遺物
　-3　テラス７出土焼土塊
　-4　テラス４・５・７、土坑８出土遺物
21　　ＸＩ層およびその他の層出土遺物
22-1　竪穴住居跡８完掘状況（西から）
　-2　竪穴住居跡 10 完掘状況（南から）
　-3　竪穴住居跡９完掘状況（南東から）
23-1　尾根１区先端部竪穴住居跡群（南西から）
　-2　尾根１区遺構群完掘状況（西から）
24-1　竪穴住居跡８出土遺物
　-2　竪穴住居跡 10 出土不明土製品
　-3　竪穴住居跡８遺物出土状況（北から）
　-4　竪穴住居跡８・９、テラス８出土遺物
25　　テラス 10 出土遺物
26-1　遺構外出土石器・石製品
　-2　遺構外出土突帯文土器
　-3　遺構外出土石器・石製品
27-1　遺構外出土水晶片
　-2　ＸＩ層出土石包丁
　-3　遺構外出土石製品
28-1　14 号墳周溝検出状況（南東から）
　-2　14 号墳周溝完掘状況（東から）
　-3　竪穴住居跡９完掘状況（東から）
29-1　15 号墳検出状況（南東から）
　-2　16 号墳検出状況（東から）
30-1　16 号墳周溝内遺物出土状況（北から）
　-2　16 号墳出土遺物
31-1　16 号墳埋葬施設１検出状況（西から）
　-2　16 号墳埋葬施設１完掘状況（西から）
　-3　17 号墳埋葬施設１検出状況（東から）
　-4　17 号墳埋葬施設１完掘状況（東から）
　-5　17 号墳埋葬施設２蓋石検出状況（東から）
　-6　17 号墳埋葬施設２完掘状況（東から）
32-1　17 号墳検出状況（東から）
　-2　18 号墳検出状況（東から）
　-3　18 号墳埋葬施設１検出状況（東から）

-4　18 号墳周溝内出土遺物
33-1　21 号墳検出状況（西から）
-2　21 号墳埋葬施設１集石部（北東から）
-3　21 号墳埋葬施設１検出状況（東から）
-4　21 号墳周溝内出土遺物
-5　21 号墳埋葬施設１完掘状況（東から）
34-1　19 号墳検出状況（東から）
-2　19 号墳埋葬施設１検出状況（南西から）
35-1　19 号墳埋葬施設１蓋石検出状況（南西から）
-2　埋葬施設１蓋石上粘土検出状況（南から）
-3　埋葬施設１蓋石上粘土除去状況（南から）
-4　埋葬施設２蓋石検出状況（南西から）
-5　埋葬施設２蓋石上粘土検出状況（南から）
-6　埋葬施設内土層断面（北から）
36　19 号墳埋葬施設検出状況（南西から）
37　19 号墳埋葬施設完掘状況（南西から）
38-1　19 号墳埋葬施設１遺物出土状況（南西から）
-2　埋葬施設１遺物出土状況（北から）
-3　埋葬施設１出土遺物
-4　19 号墳埋葬施設完掘状況（西から）
39-1　20 号墳検出状況（東から）
-2　20 号墳埋葬施設２検出状況（東から）
40-1　20 号墳埋葬施設１蓋石検出状況（東から）
-2　埋葬施設１検出状況（南西から）
-3　埋葬施設１完掘状況（南西から）
-4　埋葬施設３検出状況（東から）
41-1　19 号墳埋葬施設１蓋石裏面
-2　20 号墳埋葬施設２蓋石検出状況（南から）
-3　20 号墳埋葬施設１・２（西から）
42-1　20 号墳埋葬施設２遺物出土状況（南から）
-2　埋葬施設２出土遺物
-3　埋葬施設２検出状況（北から）
43-1　埋葬施設２側石内面
-2　埋葬施設２側石内面
-3　埋葬施設２粘土目張り断面（西から）
-4　埋葬施設２完掘状況（北から）
-5　埋葬施設２検出状況（北西から）
44-1　22 号墳検出状況（東から）
-2　埋葬施設蓋石検出状況（東から）
-3　埋葬施設蓋石除去状況（東から）
-4　埋葬施設粘土目張り検出状況（西から）
45-1　22 号墳埋葬施設検出状況（東から）
-2　22 号墳埋葬施設完掘状況（東から）
-3　23 号墳埋葬施設検出状況（西から）
-4　23 号墳埋葬施設完掘状況（西から）
-5　23 号墳埋葬施設出土遺物
46-1　テラス 17 遺物出土状況（西から）
-2　テラス 15 遺物出土状況（北から）
-3　集石１検出状況（南から）
47-1　テラス 15 完掘状況（北から）
-2　テラス 11 ～ 13 完掘状況（北から）
48-1　谷１区土層断面（南東から）
-2　テラス 10 完掘状況（南から）
49　Ⅳ層出土遺物
50-1　テラス 15 出土土錘
-2　遺構内出土石製品
-3　テラス 15 出土遺物
51-1　テラス 15 出土遺物
-2　テラス 15 ほか出土遺物
52　調査地内出土製鉄関連遺物
53　調査地内出土鉄製品
54　鉄製品Ｘ線写真(1)
55　鉄製品Ｘ線写真(2)
56　鉄製品Ｘ線写真(3)
57　鉄製品Ｘ線写真(4)
58　鉄製品Ｘ線写真(5)
59　鉄製品Ｘ線写真(6)
60-1　テラス 19 完掘状況（南東から）
-2　テラス 19 遺物出土状況（東から）
-3　テラス 18 出土遺物
-4　テラス 19 出土遺物
61-1　土坑 14 遺物出土状況（西から）
-2　土坑 14 出土遺物
-3　土坑 14 遺物出土状況（南から、近景）
-4　土坑 14 出土被熱粘土塊（炉壁？）
62-1　土器溜東側遺構群（西から）
-2　土坑 14 完掘状況（北から）
-3　土坑 12 完掘状況（南から）
-4　溝９・10 完掘状況（南から）
63　土坑 14 および土器溜（東から）
64-1　土器溜検出状況（西から）
-2　土器溜検出状況（北から）
65　土器溜土器出土状況
66-1　土器溜出土遺物１（内黒土師器皿、杯）
-2　土器溜出土遺物２（高台不良品）
-3　土器溜出土遺物３（土師器高台付杯）
67-1　土器溜出土遺物４（土師器杯）
-2　土器溜出土遺物５（土師器杯底面）
68　土器溜出土遺物６（焼成粘土塊）
69-1　土坑 14 出土焼成粘土塊
-2　テラス 18・19 およびその他の層出土焼成粘土塊
-3　土器溜出土遺物７（焼成粘土塊）
70-1　土器溜出土遺物８（土師器甕内外面調整痕）
-2　土器溜出土遺物９（土師器甕）
71-1　土器溜出土遺物 10（須恵器甕）
-2　土器溜検出状況（西から）
72-1　谷２区完掘状況（西から）
-2　谷２区完掘状況（東から）
73-1　池状遺構完掘状況（西から）
-2　土坑 15 完掘状況（西から）
-3　溝 11 ～ 13 完掘状況（東から）
74-1　土坑 15 遺物出土状況（西から）
-2　土坑 15 出土遺物１
75-1　土坑 15 出土遺物２（土師器内黒甕）
-2　土坑 15 出土遺物３（土師器内黒杯）
-3　土坑 15 出土遺物４（土師器高台付杯）
-4　土坑 15 出土遺物５（土師器杯）
76　池状遺構⑥層出土遺物
77-1　池状遺構⑥層出土遺物
-2　池状遺構および溝出土遺物
-3　池状遺構⑥層出土遺物
78-1　平安時代遺構および包含層出土石製品
-2　池状遺構⑥層遺物出土状況（南から）
-3　土坑 15 遺物出土状況（西から）
79-1　テラス 24 遺物出土状況１（南から）
-2　テラス 24 遺物出土状況２（南西から）

-3　テラス 24 出土遺物
80-1　土坑 16 遺物出土状況
-2　土坑 16 出土遺物１（土師器杯底面）
81-1　土坑 16 出土遺物２（灯明皿）
-2　土坑 16 土層断面（西から）
-3　土坑 16 遺物出土状況（東から）
-4　土坑 16 完掘状況（西から）
82-1　集石７検出状況（南から）
-2　集石７検出状況（北東から）
-3　集石７人骨出土状況（南から）
-4　集石７人骨出土状況（北から、近景）
集石７人骨出土状況（北から、近景）
83-1　集石８（北東から）
-2　集石３（北東から）
-3　集石２（南から）
-4　集石４（東から）
-5　テラス 28・29 完掘状況（東から）
84-1　集石出土空風輪
-2　集石出土火輪
-3　出土貿易陶磁器、国産陶器
-4　土壙２出土火輪
-5　遺構外出土小型火輪
85-1　土壙２遺物出土状況（東から）
-2　土壙２土層断面（西から）
-3　土壙２完掘状況（東から）
-4　土壙４礫検出状況（南東から）
-5　土壙４完掘状況（南東から）
86-1　土坑 22・23 完掘状況（北西から）
-2　土坑 28 検出状況（南から）
-3　土坑 29 完掘状況（北から）
-4　土坑 31・32 完掘状況（南東から）
87-1　池状遺構出土円筒埴輪
-2　遺構外出土砥石および管玉
-3　調査地完掘状況（東から）
88　出土木材顕微鏡写真１
89　出土木材顕微鏡写真２
90　出土木材顕微鏡写真３
91　出土木材顕微鏡写真４
92　出土木材顕微鏡写真５
93　実体顕微鏡による砂粒観察写真（12 倍）１
94　実体顕微鏡による砂粒観察写真（12 倍）２
95　花粉・胞子顕微鏡写真

| 新遺構名 | 旧No. | 新遺構名 | 旧No. | 新遺構名 | 旧No. | 新遺構名 | 旧No. | 新遺構名 | 旧No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 竪穴住居跡１ | SI08 | テラス１ | SS29 | テラス 25 | SS14 | 土坑 20 | SK09 | 集石３ | SX05 |
| 竪穴住居跡２ | SI05 | テラス２ | SS30 | テラス 26 | SS13 | 土坑 21 | SX09 | 集石４ | SX14 |
| 竪穴住居跡３ | SI09 | テラス３ | SS31 | テラス 27 | SS10 | 土坑 22 | SK30 | 集石５ | SX10 |
| 竪穴住居跡４ | SI07 | テラス４ | SS25 | テラス 28 | SS06 | 土坑 23 | SK31 | 集石６ | SX11 |
| 竪穴住居跡５ | SI10 | テラス５ | SS27 | テラス 29 | SS07 | 土坑 24 | SK23 | 集石７ | SX04 |
| 竪穴住居跡６ | SI11 | テラス６ | — | 土坑１ | SK14 | 土坑 25 | SK24 | 集石８ | SX13 |
| 竪穴住居跡７ | SI06 | テラス７ | SS26 | 土坑２ | SK06 | 土坑 26 | SK32 | 集石９ | SX12 |
| 竪穴住居跡８ | SI01 | テラス８ | SS12 | 土坑３ | SK10 | 土坑 27 | SX08・28 | 溝１ | SD14 |
| 竪穴住居跡９ | SI03 | テラス９ | SS20 | 土坑４ | SK12 | 土坑 28 | SX21 | 溝２ | SD17 |
| 竪穴住居跡 10 | SI02 | テラス 10 | SS19 | 土坑５ | SK13 | 土坑 29 | SK33 | 溝３ | SD18 |
| 16 号墳埋葬施設１ | SX06 | テラス 11 | SS17 | 土坑６ | SK04 | 土坑 30 | SK27 | 溝４ | SD15 |
| 17 号墳埋葬施設１ | SX29 | テラス 12 | SS18 | 土坑７ | SK17 | 土坑 31 | SK28 | 溝５ | SD16 |
| 17 号墳埋葬施設２ | SX32 | テラス 13 | SS24 | 土坑８ | SS28 | 土坑 32 | SK29 | 溝６ | SD19 |
| 18 号墳埋葬施設１ | SX38 | テラス 14 | SS23 | 土坑９ | SK18 | 土坑 33 | SK25 | 溝７ | SD12 |
| 19 号墳埋葬施設１ | SX36 | テラス 15 | SS22 | 土坑 10 | SK16 | 土坑 34 | SK22 | 溝８ | SD22 |
| 19 号墳埋葬施設２ | SX37 | テラス 16 | SS16 | 土坑 11 | SK19 | 土坑 35 | SX27 | 溝９ | SD23 |
| 20 号墳埋葬施設１ | SX33 | テラス 17 | SS11 | 土坑 12 | SK20 | 土坑 36 | SK15 | 溝 10 | SD24 |
| 20 号墳埋葬施設２ | SX35 | テラス 18 | SS08 | 土坑 13 | SK02 | 土壙１ | SX25 | 溝 11 | SD03 |
| 20 号墳埋葬施設３ | SX34 | テラス 19 | SS04 | 土坑 14 | SK01 | 土壙２ | SX24 | 溝 12 | SD02 |
| 21 号墳埋葬施設１ | SX07 | テラス 20 | SS21 | 土坑 15 | SK03 | 土壙３ | SX20 | 溝 13 | SD05 |
| 22 号墳埋葬施設１ | SX30 | テラス 21 | SS01 | 土坑 16 | SX15 | 土壙４ | SX22 | 溝 14 | SD04 |
| 23 号墳埋葬施設１ | SX21 | テラス 22 | SS02 | 土坑 17 | SK08 | 土壙５ | SX26 | 溝 15 | SD21 |
| 焼土塊集中域 | SX27 | テラス 23 | SS03 | 土坑 18 | SK11 | 集石１ | SX16 | 溝 16 | SD01 |
| 被熱遺構群 | SX17 | テラス 24 | SS05 | 土坑 19 | SK05 | 集石２ | SX08 | 溝 17 | SD09 |

**新旧遺構名対照**

# 第１章　調査の経緯

## 第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、鳥取県が進める一般国道180号道路改良事業を原因とし、米子市古市地内の工事予定地内に存在する埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。米子市陰田町の山陰道陰田ランプを基点とするこのバイパスは、同市新山から古市、吉谷を経て西伯町へとつながる。この改良工事における埋蔵文化財の保護と事業計画の調整については、事業計画策定に沿って関係機関で協議され、米子市教育委員会による試掘調査が実施されてきた。そして本事業に伴う陰田、新山間の発掘調査が国道180号バイパス関係埋蔵文化財調査団、財団法人米子市教育文化事業団によって実施されている(註1)。また古市地内の道路予定地については、すでに鳥取県教育文化財団により平成10、11年度に古市カハラケ田遺跡、古市河原田遺跡、古市コガノ木遺跡、古市流田遺跡が調査され、調査報告書を刊行している(註2)。

今回の調査地については平成11年度に米子市教育委員会により試掘調査が行われ、弥生時代から中世にかけての遺構、遺物が確認された。これを受けて鳥取県土木部道路課および鳥取県米子土木事務所は鳥取県教育委員会事務局文化課と協議を行い、文化財保護法第57条の３に基づく発掘通知を文化庁に提出した。その上で、記録保存のための事前発掘調査の指示を得た鳥取県土木部道路課は、発掘調査を財団法人鳥取県教育文化財団に委託した。これにより、平成12年度から西部埋蔵文化財米子調査事務所が調査を担当することとなり、財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター所長から文化庁長官に文化財保護法第57条第１項に基づく発掘届を提出した。

（中森）

（註１）杉谷愛象ほか編　1994『萱原・奥陰田』Ⅰ　㈶米子市教育文化事業団
　　小原貴樹ほか編　1998『萱原・奥陰田』Ⅱ　㈶米子市教育文化事業団
（註２）中森　祥、濵田竜彦ほか編　1999『古市遺跡群』１　㈶鳥取県教育文化財団
　　濵田竜彦、内田浩文編　2000『古市遺跡群』２　㈶鳥取県教育文化財団

## 第２節　調査の経過

平成12年度は、調査前に伐採された立木の撤去、および調査地南西部境の土留柵の設置が遅れたため、４月24日に漸く重機による表土剥ぎを開始した。調査地はその地形から尾根１・２区、谷１・２区に分け(図４)、両谷部の調査から着手した。谷２区では平安時代のテラスや土師器などが多量に出土した土坑、同期の遺物を多量に包含する池状の落ち込みなどを検出し、６月20日に調査を終えた。谷１区には平安時代の土器溜がすでに米子市の試掘において検出されており、その周辺の精査を行った結果、それは約14㎡の拡がりをもつことが確認された。出土した遺物量はコンテナで20箱ほどを数える。またこの面の下層には奈良時代後期から平安時代初頭に位置付けられるテラス群、さらに弥生後期、中期の遺物包含層、遺構面が重層的にあった。それぞれ遺物量が多く、調査は工程どおりに進まなかった。

６月末より尾根１区先端部の表土剥ぎを開始し、併せて尾根に並行する米子市教育委員会が本調査前に入れた試掘トレンチの精査、ならびに新規にトレンチを入れた結果、そこに当初想定されていない古墳群のあることが確認された。これらは尾根先端部（西側）から順に、古市14～21号墳として新たに登録された。また谷１区側の斜面には弥生時代の遺構群があることも確認し、谷１区と合わせて当初予定を大きく上回る調査量があることがわかってきた。

10月６日、調査地内で立っていられないほどの大きな揺れを感じた。日野郡日野町を震源とする「鳥取県西部地震」だった。幸い犠牲者を出すことはなかったものの、家屋や道路など多くの被害があった。調査地内においてもトレンチが崩れたり、調査地に続く仮設道にヒビが入るなど少なからず被害を受けた。また当該地域から参

加している発掘作業員の大半が被災し、その後の調査においても大きな影響があった。

尾根２区は11月７日からその上方（東側）を重機により表土剥ぎ開始。その下に奈良時代から平安時代初頭にかけての遺構、弥生時代後期のテラス群があった。また先端部には中世土壙群を検出した。

鳥取県土木事務所と協議した結果、尾根１区の古墳群ならびにその裾部、下層にある弥生時代遺構群は次年度調査となり、谷１区、尾根２区および尾根１区に展開する古墳群の検出作業を終了した12月20日、12年度の調査を終えた。そして検出した古墳群には全面にシートを被せるなど保護をした。

平成13年度は４月２日より調査を開始した。古墳は10基あり、それらに伴う埋葬施設は12基を数えた。さらに古墳盛土下や裾部に弥生時代後期の竪穴住居跡やテラスなど遺構があり、とくに竪穴住居跡７は炭化材や焼土などが良好に遺存する焼失住居であった。当初１ヶ月で調査終了という工程であったが、鳥取県土木事務所と協議の上調査期間を延長した。そのような厳しい工程の中５月12日には現地説明会を開き、約140名の参加者があった。５月25日にすべての調査を終了した。（中森）

＜調査日誌＞

平成12年度
４／18　調査前地形測量開始（業者委託）
４／20　ラジコンヘリによる調査前空撮
４／24　重機による表土剥ぎ開始
４／27　谷１・２区精査開始。
５／１　調査基準杭設置。
６／４　谷１区、土器溜上方で土坑14検出。土師器焼成土坑か。
６／８　谷２区、平安時代土器廃棄土坑15検出。
尾根１区先端部にトレンチ入れる。
６／19　穴澤義功氏来跡。
６／20　谷２区完掘。
６／23　尾根１区、火葬骨を伴う集石検出。
正法寺住職によるお祓い。
７／13　百瀬正恒氏、西尾克己氏来跡。
７／19　尾根１区先端部、弥生竪穴住居跡群検出。
９／２　中村唯史氏来跡。
９／５　五十川伸矢氏来跡。
10／２　井上貴央氏現地指導。
10／６　23号墳埋葬施設をトレンチで確認、鉄剣出土。直後に鳥取県西部地震。
10／10　現場作業再開。多くの作業員参加に一安心。
10／12　白石純氏来跡。胎土分析用サンプル採取。
10／13　15号墳周溝内土器検出。
10／17　谷１区、弥生焼土群（竪穴住居跡１）検出。
10／25　角田徳幸氏来跡。
10／30　谷部、ラジコンヘリによる空撮。
11／６　尾根２区上方重機による表土剥ぎ。
11／15　時枝克安氏熱残留磁気測定作業。
12／14　尾根１区検出。ラジコンヘリによる空撮。
12／20　12年度作業終了。
１／12　村上勇氏中世土器・陶磁器分析指導。
平成13年度
４／２　作業開始。
４／18　19号墳、同時埋葬された２基の埋葬施設検出。
４／20　20号墳、さらに埋葬施設を検出。
５／７　竪穴住居跡７焼土面検出。
20号墳下層から竪穴住居跡検出。
５／12　好天の中、現地説明会開催。
５／15　ラジコンヘリによる空撮。
５／16　河瀬正利氏来跡。
５／17　浅川滋男氏現地指導。
５／18　岡村道雄氏来跡。
５／19　加藤つむぎ氏来跡。竪穴住居跡７、
被熱粘土塊サンプリング
５／25　完掘。
７／27　渡辺誠氏竪穴住居跡７出土種実同定。
９／３～６　穴澤義功氏製鉄関連遺物分類、分析指導

## 第３節　調査体制

調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理　事　長　　有田　博充（鳥取県教育委員会教育長）
常務理事　　関　　敏之（鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長　　岡山　宏徳

鳥取県埋蔵文化財センター

所　　長　　古井　喜紀（平成12年度）、中村　登（平成13年度）（埋蔵文化財センター所長）
次　　長　　八木谷　昇（平成12年度）、小林　勉（平成13年６月末退職）
　　加藤　隆昭（平成13年度、調整係長兼務）
調整係長　　山枡　雅美（平成12年度）
文化財主事　　高垣　陽子
庶務係主任事務職員　矢部　美恵
事務職員　　嶋村　八重子（平成12年度）、中島　いづみ（平成13年度）

調査担当　西部埋蔵文化財米子調査事務所

所　　長　　国田　俊雄
主任調査員　　中森　　祥
　　濵　　隆造（平成 13 年度）
調　査　員　　浜田　真人
　　川下　　忍（平成 12 年度）
　　下江　健太（平成 13 年度）
　　大川　泰広（平成 13 年度）
整　理　員　　塚田　文子
調査指導　鳥取県教育委員会事務局文化課　　鳥取県埋蔵文化財センター

下記の方々に発掘調査・整理作業に従事していただいた。
安部好江、秋里登志子、板 英臣、遠藤綾子、勝部 恵、川成寿々子、片岡登志枝、倉敷 精、笹谷加寿夫、埒畑友雄、角田輝彰、高塚早智子、高田 茂、新田幾子、野口洋一、長谷川節子、畠 延子、伴藤 栄、干村澄子、福本蓉子、細田恒夫、益井季里子、松浦万喜男、前田文子、吉原和行、渡 貞夫、伊藤景子、稲田三枝子、池野 毅、板持 章、宇田川東功子、遠藤清子、小林等子、田宮 繁、富永武子、西村美知枝、野津松夫、藤江利夫、都田三郎、吉村京子、頼田つゆ子、頼田美佐子、渡辺静江、植田雅子、内藤祐介、宮野祐介、堤 恵子、吉沢純子、山縣富男、山縣定子、飛田 治、三鴨柏子、雑賀佐那枝、小原晴教、遠藤輝満、遠藤万須美、中橋智明、秦 美香、小原 円、清水房子、野島尚子、塚北寿美江、井上通子、山枡美奈、近藤由美子、松山節子、安部美登里

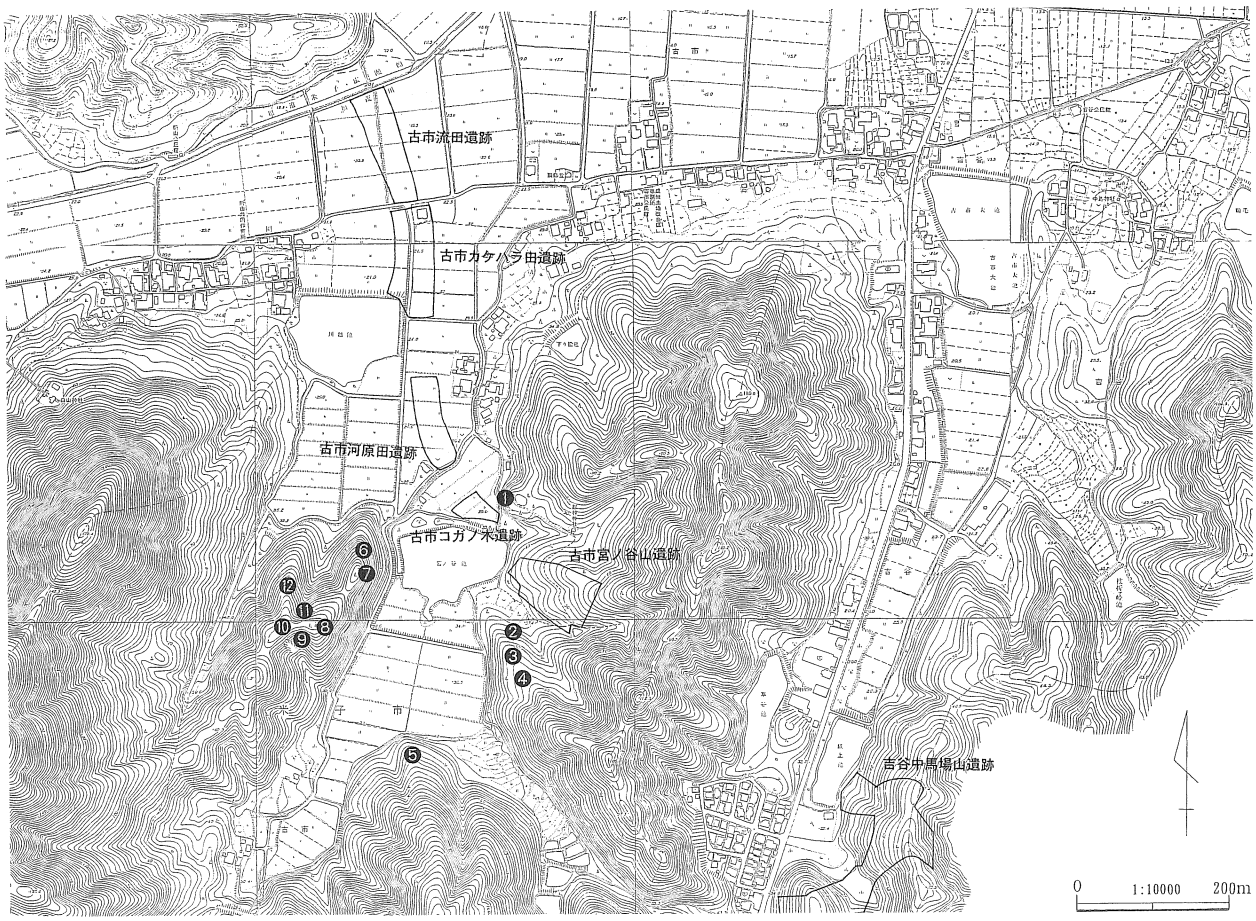



図１　調査地位置

# 第２章　位置と環境

## 第１節　古市宮ノ谷山遺跡の位置と地理・地質環境　（図２・３）

米子平野は鳥取県西部に位置し、日野川の沖積作用により形成されたものである。東は日野川東岸の箕蚊屋平野、南は日野川支流の法勝寺川流域に広がる法勝寺平野へと連続性をみせ、平地面積の少ない山陰では例外的に広い平野部である。北は、入り海的性格をもつ美保湾、島根半島と弓ヶ浜半島に抱かれた汽水湖中海に面する海産物の豊かな地でもある。

米子平野外縁部はおおむね標高 100m までの丘陵地帯である。米子平野をＵ字状に囲む丘陵の地質は、日野川東岸では大山の火山噴出物の堆積、および段丘礫層からなる。西岸の丘陵は第三紀中新世の流紋岩質凝灰岩および角礫凝灰岩よりなる。風化・浸食が進み流紋岩質凝灰岩は粘土化している部分が多い。角礫凝灰岩の山体で、浸食残丘として標高 200m 程度のピークがいくつかみられ、新山要害山や手間要害のように中世以降の戦略的拠点となっているものもある。

古市遺跡群は米子市の南西部の丘陵に位置している。新山に発し、米子市街地へと流れる加茂川水系によって形成された東西に長い小平野および、その南側の丘陵から丘陵裾に遺跡群が展開している。　（浜田）

## 第２節　古市宮ノ谷山遺跡の歴史的環境（図２・３）

### 1　旧石器時代～縄文時代

中海、宍道湖を中心として縄文時代早期末・前期には居住が確認されている。島根半島部では海蝕洞窟に立地の特色をもつ遺跡が分布し、中海南岸域・宍道湖東岸域は目久美遺跡、タテチョウ遺跡、西川津遺跡など低湿地の立地を特徴としている。

古市、新山周辺でも、陰田宮の谷遺跡、奈喜良遺跡で有茎尖頭器が出土している。新山山田遺跡では早期高山寺式に相当する押型文土器が、古市遺跡群では古市河原田遺跡で中期～晩期、古市カハラケ田遺跡で後期～晩期の遺物や遺構、後期中葉段階には古市河原田遺跡で土坑や溝、古市カハラケ田遺跡で土坑が検出されているが、集落の縁辺部と思われ中心部には調査が及んでいない。

### 2　弥生時代

弥生時代に入り沖積が進み汀線が後退すると、臨海低湿地に稲作が開始される。前期から中期の水田跡が目久美遺跡、長砂第１・２遺跡で検出されている。この時代の遺跡は、米子城跡の各調査地や錦町第１遺跡のように低湿地や微高地上に位置する。また前期に集落は丘陵谷奥部にまで達し、諸木遺跡、天王原遺跡、宮尾遺跡、清水谷遺跡など環濠をもつ遺跡が形成されている。中期には丘陵上にも集落が拡大し、青木遺跡、福市遺跡、越敷山遺跡群、妻木晩田遺跡などの集落が形成される。これらの遺跡は地域の拠点的集落と目され、中期から後期にかけて住居数の著しい増加がみられる。また、妻木晩田遺跡では環濠と四隅突出型墳丘墓が、尾高浅山遺跡および日下寺山遺跡では、ともに環濠に囲まれた集落跡と四隅突出型墳丘墓が確認されている。中海を囲む丘陵部には陰田第１・２遺跡、陽徳遺跡などがある。

古市遺跡群では、弥生時代前期にも人々の生活の痕跡が残されている。古市河原田遺跡、新山山田遺跡から前期中葉～後葉の土器が出土し、古市流田遺跡の調査では、中期前葉の土器が自然流路などからまとまって出土している。また後期になると、古市カハラケ田遺跡、古市流田遺跡では竪穴住居跡、掘立柱建物跡が検出されている。古市宮ノ谷山遺跡では丘陵尾根部に中期～後期の 10 棟の竪穴住居跡を検出している。弥生時代を通じての集落規模は不明であるが、いずれの時代も加茂川水系の小平野を水田として利用していたものと考えられる。

### 3　古墳時代

古市遺跡群の南東約２ km には前期の古墳、普段寺1号墳・2号墳があり、いずれからも三角縁神獣鏡が出土し

図２　周辺遺跡分布

図２

１　清水寺　２　山根古窯跡　３　高畑古窯跡　４　五反田古墳群　５　山根古墳　６　陽徳遺跡
７　五反田遺跡　８　徳津見遺跡　９　平横穴墓群　１０　穴神１号横穴墓　１１　石田遺跡
１２　カンボウ遺跡　１３　陰田遺跡群　１４　奥陰田遺跡群　１５　新山遺跡群
１６　新山大谷原遺跡　１７　新山神田遺跡　１８　新山要害　１９　新山２２号墳
２０　新山岡横穴　２１　新山２３号墳　２２　新山２４号墳　２３　古市遺跡群
２４　吉谷中馬場山遺跡　２５　吉谷トコ遺跡　２６　榎原第１遺跡　２７　福成古墳群
２８　福成早里遺跡　２９　橋本遺跡　３０　奈喜良１、２号墳　３１　奈喜良遺跡
３２　橋本要害　３３　大袋丸山遺跡　３４　米子城跡　３５　錦町第１遺跡　３６　目久美遺跡
３７　池ノ内遺跡　３８　宗像古墳群　３９　長砂第１遺跡　４０　長砂第２遺跡　４１　東宗像古墳群
４２　長砂古墳群　４３　日原古墳群　４４　福市遺跡　４５　青木遺跡　４６　諏訪遺跡群　４７　諸木遺跡
４８　長者原古墳群　４９　越敷山古墳群　５０　尾高古墳群　５１　中間古墳群　５２　壺瓶山古墳群
５３　小波古墳群　５４　百塚古墳群　５５　尾高浅山遺跡　５６　日下古墳群　５７　石州府古墳群
５８　吉定古墳群　５９　妻木晩田遺跡　６０　北福王寺遺跡　６１　マケン堀古墳群　６２　清水谷遺跡
６３　枇杷埼遺跡　６４　三崎殿山古墳　６５　手間要害　６６　普段寺古墳群　６７　天萬土井前遺跡
６８　宮尾遺跡　６９　天万遺跡　７０　高姫古墳群　７１　井上古墳群　７２　天王原遺跡　７３　口朝金遺跡
７４　田住桶川遺跡　７５　越敷山遺跡群

ている。この地には、中期と推定される前方後円墳、三崎殿山古墳もあり、勢力をもった集団の存在が窺える。米子平野周辺の丘陵部には多くの古墳群が存在し、青木遺跡では前～後期の方墳・円墳合わせて31基が確認されている。また、日野川東岸の丘陵部には、壺瓶山古墳群（後期）、百塚古墳群（～後期）、小波古墳群（後期）、中間古墳群（中期）、尾高古墳群（前期～後期）、日下古墳群（前期～後期）、石州府古墳群（前期～後期）などが、西岸丘陵部には福成早里古墳群（後期）、宗像古墳群（後期）、東宗像古墳群（後期）などがある。陰田・新山遺跡群（前期～後期）では約60基の古墳がある。古市遺跡群周辺の集落跡としては、青木遺跡、福市遺跡、陰田・奥陰田遺跡群、新山研石山遺跡などがある。

古市遺跡群では丘陵尾根部に古墳が築かれている（古市１～23号墳）。古市河原田遺跡、古市カハラケ田遺跡で古墳時代を通じて遺物が出土している。また、古市カハラケ田遺跡では古墳時代中期の竪穴住居跡が検出されており、新山地内の新山山田遺跡、新山研石山遺跡では古墳および集落の存在が確認されている。

**4　奈良～平安時代**

７世紀後半以降、古市・新山周辺の遺跡は官衙的な性格が認められる。陰田遺跡群の口陰田遺跡からは「舘」「多知」「田知」と記された墨書土器が出土し、陰田第６遺跡では８世紀に比定される石敷道路が検出されている。古市遺跡群に隣接する、吉谷銭神遺跡で墨書土器が、吉谷中馬場山遺跡では墨書土器および赤色塗彩土師器が出土した(註)。福成早里遺跡からは製塩土器や赤色塗彩土師器が出土している。また、陰田・新山地内の各遺跡で鉄滓が出土し、奥陰田遺跡群の陰田広畑遺跡では鍛冶炉が検出されている。

平安時代の遺跡としては、青木遺跡は56棟の掘立柱建物跡、32棟の竪穴住居跡をもつ大規模集落跡である。諏訪遺跡群の樋の口遺跡、日野川東岸の上福万遺跡でも掘立柱建物跡などが検出され、後者の土坑からは「奈」の墨書土器と赤色塗彩土師器出土している。平野部には米子城跡21遺跡があり、後期を主とした遺構群が検出され、多数の土師器が出土している。古市周辺の陰田第６遺跡、陰田隠れが谷遺跡、陰田ヒチリザコ遺跡、陰田荒神谷遺跡、奥谷堀越谷遺跡などは、いずれも丘陵斜面部に立地する小集落跡である。

古市宮ノ谷山遺跡では、奈良～平安時代のテラス状遺構などを検出するとともに、精錬滓や鍛冶滓、鉄製品が出土した。古市・新山の谷筋は、古代山陰道の通過推定地の一つとされている。この地を山陰道が通過したと仮定すると、島根県伯太町へ抜ける峠が手間関ということになる。だが、山陰道の存在は古市流田遺跡などの調査ではまだ未確認であり、この周辺の遺跡の性格の解明とともに、今後の課題である。

**5　鎌倉～室町時代**

錦町第１遺跡では平安～鎌倉時代の畠跡が検出され、米子城跡21遺跡では熙寧元宝（北宋元年=1068，初鋳）や土師器、陶磁器など16世紀までの遺物が出土している。そのほか日下古墳群の積石基壇をもつ中世墓と中近世の土壙群、福成早里遺跡の中世以降の土葬墓・火葬墓群、金田堂ノ脇遺跡の中世～近世以降の土坑群および15世紀中頃～後半の土坑墓などがある。古市新山は古代から近世にいたるまで交通の要衝として重要な地であり、戦国時代には新山要害山に築かれた新山城（長台寺城）は毛利、尼子の攻防の地となった。　（浜田）

（註）吉谷中馬場山遺跡については、2002年度報告予定である。

参考文献

地質調査所編 1962『５萬分の１地質図　米子』工業技術院地質調査所
米子市教育委員会編 1994『米子市埋蔵文化財地図』米子市教育委員会
北浦弘人ほか編 1996『陰田遺跡群』（財）鳥取県教育文化財団
湯村　功ほか編 1996『米子城跡６遺跡』（財）鳥取県教育文化財団
濵田竜彦ほか編 2000『古市遺跡群』２（財）鳥取県教育文化財団
鳥取県教育委員会編 2000『妻木晩田遺跡発掘調査研究　年報 2000』鳥取県教育委員会
大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会編 2000『妻木晩田遺跡発掘調査報告Ⅰ～Ⅳ』同調査団・同教育委員会

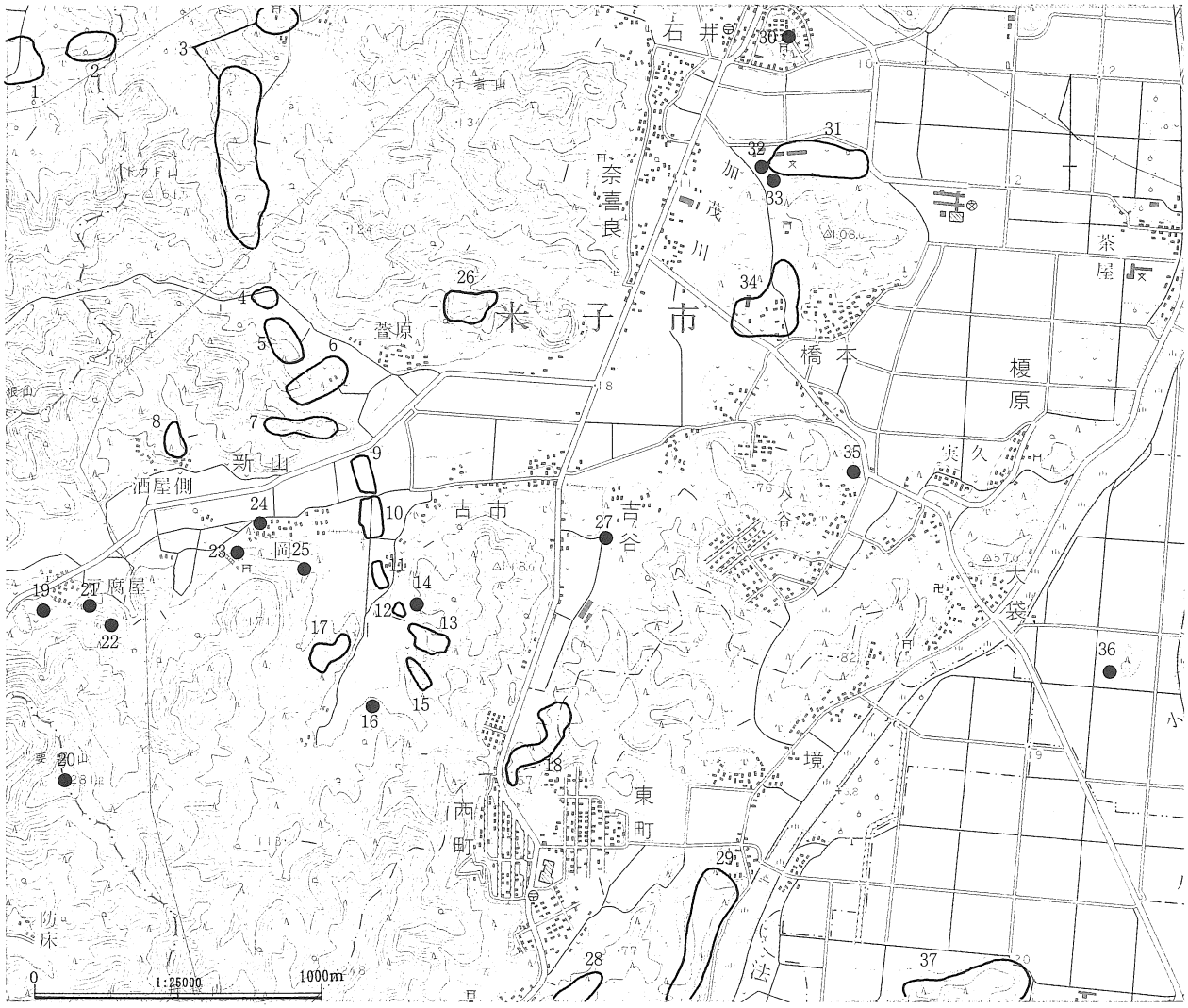



図３　調査地周辺遺跡分布

図３

１　石田遺跡　２　カンボウ遺跡　３　奥陰田遺跡群　４　下山遺跡　５　研石山遺跡　６　山田遺跡
７　新山古墳群　２～９・13・14 号墳　８　新山古墳群　15～18 号墳　９　古市流田遺跡　１０　古市カハラケ田遺跡
１１　古市河原田遺跡　１２　古市コガノ木遺跡　１３　古市宮ノ谷山遺跡　１４　古市横穴墓
１５　古市１・12・13 号墳　１６　古市 11 号墳　１７　古市４～10 号墳　１８吉谷中馬場山遺跡
１９　新山大谷原遺跡　２０　新山要害山　２１　新山神田遺跡　２２　新山 22 号墳　２３　新山 23 号墳
２４　新山岡横穴　２５　新山 24 号墳　２６　新山 10・1・12 号墳　２７　吉谷トコ遺跡　２８　福成古墳群
２９　福成早里遺跡　３０　石井要害跡　３１　奈喜良遺跡　３２　奈喜良１号墳　３３　奈喜良２号墳
３４　橋本遺跡　３５　榎原第１遺跡　３６　大袋丸山遺跡

長岡充展ほか編 1985『上福万遺跡・日下遺跡・石州府第１遺跡・石州府古墳群』（財）鳥取県教育文化財団
小原貴樹・北浦弘人ほか編　1986『目久美遺跡』米子市教育委員会
杉谷愛象ほか編 1994『萱原・奥陰田』Ⅰ（財）米子市教育文化事業団
北浦弘人ほか編 1998『福成早里遺跡』（財）鳥取県教育文化財団
湯村　功ほか編 1998『米子城跡 21 遺跡』（財）鳥取県教育文化財団
小原貴樹ほか編 1998『萱原・奥陰田』Ⅱ（財）米子市教育文化事業団
中森　祥ほか編 1999『古市遺跡群』１（財）鳥取県教育文化財団
米子市史編纂室編 1999『新修 米子市史第７巻』米子市
岩田文章ほか編 2000『妻木晩田遺跡』淀江町教育委員会

# 第３章　遺跡の概要

## 第１節　調査の方法　（図４～８）

調査地は東西方向に伸びる尾根二筋と、それに並行する谷部からなる。それぞれ調査の工程上から尾根１・２区、谷１・２区として調査を行った(図４)。表土剥ぎは米子市教育委員会による事前の試掘調査結果を受けて、尾根部においては表土が薄いことから人力による掘り下げを行い、谷部のみ重機を用いた。表土剥ぎ後10ｍ画の方眼測量を行い、方眼は南北軸に沿うように設定した。南北軸を北からアルファベットで、東西軸は西から数字で示し、１区画(グリッド)の北西隅の交点をとってそのグリッド名とした。検出した遺構・遺物の記録にあたっては平板、トータル・ステーションを用いた。また現場の写真撮影においては、35mm、６×７版を基本とし、土器溜および竪穴住居跡７（焼失住居跡）の検出状況については４×５版を用いた。　（中森）

## 第２節　概要　（図４～８）

調査は調査地が広範囲であるため谷部から着手し、米子市教育委員会の試掘トレンチ（ＹＴ１～ＹＴ22）を利用しながら、適宜トレンチをいれて土層堆積、遺構面の確認に努めた(図８)。その結果尾根１区では当初確認されていなかった10基の古墳を検出。さらにその下層および裾部には弥生時代後期の遺構群、古墳上や周溝埋土上面などで中世後期のテラスや土坑、集石群などを検出した。また谷１区では、弥生時代中期後葉から平安時代にかけての各遺構面および遺物包含層があった。各層とも遺物が多く含まれていたが、奈良時代後期～平安時代初頭には製鉄関連の遺物が目立った。またその上に堆積する層からは平安時代の土師器が大量に出土した。尾根２

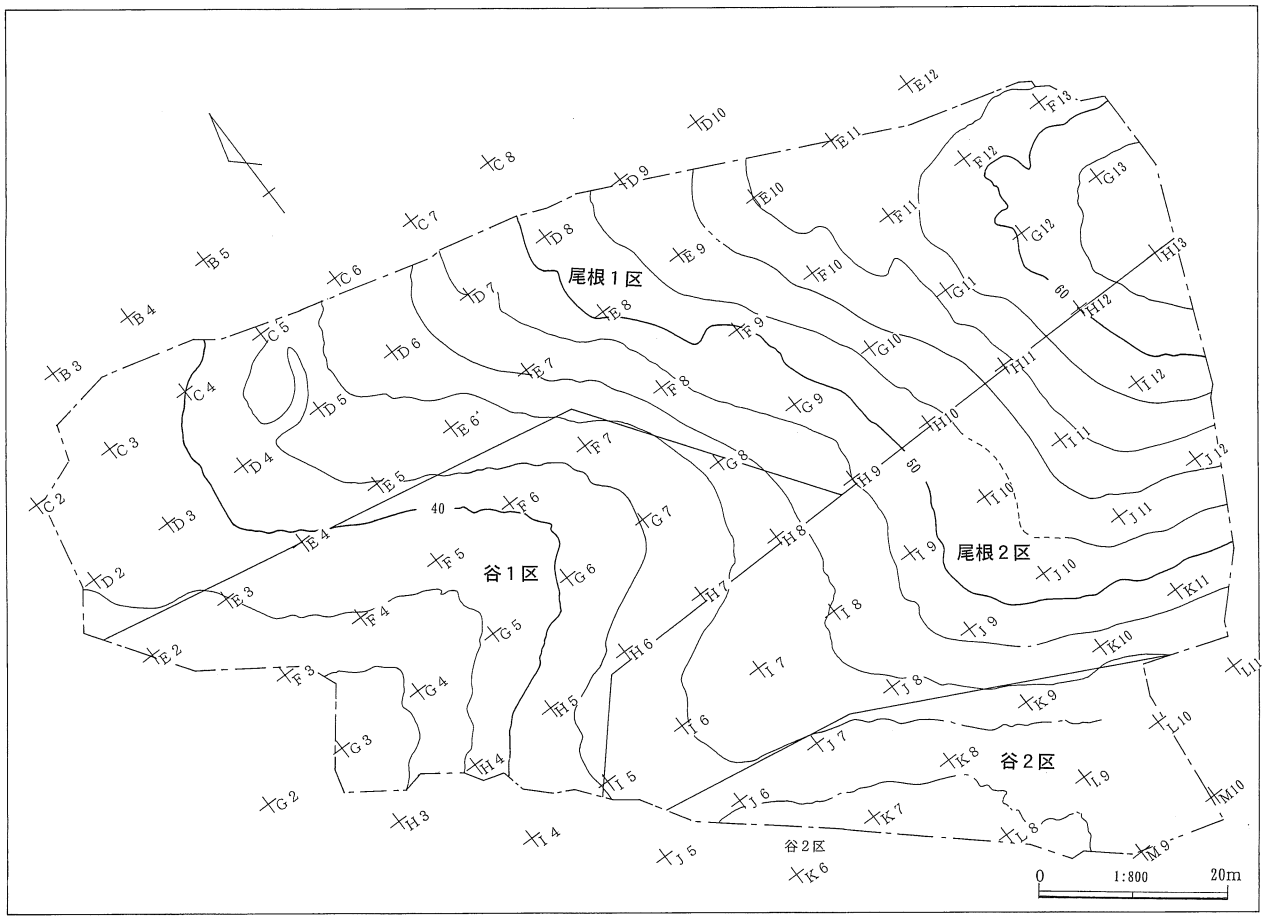



図４　グリッド配置

区においては弥生時代後期のテラス群、奈良時代後期～平安時代初頭の遺物包含層、中世の墓と考えられる土壙を検出した。さらに谷２区では平安時代のテラス群と池状の堆積があった。その堆積層には同期の遺物が良好にあったほか、それを掘り込む土坑内にも多くの完形資料が出土するなど、谷１区の土器溜りと合わせ当該期の良好な資料が得られた。

なお遺構名の新旧対照は目次の末尾に掲載している。　（中森）

## 第３節　調査地内の堆積　（図９～11）

調査地内の土は尾根部から谷部にかけて緩やかに堆積しており、谷１区において互層状に厚かったほかは、比較的薄いものであった。

尾根１区では、地山を削り盛土する古墳群を検出した。18号墳より上では、各古墳盛土の流出土と考えられるものを表土除去後に検出した。一方17号墳より下側では、この上に中世後期段階のⅠ層が広範囲にみられた。

谷１区においては表土から約1.5ｍ掘り下げたＸＶ層（弥生時代中期後葉相当）下で無遺物の黄灰色粘質土を確認し、この上面を最終遺構面とした。これより上に弥生時代後期（ＸⅠ層）、奈良時代後期～平安時代初頭（Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ層）、平安時代（Ⅱ・Ⅱａ層）相当の各層が、地山の傾斜に対しほぼ平行に堆積している。

尾根２区はほぼ全域にＶ層が広がる。この下面には一部弥生時代後期の包含層（ＸⅣ層）があるが、奈良時代後期～平安時代初頭の遺構および遺物はほとんどなかった。またこの層を掘り込んで中世の土壙がつくられる。

谷２区では表土下に平安時代の遺物包含層があったが、堆積は薄かった。また南東隅で検出した池状遺構において同期の包含層が互層状に堆積し、最下層にはおそらく斜面上方から転落してきた巨大な角礫凝灰岩があった。

主要な堆積層の概要は以下のとおりである。なお（　　）内は調査段階での旧層位名を示す。

**谷１区**（図10）

Ⅱ層（YT22-2・3層）：暗褐色土。きめ細かくしまりわるい。平安時代の大量の土器を包含する。Ｆ５～７グリッドとあまり広い範囲には拡がらない。土器溜部分は堆積も約0.5ｍと厚いが、そのほかは0.1～0.2ｍほどである。下面においてはピットを検出したのみである。

Ⅱａ層（YT18-1層）：暗黄褐色粘質土。炭、焼土を若干含む。平安時代相当。遺物少ない。

Ⅲ層（YT18-2層）：黄色粘質土。部分的に拡がる層で、一見貼床のようにみえる。

Ⅳ層（YT18-3層）：黒褐色粘質土。標高42.5ｍ付近から下方と、谷部においてかなり広範囲に堆積する。奈良時代後期～平安時代初頭のテラス群を覆い、当該期の遺物を多く含む。

Ⅵ層（YT18-4層）：黒色粘質土。谷部の低いところのみにあり、標高38.5ｍほどから下に拡がる。0.1～0.25ｍの厚さで、谷部に堆積する層の中では比較的薄い。テラス９や溝１～５、ピットを下面で検出した。遺物は多くなく、奈良時代後期～平安時代初頭に相当する。

ＸⅠ層（YT18-5層）：暗黄褐色土（やや粘質）。標高39.5ｍあたりから下方に向けて、0.1～0.3ｍの厚さで堆積する。弥生時代後期後半の遺物包含層。遺物は多いが、大半が磨滅している。下面で検出した遺構は土坑９のみである。

ＸⅡ層　（T5-b層）：黒褐色土。G・H10グリッドの狭い平坦面上に拡がる。尾根２区上部にもみられるが、堆積は薄い。Ｖ層下層にある。弥生時代後期包含層。

ＸⅢ層（T5-1層）：若干炭を含む黄灰色粘質土。尾根１区南斜面に位置する竪穴住居跡４から竪穴住居跡７西側あたりを上限とし、谷１区へかけての斜面部に堆積する。その厚さは0.3～0.4ｍほどを測る。尾根１区南斜面部の土坑８埋土。炭小片を多く含みＸＶ層に類似するが、Ｇ７・８グリッドでⅣ層に切られ下方には続かないため、その関係については不明確である。遺物はほとんど出土していない。弥生時代後期包含層。

ＸＶ層（YT18-6層）：黄褐色土（やや粘質）。土色はＸⅢ層に似るが、しまりわるく、炭化物を多く含む点

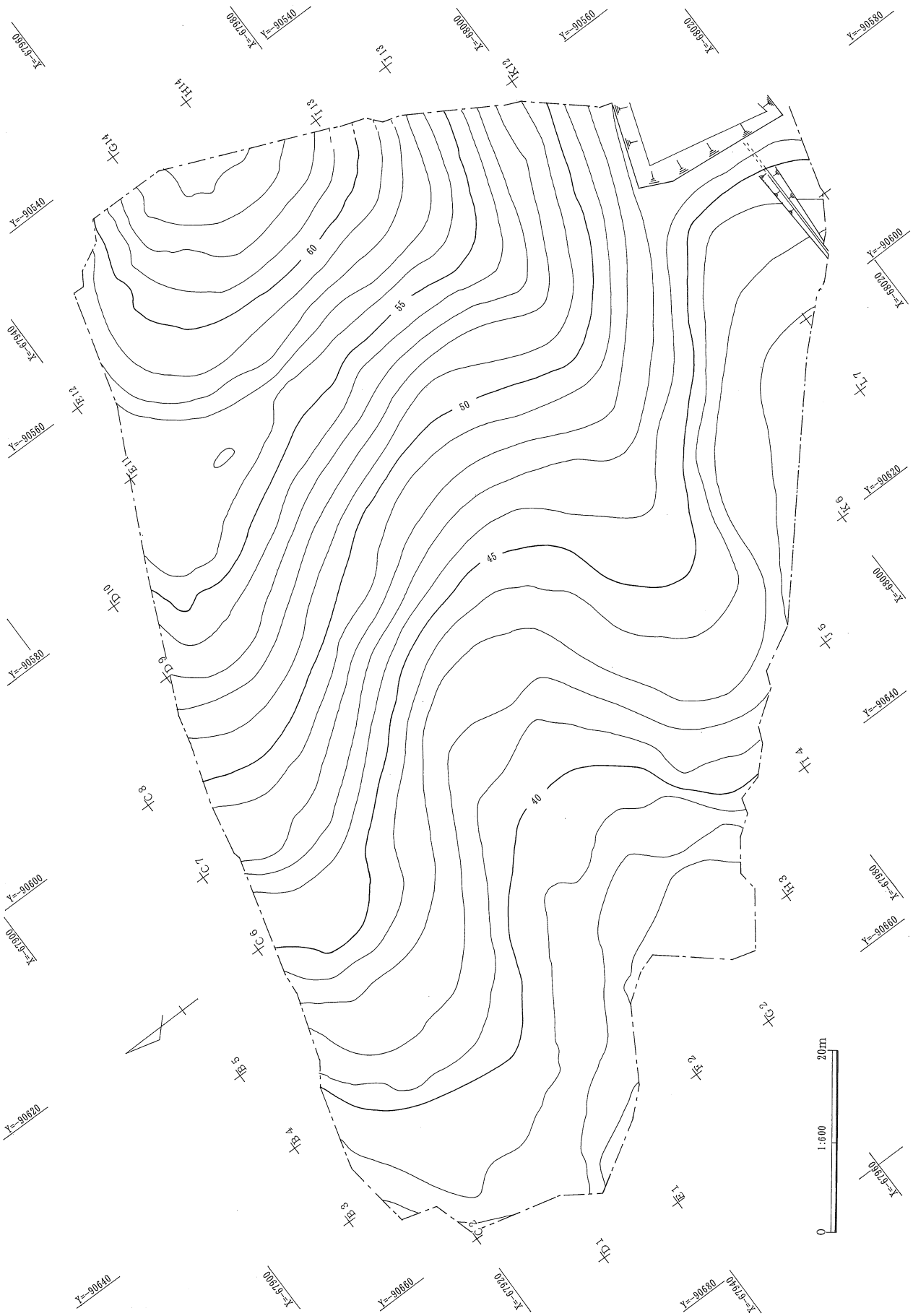



図５　調査前地形測量

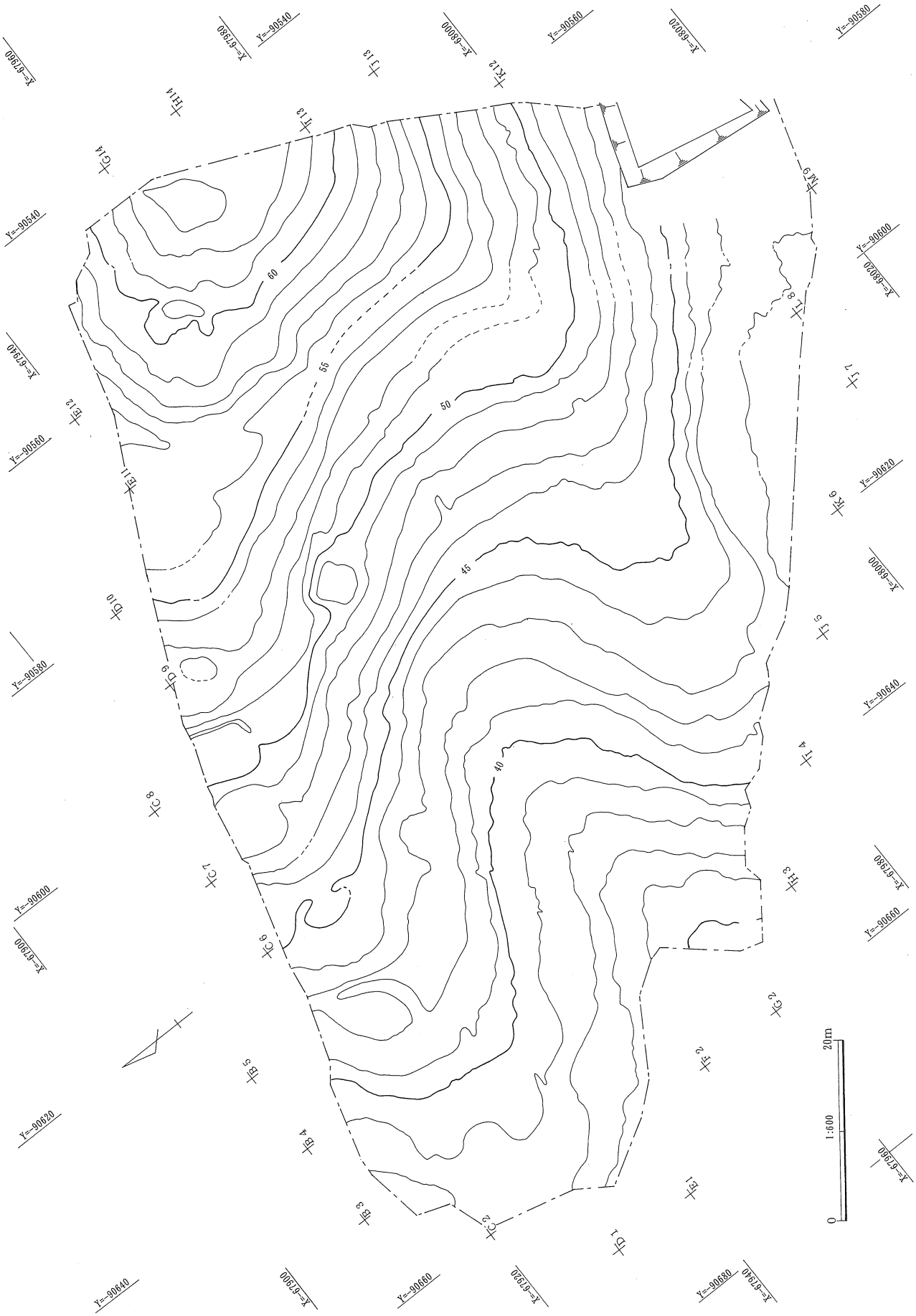



図６　調査後地形測量

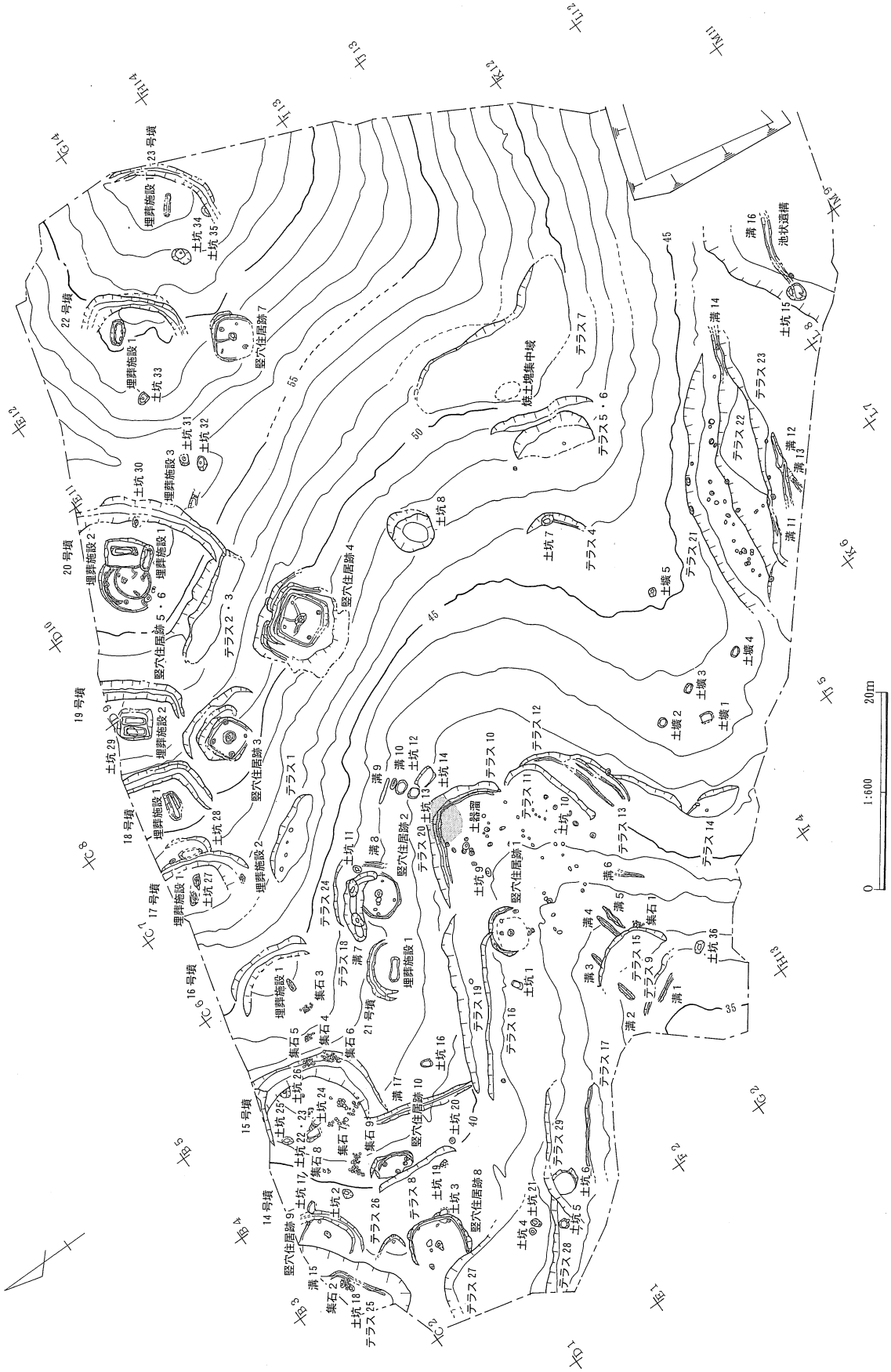

23 号墳
埋葬施設 1
土坑 34
土坑 35
22 号墳
埋葬施設 1
土坑 33
竪穴住居跡 7
土坑 31
土坑 32
埋葬施設 3
土坑 30
20 号墳
埋葬施設 2
埋葬施設 1
竪穴住居跡 5・6
テラス 2・3
竪穴住居跡 4
19 号墳
土坑 29
埋葬施設 2
竪穴住居跡 3
テラス 1
18 号墳
埋葬施設 1
土坑 28
埋葬施設 2
17 号墳
埋葬施設 1
土坑 27
16 号墳
埋葬施設 1
集石 3
15 号墳
集石 5
集石 4
集石 6
土坑 26
土坑 25
土坑 24
土坑 22・23
集石 8
集石 7
集石 9
14 号墳
土坑 17
土坑 2
竪穴住居跡 9
溝 15
集石 2
土坑 18
テラス 25
テラス 24
溝 7
土坑 11
溝 8
21 号墳
埋葬施設 1
テラス 18
テラス 26
竪穴住居跡 10
土坑 16
溝 17
土坑 19
土坑 3
テラス 8
竪穴住居跡 8
テラス 27
土坑 20
溝 9
溝 10
土坑 12
土坑 13
竪穴住居跡 2
テラス 20
土器溜
土坑 14
土坑 9
竪穴住居跡 1
テラス 19
テラス 16
土坑 1
テラス 10
テラス 11
土坑 10
テラス 12
テラス 13
テラス 14
溝 6
溝 5
集石 1
溝 4
溝 3
テラス 15
テラス 9
溝 1
土坑 36
溝 2
テラス 17
土坑 21
土坑 4
土坑 5
土坑 6
テラス 28
テラス 29
土坑 8
土坑 7
テラス 4
テラス 7
佐土塊集中域
テラス 5・6
土壙 5
テラス 21
土壙 4
土壙 3
土壙 2
土壙 1
テラス 22
テラス 23
溝 14
溝 13
溝 12
溝 11
土坑 15
溝 16
池状遺構
45
50
55
65
35
40
0
1:600
20m

図７　調査地内遺構分布

が大きく異なる。標高 40.0 m付近から下方に拡がっており、堆積は 0.2 ～ 0.5 mと比較的厚い。遺物はまばらであったが、完形に近い土器なども出土し、遺存状態もよかった。弥生時代中期後葉に相当する。下面では竪穴住居跡１、土坑１を検出した。

**尾根１区**（図 11）

Ⅰ層（T11-1 層）　：黄褐色および灰褐色砂質土。17 号墳より西側の広範囲に拡がる層である。砂質でしまりはわるい。尾根１区先端部においては、中世後期のテラス群や五輪塔を含む集石群を覆う。

**尾根２区**（図９）

Ⅴ層（T26-1 層）　：暗灰褐色粘質土。奈良時代後期～平安時代初頭に相当する。尾根部のほぼ全域に拡がるが、下面で当該期の遺構はほとんどみられない。遺物も少ない。Ⅳ層に続くものと考えられる。

ⅩⅣ層（T26-7 層）　：暗黄灰色粘質土（炭を若干含む）。赤褐色土系の部分もある。テラス４～７の埋土。尾根２区西部にはなく、尾根１区に向けて拡がっている。

なお上記ローマ数字で表した層位名を、第４章以下各章でも用いていく。　（中森）

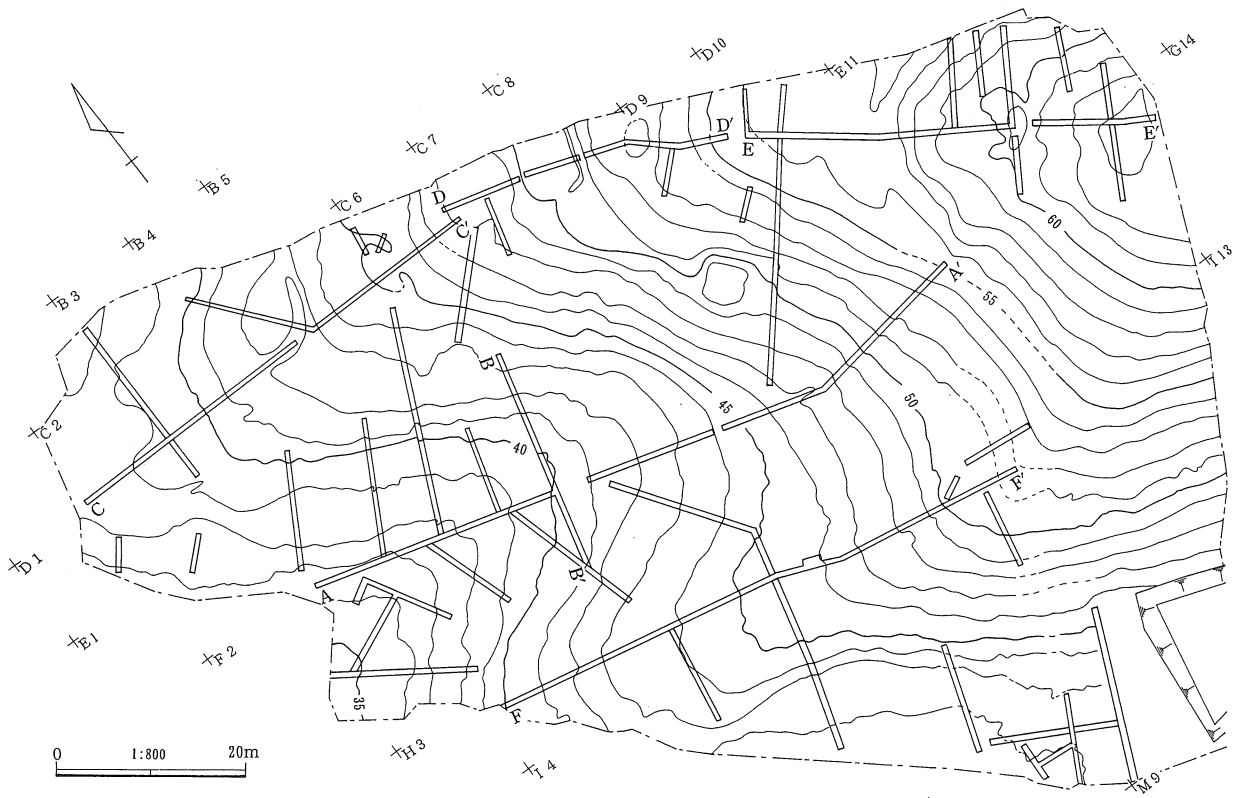



図８　トレンチ配置

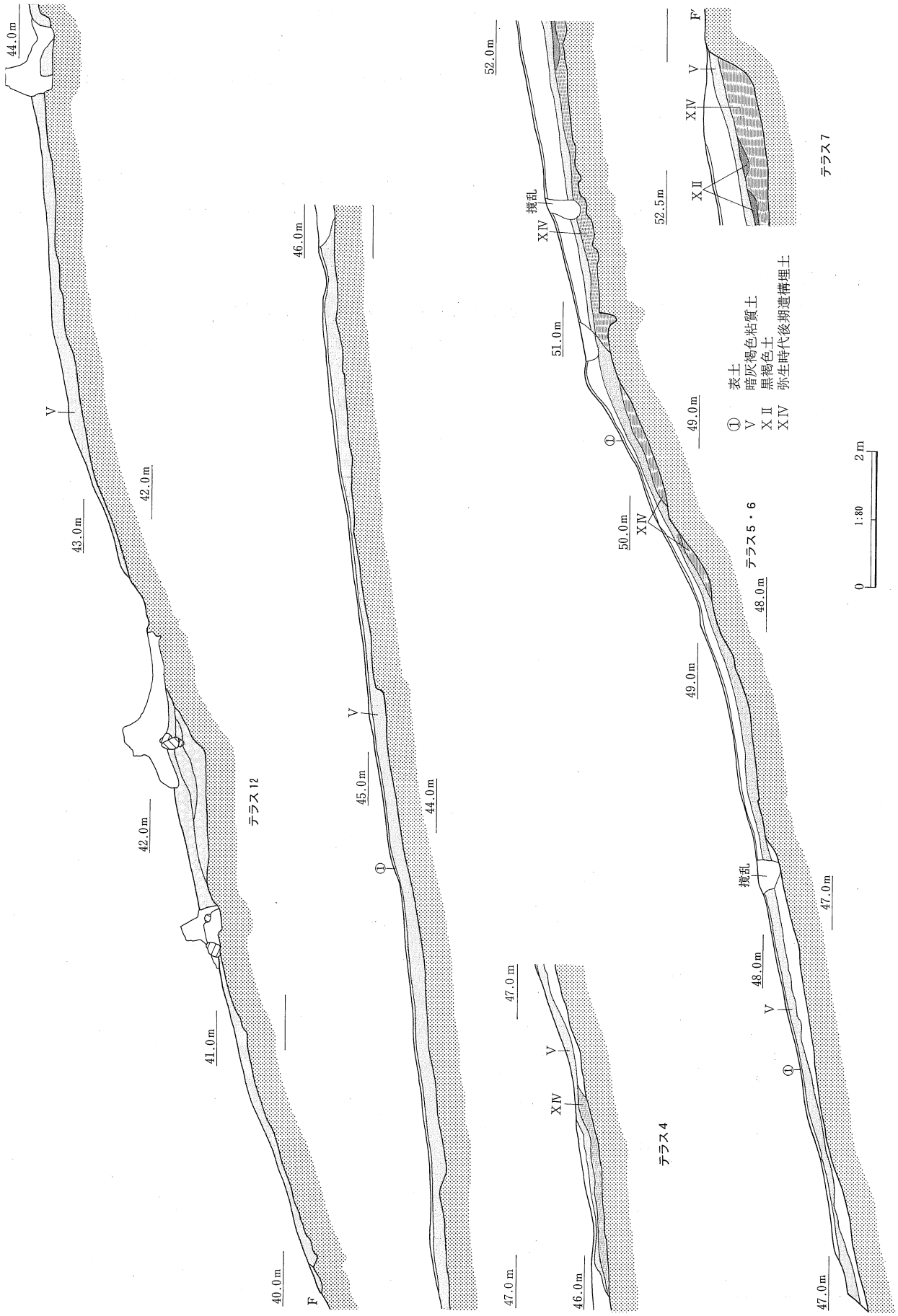



図９　調査地内土層断面（１）

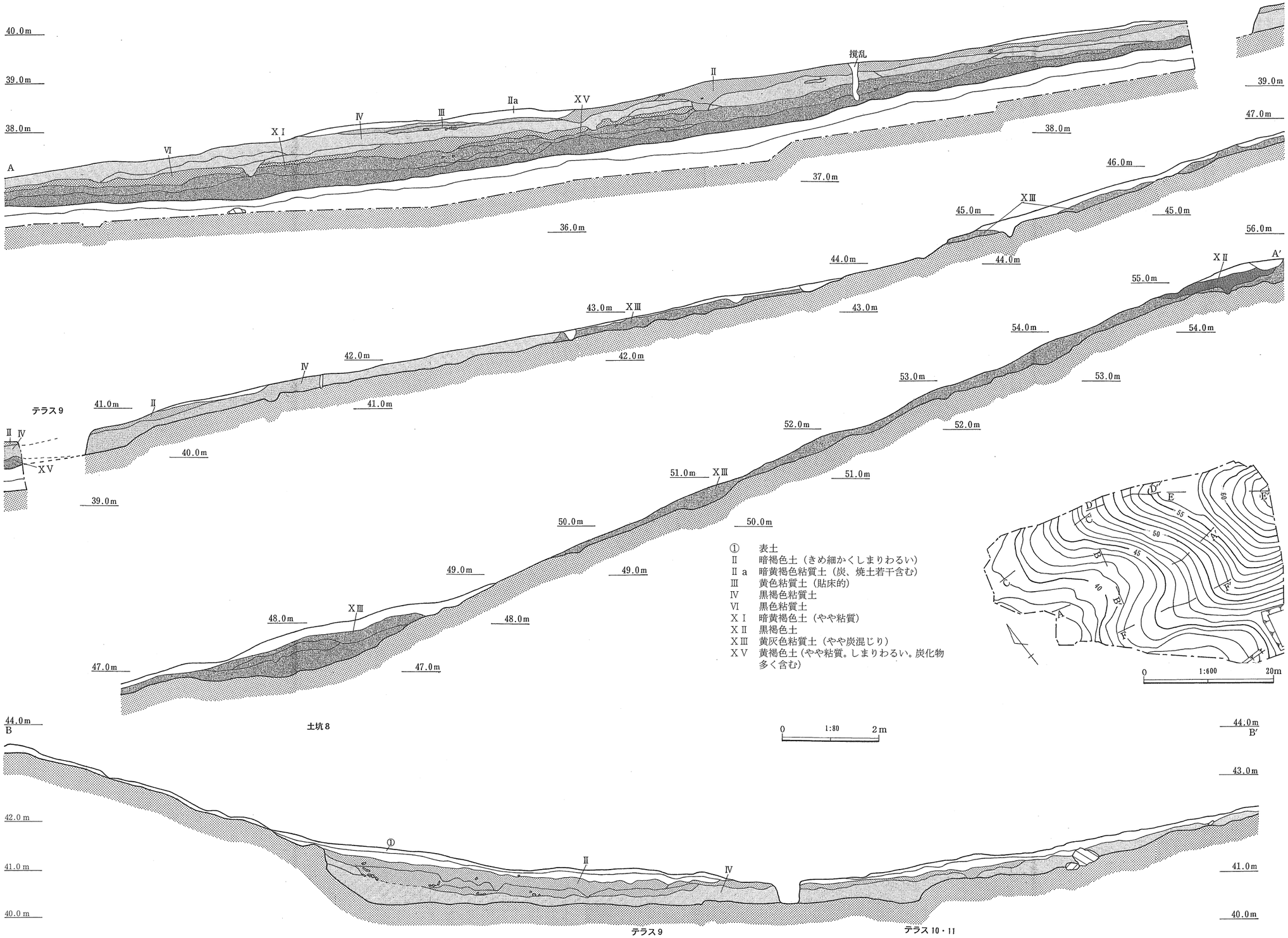



図 10　調査地内土層断面（２）

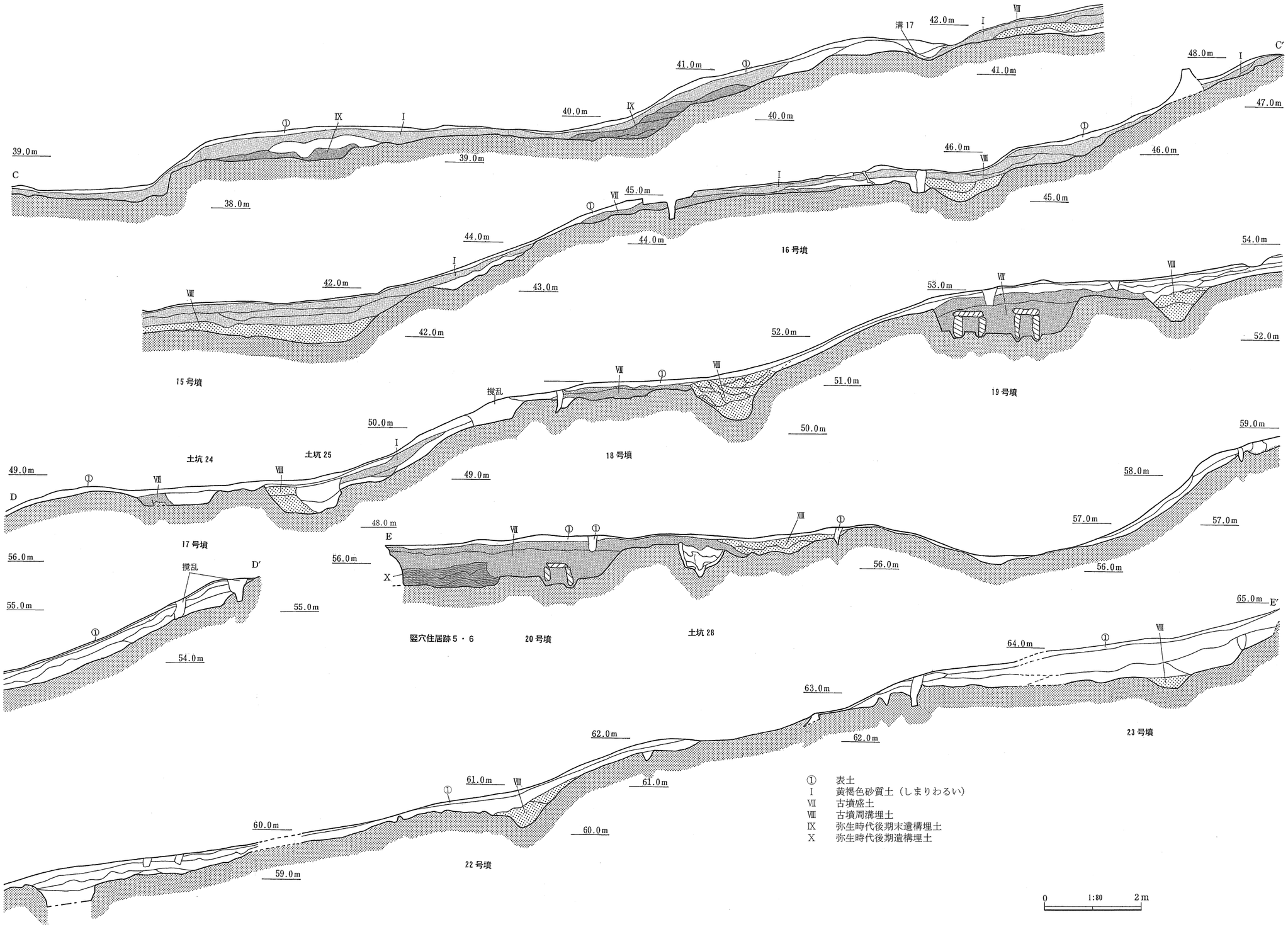



図11　調査地内土層断面（３）

# 第４章　弥生時代の調査

## 第１節　概要（図 12）

弥生時代の遺構を尾根１区から尾根２区、およびそれらに挟まれる谷１区において検出した。その時期は中期後葉から後期末にかけてのものである。

中期後葉の遺構群は尾根１区および谷１区に展開する。尾根１区先端部には埋土が赤褐色系の土坑が５基（土坑２～６）あった。これらは後期末の竪穴住居跡８やテラス８、あるいは中世後期に属するテラス群に切られる。またテラス１は中程に位置し、上層は後期後葉の遺物包含層に覆われる。谷１区では竪穴住居跡１棟（竪穴住居跡１）、土坑１基（土坑１）を検出した。これらは同期の遺物包含層である（ＸＶ層）に覆われていた。竪穴住居跡１は多量の焼土、炭化物を含む層が厚く堆積し、また床面などで被熱し硬化したところを５ヶ所検出した。その状況から焼失住居と考えられる。なおここで地磁気年代測定および放射性炭素年代測定を行った（第 10 章特論３・４）。

後期後葉の遺構群が本調査地において検出した弥生時代の主体的な時期である。尾根１区ではその中程から上方（標高 43 ～ 60 m）にかけて竪穴住居跡６棟（竪穴住居跡２～７）、テラス２基（テラス２・３）を検出した。竪穴住居跡３・４は南西向き斜面のほぼ同標高に位置し、斜面上方をカットし２段のテラスをつくる隅丸方形のものである。これらの上部にはつくり変えられるテラス２・３があり、さらに上の尾根平端部には建て替えが行われた大型の円形住居（竪穴住居跡５・６）を検出した。この住居は古市 20 号墳の墳丘に覆われる。また竪穴住居跡７は焼失住居であり、当該期の遺構としてはもっとも高所に位置している。炭化材が良好に遺存していたほか、焼土や被熱粘土塊（註1）、完形に近い土器や炭化したモモなどの種子類が出土した。

竪穴住居跡４から南に続く斜面および尾根２区ではテラスを４基（テラス４～７）検出した。最上部のテラス７は中でももっとも広い平坦面をもつ。テラス５・６に近いところには被熱粘土塊が集中する部分があり、あるいは竪穴住居跡７と関連する可能性も考えられる。これらについては胎土分析を行い比較・検討している（第 10

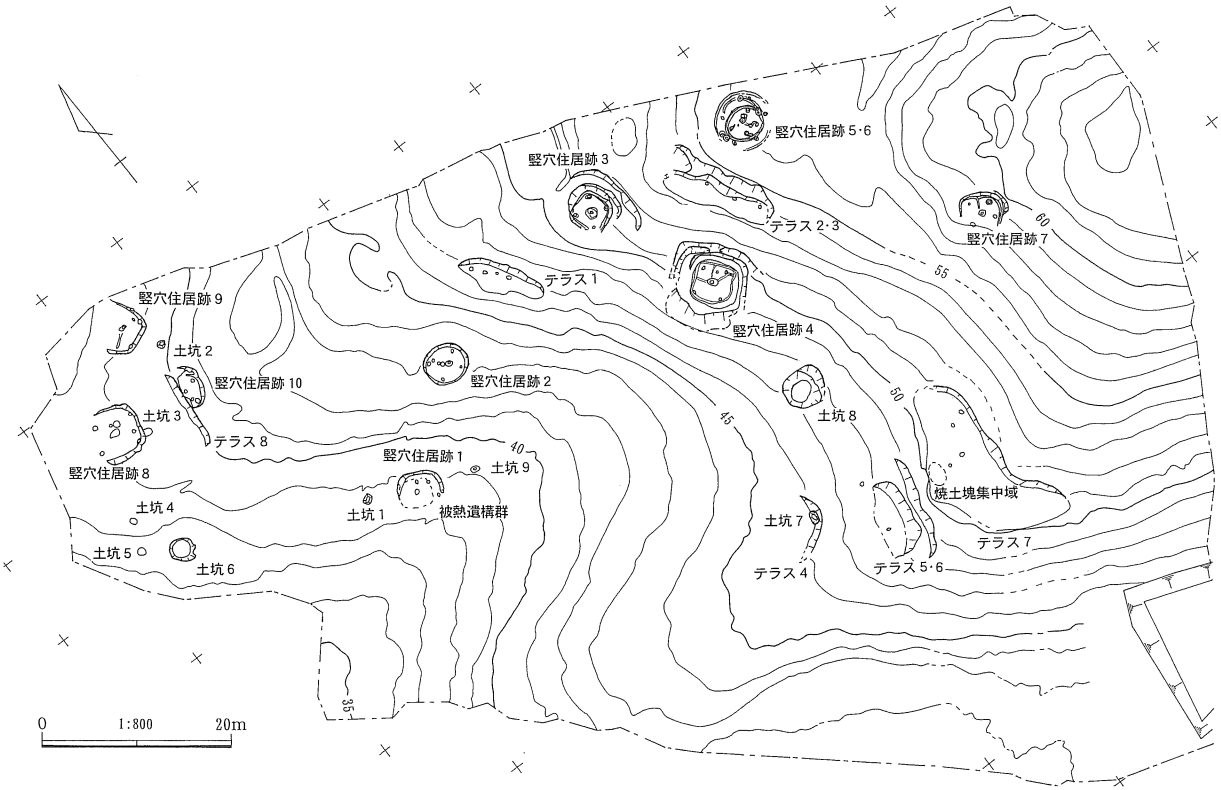



図 12　弥生時代遺構分布

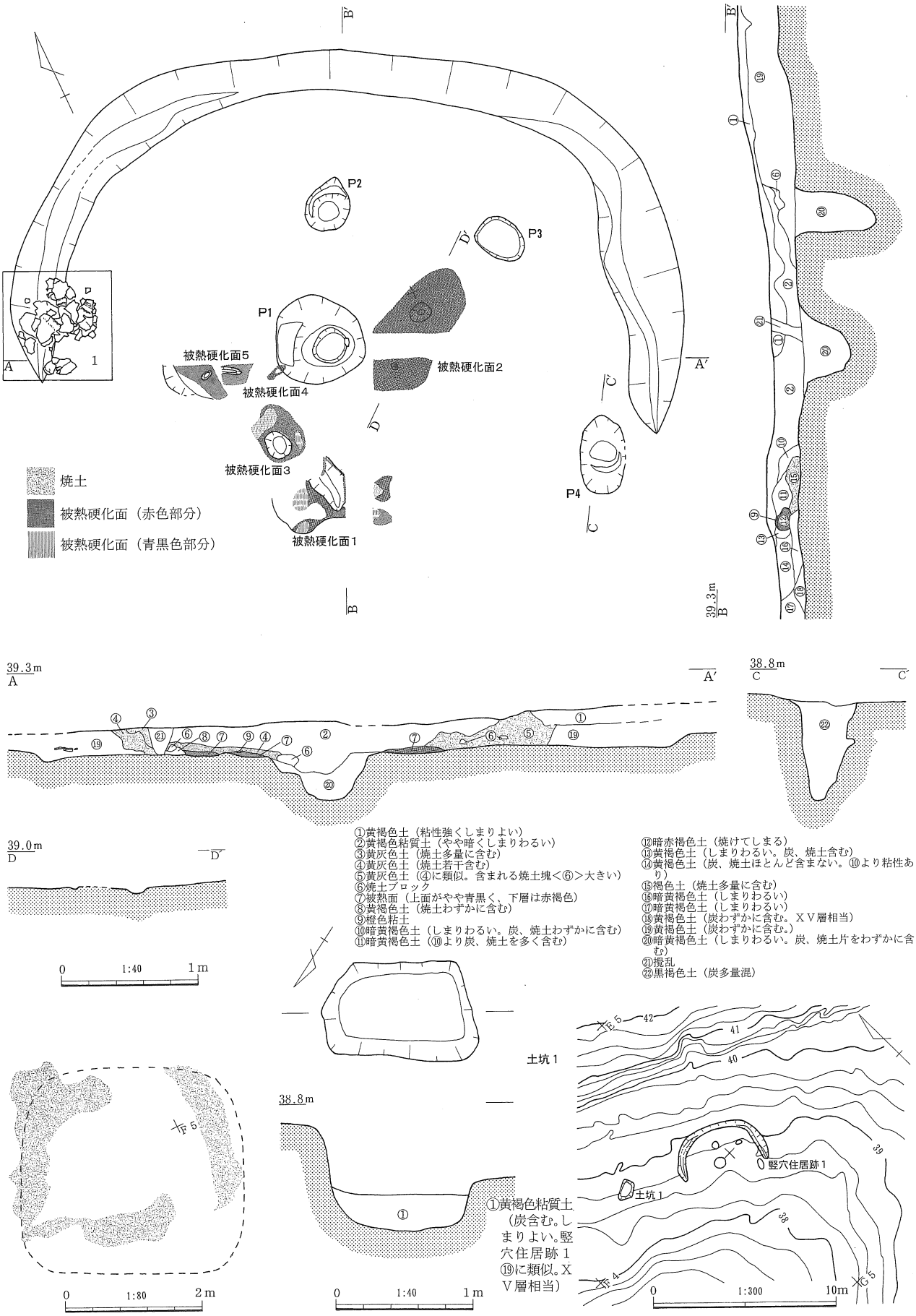



図 13　竪穴住居跡１・土坑１

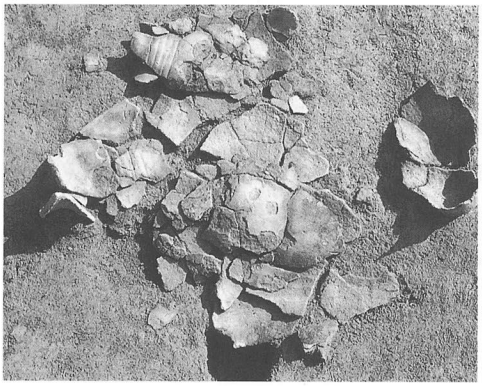


Fig. 1　土器出土状況（西から）

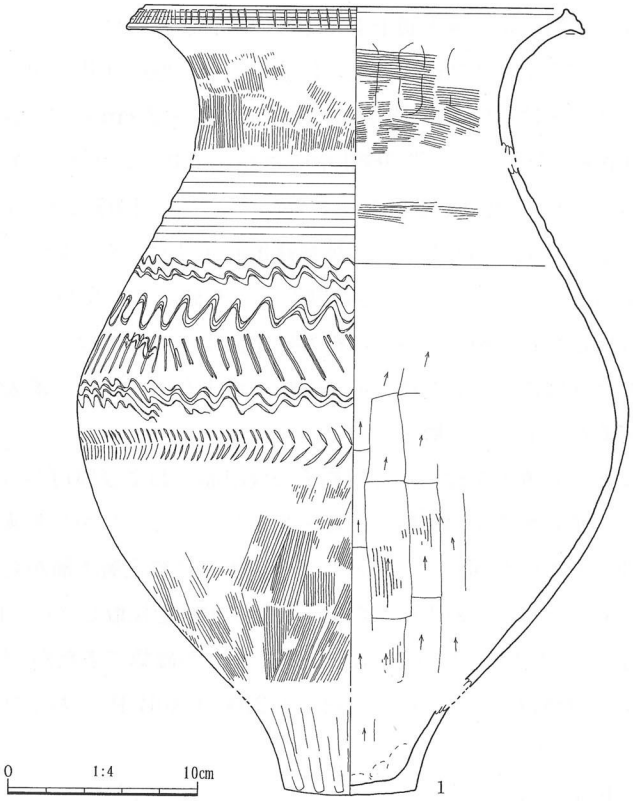



図 14　竪穴住居跡１出土遺物

章特論６）。また大型の土坑８が尾根１区と２区の間に位置する。

谷１区ではピットのほかには土坑１基（土坑９）をＸＩ層下で検出したのみである。同層は良好な遺物包含層ではあるが、ＸＶ層と同様その下面における遺構は少ない。また谷２区においてはこの時期の遺構は確認していない。しかし尾根２区から下がる部分にはわずかながら同区から拡がる遺物包含層があった。そのため平安時代のテラス群に削平されてしまった可能性も考えられる。

後期末の遺構群は尾根１区の先端部にのみあり、竪穴住居跡３棟（竪穴住居跡８～10）とテラス１基（テラス８）であった。これらはいずれも中世後期のテラス群に切られるほか、竪穴住居跡９は古市 14 号墳にも切られている。なお弥生時代よりも遡るものとして、谷１区より縄文時代晩期に比定される刻目突帯文土器が３点出土している（図版 26-2）。　（中森）

## 第２節　中期後葉の遺構と遺物（図 13 ～ 17）

**竪穴住居跡１**　（図 13・14、図版２ -2、３ -1・2、カラー図版４）

谷１区において検出し、ほぼ中央にＦ５杭が位置する。南側は流出してしまっているが、おそらく径約 5.0 m の隅丸方形を呈する。また埋土に焼土や炭化物を多く含むことから、焼失した住居跡と考えられる。

上面は奈良時代後期～平安時代初頭のテラス 16、およびそれに続く平坦面によって削平される。その面で 3.0 × 3.3 mほどの範囲に拡がる焼土混じりの層を検出した。中心部にはあまり焼土を含まない②層が堆積し、それを焼土を密に含む層が囲う。東西方向の断面（Ａ－Ａ’）でみると②層が皿状に堆積し、その外側に焼土層（③・④層および⑤層）があることがみてとれる。これらは床面直上に堆積し 0.25 mの厚さがあるが、その外側には細かい炭を含んだ⑲層がある。この層は南北断面（Ｂ－Ｂ’）北側にもみられ、さらに北側上方から流れ込んだような状況を示している。土質はＸＶ層に類似する。住居内ほぼ中央にあるＰ１およびその北側のＰ２は炭・焼土を含む

⑳層が堆積し、その上を②・⑲層が覆う。またＰ４には炭が多量に含まれた黒褐色土があった。

住居床面および焼土層上面で赤ないし青黒く硬化した面を５ヶ所（被熱硬化面１～５）検出した。被熱硬化面１のみ床面より0.2ｍほど上に位置するが、他の４基は同一レベルであった。被熱硬化面１は赤褐色部と青黒色部がややまばらにある。被熱面（⑨層）は厚さ２cmほどを測るが、その下には硬く焼けしまったブロック状のもの（⑫層）があった。被熱硬化面２は長径1.05ｍ、短径0.45ｍほどを測り、全面橙褐色で硬化していた（カラー図版４-1）。中央にある径約0.1ｍのピット内も同様であった。被熱硬化面３は長径0.4ｍ、短径0.3ｍほどで赤褐色部と青黒色部とがある。被熱硬化面４は北側をトレンチで切られ規模は不明確である。被熱硬化面５の一部であるかもしれない。その５は攪乱により確認できなかったが、上面からピット状に掘り込まれた可能性をもつ。そう仮定すれば掘り込み面は被熱硬化面１と同じになろう。被熱硬化面５底面の長径は0.6ｍであった。

また住居西隅、周壁溝上面で完形の壺(1)が出土した。器表面が弾けたように剥離した部分もみられ、火を受けた可能性がある（図版３-1）。

なおこの遺構を検出した当初その検出面、および周辺から鉄滓などが出土していたため、奈良時代後期～平安時代初頭の製鉄関連遺構であると想定していた。しかし明確に時期を示す遺物がなく、検出した被熱硬化面から時期をある程度判断したいと考えた。さらに焼土層下層から完形の弥生土器が出土したが、層位的な関係が不明瞭であったためその周辺から出土した炭化物を採取し$^{14}$Ｃ年代測定を行った。最終的には層位的に焼土層と被熱硬化面、竪穴住居跡は一連のものであることが確認できたが、年代測定の各結果も地磁気年代測定では2000年以前（第10章特論３）、$^{14}$Ｃ年代測定が2100±40B.P.、および2000±40B.P.（第10章特論４）と矛盾はない。

（中森）

**土坑１**　（図13）

Ｅ４グリッドＸＶ層下面、竪穴住居跡１の西側で検出した。長径1.05ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.75ｍを測る長方形の土坑である。南側は削平されている。遺物は出土していない。（中森）

**土坑２**　（図15）

Ｃ３グリッド北側に位置するほぼ楕円形をした土坑で、長径1.0ｍ、短径0.85ｍほどを測る。西側は中世のテラスにより削平されている。（中森）

**土坑３**　（図15）

Ｃ２・３グリッドにまたがる土坑で竪穴住居跡８に切られる。長径1.45ｍ、短径0.85ｍほどを測る長方形を呈する。底面は上場よりもやや外側に拡がる。（中森）

**土坑４**　（図15）

Ｄ２グリッドの中央付近にある円形土坑である。径は0.65ｍを測り、中世のテラス26による削平のため深さは約0.15ｍしかない。（中森）

**土坑５**　（図15）

Ｄ２グリッドにおいて検出した。径約１ｍを測る円形の土坑である。土坑南側にはその肩にかかるように人頭大の礫が、２層上面に置いたかのような状況で検出した。中世のテラス27により削平された可能性が高いため、ここが遺構上場であったかどうかはわからない。（中森）

**土坑６**　（図15、図版２-1）

Ｄ２グリッド南側に位置する、径約2.1ｍの大型円形土坑である。テラス28により削平されたためか、深さは約0.3ｍと浅い。北東部分は攪乱されているが、２層がほぼ水平に堆積している。米子市教育委員会による試掘（ＹＴ21）がほぼ中央部に入っており、遺物はそこから比較的まとまって出土しているほか、北側部分に僅かにみられた。２・３は甕、４は壺。３・４は試掘出土遺物である。

以上のように尾根１区先端部において検出した土坑２～６は、その埋土が赤褐色土系で類似すること、そして土坑６出土の遺物から中期後葉と判断した。それぞれ平面形および規模が異なるため、各々の相関関係については不明であるが、一連の所産である可能性は考えられよう。（中森）

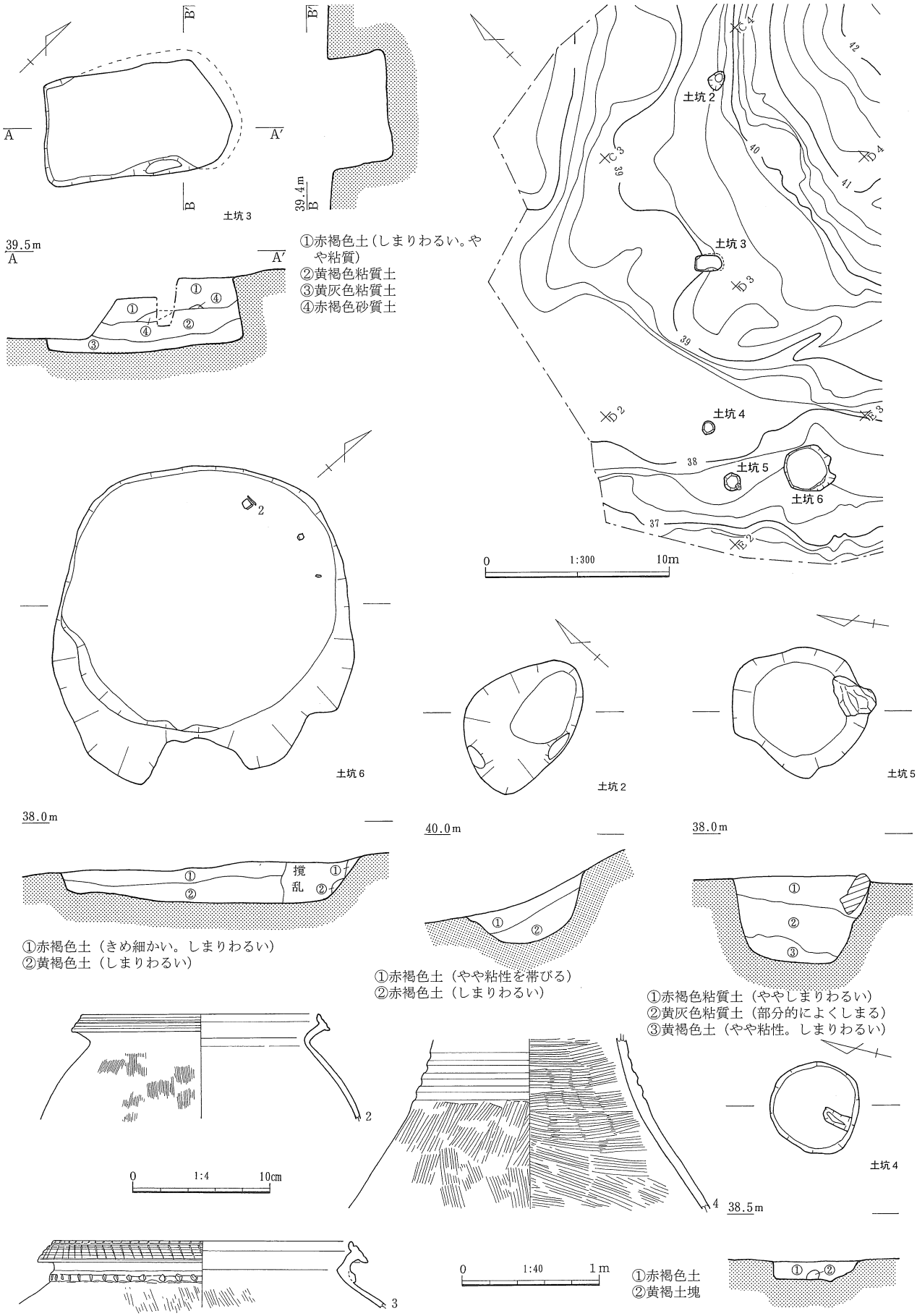



図15　土坑２～６および出土遺物

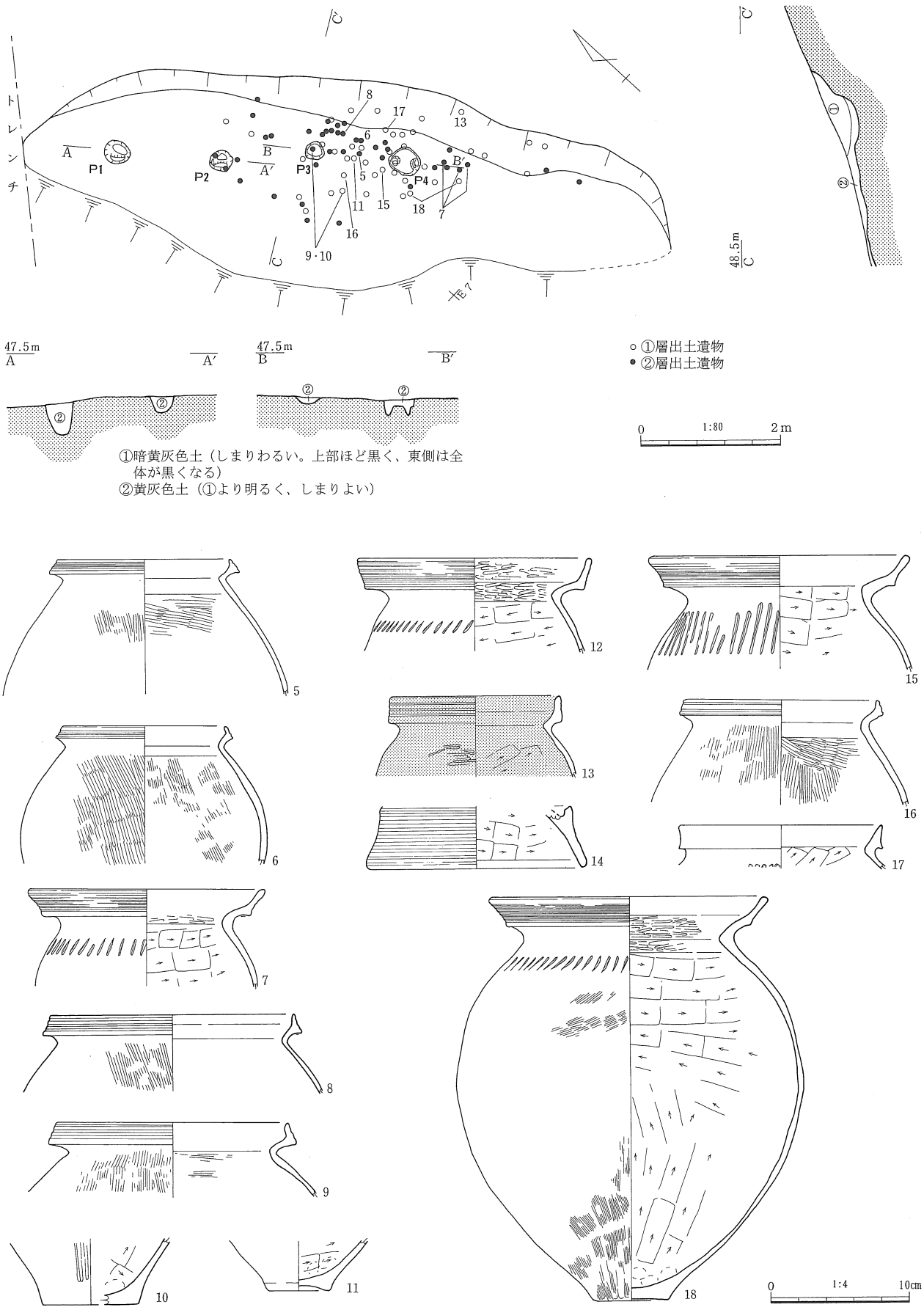



図16　テラス１および出土遺物

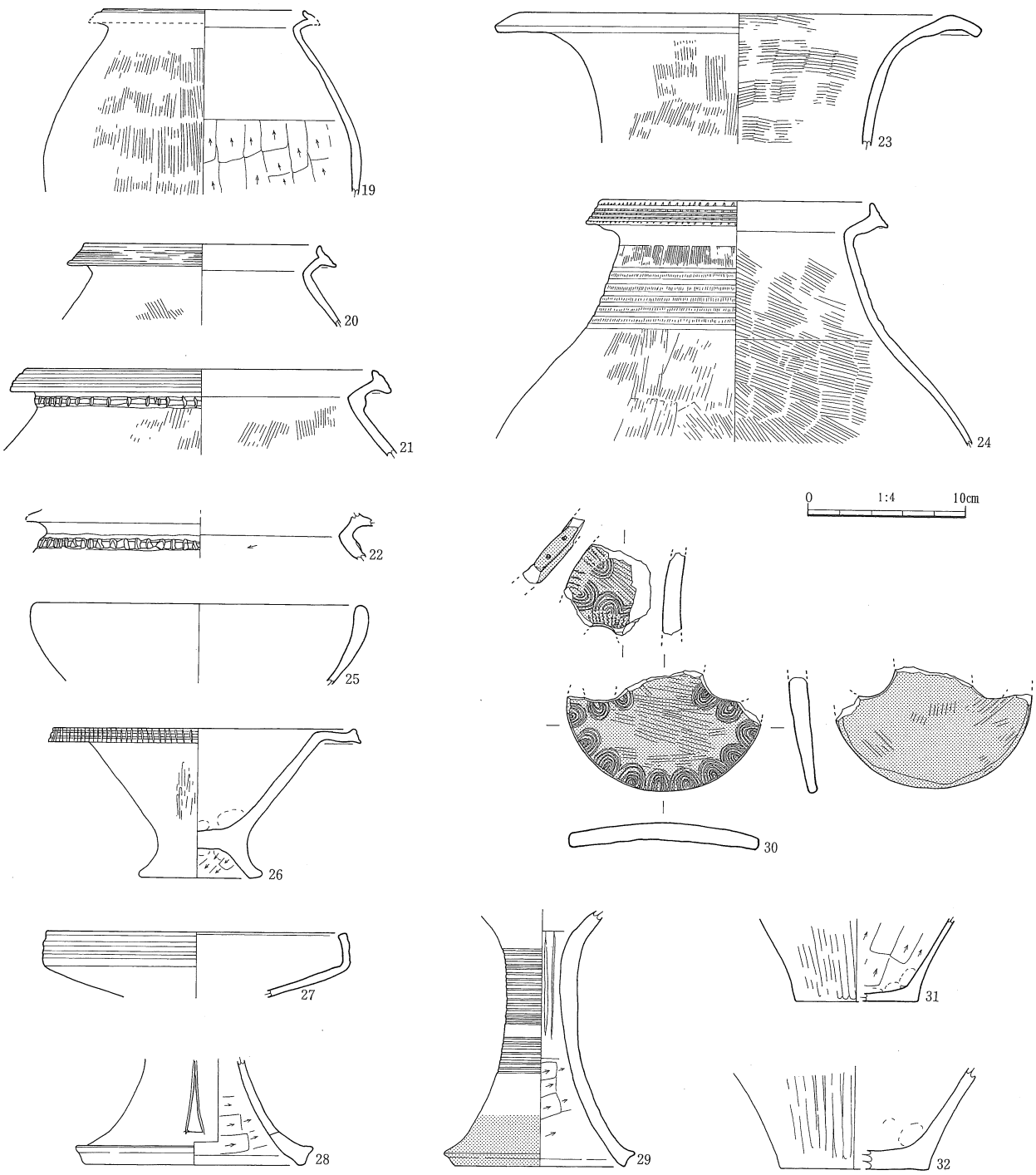



図17　ＸＩ層下層・ＸＶ層出土遺物

**テラス１**　（図16、図版２-3・３-4・４）

Ｅ６グリッドに位置する幅約9.4ｍのテラスである。奥行きは最大で約1.5ｍ。西向きの斜面をカットし平坦面をつくり出しており、その高さは0.3ｍほどであった。堆積は２層に分かれ、下層は中期後葉の遺物のみが包含されていた。ただ上層の①層には後期の遺物が多く見られることから、あるいは２時期にわたって利用された可能性も考えられよう。５～９・12・13・15～18は甕、14は器台、10・11は底部である。５～11は①層、12～18は②層より出土している。（中森）

**ＸＶ層出土遺物**　（図17、図版３-3）

谷１区最下層にあたるこの層は、Ｆ３～５グリッドにかけて拡がっていた。またＦ５グリッド東側における同層と上層であるＸＩ層との境は不明確であったが、ＸＩ層掘り下げ過程で中期後葉の土器がまとまって出土した

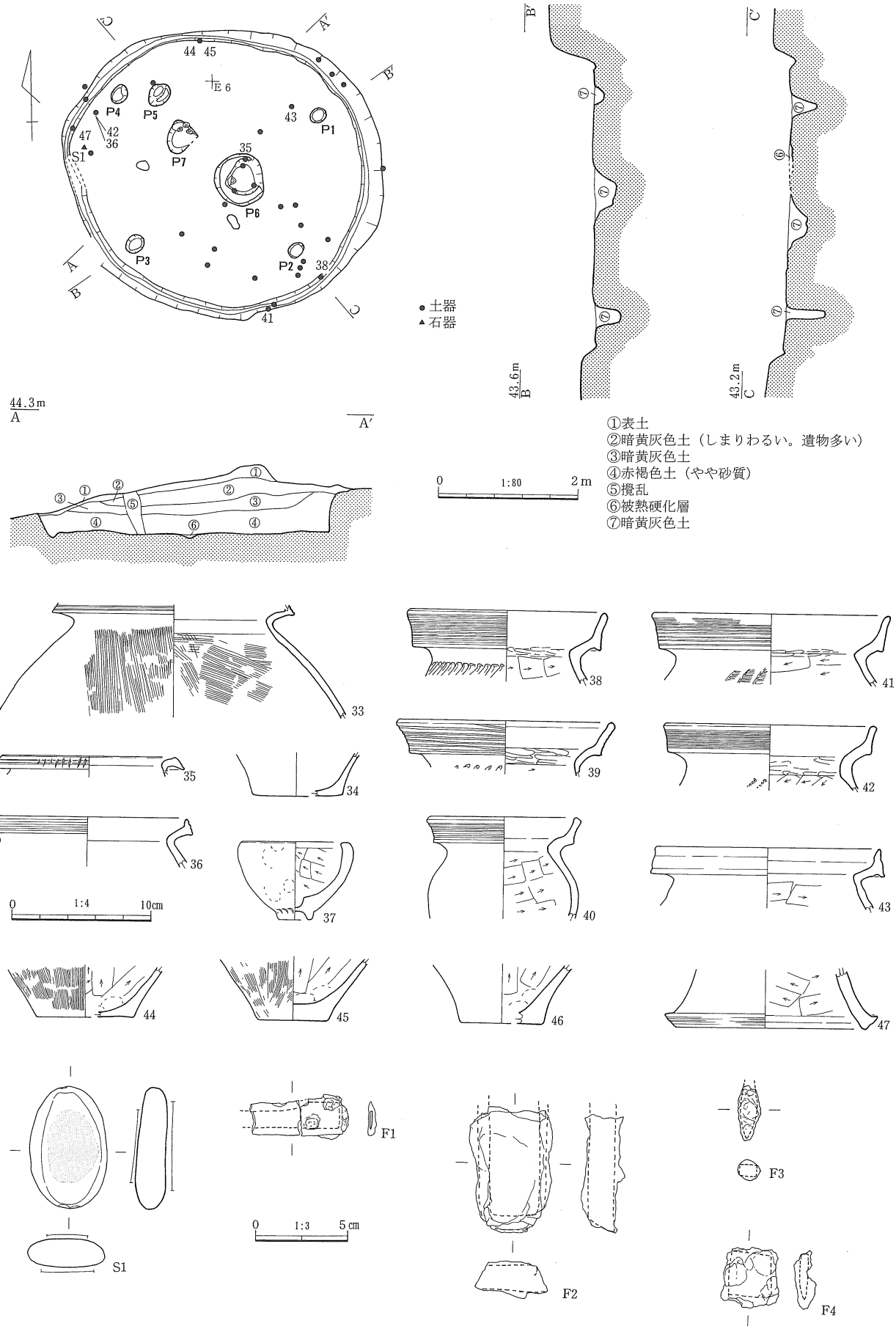
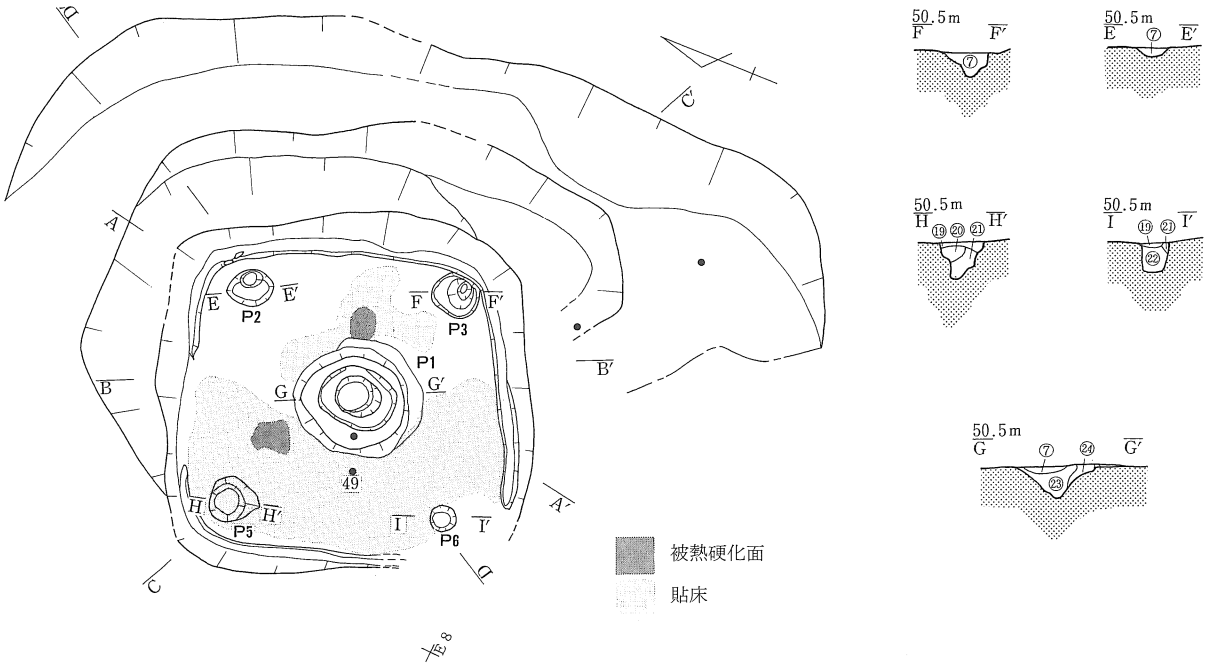
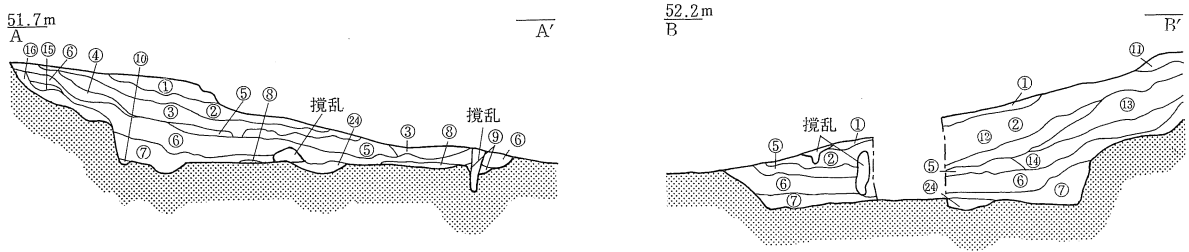



図18　竪穴住居跡２および出土遺物




①暗赤褐色粘質土（しまりよい。1mm 大の白色粒子含む。１９号墳盛土の流土）
②明赤褐色粘質土（しまりよい。1～3mm 大の白色粒子含む。　〃　）
③褐色土（部分的にやや暗。しまりややわるい。白色粒子若干含む　〃　）
④明褐色土（しまりややよい。　〃　）
⑤暗灰色粘質土（しまりわるい。白色粒子、遺物多く含む）
⑥黄灰色土（やや砂質。しまりわるい）
⑦黄褐色土（しまりわるい。遺物多い）
⑧褐色粘質土（黄色土粒含む。）
⑨灰褐色土（しまりわるい）
⑩暗褐色土（しまりわるい）
⑪暗褐色粘質土（しまりよい）
⑫橙褐色土（やや砂質。白色粒子含む）
⑬褐色土（しまりわるい。白色粒子含む）
⑭暗褐色土（しまりわるい）
⑮暗灰色土
⑯暗赤褐色土（しまりわるい）

⑰暗褐色粘質土（黒味を帯びる）
⑱暗黄色粘質土（黄色粒子多く含む）
⑲黄灰褐色土（しまりわるい）
⑳暗灰褐色土（やや粘質。⑲より暗い）
㉑暗灰色土（粘質）
㉒暗黄灰色土（しまりわるい。炭含む）
㉓暗黄褐色土（しまりわるい。炭を若干含む）
㉔暗黄褐色土（やや粘質。⑦に類似）

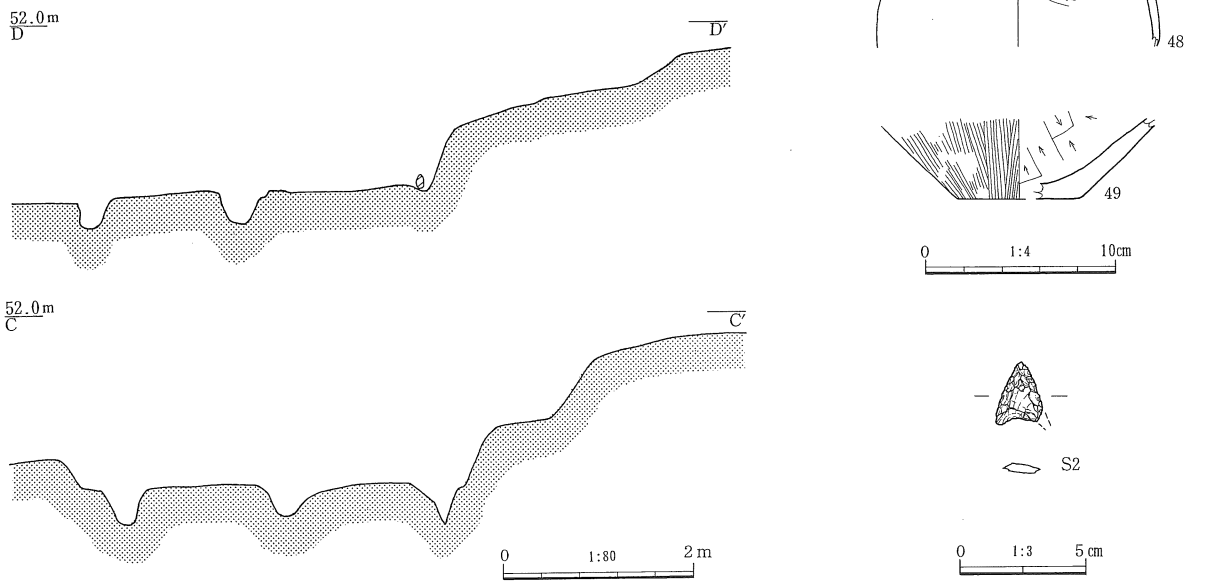



図19　竪穴住居跡３および出土遺物

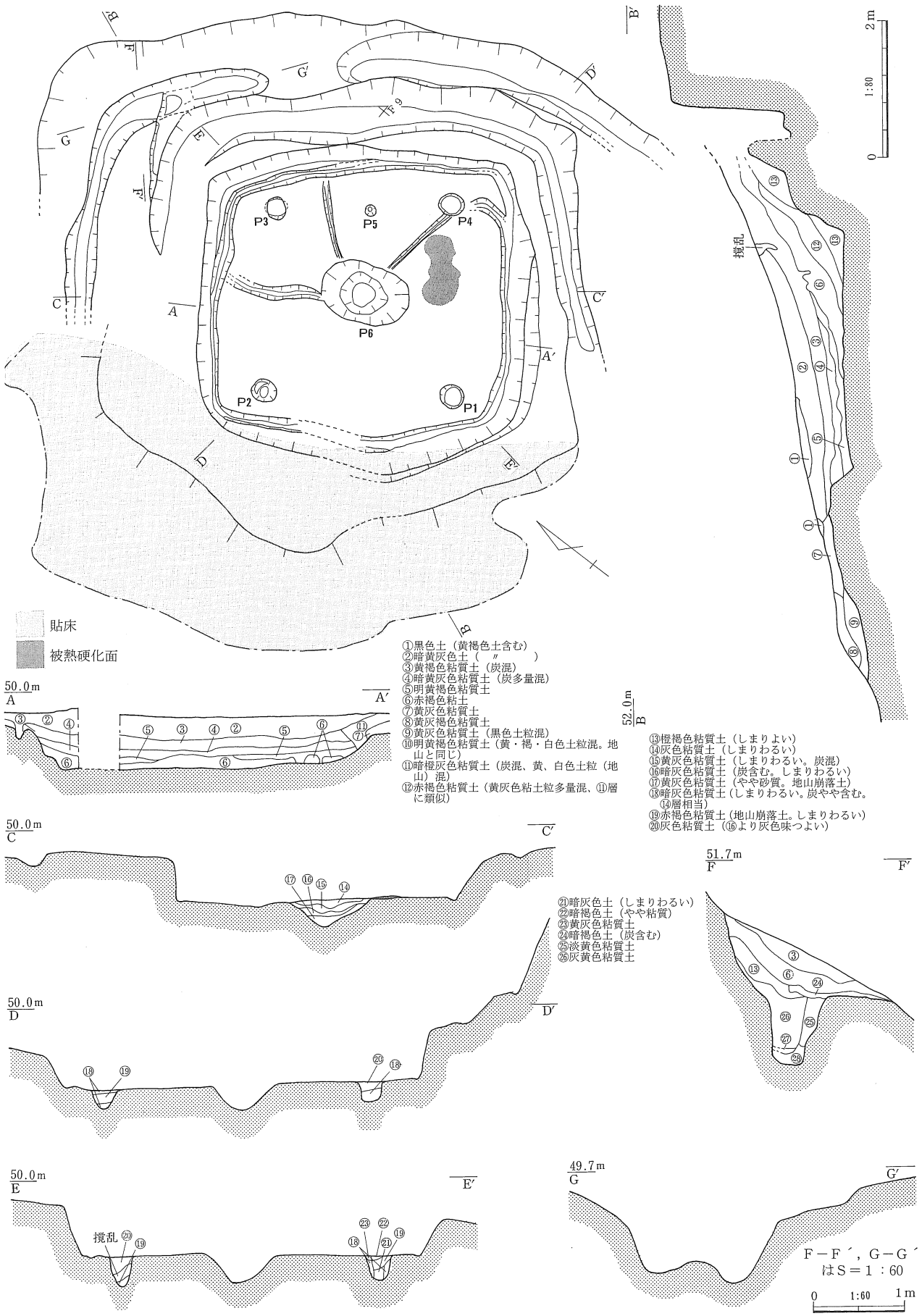

P1
P2
P3
P4
P5
P6
貼床
被熱硬化面
①黒色土（黄褐色土含む）
②暗黄灰色土（　〃　）
③黄褐色粘質土（炭混）
④暗黄灰色粘質土（炭多量混）
⑤明黄褐色粘質土
⑥赤褐色粘土
⑦黄灰色粘質土
⑧黄灰褐色粘質土
⑨黄灰色粘質土（黒色土粒混）
⑩明黄褐色粘質土（黄・褐・白色土粒混。地山と同じ）
⑪暗橙灰色粘質土（炭混、黄、白色土粒（地山）混）
⑫赤褐色粘質土（黄灰色粘土粒多量混、⑪層に類似）
⑬橙褐色粘質土（しまりよい）
⑭灰色粘質土（しまりわるい）
⑮黄灰色粘質土（しまりわるい。炭混）
⑯暗灰色粘質土（炭含む。しまりわるい）
⑰黄灰色粘質土（やや砂質。地山崩落土）
⑱暗灰色粘質土（しまりわるい。炭やや含む。⑭層相当）
⑲赤褐色粘質土（地山崩落土。しまりわるい）
⑳灰色粘質土（⑯より灰色味つよい）
㉑暗灰色土（しまりわるい）
㉒暗褐色土（やや粘質）
㉓黄灰色粘質土
㉔暗褐色土（炭含む）
㉕淡黄色粘質土
㉖灰黄色粘質土
撹乱
50.0m
52.0m
51.7m
49.7m
F－F′，G－G′はS＝1：60
0　1:60　1m
0　1:80　2m

図 20　竪穴住居跡４

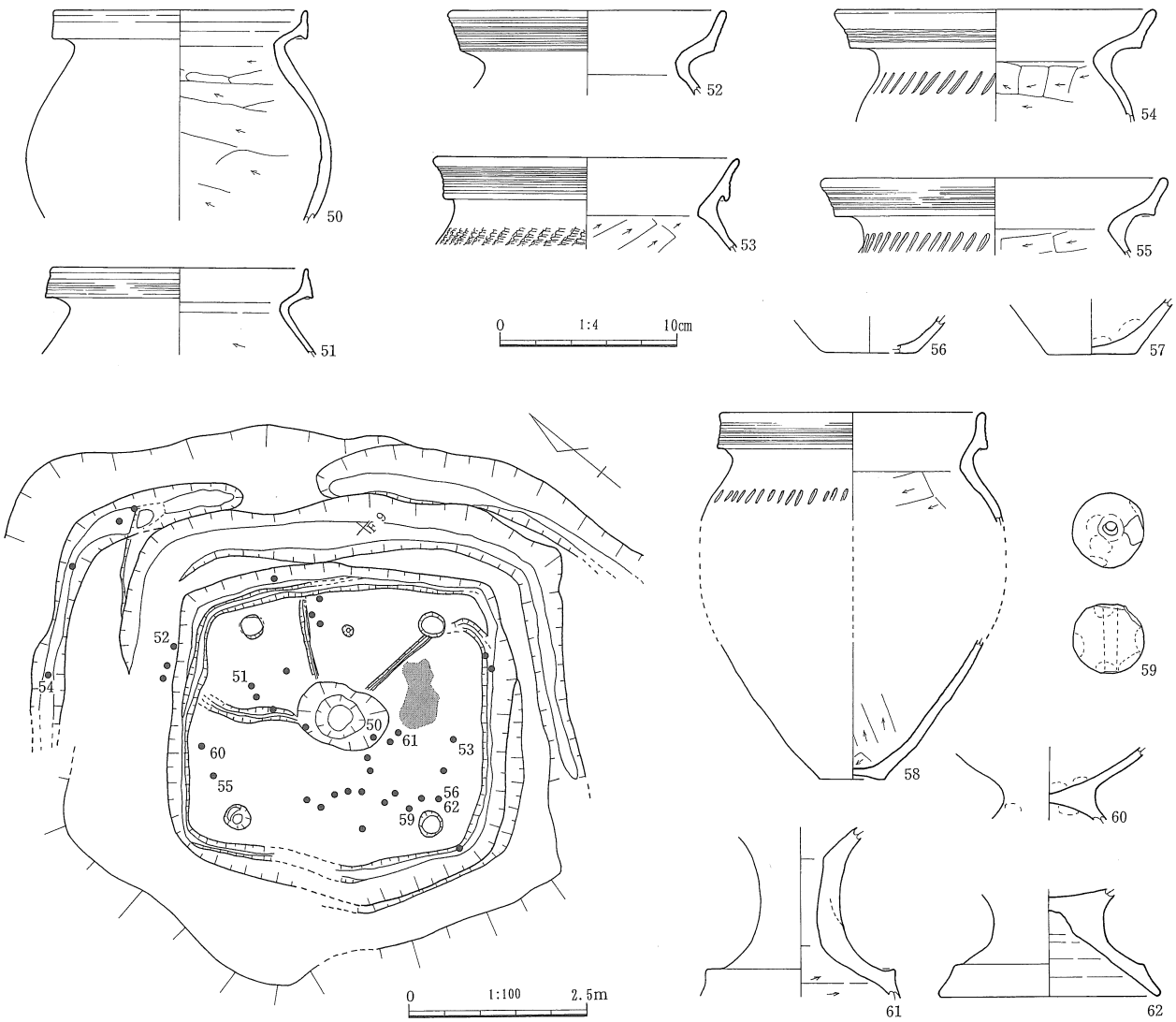
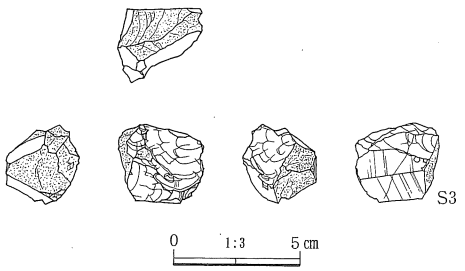



図 21　竪穴住居跡４出土遺物




ことより、これらをＸＩ層下層として取り上げ、ここに含めた。

19 ～ 22 は甕、23・24 は壺である。25 は鉢か。26 はその内面がケズられていたため、低い高台の付くものと判断した。あるいは蓋である可能性も考えられる。27 ～ 29 は高坏、31・32 は底部である。30 は分銅形土製品で、内外面とも赤色塗彩される。内外面にハケメがあり、下半部はやや反っている。なおこの下半部はＧ３グリッドⅣ層（奈良時代後期～平安時代初頭遺物包含層）から出土しているが、同一個体と判断した。　（中森）

## 第３節　後期の遺構と遺物（図 18 ～ 41）

**竪穴住居跡２**　（図 18、図版８ -1 ～３・９）

Ｅ５・６グリッドにおいて検出した。長径 4.8 m、短径 4.2 mほどを測るやや楕円形を呈したものである。上面は平安時代のテラス 18 などに削平されている（①層）可能性が高く、深さ 0.55 m以上あったかもしれない。

遺物は一部に中期の土器（33 ～ 35）を含む。37 は小型の杯か。高台状のものの外面には、胴部と接する部分に爪痕状の連続する刻みが巡る。内面は見込み部分がくぼむため、蓋である可能性も考えられよう。床面上から出土。38 ～ 43 は甕である。二重口縁外面に凹線を施すものと無文があり、前者には凹線上半部をナデ消すものもみられる。また鉄製品がまとまって出土している（Ｆ１～Ｆ４）。Ｆ１は鑓鉋、Ｆ２は鋳造鉄斧の先端部、Ｆ４は鎌

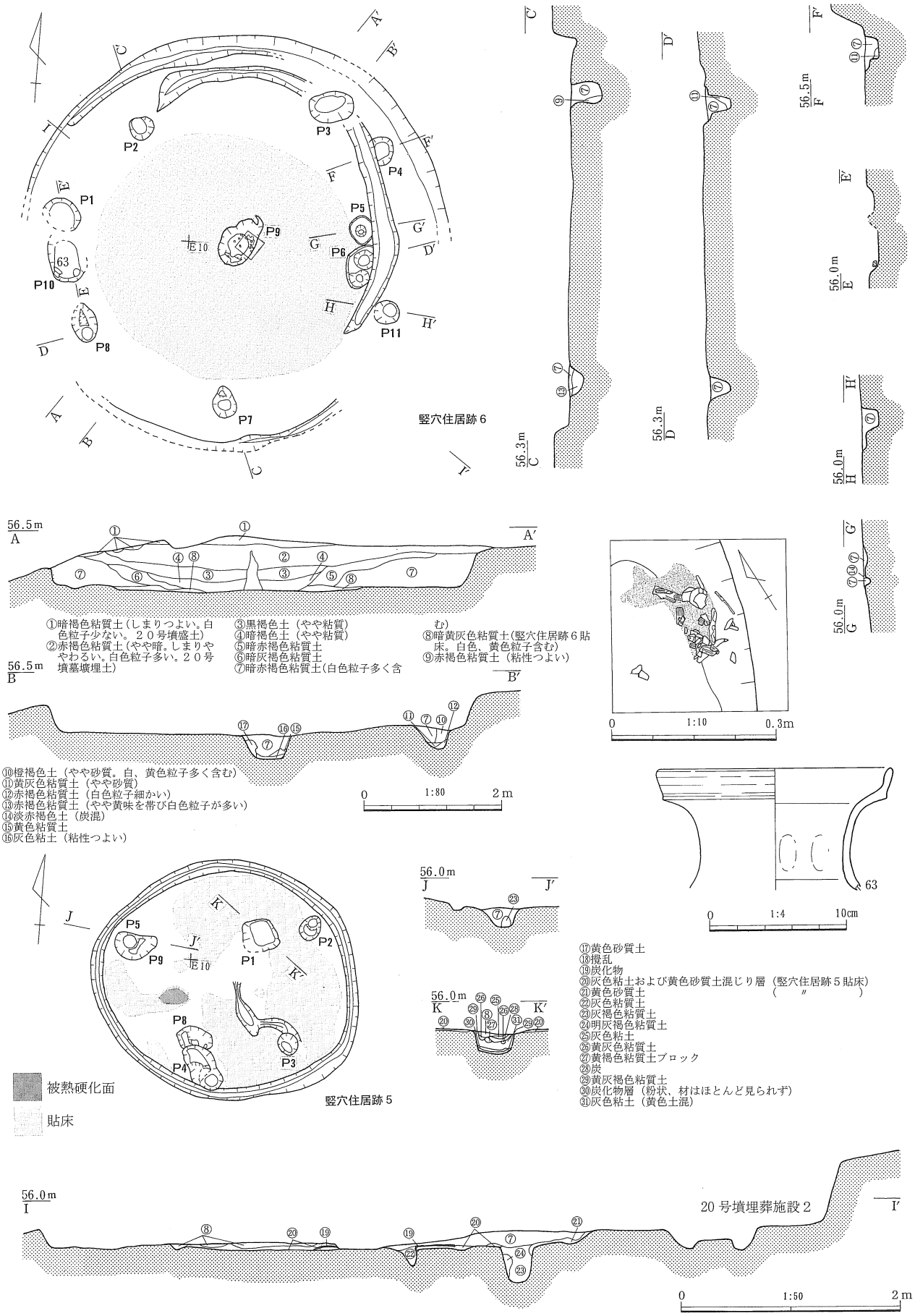



図 22　竪穴住居跡５・６および出土遺物

か。これら３点は床面より浮いて出土。Ｆ３は鉄鏃か。Ｐ６内から出土した。（中森）

**竪穴住居跡３**　（図 19、図版８ -4・９ -3）

Ｄ・Ｅ８グリッド、19 号墳の南西に位置する。東側は斜面をカットし、２段のテラスがつくられる。住居は一辺４ｍほどの隅丸方形で、深さは東側で約 0.6 ｍを測る。住居内は地山がやわらかい真砂土であるためか、床が貼られている。中央ピット（Ｐ１）は長径 0.8 ｍ、短径 0.6 ｍほどの楕円形を呈し、その上場周囲に幅 0.3 ｍ、高さ 0.05 ｍほどの非常に低い周堤が巡る。遺物は少ないが、いずれも床面直上から出土している。48 は甕。口縁部は無文で、端部はやや外半する。49 は底部である。また石鏃が１点（Ｓ２）ある。（中森）

**竪穴住居跡４**　（図 20・21、図版５・６）

尾根１区Ｆ８・９グリッドの南西向き斜面に位置する。斜面北側を大幅にカットし、そこに幅約 1.2 ｍのコ字状テラスを２段つくる。さらに上方の１段目においては北から北西にかけて幅 0.6 ｍほどの溝が住居に沿って掘られ、深いところでは約 1.2 ｍに達する（Ｇ－Ｇ’、図版５ -2）。この溝は住居北西側で収束しており、排水溝と考えられよう。住居南西側（斜面下方側）には広範囲に黄灰色系の粘質土（⑦～⑨層）を検出したが、これらは地山上にのる貼床状のものと考えられる。

住居の規模は径約 5.0 ｍの隅丸方形を呈す。床面には中央ピット（Ｐ６）から幅 0.1 ～ 0.2 ｍ、深さ 0.1 ｍほどの溝が３条あった。なお住居内にはかなり厚く上方から流れ込んできた土が堆積していた。遺物は床面およびやや浮いた④層内に多く、さらに排水溝内からも出土した。50 ～ 58 は甕、59 は土玉である。60 ～ 62 は高坏。Ｓ３は水晶の石核である。（中森）

**竪穴住居跡５・６**　（図 22、図版６ -2・７）

20 号墳盛土下から検出した円形の竪穴住居跡である。ちょうど尾根頂部に位置し、ここは尾根１区の中でもっとも広い平坦面が拡がる地区である。竪穴住居跡は一度拡張を行っており、拡張前を竪穴住居跡５、拡張後を竪穴住居跡６とした。前者は長径 4.0 ｍ、短径 3.6 ｍのやや楕円形を呈し、竪穴住居跡６床面からわずか 0.05 ｍほどしか深さがない。柱穴の配列は不規則である。中央ピットは明確な切り合いなどが確認されなかったため、竪穴住居跡６と共通するのかもしれない。また床面にはほぼ全面に貼床がされていた。

竪穴住居跡６は竪穴住居跡５の部分に貼床し床面のレベルを揃える。東側は 20 号墳埋葬施設２、南側は埋葬施設１により削平される。径 6.5 ｍほどの円形を呈すると思われ、本調査地内検出の竪穴住居跡の中でもっとも規模が大きい。周壁溝の内側には北から東にかけて弧状に溝があるが周壁溝とは並行しないため、竪穴住居跡５から６への拡張前にもう一段階あったとも考えられる。

中央ピット（Ｐ９）底面には炭化物が堆積していた。壁など周囲には火を焚いた様子はなく、意図的に置いた可能性もあろう。遺物は壺（63）が出土したのみである。（中森）

**竪穴住居跡７**　（図 23 ～ 30、図版 10 ～ 17、カラー図版２・３）

調査地北側に伸びる尾根の頂部から、南西方向に傾斜する斜面部、標高約 58.10 ｍに立地する。約 4.8 × 4.1 ｍの隅丸方形を呈する。住居の中心付近で焼土、被熱粘土塊[註2]、縁辺部で炭化材などが認められ、ほとんどの遺物は床面直上から検出された。良好な遺存状態を示す焼失住居である。住居西側は傾斜が著しく、端辺が流出しているが、斜面部をＬ字状にカットし、住居を構築したものと推定できる。ピットは住居のほぼ中央に位置する中央ピット１（Ｐ１）、柱穴と想定される主柱穴４（Ｐ２～４）、補助柱と想定される柱穴１（Ｐ６）を検出した。そのほか、長さ約 1.5 ｍ、幅約 0.18 ｍ、深さ約 0.07 ｍの床溝が中央ピットの東に伸び、壁面と床面の境にめぐる幅約 0.15 ｍの周壁溝に連続する（図 30）。

住居検出時に住居中央部で焼土（⑮・㉖・㉗・㊵層）を確認した（図 23）。複数層に分かれるが一連の堆積によるものと考えられる。被熱粘土塊は人頭大から拳大の大きさで多様な形態をなし、焼土中に包含される。炭化材は検出レベルおよび焼土層をキー層として、上下に分離できる可能性がある。炭化材には木質、草本類のものが認められ、木製品と想定される個体も含まれる。

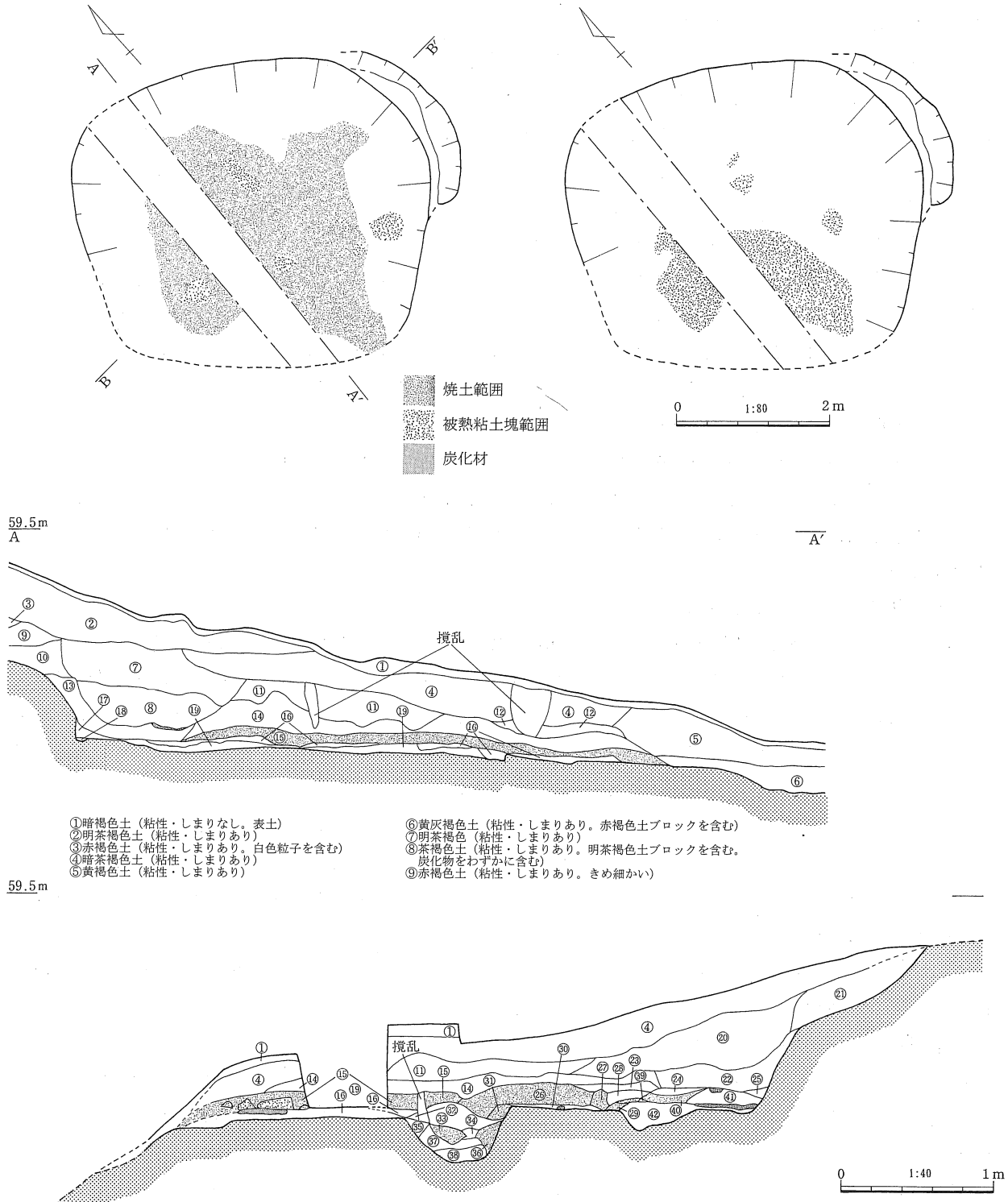



図 23　竪穴住居跡７焼土検出状況および土層断面

上部炭化物・被熱粘土塊検出状況

見通し断面には被熱粘土塊・下部炭化材（床面直上出土）・遺物を投影していない

図 24　竪穴住居跡７検出状況

１）焼土（図 23）

住居中心付近で確認でき、東西約 1.8 m、南北約 2.1 mの範囲に約 0.1 mの厚さで拡がり、縁辺部では確認されない。住居縁辺部では北側で赤褐色土（⑬層）、南東側で黄灰褐色土（㊶層）が確認でき、焼土層の上面は⑬層、㊶層上面とほぼ同一レベルに揃う。Ｂ－Ｂ′では焼土層が比較的縁辺部にまで拡がり、㊶層の上部に堆積するのに対し、Ａ－Ａ′では⑬層が壁面の立ち上がりに沿い、⑭層を介して焼土層の上部に堆積する。また炭化材は焼土層の直下、⑬・㊶層の上面およびその直下に認められたが、焼土層上面では大きな炭化部材を確認していない。これらの観察結果から縁辺部に堆積した土層と焼土層および炭化材の関係は、住居が焼け落ちる時の堆積過程の違いによって生じる差を示している可能性がある。

また橙褐色、淡赤褐色を呈する被熱粘土塊は焼土上面より検出され、分布範囲はやや南に偏るが、人頭大から拳大の大きさの個体があり、ほぼ焼土層中に包含される。

２）炭化材（上部炭化材および下部炭化材）

平面的には住居内の全般にわたり検出されているが、分布には粗密があり特に縁辺部に炭化材が集中し、焼土、被熱粘土塊の直下ではまばらである。縁辺部では⑬・㊶層の直上、直下で約 0.1 mのレベル差をもって炭化材を上下に分けられる。このことから主として縁辺部において上、下の炭化材を分離して検出することに努めた。検出段階をもとに第１検出段階の炭化材を上部炭化材、第２検出段階の炭化材を下部炭化材（床面直上検出炭化材）として報告する。

３）上部炭化材（図 24、図版 10・12）

上部炭化材は斜面に面した西側を除いて住居の北西縁辺部を中心に分布し、先述した縁辺部に堆積した土層（⑬・㊶層）の直上、直下および壁の立ち上がり付近に集中する（図版 12）。炭化材には木質、草本類のものが確認される。木質の炭化材の遺存状態は良好ではないものの住居の中心を向き、壁にもたれかかった状況が確認できた。いずれも、板、丸太状を呈する。検出状況から垂木と考えられよう。木質の炭化材の間隙には草本類の炭化材が集中し、これらの繊維方向は木質炭化材のそれに対してほぼ直交する。

床面縁辺部の⑬層上面、直下で検出した炭化材は部分的に約 0.1 mの高低差をもち、土層の層厚に近似する（図版 12-5）。よって高い位置にある炭化材は焼土検出面とほぼ同一レベルとなり、低い位置で検出した炭化材は後述する床面直上検出炭化材の直上ないしはやや高い位置にある。⑬層直上で検出した炭化材は少量ではあるが、草本類を主体とする。

上部炭化材の中でも北西部は遺存状態が良い（図版 12-1 ～ 4）。壁面において検出したＷ１は木質の炭化材の直上に直交するようにして草本類の炭化材が数条かかる（図 24、図版 12-2）。これらは屋根材を構成するものと考えられ、草本類の炭化材は垂木上に葺いたカヤ材の可能性が高く、上屋構造の一端を示しているものであろう。
壁面と床面の境界付近では草本類の炭化材を、㊶層中に約 0.05 mの上下差をもって確認した（図版 12-4）。上下とも繊維方向は一定しないものの、網代状を呈する可能性がある。下側の炭化材直上には後述する「舟形」の炭化材が位置するため、それらは床面直上に位置する炭化材である可能性も否定できない。「舟形」を呈する炭化材は中をくり抜くなどの加工が認められ、そのほかに検出した炭化材と形態が異なる。住居の構造に関わる部材あるいは木製品と推定される（図版 12-3）。

木質の炭化材にはスダジイが、草本類の炭化材にはススキが用いられていることが樹種同定より確認された（第 10 章特論１参照）。この結果は下部検出炭化材も同様である。

４）被熱粘土塊（図 24 ～ 26、図版 10・14・15）

焼土層の上面で検出された被熱粘土塊は、住居の中央部からやや南西よりに集中する（図 23 ～ 25、図版 10）。先述したように焼土層中に包含されており、その直下に下部検出炭化材、土器片などが出土することから、本来床面よりも上部に位置していたと考えられる。大きく二つのまとまりが確認され（図 25）、人頭大の個体が集中するＡ群、Ａ群から北に約 0.9 m離れた地点に拳大よりやや小さい個体が集中するＢ群がある。検出段階では明らかではなかったものの両群の間には中央ピット（Ｐ１）が存在し、中央ピットの周辺を巡るような状況で被熱粘

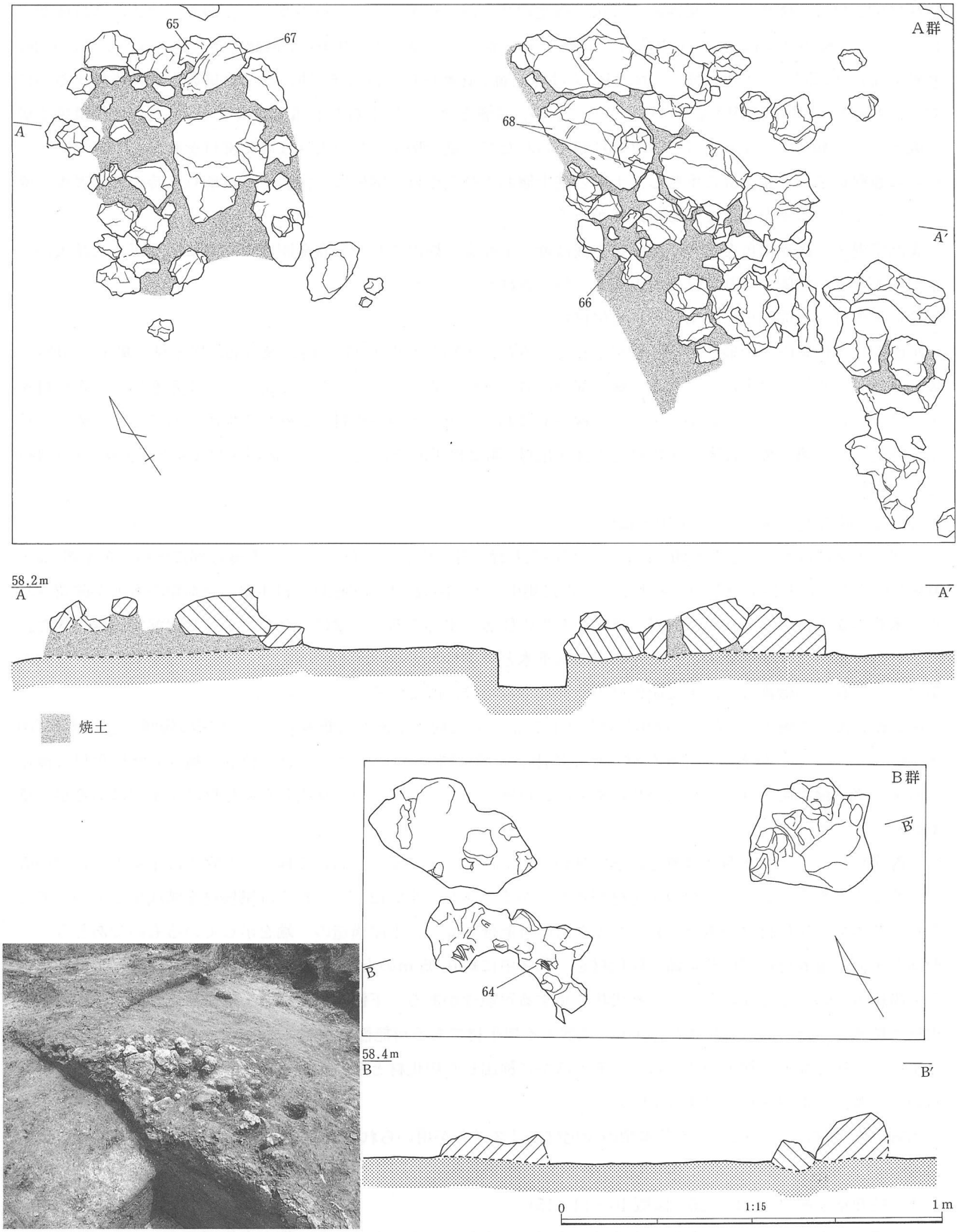



Fig. 2 被熱粘土塊Ａ群検出状況（西から）

図 25　竪穴住居跡７焼土検出状況

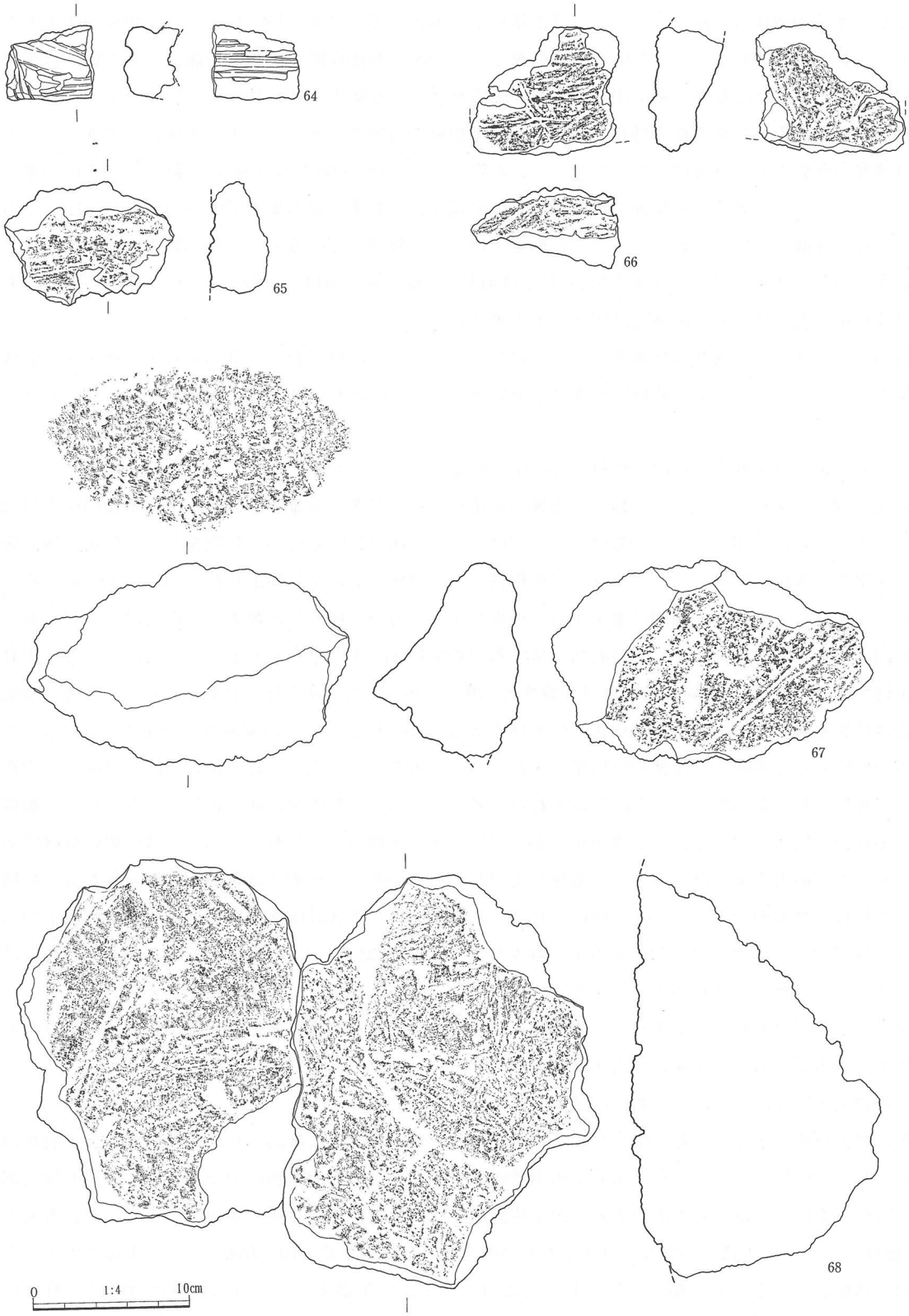



図 26　竪穴住居跡７出土遺物（１）

土塊を検出したことになる。取り上げた個体の総重量は約62.03kgを測る。

被熱粘土塊は多様な形態をなし、幾つかの共通点をもち、個体によっては住居の上屋構造に関わるものも認められるが、多くの個体は破損している。Ａ群を構成する個体の多くは堅く焼け締まった平坦面を１面あるいは複数面もつ。平坦面にはまばらに草本類の圧痕が残る（67・68）。検出段階で平坦面を確認できた個体は平坦面を上方に向けていた。また同方向で密に並ぶ草本類の圧痕をとどめる個体（図版15-1、739）もあり、この圧痕は上部炭化材、Ｗ１でみられた草本類の様相と類似する。屋根材の可能性があろう。また平坦面を表面として対をなす裏面は被熱の影響をあまり受けなかったせいか、非常にもろい（65・68）。65・66はＡ群のなかでは小型の個体であり、表面あるいは表裏面が平坦面で構成される。平坦面には数条の草本類の圧痕が認められ、圧痕の走向はほぼ一致する。Ｂ群はＡ群とは異なり小型の個体を主体とし、破損しているものの草本類の圧痕を顕著にとどめるものが多い（64）。大型の被熱粘土塊の厚さは約11cmあり、焼土層の層厚と近似する。検出状況からみても焼土層または被熱粘土塊は住居の上屋構造に関連すると考えられる。

被熱粘土塊のなかには被熱の影響をあまり受けていないもので、種子および草本類の炭化物を含む個体もある（図版15-1、740）。焼土および被熱粘土塊は胎土分析より、周辺の土を用いたことが明らかとなっている（第10章特論６参照）。

５）下部炭化材（床面直上検出炭化材）（図27、図版13）

下部炭化材は上部検出炭化材と比較して木質の炭化材は小片が多く少量なのに対し、草本類の炭化材は顕著である。検出した炭化材相互のレベル差は小さく、ほとんどが床面に貼り付いた状態を呈す。住居の床面縁辺部では薄い炭化物の堆積が確認できた。これらの炭化材は⑬・⑭層の直下より検出したものが大半を占める。

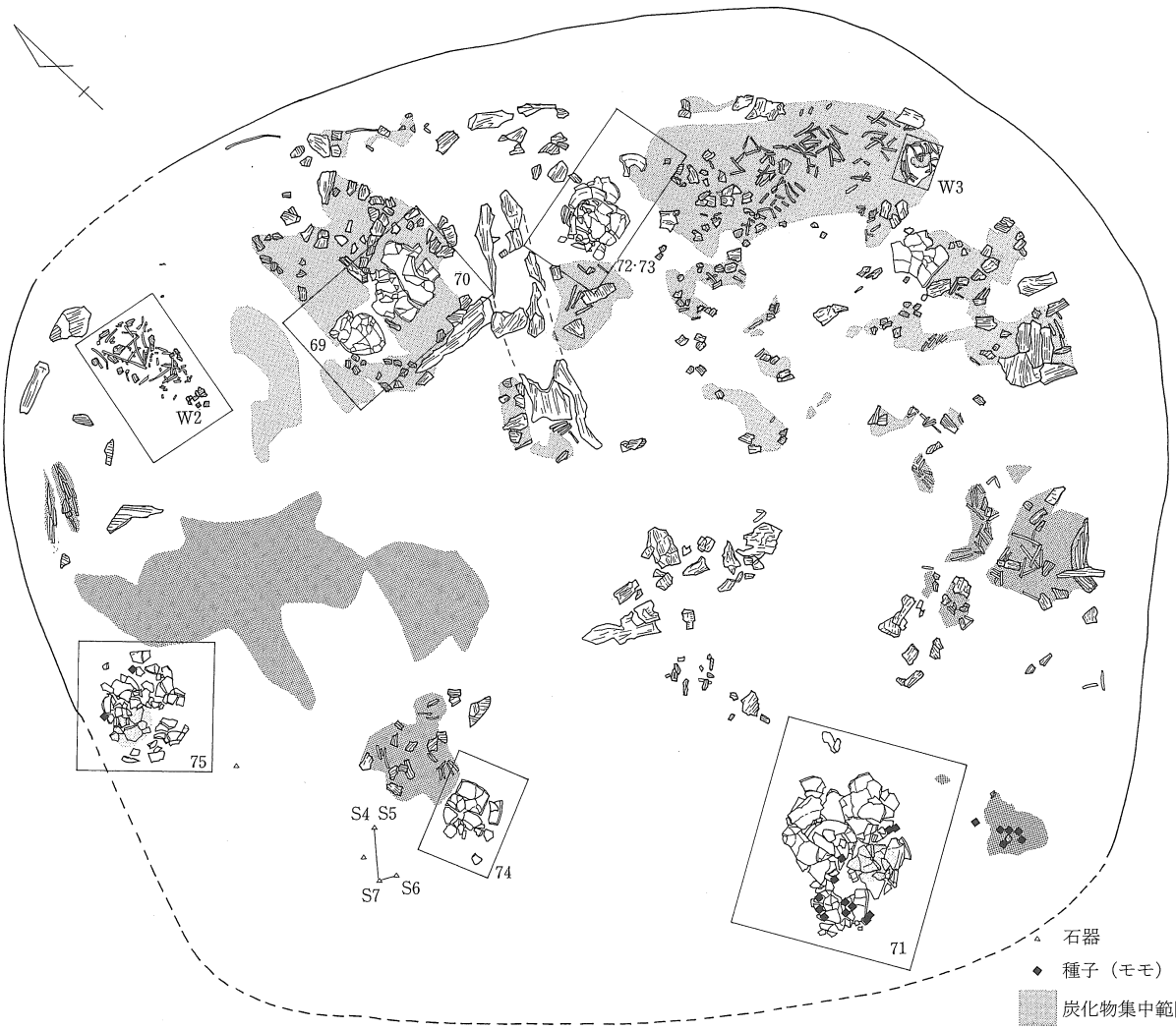
木質の炭化材は中央ピット周辺に集中する。中央ピットの直上で検出した数本の炭化材は丸太材であり、その繊維方向は中央ピットを中心として放射状を呈する（図版13-1）。また中央ピットから北東にのびる床溝直上に板状炭化材が確認でき、方向、幅は溝とほぼ一致する。溝上にあった板が落ち込んだ状況を示している（図版13-3）。

Ｗ２は住居北東部で検出された網代状の炭化材である（図版13-2）。二つの編み方が想定でき、２本または１本の草本を単位として駕籠などを編む時に用いられる「六目編み」の手法か、目の粗い「四ツ目編み」で格子の対角線に補強材として草本類を通す手法で編まれたと考えられる。また明瞭に網代状とならないまでも類似した様相の炭化材が、住居縁辺部を巡る。検出状況から住居の床面を覆っていたもの、あるいは住居の壁材であった可能性もあろう。前者の場合は敷物として機能していた可能性があり、後者では壁材に用いられたものが崩落し、床面に貼り付いたものをネガティヴに検出したことになる（註3）。Ｗ３は床面東側の炭化材集中部直上から検出された（図版13-4・5）。用途は不明であるが、数本の草本類を束ね、輪のようにしたものである。取り上げ後の清掃中にクスノキの種子が２点出土している（註4）。

周壁溝の上部では断片的ではあるが、周壁溝に並行する木質、草本質の炭化材を検出した。草本質のものは屋根のカヤ材、木質のものは木舞に相当する可能性がある。

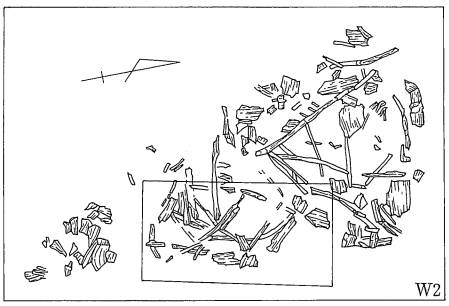
６）遺物出土状況および出土遺物（図28・29、図版13・16・17）

完形に復元可能な土器、石器が出土した。土器の多くは焼土検出時に確認できたが、検出した土器片の直下はほぼ床面直上に位置することから床面直上出土遺物として取り扱った。遺物の中でも土器は住居の縁辺部に間隔をあけ散在する様相を示す。土器、石器の出土位置は住居が機能していた時の様相をよく残しているものと思われる。個体によって出土状況が異なり、69は本来の形をとどめたまま北方向に横転し、その東側で出土した70は、東方向に横転している。70と類似した出土状況は71・74・75にも認められ、74は倒れた方向は不明だが、71は南に、75は北西に横転した状態を示す。72・73は先述の土器とは異なり、上方からつぶされた状態で出土した。また74の東側で、砂岩製（註5）の剥片（Ｓ４・Ｓ５）、石核（Ｓ６・Ｓ７）が出土しており、それらは接合する。石器および74の出土位置は住居の入り口付近と想定され、入り口付近で石器製作作業が行われた可能性もあろう。

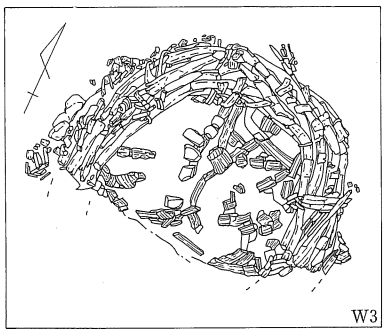


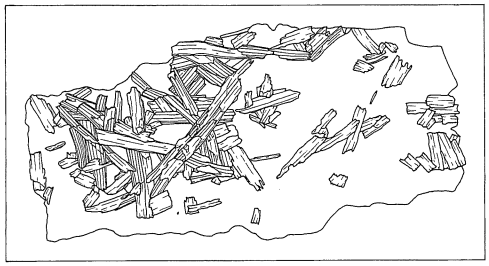

下部炭化材・遺物出土状況（床面直上）

0　1:30　1m




0　1:10　0.3m



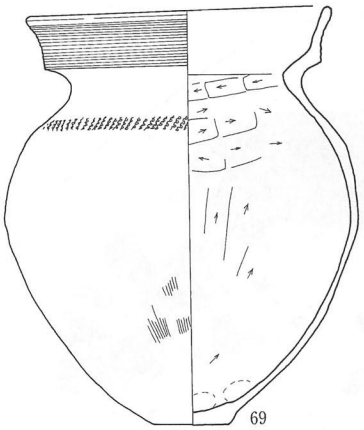



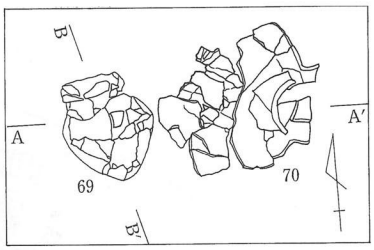
Ｗ２拡大部分

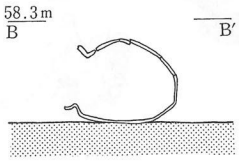
Ｗ２拡大部分、Ｗ３：Ｓ＝１／４

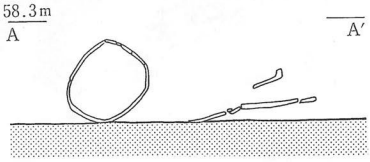
0　1:4　10cm

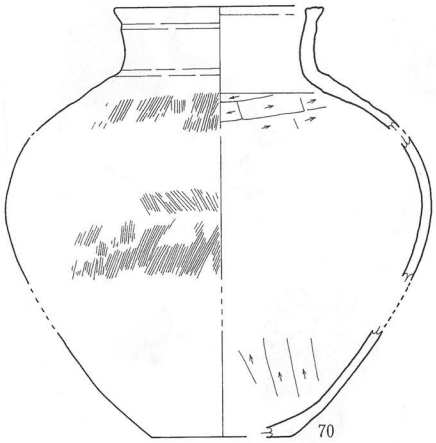
図 27　竪穴住居跡７検出状況（２）および出土遺物（２）



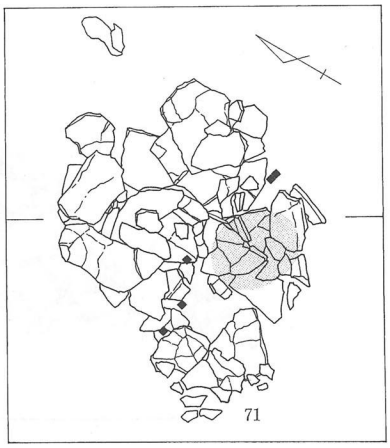



土器（71）周辺炭化種子（モモ）出土状況



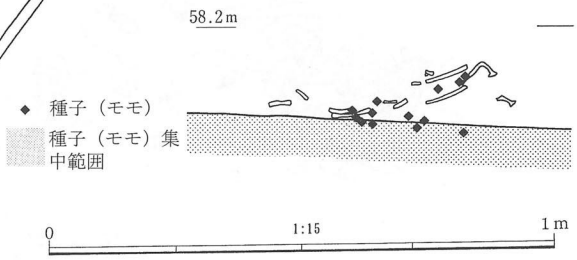




図 28　竪穴住居跡７土器出土状況および遺物（３）

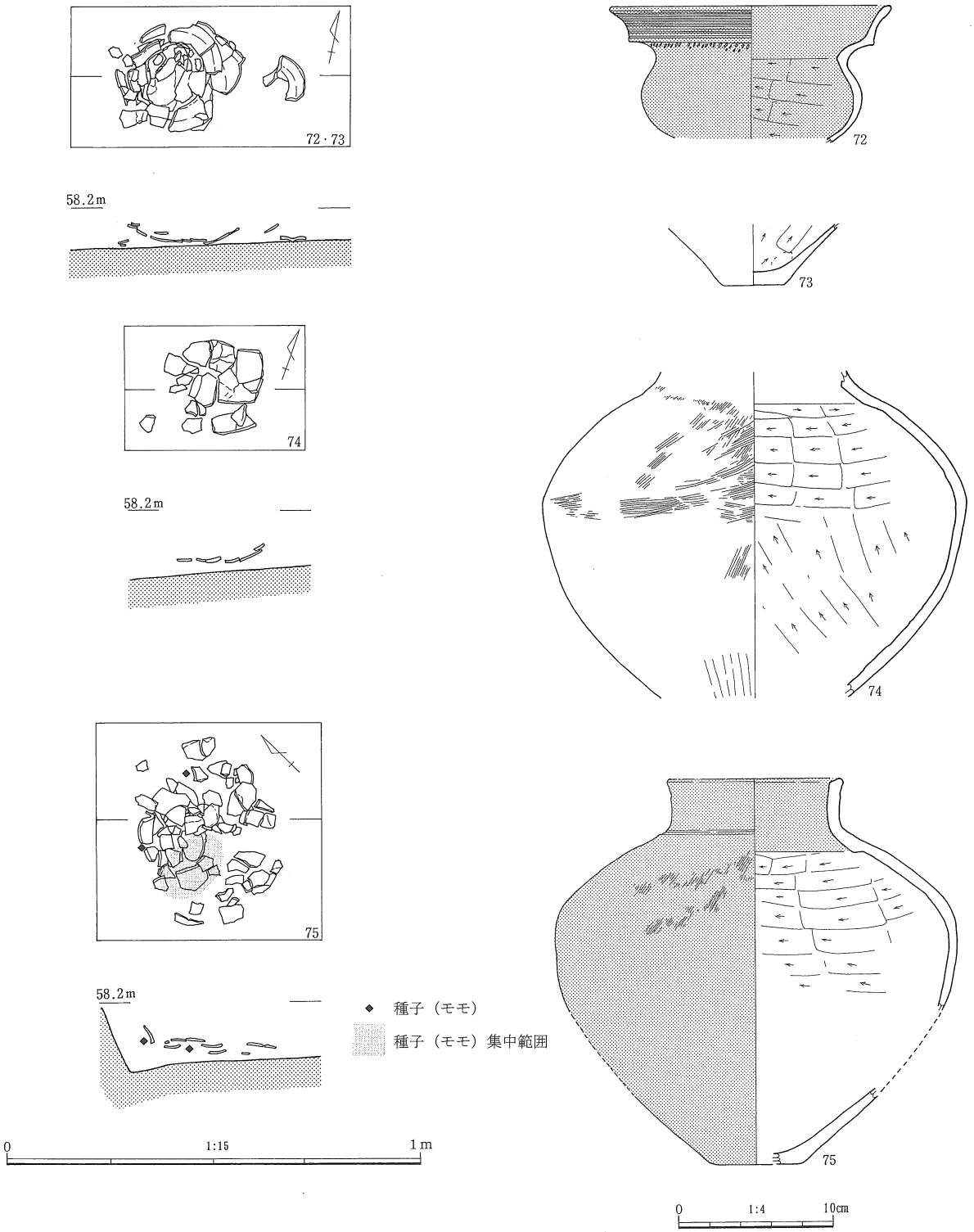



図 29　竪穴住居跡７土器出土状況および遺物（４）

表１　竪穴住居跡７出土種子一覧表（図版 15 － 2）

△は残存部分の計測値　○は種肉を含めた計測値　◎は果肉が残存したもの

| No. | 種別 | 周辺出土土器 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 | No. | 種別 | 周辺出土土器 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 | No. | 種別 | 周辺出土土器 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | モモ | 75 | 1.67 | △1.53 | 1.28 | △1.4 | | 8 | モモ | 71 | 1.94 | 1.70 | 1.52 | 1.9 | | 15 | モモ | 71 | 2.16 | △1.64 | 1.38 | △1.6 | |
| 2 | モモ | 71 | 1.86 | 1.56 | 1.16 | 1.2 | | 9 | モモ | 71 | 2.02 | 1.78 | 1.37 | 1.6 | | 16 | モモ | 75 | △1.97 | 1.62 | 1.50 | △1.2 | |
| 3 | モモ | 71 | 1.86 | 1.61 | 1.35 | 1.4 | | 10 | モモ | 71 | 2.14 | 1.77 | 1.46 | △1.9 | | 17 | モモ | 75 | 1.83 | 1.56 | 1.32 | ○1.3 | ◎ |
| 4 | モモ | 71 | △1.72 | 1.56 | 1.29 | △1.4 | | 11 | モモ | 71 | 2.00 | 1.75 | 1.47 | 2.0 | | 18 | モモ | 75 | 1.59 | ○1.91 | ○1.31 | ○1.6 | ◎ |
| 5 | モモ | 71 | 1.79 | 1.48 | 1.16 | 1.0 | | 12 | モモ | 71 | 2.11 | 1.82 | 1.43 | 1.7 | | 19 | モモ | 75 | ○1.52 | ○2.00 | ○1.75 | ○1.8 | ◎ |
| 6 | モモ | 75 | 1.83 | 1.56 | 1.27 | 1.5 | | 13 | モモ | 71 | 2.01 | 1.76 | 1.34 | 1.9 | | 20 | モモ | 71 | 1.86 | 1.75 | 1.46 | ○2.0 | ◎ |
| 7 | モモ | 71 | 2.05 | 1.82 | 1.48 | 2.0 | | 14 | モモ | 71 | 2.08 | 1.62 | 1.16 | 1.3 | | 21 | モモ | 71 | 2.18 | △1.57 | 1.34 | △1.0 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 22 | クスノキ | | 0.55 | 0.65 | 0.61 | 0.5 | |

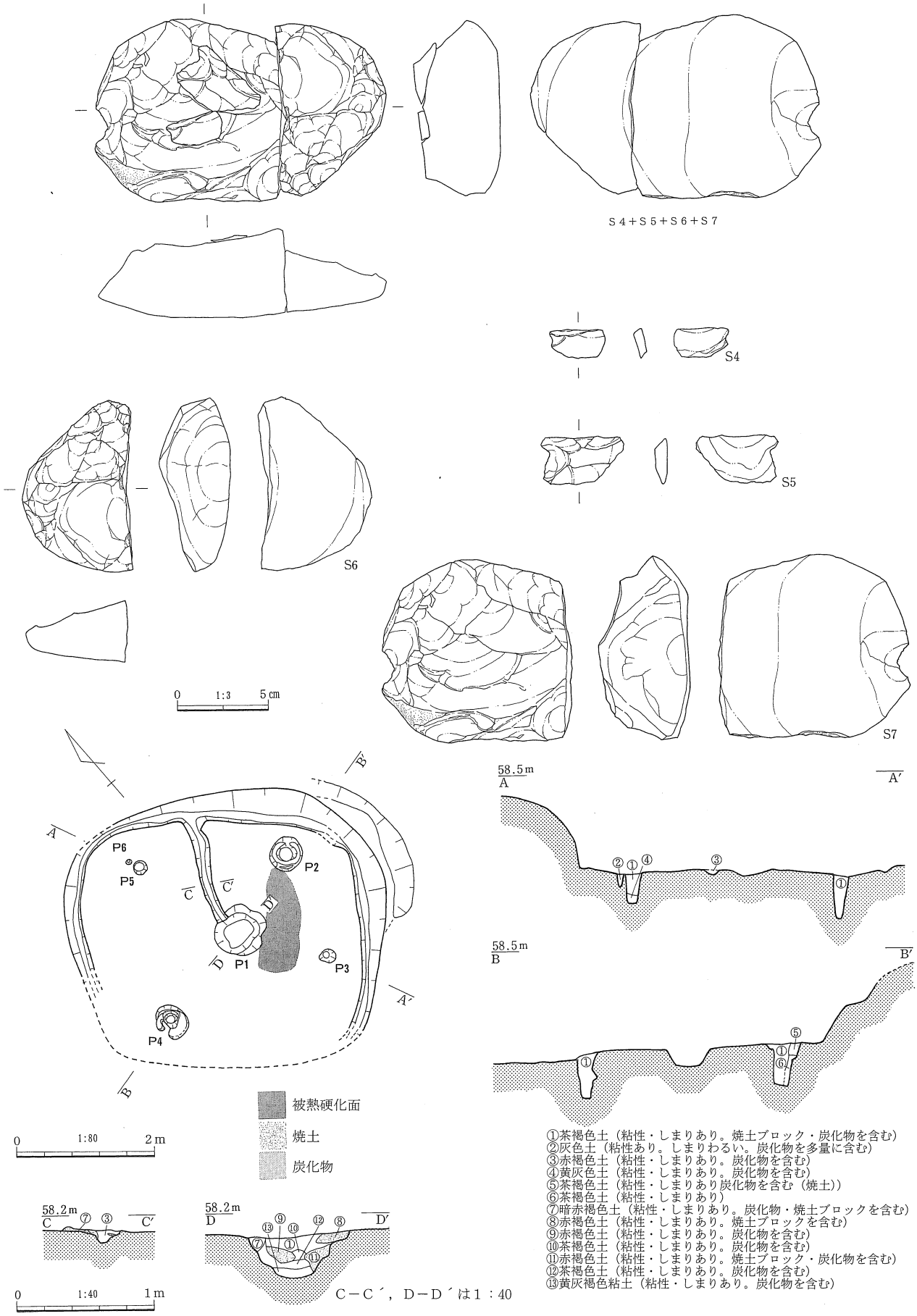



図 30　竪穴住居跡７出土遺物（５）および完掘

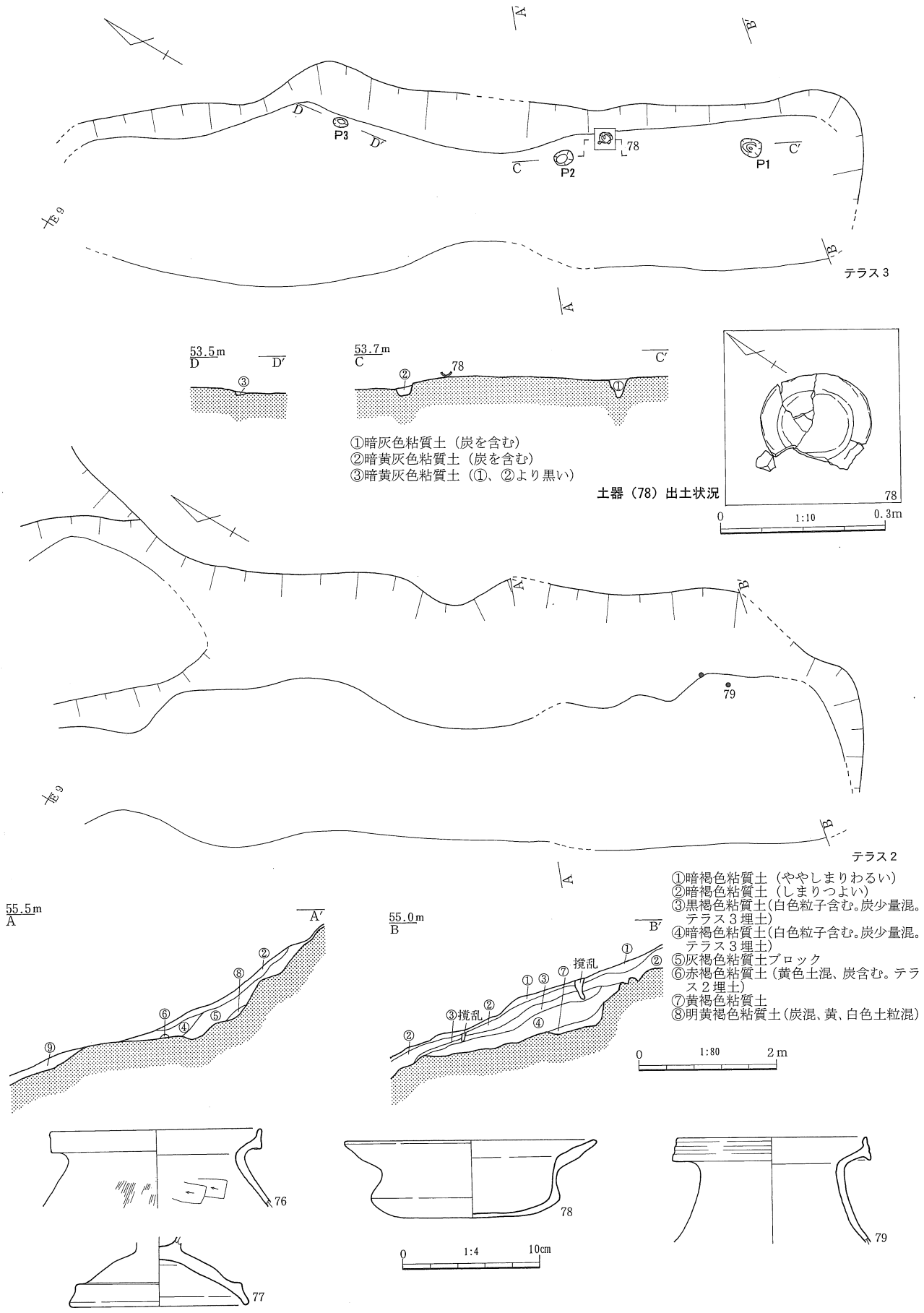



図 31　テラス２・３および出土遺物

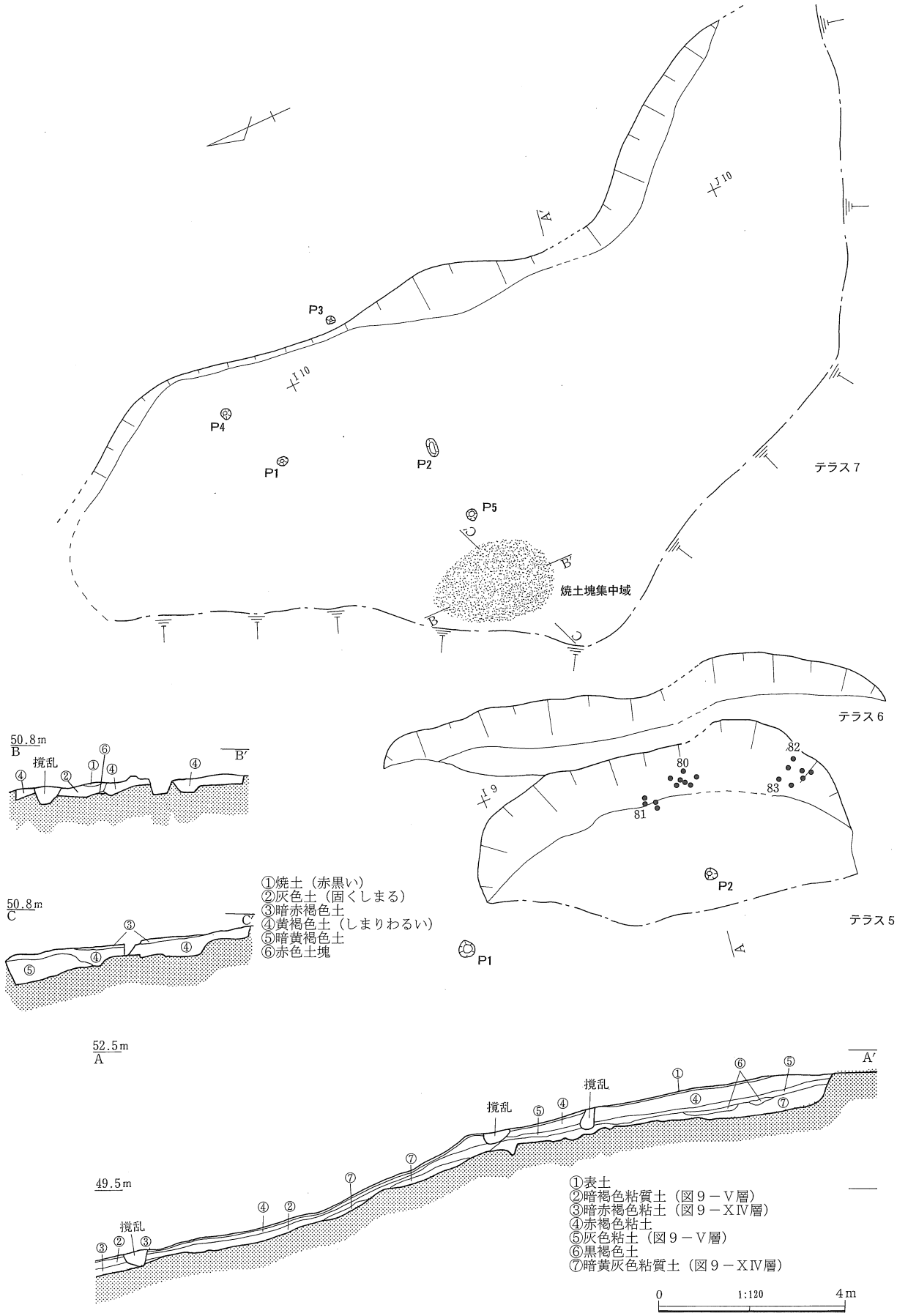

P3
P4
P1
P2
P5
焼土塊集中域
テラス７
テラス６
テラス５
80
81
82
83
50.8m
B
B′
撹乱
50.8m
C
C′
①焼土（赤黒い）
②灰色土（固くしまる）
③暗赤褐色土
④黄褐色土（しまりわるい）
⑤暗黄褐色土
⑥赤色土塊
52.5m
A
A′
49.5m
撹乱
①表土
②暗褐色粘質土（図９－Ⅴ層）
③暗赤褐色粘土（図９－ⅩⅣ層）
④赤褐色粘土
⑤灰色粘土（図９－Ⅴ層）
⑥黒褐色土
⑦暗黄灰色粘質土（図９－ⅩⅣ層）
0
1:120
4m

図 32　テラス５～７

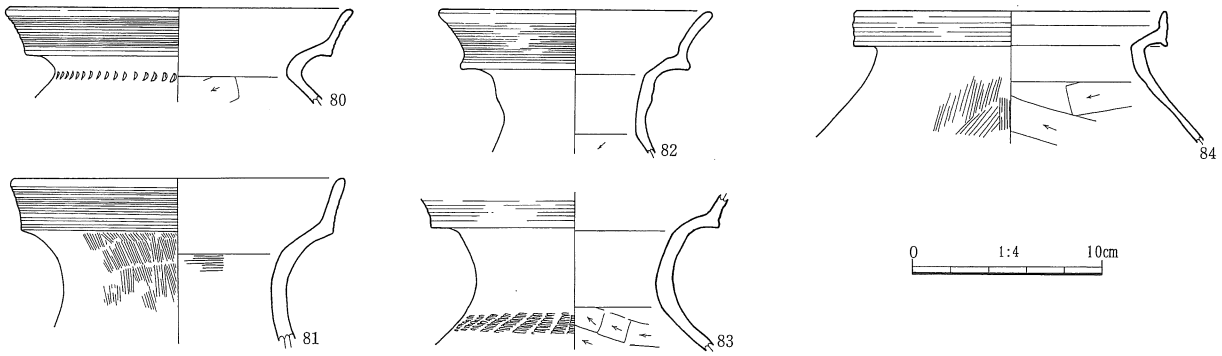



図 33　テラス５・７出土遺物

71、75 の土器片の直下あるいは土器片付近の土中から約 41 個体のモモの種子が出土した（図版 15-2）。破片を含め、71 では約 24 点、75 では約 17 点が出土している。モモの種子は出土状況より、本来それぞれの土器内に入っていたものと考えて大過あるまい。また 71 より出土した１点、75 より出土した３点の種子は果肉が残存している（図版 15-2 最下段）。

焼土層は検出状況より、住居の上屋構造の一部を構成している可能性がある。被熱粘土塊は本来屋根などの上屋構造の一部になっていたものと思われ、火元に近い部分が焼け落ちたものであろう。本住居跡より出土した炭化材は検出段階より上部、下部として報告を行ったが、上部炭化材をもって住居の上部構造に関わる炭化材と限定できず、下部炭化材の中にも住居の上部構造と想定される部材も検出されており、一様ではない。出土遺物については当時の住居内の様相がそのまま遺存した状況を示していると考えられる（第 10 章特論２）。　（大川）

**テラス２・３**　（図 31、図版 18-1、20-1）

20 号墳南西墳端部の下にあり、竪穴住居跡６の北東部に位置する。最初につくられたものをテラス２、後のものをテラス３とする。まずテラス２は斜面を緩やかにカットし広めの平坦面をつくりだしている。平坦面にはピットなどは確認できず、土器片がわずかにあったのみである。図示し得たのは壺（79）である。テラス２の埋土は東側壁面近くに⑤～⑧層が残っており、それを削るようにしてテラス３はつくられている。検出したピットはわずかに３基で、2.8 ～ 3.2 ｍの間隔をもって掘られている。Ｐ２の南東側で完形の鉢（78）が出土した。口縁が大きく直線的に外反し、胴部は非常に扁平、底部は平底で底径は大きい。　（中森）

**テラス５～７ 、焼土塊集中域**（図 32・33、図版 18-2・19-2・20）

尾根２区東上方に位置する段状のテラス群である。下段のテラス５は幅が約 8.0 ｍ、奥行は 3.2 ｍほどを測る。斜面のカットは緩やかで、傾斜する壁面に遺物が密に出土した。その中に後述する焼土塊が含まれることから、これらはテラス７から落ち込んできた可能性がある。テラス６はほぼ斜面のカットした部分のみで、平坦面はほとんどみられなかった。独立したものというよりは、テラス５の後背テラスといった様相を呈する。

テラス７は南北 20.0 ｍ、東西９ｍほどを測る、ややＬ字状の広い平坦面をもつ。ピットは５基しか検出できず、構造物が立っていた可能性は低い。また平坦面西側に、拳大ほどの焼土塊が集中する部分があった。その掘り方は不明瞭であったが、2.7 ｍ× 1.7 ｍほどの範囲に拡がっていた。竪穴住居跡７で検出したような被熱粘土塊とは異なり、やや軟質なものである（図版 20-3）。なおこれについて胎土分析を行ない、被熱粘土塊や弥生土器などとは異なるという結果が出ている（第 10 章特論６参照）。

遺物は 80 ～ 83 がテラス５から、84 はテラス７から出土した。　（中森）

**テラス４、土坑７**　（図 34、図版 19-1・20-4）

テラス５の北西約６ｍのところに位置する。幅約６ｍを検出したが南西部分は直線的であり、さらに南西へ続いていた可能性が考えられる。 テラスがやや屈曲する部分には長径 1.2 ｍ、短径 0.9 ｍほどの土坑７がある。テラス平坦面からの深さは約 0.1 ｍと浅い。この土坑を中心に④層中から遺物がまとまって出土した。85 ～ 90 は甕、91 は高坏である。ほかに石斧（Ｓ８）、磨石（Ｓ９）が出土した。　（中森）

**土坑８**　（図 35、図版 19-3）

谷１区上方、Ｈ８・９グリッドに位置する長径 4.6 m、短径 4.3 mほどの大型土坑である。明瞭な掘り込みはなく、窪んだような状態であった。斜面地につくられているため深さを計測しにくいが、もっとも深い位置で 0.6 mほどを測る。埋土中から高坏脚部片（92）が出土している。（中森）

**土坑９**　（図 36）

谷１区、被熱硬化面群の約５m東で検出した。長径 0.85 m、短径 0.55 mほどの隅丸長方形を呈する土坑である。深さは約 0.25 mで、②層は椀状に堆積している。遺物は出土していない。（中森）

**ＸＩ層出土遺物**　（図 37、図版 21）

谷１区に堆積するＸＩ層から出土した遺物群である。93 ～ 99 はⅣ様式に位置付けられ、下層のＸＶ層相当のものである。101 ～ 105・116 は甕、107 は高坏、108 は坏か。109・110 は壺である。115 は壺ないし甕の把手。Ｆ５・Ｆ６は不明の鉄器である。Ｓ 10 は緑色片岩製の石包丁。（中森）

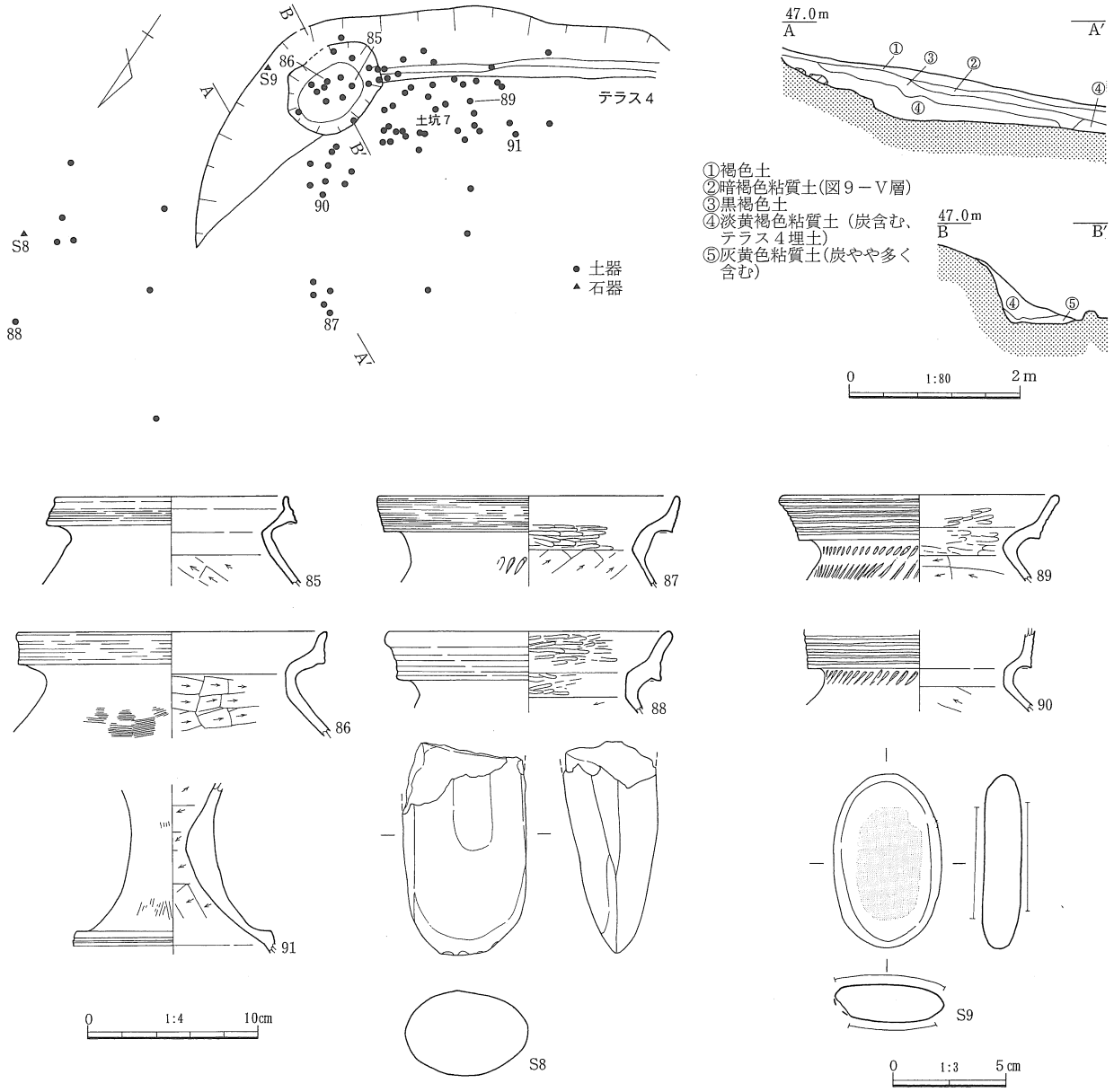



図 34　テラス４および出土遺物

**その他の層出土遺物**　（図 37）

ＸＩ層以外では尾根２区ＸⅡ層などから、わずかに当該期の遺物が出土している。117 は壺で口縁部にボタン状のものを貼り付ける。118 も壺。口縁外面はタテ方向のハケメか。119 は高坏脚部で、竪穴住居跡７南側斜面から出土した。（中森）

**尾根１区先端部の竪穴住居跡群**

尾根１区先端部において、近接した竪穴住居跡３棟を検出した。また竪穴住居跡 10 の下段にはテラス８があり、これが竪穴住居跡８の掘り込み面と同一面になる。竪穴住居跡９は古市 14 号墳周溝に切られ、さらに中世後期の削平を受ける。竪穴住居跡８および 10 からはまとまって土器が出土し、それらからⅥ－１様式に位置付けられよう。（中森）

**竪穴住居跡８**　（図 38・39、図版 22-1・24）

尾根１区の先端部に位置する。西側は削平されているが、径 6.0 ｍを測る隅丸方形を呈すると考えられる。深さは東側で約 0.4 ｍを測る。床面に貼床はなかったが、被熱硬化面を４ヶ所確認した。またそのうちの３ヶ所に囲まれるように完形に近い甕（120）があった。土器（121 ～ 125）のほか磨石（Ｓ 11）、砥石（Ｓ 12）も出土している。（中森）

**竪穴住居跡９**　（図 39、図版 22-3・24）

中世後期のＩ層除去後検出した。14 号墳周溝に切られ、さらに中世後期段階の削平を受ける。残存している径は約 5.0 ｍで隅丸方形を呈する。床面に被熱硬化面および中央ピット（Ｐ１）南側に炭化材の拡がりを検出した。遺物は少なく、甕（126 ～ 130）、器台（131）があった。（中森）

**竪穴住居跡 10**　（図 40・41、図版 22-2・24・25）

西側半分を大きく中世後期段階で削平されているが、径 3.8 ｍほどの隅丸方形であったと考えられる。深さは約 0.5 ｍで遺物が多量に出土した。これらはやや浮いた状態で検出したものが多く、またＰ１埋土上層にも分布することから、住居放棄後柱がない段階で堆積した土器であることは明らかである。土器は破片が多く、大きな個体に復元しうるものはなかった。156 は不明土製品であるが、数ヵ所を穿孔する。Ｓ 13 は砥石で端部に赤色顔料がつく。（中森）

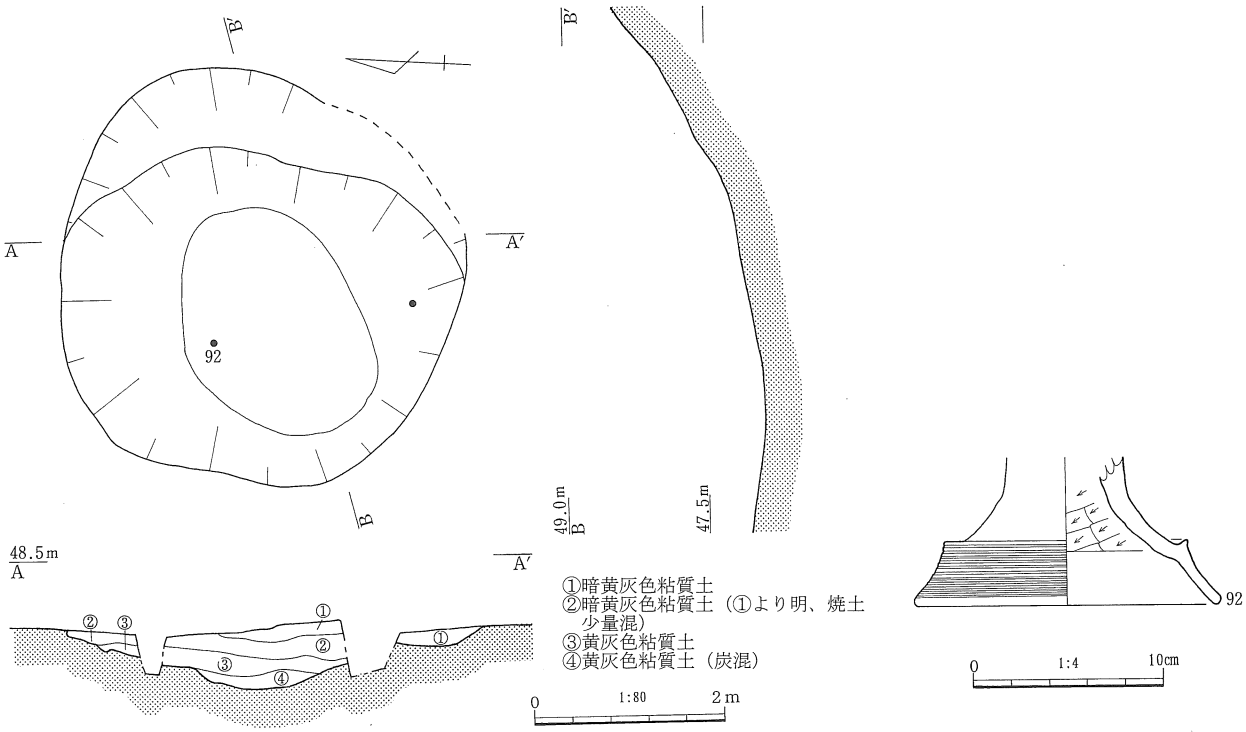



図 35　土坑８および出土遺物

**テラス８**　（図 40・41、図版 24-1）

竪穴住居跡 10 の西側一段下にあり、層位的にそれよりも古い段階のものである。南北の長さは 9.6 m にわたって斜面をカットしている。遺物は少なく甕（157 ～ 159）が出土した。　（中森）

（註）

1．被熱の影響が著しく、硬化した焼土塊を「被熱粘土塊」と呼称する。

2．註１に同じ。

3．大阪府亀川遺跡では亀甲（カゴメ）状の編物と想定される炭化物が検出されており、土壁の内装材と考えられている（(財）大阪府文化財調査研究センター　2000『亀川遺跡の発掘調査』(財）大阪府文化財調査研究センター)。竪穴住居跡７より出土した網代状の炭化材（Ｗ２）と類似する。

4．遺構内から出土した種実は名古屋大学文学部渡辺　誠教授に同定していただいた。

5．遠藤勝壽先生に砂岩と鑑定していただいたが、風化または被熱による影響が著しく外見上安山岩の可能性もあると考えている。

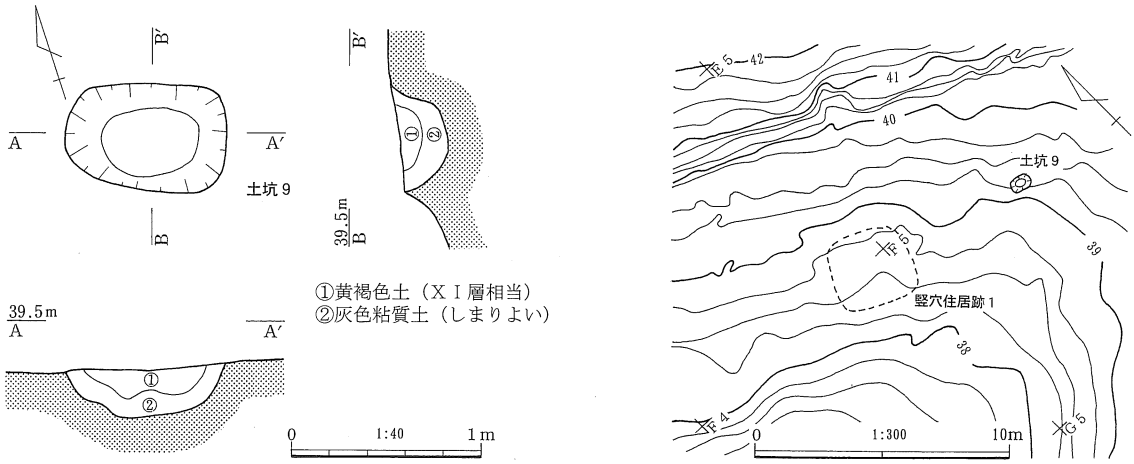



図 36　土坑９

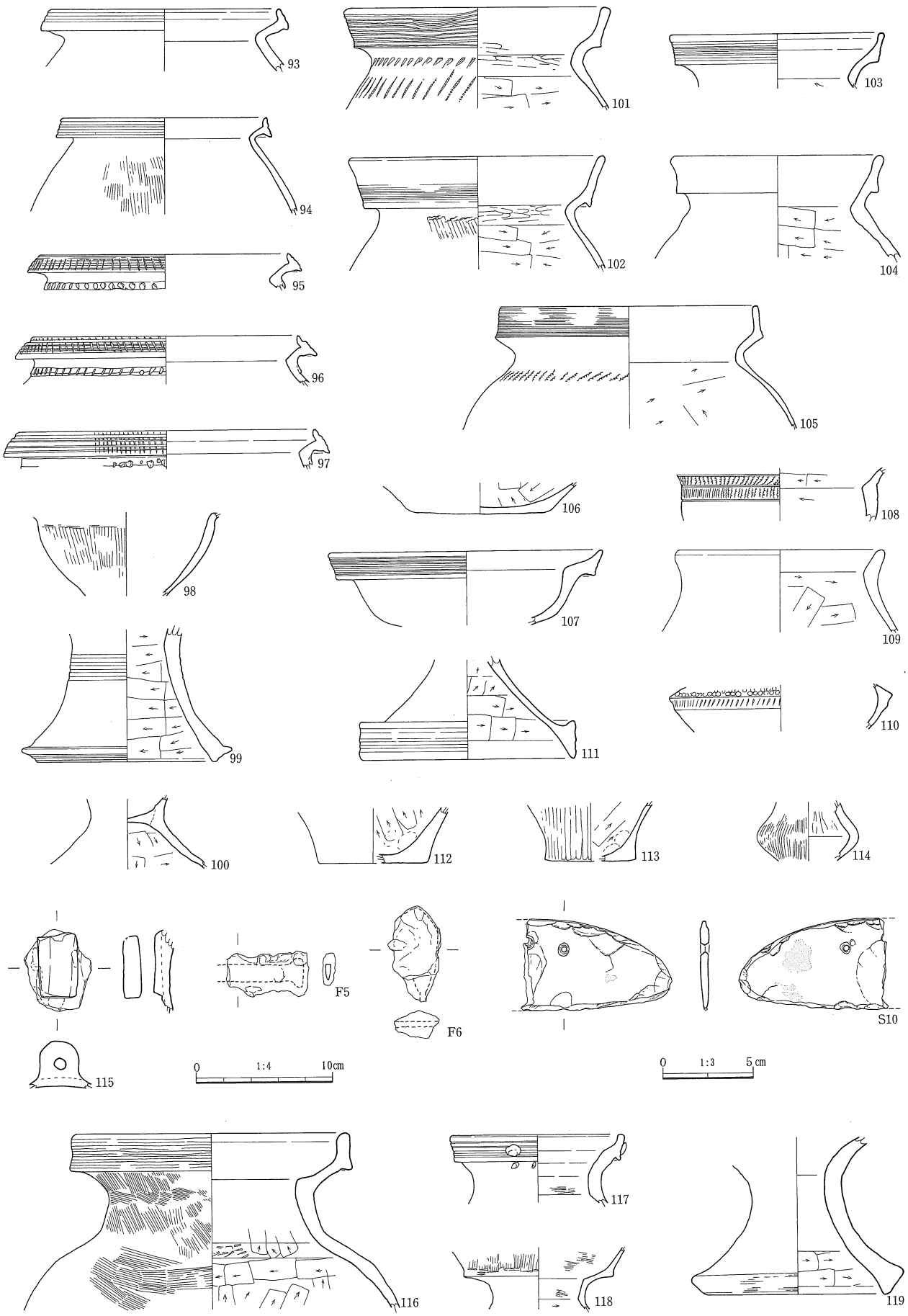



図 37　ＸＩ層およびその他の層出土遺物

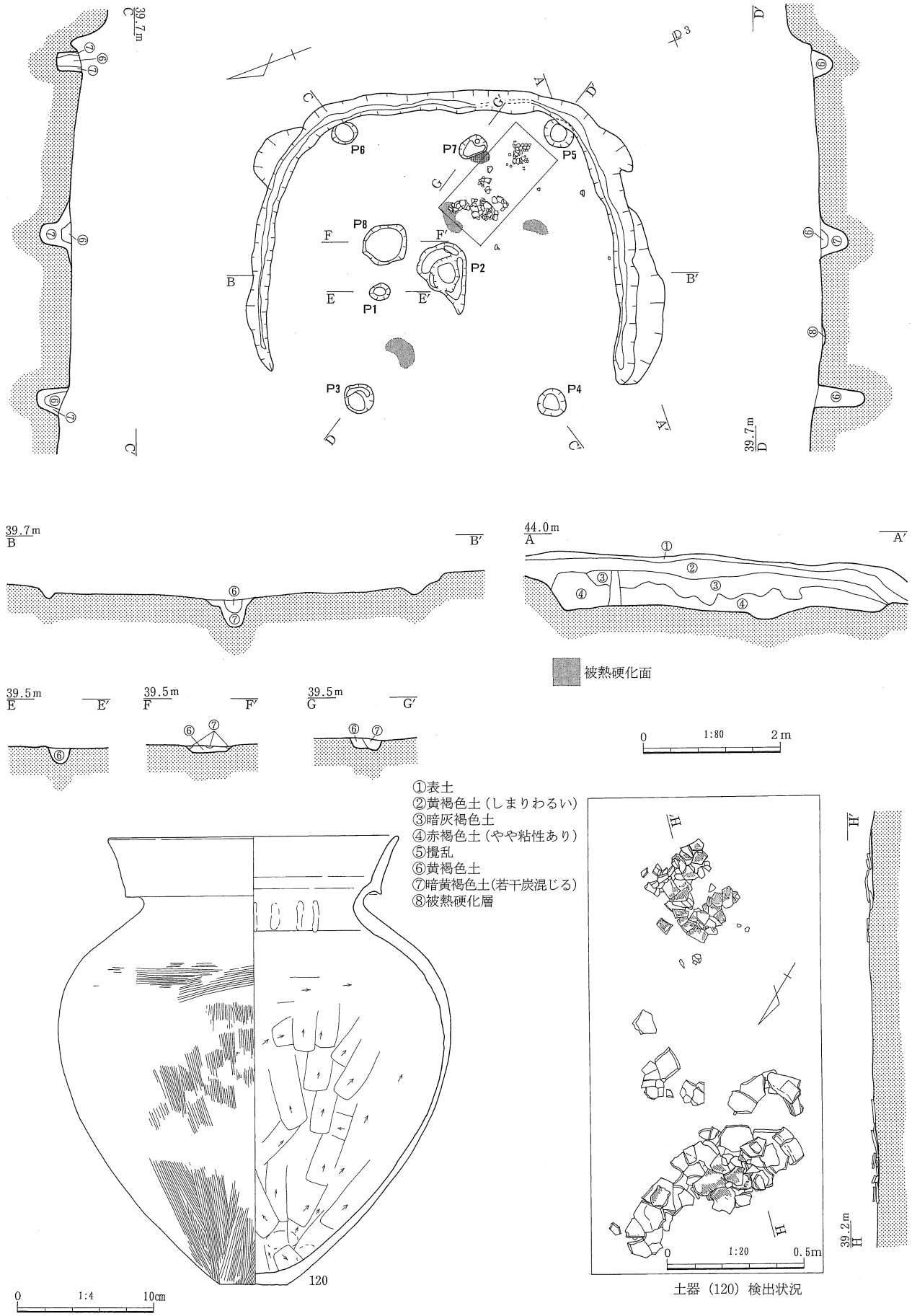
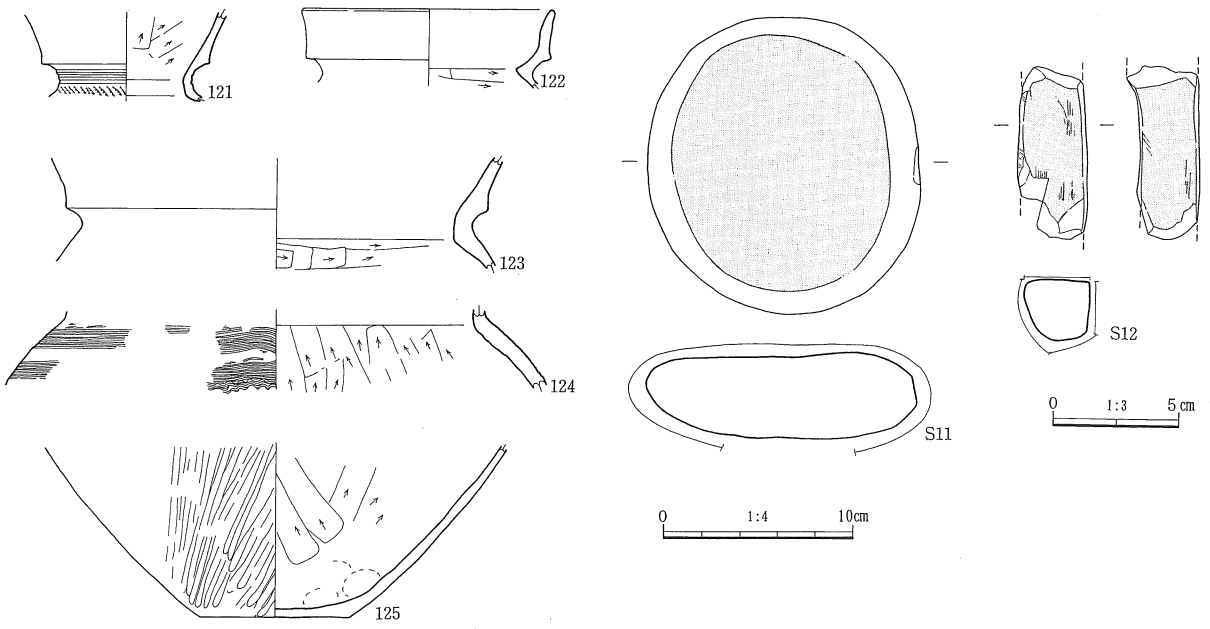



図 38　竪穴住居跡８および出土遺物（１）




竪穴住居跡８出土遺物（２）

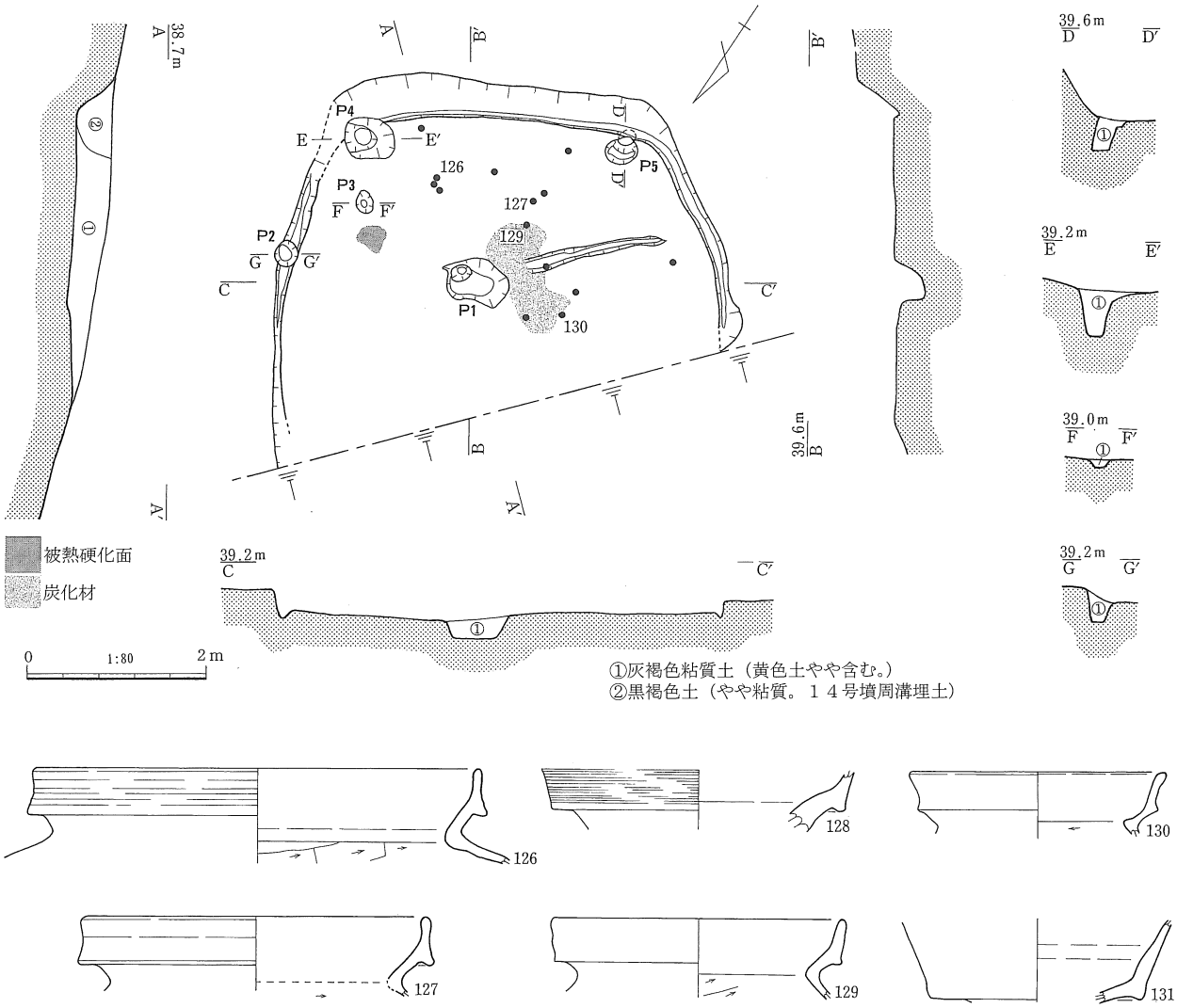



図 39　竪穴住居跡９および出土遺物

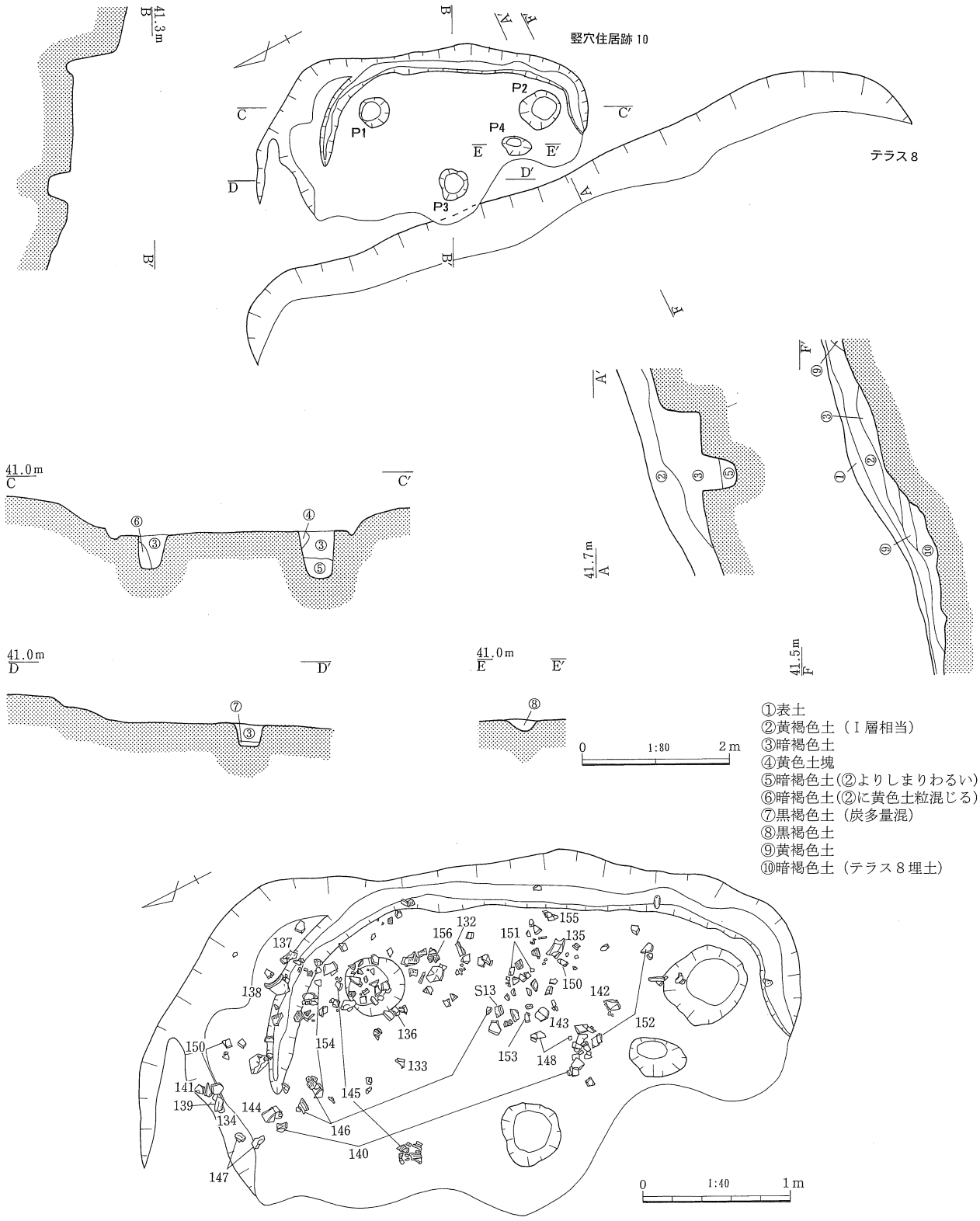

竪穴住居跡 10
テラス８
P1
P2
P3
P4
41.3m
41.0m
41.7m
41.5m
①表土
②黄褐色土（Ⅰ層相当）
③暗褐色土
④黄色土塊
⑤暗褐色土(②よりしまりわるい)
⑥暗褐色土(②に黄色土粒混じる)
⑦黒褐色土（炭多量混）
⑧黒褐色土
⑨黄褐色土
⑩暗褐色土（テラス８埋土）
0 1:80 2m
0 1:40 1m

図 40　竪穴住居跡 10

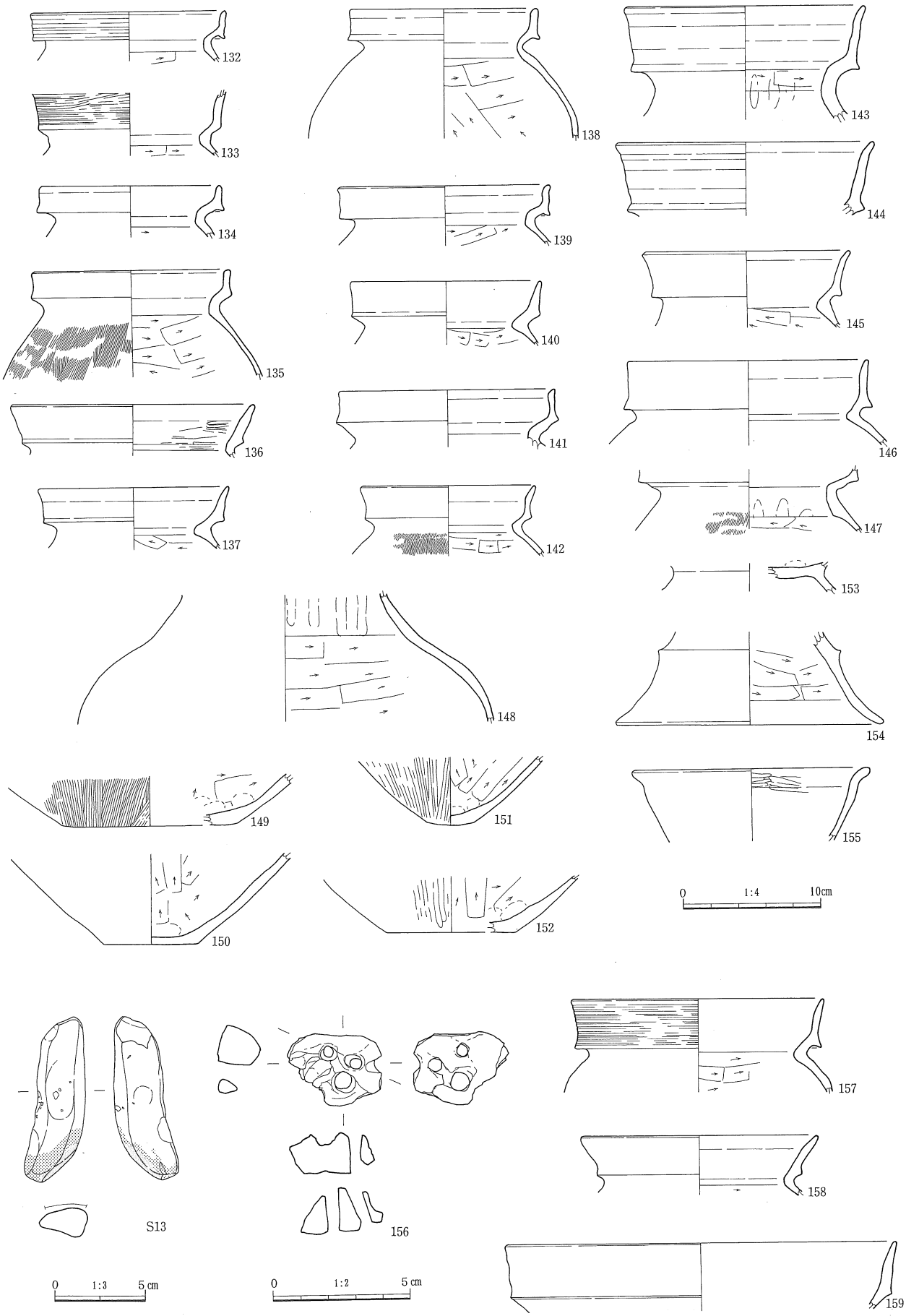



図 41　竪穴住居跡 10 出土遺物

## 表２　弥生時代ピット一覧

| No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 206 | E6 | 26 | － | 22 | ⅩⅠ | |
| 207 | E5 | 35 | 31 | 56 | ⅩⅠ | |
| 237 | F4 | 34 | － | 9 | ⅩⅠ | |
| 238 | G4 | 40 | 27 | 20 | ⅩⅠ | 炭混、石 |
| 239 | F3 | 37 | 30 | 13 | ⅩⅠ | |
| 240 | F3 | 22 | 24 | 23 | ⅩⅠ | |
| 241 | F3 | 21 | 19 | 10 | ⅩⅠ | |
| 242 | F3 | 22 | 20 | 31 | ⅩⅠ | |
| 243 | G5 | 36 | 30 | 29 | ⅩⅠ | 炭混 |
| 244 | G5 | 25 | 22 | 18 | ⅩⅠ | |
| 263 | F5 | 19 | 16 | 4 | ⅩⅠ | 焼土少混 |
| 264 | E3 | 37 | 35 | 13 | ⅩⅠ | しまりない |
| 265 | E3 | 29 | 19 | 27 | ⅩⅠ | 黄褐色土混 |
| 267 | F3 | 30 | 27 | 14 | ⅩⅠ | |
| 284 | F4 | 36 | 35 | 33 | ⅩⅠ | 暗褐色土とⅩⅠ相当土 |
| 285 | F4 | 27 | 25 | 31 | ⅩⅠ | 暗褐色土　炭、焼土少混 |
| 286 | E6 | 45 | 43 | 10 | ⅩⅠ | |
| 291 | E5 | 48 | 40 | 18 | ⅩⅠ | |
| 292 | | | | | | 欠番 |
| 293 | F5 | 59 | 53 | 29 | ⅩⅠ | しまりよい。黄褐色土混 |
| 294 | F6 | 24 | 19 | 13 | Ⅳ | |
| 295 | H9 | 33 | 25 | 19 | ⅩⅡ | |
| 296 | H9 | 26 | 23 | 24 | ⅩⅡ | |
| 297 | H9 | 36 | 36 | 11 | ⅩⅡ | |
| 298 | H9 | 40 | 24 | 25 | ⅩⅡ | |
| 299 | F5 | 45 | 45 | 3 | ⅩⅠ | 黒褐色土少混<br>被熱遺構群下 |
| 307 | H9 | 62 | 45 | 20 | ⅩⅡ | |
| 309 | F5 | 44 | 40 | 22 | ⅩⅠ | 炭混　被熱遺構群下 |
| 310 | I10 | 22 | 20 | 18 | ⅩⅣ | 焼土集中域中央トレンチ中 |
| テラス5 P1 | | 35 | 33 | 19 | ⅩⅣ | |
| テラス5 P2 | | 26 | 25 | 10 | 灰褐色土 | 外縁部は黒褐色土 |
| テラス7 P1 | | 27 | 25 | 15 | ⅩⅣ | |
| テラス7 P2 | | 25 | 25 | 22 | ⅩⅣ | |
| テラス7 P3 | | 20 | 20 | 19 | ⅩⅣ | |
| テラス7 P4 | | 45 | 24 | 9 | ⅩⅣ | |
| テラス7 P5 | | 28 | 25 | 30 | ⅩⅣ | |
| テラス1 P | | 37 | 33 | 50 | ⅩⅣ | |
| テラス1 P | | 36 | 32 | 21 | ⅩⅣ | |
| テラス1 P | | 29 | 27 | 10 | ⅩⅣ | |
| テラス1 P | | 45 | 37 | 27 | ⅩⅣ | |
| テラス1 P | | 28 | 21 | 19 | ⅩⅣ | |
| テラス2 P1 | | 34 | 25 | 28 | ⅩⅣ | 炭含む |
| テラス2 P2 | | 28 | 23 | 24 | ⅩⅣ | |
| テラス2 P3 | | 20 | 14 | 8 | ⅩⅣ | |

## 表３　第４章　遺物観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 13 | 竪穴住居跡1 | 弥生土器 | 壺 | *42.2 | 42.0 | 長胴で頸部があまりすぼまらないもの。口縁端部は3条の凹線後刻み。頸部凹線下には波状文帯、鋸歯文帯。口縁ナデ、以下外面ハケ、内面ケズリ。底部はヘラミガキ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料110 |
| 2 | 15 | 土坑6 | 弥生土器 | 甕 | *17.4 | △7.7 | 全体に磨滅。口縁ナデ、胴部タテハケ、内面は不明。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 3 | 15 | 土坑6 | 弥生土器 | 甕 | *21.6 | △4.9 | 口縁端部刻み、その下に口縁ナデ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 4 | 15 | 土坑6 | 弥生土器 | 壺 | — | △12.5 | 頸部4条凹線、内外面ハケメ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 5 | 16 | テラス1②層 | 弥生土器 | 甕 | *12.4 | △9.8 | 口縁ナデ、胴部ハケメ。二次焼成による赤変。黒斑あり。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料93 |
| 6 | 16 | テラス1②層 | 弥生土器 | 甕 | *11.6 | △9.9 | 口縁ナデ、内面ハケメ後上位ナデ、外面ハケメ。外面に黒斑。胴部中位は二次焼成による赤変、劣化。スス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料89 |
| 7 | 16 | テラス1②層 | 弥生土器 | 甕 | *13.8 | △7.5 | 口縁ナデ、頸部下ハケメ。 | やや粗<br>やや軟 | 暗黄褐色 | |
| 8 | 16 | テラス1②層 | 弥生土器 | 甕 | *17.6 | △5.8 | 口縁内面ナデ、外面ハケメ。口縁下端黒斑。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料92 |
| 9 | 16 | テラス1②層 | 弥生土器 | 甕 | *16.6 | △5.4 | 口縁ナデ、胴部内外ハケメ。口縁下端部、胴部にスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料90 |
| 10 | 16 | テラス1②層 | 弥生土器 | 底部 | — | △4.8 | 外面ヘラミガキ、内面ケズリ。底面二次焼成により赤変。9と同一個体。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 11 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 底部 | — | △3.6 | 外面ナデ？内面ケズリ。凹底を呈する。底面赤変。外面にスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 12 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 甕 | *16.6 | △6.7 | 内面口頸部ミガキ、以下ケズリ。外面ナデ。口縁凹線は上半ナデ消しか。頸部下に連続刺突。外面スス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 暗褐色 | 胎土分析資料104 |
| 13 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 甕 | *12.2 | △5.9 | 口縁ナデ、内面頸部下までナデ以下ケズリ。外面頸部付近ミガキ。内外面赤彩。口縁外面に黒斑、胴部にスス。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料91 |
| 14 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 高坏 | — | △4.5 | 内面ケズリ。内外赤彩か？ | 粗<br>やや軟 | 赤褐色 | |
| 15 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 甕 | *18.4 | △8.3 | 口縁ナデ、内面頸部以下ケズリ。外面ナデ。口縁外面にスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 16 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 甕 | *16.8 | △7.1 | 口縁ナデ、頸部内面ミガキ、以下ケズリ。外面ナデ。外面にスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 17 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 甕 | *14.6 | △3.2 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。口縁外面スス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 18 | 16 | テラス1①層 | 弥生土器 | 甕 | 19.6 | △29.3 | 口縁ナデ。内面頸部ミガキ、以下ケズリ。外面ナデ。口縁凹線上部を一部ナデ消し。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料94 |
| 19 | 17 | F5 ⅩⅠ下層 | 弥生土器 | 甕 | *12.6 | △11.7 | 外面ハケメ、内面口縁～胴部中位ナデ、以下ケズリ。外面中位以下スス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 20 | 17 | F3 ⅩⅤ層 | 弥生土器 | 甕 | *15.0 | △5.2 | 口縁ナデ、外面ハケメ。全体にやや磨滅。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄灰色 | |
| 21 | 17 | F3 ⅩⅤ層 | 弥生土器 | 甕 | *22.0 | △5.4 | 全体に磨滅。口縁ナデ、内外面ハケメ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄灰色 | |
| 22 | 17 | F5 ⅩⅤ層 | 弥生土器 | 甕 | — | | 全体に磨滅。ナデか。頸部に刻目突帯が巡る。 | やや粗<br>やや軟 | 黄褐色 | |
| 23 | 17 | F6 ⅩⅤ層 | 弥生土器 | 壺 | *31.0 | △8.4 | 全体に磨滅。内外ハケメ。口縁大きく外反し、端部は垂下。 | やや粗<br>やや軟 | 黄褐色 | 胎土分析資料82 |
| 24 | 17 | F5 ⅩⅠ下層 | 弥生土器 | 壺 | *17.2 | △15.3 | 口縁ナデ、内外ハケメ。口縁部斜方向刻み後4条の凹線。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料85 |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 17 | F3 ⅩⅤ層 | 弥生土器 | 坏 | *20.6 | △5.1 | 全体に磨滅。内外ナデか。外面黒斑。 | 粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 26 | 17 | F5 ⅩⅠ下層 | 弥生土器 | 高坏 | *20.0 | 9.5 | 外面ヨコナデ後ヘラミガキ。脚部内面ケズリ。外面黒斑。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 27 | 17 | F5 ⅩⅠ下層 | 弥生土器 | 高坏 | *19.0 | △4.2 | 全体に磨滅し調整不明。口縁3条凹線。口縁端部は内側にやや突出。 | やや粗 軟 | 淡赤褐色 | |
| 28 | 17 | F3 ⅩⅤ層 | 弥生土器 | 高坏 | — | △6.7 | 外面ナデ、内面ケズリ。外面に黒斑。透かしは4方向か。 | やや粗 やや軟 | 灰色 | 胎土分析資料83 |
| 29 | 17 | F5 ⅩⅠ下層 | 弥生土器 | 高坏 | — | △16.5 | 外面ナデ、内面上部シボリ、下部ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 褐色 | 胎土分析資料84 |
| 30 | 17 | F5 ⅩⅠ下層 | 弥生土器 | 分銅形土製品 | — | △13.5 | 内外赤彩。内外ハケ後ナデ。 | やや粗 やや軟 | 暗褐色 | |
| 31 | 17 | F5 ⅩⅤ層 | 弥生土器 | 底部 | — | △5.2 | 外面ヘラミガキ、内面はケズリ。底部から外面にかけスス付着。 | やや粗 やや軟 | 暗褐色 | |
| 32 | 17 | F5 ⅩⅠ下層 | 弥生土器 | 底部 | — | △6.5 | 外面ヘラミガキ、内面はケズリ。底部外面黒斑。 | やや粗 やや軟 | 淡黄灰色 | |
| 33 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | — | △8.2 | 口縁ナデ、胴部ハケメ。口縁端部欠損。34と同一個体。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料103 |
| 34 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 底部 | — | △3.1 | 内外ナデか。やや丸底状を呈す。底面回転ナデ。黒斑が付く。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 35 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 壺 | *12.2 | △1.4 | 全体に磨滅。口縁ナデ。口縁部は外方に垂下。 | やや粗 軟 | 淡黄褐色 | |
| 36 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | *14.4 | △3.5 | 外面ナデ、内面ナデ？外面スス付着。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 37 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 坏 | *7.6 | 5.6 | 外面ナデと指オサエ。内面ケズリ。輪状高台が付き、接合部は爪型状の刻みが巡る。内面は窪む。 | やや粗 やや軟 | 淡灰色 | |
| 38 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | *14.0 | △5.1 | 口縁ナデ。内面頸部ミガキ、以下ケズリ。外面ナデ。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 39 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | *15.2 | △3.9 | 口縁ナデ。内面頸部ミガキ、以下ケズリ。口縁幅広い6条の凹線。 | やや粗 やや軟 | 橙褐色 | |
| 40 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | *10.5 | △7.3 | 口縁ナデ。外面ナデ、内面ケズリ。外面全体にスス付着。全体に磨滅。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 41 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | *16.8 | △5.1 | 口縁ナデ、内面頸部ミガキ以下ケズリ。口縁凹線の上部はナデ消され気味。外面スス付着。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 42 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | *15.0 | △4.7 | 口縁ナデ。内面頸部ミガキ、以下ケズリ。外面にスス。口縁下端部はやや赤変。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 43 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 甕 | *16.2 | △4.4 | 口縁ナデ。内面ケズリ。口縁下端部にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 44 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 底部 | — | △3.6 | 外面ハケメ、内面ケズリ。外面黒斑。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 45 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 底部 | — | △4.6 | 外面ハケメ、内面ケズリ。外面スス付着。 | やや粗 やや軟 | 暗赤褐色 | |
| 46 | 18 | 竪穴住居跡2 | 弥生土器 | 底部 | — | △4.3 | 外面ナデ、内面ケズリ。底面に黒斑。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 47 | 18 | 竪穴住居跡3 | 弥生土器 | 高坏 | — | △4.2 | 外面ナデ、内面ケズリ。脚部端面凹線をナデ消し。外面黒斑。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 48 | 19 | 竪穴住居跡3 | 弥生土器 | 甕 | *12.2 | △9.8 | 口縁ナデ。内面ケズリ。外面はヨコナデか。外面全体にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 49 | 19 | 竪穴住居跡3 | 弥生土器 | 底部 | — | △4.3 | 外面ハケメは底面まで及ぶ。内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 赤褐色 | |
| 50 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 甕 | *14.4 | △11.9 | 全体磨滅。口縁ナデ、内面ケズリ。口縁凹線ナデ消し。外面にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 51 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 甕 | *14.4 | △4.8 | 外面ナデ、内面ケズリ。口縁は凹線をナデ消し。口縁下端部にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 赤褐色 | |
| 52 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 甕 | 14.8 | *21.0 | 外面ナデ、内面ケズリ。胴部中位欠損。外面は全体的にスス付着。口縁の凹線は上半ナデ消され気味。 | やや粗 やや軟 | 暗黄褐色 | |
| 53 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 甕 | *15.2 | △4.8 | 外面ナデ、内面頸部以下ケズリか。外面にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 54 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 甕 | *17.0 | △5.2 | 外面ナデ、内面ケズリ。口縁の凹線はナデ消されず。外面黒斑。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 55 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 甕 | *17.9 | △6.3 | 全体に磨滅し調整不明。内面ケズリ。口縁凹線上半はナデ消し。 | やや粗 やや軟 | 暗褐色 | |
| 56 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 甕 | *19.2 | △4.4 | 全体磨滅し調整不明。内面ケズリ。口縁凹線、上半ナデ消し。57と同一個体。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 57 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 底部 | — | △2.1 | 全体磨滅し調整不明。外面黒斑? | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 58 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 底部 | — | △3.1 | 全体に磨滅。二次焼成により部分的に赤変。外面上部にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 59 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 土玉 | 3.9 | 4.0 | ナデ。部分的に指オサエ痕僅かに残る。 | やや粗 やや軟 | 暗灰褐色 | |
| 60 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 低脚坏 | — | △4.1 | 全体に磨滅し調整不明。内外ナデか。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 61 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 器台 | — | △10.6 | 全体に磨滅し調整不明。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 62 | 21 | 竪穴住居跡4 | 弥生土器 | 高坏 | — | △6.1 | 全体に磨滅。外面ナデ、内面ケズリか。外面に黒斑。 | やや粗 やや軟 | 暗黄褐色 | |
| 63 | 22 | 竪穴住居跡5 | 弥生土器 | 壺 | *16.8 | △8.9 | 磨滅し調整不明。頸部内面に指頭圧痕。 | 粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 69 | 28 | 竪穴住居跡6 | 弥生土器 | 甕 | 15.8 | *22.3 | 口縁ヨコナデ。胴部内面ケズリ、外面はハケメか。口縁外面の一部およびその胴部下端にスス付着。黒斑。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | 胎土分析資料96 |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 70 | 28 | 竪穴住居跡6 | 弥生土器 | 壺 | 10.6 | *22.9 | 口縁内外ナデ。胴部外面ハケメ、内面ケズリ。底部外面黒斑。全体的に磨滅、劣化。 | やや粗<br>やや軟 | 黄褐色 | 胎土分析資料95 |
| 71 | 28 | 竪穴住居跡6 | 弥生土器 | 甕 | — | △39.5 | 全体二次焼成によって劣化。口縁ナデか。胴部外面ハケ、内面ケズリ。 | やや粗<br>やや軟 | 赤褐色 | 胎土分析資料97 |
| 72 | 29 | 竪穴住居跡6 | 弥生土器 | 鉢 | 17.8 | △8.8 | 口縁内面ナデ、頸部以下ケズリ。全体的に磨滅、二次焼成受ける。底部欠損。内外赤彩。胴部外面下半スス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡赤褐色 | |
| 73 | 29 | 竪穴住居跡6 | 弥生土器 | 底部 | — | △3.9 | 全体にスス多量に付着。二次焼成。内面ケズリ。 | やや粗<br>やや軟 | 赤褐色 | |
| 74 | 29 | 竪穴住居跡6 | 弥生土器 | 壺 | — | △21.2 | 頸部外面はヘラミガキか。胴部外面ハケメ、内面ケズリ。底部外面タテ方向ヘラミガキ。外面にススが多く付着。 | やや粗<br>やや軟 | 褐色 | |
| 75 | 29 | 竪穴住居跡6 | 弥生土器 | 壺 | 11.1 | *25.0 | 口縁内外とも丁寧なナデ。胴部上半ハケ後ナデか。内面ケズリ。外面および内面口縁～頸部赤彩。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 76 | 31 | テラス3 | 弥生土器 | 甕 | *15.3 | △5.9 | 口縁～頸部ナデ。内面以下ケズリ、外面はタテハケ。口縁外面無文。スス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 橙褐色 | |
| 77 | 31 | テラス3 | 弥生土器 | 高坏 | — | △5.0 | 全体磨滅し調整不明。外面はナデか。 | 粗<br>やや軟 | 褐色 | |
| 78 | 31 | テラス3 | 弥生土器 | 鉢 | 18.2 | 5.7 | 全体磨滅し調整不明。外面には頸部以下、および底面半分に黒斑。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 79 | 31 | テラス2 | 弥生土器 | 壺 | *13.8 | △7.8 | 全体磨滅し調整不明。 | やや粗<br>軟 | 橙色 | |
| 80 | 33 | テラス5 | 弥生土器 | 甕 | *18.2 | △5.0 | 内外ナデ、内面頸部以下ケズリ。外面全体にスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 81 | 33 | テラス5 | 弥生土器 | 壺 | 17.4 | △8.7 | 口縁ナデ、頸部内面ヨコハケ後ナデか。外面タテハケ。全体に磨滅。 | やや粗<br>やや軟 | 黄褐色 | 胎土分析資料109 |
| 82 | 33 | テラス5 | 弥生土器 | 壺 | *14.2 | △7.6 | 全体磨滅で調整不明。内面頸部以下ケズリ。口縁下端部にスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 83 | 33 | テラス5 | 弥生土器 | 壺 | — | △8.2 | 全体磨滅で調整不明。内面頸部以下ケズリ。口縁下端部～頸部にかけスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料108 |
| 84 | 33 | テラス7 | 弥生土器 | 甕 | *16.2 | △7.0 | 口～頸部ナデ。胴部外面ハケ、内面ケズリ。 | やや粗<br>やや軟 | 橙褐色 | |
| 85 | 34 | テラス4 | 弥生土器 | 甕 | *13.6 | △5.3 | 口縁ナデ、内面頸部以下ケズリ。口縁部凹線をナデ消しか。外面にべったりスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 暗褐色 | |
| 86 | 34 | テラス4 | 弥生土器 | 甕 | *18.0 | △6.2 | 口縁ナデ、内面頸部以下ケズリ。口縁部凹線をナデ消し。胎土やや砂質。 | やや粗<br>やや軟 | 橙褐色 | 胎土分析資料107 |
| 87 | 34 | テラス4 | 弥生土器 | 甕 | *17.6 | △5.3 | 口縁ナデ、内面頸部ミガキ、以下ケズリ。口縁部凹線をナデ消し。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料106 |
| 88 | 34 | テラス4 | 弥生土器 | 甕 | *16.5 | △4.8 | 口縁部凹線をナデ消し。内面は粗いミガキ。頸部以下内面ケズリ。外面頸部にスス。 | やや粗<br>やや軟 | 黄褐色 | |
| 89 | 34 | テラス4 | 弥生土器 | 甕 | *16.2 | △5.1 | 口縁ナデ、内面頸部ミガキ、以下ケズリ。外面ナデ。口縁～頸部にスス付着。 | やや粗<br>やや軟 | 橙褐色 | |
| 90 | 34 | テラス4 | 弥生土器 | 甕 | — | △4.9 | 口縁ナデ、内面頸部以下ケズリ。口縁端部欠損。外面にスス。 | 粗<br>やや軟 | 黄褐色 | |
| 91 | 34 | テラス4 | 弥生土器 | 高坏 | — | △10.0 | 外面裾部ハケ、脚端部ナデ。内面ケズリ。 | 粗<br>やや軟 | 橙褐色 | |
| 92 | 35 | 土坑8 | 弥生土器 | 高坏 | — | △7.9 | 外面ナデ、内面ケズリ。 | やや粗<br>やや軟 | 橙褐色 | |
| 93 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *16.6 | △4.6 | 内外ナデ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡灰褐色 | |
| 94 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *15.0 | △7.1 | 口縁ナデ。胴部外面ハケ。内面頸部ナデ、以下ハケ後ナデか。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 95 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *18.2 | △2.6 | 全体に磨滅。口縁ナデ。口縁端部には3条の凹線後刻み。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 96 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *19.8 | △3.5 | 口縁ナデ。口縁端部には3条の凹線後刻み。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 97 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *21.8 | △2.8 | 内外ナデ。口縁刻み後4条の凹線。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 98 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 高坏 | — | △6.0 | 外面ハケ、内面ナデ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 99 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 高坏 | — | △9.8 | 外面ナデ、内面ケズリ。脚部に2条凹線。 | やや粗<br>やや軟 | 灰色 | 胎土分析資料86 |
| 100 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 蓋？ | — | △5.1 | 内面ケズリ、外面不明。全体磨滅。 | やや粗<br>やや軟 | 黄灰色 | |
| 101 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *18.6 | △7.4 | 口縁ナデ。内面頸部ミガキ、以下ケズリ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 102 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *18.4 | △8.3 | 口縁ナデ。胴部内面ケズリ、外面ナデ。口縁部凹線上半ナデ消し。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | 胎土分析資料87 |
| 103 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *15.4 | △4.0 | 全体に磨滅。口縁ナデ。胴部内面ケズリ、外面ナデ。 | 粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 104 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | *15.0 | △7.5 | 口縁ナデ。胴部内面ケズリ、外面ナデ。口縁部無文。頸部以下にスス付着。器壁厚い。 | やや粗<br>やや軟 | 灰褐色 | |
| 105 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 甕 | 18.6 | △9.1 | 全体磨滅し調整不明瞭。内面ケズリ。口縁部凹線上半ナデ消し。外面にスス付着。106と同一個体。 | やや粗<br>やや軟 | 黄褐色 | 胎土分析資料88 |
| 106 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 底部 | — | △2.3 | 内面ケズリ。 | やや粗<br>やや軟 | 黄褐色 | |
| 107 | 37 | F3<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 高坏 | *20.0 | △5.5 | 全体磨滅。全体にナデ。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 108 | 37 | G5<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 坏？ | — | △3.8 | 内面ケズリ、外面ナデ。屈曲部に上下2段の沈線に区画された貝殻腹縁文帯。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 109 | 37 | F4<br>ＸＩ層 | 弥生土器 | 壺 | *15.0 | △6.1 | 口縁ナデ。胴部内面ケズリ、外面ナデ。 | 粗<br>やや軟 | 黄褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 110 | 37 | F4 ＸＩ層 | 弥生土器 | 壺 | — | △16.4 | 全体磨滅で調整不明。胴部中位に突帯が2条巡り、その中に爪形状連続文。突帯上側に円文が連続。 | やや粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 111 | 37 | E5 ＸＩ層 | 弥生土器 | 高坏 | — | △7.3 | 外面ナデ、内面ケズリ。脚部に4条凹線、上半部ナデ消し。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 112 | 37 | F4 ＸＩ層 | 弥生土器 | 底部 | — | △4.1 | 全体に磨滅。外面ヘラミガキ？内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 113 | 37 | E5 ＸＩ層 | 弥生土器 | 底部 | — | △4.3 | 外面ヘラミガキ。内面ケズリ。外面黒斑。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 114 | 37 | E5 ＸＩ層 | 弥生土器 | 小型壺 | — | △4.3 | 外面ハケメ、内面シボリ。 | やや粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 115 | 37 | F4 ＸＩ層 | 弥生土器 | 把手 | — | △6.0 | 外面ナデ、内面ケズリ。 | 粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 116 | 37 | F5 ＸＩ層 | 弥生土器 | 壺 | *20.0 | △13.0 | 口縁ナデ。胴部外面ハケメ、内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 117 | 37 | D9 | 弥生土器 | 壺 | *12.4 | △5.0 | 口縁ナデ。内面頸部一部にハケメ。口縁部5条の凹線、円形浮文。 | やや粗 やや軟 | 赤褐色 | |
| 118 | 37 | C6 | 弥生土器 | 壺 | — | △4.5 | 口縁タテハケ?内面口縁～頸部ナデ、以下ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 119 | 37 | F9 ＸⅡ層 | 弥生土器 | 器台 | — | △11.6 | 全体に被熱し赤化。器壁厚い。外面ナデ。脚内面下部はケズリ。 | やや粗 やや軟 | 赤褐色 | |
| 120 | 38 | 竪穴住居跡8 | 弥生土器 | 甕 | *21.0 | 33.1 | 内外口縁～頸部ナデ。外面頸部下にヨコハケ帯、中位以下タテハケ。内面は頸部に指頭圧後ナデ、以下ケズリ。底径は小さく僅かに平底。底部内面および外面胴部最大径以下 | 粗 やや軟 | 淡褐色 | 胎土分析資料102 |
| 121 | 39 | 竪穴住居跡8 | 弥生土器 | 壺？ | — | △4.6 | 外面ナデ、内面はケズリ。あるいは器台か。 | やや粗 やや軟 | 橙褐色 | |
| 122 | 39 | 竪穴住居跡8 | 弥生土器 | 甕 | *13.0 | △4.1 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 123 | 39 | 竪穴住居跡8 | 弥生土器 | 甕 | — | △5.9 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。口縁端部欠損。 | 粗 やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 124 | 39 | 竪穴住居跡8 | 弥生土器 | 甕 | — | △4.1 | 外面ハケメ。内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 125 | 39 | 竪穴住居跡8 | 弥生土器 | 底部 | — | △8.1 | 外面ヘラミガキ。内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 126 | 39 | 竪穴住居跡9 | 弥生土器 | 甕 | *24.8 | △5.3 | 口縁ナデ、外面凹線はナデ消し。内面頸部以下ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 橙褐色 | |
| 127 | 39 | 竪穴住居跡9 | 弥生土器 | 甕 | *19.0 | △4.4 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。口縁端部はやや肥厚する。 | やや粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 128 | 39 | 竪穴住居跡9 | 弥生土器 | 甕 | — | △3.3 | 口縁ナデ。端部欠損。外面に凹線。 | やや粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 129 | 39 | 竪穴住居跡9 | 弥生土器 | 甕 | *16.2 | △4.5 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。口縁外面にスス付着。 | 粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 130 | 39 | 竪穴住居跡9 | 弥生土器 | 甕 | *14.0 | △3.4 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。口縁外面にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 褐色 | |
| 131 | 39 | 竪穴住居跡9 | 弥生土器 | 高坏 | — | △4.5 | 全体に磨滅。口縁ナデ。 | 粗 やや軟 | 淡黄色 | |
| 132 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *14.2 | △3.6 | 口縁ナデ、内面ケズリ。口縁部凹線をナデ消し。 | やや粗 やや軟 | 橙褐色 | |
| 133 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | — | △4.6 | 全体磨滅。内面ケズリ。外面スス付着。 | やや粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 134 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *13.0 | △3.7 | 全体に磨滅。口縁ナデ、内面ケズリ。口縁部凹線をナデ消し。口縁下端部にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 135 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *14.2 | △7.8 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面ナデ。外面に若干スス付着。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | 胎土分析資料101 |
| 136 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *17.6 | △3.8 | 口縁ナデ、頸部はミガキか。外面黒斑。 | やや粗 やや軟 | 橙褐色 | |
| 137 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *13.8 | △4.5 | 口縁ナデ、内面ケズリ。口縁部凹線をナデ消し？口縁下端部にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 138 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *13.4 | △9.5 | 全体に磨滅。口縁ナデ。内面ケズリ、外面ナデ。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料99 |
| 139 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *15.2 | △4.3 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。口縁下端部にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 140 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *13.8 | △4.6 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面ナデ。外面にスス付着。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 141 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *15.8 | △4.2 | 口縁ナデ。外面は無文。 | やや粗 やや軟 | 暗橙褐色 | |
| 142 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *12.6 | △5.2 | 口縁ナデ、外面ハケメ。内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料98 |
| 143 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 壺 | *17.4 | △8.3 | 口縁ナデ、頸部内面シボリ。 | やや粗 良好 | 橙褐色 | |
| 144 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *18.6 | △5.4 | 内外面ナデ。 | やや粗 やや軟 | 暗褐色 | |
| 145 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *14.9 | △5.6 | 全体に磨滅。口縁ナデ。内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |
| 146 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | *17.6 | △6.2 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 橙褐色 | |
| 147 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 甕 | — | △4.6 | 外面ハケメ後ナデ。内面ケズリ。口縁ナデ。 | やや粗 やや軟 | 赤褐色 | |
| 148 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 壺 | — | △9.4 | 外面ナデか。頸部内面タテナデ、以下ケズリ。外面胴部中位にスス付着。全体に二次焼成により赤変。 | やや粗 やや軟 | 黄褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 149 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 底部 | — | △3.7 | 内面ケズリ、外面ハケメ。外面黒斑。底面は磨いたようにつるつる。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 150 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 底部 | — | △6.7 | 全体磨滅。内面ケズリ。外面底部黒斑。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 151 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 底部 | — | △5.1 | 内面ケズリ、外面ハケメ。底径小さく、やや丸底を呈す。外面黒斑。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | 胎土分析資料100 |
| 152 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 底部 | — | △4.1 | 外面ヘラミガキ、内面ケズリ。全体に二次焼成により赤変。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 153 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 高台坏 | — | △1.6 | 高台内外ナデ。坏部内面ケズリ、外面ナデ。底面に黒斑。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 154 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 器台 | — | △6.8 | 外面ナデ、内面脚端部ナデ。柱状部ケズリ。外面に黒斑。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 155 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 鉢 | *17.0 | △5.3 | 内面ミガキ。外面にもあるか。外面スス付着し調整不明。赤彩あるか。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 156 | 41 | 竪穴住居跡10 | 弥生土器 | 土製品 | 3.5 | 1.5 | 輪郭は不定形。4ヶ所穿孔され、うち3ヶ所は垂直、ひとつは斜方向。また途中でとまる穴もある。穴径は大小あり、5mm前後と、7mm前後に分けられる。 | やや粗やや軟 | 暗褐色 | |
| 157 | 41 | テラス8 | 弥生土器 | 甕 | *18.2 | △6.9 | 口縁外面は凹線をナデ消し。内面ナデ。頸部以下内面ケズリ。外面ナデ。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 158 | 41 | テラス8 | 弥生土器 | 甕 | *17.2 | △4.5 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 159 | 41 | テラス8 | 弥生土器 | 甕 | *28.5 | △4.8 | 口縁ナデ。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |

## 表４　第４章　被熱粘土塊観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 特徴 | 焼成 | 胎土 | 色調 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 64 | 25 | 15 | 左右両端部を欠損している。他の面は平坦面あるいは草本類(カヤ？)の圧痕を残す。圧痕は表裏面とも同方向に | 良 | 密 | 橙褐色・淡橙褐色 | △4.52 | △4.53 | 3.87 | △96 | |
| 65 | 25 | 14 | 表面は面をなし草本類(カヤ？)の圧痕を数条残す。 | 良 | 粗 | 橙褐色・淡橙褐色 | △7.16 | △10.78 | △4.36 | △300 | |
| 66 | 25 | 15 | 両面に草本類(カヤ？)の圧痕が残る。表面は同方向に圧痕が密集するが、裏面は不整方向に痕跡が残る。 | 良 | 密 | 橙褐色・淡橙褐色 | △7.96 | △10.48 | 4.32 | △230 | |
| 67 | 25 | 14 | 表裏面に草本類(カヤ？)の圧痕が残る。圧痕は表面では不鮮明であるが、裏面は他の痕跡と比較して太く不整方向に伸びる。 | 良 | 密 | 橙褐色・淡橙褐色 | △11.5 | △20.2 | △8.74 | △1560 | |
| 68 | 25 | 14 | 表面は平坦面をなし、まばらかつ不整方向に草本類(カヤ？)の痕跡を残す。表面は焼けしまっているが、裏面はあまり火を受けていないせいかもろい。 | 良 | 表面は密・裏面は粗 | 橙褐色・淡橙褐色 | △26.6 | △36.0 | △16.1 | △10360 | |
| 738 | | 14 | 表面は堅く焼けしまるが、裏面はもろい。裏面に草本類の圧痕が不整方向に伸びる。 | 表面は良・裏面は不良 | 粗 | 橙褐色 | △10.61 | △14.37 | △7.71 | △1020 | |
| 739 | | 15 | 表面は面をなし草本類(カヤ？)の圧痕が同一方向に重なり、密集する。 | 良 | 粗 | 橙褐色 | △11.06 | △10.02 | △6.67 | △400 | |
| 740 | | 15 | 草本類(カヤ)、炭化種子が残存する。もろい。 | 不良 | 粗 | 淡赤褐色・淡茶褐色 | △7.84 | △5.84 | △4.35 | △138 | |

## 表５　第４章　弥生時代石器・石製品観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 石材 | 長さ・高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S1 | 18 | 8 | 竪穴住居跡2 | 敲石 | 安山岩 | 6.55 | 4.16 | 1.58 | 63.5 | |
| S2 | 19 | — | 竪穴住居跡3 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.57 | △1.87 | 0.42 | △2 | 脚端部欠損 |
| S3 | 21 | 8 | 竪穴住居跡4 | 石核 | 水晶 | 3.16 | 3.34 | 2.89 | 31 | |
| S4 | 30 | 15 | 竪穴住居跡7 | 剥片 | 砂岩 | 1.63 | 3.21 | 0.69 | 4 | 接合資料 |
| S5 | 30 | 15 | 竪穴住居跡7 | 剥片 | 砂岩 | 4.65 | 2.73 | 0.89 | 10 | 接合資料 |
| S6 | 30 | 15 | 竪穴住居跡7 | 石核 | 砂岩 | 6.01 | 9.6 | 3.71 | 210 | 接合資料 |
| S7 | 30 | 15 | 竪穴住居跡7 | 石核 | 砂岩 | 10.69 | 10.31 | 4.93 | 750 | 接合資料 |
| S8 | 34 | 8 | テラス6 | 磨製石斧 | 安山岩 | △9.1 | △5.4 | △3.8 | △278 | 上部欠損 |
| S9 | 34 | 8 | テラス6 | 磨石 | 安山岩 | 7.58 | 4.74 | 1.69 | 94.5 | |
| S10 | 37 | 27 | F5・ＸＩ層 | 石包丁 | 白雲母片岩 | △5.02 | △8.34 | △0.55 | △36.4 | 左半部欠損 |
| S11 | 39 | 8 | 竪穴住居跡8 | 磨石 | 細粒花崗岩 | 11.7 | 10.61 | 3.36 | 660 | |
| S12 | 39 | 8 | 竪穴住居跡8 | 砥石 | 流紋岩 | 6.55 | 2.74 | 2.48 | 73.5 | |
| S13 | 41 | 8 | 竪穴住居跡10 | すり棒 | 細粒花崗岩 | 9.19 | 2.89 | 1.74 | 53.5 | 先端部に赤色顔料が付 |

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 石材 | 長さ・高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S21 | 116 | 6 | テラス21 | 磨製石斧 | 安山岩 | △7.1 | △5.35 | △0.95 | △170 | 上半部欠損 |
| S46 | ― | 6 | 竪穴住居跡4 | 河原石？ | 緑色片岩 | 7.85 | 4 | 3.25 | 170 | |
| S47 | ― | 6 | 竪穴住居跡10 | 敲石 | 安山岩 | 8.24 | 3.77 | 2.53 | 110 | |
| S48 | ― | 6 | F5・ＸⅠ層 | 砥石 | 流紋岩 | 4.6 | 2.6 | △0.95 | △20.8 | 下半部欠損 |

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 石材 | 長さ・高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S49 | ― | 26 | G9 | 石鏃 | 黒曜石 | △1.95 | △0.77 | 0.41 | △1.4 | 脚端部欠損 |
| S50 | ― | 26 | F6・Ⅱ層 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.48 | 1.96 | 0.4 | 1.3 | |
| S51 | ― | 26 | G6 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.13 | 1.57 | 0.37 | 0.8 | |
| S52 | ― | 26 | F5・ＸⅠ層 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.43 | 1.61 | 0.41 | 0.9 | |
| S53 | ― | 26 | 焼土塊集中域周辺 | 石鏃 | 黒曜石 | △2.24 | △1.3 | 0.27 | △0.5 | 脚端部欠損 |
| S54 | ― | 26 | F4・Ⅳ層 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.88 | 1.29 | 0.28 | 0.4 | |
| S55 | ― | 26 | F4・Ⅳ層 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.99 | 1.53 | 0.37 | 0.7 | |
| S56 | ― | 26 | F3・ＸⅠ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.59 | 1.88 | 0.39 | 1.1 | |
| S57 | ― | 26 | F4・ＸⅠ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.78 | 1.91 | 0.34 | 1.3 | |
| S58 | ― | 26 | C5・15号墳周溝 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | △2.22 | △1.44 | 0.41 | △0.8 | 脚端部欠損 |
| S59 | ― | 26 | F4・ＸⅠ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | △1.91 | △1.19 | 0.29 | △1.4 | 脚端部欠損 |
| S60 | ― | 26 | G6 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.25 | 1.54 | 0.52 | 1.7 | |
| S61 | ― | 26 | F4・ＸＶ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.3 | 2.01 | 0.4 | 1 | |
| S62 | ― | 26 | F5・ＸⅠ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.16 | 1.34 | 0.28 | 0.8 | |
| S63 | ― | 26 | F3・Ⅳ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 1.25 | 1.38 | 0.36 | 0.9 | |
| S64 | ― | 26 | F5 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | △1.81 | △1.32 | 0.29 | △0.5 | 脚端部欠損 |
| S65 | ― | 26 | F3・Ⅳ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | △1.94 | △1.45 | 0.31 | △0.4 | 先端部欠損 |
| S66 | ― | 26 | F4・ＸⅠ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.29 | 1.48 | 0.3 | 0.8 | |
| S67 | ― | 26 | F4・ＸＶ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.53 | 1.61 | 0.41 | 1.6 | |
| S68 | ― | 26 | G5・ＸⅠ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.22 | 1.62 | 0.18 | 0.7 | |
| S69 | ― | 26 | F5・Ⅳ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | 2.38 | 1.36 | 0.3 | 0.9 | |
| S70 | ― | 26 | F5・Ⅱ層 | 石鏃 | 無斑晶安山岩 | △1.99 | △1.89 | 0.26 | △1.3 | 先端部欠損 |
| S71 | ― | 26 | H9 | 未製品 | 青瑪瑙(碧玉) | △2.64 | △1.5 | 1.53 | △8.9 | 玉製作関連 |

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 石材 | 長さ・高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S72 | ― | 27 | F3 | 磨製石斧 | 安山岩 | △7.16 | △6.01 | △2.88 | △180 | 刃部のみ |
| S73 | ― | 27 | 表彩 | 磨製石斧 | 安山岩 | △8.42 | △4.56 | △4.19 | △245 | 刃部のみ |
| S74 | ― | 27 | G6・Ⅳ層 | 磨製石斧 | 閃緑岩 | △12.36 | △7.18 | △5.24 | △760 | 刃部欠損 |
| S75 | ― | 27 | H・G7 | 磨製石斧 | 緑色片岩 | △16.8 | △5.39 | △1.97 | △260 | 欠損 |
| S76 | ― | 27 | E6 | 打製石斧 | 黒色片岩 | 11.47 | 6.18 | 2.72 | 260 | |
| S77 | ― | 27 | E4 | 磨製石斧 | 閃緑岩 | △11.78 | △4.75 | △1.93 | △120 | 欠損 |
| S78 | ― | 27 | F5・ＸⅠ層 | 砥石？ | 花崗斑岩 | △6.46 | △5.07 | △4.06 | △230 | 欠損 |
| S79 | ― | 27 | F5・ＸⅠ層 | 砥石 | 細粒花崗岩 | △5.43 | △3.48 | △2.42 | △64 | 欠損 |
| S80 | ― | 27 | F4・ＸⅠ層 | 砥石 | 細粒花崗岩 | △9.26 | △2.98 | △2.85 | △104 | 端部欠損 |
| S81 | ― | 27 | F3・ＸⅠ層 | 砥石 | 頁岩 | △5.75 | △2.92 | △0.99 | △21.4 | 欠損 |

# 第５章　古墳時代の調査

## 第１節　概要　（図 42）

東西方向にのびる標高 39 ～ 63 ｍの緩やかな斜面である尾根１区に 10 基の古墳が展開する。

調査前の状況は小さな平坦面が連続していたが、これらは米子市教育委員会による分布調査に基づく『米子市埋蔵文化財地図』においては曲輪としてあった（註１）。また事前の試掘調査においても古墳であると認識されておらず、本調査によって新発見の古墳群となった。すでに周辺では古市古墳群として 13 基の古墳が確認されており、今回 14 号墳より新たに番号を付けた。

いずれの古墳も地山削り出しをした上で、わずかな盛土をするものであった。全掘しえたのが 16・21 ～ 23 号墳のみで他の６基は調査地外へと続いているため、その規模や墳丘形状など不明瞭な部分が多い。また尾根先端部に位置する 14 ～ 17 号墳は中世以降の削平、攪乱を受け埋葬施設がないか、石材が抜き取られていた。各古墳とも斜面上方のみを削り周溝を掘っており、「コ」ないしは逆Ｃ字状を呈している。このことから墳丘形状は円墳と方墳があると判断した。

埋葬施設には箱式石棺を用いるものと木棺と考えられるものと２種類がある。それぞれの向きは尾根に直交するものと並行するものとがあり、前者は３基（19・20 号墳）、後者は９基ある。時期を判定できる資料が少ないが、切り合い関係などから、概ね前者が古く、後者が新しい。

副葬品など出土した遺物は少ない。15・16 号墳では周溝内からまとまって須恵器、土師器が出土したほか、20 号墳埋葬施設２では土師器壺を枕に転用したものがある。この他各周溝内から弥生土器片がわずかに出土した。17 号墳埋葬施設からはガラス製や碧玉、青瑪瑙製の玉があった。鉄製品は 19 号墳埋葬施設１から鏃、23 号墳埋葬施設から剣がそれぞれ出土している。

これら遺物などから、本古墳群は前期中葉から中期に位置付けられると考えている。　（中森）

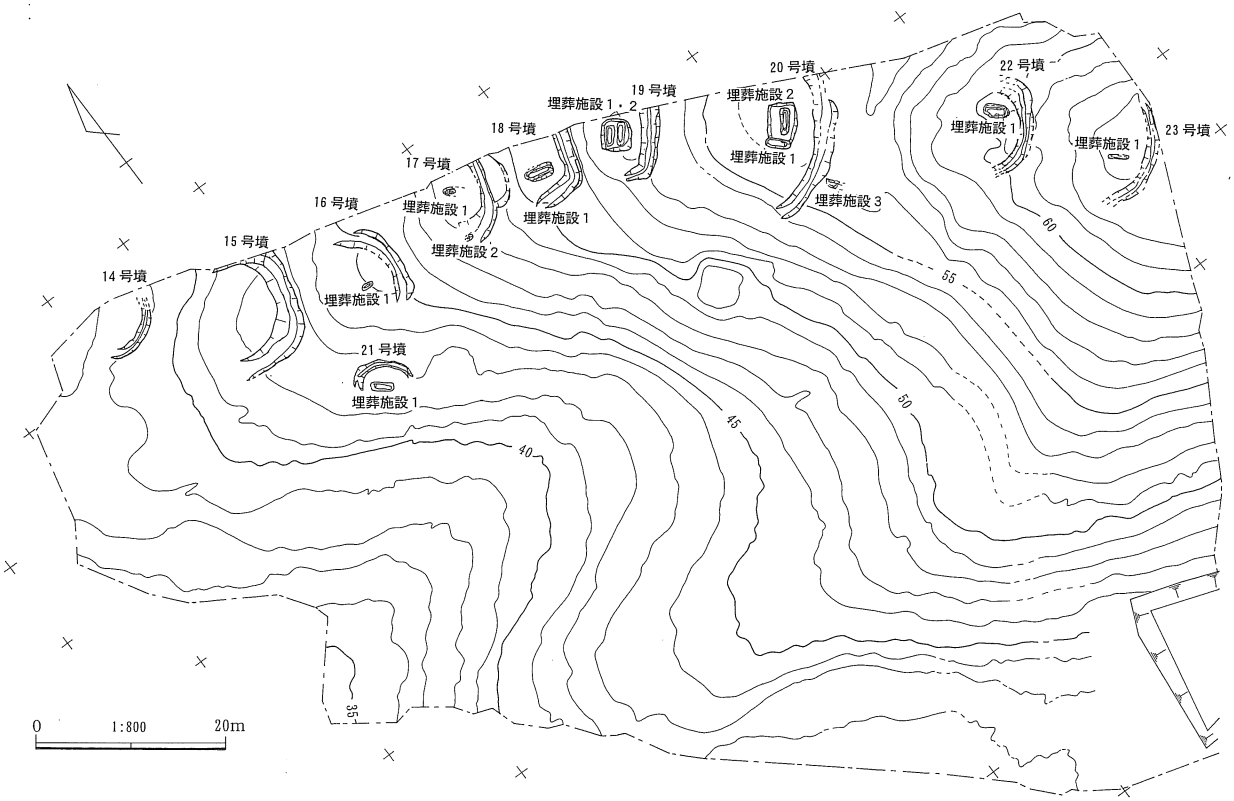



図 42　古墳時代遺構分布

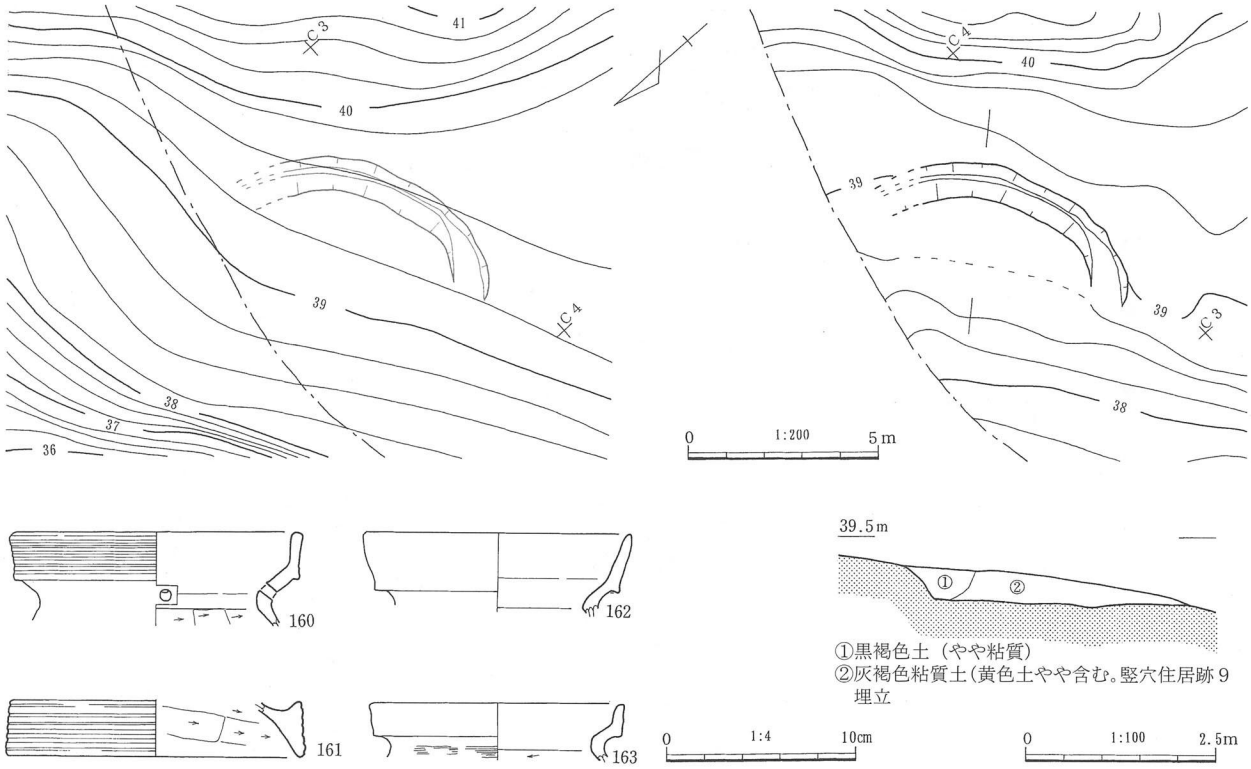



図 43　古市 14 号墳および出土遺物

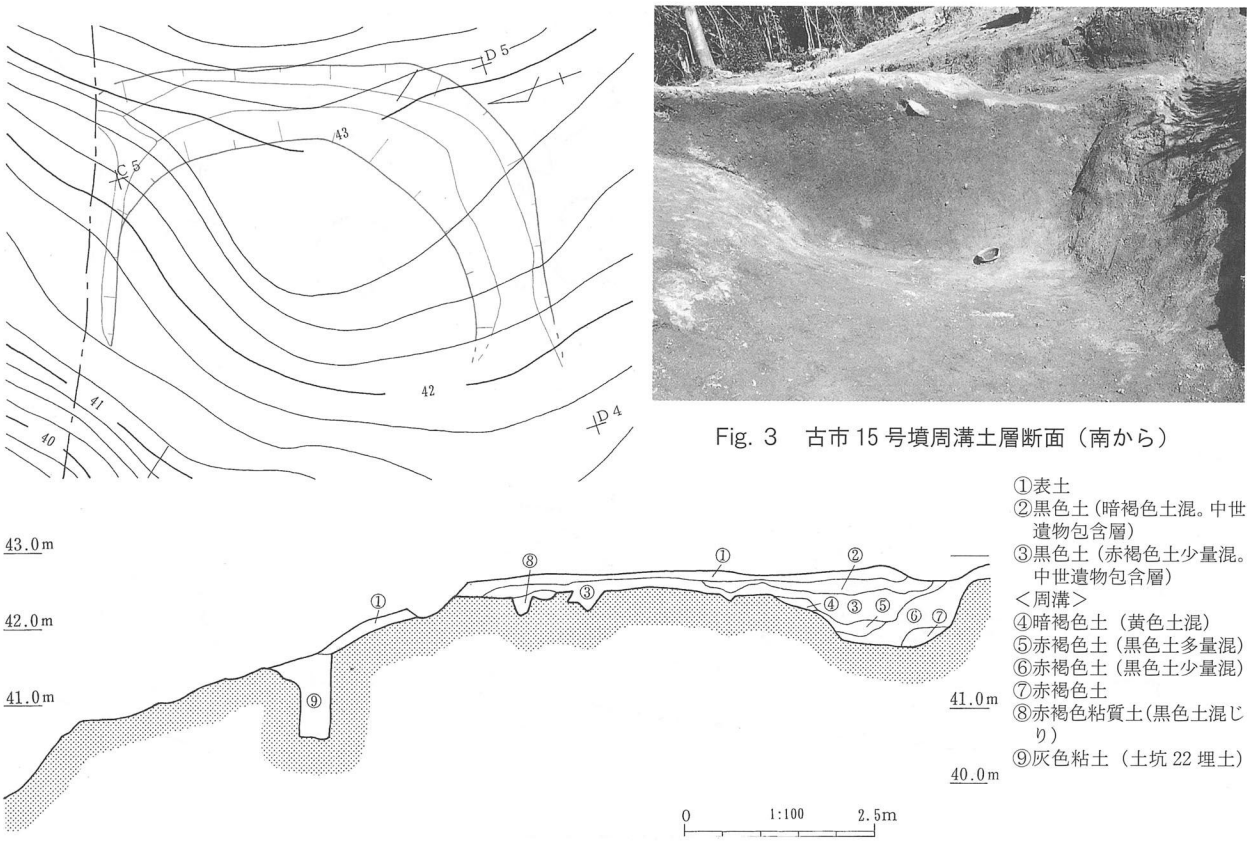



Fig. 3　古市 15 号墳周溝土層断面（南から）

図 44　古市 15 号墳調査前地形測量および土層断面

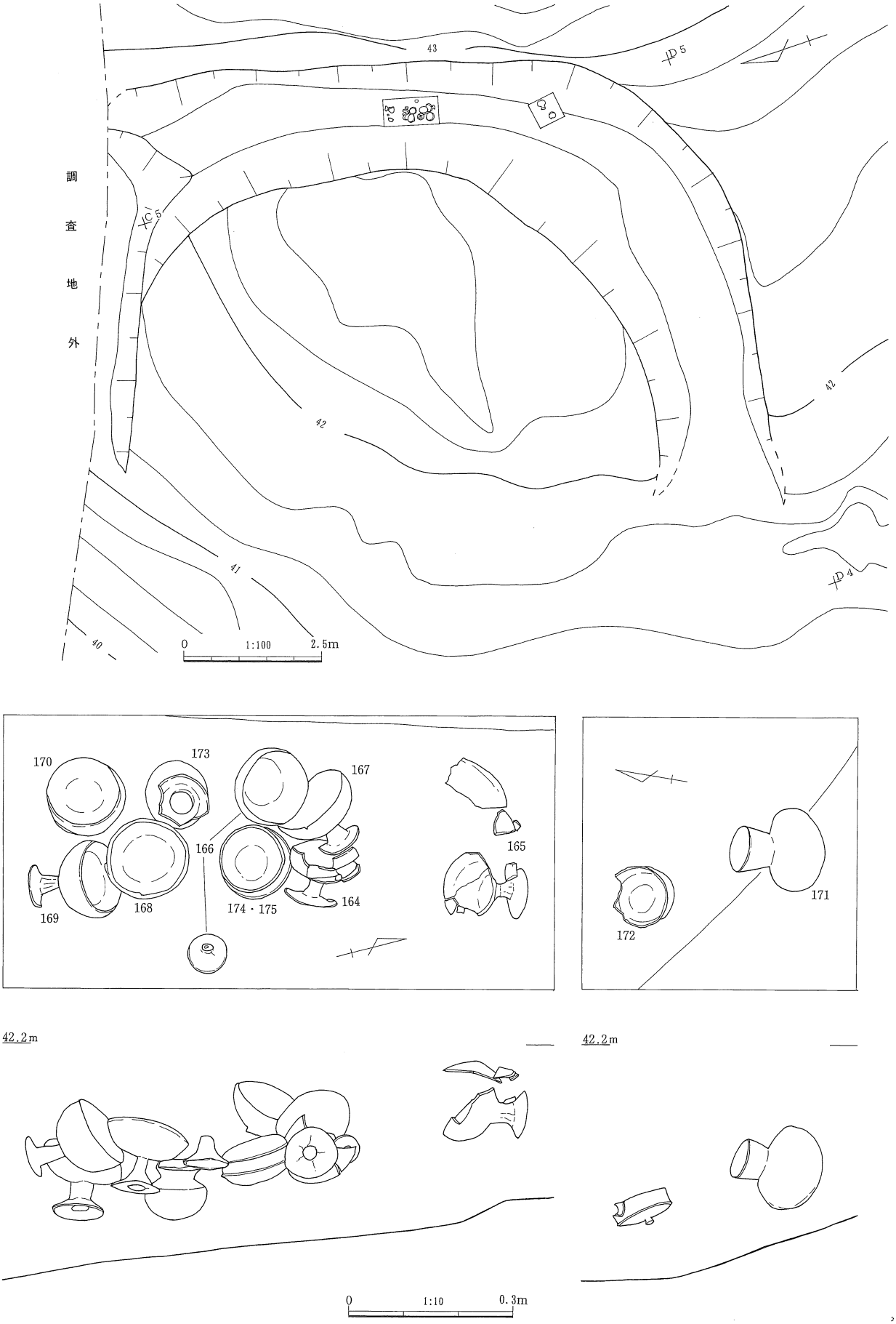



図 45　古市 15 号墳遺物出土状況

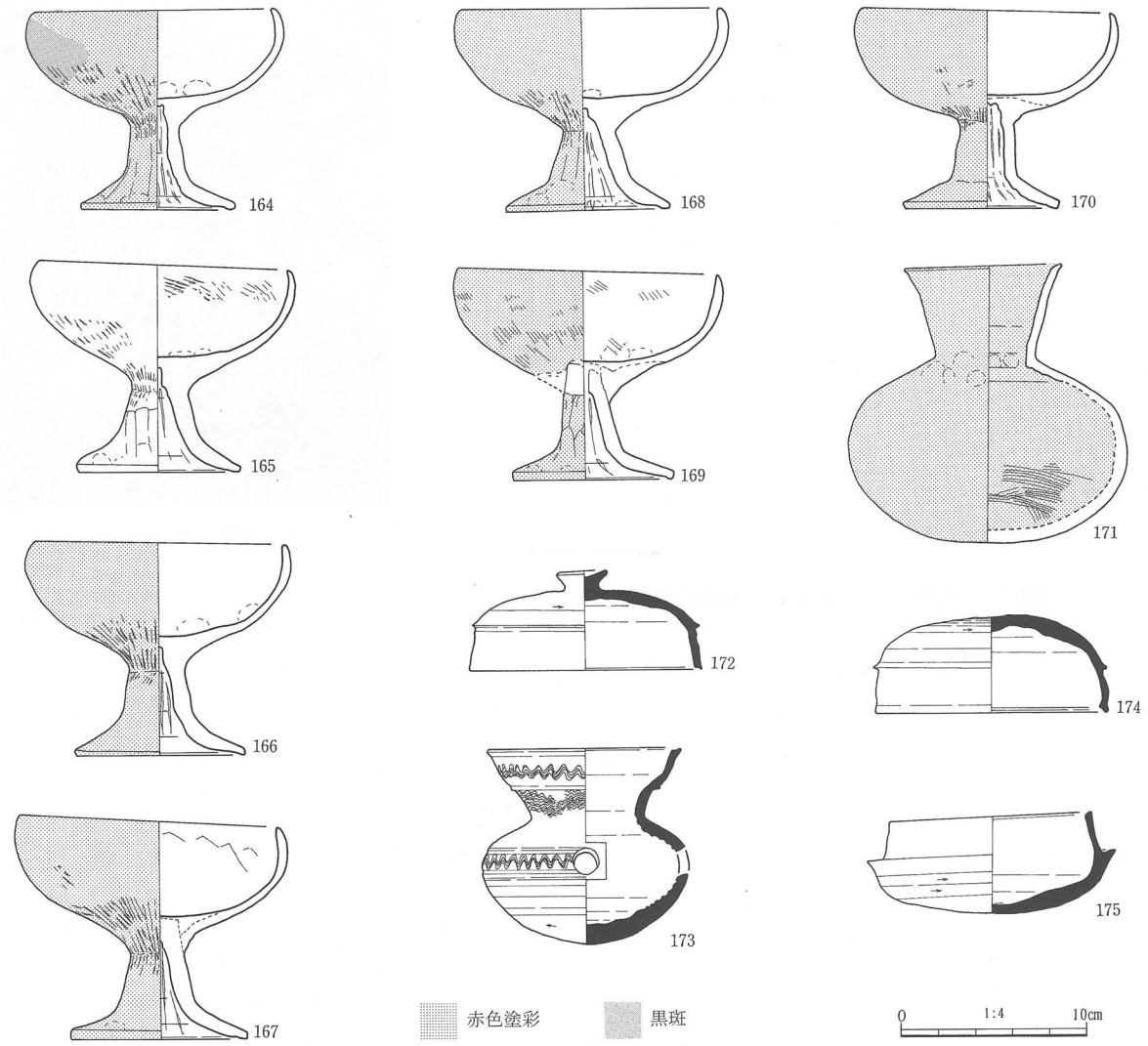



図 46　古市 15 号墳出土遺物

## 第２節　検出した遺構と遺物

**古市 14 号墳**　（図 43、図版 28）

本古墳群の中でもっとも低いところに位置する。弥生時代後期末の竪穴住居跡９を切り、中世後期のテラスにより切られる。そのため盛土、埋葬施設は確認できず、斜面上方側（南側）に掘られた周溝のみを検出した。周溝は幅が 0.9 ～ 1 m、深さ 0.4 ～ 0.5 mを測る。径約 8.0mの円墳になろう。その埋土内から出土した遺物はいずれも弥生土器で、160・162・163 は甕、161 は高坏の脚部である。160 は口縁に擬凹線を施し、頸部を穿孔する。

周溝内の遺物はおそらく竪穴住居跡９に関連する遺物であり、本古墳の時期を示すものは出土していない。しかし後述の 15 号墳との位置関係などから古墳時代中期のものと考えられる。　（中森）

Fig. 4　坏と脚の接続部分（167）

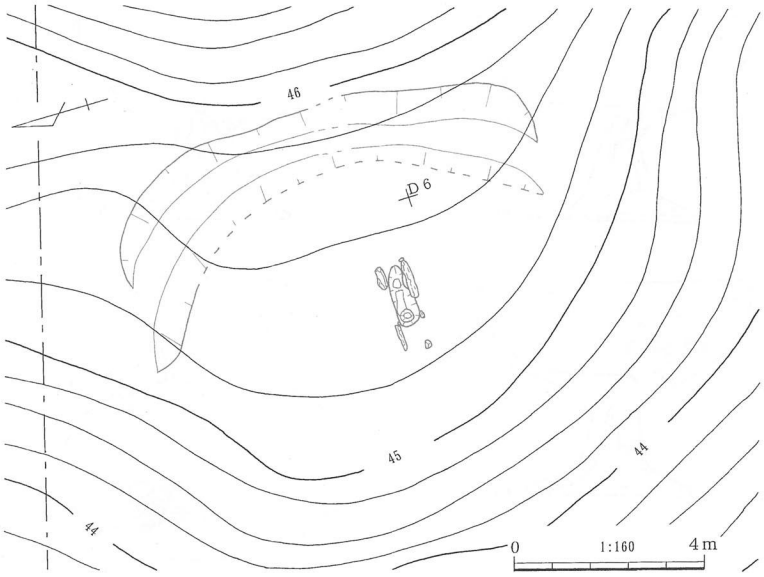



図 47　古市 16 号墳調査前地形測量

Fig. 5　埋葬施設１検出状況（東から）

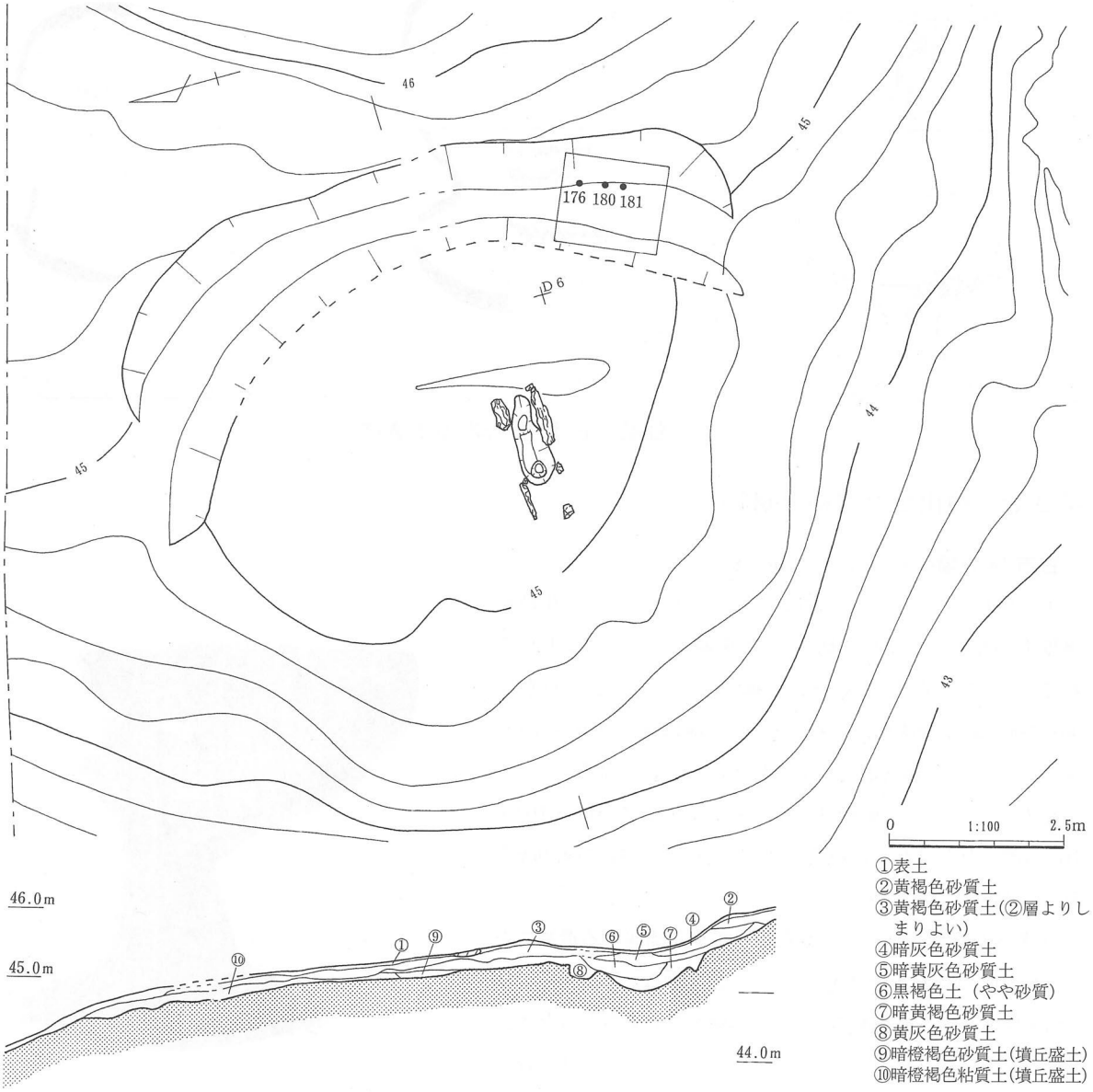



図 48　古市 16 号墳墳丘検出状況

**古市 15 号墳**　（図 44 ～ 46、図版 29-1）

Ｃ４グリッドに位置し、14 号墳より一段高いところにある。地山を削り出し、斜面上方に、幅 2.0 ～ 3.0 m、深さ 0.8 mほどを測る「コ」字状の周溝が掘られる。埋葬施設を確認できなかったが、墳丘上部には中世後期の火葬骨、五輪塔を伴う集石７があり、おそらくこの段階で破壊された可能性がある。また墳丘盛土も削平されてしまったと考えられ、さらに北側は周溝外周が調査地外にあるためその規模は不明瞭であるが、おおよそ南北 14.0 m、東西 12.0 mほどの方墳と思われる。

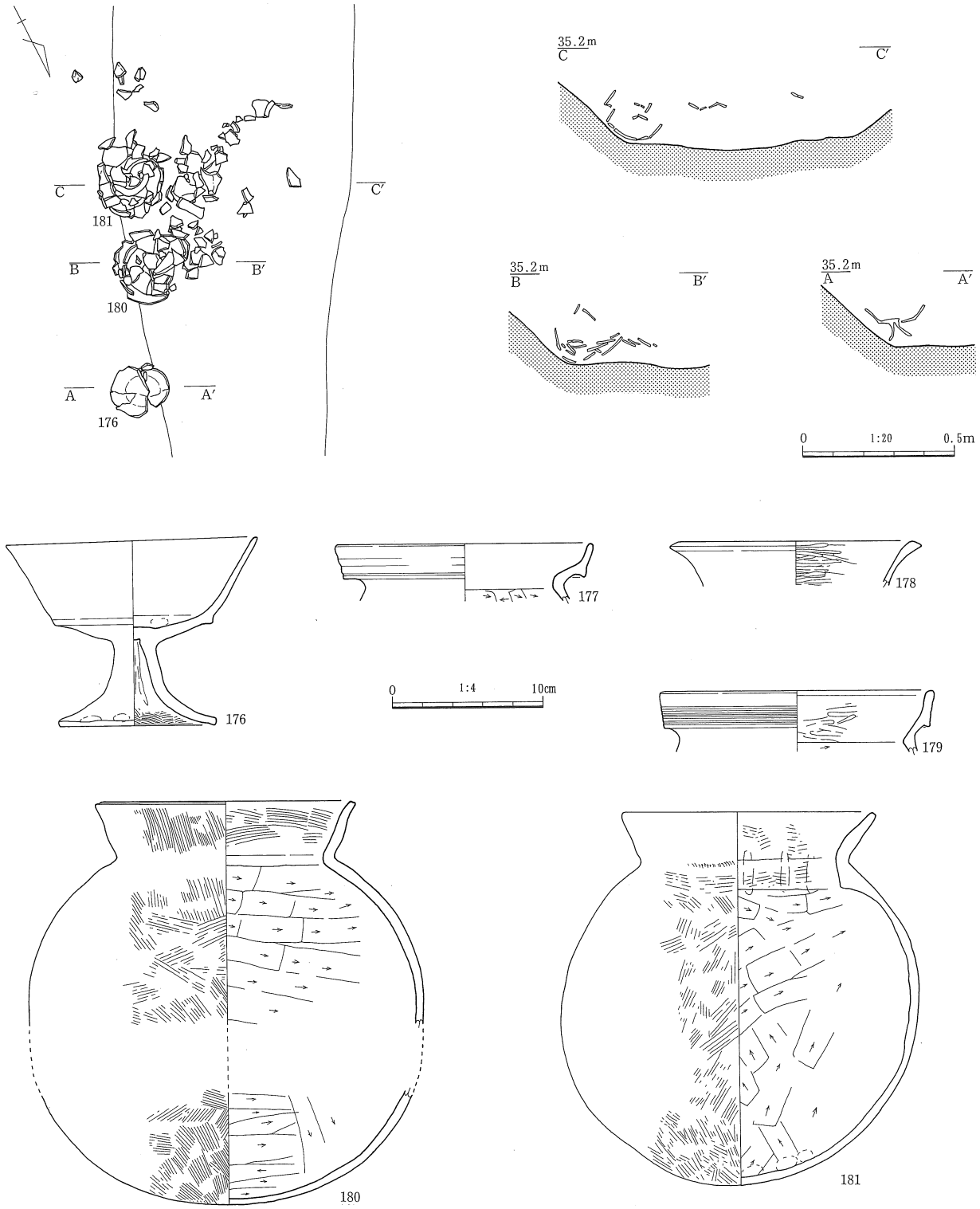



図 49　古市 16 号墳遺物出土状況および出土遺物

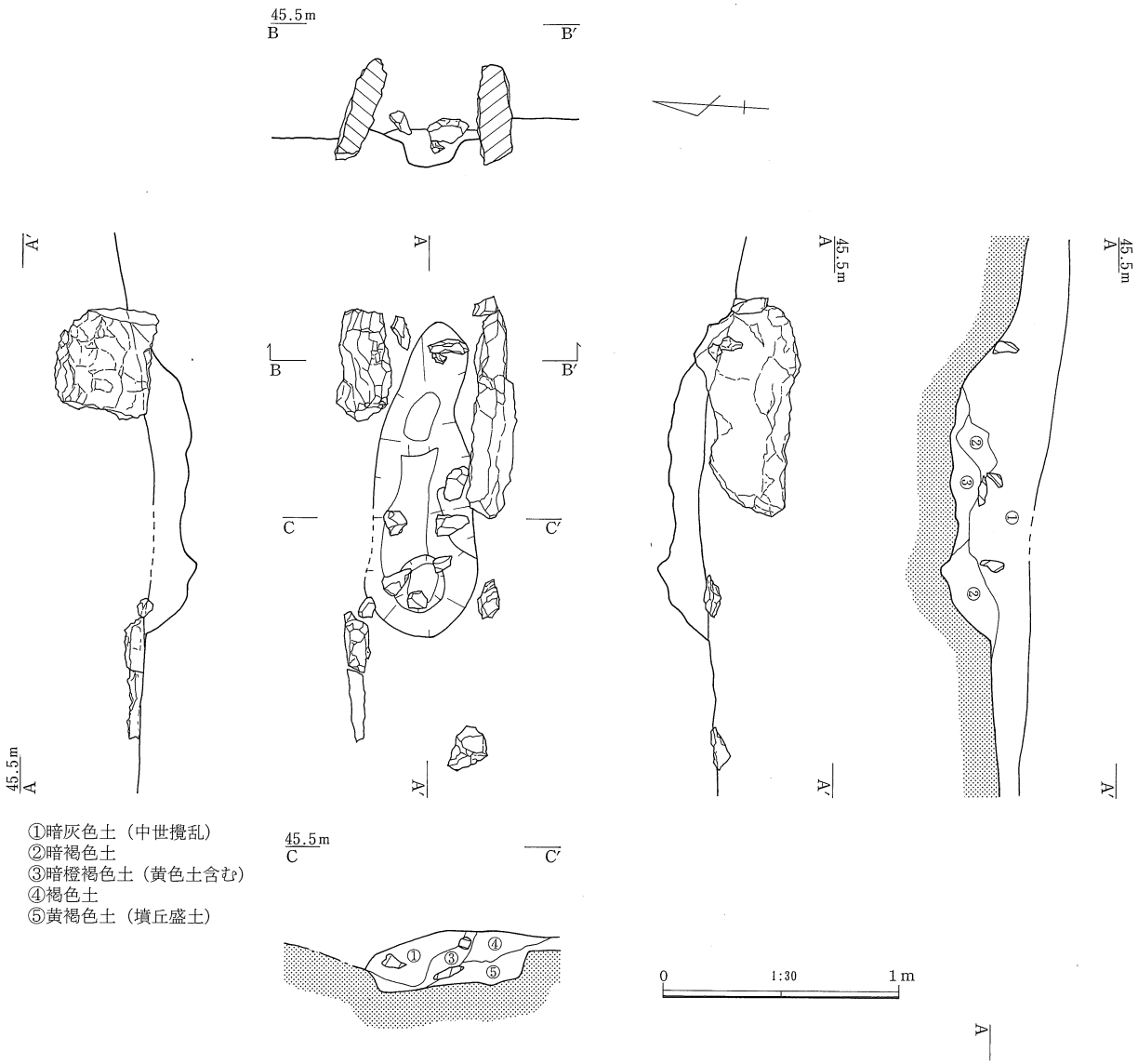
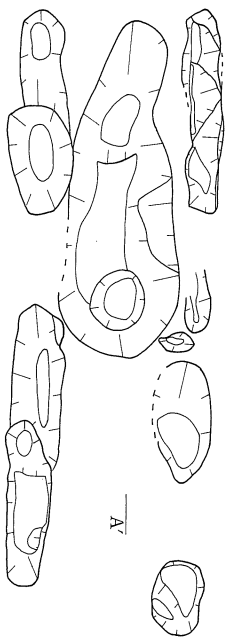



図 50　古市 16 号墳埋葬施設 1




遺物出土状況および出土遺物（図 45・46、カラー図版 4-4・5-3）

須恵器、土師器が周溝内東側で２ヶ所にまとまって出土した。ほぼ中央部では土師器高坏７点（164 ～ 170）、須恵器䍦、蓋、坏身（173 ～ 175）、さらにこの一群から２ｍほど南の地点に土師器壺（171）、須恵器蓋（172）が出土した。いずれも底面より 0.1 ｍ前後浮いたところで出土している。そのためこれらの土器がただちに古墳築造時期を示すものとはいえない。須恵器は田辺昭三編年でＴＫ 208 期(註２)、土師器は青木遺跡編年でⅨ期に相当し、当該期の良好な基準資料といえよう。　（中森）

**古市 16 号墳**　（図 47 ～ 50、図版 29 ～ 31）

15 号墳の東側、一段上に位置する。周溝は東側斜面上方部を平坦に削った後に掘られる。その規模は幅 1.4 ～ 2.0 ｍ、深さ 0.4 ｍほどを測り、1 / 4 ほどの弧状を呈す。墳丘は上面を中世後期以降に削平されており、わずかに 0.2 ｍほど盛土が残る。周溝の形状などから円墳と考えられ、南北約 11.0 ｍ、東西約 10.0 ｍを測る。

**埋葬施設１**（図 50、図版 31-1・2）

墳頂部からやや東によった位置で検出した組み合わせ式の石棺である。長軸は尾根筋に沿っており、W 1.0°S を向く。棺の石材はおそらく中世後期段階で大半が抜かれ、周辺にある集石４・５に利用されたと考えられる。一部側石が立った状態で残っていたほか、掘り方内に下部のみ残るものもあった。これらの石材は角礫凝灰岩である。

掘り方の規模は不明瞭であるが、残存長 2.5 m、幅 0.8 m、深さ 0.55 mほどを測る。

遺物出土状況および出土遺物（図 49、図版 30）

周溝内から土師器がまとまって出土した。ほぼ底面に接して出土しており、古墳築造時期とそう離れてはいない段階で置かれたものと考えられる。もっとも北側に高坏（176）があり、その南に甕が２点並んでいた（180・181）。高坏は体部下位で屈曲し、直線的に伸びる口縁部をもつ。甕は球状の体部で、口縁は短く直線的に外反する。青木遺跡編年のⅧないしⅨ期に相当するか。なお弥生時代後期の土器も若干周溝内および周溝東側のテラス面から出土している（177 ～ 179）。　（中森）

**古市 17 号墳**　（図 51 ～ 54、図版 31・32）

丘陵尾根上に立地し、16 号墳の北東、18 号墳の西に位置する。18 号墳とは隣接するが、16 号墳との間隔はあいている。周溝の向きは 18 号墳と同じで、東へ向いている。墳頂部の標高は約 48.75 mである。

墳丘は地山削り出しで、後背部を周溝で区切り、埋葬施設を構築している。周溝は調査地外にまで伸びており全掘できていないが、土層断面、周溝の形状、等高線図等から東西 7.5 m、南北 10.5 mの不整形な円墳と推定される。

盛土は検出されていない。しかし、図 53 を見ると 48.0 m付近から傾斜が変化し、47.75 mまで墳丘のラインを示しているようである。古墳西側の墳端はそのあたりであると言える。

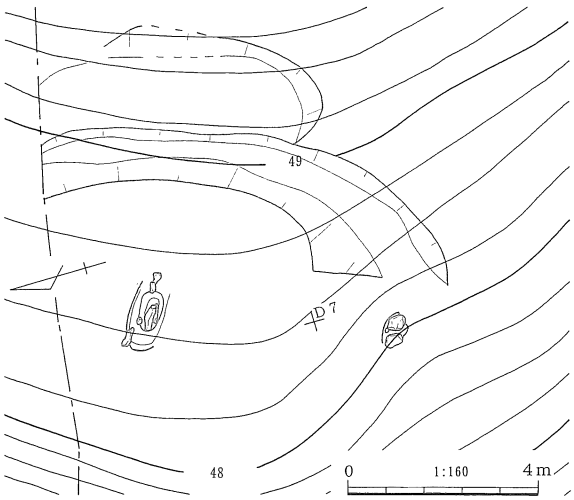


図 51　古市 17 号墳調査前地形測量

周溝は幅 1.5 ～ 2.0 m、深さ約 0.6 mを測り、墳丘東部を弧状にめぐっている。周溝の南端部から調査地境までは約 8.5 mある。周溝内埋土は周溝西側に黒色系の埋土（⑥・⑦層）が認められる。この堆積の後かそれ以前か判然としないが、周溝の後背にテラス状の掘り込みが見られる。この掘り込みの最下層からも黒色系の埋土（⑤層）が見られ、⑥・⑦層と関連する土層の可能性がある。この後、18 号墳側から盛土や地山が崩れ堆積し（③・④層）、その上面から土坑 28 が掘り込まれている。

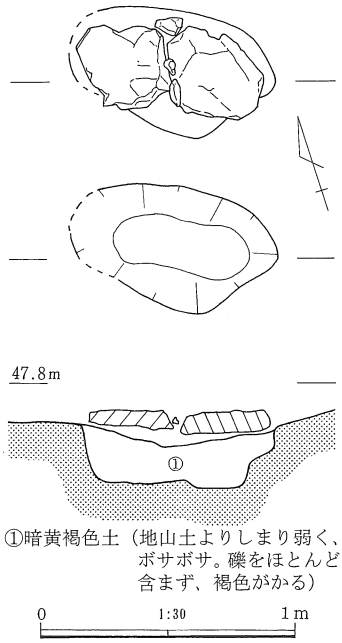


図 52　古市 17 号墳埋葬施設２

埋葬施設

埋葬施設は墳頂部から１基、墳丘南端の周溝付近から１基検出しており、墳頂部の方を埋葬施設１，墳丘南端の方を埋葬施設２と呼称する。

**埋葬施設１**（図 53、図版 31-3・4）

埋葬施設１は墳頂部のほぼ中心に位置する組み合わせ式の石棺である。長軸は尾根筋に沿っているが、やや北にずれており、W 37.0°Nの方向を向く。棺は大半の石材が抜き取られ、一部側石が残存しているに過ぎない。側石は長さ 0.45 m、

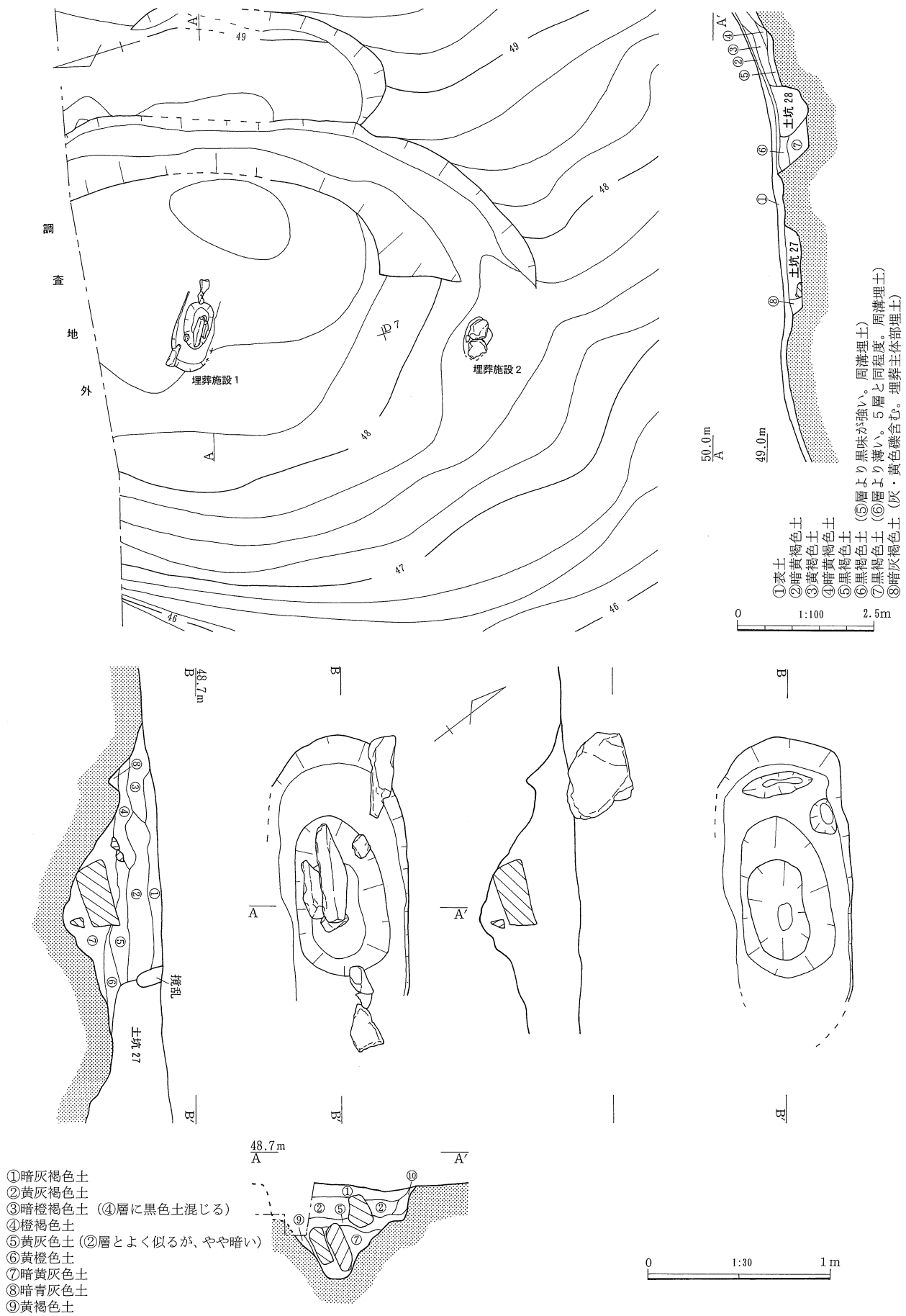



図 53　古市 17 号墳墳丘検出状況および埋葬施設１

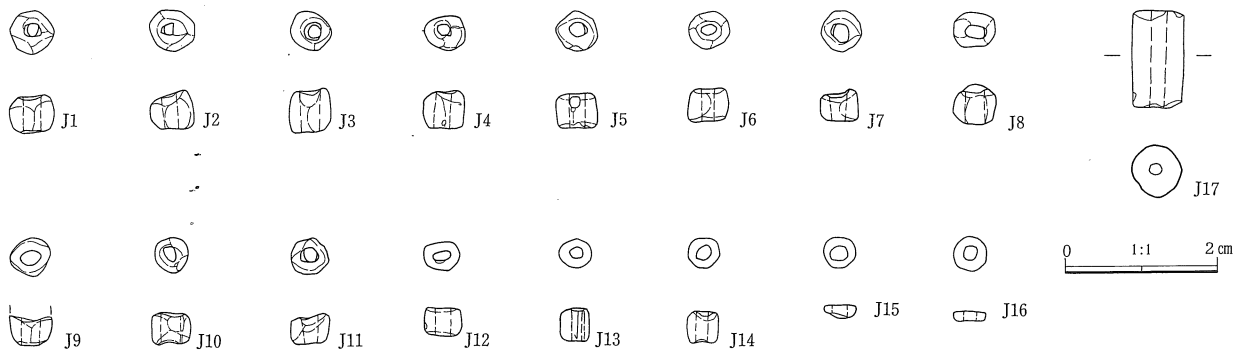
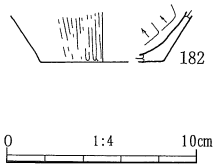



図 54　古市 17 号墳出土遺物




高さ 0.35 m、厚さ 0.15 mの横長の板石１枚で、立った状態で検出された。北側側石の最西端に位置していたものと考えられる。

掘り方も土坑 27 によって切られており、正確な規模は不明であるが、残存長 1.4 m、幅 0.75 m、深さ 0.2 ～ 0.5 mを測る。深さが 0.5 mに達する掘り方中央の掘り込みからは、石棺に用いたと思われる 0.2 ～ 0.5 m大の板石を数点検出した。これは、盗掘等の際にさらに深く掘られた結果と考えられる。大半が破壊されていたが、西側小口で石の抜け跡が確認された。側石と掘り込み内から検出した石棺石材は全て角礫凝灰岩である。

遺物出土状況および出土遺物（図 54、カラー図版 5-2）

埋葬施設１の埋土内からガラス玉を 14 点（Ｊ１～Ｊ 14）、碧玉、青瑪瑙製玉各１点（Ｊ 15、Ｊ 16）、管玉（Ｊ 17）を検出した。多くは埋土の洗いによって検出したものだが、確実に出土位置をおさえているものもある。182 は底部片である。周溝内から出土した。

**埋葬施設２**（図 52、図版 31-5・6）

埋葬施設２は墳丘南側の周溝南端付近に位置する石蓋土壙墓である。長軸は尾根筋に沿っており、W 17.5°N の方向を向く。蓋石は長さ、幅 0.7 m、厚さ 0.08 mの板石２枚で構成され、蓋石同士の継ぎ目には 0.1 ～ 0.2 m大の板石、割石が３個置かれている。蓋石の石材は角礫凝灰岩である。

蓋石の下からは長さ 1.5 m、幅１m、深さ約 0.4 mの土壙が検出された。長軸の方向は石蓋のそれとほぼ同じである。

築造時期

17 号墳の築造時期は、年代を示す資料が検出できなかったため不明である。　（下江）

**古市 18 号墳**（図 55・56、図版 32）

丘陵尾根上に立地し、17 号墳の東、19 号墳の西に位置している。17・18・19 号墳の各間隔は他の古墳と比較して狭く、ほぼ等間隔である。尾根筋の方向が 18 号墳周辺でやや南へ変化しており、周溝の向きもそれにあわせて変化する。墳頂部の標高は約 50.75 mである。

墳丘は地山を削り、後背部を周溝で区切り、埋葬施設を構築した後、墳丘上面に盛土を施す構造である。周溝

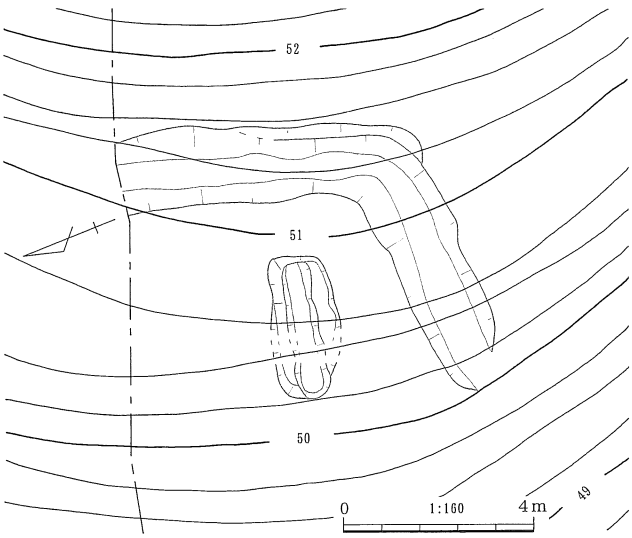



図 55　古市 18 号墳調査前地形測量

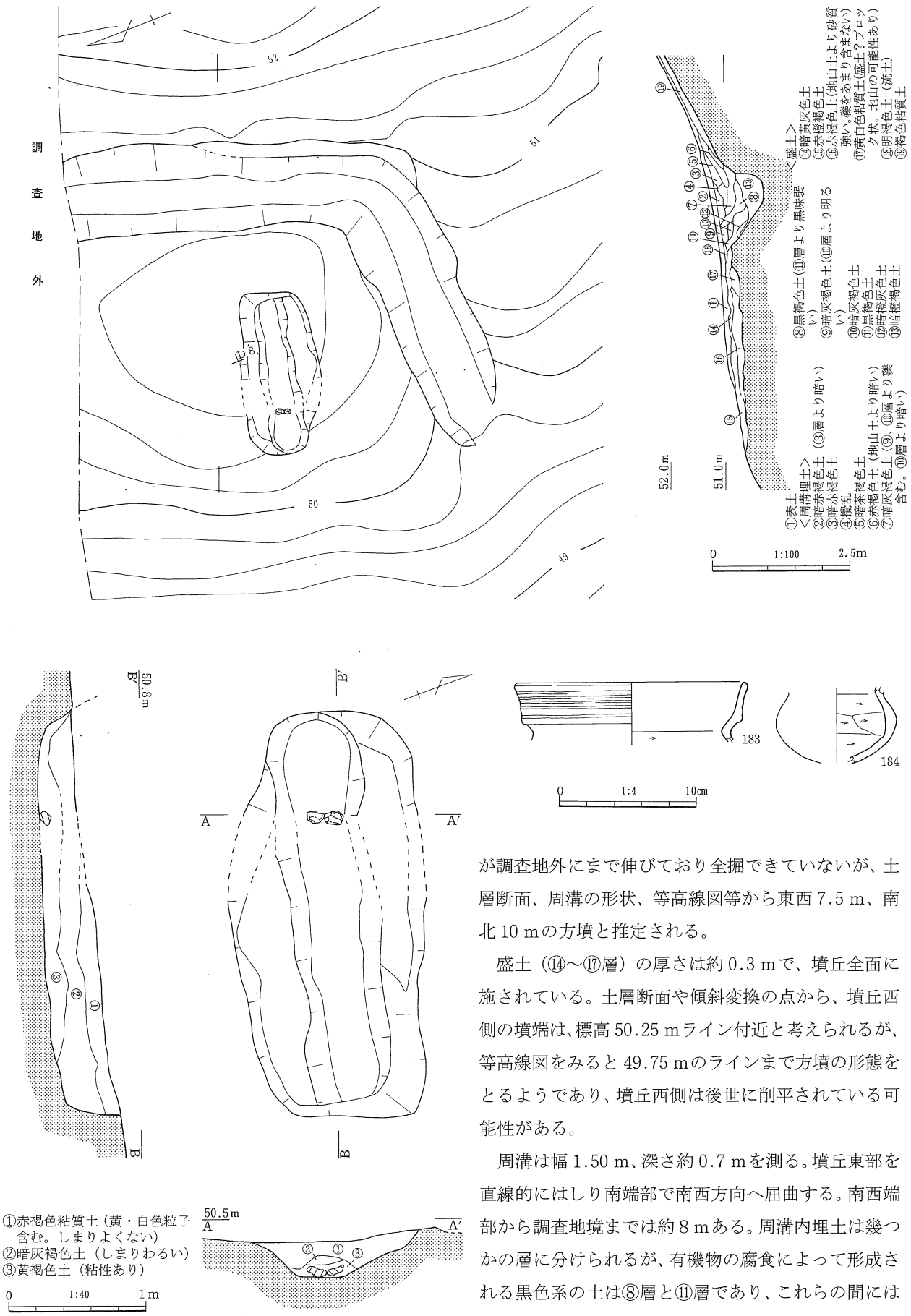



図 56　古市 18 号墳墳丘検出状況、埋葬施設１および出土遺物

が調査地外にまで伸びており全掘できていないが、土層断面、周溝の形状、等高線図等から東西 7.5 m、南北 10 mの方墳と推定される。

盛土（⑭～⑰層）の厚さは約 0.3 mで、墳丘全面に施されている。土層断面や傾斜変換の点から、墳丘西側の墳端は、標高 50.25 mライン付近と考えられるが、等高線図をみると 49.75 mのラインまで方墳の形態をとるようであり、墳丘西側は後世に削平されている可能性がある。

周溝は幅 1.50 m、深さ約 0.7 mを測る。墳丘東部を直線的にはしり南端部で南西方向へ屈曲する。南西端部から調査地境までは約８mある。周溝内埋土は幾つかの層に分けられるが、有機物の腐食によって形成される黒色系の土は⑧層と⑪層であり、これらの間には時期差が考えられる。まず、⑫・⑬層の堆積の後に有機物の沈殿と腐食があり（⑪層）、その後⑨・⑩層の堆

積があり、新たに有機物を含む⑧層が形成される。さらにこの後、19 号墳側から土が流れてきて、一気に周溝を埋めているようである。この土は赤褐色系の土であるので、19 号墳の盛土や地山の土と思われる。

**埋葬施設１**（図 56、図版 32-3）

墳頂部から埋葬施設を１基検出している。墳頂部の中央よりも南側に位置する木棺墓であり、長軸の方向は尾根筋に沿っており、W 21.0°Nである。掘り方は地山削り出しで、長さは 3.0 m、東端幅 0.8 m、西端幅 1.0 m、最大幅 1.4 m、深さ約 0.2 mの隅丸長方形を呈する。木棺はそこからさらに幅 0.5 ～ 0.6 m、深さ約 0.15 mの掘り込みの中に設置されていたと思われる。木棺痕跡は残存しておらず、木棺の詳しい型式等は不明である。床面は地山上面であり、東側の方が約 0.2 m高い。掘り方西側で床面に接する形で 0.1 m大の板石２個が検出された。出土状況から枕石と考えられる。

遺物出土状況および出土遺物（図 56、図版 32-4）

棺内からは枕石が認められただけで、他に遺物は何も検出されなかった。周溝内埋土から土器２点が検出された。183 は弥生土器の甕の口縁部である。二重口縁で、やや外側に直線的に開きながら上方につまみ上げて拡張している。外面には５条の凹線が認められる。184 は弥生土器の小型壺の胴部である。内面に横方向のヘラケズリが見られる。

築造時期

周溝内埋土から出土した土器はいずれも弥生土器で、その形態的特徴から青木遺跡編年Ⅲ期に比定される。出土状況などから見ても、これらの遺物が 18 号墳の築造時期に伴うものとは考えられないので、正確な築造時期は不明である。（下江）

**古市 19 号墳**（図 57 ～ 62、図版 34 ～ 38）

丘陵尾根上に立地し、18 号墳の東、20 号墳の北西に位置する。18 号墳とは隣接しているが、20 号墳とはかなりの間隔があいている。墳頂部の標高は約 53.0 mである。

墳丘は、地山を削り後背部を周溝で区切り、埋葬施設を構築した後、墳丘上面に盛土を施す構造である。周溝が調査地外まで伸びており、全掘できていないが、土層断面、周溝の形状、等高線図等から東西 7.5 m、南北 10 mの方墳と推定される。

盛土（④層）の厚さは約 0.2 mほどで、墳丘全面に施されているが、掘り方より西側には伸びておらず、傾斜変換線である標高 52.75 m付近が墳丘西側の墳端と考えられる。しかし、等高線図では標高 52.25 mまで、方墳の形態をとるようであり、墳丘西側は後世に削平されている可能性がある。

周溝は幅 0.7 ～ 2.0 m、深さ約 0.5 mを測る。墳丘南東部を直線的にはしり、南端部で北西方向へ短く屈曲する。北端部は調査地外で検出できなかったが、南西端部から調査地境までは約 7.5 mである。周溝内埋土（⑩・⑪層）はそれぞれ赤褐色粘質土、明黄褐色土で、地山や盛土が崩れて一気に堆積した土であろう。その後、黒褐色粘質土（⑨層）のような、有機物が腐食してできる黒色系の土が堆積している。

埋葬施設

埋葬施設を墳頂部のほぼ中央から２基検出した。同一の掘り方内に並置した状況で構築されており、ここでは西側の方を埋葬施設１、東側の方を埋葬施設２と呼称する。

墓壙（図 62、図版 35-6）

掘り方はいわゆる二段墓壙で、２基の埋葬施設を設置している。１段目の掘り方は長さ 3.45 m、幅 3.05 m、深さ 0.3 ～ 0.4 mの隅丸方形を呈し、長軸は各埋葬施設の主軸とほぼ平行である。土層断面からみて、２つの埋

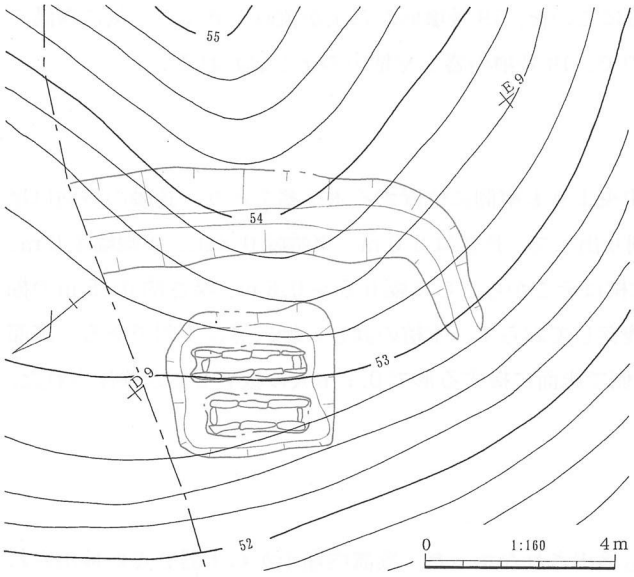



図 57　古市 19 号墳調査前測量

①表土
②暗褐色粘質土（しまりよい。④よりやや暗）
③暗黄褐色粘質土
④褐色粘質土（しまりよい）
⑤暗黄褐色粘質土（白色粒子⑥より多く含む。粘性あり）
⑥暗褐色土
⑦赤褐色粘質土（墓壙埋土）
⑧赤褐色粘質土（白色粒子多く含む）
⑨黒褐色粘質土
⑩赤褐色粘質土（しまりよい。白色粒子多い）
⑪明黄褐色土（やや砂質。しまりややわるい）
⑫攪乱

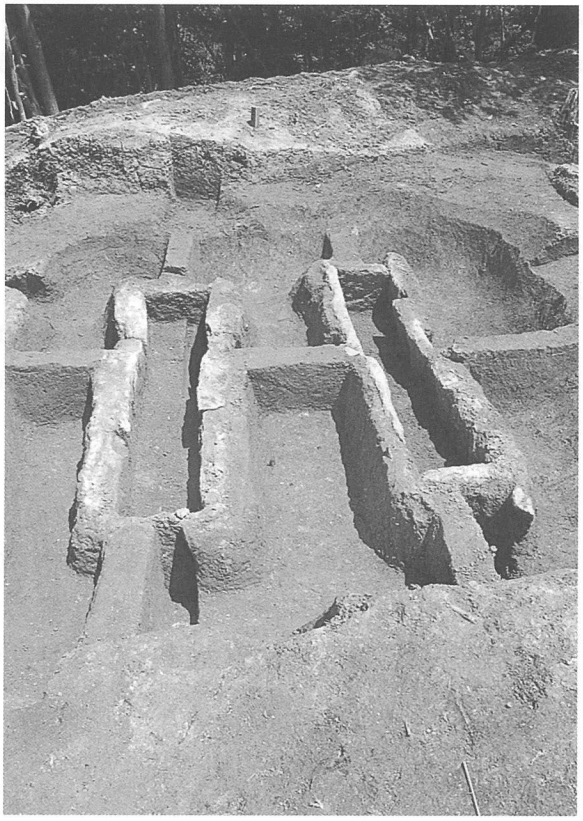


Fig. 6　墓壙内土層断面（南から）

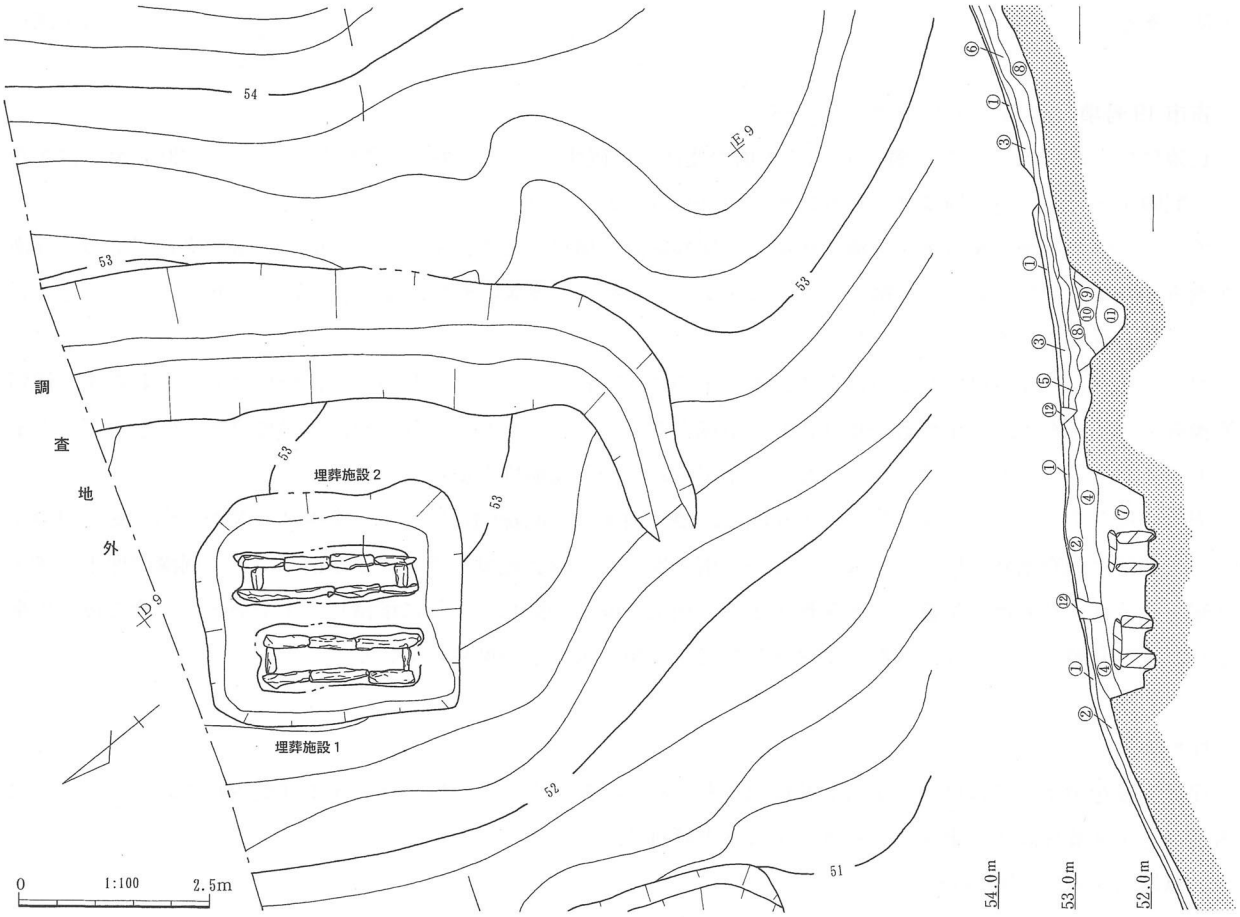
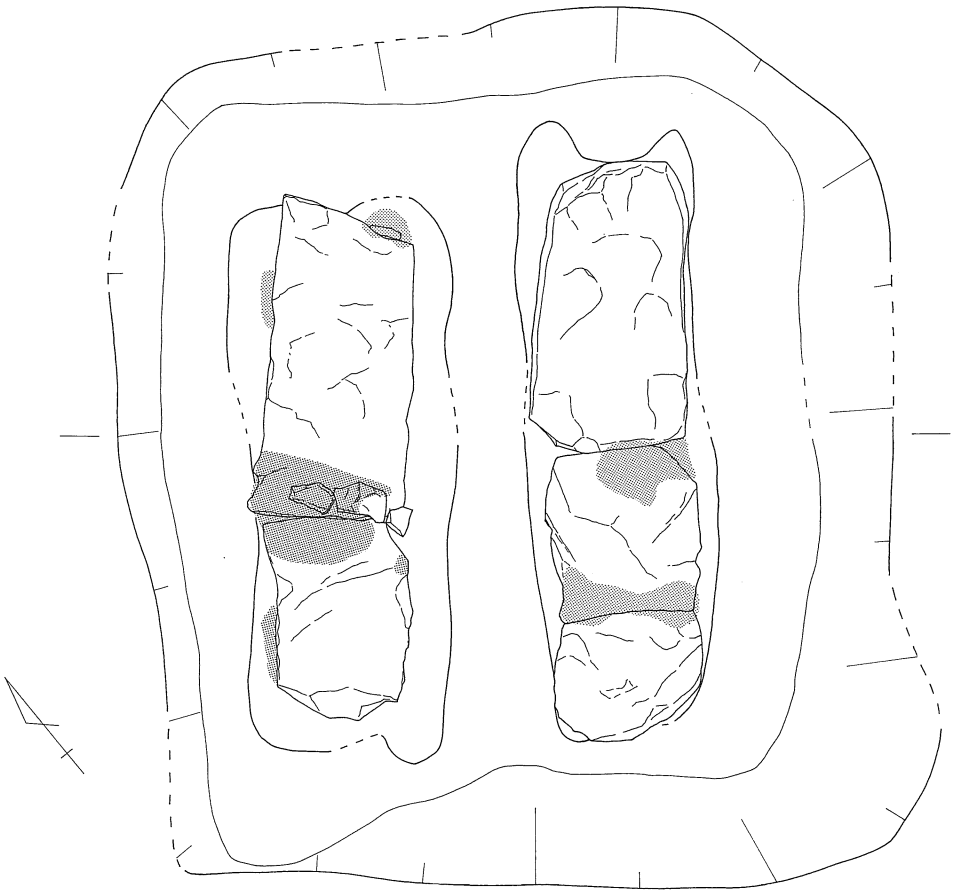



図 58　古市 19 号墳墳丘検出状況



埋葬施設１　　埋葬施設２

①暗赤褐色砂質土（しまりはほとんどなくボソボソ。礫は含まない）
②暗赤褐色土（①層よりしまり、粘性ともに強い）
③橙褐色土（粘性、しまりともにあり。白・青・黄色の礫をまばらに含む）
④暗橙褐色土（しまりがかなり強い。粘性は少ない。白色礫を含む）
⑤暗橙褐色土（④層より明るく、しまり、粘性が強い。白色礫をまばらに含む）
⑥暗褐色粘質土（蓋石上の粘土に類似。しまり、粘性強い）
⑦暗橙褐色粘質土（しまり、粘性ともに強く、白色礫はほとんど含まない）
⑧暗橙褐色粘質土（粘性強く、しまりも強い。⑦に類似）
⑨暗橙褐色土（白色礫をほとんど含まず、粘性、しまりともに強い）
⑩暗橙褐色土（⑨層とほぼ同じ。⑨層よりしまりは弱い）
⑪褐色粘質土（粘性強く、礫をほとんど含まない）
⑫暗褐色土（白色礫をほとんど含まない。粘性やや強く、しまりは弱い）

53.0m

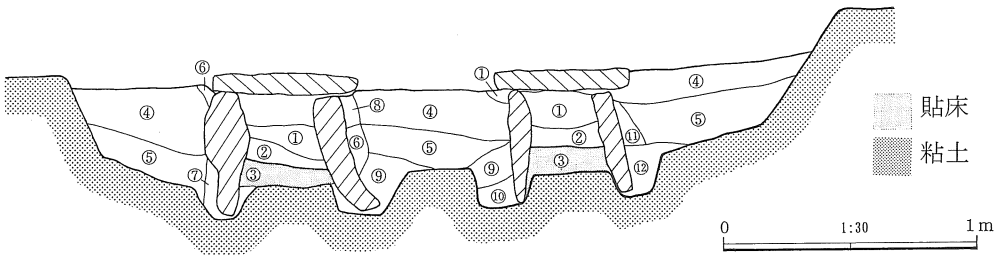


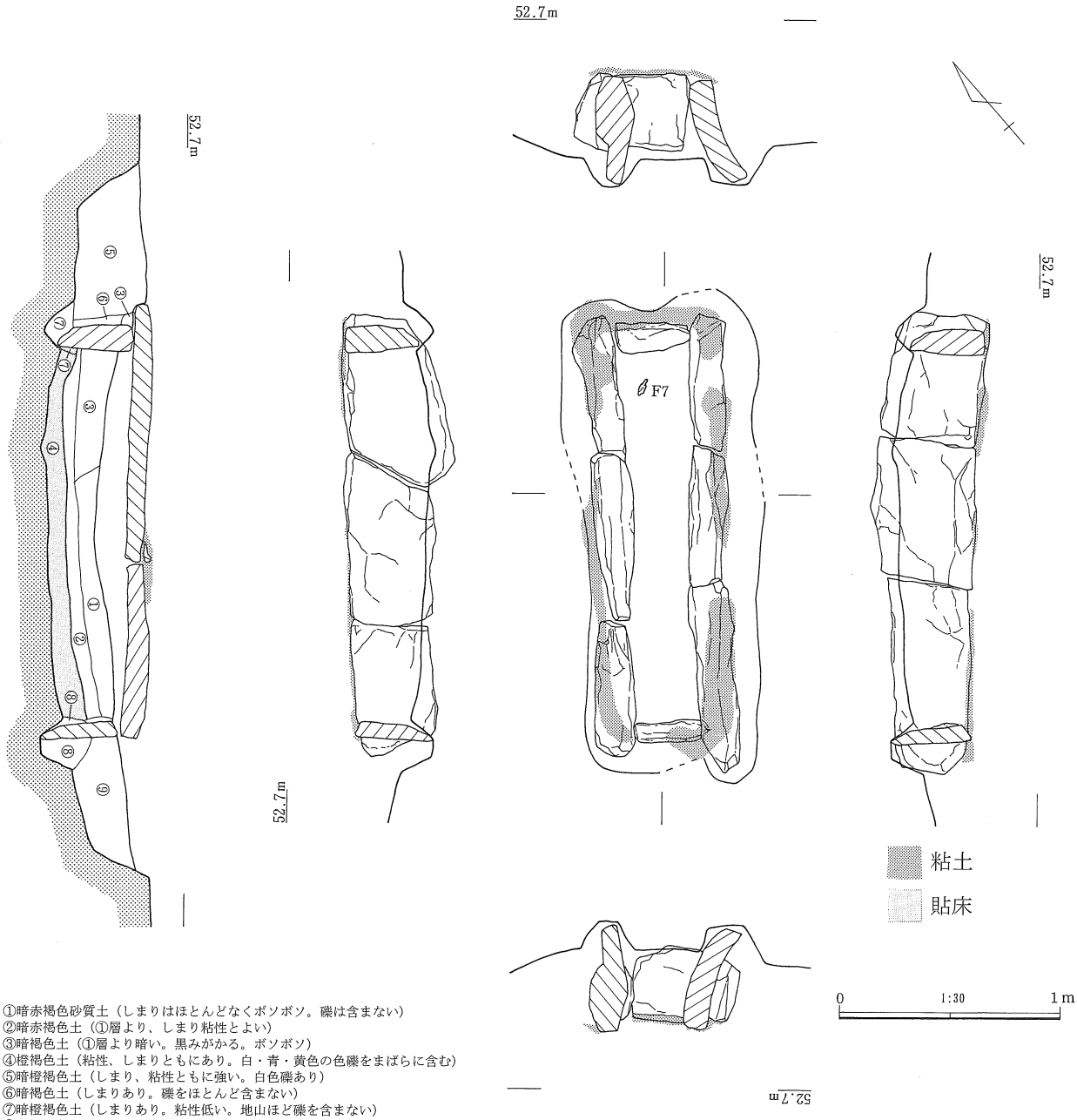

図 59　古市 19 号墳埋葬施設検出状況

葬施設には明確な時期差は認められず、後述するように、棺のつくりも大きくは違っていないことから、２つの埋葬施設はほぼ同時につくられたものと考えられる。

**埋葬施設１**（図 59・60、図版 35 ～ 38）

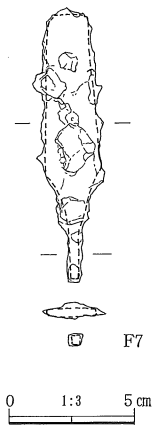
組み合わせ式の石棺である。棺の長軸はN 40.5°E方向を向いており、尾根筋に対してほぼ直交する。棺の長さは内法で1.7 m、北端幅 0.3 m、南端幅 0.3 m、深さ約 0.2 mを測る。

棺の構造は両小口に幅、高さ 0.35 m、厚さ 0.1 m前後の板石をそれぞれ１枚ずつ用いる。西側の側石は長さ 0.75 m、高さ 0.4 m、厚さ 0.15 m前後の板石２枚と長さ 0.6 m、高さ 0.35 m、厚さ 0.2 m前後の横長の板石１枚の計３枚を検出した。しかし、北側の２枚の石は接合する。もともと２枚に分割して設置したのか、それとも土圧等で割れてしまったのか断定できないが、互いに密着し、間に土があまりかまない点から、西側の側石は２枚で構成される可能性が高い。また、東側の側石でも長さ 0.6 m、高さ 0.5 m、厚さ 0.15 m前後の横長の板石２枚と




①暗赤褐色砂質土（しまりはほとんどなくボソボソ。礫は含まない）
②暗赤褐色土（①層より、しまり粘性とよい）
③暗褐色土（①層より暗い。黒みがかる。ボソボソ）
④橙褐色土（粘性、しまりともにあり。白・青・黄色の色礫をまばらに含む）
⑤暗橙褐色土（しまり、粘性ともに強い。白色礫あり）
⑥暗褐色土（しまりあり。礫をほとんど含まない）
⑦暗橙褐色土（しまりあり。粘性低い。地山ほど礫を含まない）
⑧明橙褐色粘質土（しまり、粘性ともに強い。礫をほとんど含まない）
⑨暗橙褐色土（しまり、粘性ともに強い。白色礫あり）

図 60　古市 19 号墳埋葬施設１および出土遺物




長さ 0.85 m、高さ 0.35 m、厚さ 0.15 m前後の横長の板石１枚の計３枚を検出した。しかし、これら３枚の側石は全て接合し、１枚の板石となる。これも、もとから３枚の側石として設置したのか、土圧等で割れたのか断定できないが、西側の側石と同様に、互いに密着し、間に土があまりかまない点から、東側の側石は１枚であった可能性が高い。これらの側石が両小口石を挟み込むようにして組み合っており、側石同士の組み合わせは両側石共に平継ぎである。棺幅にばらつきが少なく、石そのものも大型で平滑なものであり、全体的に整美な印象を受ける。

蓋石は長さ 1.2 m、幅 0.6 m、厚さ 0.1 m前後の縦長の板石１枚と、長さ 0.8 m、幅 0.5

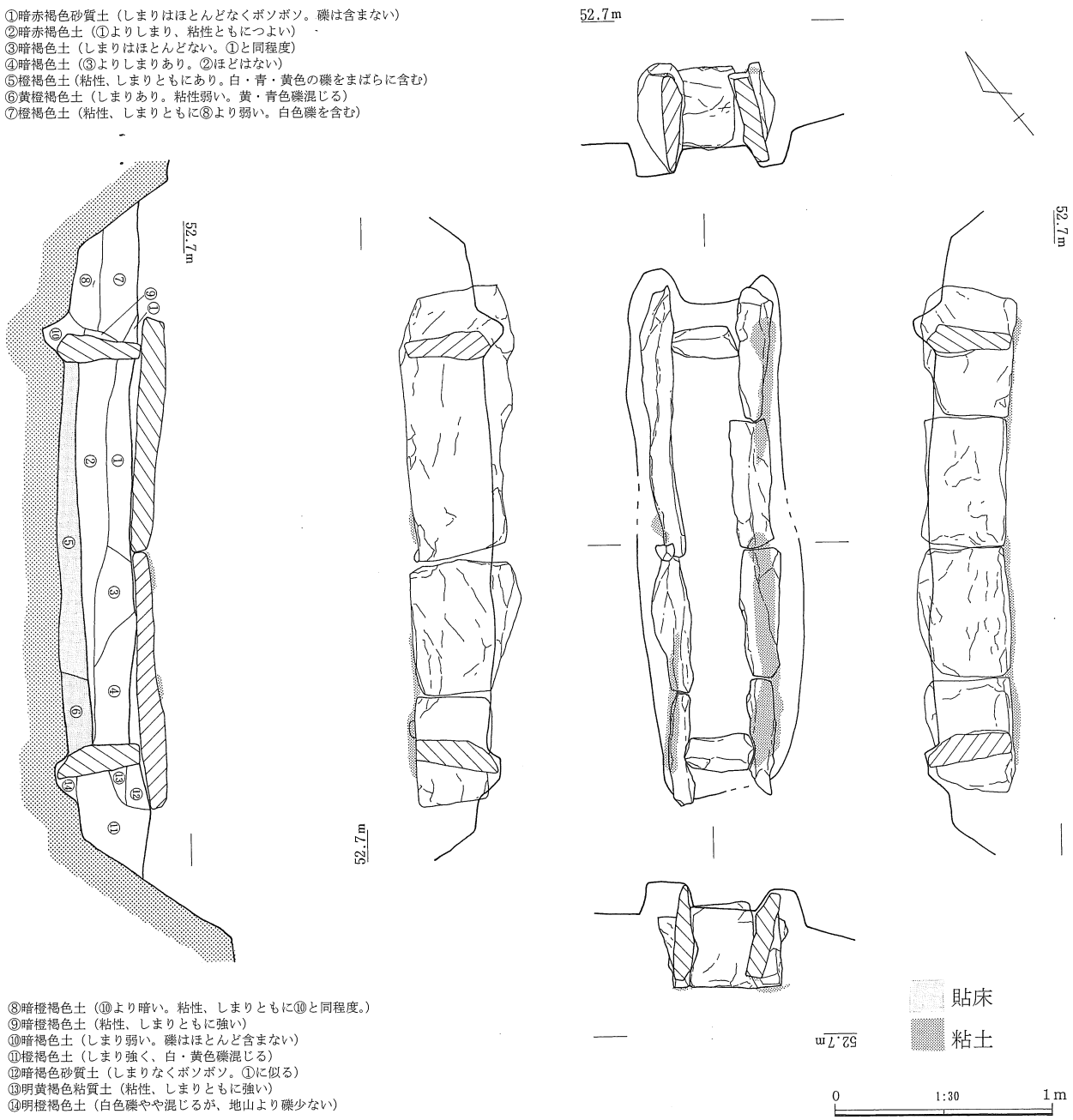



図 61　古市 19 号墳埋葬施設２

m、厚さ 0.1 m前後の板石１枚の計２枚で構成されている。蓋石上面では粘土が検出されている。特に良好な状況であるのが、蓋石同士の継ぎ目付近で、継ぎ目を覆うように幅約 0.4 m、厚さ約 0.05 mの粘土が帯状に検出されている。また、この粘土の中から、蓋石の継ぎ目に沿うように 0.1 m大の割石２個が検出された。粘土は蓋石と小口石、側石との間でも検出されており、その範囲は棺を囲むように両小口石、両側石上で検出され、丁寧なつくりであったことが窺える。床面は地山を削り、厚さ 0.1m ほどの橙褐色土（④層）で貼床としている。床面の高さは南側の方が約 0.05 m高い。なお、蓋石、側石、小口石等、石棺に使用された石材は全て角礫凝灰岩である。

埋葬施設１の石棺石材を直接埋め込む２段目の掘り方は長さ 2.1 m、幅 0.5 ～ 0.6 mの範囲で隅丸長方形を呈し、小口、側石の設置場所に幅 0.25 m、深さ 0.15 mほどの溝を掘り込んでおり、床面部分を残している。

遺物出土状況および出土遺物（図 60、図版 38）

石棺北側の貼床上面から鉄鏃（Ｆ７）を、刃部の先端を南西の方角に向けている状況で検出した。鉄鏃はいわ

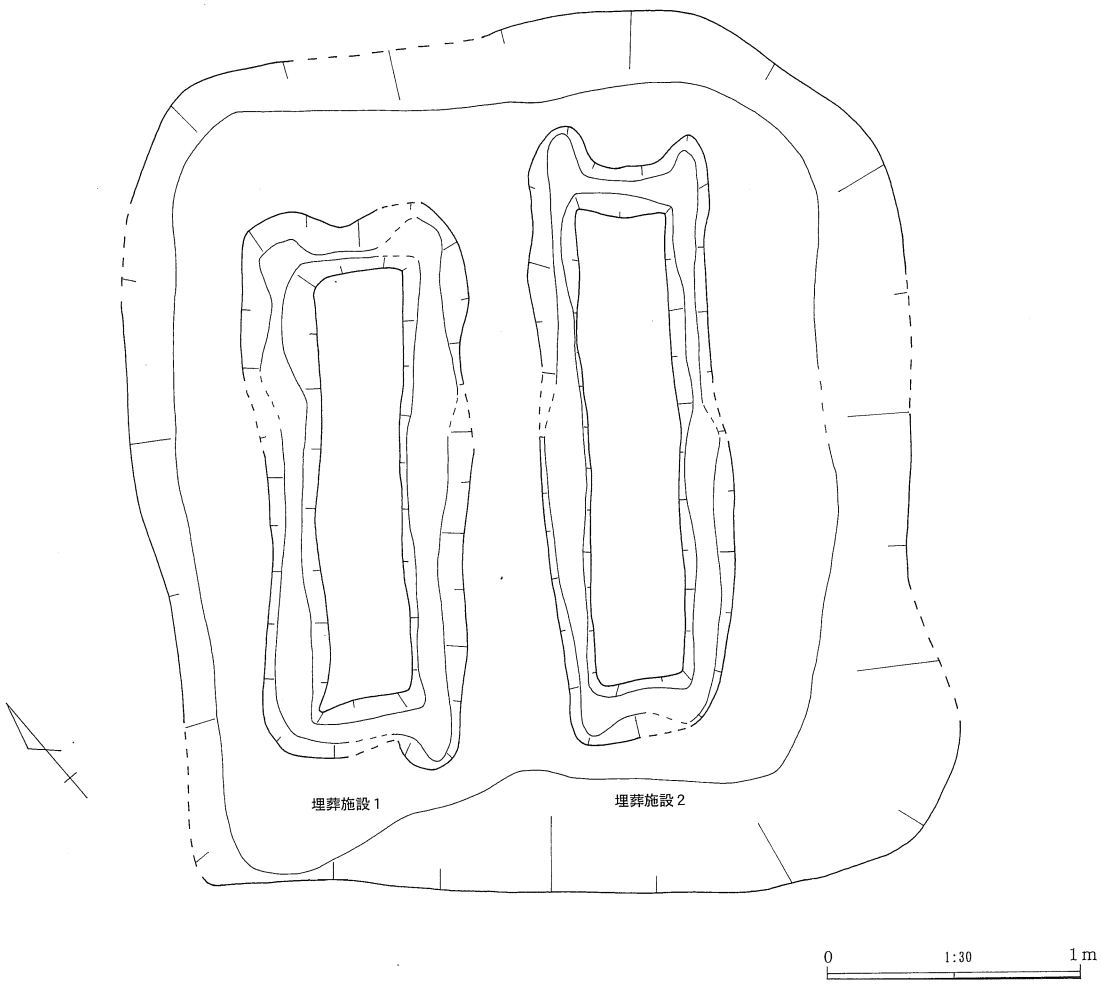



図 62　古市 19 号墳埋葬施設完掘

ゆる長鋒柳葉式で、関はなく刃部下端から内湾し、茎に至る。先端部はやや欠損しているようであるが、全長 10.8㎝、刃部長 6.3㎝、最大幅 2.3㎝、重量は 25.6 g を測る。

**埋葬施設２**（図 59・61、図版 35 ～ 37）

組み合わせ式の石棺である。棺の長軸はN 39.0°Eを向き、尾根筋とほぼ直交し、埋葬施設１の長軸方向とほぼ平行である。棺の長さは内法で 1.75 m、北端幅 0.31 m、南端幅 0.27 m、深さ約 0.2 mを測る。

棺の構造は、小口石に幅 0.3 m、高さ 0.4 m、幅 0.1 m前後の縦長の板石をそれぞれ１枚ずつ用い、側石は西側で、長さ 1.25 m、高さ 0.45 m、厚さ 0.1 m前後の横長の板石１枚と長さ 0.6 m、高さ 0.45 m、厚さ 0.15 m前後の横長の板石１枚と長さ 0.5 m、高さ 0.35 m、厚さ 0.1 m前後の横長の板石１枚の計３枚、東側で長さ 0.6 m、高さ 0.4 m、厚さ 0.1 m前後の横長の板石４枚で小口石を挟み込むようにして組み合わせている。特に小口北側では側石が 0.2 mほど突き出ている。側石同士の組み合わせは平継ぎである。

蓋石は長さ 1.15 m、幅 0.6 m、厚さ 0.1 mの縦長の板石１枚と、長さ 0.65 m、幅 0.6 m、厚さ 0.1 mの正方形に近い板石１枚と、長さ 0.5 m、幅 0.6 m、厚さ 0.1m の横長の板石３枚で構成されている。蓋石上面では粘土が検出されており、蓋石同士の継ぎ目に帯状に施されている。粘土は蓋石と小口石、側石との間でも見られ、北側の小口石と側石以外の上面で検出できた。床面は地山を削り、黄橙褐色土（⑥層）と橙褐色土（⑤層）で厚さ 0.1 mほどの貼床としている。床面は約 0.05 mほど南側が高い。なお、蓋石、側石、小口石等、石棺に使用された石材は全て角礫凝灰岩であり埋葬施設１と同じであるが、規模、両側石の大きさの不統一さや側石の突き出し方など、棺の構造において埋葬施設１と若干異なる点がいくらかある。

埋葬施設２の石を直接埋め込む２段目の掘り方は長さ 2.25 m、幅 0.6 ～ 0.75 mの隅丸方形の範囲に、幅深さ約 0.1 mほどの溝を掘り込んでいる。長軸の向きは石棺とほぼ同じである。

築造時期

19 号墳の築造時期を示す資料としては、埋葬施設１の棺内で検出した鉄鏃のみである。鉄鏃では細かい時期を決めることはできないが、長鋒柳葉式の中でも形態的に古墳時代前期後半以降のものであろう。　（下江）

**古市 20 号墳**　（図 63 ～ 69、図版 39 ～ 43）

丘陵尾根上に立地しているが、他の古墳と比較して平坦な場所に墳丘を築いている。19 号墳の南東、22 号墳の北西に位置し、19 号墳、22 号墳それぞれの古墳との間隔は他の古墳間と比較して広い。墳頂部の標高は約 56.50 mである。

墳丘は地山を削り、後背部を周溝で区切り、埋葬施設を構築した後盛土を施す構造である。さらにその後、もう１基の埋葬施設を盛土上面から掘り込んで構築している。土層断面、周溝の形状、等高線図等から東西 12 m、南北 15 mの不整形な円墳と考えられる。これは今回調査した古墳群の中で最も規模の大きなものである。

最初の埋葬施設は、地山と弥生時代の住居である竪穴住居跡６の埋土（⑤層）を削って構築され、盛土（②・③層）を墳丘全面に施す。この盛土は厚さ約 0.4 ～ 0.5 mあり、他の古墳と比較しても厚い。その後、周溝を掘削し、⑥⑦層が周溝埋土として堆積する。また、先に周溝を削り、盛土によって、周溝の墳丘側の斜面を形成していたことも考えられる。しかし、土層断面で見る限り、明確なカットの跡や斜面をつくり出すのに必要と思われる細かい盛土の単位などは認められないので、どちらの工法で築造されたかは不明である。

周溝は、先述したように、墳丘側の斜面に盛土が施されており、幅 1.2 ～ 2.1 m、深さ約 0.25 mを測る。墳丘南東部から北東部にかけて弧状にめぐり、北東端は調査地外で検出できなかったが、南東端から調査地境までは約 15.0 mほどである。周溝内埋土は暗褐色粘質土（②層）と暗灰褐色土（③層）で、有機物の腐食によって形成される黒色系の土とは異なり、盛土や地山などが流出し一気に堆積したものと考えられ、古墳築造当初はさらに厚い盛土が施されていた可能性がある。

埋葬施設

埋葬施設は墳頂部より２基、墳丘外で周溝南側より１基検出されている。墳頂部の埋葬施設は先述したように時期差が認められ、新しくつくられた方を埋葬施設１、最初につくられた方を埋葬施設２、墳丘外のものを埋葬施設３と呼称する。

**埋葬施設１**（図 65・66、図版 40-1 ～ 3）

墳丘の中央よりやや南側に位置している組み合わせ式の石棺である。棺の長軸はN 43.0°W方向を向いており、尾根筋に対してほぼ平行である。棺の長さは内法で 1.7 m、西端幅 0.3 m、東端幅 0.41 m、深さ約 0.2 mを測る。

棺の構造は、両小口にそれぞれ高さ 0.4 m、幅 0.35 m、厚さ 0.1 m前後、高さ 0.5 m、幅 0.4 m、厚さ 0.2 m前後の縦長の板石を１枚ずつ用い、側石は北側で長さ 0.85 m、高さ 0.4 m、厚さ 0.15 m前後、長さ 0.7 m、高さ 0.35 m、厚さ 0.1 m前後の大型の横長の板石と、長さ 0.5 m、高さ 0.45、厚さ 0.1 m前後の板石の計３枚、南側で長さ 0.6 m、高さ 0.3 m、厚さ 0.05 m前後の板石４枚で小口石を挟み込むようにして組み合わせている。なお、南側の側石で 0.3 m大の小さなものがあるが、これは隣接する側石と接合し、もともとは１つの板石であったと考えられる。意図的に割った可能性もあるが、石材があまりに小型である点や、互いに密着して、間にあまり土をかんでいない点からも、土圧等で割れたものと考えられ、数には入れていない。側石同士の組み合わせは、北側では平継ぎであるが、南側では小口東側から２石目と３石目、３石目と４石目がそれぞれ重なり合う、いわゆる重ね継ぎである。

蓋石は長さ 0.6 m、幅 0.5 m、厚さ 0.08 m前後の横長の板石４枚と長さ 0.3 m、幅 0.4 m、厚さ 0.05 m前後

の横長の板石１枚の計５枚で構成され、さらに東側第１石の東端上面で0.1ｍ大の割石が数個置かれている。蓋石全体として、検出時で長軸の長さ2.25ｍ、幅約0.7ｍを測る。充填用の粘土は検出していない。床面は地山を削って形成し、0.15ｍほど東端の方が高い。なお、蓋石、側石、小口石等、石棺に使用された石材は全て角礫凝灰岩である。

掘り方は長さ2.73ｍ、幅0.75～1.02ｍ、深さ約0.2ｍの隅丸長方形を呈し、長軸は棺のそれとほぼ同じである。盛土上面から掘り込まれており、埋葬施設２の一部を掘削している。掘り方底面では小口石、側石各１石ごとにあわせた掘り込みを検出した。溝状に連続するのではなく、石ごとに大きさや深さが違う点は他の埋葬施設とは異なる。

**埋葬施設２**（図67・68、図版41～43）

20号墳墳頂部において最初に築造された埋葬施設であり、墳丘のほぼ中央に位置している組み合わせ式の石棺である。棺の長軸はN 41.5°E方向を向いており、尾根筋と埋葬施設１の長軸とにほぼ直交する。棺の長さは内法で1.68ｍ、北端幅0.35ｍ、南端幅0.24ｍ、深さ約0.3ｍを測る。

棺の構造は両小口にそれぞれ高さ0.4ｍ、幅0.3ｍ、厚さ0.1ｍ前後、高さ、幅0.4ｍ、厚さ0.1ｍ前後の板石を１枚ずつ用い、側石は東側で長さ0.6ｍ、幅0.3ｍ、厚さ0.1ｍ前後の横長の板石４枚、西側で長さ1.05ｍ、幅0.3ｍ、厚さ0.15ｍ前後、長さ0.9ｍ、幅0.25ｍ、厚さ0.1ｍ前後の大型の横長の板石２枚と、長さ、幅0.4ｍ、厚さ0.1ｍ前後の板石１枚の計３枚で小口石を挟み込むようにして組み合わせ、両小口より側石が大きく突出している。また、側石の石材には0.1ｍほどの高さのズレが見られ、そのズレを調整するため両側石の下に0.1～0.3ｍ大の板石や割石が数個置かれ、粘土も検出された。側石同士の組み合わせは両側石とも平継ぎである。

蓋石は長さ0.85ｍ、幅0.6ｍ、厚さ0.09ｍ前後、長さ0.14ｍ、幅0.6ｍ、厚さ0.9ｍ前後の縦長の板石２枚を用いており、検出時で長さ2.2ｍ、幅0.45～0.6ｍを測る。２枚の蓋石の間には隙間を埋めるための粘土が帯状に検出された。この粘土は蓋石と小口石、側石との間でも認められる。また、蓋石の裏面では側石と接する部分で内側よりも数cm低く加工しており、この加工痕は両蓋石の長軸方向の両縁辺で見られ、小口側では見られない。床面は地山を削り、厚さ0.1ｍほどの暗赤褐色土（⑦層）で貼床としている。床面の高さの差はほとんどない。石棺の北側床面上で土師器転用枕を検出した。なお、蓋石、側石、小口石等、石棺に使用された石材は全て角礫凝灰岩である。

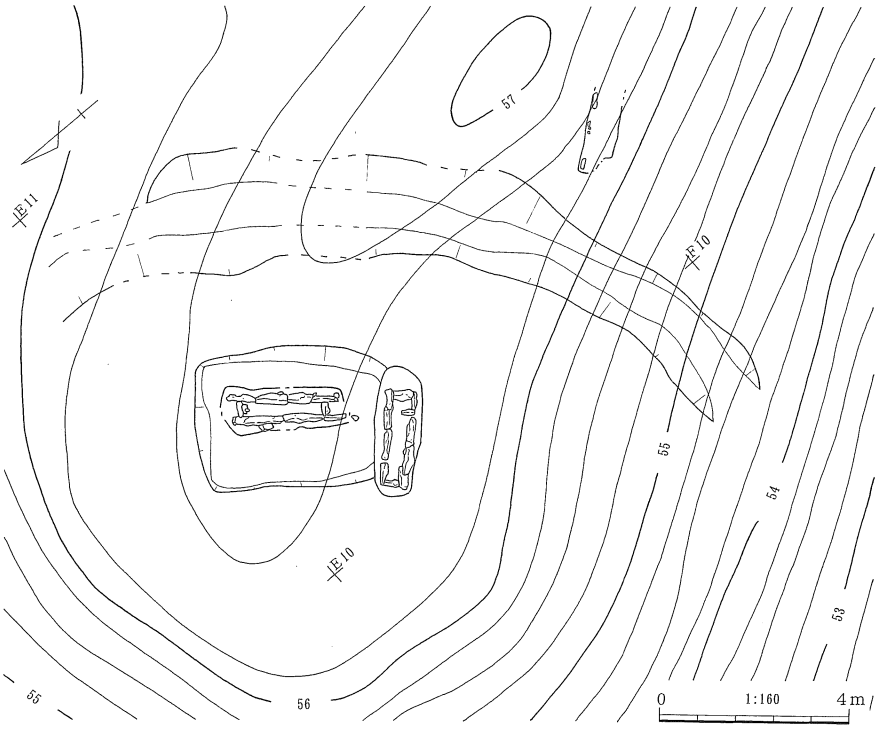
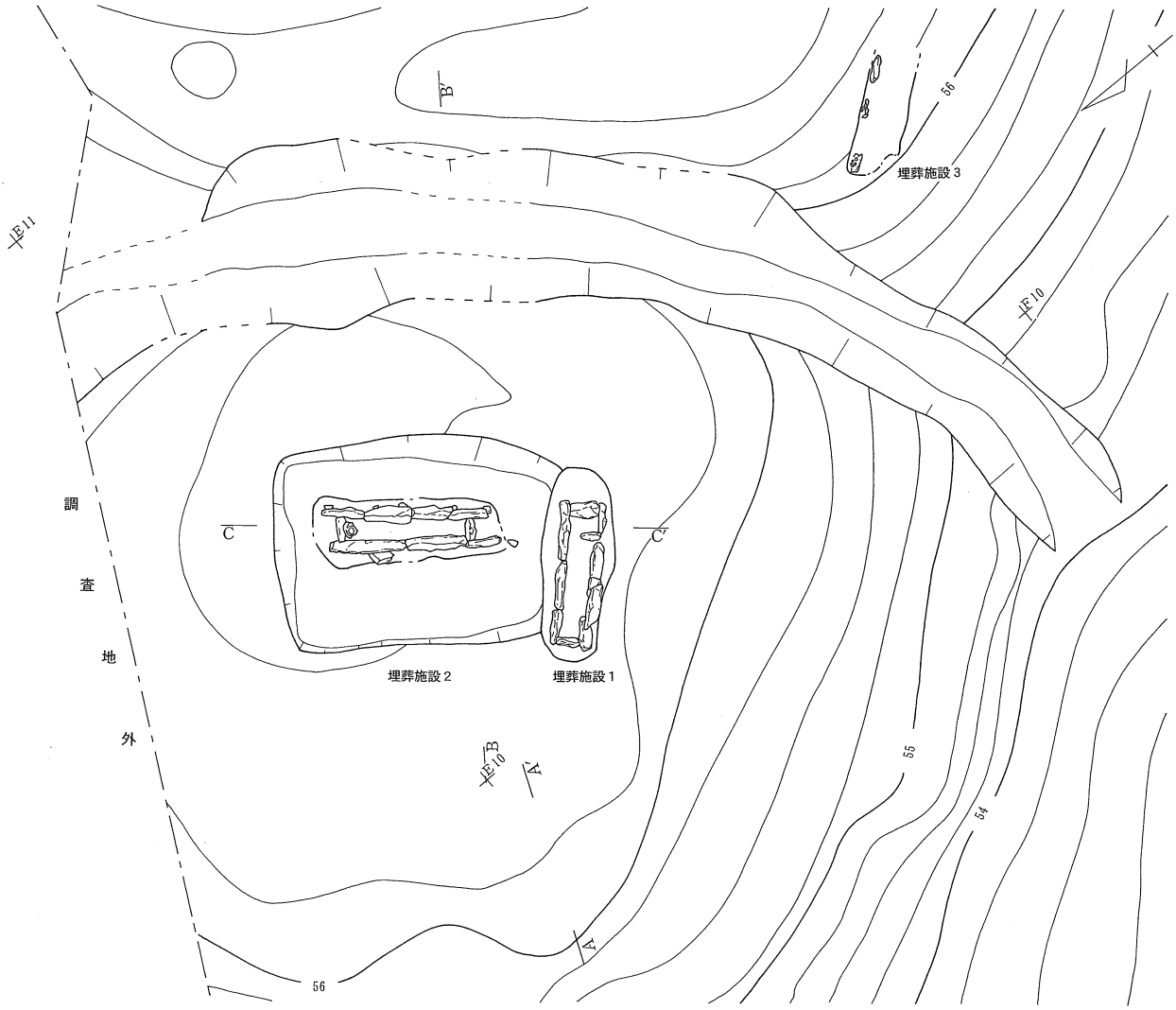
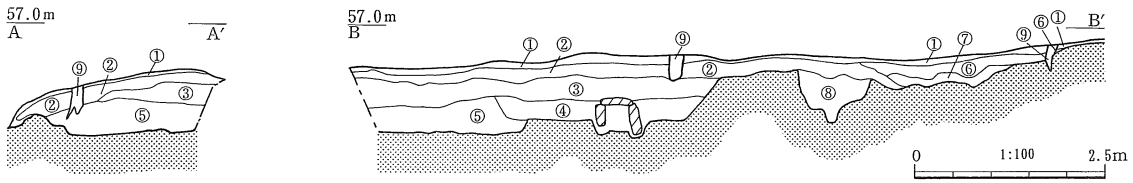


図63　古市20号墳調査前測量

掘り方は、南西部を埋葬施設１によって切られているが、推定で長さ4.2ｍ、幅2.4～3.0ｍ、深さ0.2～0.6ｍを測る大型の隅丸方形を呈し、先述した２つの石棺をおさめている19号墳の掘り方よりも大きい。石棺の長軸は掘り方の長軸線よりも東側に寄っており、この掘り方でも２基の埋葬施設を並置させようとした可能性がある。また、石棺の構築に直接的に関わる掘り方がさらに掘り込まれており、いわゆる二段墓壙の形態をとる。２段目の掘り方は、長さ2.65ｍ、幅0.75～1.0ｍ、深さ約0.15ｍの隅丸長方形を呈し、




①表土
②暗褐色粘質土（しまり強い。白色粒子多く含む）
③赤褐色粘質土（やや暗い。しまりややわるい。白色粒子多く含む）
④赤褐色粘質土（しまりわるい。白色粒子多く含む）
⑤竪穴住居跡５埋土
⑥暗褐色粘質土
⑦暗灰褐色土（やや粘質。白色粒子含む）
⑧土坑３０埋土
⑨攪乱

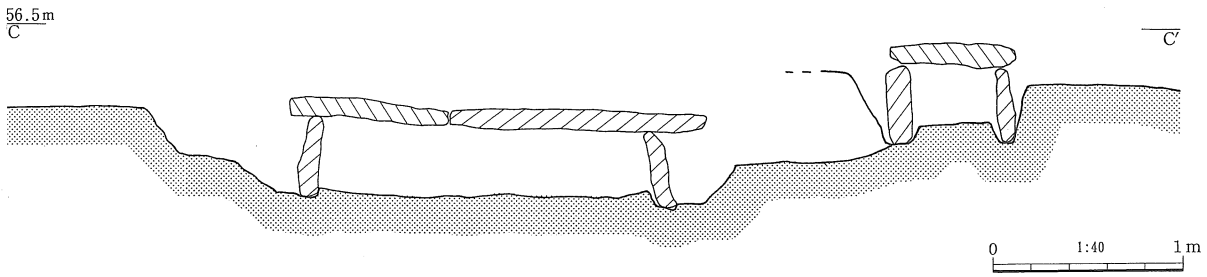



図 64　古市 20 号墳墳丘検出状況

長軸は棺のそれとほぼ同じである。床面の部分を数cm高く残し、小口石と側石の設置場所を溝状に深く掘り込んでいる。２段目の掘り方からは埋土に混じって粘土も検出されている。

遺物出土状況および出土遺物（図 68、図版 42）

棺内では北側の小口付近から貼床面に接して土師器壺の口縁部から頸部にかけての部分が検出された(185)。口縁部を下にして土器を立たせており、さらに頸部から胴部にかけての一部分を打ち欠いて、被葬者の頭部を据えやすい様にしている。出土状況から土師器壺を枕として転用したものと考えられる。口縁部は二重口縁で、やや外反する。凹線は認められず、頸部に細い突帯を貼り付けている。内面は横方向のヘラケズリが認められる。

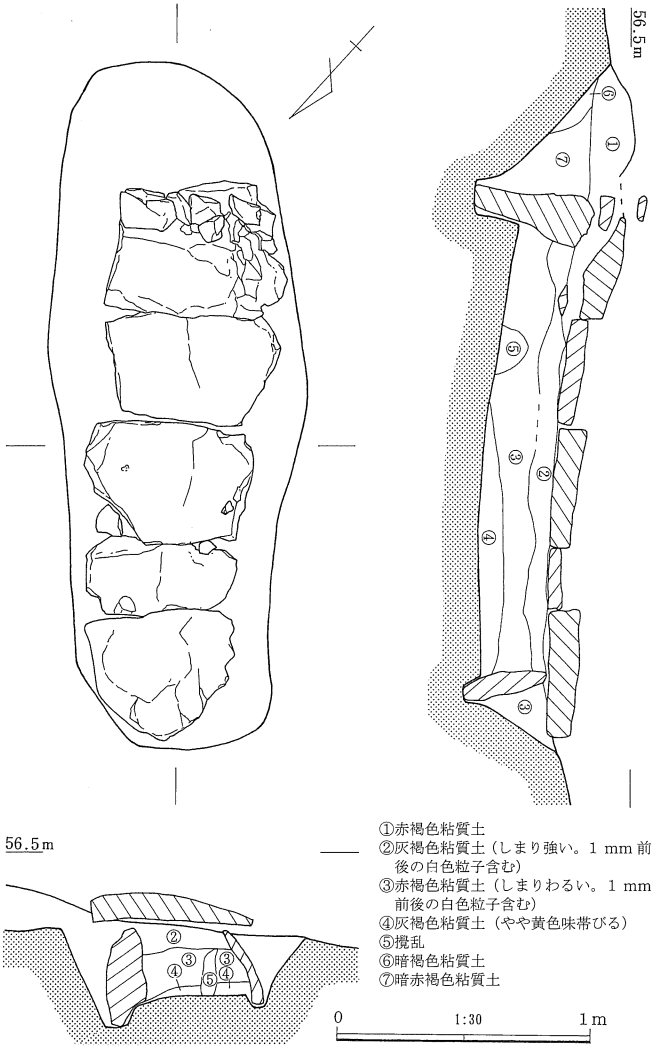



図 65　古市 20 号墳埋葬施設１検出状況

**埋葬施設３**（図 69、図版 40-4）

丘陵尾根上平坦部の南端に立地し、20 号墳南側の周溝の外に位置する。0.4 m大の石材が露頭しており、周囲を精査すると石材を取り囲むように掘り方が検出されたので埋葬施設と考えた。先述したように 22 号墳と 20 号墳との間隔が広く、周溝の外側であることから、もう１つ古墳が存在する可能性も考えトレンチを入れるなどしたが、新たな古墳は確認できなかった。よってここでは、20 号墳の周辺埋葬施設として考えておきたい。

検出時では棺の形態をとどめておらず、掘り方内から幾つかの板石や割石か検出されただけだが、組み合わせ式の石棺であると思われる。長軸は、掘り方や残存していた側石の配置からＮ 37.0°Ｗの方向を向いていたと考えられ、尾根筋に沿っている。側石は南西側の一部が残存していた。最も西側の石が大きく、長さ 0.4 m、高さ 0.3 m、厚さ 0.1 m前後の横長の板石で、立った状態で検出した。最も東側の石は床面付近のみが残存しており、形状から、もともとはより大きな板石であったのが、掘削された際に割れて、残存したと思われる。この他にも床面付近で 0.1 ～ 0.2 m大の板石、割石が検出されている。これらは、埋葬施設２と同様に、高さの調整の為に大型の側石の下に置かれたものと思われる。なお、蓋石、側石、小口石等、石棺に使用された石材は全て角礫凝灰岩である。

掘り方はトレンチや後世の掘削等によって切られ、正確な規模はわからないが、残存長 1.46 m、幅 0.45 ～ 0.65 m、深さ約 0.18 mを測る。床面は地山を削って形成されたと考えられるが、盗掘等によって削られている可能性もある。南側では側石を据えるための幅 0.1 m程度の溝を検出した。

遺物出土状況および出土遺物　（図 69）

掘り方内①層から、土師器甕の口縁部を検出した（186）。残存部分が多くないが、口縁部は直線的に外側へ開き、凹線は認められない。内面でわずかに横方向のヘラケズリが見られる。

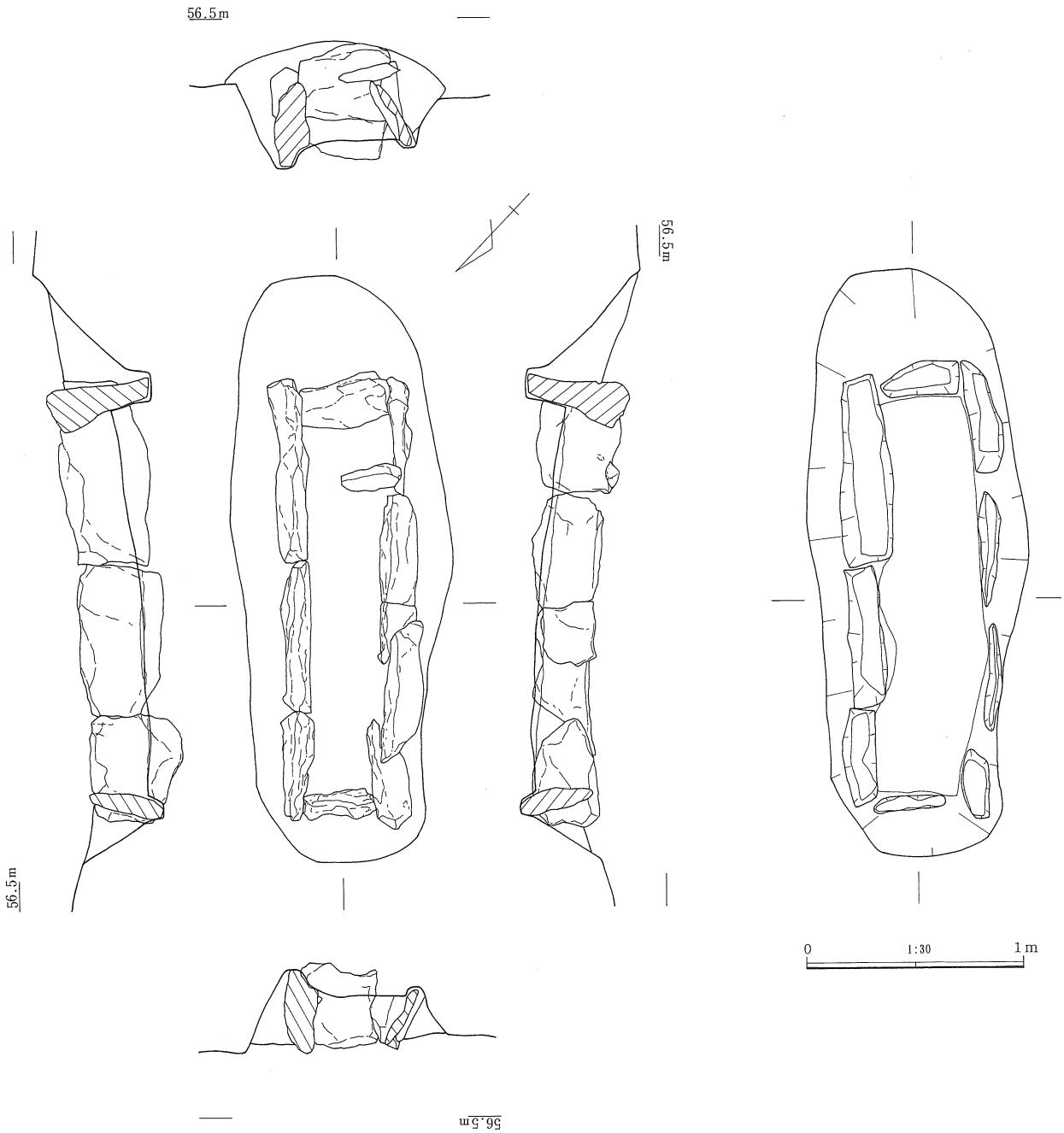



図 66　古市 20 号墳埋葬施設 1

築造時期

埋葬施設１の構築時期、つまり 20 号墳の築造時期は棺内で検出した、枕に転用された土師器壺から知ることができる。壺の形態的特徴から、青木遺跡編年のⅦ期古段階に比定される。埋葬施設３の掘り方内出土の土師器甕は口縁部の特徴から青木遺跡編年のⅦ期のものと考えられるが、小片のため詳細は分からない。　（下江）

**古市 21 号墳**（図 70、図版 33）

古墳が連続して築かれている丘陵尾根上からややはずれた尾根南側の斜面部に立地し、15 号墳の南東、16 号墳の南西に位置する。中世後期の包含層である黄褐色土層（①層）の下面で周溝および埋葬施設を検出した。墳頂部の標高は約 42.75 m である。

墳丘は、後背部を周溝で区切るだけの単純な構造で、土層断面、周溝の形状や等高線図等から径３m の円墳と考えられる。盛土は確認できなかったが、中世後期の包含層が覆っており、周溝の深さが浅いことからもこの段

階に削平された可能性が考えられる。

周溝は幅 0.2 ～ 0.5 m、深さ約 0.2 m を測る。墳丘北東部を弧状にめぐり、両端部の距離は約 3.0 m ほどである。周溝埋土（②層）は有機物の腐食によって形成される黒色系の埋土である。

**埋葬施設１**（図 70、図版 33-2・3・5）

墳丘上より埋葬施設を１基検出した。墳丘のほぼ中央に位置し、おそらく木棺墓と思われる。棺の掘り方の長

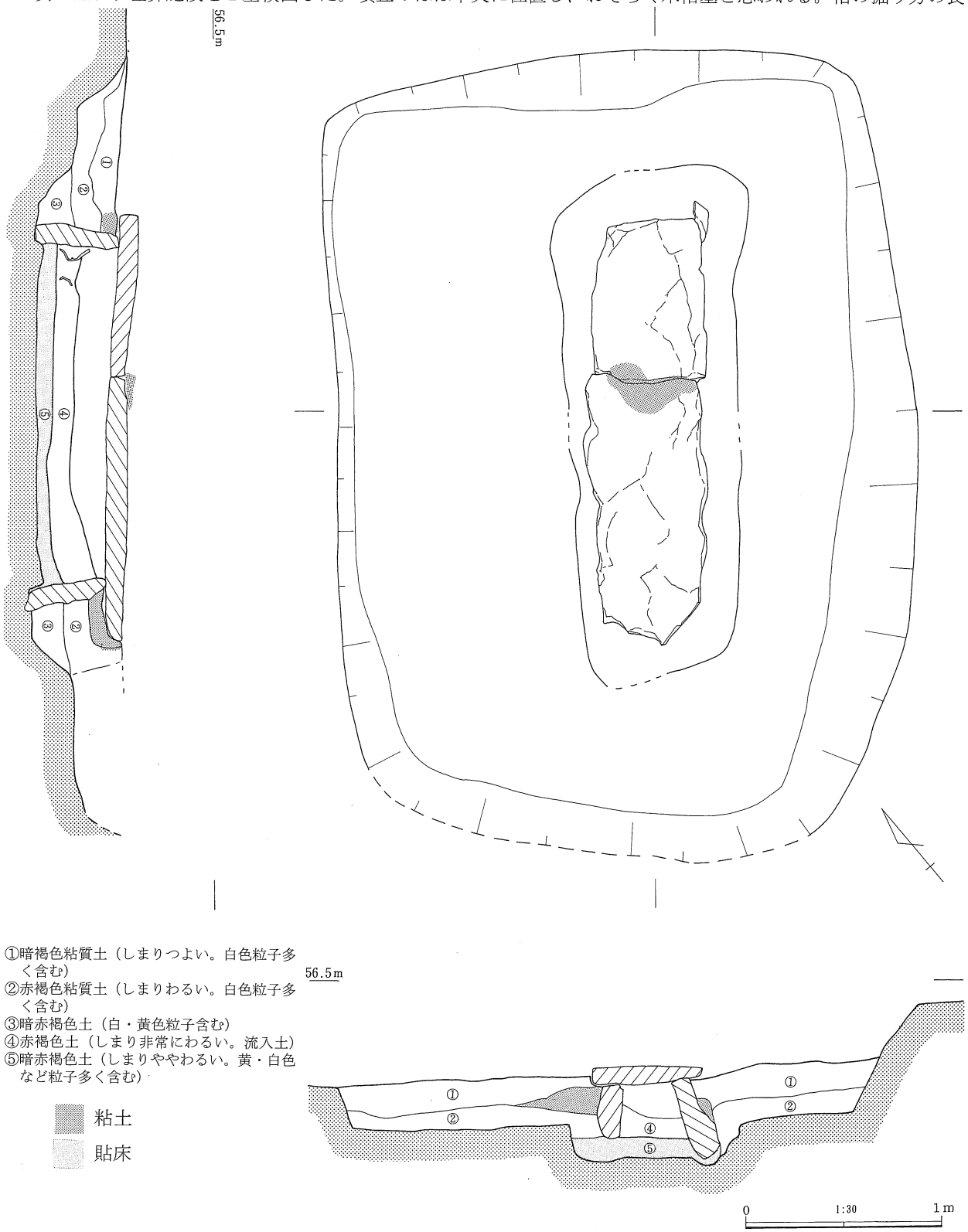



図 67　古市 20 号墳埋葬施設２検出状況

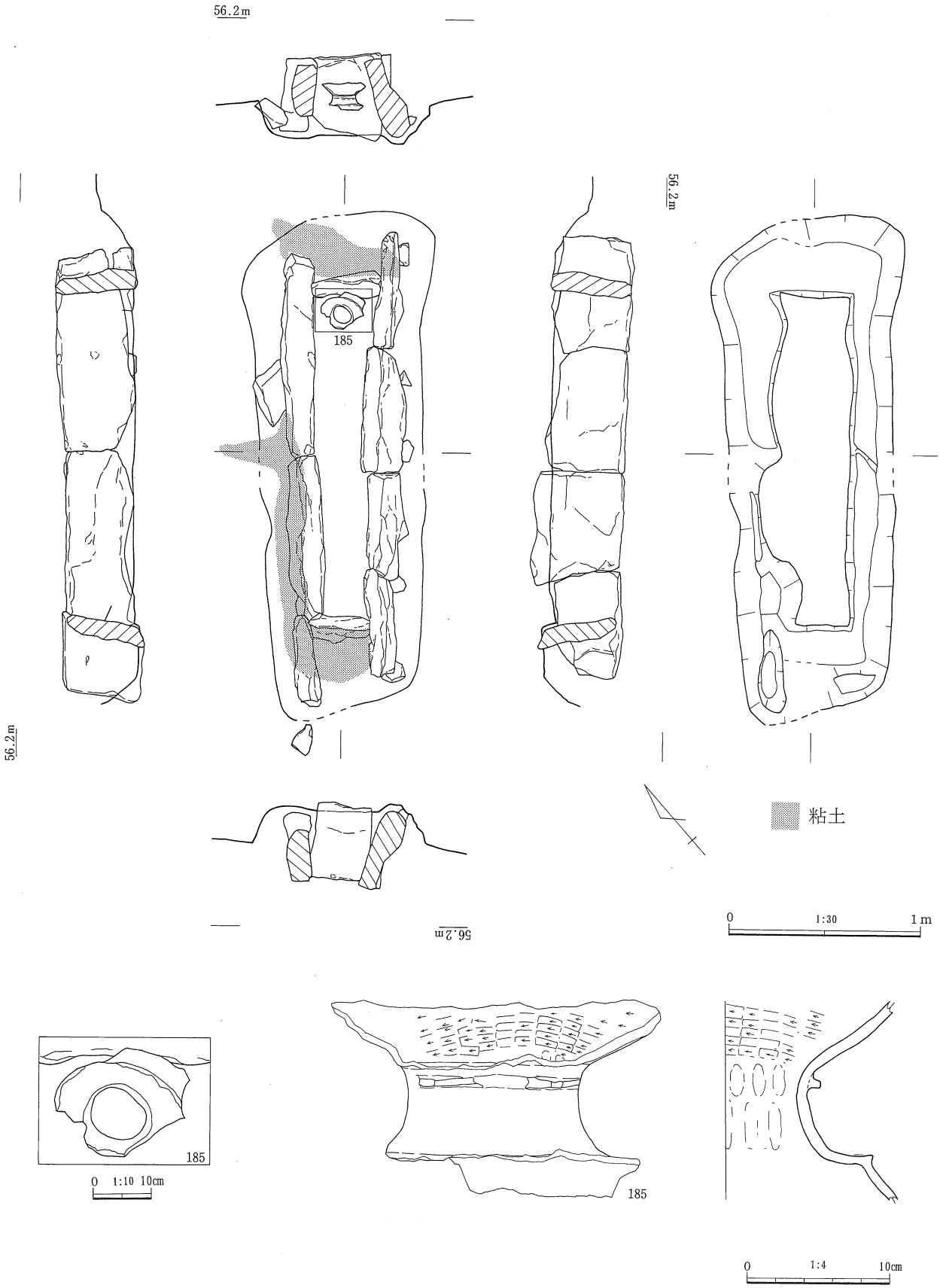



図 68　古市 20 号墳埋葬施設２および出土遺物

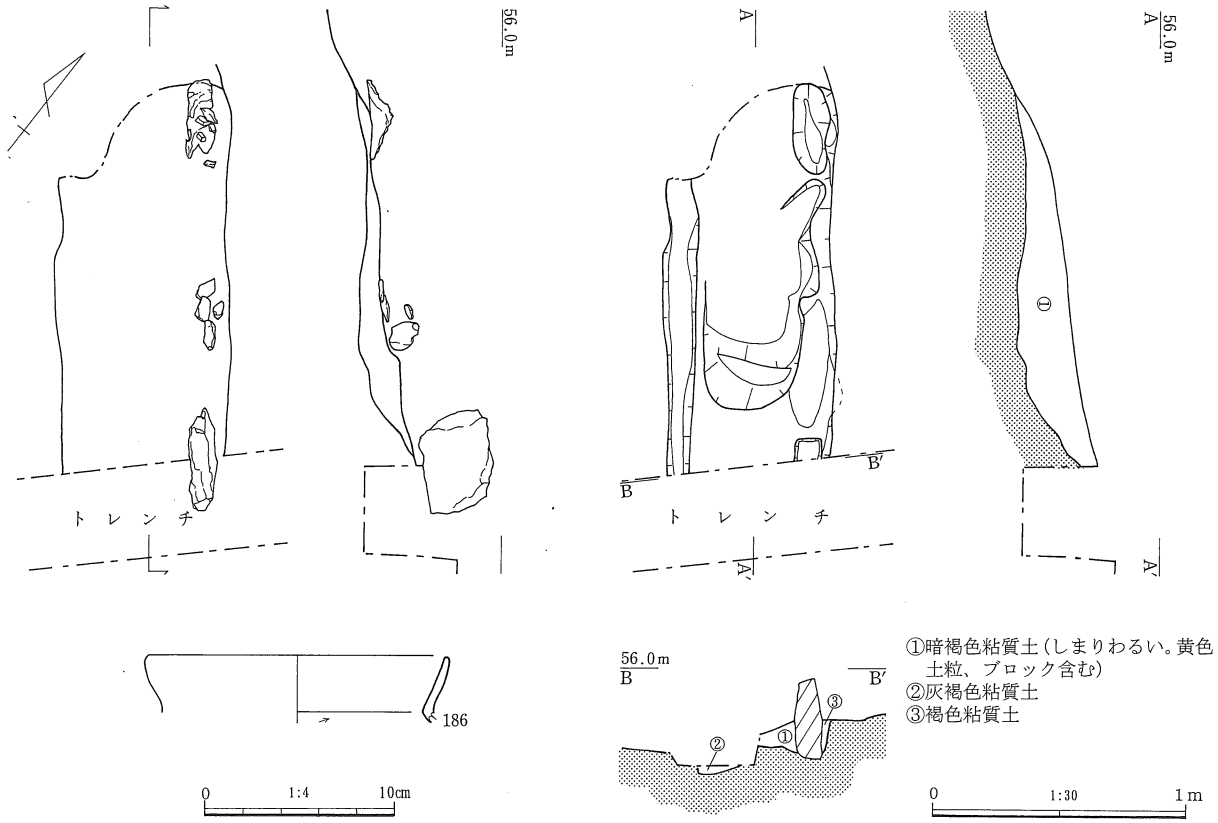



図 69　古市 20 号墳埋葬施設３および出土遺物

軸はW 37.0°N方向に向いており、墳丘の主軸とほぼ直交する。掘り方の長さは 2.4 m、西端幅 0.72 m、東端幅 0.64 m、最大幅 0.74 m、深さ約 0.25 mの隅丸長方形を呈する。

棺の両側で 0.2 ～ 0.4 m大の割石や板石を検出した。特に西側の小口では石を組んで積み上げている。④層上で浮いている石を除いてこれらは、小口石と考えられる。石材は角礫凝灰岩である。床面には貼床は認められない。木棺は床面の状況などから長さ約 1.9 m、幅約 0.3 mの組み合わせ式木棺と推定される。さらに西側の小口石の下から溝状の窪みを検出した。小口石の設置に際してできたものと考えられる。

遺物出土状況および出土遺物（図 70、図版 33-4）

遺物は周溝内埋土から土師器坏身（187）を検出した。棺内からは何も検出していない。土師器坏身は内湾しながら立ち上がり、端部は丸みを帯びる。外面はナデ調整で、底部内面で横方向のヘラミガキが見られる。

築造時期

周溝内埋土から検出した土師器坏身は形態的特徴から、青木遺跡編年のⅨ期に比定されるが、周溝内埋土からの出土なので正確な築造時期を示しているとは言い難い。（下江）

**古市 22 号墳**（図 71 ～ 73、図版 44・45）

丘陵尾根上に立地し、23 号墳の北西に位置する。墳頂部の標高は約 60.25 mである。

墳丘は、後背部を周溝で区切るだけの単純な構造で、土層断面、等高線図、周溝の形状等から東西 9 m、南北 10.5 mの不整形な円墳と考えられる。確実な盛土は土層断面でも確認できなかったが、墳丘上面が削平されたために失われた可能性がある。それを裏付けるかのように墳丘西部において溝状の掘り込みを検出した。しかし、この掘り込みがどの段階で掘り込まれたかは明らかでない。

周溝は幅 1.2 ～ 2.15 m、深さ約 0.4 mを測る。周溝北側でやや屈曲するようにも見えるが、墳丘南東部を弧状

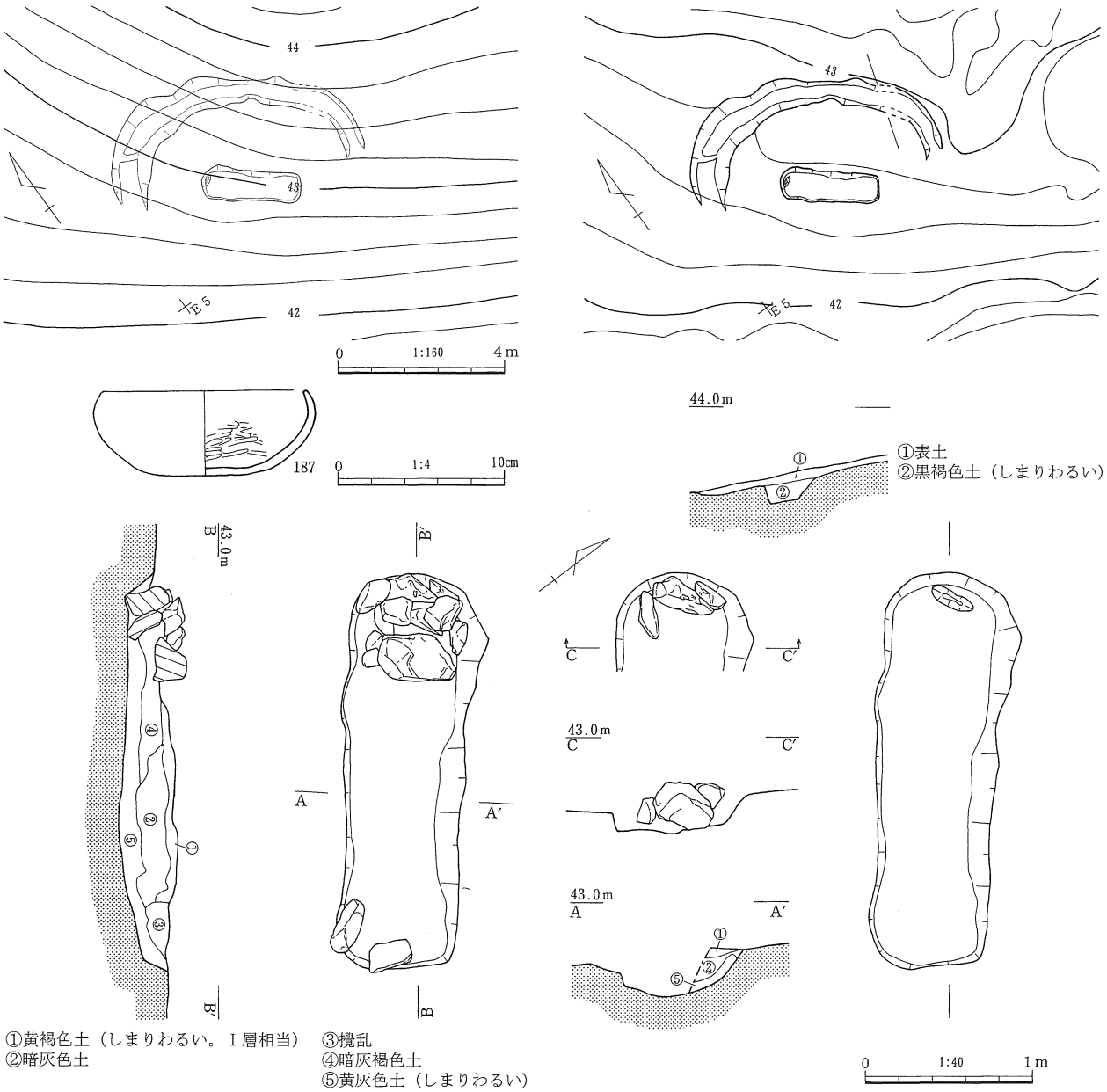


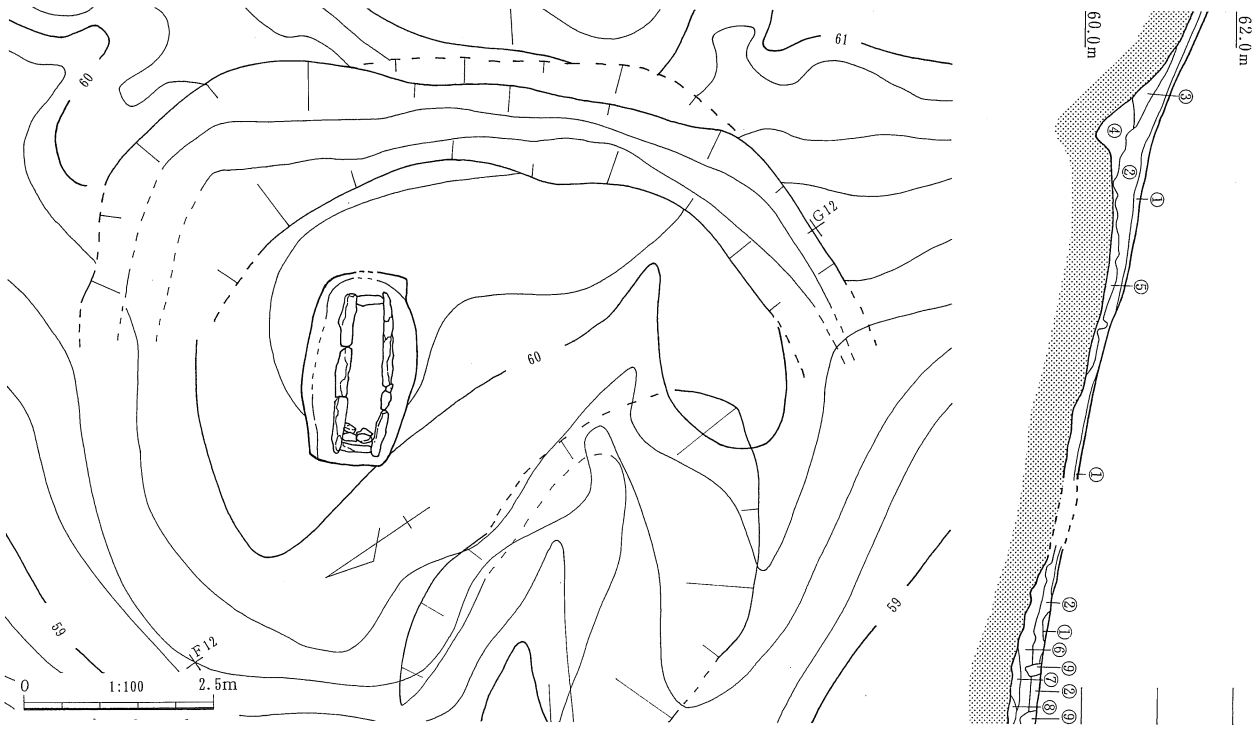

図 70　古市 21 号墳および出土遺物

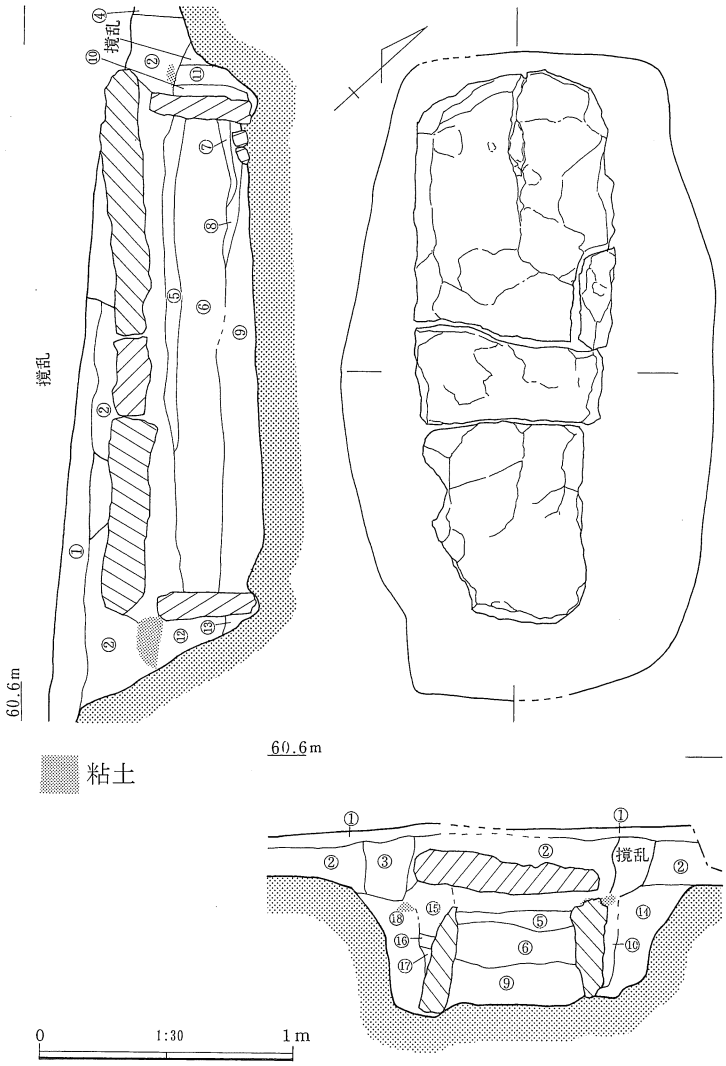
にめぐり、その範囲は南北方向で約 10.5 mである。22 号墳の周溝内埋土（④層）は、有機物の腐食によって形成される黒色系の土ではなく、地山と同じ特徴をもつ赤褐色土である。このことから、22 号墳の周溝は、盛土や地山の土が早い段階に崩れて埋まった可能性が強い。また、周溝から判断される墳丘の主軸は、尾根筋に沿っている。

**埋葬施設１**（図 71・72、図版 44-2 ～ 4、45-1・2）

墳丘上より埋葬施設を１基検出した。墳丘の中心ではなく、北東側に寄った位置で検出している。組み合わせ式の石棺である。棺の長軸はW 41.5°N方向に向いており、尾根筋とややずれているが、大きな差ではない。棺の長さは内法で 1.87 m、東端幅 0.34 m、西端幅 0.41 m、最大幅 0.44 m、深さ約 0.4 mを測る。

棺の構造は両小口にそれぞれ幅、高さ 0.4 m、厚さ 0.1 m前後の板石を用い、側石は北側で長さ 0.7 m、高さ 0.4 m、厚さ 0.1 m前後の横長の板石３枚、南側で長さ 0.6 m、高さ 0.4 m、厚さ 0.1 m前後の横長の板石１枚と長さ 1.55 m、高さ 0.4 m、厚さ 0.1 mの大型の横長の板石２枚を用い、小口石を挟み込むようにして組み合わせている。側石同士の組み合わせは両側石とも平継ぎである。




①表土
②赤褐色土（しまりなし。粘性あり。砂利をわずかに含む）
③赤褐色土（しまりなし。粘性あり。砂利を含む）
④赤褐色土（しまり、粘性あり。小さい白色粒子・茶色土混じる。周溝埋土）
⑤明茶褐色土（しまり、粘性あり）
⑥茶褐色土（しまりあり。粘性なし。少角礫が多く含まれる。砂質）
⑦暗茶褐色土（しまりあり。粘性なし。砂利多く含まれる。砂質）
⑧赤褐色土（しまり、粘性あり。白色粒子を含まない）
⑨撹乱

蓋石検出状況図
①茶褐色土（粘性、しまりなし）
②赤褐色土（粘性、しまりあり。白色粒子含む）
③赤褐色土（粘性、しまりあり。やや茶色味を帯びる）
④明茶褐色土（粘性、しまりあり。黄色みを帯びる）
⑤茶褐色土（粘性、しまりなし）
⑥赤褐色土（粘性、しまりなし）
⑦赤褐色土（粘性、しまりあり）
⑧赤褐色土（粘性、しまりあり。⑦層より粘性が強い）
⑨赤褐色土（粘性、しまりあり）
⑩茶褐色土（粘性なし。しまりあり）
⑪赤褐色土（粘性なし。しまりあり。２mm大の白色粒子含む）
⑫赤褐色土（粘性なし。しまりあり。２mm大の白色粒子含む。ブロック状の黄褐色土を含む）
⑬茶褐色土（粘性、しまりあり）
⑭赤褐色土（粘性、しまりあり。白色粒子多く含む）
⑮赤褐色土（粘性、しまりあり。白色粒子を含む）
⑯茶褐色土（粘性、しまりあり。赤味を帯びる）
⑰赤褐色土（粘性、しまりあり）
⑱赤褐色土（粘性ほとんどなし。しまりあり。白色粒子を含む）

図 71　古市 22 号墳および埋葬施設１検出状況

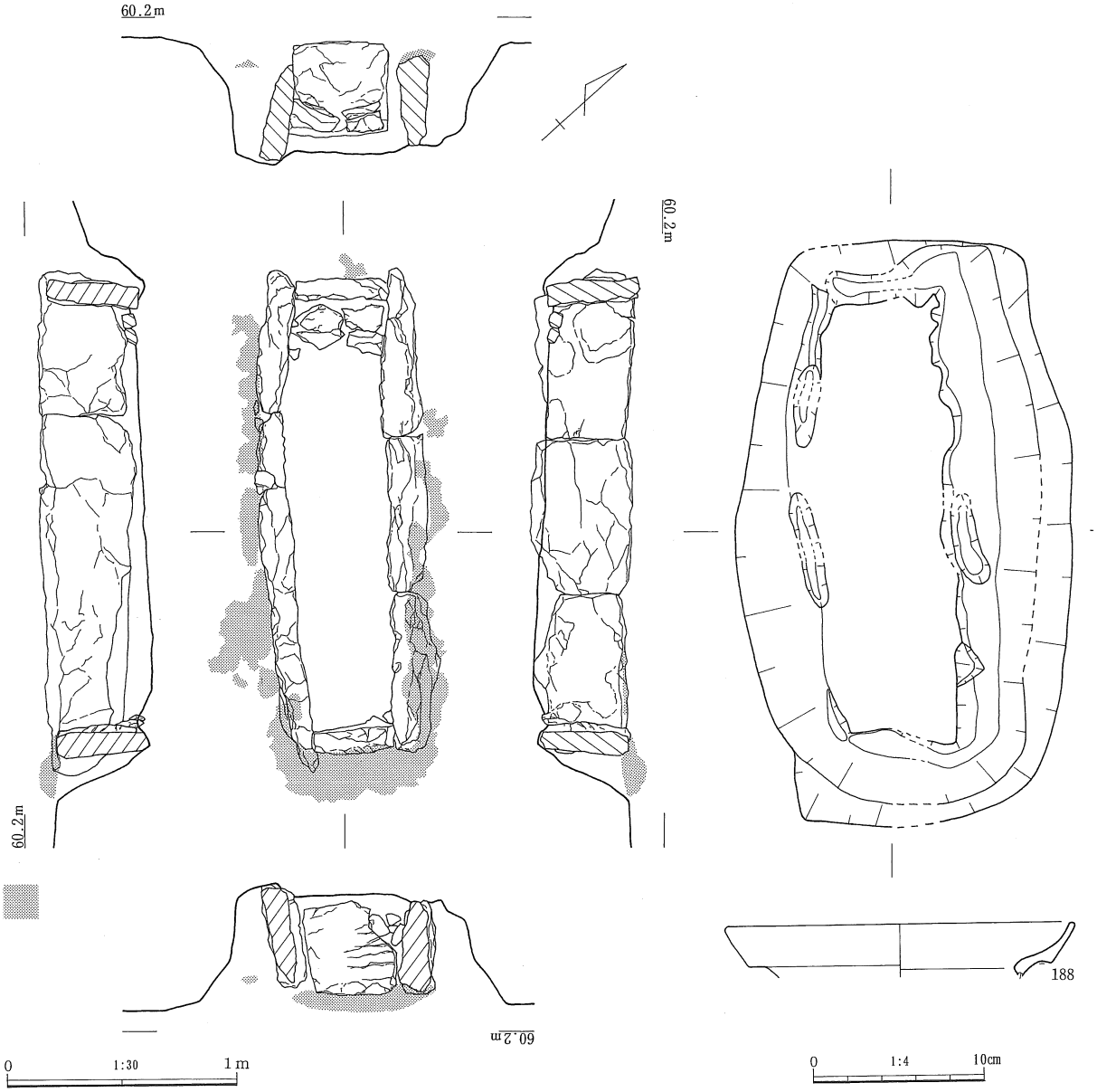



図 72　古市 22 号墳埋葬施設１および出土遺物

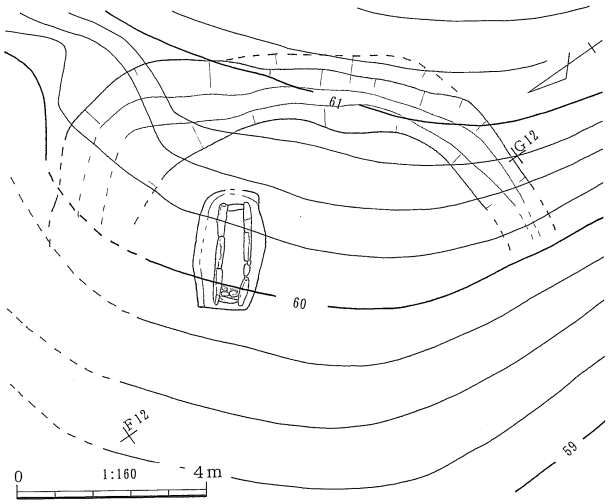



図 73　古市 22 号墳調査前地形測量

蓋石は縦長の板石２枚、横長の板石１枚、さらに小さな縦長の板石１枚を用いているが、この小さな蓋石はもともと、接している縦長の蓋石の一部が割れたものと考えられる。検出時の長さは2.2 m、幅 0.5 ～ 0.8 mであった。また、蓋石と小口石、側石との間に隙間を塞ぐための粘土、さらにはその粘土中から 0.1 ～ 0.2 m大の割石が検出された。これらは東側の小口から両側石一面にかけて検出され、西側の小口では部分的にみられたのみであった。床面は、地山を削って形成しており、約５cmほど南東側が低く、貼床等は認められない。西側の小口付近から枕石と考えられる 0.2 m大の板石４枚が、床面直上で検出された。板石４枚をＶ字形に組み合わせること

によって枕としている。なお、石棺や充填用の石、枕に用いられた石は全て角礫凝灰岩である。

棺の掘り方は長さ2.6 m、西端幅1.0 m、東端幅1.05 m、最大幅1.46 m、深さ約0.4 mの隅丸長方形を呈する。小口石や側石の部分では、さらに溝状に低くなっている個所があるが、掘り込みではなく石の重みによるものと考えられる。

遺物出土状況および出土遺物（図72）

周溝内埋土から弥生土器の甕（188）を検出している。棺内からは何も遺物は検出していない。甕は二重口縁で、凹線は認められない。口縁立ち上がりの下段部分はあまり突出しておらず、外側へ直線的に立ち上がる。

築造時期

周溝内埋土から検出した甕は形態的特徴から青木遺跡編年のⅢ～Ⅳ期にかけての資料と考えられ、出土状況からも22号墳の築造時期を示す資料とは言い難い。よって、22号墳の築造時期は不明である。　（下江）

**古市23号墳**（図74・75、図版45）

調査地における丘陵尾根上の東端に位置する。墳頂部の標高は古墳群中最も高く、約63.50 mである。

墳丘は、後背部を周溝で区切り、埋葬施設を構築した後、盛土を施す構造である。土層断面、等高線図、周溝の形状等から東西８m、南北11 mの不整形な円墳と考えられる。盛土（①層）は土層断面でわずかに認められるが、墳丘上面が削平されたためであろうか、全面にはない。

周溝は幅0.75～1.1 m、深さ約0.4 mを測る。墳丘南東側を弧状にめぐり、両端部の距離は約11.0 mである。また、周溝から判断される墳丘の主軸は、尾根筋に沿っている。

**埋葬施設１**（図75、図版45-3・4）

墳丘上より埋葬施設を１基検出した。墳丘の中心ではなく、墳頂部西側のやや下がった位置で検出している。

墓壙の長軸はW 32.0°Nを向き、墳丘の主軸と若干ずれている。検出面で長さ2.33 m、東端幅0.45 m、西端幅0.5 m、最大幅0.57 mの平面形は隅丸長方形を呈する。深さは0.2～0.3 mで断面はU字形である。底面の高さは東側のほうが約0.1 m高い。また、検出面で墓壙中央から0.2 m大の割石を検出した。①層に含まれ、標石の可能性がある。

墓壙内埋土は幾つかの土層に分けられるが、底面付近の⑫層は粘性が大変強く、色調も他の土層と大きく異なることから、棺の設置等に関連する土層と思われ、形状等から、設置された棺は割竹形の木棺と推測される。

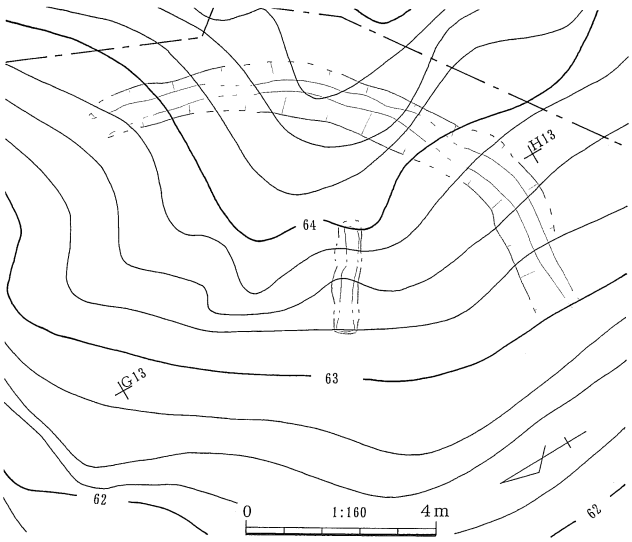


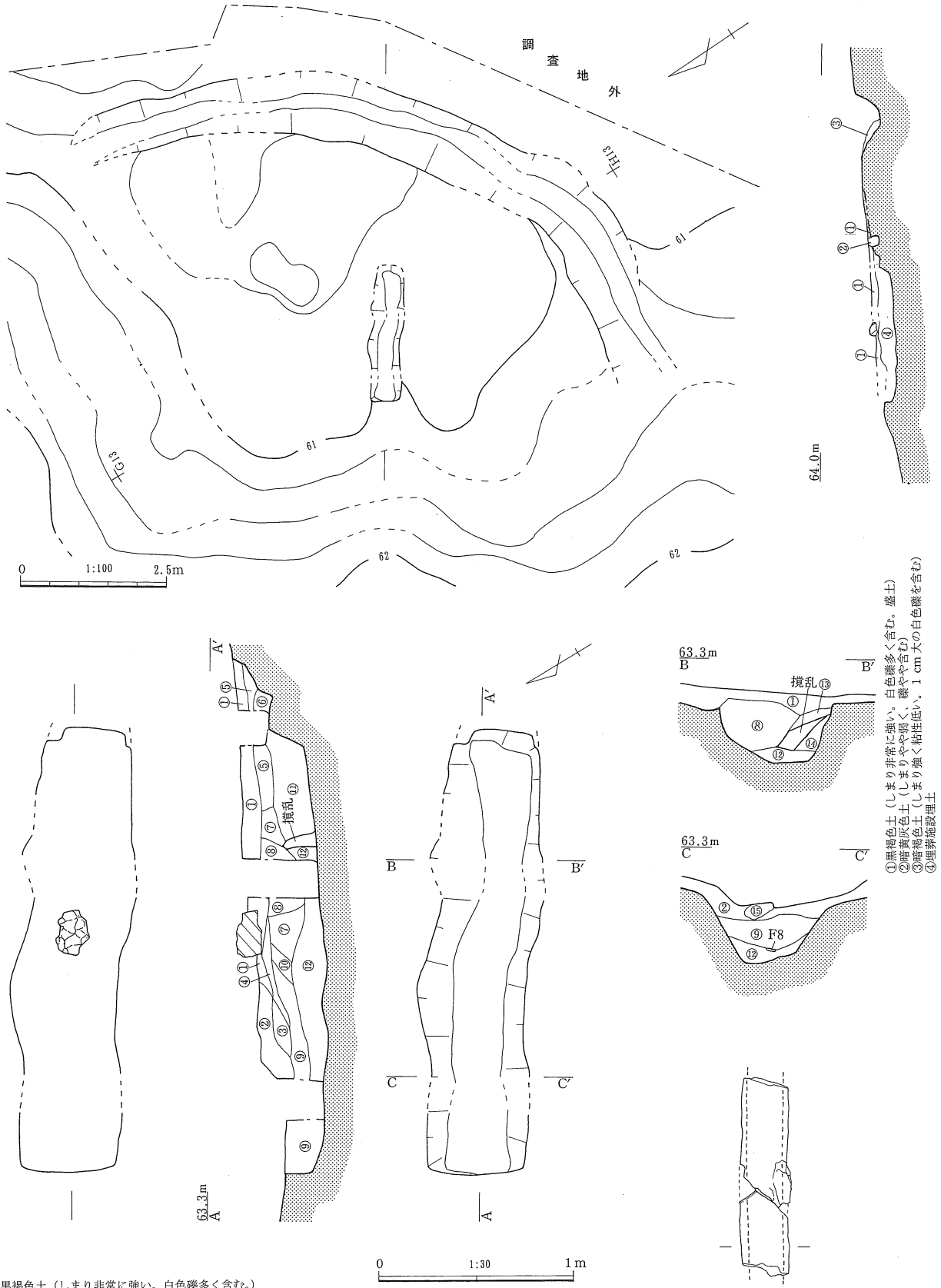

図74　古市23号墳調査前地形測量

遺物出土状況および出土遺物（図75、図版45-5）

墓壙西端付近（C－C′ライン）から鉄剣の破片（F８）を検出している。C－C′ライン土層断面の⑨層と⑫層の間に突き刺さるような形で検出しており、ほぼ原位置と思われる。この他にも墳丘上面や周辺から土器片が出土しているが、細片のため詳細はわからない。

築造時期

年代を示し得るような資料は検出できなかったが、そ




①黒褐色土（しまり非常に強い。白色礫多く含む。盛土）
②暗黄灰色土（しまりやや弱く、礫やや含む）
③暗褐色土（しまり強く粘性低い。1 cm 大の白色礫を含む）
④埋葬施設埋土

①黒褐色土（しまり非常に強い。白色礫多く含む。）
②茶褐色土（しまり強い。白色礫含まない）
③暗褐色土（しまりやや強い。橙・白色礫含む）
④暗褐色土（しまり強く、粘性あり。白・黄色礫含む）
⑤明褐色土（しまり強く、白色礫多く含む）
⑥黒褐色土（しまり弱く、礫はほとんど含まない）
⑦暗緑褐色土（しまり、粘性ともに強く、礫をほとんど含まず）
⑧明褐色土（しまりやや強く、白・黄色礫含む）
⑨暗茶褐色土（しまり強い。白・黄色礫含む）
⑩明褐色土（しまりやや強く、粘性あり。白・黄・橙色礫含む）
⑪暗緑褐色土（⑦より色調明るい）
⑫明黄灰白色土（しまり強く、粘性も強い。白・黄・橙色礫多く含む）
⑬暗褐色土（しまり弱く、粘性あり。礫ほとんどなし）
⑭暗褐色土（⑬より明るい色調）
⑮茶褐色土（②よりしまり弱い）

図 75　古市 23 号墳墳丘、埋葬施設１検出状況および出土遺物

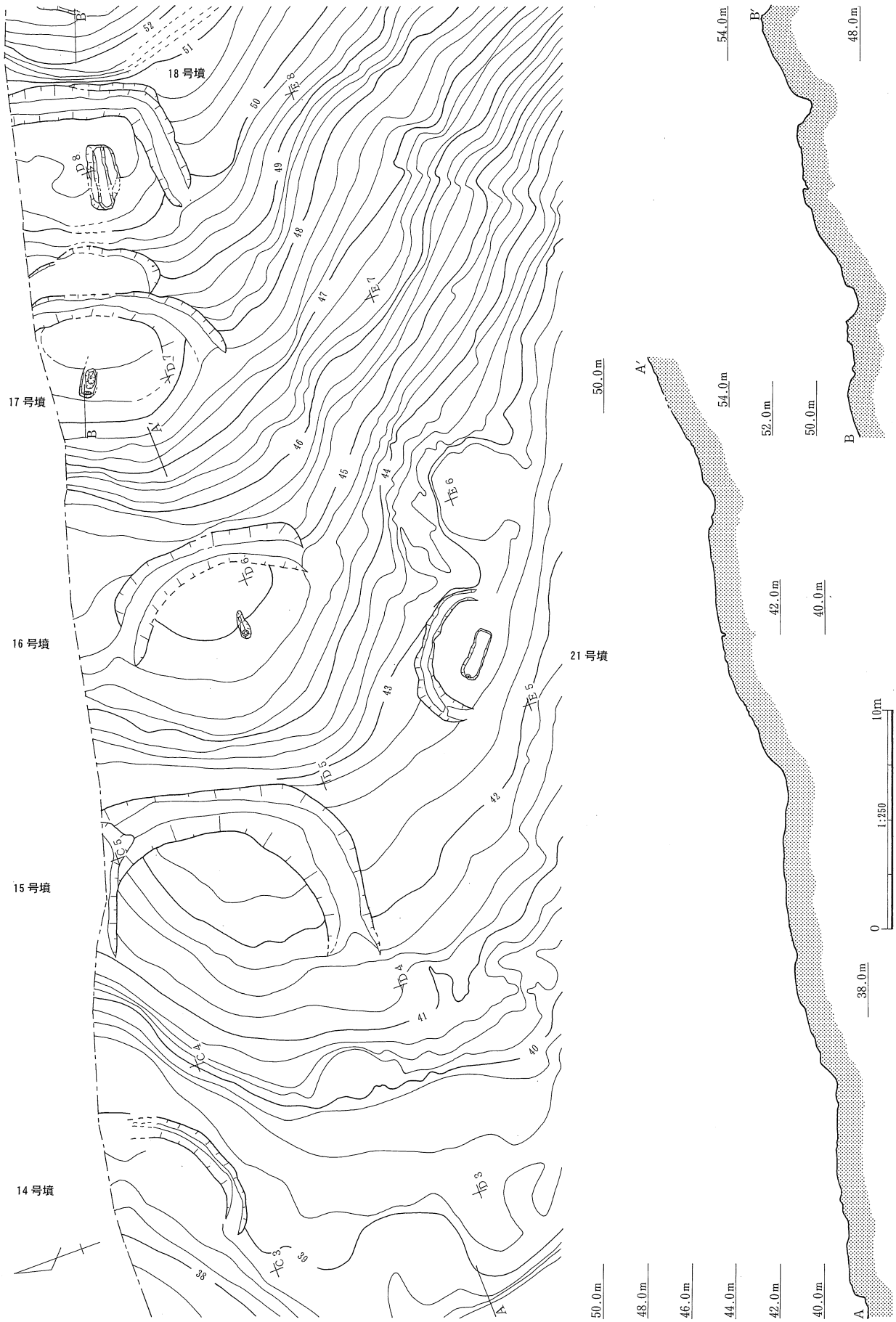



図 76　古市古墳群完掘状況（1）

図 77　古市古墳群完掘状況（2）

の位置から古墳群の中でも最古段階の可能性がある。　（下江）

（註）

１．米子市教育委員会編　1994『米子市埋蔵文化財地図』米子市教育委員会

２．田辺昭三　1981『須恵器大成』角川書店

表６　古市古墳群

| 番号 | 遺跡名 | 墳形 | 直径（全長） | 高さ（後円部直径） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ② | 古市１号墳 | 円墳 | | | |
| | 古市２号墳 | 円墳 | | | |
| | 古市３号墳 | 円墳 | | | |
| ⑫ | 古市４号墳 | 円墳 | | | |
| ⑪ | 古市５号墳 | 円墳 | | | |
| ⑩ | 古市６号墳 | 円墳 | 10 | 1 | |
| ⑨ | 古市７号墳 | 円墳 | 7 | 0.8 | |
| ⑧ | 古市８号墳 | 前方後円墳 | 30 | 2.5（14） | 石棺材露出 |
| ⑦ | 古市９号墳 | 円墳 | | | |
| ⑥ | 古市10号墳 | 円墳 | 13 | 2 | |
| ⑤ | 古市11号墳 | 円墳 | | | |
| ③ | 古市12号墳 | 円墳 | 15 | 1 | |
| ④ | 古市13号墳 | 円墳 | 20 | 2.5 | 横穴式石室天井石露出 |
| ① | 古市横穴墓 | | | | |

米子市教育委員会編　1994『米子市埋蔵文化財地図』をもとに作成。
番号は第１章図１に対応する。

表７　玉製品観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 材質 | 色 | 最大長（cm） | 幅（cm） | 厚さ（cm） | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| J1 | 54 | カラー｜5-2 | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.5 | 0.6 | 0.6 | 0.207 | |
| J2 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.5 | 0.55 | 0.6 | 0.213 | |
| J3 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.6 | 0.55 | 0.55 | 0.194 | |
| J4 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.5 | 0.55 | 0.5 | 0.187 | ふるいで検出 |
| J5 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.45 | 0.55 | 0.55 | 0.184 | ふるいで検出 |
| J6 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色透明感あり | 0.45 | 0.55 | 0.5 | 0.177 | ふるいで検出 |
| J7 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.45 | 0.5 | 0.55 | 0.130 | ふるいで検出 |
| J8 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.55 | 0.6 | 0.45 | 0.151 | |
| J9 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.4 | 0.55 | 0.5 | 0.131 | ふるいで検出 |
| J10 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 045 | 0.55 | 0.5 | 0.124 | |
| J11 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.4 | 0.5 | 0.5 | 0.117 | |
| J12 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色くすんだ色合い | 0.35 | 0.5 | 0.4 | 0.095 | ふるいで検出 |
| J13 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色透明感あり | 0.45 | 0.4 | 0.35 | 0.106 | ふるいで検出 |
| J14 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | ガラス | 濃水色 | 0.4 | 045 | 0.45 | 0.095 | ふるいで検出 |
| J15 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | 碧玉 | にぶい緑灰色 | 0.15 | 0.4 | 0.4 | 0.037 | |
| J16 | 54 | | 17号墳埋葬施設1 | 玉 | 青瑪瑙 | 緑灰色 | 0.15 | 0.45 | 0.45 | 0.095 | |
| J17 | 54 | | F3・Ⅵ層 | 管玉 | 碧玉 | 緑灰色 | 1.3 | 0.7 | 0.7 | 0.894 | |

## 表８　第５章　土器観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 160 | 43 | 14号墳 | 弥生土器 | 甕 | *14.8 | △5.0 | 口縁部6条凹線、内面頸部下ケズリ。内外面赤彩。頸部穿孔。 | やや粗 | 褐色 | |
| 161 | 43 | 14号墳 | 弥生土器 | 高坏 | *15.4 | △2.9 | 脚部外面6条の凹線。内面ケズリ後ナデ。 | やや粗 | 淡黄褐色 | |
| 162 | 43 | 14号墳 | 弥生土器 | 甕 | *14.0 | △4.2 | 口縁ナデ。外面無文。 | やや粗 | 淡褐色 | |
| 163 | 43 | 14号墳 | 弥生土器 | 甕 | *13.2 | △3.1 | 口縁ナデ。外面無文。頸部外面にハケメ。内面はケズリ。 | やや粗 | 暗黄褐色 | |
| 164 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 高坏 | 12.9 | 10.9 | 口縁内湾。坏部内外ナデ、脚との接合部タテハケ後ナデ。脚部内面シボリ後ナデ、外面タテナデ。坏部外面および脚端部に黒斑。外面赤彩。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 165 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 高坏 | 13.5 | 11.4 | 調整は164に同じ。坏部内面にもハケメ痕。脚部外面褐色。磨滅のためか赤彩見られず。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 166 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 高坏 | 13.5 | 11.7 | 調整は164に同じ。脚部器壁がやや厚め。外面赤彩。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 167 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 高坏 | 14.0 | 12.2 | 調整は164に同じ。口縁内面は調整あまく器表面にやや凹凸がある。坏部外面および脚端部に黒斑。外面赤彩。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 168 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 高坏 | 14.0 | 11.0 | 調整は同じ。坏・脚部の接合部は屈曲し、接合痕がみえる。外面赤彩。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 169 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 高坏 | 14.0 | 11.5 | 調整同じ。坏部内外面に僅かにハケメ痕。坏部ややいびつ。脚部がすっぽり外れていた。外面赤彩。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 170 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 高坏 | 13.5 | 10.9 | 調整同じ。脚端部内面は折り返したように段状を呈す。外面赤彩。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 171 | 46 | 15号墳 | 土師器 | 壺 | 8.4 | 15.1 | 体部は楕円球状を呈し、直立する口縁をもつ。端部はやや外反。胴部および口縁内面ナデ、胴部内面はハケか。内外面赤彩を施す。 | 密良好 | 橙褐色 | |
| 172 | 46 | 15号墳 | 須恵器 | 蓋 | 12.6 | 5.4 | 内外回転ナデ。つまみが付く。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 173 | 46 | 15号墳 | 須恵器 | はそう | 10.4 | 10.6 | 内外回転ナデ。外面に波状文が3ヶ所巡る。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 174 | 46 | 15号墳 | 須恵器 | 蓋 | 12.6 | 5.3 | 内外面回転ナデ。上部ケズリ。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 175 | 46 | 15号墳 | 須恵器 | 坏 | 10.9 | 5.5 | 内外面回転ナデ。底部ケズリ。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 176 | 49 | 16号墳 | 土師器 | 高坏 | 16.7 | 12.5 | 体部屈曲し、屈曲部は突帯状になる。全体的に磨滅。坏部ヨコナデ。脚部外面ナデ、内面下部はハケメ。 | やや粗やや | 橙褐色 | |
| 177 | 49 | 16号墳 | 弥生土器 | 甕 | *16.8 | △3.8 | 口縁内外ナデ、頸部内面ケズリ。外面口縁一部にスス付着。 | やや粗 | 黄灰色 | |
| 178 | 49 | 16号墳 | 弥生土器 | 壺 | *15.4 | △3.0 | 緩やかに外反し、口縁端部はやや肥厚気味。外面ナデ、内面はミガキ。 | やや粗 | 褐色 | |
| 179 | 49 | 16号墳 | 弥生土器 | 甕 | *17.6 | △4.0 | 口縁外面に凹線を施し、後上半ナデ消し。内面はミガキ。 | やや粗 や | 淡橙褐色 | |
| 180 | 49 | 16号墳 | 土師器 | 甕 | *16.4 | *27.1 | 体部は球状。口縁は直線的に外反。口縁外面斜方向、内面ヨコハケ後ナデ。体部外面上半はハケ後ナデ。下半はあまりハケずナデか。内面はケズリ。外面体部中位以下スス多く付着。 | やや粗 良好 | 淡橙褐色 | |
| 181 | 49 | 16号墳 | 土師器 | 甕 | *16.5 | 25.1 | 体部はほぼ球形を呈し、口縁はほぼ直線的外反。口縁～頸部外面ナデ。内面ヨコハケ後ナデ。頸部以下ケズリ。外面はハケ。体部外面スス付着。 | やや粗 良好 | 淡黄灰色 | |
| 182 | 54 | 17号墳 | 弥生土器 | 底部 | — | △2.6 | 外面ヘラミガキ、底部近くはヨコナデ。内面ケズリ。外面黒色化。 | 粗やや | 淡橙褐色 | |
| 183 | 56 | 18号墳 | 弥生土器 | 甕 | *16.6 | △4.4 | 全体に磨滅し調整不明。口縁外面に数条の凹線。 | 粗やや | 褐色 | |
| 184 | 56 | 18号墳 | 土師器 | 小型壺 | — | △5.5 | 体部球状を呈し、頸部で屈曲。外面ナデ、最大径下側に爪痕か?内面はけずり。外面肩部に黒斑。 | やや粗 やや軟 | 外)褐色<br>内)橙褐色 | |
| 185 | 68 | 20号墳埋葬施設2 | 土師器 | 壺 | — | △14.1 | 枕転用。口縁端部欠損。口縁部も2/3を欠く。体部中位以下欠損、頸部下は半分ほどを打ち欠く。頸部に突帯巡る。口縁ナデ、体部内面ケズリ。 | やや粗 やや軟 | 淡褐色 | |
| 186 | 69 | 20号墳埋葬施設3 | 土師器 | 甕 | *15.7 | △3.6 | 全体に磨滅し調整不明。口縁内外面ナデか。内面頸部以下ケズリ。 | 粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 187 | 70 | 21号墳 | 土師器 | 坏 | *12.2 | 5.1 | 体部丸味をもち、口縁部は内湾する。口縁内外面ナデ、底部内面ヘラミガキ。外面は未調整。底部外面に黒斑。 | やや粗 良好 | 橙褐色 | |
| 188 | 72 | 22号墳 | 土師器 | 甕 | *20.0 | △3.0 | 全体磨滅。器表面も大部分剥離。 | 粗軟 | 暗褐色 | |

# 第６章　奈良時代後期～平安時代初頭の調査

## 第１節　概要　（図 78）

この時期の主な遺構は谷１区にほぼ限定され、Ⅳ および Ⅵ 層下面において検出した（図 10）。遺構数は少ないが、斜面上方を削り平坦面をつくりだすテラス状遺構が主体である。Ⅳ 層下面で検出したものは標高 40 ｍあたりに集中し、それより上方には展開しない。このテラス面には多くのピットがあったが、明確に建物などを構成するような規則的な配列は確認できなかった。また同層中から須恵器・土師器の土器類、石製品のほか、製鉄関連遺物がみられた。しかし鉄滓などの製鉄関連遺物と鉄製品は合わせて 150 点ほどしかなく、また生産に係るような遺構、痕跡もなかった。そのため調査地内において鉄生産が行われた可能性は低いと考えられる。周辺では、調査地北側約 2.5km はなれたところに、奈良時代の鉄生産遺構・遺物が検出されている陰田遺跡群があり、その関連性も考えていく必要があろう。

なお Ⅳ 層上層である Ⅲ 層中からも当該期の遺物が出土した。下面で 20 基ほどのピットを検出した。また尾根２区上にも同期の遺物包含層（Ⅴ層）があるが、数基のピットを下面にて検出し、少量の遺物が出土したにすぎない。層位的にⅤ層は Ⅳ 層に連続するものと考えられる。（中森）

## 第２節　Ⅵ 層下面検出の遺構と遺物

谷１区のＦ３～５グリッドを中心に検出した。Ⅵ 層は Ⅳ 層の下にあり、0.1 ～ 0.3 ｍの厚さで地形に沿って堆積している。谷部上方はＦ６グリッド西側まで拡がっており、それより上はテラス 10 など Ⅳ 層下面のテラス群により削平されたと考えられる。

遺構はＦ５グリッドを中心に約 30 基のピットが集中するが、これらの中で明確に建物構造を想定しうるような配列は見出せなかった。しかしある程度直線的に並ぶという傾向は窺える。このピット群西側には並行する溝群、さらに西にテラス９がつくられる。しかしこの地域にはピットがまったくない。

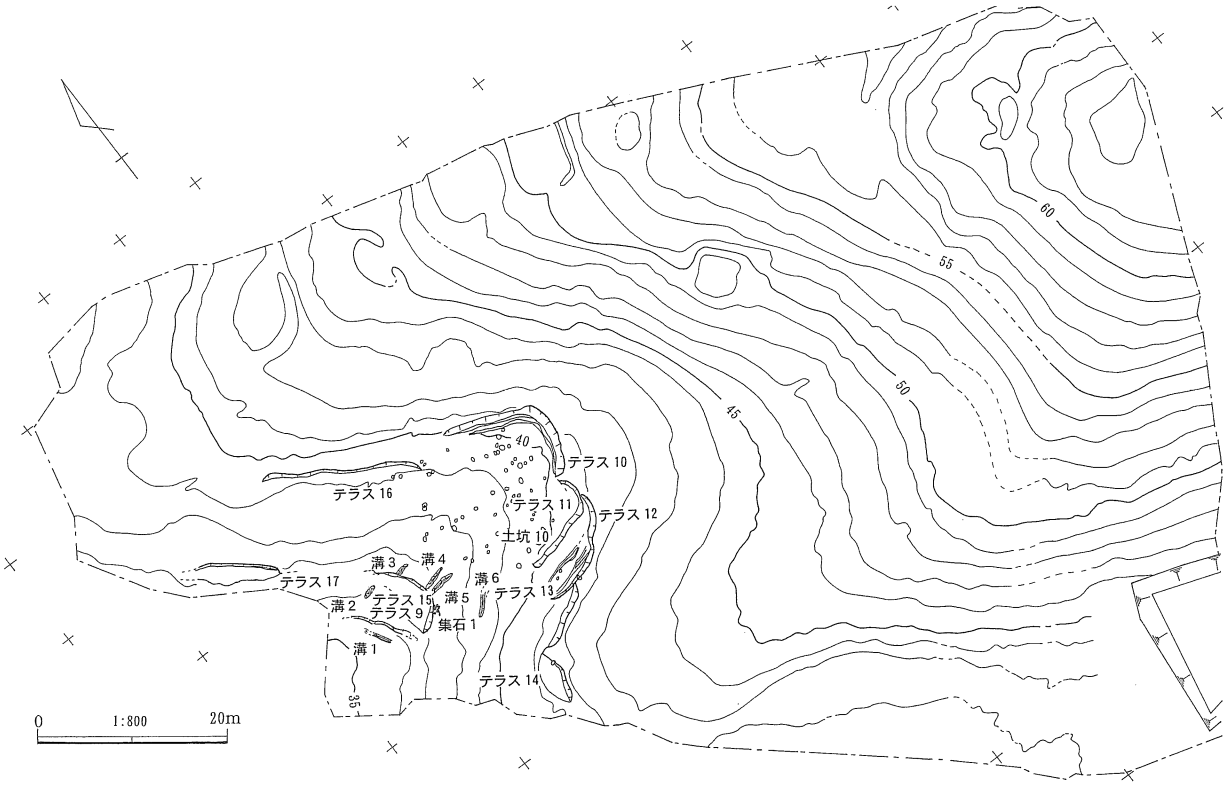



図 78　奈良時代後期～平安時代初頭遺構分布

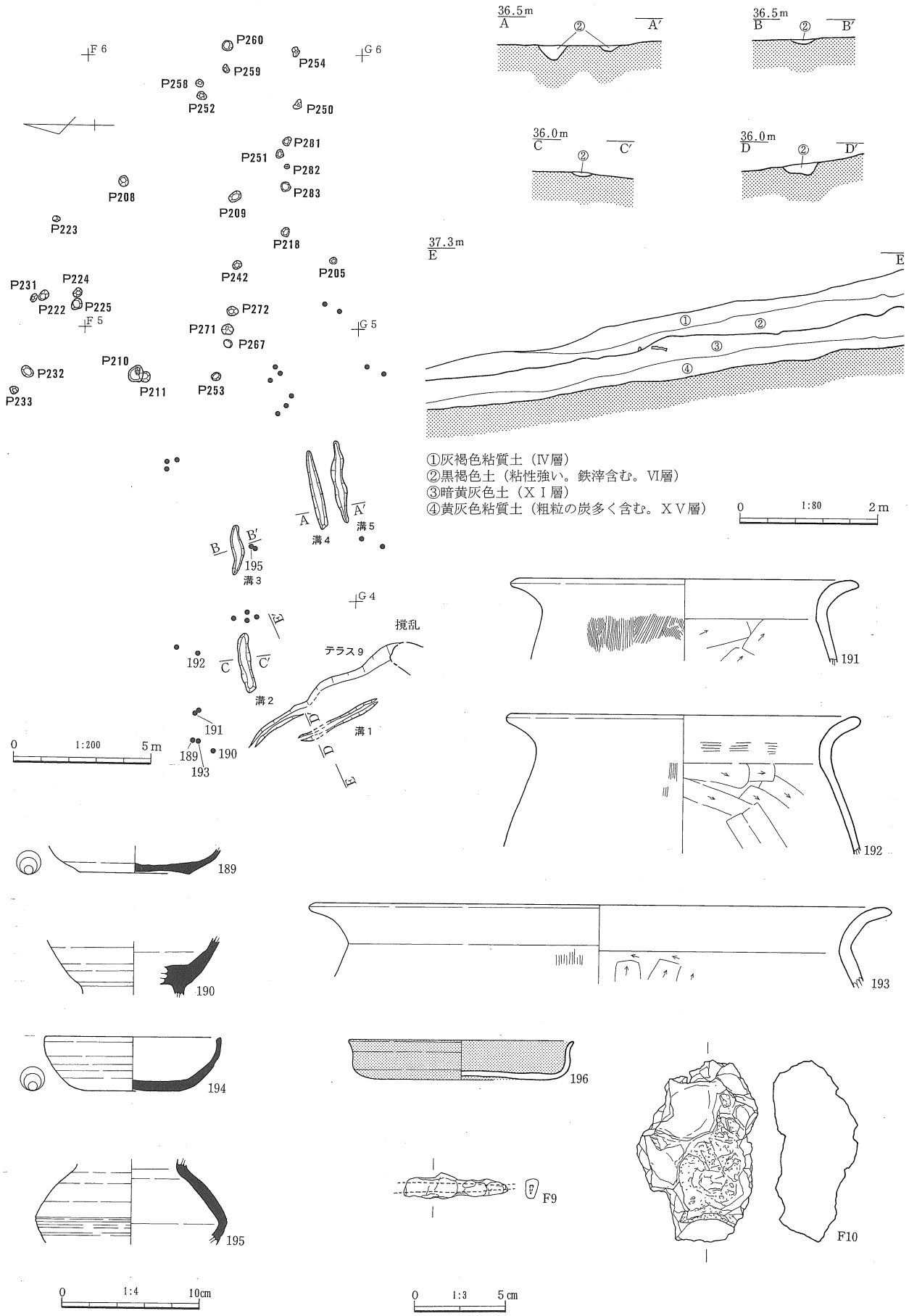



図 79　Ⅵ層下面遺構群および出土遺物

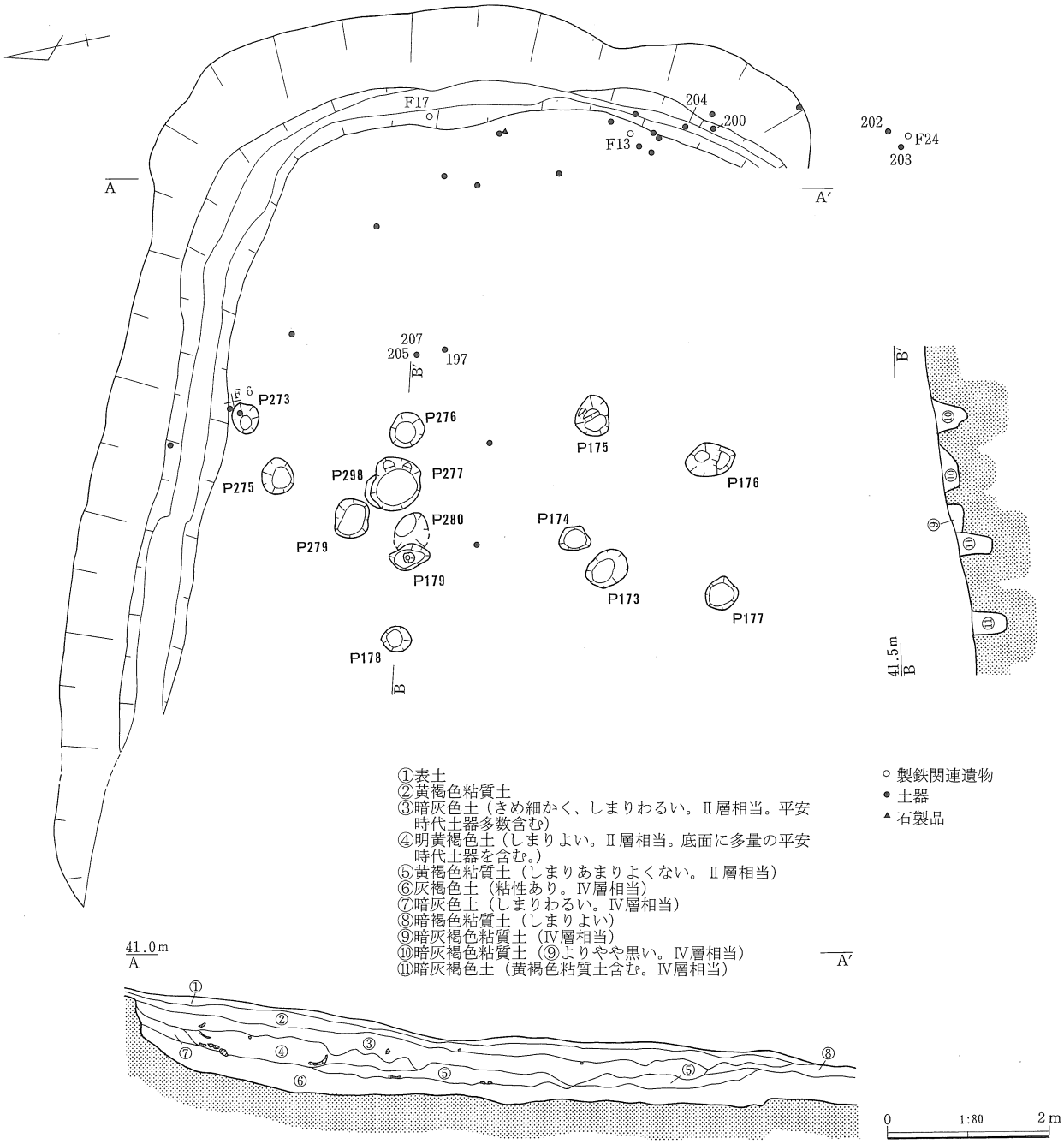



図 80　テラス 10

遺物はピット群よりも溝、テラス地域に集中する。189・194 は須恵器杯身、190 は高台の付く須恵器杯で底部器壁が厚い。191 ～ 193 は土師器甕、196 は赤色塗彩された土師器杯である。またわずかに鉄製品（Ｆ９）、鉄滓（Ｆ 10）が出土している。（中森）

**テラス９・溝１**　（図 79）

Ⅵ層下面、Ｆ・Ｇ３グリッドにおいて検出した。標高 36 ｍほどのところにつくられる、幅約７ｍのテラスである。その南側は後世の溝により攪乱されている。またテラス壁に並行する溝１は長さ約 3.3 ｍを測り、幅 0.7 ｍ、深さ 0.18 ｍほどであった。（中森）

**溝２～６**　（図 79）

Ｆ３～４グリッドに位置する、谷に並行してつくられる溝である。溝４・５は直線的で近接して並行するもので、前者が長さ 1.4 ｍ、深さ 0.2 ｍ、後者は長さ 1.5 ｍ、深さ 0.1 ｍほど、幅はどちらも約 0.2 ｍを測る。溝３は溝４より 1.5 ｍほど北に位置する。若干Ｓ字状に屈曲し、長さ 0.9 ｍ、幅 0.15 ｍ、深さ 0.05 ｍを測る。１ｍ

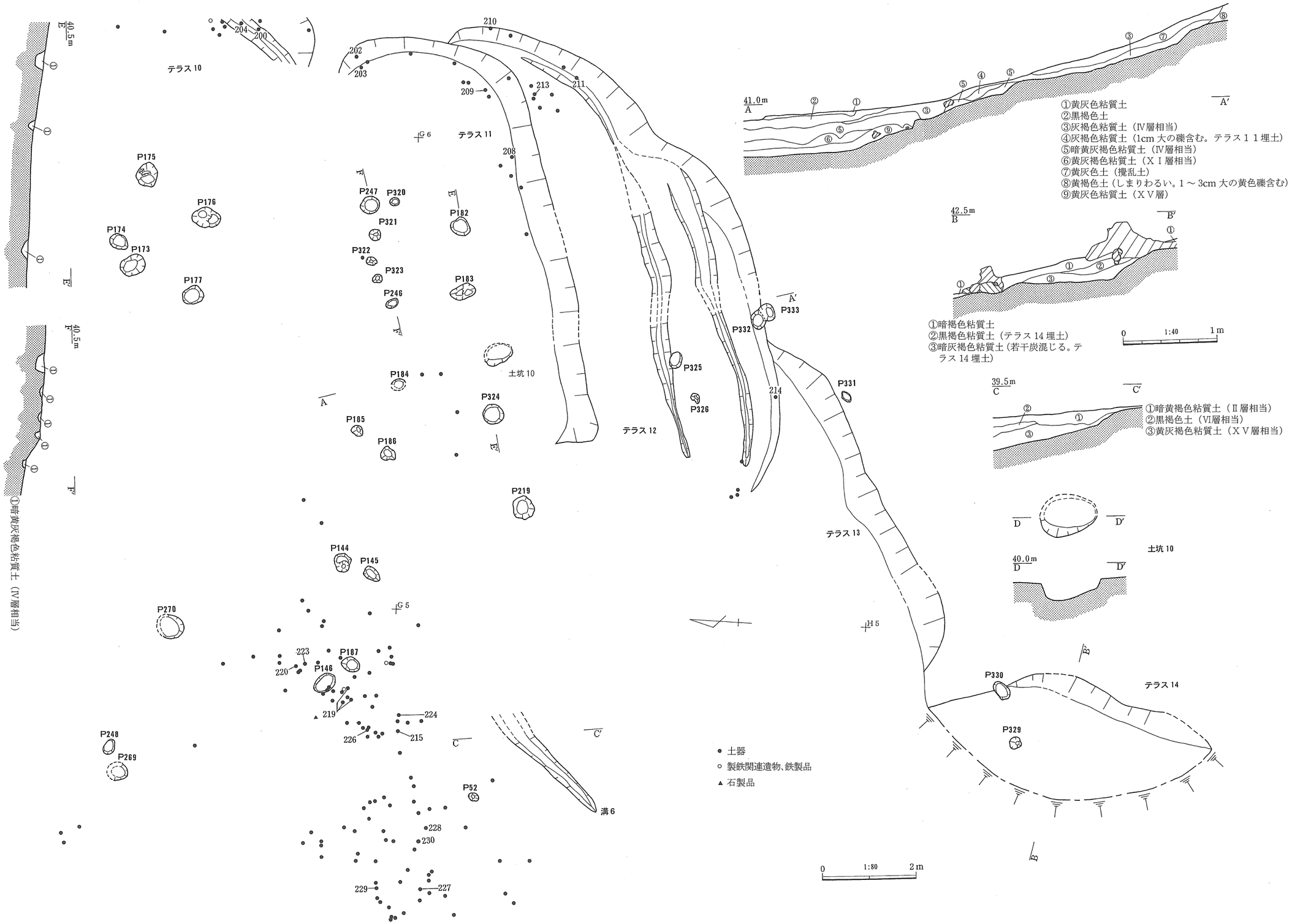



図 81　テラス 10 ～ 14、土坑 10

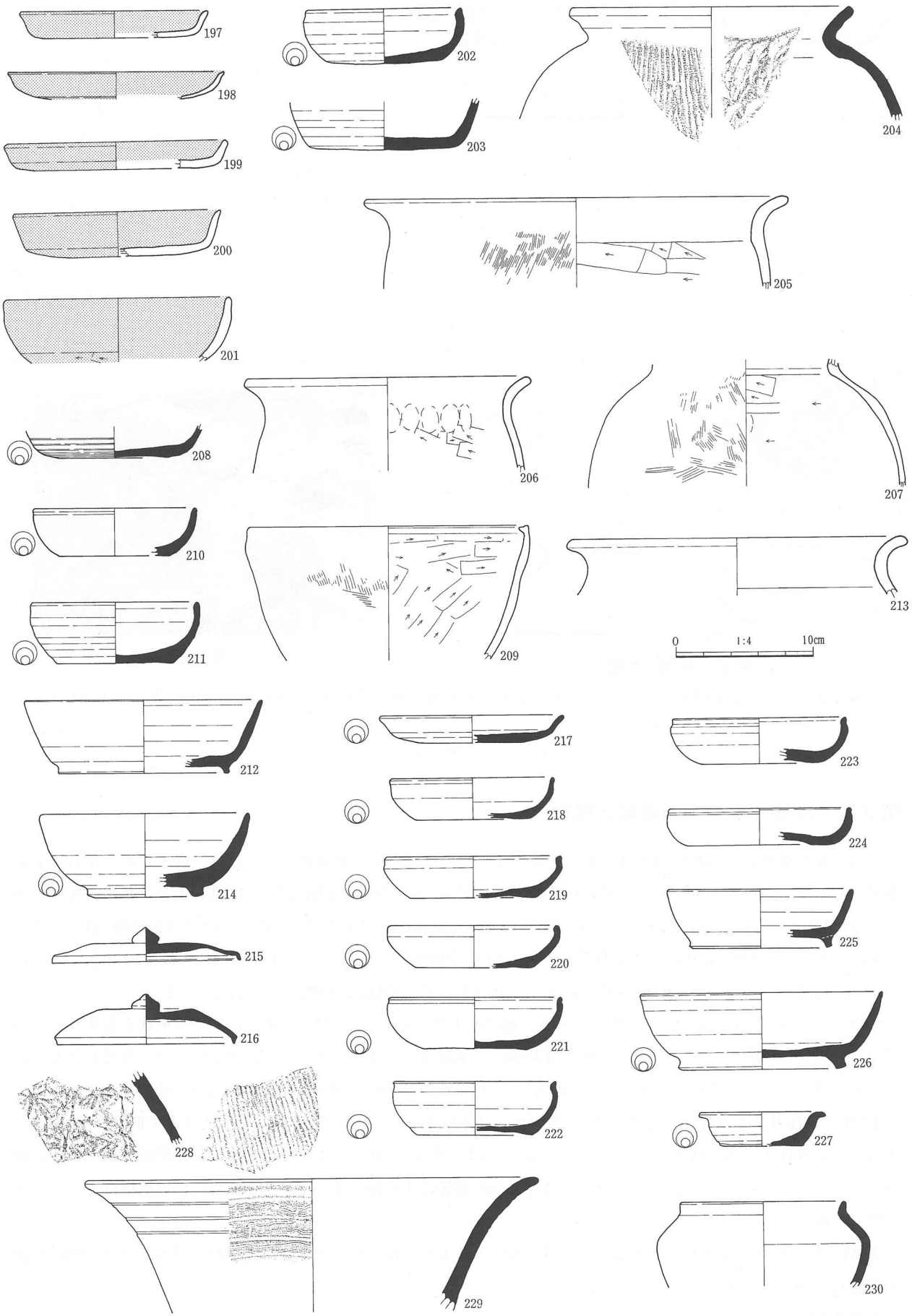



図 82　テラス 10 ～ 14 およびⅣ層出土遺物（１）

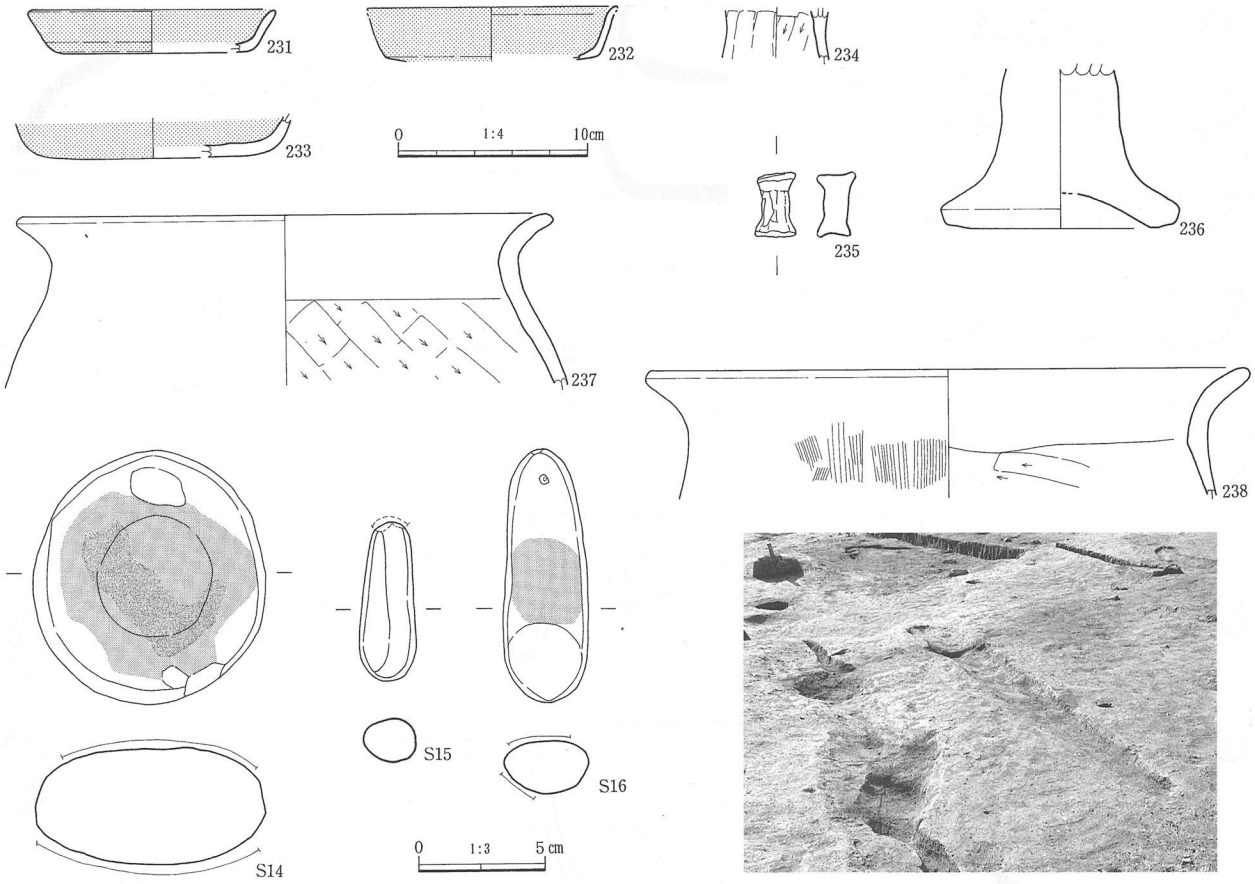



図 83　Ⅳ層出土遺物（２）



Fig.7　溝４・５　完掘（南東から）

ほど西に溝２があり、おそらくここに続くものと考えられる。溝２は長さ 1.1 m、幅 0.2 m、深さ 0.05 mほどであった。（中森）

## 第３節　Ⅳ層下面検出の遺構と遺物

Ⅳ層下面の遺構群は本時期の主体である。検出した遺構はテラスが８基あったほかは、溝・土坑・集石とも１基ずつしかない。テラスは谷１区の南北両面をカットしてつくられる。北側はテラス 10 およびそれに西接するテラス 16 があるが、同一面に拡がっている。それに対し、南側はテラス 11 から 13 へかけて３段の階段状を呈す。さらにテラス 13 の西、尾根２区の先端部にテラス 14 が位置する。またテラス 11 の西側に１段下がってテラス 15 があり、ほぼ同一レベルにそれから北へ続きそうなテラス 17 が尾根１区側につくられている。

テラス 10・11 の平坦面は広く、奥行き８m、幅が最大で 16 mほどを測る、東辺の狭い台形状を呈する。この面でピットを 30 基ほど検出したが、明確に建物構造の痕跡を示すような配列は見出せなかった。ただし直線的に並ぶものは数列検出している。またピットの大きさはテラス 10 側が長径 0.4 ～ 0.6 mほどであるのに対し、テラス 11 側は長径 0.2 ～ 0.4 mほどと小さい。なおテラス 10・11 とテラス 12 ～ 14 は層位的にみて前後関係にある。すなわち前者埋土上面に後者がのり、テラス 11 上では土坑 10 が掘り込まれている。しかし断面では部分的に確認できたものの（図 81 A－A’）、平面的にはこれらの関係は不明瞭であった。そのためこれら遺構群をここでは一括して扱う。

遺物はテラス 10・11 の広い平坦面上にもあるが、そこより１段下がったテラス 15、および両テラスの間に位置する溝６北側周辺に集中していた。

**テラス 10**（図 80、図版 48-2・49）

平安時代の土器溜下層に位置し、谷１区における当該期の遺構中もっとも奥まったところにある。斜面東およ

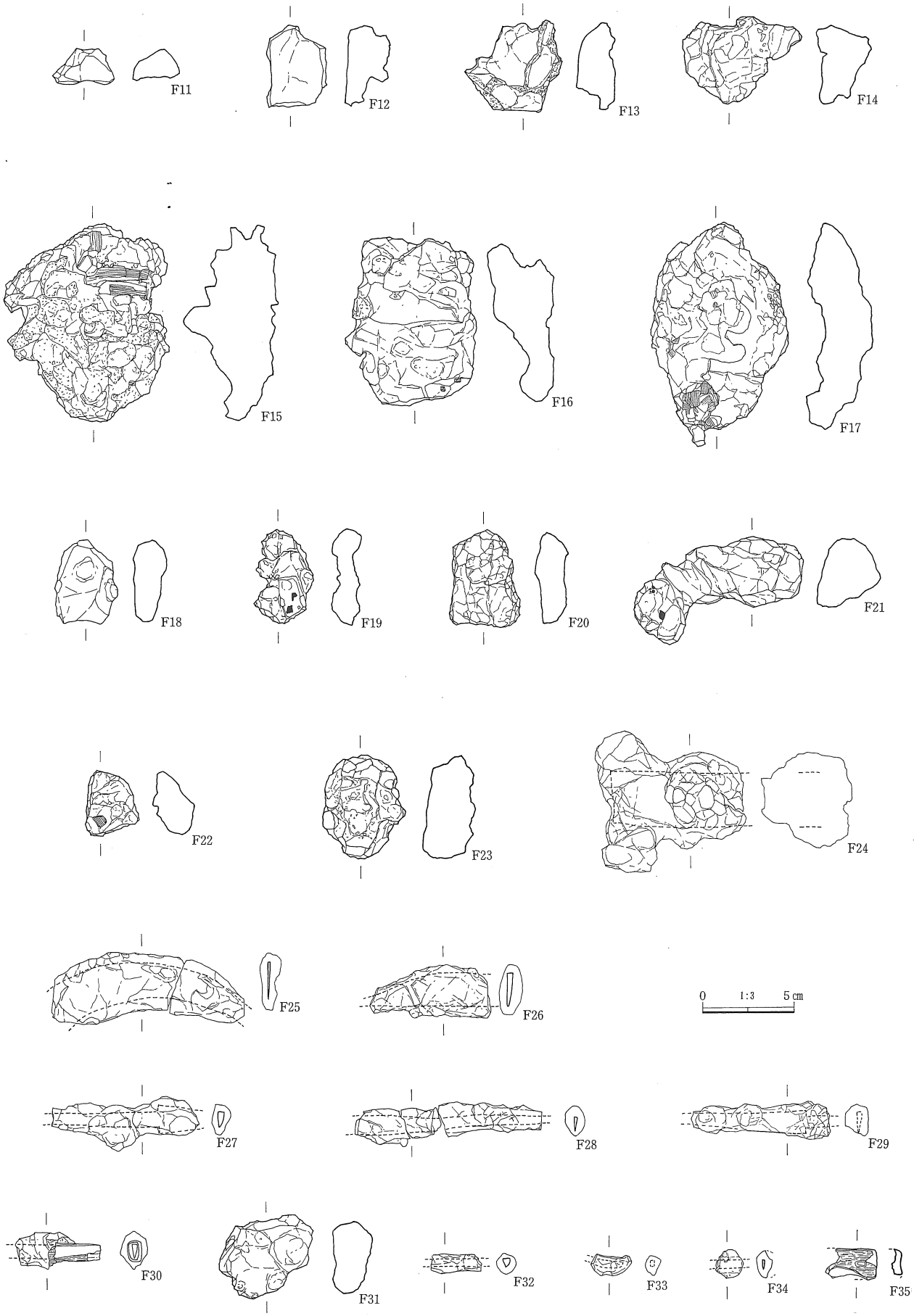
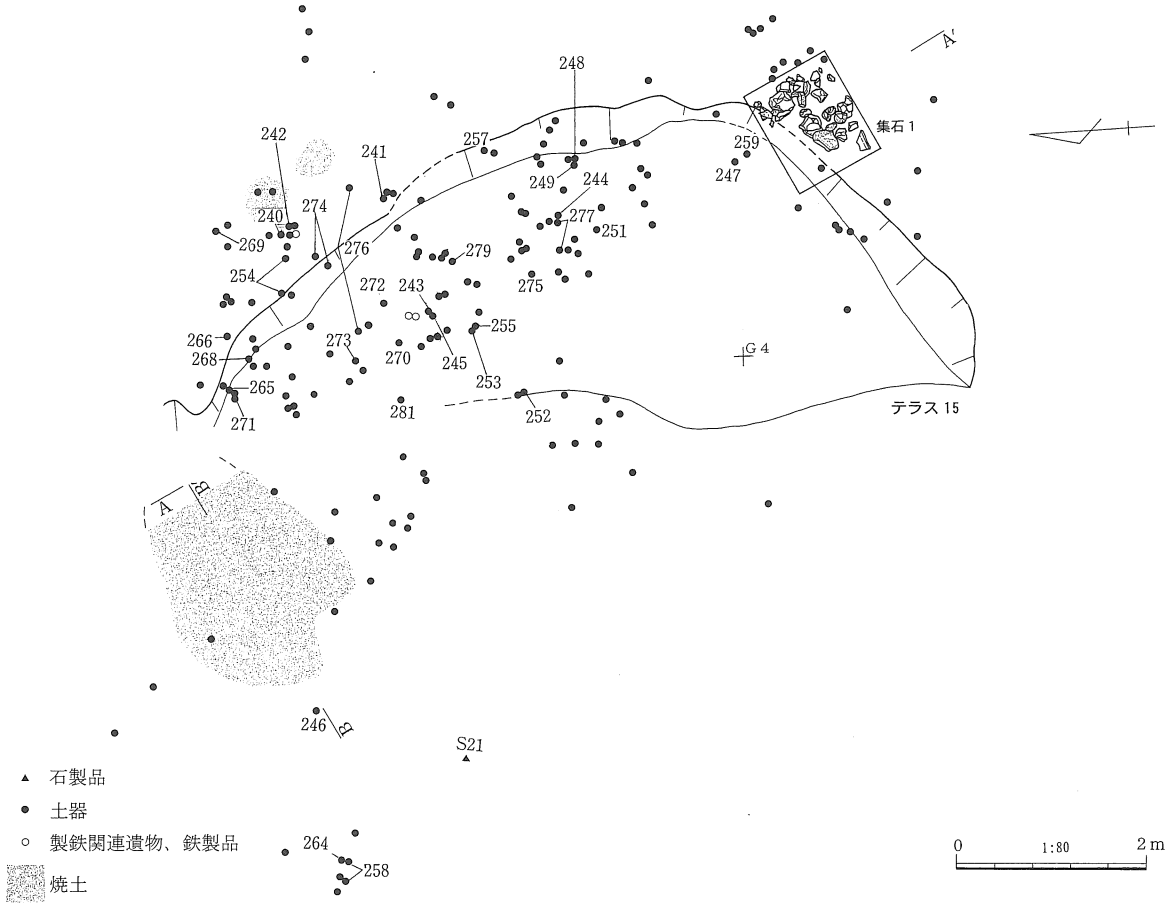
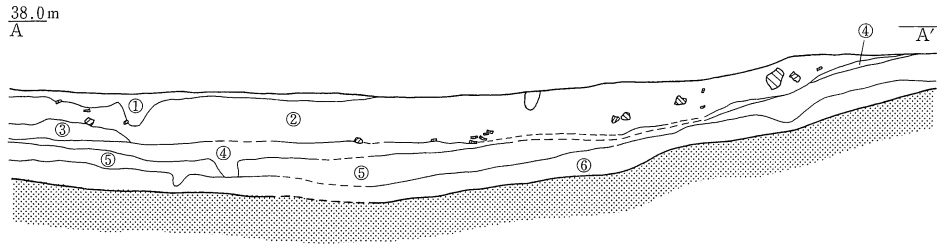
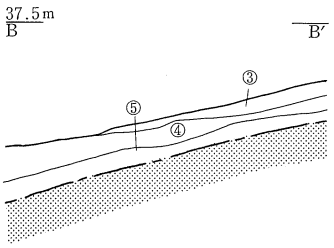


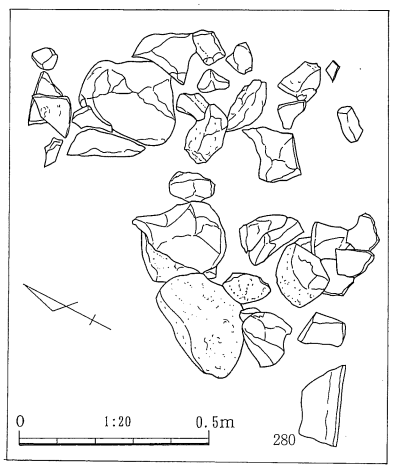

図 84　Ⅳ層出土製鉄関連遺物・鉄製品




①暗黄褐色粘質土
②灰褐色粘質土（Ⅳ層相当）
③灰褐色粘質土（②層に多量の焼土混じる）
④黒褐色土（Ⅵ層相当）
⑤暗黄灰褐色土（ＸＩ層相当）
⑥黄灰褐色粘質土（粗粒の炭多く含む。ＸＶ層相当）




集石１

図 85　テラス 15、集石１

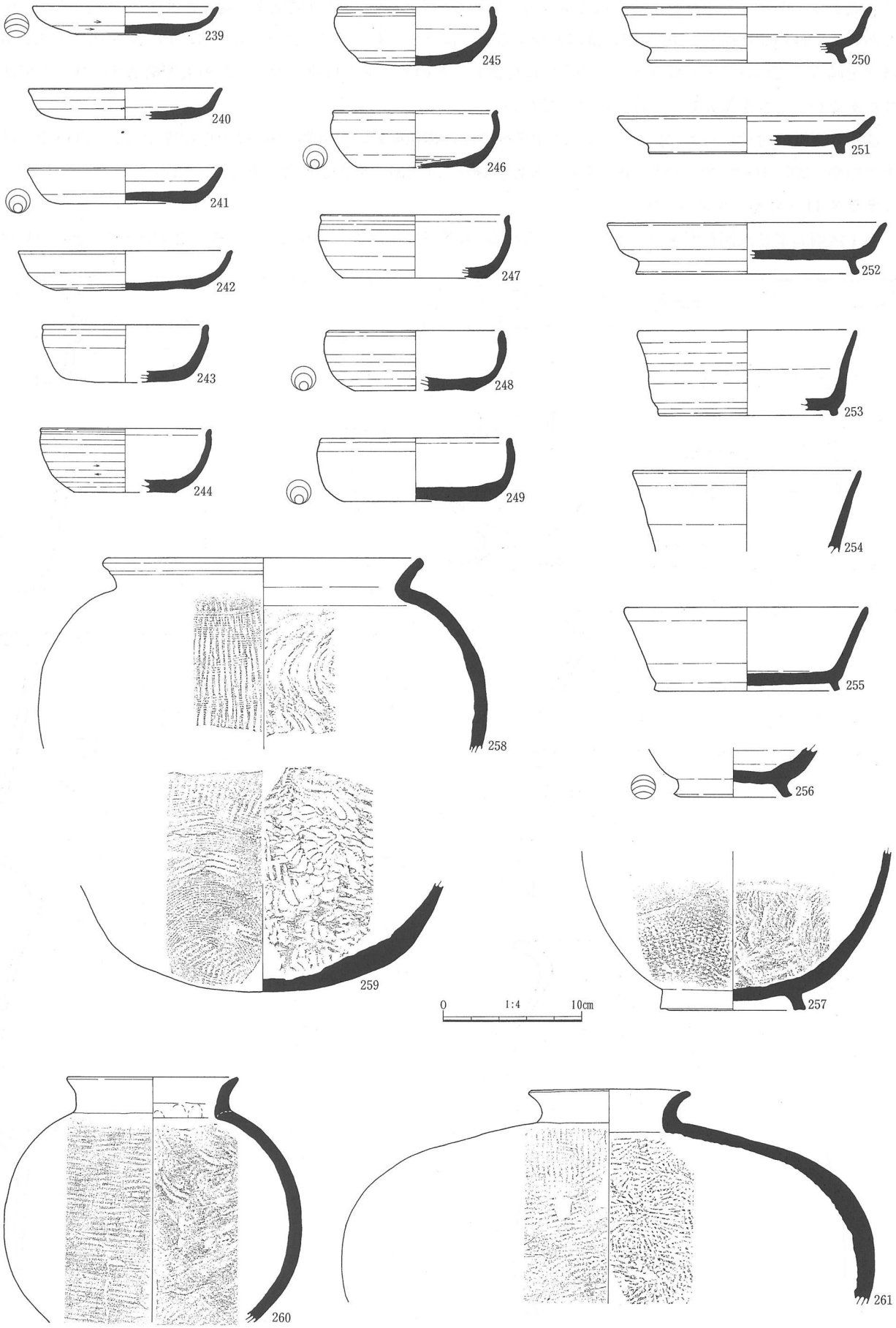



図 86　テラス 15 出土遺物（１）

び北側をカットしつくられ、逆Ｌ字状を呈する。壁面立ち上がり部分には周壁溝が巡り、北壁の高さは約 0.8 m であった。平坦面中央部には、東壁にほぼ並行するようにピット群がある。長径 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.3 ～ 0.6 m ほどを測る。これらピット群はテラスの中央に位置し、そのピットの規模も大きいため大型構造物の柱穴の可能性があるが、それを復元しうる配列は見出せない。

遺物は東壁面付近から主に出土している。197 ～ 201 は赤色塗彩の土師器。204 は須恵器甕である。205・206 は土師器甕。207 は弥生時代後期の甕である。また製錬滓（Ｆ 13）、椀形鍛冶滓（Ｆ 17）が出土した。　（中森）

**テラス 11**（図 81、図版 47-2）

谷１区南および東側斜面をカットしてつくられる。南壁面に並行するようにピット群が２列あるが、南列のピッ

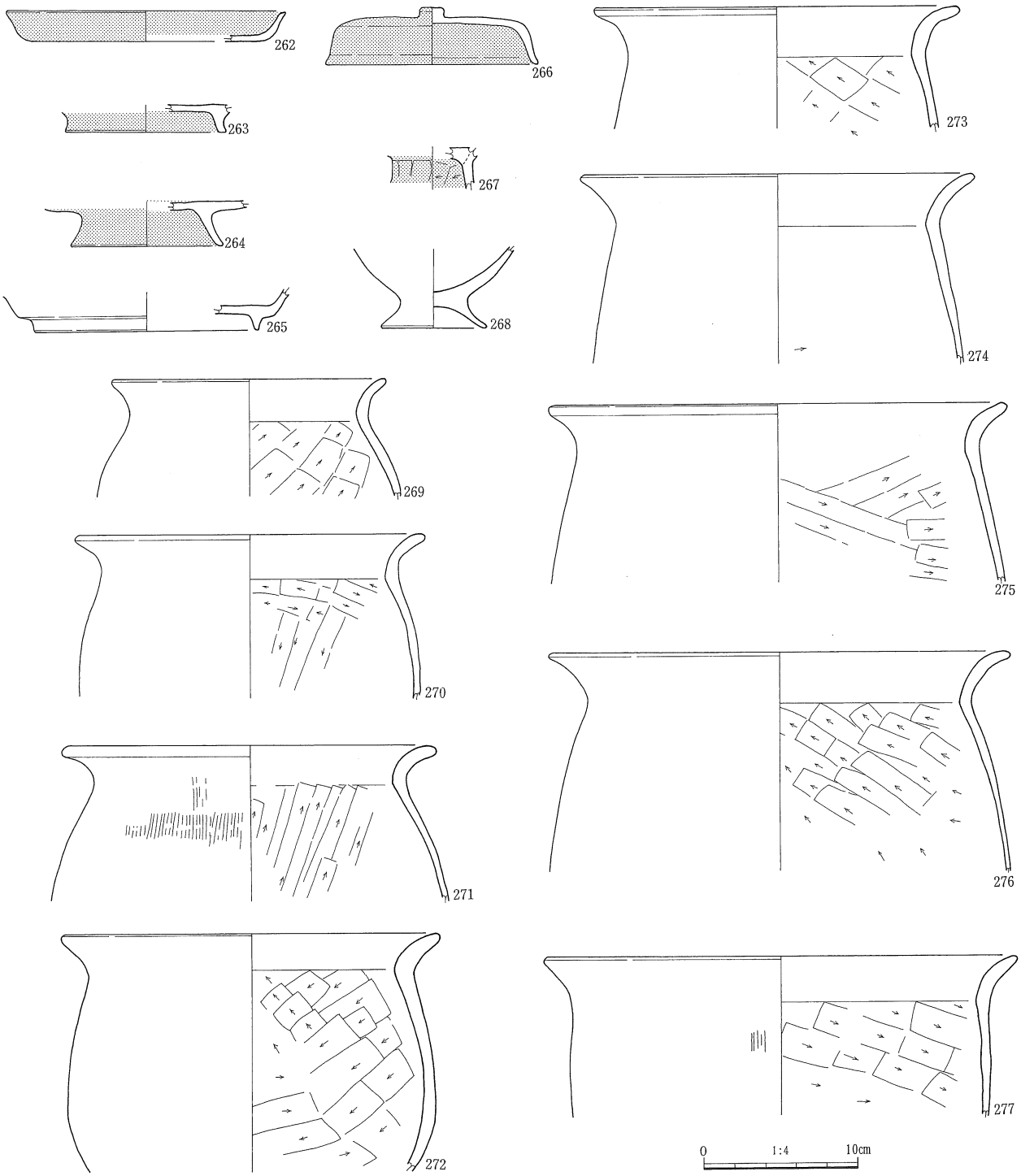



図 87　テラス 15 出土遺物（２）

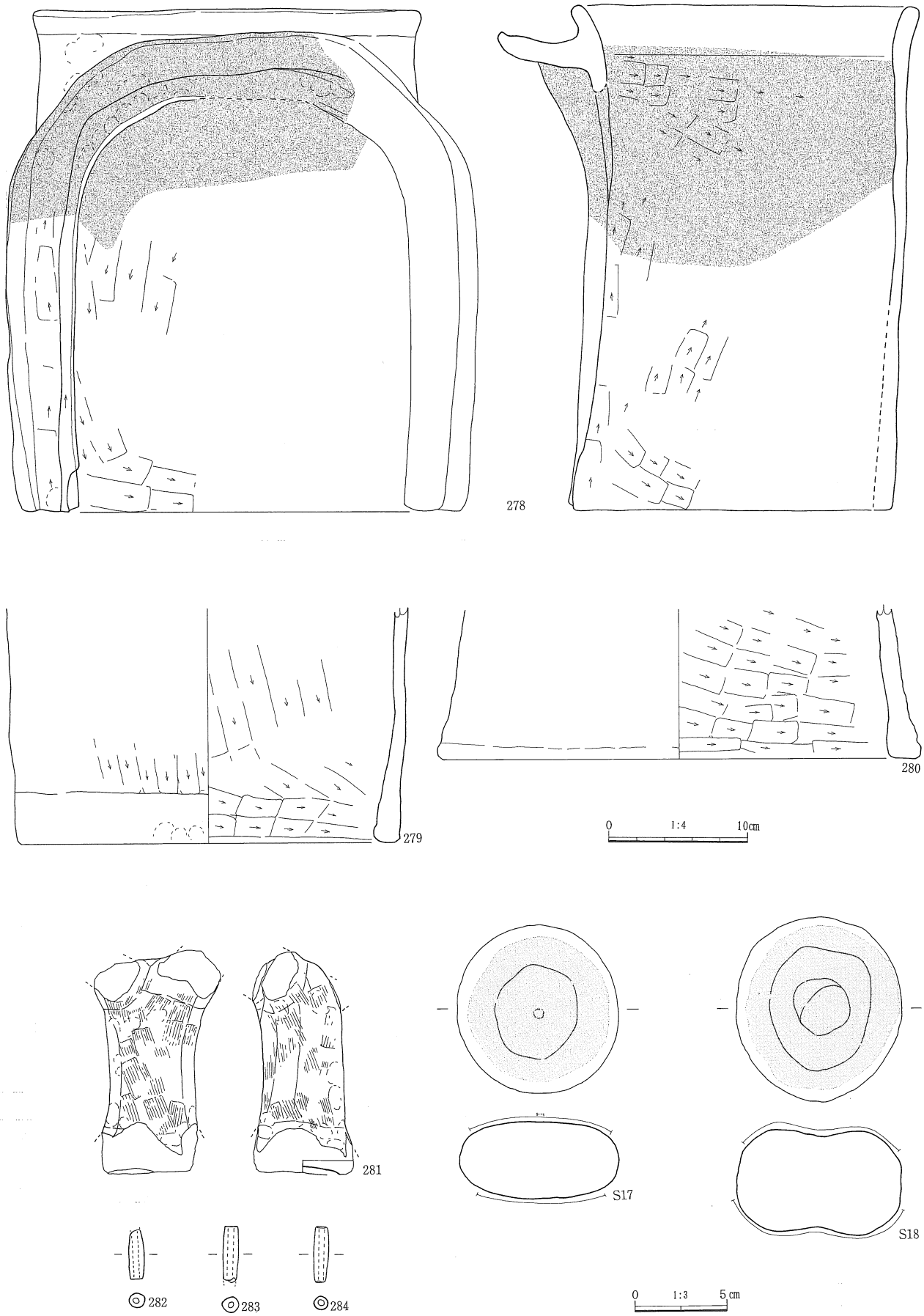



図 88　テラス 15 および集石１出土遺物

トは長径 0.4 ～ 0.5 mほど、深さ 0.2 ～ 0.3 mを測る。それに対し北列は径 0.2 ～ 0.3 mほど、深さ 0.1 ～ 0.15 mほどと小型のものが多い。 遺物はテラス 10 同様東壁付近にみられる。202・203・208 は須恵器杯、209 は土師器の鉢か。Ｆ 24 は含鉄鉄滓である。

さらにテラス 15 へかけての平坦面から遺物が出土している（図 82 ～ 84）。須恵器は 217 ～ 230 で、217 は皿、218 ～ 224 は杯。225・226 は高台の付くものである。227 は小型の皿。229 は甕、230 は壺。231 ～ 233 は赤色塗彩土師器皿・杯、234 は脚部面取の高杯。236 は支脚、237・238 は甕である。砥石（Ｓ 15・Ｓ 16）・磨石（Ｓ 14）も出土している。また製鉄関連の遺物として製錬滓（Ｆ 11・Ｆ 12・Ｆ 15）、鍛冶滓（Ｆ 14・Ｆ 16・Ｆ 18 ～Ｆ 23）があったほか、鎌（Ｆ 25・Ｆ 26）や刀子（Ｆ 27 ～Ｆ 30）および不明鉄製品（Ｆ 31 ～ F34）、黒鉛化木炭（Ｆ 35）が出土した。　（中森）

**土坑 10**（図 81）

テラス 11 の南列付近にあり、長径約 0.6 m、深さ 0.2 mを測る。東側はトレンチにより切られるが楕円形を呈

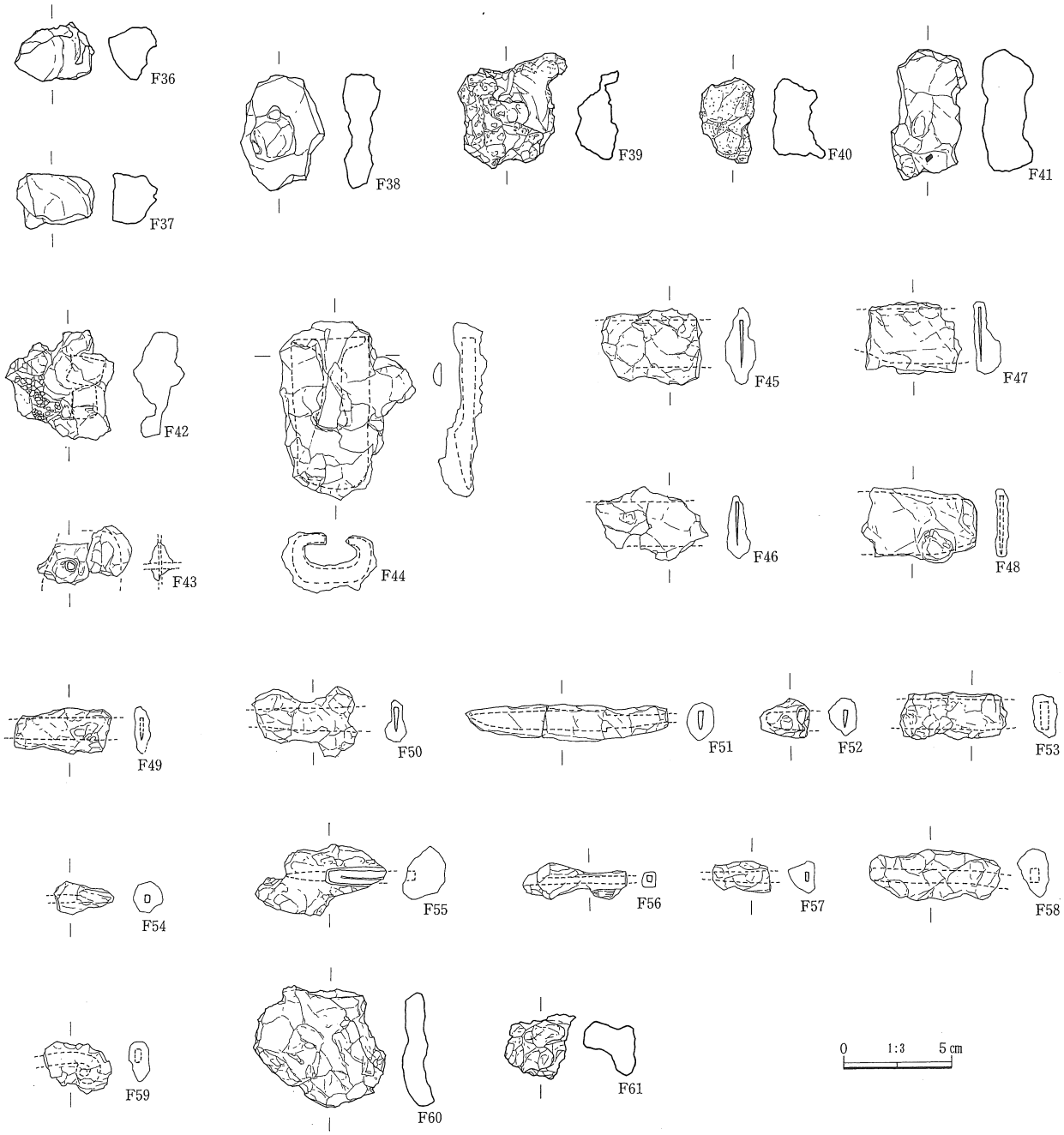
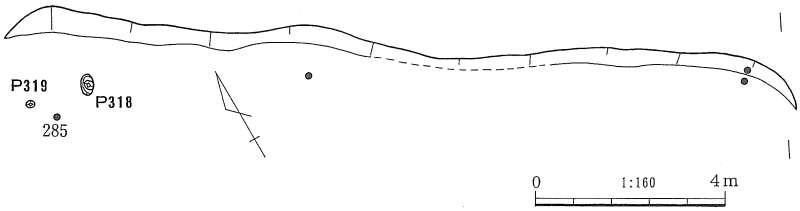
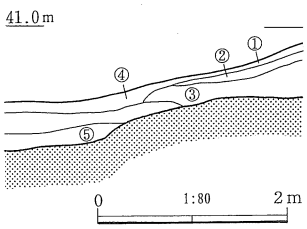
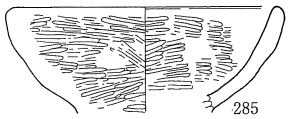



図 89　テラス 15 出土製鉄関連遺物




①表土
②暗褐色土
③灰褐色土（テラス１９埋土）
④暗灰色土（②層よりやや暗い）
⑤暗灰褐色粘質土（テラス１６埋土）



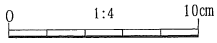




図 90　テラス 16 および出土遺物

していたと考えられる。テラス 11 埋土の⑤層上面から掘り込まれている。

（中森）

**テラス 12**（図 81、図版 47-2）

テラス 11 の１段上に位置する。層位的にはテラス 11 の埋土⑤層上に堆積する③層を埋土とすることから（Ａ－Ａ’）、同テラスより後出のものである。南側斜面をカットしてつくられるが、中央部東西方向に溝があり、さらに南にもう１条あることから、２基のテラスであろう。しかし埋土が同じで切り合い関係がみられなかったため、同一遺構として扱った。西側が緩やかなカーブを描くことからそのあたりが端部と考え、長さ約 11.4 ｍを測るものと思われる。

遺物は東壁面周辺に分布する。210・211 は須恵器杯、212 は高台付のものである。213 は土師器甕。（中森）

**テラス 13**（図 81、図版 47-2）

テラス 12 の西側で、１段上にある。長さは約 7.8 ｍで、南側斜面をカットする。明確な平坦面の範囲はわからなかった。溝やピットも検出していない。（中森）

**テラス 14**（図 81）

尾根２区先端部に位置し、西を向く。床面はテラス 13 と同一面である。長さは約 6.0 ｍを測る。ピットは２基あったのみである。（中森）

**溝６**　（図 81）

テラス 11 と 15 の間に単独で位置し、北東から南西方向を向く直線的な溝である。約 2.4 ｍの長さをを検出し、幅 0.4 ｍ、深さ 0.1 ｍほどを測る。（中森）

**テラス 15**　（図 85 ～ 89、図版 46-2・50・51）

谷部下方のＧ４杭周辺に位置し、弥生時代後期の遺物包含層であるＸＩ層を掘り込んでつくられるテラスである。ほぼ等高線のカーブに沿って斜面を削るが、壁面は非常に緩やかな傾斜である。南北の長さ約 8.0 ｍ、奥行は 3.6 ｍほどを測る。遺物は床面および埋土からまとまって出土し、ヴァリエーションも豊富である。図 80 には須恵器を掲げた。239 ～ 242 は皿、243 ～ 249 は杯である。底部糸切りあるいはその後ナデ消すものがある。250 ～ 252 は高台付皿。口縁端部がまっすぐなものとやや外反するものがみられる。253 ～ 255 は高台付杯で底径が大きく、体部が直線的なものである。256・257 は高台付壺か。258・259 は甕、260・261 は横瓶である。259 は内面にいわゆる車輪状タタキ痕を残す。須恵器の皿・杯類に比べると土師器のそれは圧倒的に少ない。262 は皿、263 ～ 265 は高台付皿ないし杯、266 はつまみがつく蓋である。267 は脚部面取りの高杯。265 をのぞき赤色塗彩を施すが、265 も磨滅したため確認できないだけであろう。268 は低脚杯か。269 ～ 277 は甕である。いずれも頸部から直線的に外反する口縁部をもつが、体部はやや丸みをもつものと直線的なものの２タイプがある。278・279 は竈、281 は支脚である。278 は庇内外面に煤が付着し、黒斑化している。また土錘が３点（282 ～ 284）まとまって出土した。磨石が２点（Ｓ 17・Ｓ 18）あったほか、製鉄関連遺物も出土している。製錬滓（Ｆ 36・Ｆ 37）、鍛冶滓（Ｆ 38 ～Ｆ 41）、含鉄鉄滓（Ｆ 42）に加え、鉄斧（Ｆ 44）、鎌（Ｆ 45 ～Ｆ 48）、刀子（Ｆ 49 ～Ｆ 52）、不明鉄製品（Ｆ 43・Ｆ 52 ～Ｆ 59）などの製品がある。さらにＦ 60 は炉壁、Ｆ 61 は炉壁溶解物であった。鍛冶滓などよりも斧・鎌などの農具類や、刀子のような日常的に使われる製品が目立つ。（中森）

**集石１**（図 85）

テラス 15 壁面の屈曲部にある。壁面上面に位置し、拳から人頭大の礫で構成される。掘り方はない。礫に混じって竈片（280）が出土した。（中森）

**テラス 16**　（図 90）

テラス 10 に西接するものである。長さは約 16.0 ｍを測るが、上面は平安時代のテラス 19 に切られ、全体の規模は不明瞭である。遺物は坏（285）が出土している。内外面がミガかれる。古墳時代のものか。（中森）

**テラス 17**　（図 91、図版 46-1）

尾根１区の南側斜面につくられ、中世後期のテラス 29 に切られている。南側はそれ以降の削平を受けており、規模は長さ約 9.2 ｍであることしかわからない。壁の高さは 0.8 ｍほどが残存する。立ち上がりに周壁溝があり、遺物はこの溝付近から出土した。286 ～ 288 は須恵器である。286 の皿は口縁部に煤が付着するもので、灯明皿と考えられる。287 は皿、288 は壺あるいは横瓶である。289・290 は赤色塗彩の土師器皿、291 は高台のつくもの。292 は支脚で、内面に刺突が密に施される。293 は甕。やや口縁が曲線的なものである。（中森）

**Ⅲ層出土遺物**　（図 92）

あまり広範囲かつ厚く堆積する層ではないが、その割には遺物は多い。294 ～ 298 は須恵器杯、299 は甕である。300 は蓋、301 は短頸壺で底部は静止糸切り。302 は杯であるが、土師器と見間違えるほど軟質なものである。303 ～ 307 は土師器で、303 は支脚、304 ～ 307 は甕である。308・309 はおそらく同一個体になると思われる甕。復元高は 55cm ほどになろうか。さらに椀形鍛冶滓（Ｆ 62 ～Ｆ 64）、鎹状鉄製品（Ｆ 65）が出土した。（中森）

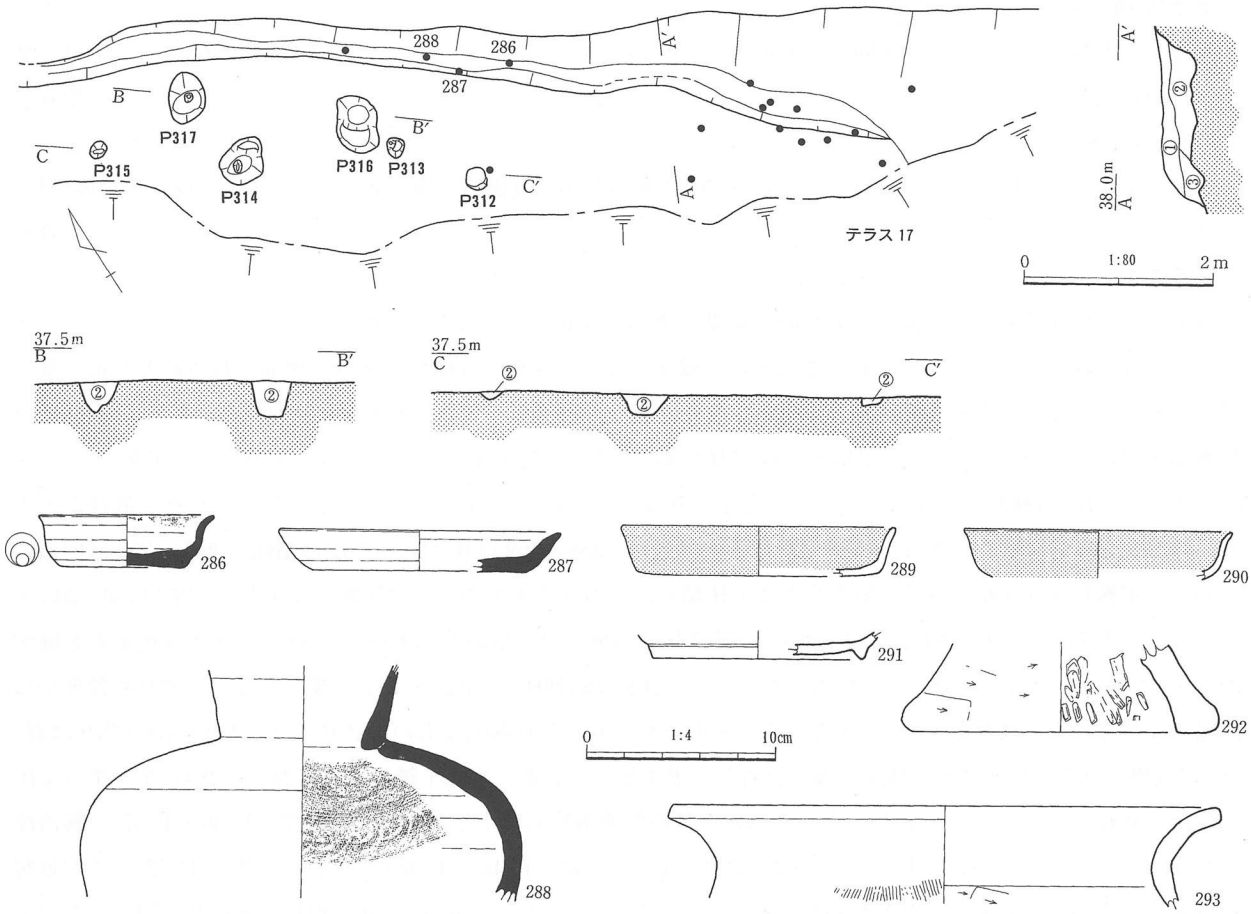



図 91　テラス 17 および出土遺物

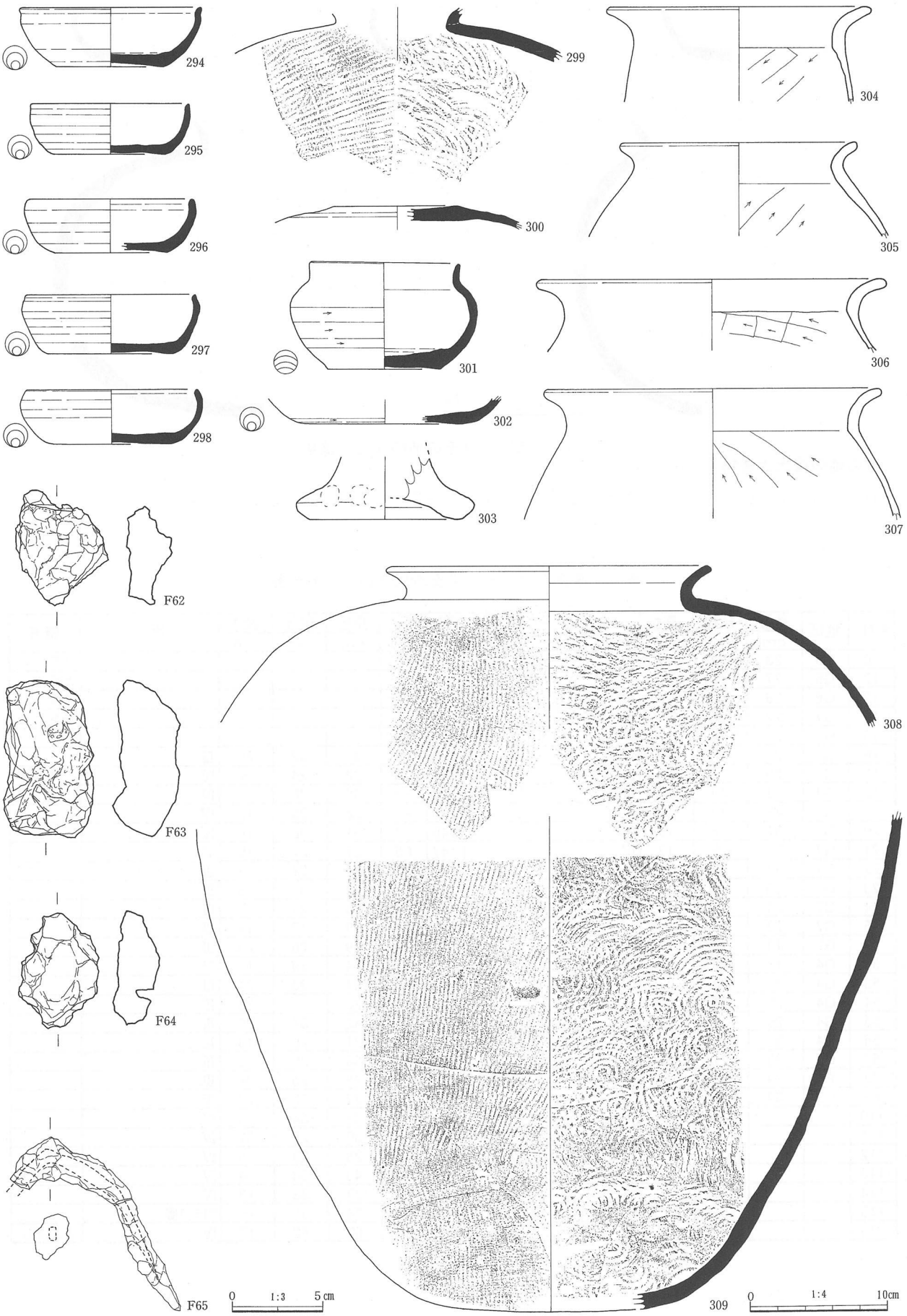

294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
F62
F63
F64
F65
0 1:3 5cm
0 1:4 10cm

図 92　Ⅲ層出土遺物

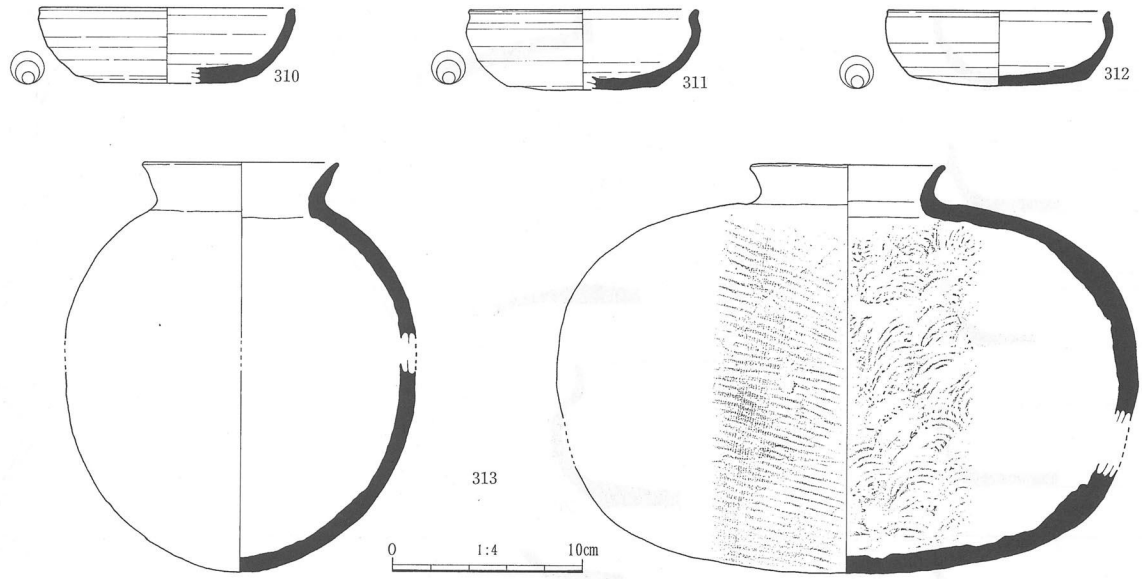



図 93　Ⅴ層およびその他の層出土遺物

**その他の層出土遺物**　（図 93）

310 ～ 312 は須恵器杯、313 は横瓶。311 はⅡａ層、312・313 はⅤ層出土である。（中森）

表９　奈良時代後期～平安時代初頭ピット一覧

| P.No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 | P.No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | G6 | 23 | 20 | 11 | Ⅳ | | 117 | | | | | | 欠番 |
| 12 | G6 | 27 | 20 | 9 | Ⅳ | | 118 | | | | | | 欠番 |
| 13 | G6 | 26 | 23 | 18 | Ⅳ | | 119 | | | | | | 欠番 |
| 14 | G7 | 22 | － | 6 | Ⅳ | | 120 | | | | | | 欠番 |
| 15 | G7 | 27 | 23 | 19 | Ⅳ | | 121 | | | | | | 欠番 |
| 16 | G7 | 21 | － | 5 | Ⅳ | | 139 | F4 | 49 | 42 | 26 | Ⅲ | |
| 17 | G7 | 29 | 24 | 15 | Ⅳ | | 140 | G4 | 28 | 24 | 8 | Ⅳ | |
| 18 | G6 | 53 | 40 | 20 | Ⅳ | | 144 | F4 | 38 | 36 | 10 | Ⅳ | |
| 19 | G7 | 42 | 30 | 16 | Ⅳ | | 145 | F5 | 36 | 25 | 12 | Ⅳ | |
| 20 | G7 | 32 | 32 | 10 | Ⅳ | | 146 | F4 | 51 | 38 | 16 | Ⅳ | |
| 21 | G7 | 39 | 28 | 13 | Ⅳ | | 147 | F5 | 27 | 27 | 15 | Ⅵ | |
| 22 | G7 | 35 | 27 | 10 | Ⅳ | | 148 | F5 | 24 | 21 | 19 | Ⅲ | |
| 23 | G7 | 30 | 26 | 19 | Ⅳ | | 149 | F4 | 40 | 35 | 38 | Ⅲ | |
| 24 | G7 | 24 | 24 | 28 | Ⅳ | | 150 | F4 | 25 | 21 | 7 | Ⅲ | |
| 25 | G7 | 23 | 20 | 13 | Ⅳ | | 151 | F4 | 53 | 47 | 17 | Ⅲ | |
| 26 | G7 | 18 | 18 | 16 | Ⅳ | | 152 | E4 | 29 | 26 | 23 | Ⅲ | |
| 52 | G4 | 17 | 18 | 6 | Ⅳ | | 153 | F4 | 44 | 39 | 17 | Ⅲ | |
| 53 | G4 | 36 | 30 | 23 | Ⅳ | | 154 | F4 | 34 | 33 | 24 | Ⅲ | |
| 54 | G4 | 26 | 21 | 31 | Ⅳ | | 155 | F5 | 20 | 19 | 28 | Ⅲ | |
| 55 | G4 | 20 | 20 | 43 | Ⅳ | | 156 | F5 | 42 | 34 | 26 | Ⅲ | |
| 56 | G4 | 31 | 29 | 21 | Ⅳ | | 157 | F5 | 31 | 26 | 13 | Ⅲ | |
| 57 | G4 | 35 | 27 | 12 | Ⅳ | | 158 | F5 | 38 | 30 | 10 | Ⅲ | |
| 73 | F5 | 24 | 20 | 8 | 黄褐色土 | Ⅳ相当 | 159 | F5 | 28 | 25 | 9 | Ⅲ | |
| 85 | C3 | 64 | 41 | 23 | Ⅵ | | 160 | F5 | 37 | 35 | 26 | Ⅳ | |
| 110 | | | | | | 欠番 | 161 | F3 | 35 | 34 | 10 | Ⅳ | |
| 111 | | | | | | 欠番 | 162 | F3 | 30 | 28 | 31 | Ⅳ | |
| 112 | | | | | | 欠番 | 163 | F3 | 28 | 23 | 15 | Ⅳ | |
| 113 | | | | | | 欠番 | 164 | F3 | 40 | 33 | 24 | Ⅳ | |
| 114 | | | | | | 欠番 | 165 | F3 | 37 | 33 | 13 | Ⅳ | |
| 115 | | | | | | 欠番 | 166 | E5 | 58 | 55 | 15 | T15-3層 | |
| 116 | | | | | | 欠番 | 167 | F4 | 60 | 42 | 17 | Ⅳ | 焼土含む |

| P.No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 | P.No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 168 | F4 | 55 | 40 | 16 | Ⅳ | 焼土含む | 252 | F5 | 36 | 32 | 36 | Ⅵ | |
| 169 | F4 | 48 | 40 | 33 | Ⅲ | | 253 | F5 | 40 | 33 | 15 | Ⅵ | |
| 170 | F4 | 39 | 30 | 15 | Ⅲ | 黄褐色混 | 254 | F6 | 26 | 26 | 20 | Ⅵ | |
| 171 | E4 | 40 | 40 | 11 | Ⅳ | 炭化物混 | 255 | F3 | 32 | 27 | 17 | Ⅵ | |
| 172 | F5 | 25 | 26 | 11 | Ⅳ | | 256 | E4 | 52 | 46 | 35 | Ⅵ | 黒色土、炭、焼土混 |
| 173 | F5 | 53 | 43 | 41 | Ⅳ | | 257 | F4 | 28 | － | 23 | Ⅵ | |
| 174 | F5 | 31 | 38 | 12 | Ⅳ | | 258 | F5 | 28 | 23 | 12 | Ⅵ | |
| 175 | F5 | 55 | 43 | 43 | Ⅳ | | 259 | F5 | 29 | 29 | 17 | Ⅵ | |
| 176 | F5 | 58 | 43 | 29 | Ⅳ | 黄褐色粘質土を含む | 260 | F6 | 42 | 39 | 14 | Ⅵ | |
| 177 | F5 | 43 | 39 | 21 | Ⅳ | 〃 | 261 | F5 | 32 | 32 | 21 | Ⅵ | |
| 178 | F5 | 37 | 35 | 32 | Ⅳ | 黄褐色粘質土石を含む | 262 | F4 | 31 | － | 18 | Ⅵ | |
| 179 | F5 | 48 | 31 | 42 | Ⅳ | 黄褐色粘質土を含む | 266 | F4 | 32 | 27 | 20 | Ⅵ | 黒褐色土 |
| 180 | E5 | 43 | 39 | 29 | Ⅳ | Ⅳ相当。黄褐色粘質土 | 268 | F4 | 36 | － | 34 | Ⅳ | 暗褐色粘質土 |
| 181 | F4 | 61 | 41 | 62 | Ⅲ | 黄褐色混 | 269 | F4 | 38 | － | 24 | Ⅳ | |
| 182 | G5 | 41 | 39 | 23 | Ⅳ | 石 | 270 | F4 | 50 | － | 48 | Ⅳ | |
| 183 | G5 | 53 | 32 | 29 | Ⅳ | 石 | 271 | F5 | 48 | － | 40 | Ⅳ | 黒褐色土、黄色土混 |
| 184 | F5 | 29 | 27 | 15 | Ⅳ | YT24ベルト | 272 | F5 | 35 | － | 19 | Ⅵ | 黒褐色土 |
| 185 | F5 | 27 | 22 | 12 | Ⅳ | | 273 | F5 | 50 | 41 | 49 | Ⅳ | |
| 186 | F5 | 29 | 23 | 13 | Ⅳ | | 274 | E5 | 38 | 33 | 6 | Ⅳ | |
| 187 | F4 | 42 | 32 | 38 | Ⅳ | | 275 | F5 | 43 | 40 | 43 | Ⅳ | |
| 188 | G3 | 38 | 32 | 15 | Ⅳ | | 276 | F5 | 72 | 42 | 45 | Ⅳ | Ⅳよりやや黒い |
| 189 | G3 | 33 | 27 | 20 | Ⅳ | | 277 | F5 | 70 | 58 | 32 | Ⅳ | Ⅳよりやや黒い |
| 190 | G3 | 29 | 24 | 33 | Ⅳ | | 278 | F6 | 30 | 23 | 17 | Ⅳ | |
| 191 | G3 | 31 | 22 | 22 | Ⅳ | | 279 | F5 | 51 | 41 | 10 | Ⅳ | |
| 192 | E4 | 20 | － | 26 | Ⅵ | | 280 | F5 | 46 | － | 18 | Ⅳ | |
| 203 | F4 | 25 | 18 | 4 | 焼土 | | 281 | F5 | 32 | 30 | 8 | Ⅵ | |
| 204 | F3 | 37 | 30 | 15 | Ⅳ | | 282 | F5 | 21 | 18 | 14 | Ⅵ | |
| 205 | F5 | 28 | 23 | 16 | Ⅵ | 暗灰色土、暗褐色土 | 283 | F5 | 34 | 30 | 10 | Ⅵ | |
| 208 | E5 | 34 | － | 40 | Ⅵ | | 289 | F4 | 44 | － | 18 | Ⅵ | |
| 209 | F5 | 43 | 37 | 11 | Ⅵ | 褐色粘質土暗灰色土混 | 290 | | | | | | 欠番 |
| 210 | F4 | 58 | 40 | 15 | Ⅵ | | 302 | I6 | 20 | 18 | 18 | Ⅴ | |
| 211 | F4 | 39 | 34 | 15 | Ⅵ | | 303 | I6 | 28 | 26 | 20 | Ⅴ | |
| 212 | F3 | 53 | 44 | 18 | Ⅳ | | 304 | I6 | 38 | 30 | 26 | Ⅴ | |
| 213 | E4 | 44 | － | 23 | Ⅵ | | 305 | J6 | 48 | 45 | 24 | Ⅴ | |
| 214 | E4 | 55 | 50 | 28 | Ⅵ | しまりわるい | 306 | J7 | 42 | 35 | 24 | Ⅴ | |
| 215 | E4 | 26 | － | 10 | Ⅵ | | 308 | J10 | 39 | 37 | 32 | 暗黄灰色粘質土 | 炭少混 |
| 216 | E4 | 44 | 42 | 12 | Ⅵ | | | | | | | | |
| 217 | E4 | 38 | 34 | 21 | Ⅵ | | 312 | E3 | 24 | 23 | 11 | 暗褐色粘質土 | |
| 218 | F5 | 31 | 28 | 9 | Ⅵ | | | | | | | | |
| 219 | F5 | 50 | 48 | 40 | Ⅵ | | 313 | E3 | 23 | 21 | 6 | 〃 | |
| 220 | E5 | 22 | － | 34 | Ⅵ | T10ベルト中 | 314 | E2 | 56 | 48 | 12 | 〃 | |
| 221 | E4 | | | | Ⅵ | 欠番 | 315 | E2 | 22 | 20 | 8 | 〃 | |
| 222 | E5 | 39 | 35 | 10 | Ⅵ | | 316 | E3 | 64 | 42 | 33 | 〃 | やや赤味を帯びる |
| 223 | E5 | 23 | 22 | 9 | Ⅵ | | 317 | E2 | 56 | 42 | 28 | 〃 | |
| 224 | E5 | 33 | 30 | 10 | Ⅵ | | 318 | E3 | 47 | 32 | 10 | 焼土 | 焼土塊 |
| 225 | E5 | 45 | 42 | 8 | Ⅵ | | 319 | E3 | 17 | 16 | 4 | 〃 | 焼土塊 |
| 226 | E5 | 28 | 27 | 14 | Ⅵ | | 320 | F6 | 23 | 22 | 11 | Ⅳ | |
| 228 | F5 | 45 | 38 | 18 | Ⅵ | | 321 | F6 | 26 | 24 | 14 | Ⅳ | |
| 229 | F5 | 40 | 26 | 25 | Ⅵ | | 322 | F6 | 26 | 20 | 10 | Ⅳ | |
| 230 | F5 | 30 | 22 | 15 | Ⅵ | | 323 | F6 | 25 | 21 | 10 | Ⅳ | |
| 231 | E5 | 25 | 13 | 7 | Ⅵ | | 324 | F6 | 47 | 42 | 16 | Ⅳ | |
| 232 | E4 | 51 | 40 | 12 | Ⅵ | | 325 | G5 | 36 | 33 | 45 | Ⅳ | 暗褐色土（黄色土粒混） |
| 233 | E4 | 31 | 30 | 9 | Ⅵ | | 326 | G5 | 28 | 19 | 19 | Ⅳ | 暗褐色土（黄色土粒混） |
| 234 | G4 | 33 | 29 | 33 | Ⅵ | 炭混 | 327 | G3 | 32 | 32 | 8 | Ⅳ | |
| 236 | F4 | 37 | 35 | 13 | Ⅵ | | 328 | G4 | 36 | 27 | 25 | Ⅳ | |
| 246 | F5 | 25 | 22 | 7 | Ⅳ | | 329 | H4 | 29 | 27 | 11 | Ⅳ | |
| 247 | F4 | 42 | 40 | 13 | Ⅳ | | 330 | H4 | 46 | 30 | 10 | Ⅳ | |
| 248 | F4 | 35 | 15 | 17 | Ⅳ | | 331 | H5 | 31 | 21 | 19 | Ⅳ | |
| 249 | F5 | 34 | 26 | － | Ⅵ | | 332 | G5 | 40 | 35 | 12 | Ⅳ | |
| 250 | F5 | 38 | 30 | 30 | Ⅵ | | 333 | G5 | 35 | 33 | 15 | Ⅳ | |
| 251 | F5 | 34 | 32 | 31 | Ⅵ | | | | | | | | |

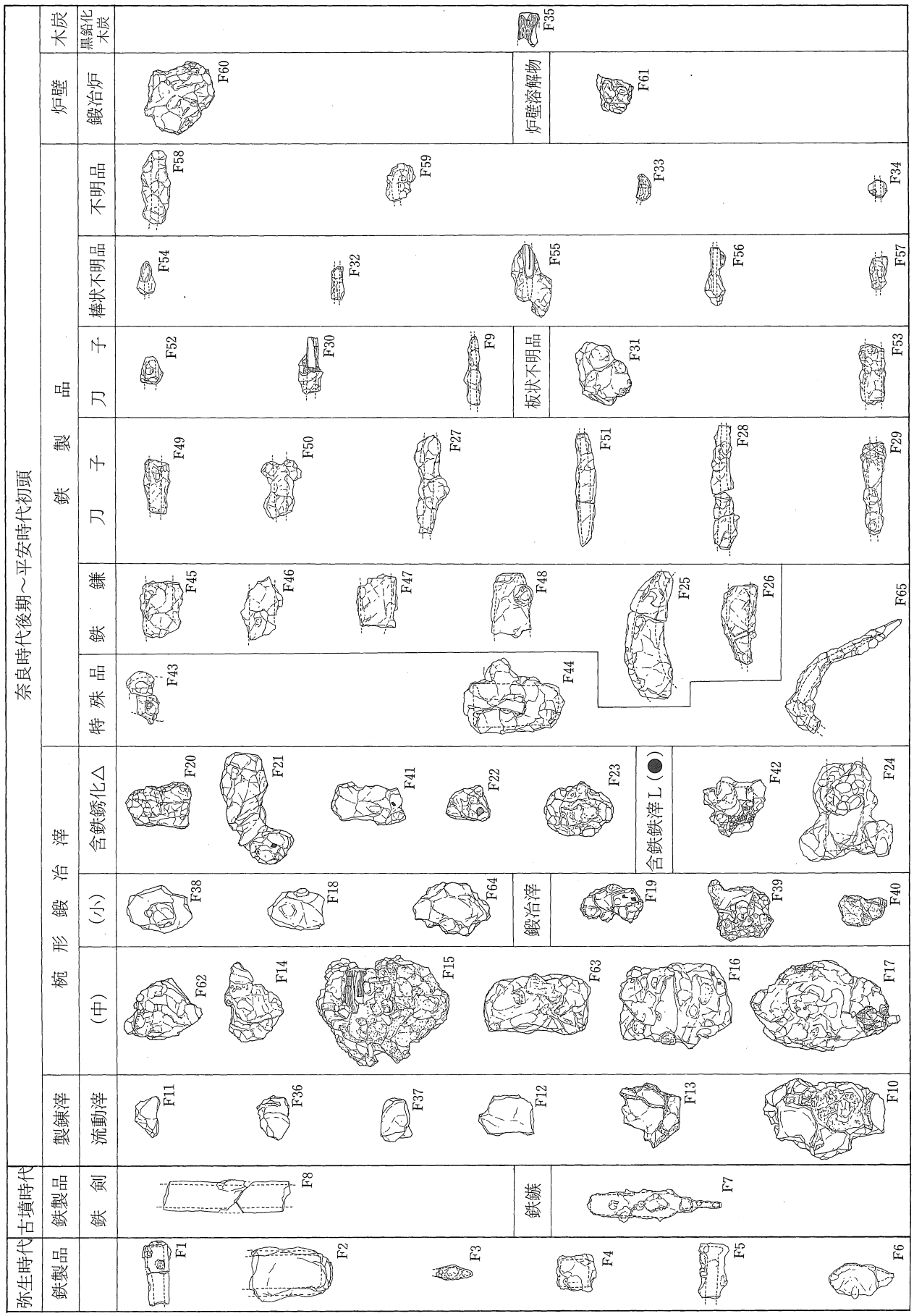



図 94　製鉄関連遺物構成図（１）

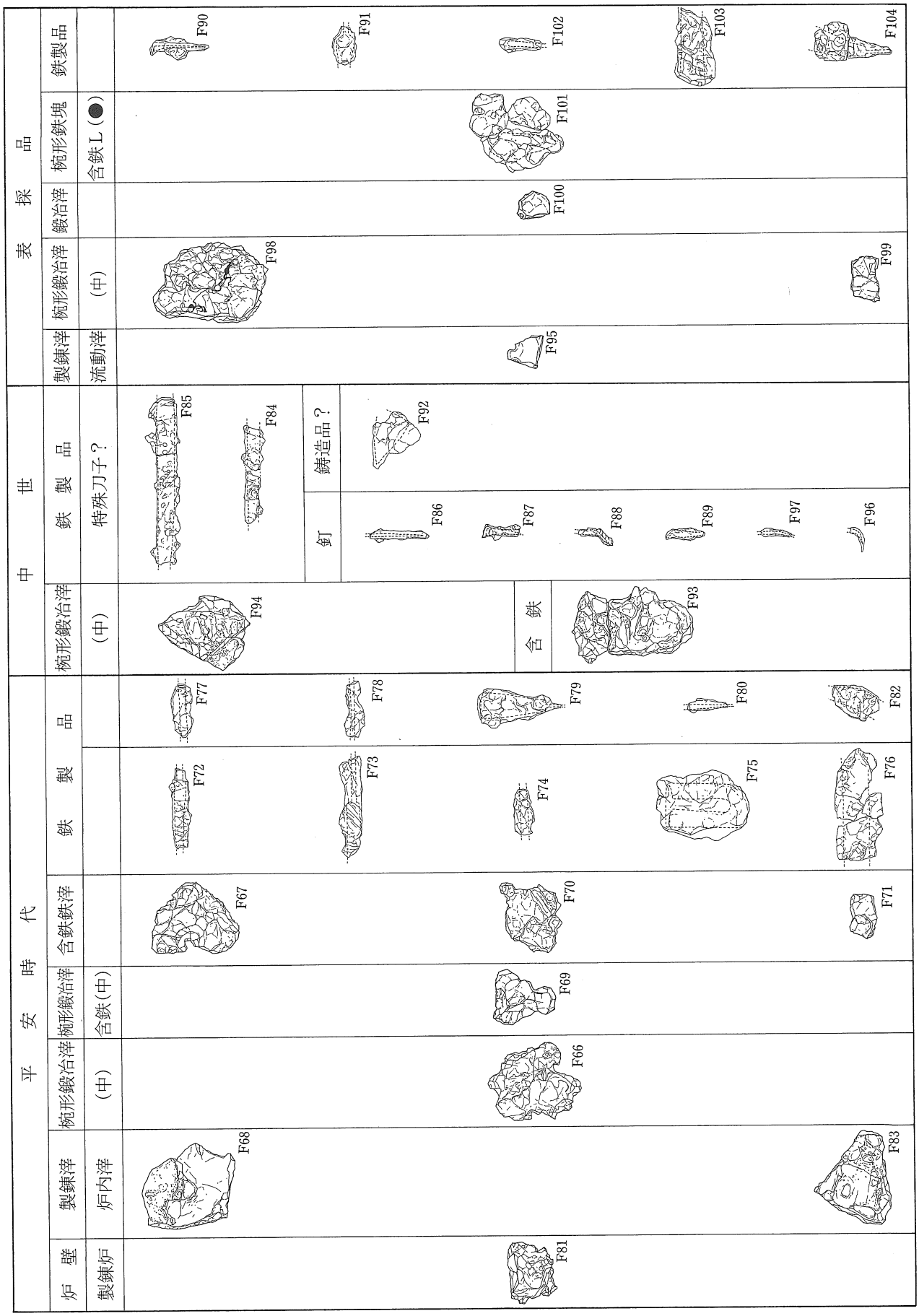



図 95　製鉄関連遺物構成図（２）

## 表 10　鉄滓・鉄製品観察表

本観察表は穴澤義功氏の指導のもと、中森が作成した。
ここには未報告資料についても観察結果を出している。「遺物番号」が報告書掲載資料No.に対応する。

| No. | 遺物番号 | 挿図 | 地区 層位・遺構 | 器種 | 特徴 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 磁着度 | メタル度 | 重量 (g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | F1 | 18 | E5、竪穴住居跡2 | 鑪鉋 | 先端側側部の一部が欠落。後者は新しい欠け。基部は平坦気味。 | 2.4 | 5.1 | 0.5 | 4 | △ | 12.2 |
| 2 | F2 | 18 | E5、竪穴住居跡2 | 鉄斧 | 横断面形台形、上下面とも平坦。先端部は弧状の丸味をもつ。非中空。定型斧の先端で鋳造品か。 | 6.7 | 4.4 | 2.3 | 8 | L(●) | 124 |
| 3 | F3 | 18 | E5、竪穴住居跡2 | 鉄鏃？ | 一見鉄滓片様。確実に鏃とは断定できず。 | 2.9 | 1.2 | 1.1 | 5 | △ | 2.6 |
| 4 | F4 | 18 | E5、竪穴住居跡2 | 鉄製品 | 左側部が立ち気味。錆化激しい。鎌片？ | 3.2 | 3.1 | 1.2 | 2 | △ | 15.4 |
| 5 | F5 | 36 | F5、ＸＩ層 | 鉄器 | 左側部欠落。鉄錆化物が層状に厚い。刀子または小型鎌の可能性あり。 | 2.4 | 4,5 | 0.8 | 4 | △ | 14.4 |
| 6 | | | F5、ＸＩ層 | 不明 | 薄板状の不明品。磁着は極めて弱。表面全体に黄褐色の酸化物。鉄器とすれば刀子類または鑪鉋など。 | 3.7 | 1.7 | 0.6 | 1 | なし | 8 |
| 7 | F6 | 36 | F5、ＸＩ層 | 鉄器 | 一見鉄滓またはオニイタ状。端部が僅かに磁着。大半は酸化土砂。鏃の可能性をもつ。 | 5.2 | 2.9 | 1.5 | 2 | なし | 24.4 |
| 8 | F8 | 75 | G12,23号墳埋葬施設1 | 鉄剣 | 先端、基部側とも欠落。細身の鉄剣。鎬は低め。二辺の端部は新しい欠け。 | 10.2 | 2.7 | 0.7 | 4 | △ | 32.2 |
| 9 | F7 | 60 | D9,19号墳埋葬施設1 | 鉄鏃 | やや大振りの柳葉鏃。中子端部は僅かに錆膨れにより欠落。 | 2.8 | 10.9 | 0.7 | 3 | △ | 25.6 |
| 10 | F11 | 84 | E4,Ⅳ層 | 製錬滓(流動滓) | 上面流動状。下面には炉壁粉をかみこむ。破面は緻密でやや風化。 | 2.0 | 3.4 | 1.6 | 2 | なし | 25 |
| 11 | F36 | 89 | F3,テラス15 | 製錬滓(流動滓) | 小単位の流動滓が重層。表皮はやや紫紅色。側面から下面には炉壁粉を激しくかみこむ。 | 2.7 | 3.7 | 2.2 | 1 | なし | 23 |
| 12 | F37 | 89 | F3,テラス15 | 製錬滓(炉外流出滓) | 一見椀形。上面の一部は紫紅色。側面から下面の半分は破面。滓はやや気孔あり。 | 2.6 | 3.6 | 2.1 | 2 | なし | 33.8 |
| 13 | F12 | 84 | F5,Ⅳ層 | 製錬滓(炉外流出滓) | 上面は平坦な流動状。色調はやや紫紅色。滓はやや気孔が大きく、結晶がキラキラ。下面は炉壁粉の圧痕。 | 4.4 | 3.3 | 2.5 | 3 | なし | 59 |
| 14 | F13 | 84 | F6,テラス10 | 製錬滓(流動滓) | 上面はきれいな流動状。一部に肥大した気孔。表皮はやや紫紅色。下面は⑨と似て炉壁粉を多量にかみこむ。 | 5.1 | 5.3 | 2.1 | 2 | なし | 71.5 |
| 15 | F10 | 79 | G4,Ⅵ層 | 製錬滓(炉外流出滓) | 新旧の流動滓が重層。やや気孔が目立つ。下面には炉壁土が多量に固着。流出溝中で形成と推定。 | 9.9 | 6.6 | 4.6 | 2 | なし | 338 |
| 16 | | | F3,Ⅳ層 | 製錬滓(流動滓) | 薄皮状の流動滓表皮破片。表面は紫紅色。 | 1.3 | 3.1 | 0.7 | 1 | なし | 8 |
| 17 | | | J6,16-1層 | 製錬滓(流動滓) | きれいな流動滓の小片。内部に炉壁片。下面に土砂をかむ。 | 2.2 | 1.7 | 1.7 | 1 | なし | 10 |
| 18 | F62 | 92 | F4,Ⅲ層 | 椀形鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓の中核部破片。上面は浅い波状、下面は微細な粉炭痕。本来はやや横長の平板な椀形滓か。 | 6.7 | 5.1 | 2.5 | 2 | なし | 80.5 |
| 19 | F14 | 84 | F5,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | まとまりの悪い椀形鍛冶滓の側部破片。上面は木炭痕を残す波状、下面は流動状の滓の突起と木炭痕。上面の一部に羽口溶解物。 | 4.8 | 6.5 | 3.0 | 2 | なし | 99.5 |
| 20 | F15 | 84 | F5,Ⅳ層 | 製錬滓(炉内滓？) | 一見製錬炉の炉内滓風。木炭痕が大きく、椀形鍛冶滓としてはやや異形。鍛冶炉の炉壁付着滓の可能性も残る。 | 10.9 | 9.1 | 5.2 | 3 | なし | 358 |
| 21 | F63 | 92 | G4,Ⅲ層 | 椀形鍛冶滓 | しっかりした椀形鍛冶滓の中核部破片。比重がやや高く下面は左右に伸びる樋状。 | 8.7 | 5.0 | 3.7 | 5 | なし | 242 |
| 22 | F16 | 84 | G4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 小型の椀形鍛冶滓が作業中つき動かされた可能性大。大きく三層からなる。表面全体に酸化土砂。 | 9.2 | 7.2 | 3.6 | 5 | なし | 262 |
| 23 | F17 | 84 | F6,テラス10 | 椀形鍛冶滓 | 半円形気味の椀形鍛冶滓。上下面ともチリメン状の表皮。左側面には流動状の滓がかぶる。この部分のみ紫紅色。 | 12.2 | 7.5 | 3.6 | 2 | なし | 334 |
| 24 | F38 | 89 | F3,テラス15 | 椀形鍛冶滓 | 側部に破面をもつが比較的きれいな椀形鍛冶滓。気孔が散在し、密度はやや高め。 | 5.3 | 3.9 | 1.7 | 5 | なし | 40.4 |
| 25 | F18 | 84 | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 全体に酸化土砂に覆われる。手前側部は破面の可能性大。 | 4.6 | 3.5 | 1.8 | 2 | なし | 29.2 |
| 26 | F64 | 92 | G4,Ⅲ層 | 椀形鍛冶滓 | 上下面ともゆるやかな孤状をした異形の椀形鍛冶滓。側部の7割方が破面。内部に木炭痕を残す。形成不十分か。 | 10.2 | 4.4 | 2.1 | 3 | なし | 68 |
| 27 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 二片接合。内部は気孔が目立つ。下面に肌色の鍛冶炉の炉床土。 | 5.0 | 4.1 | 2.5 | 3 | なし | 75.5 |
| 28 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 中核部破片。結晶がやや発達し、部分的に青光り。 | 4.8 | 3.1 | 2.2 | 3 | なし | 29.6 |
| 29 | | | F3,Ⅵ層 | 椀形鍛冶滓 | 中型の椀形鍛冶滓の破片か。コブ状の突出部をもつ。水洗不良。 | 7.3 | 5.2 | 4.9 | 6 | なし | 136 |
| 30 | | | F3,黒褐色土 | 椀形鍛冶滓 | 椀形滓破片。 | 2.2 | 2.7 | 2.1 | 6 | なし | 21 |
| 31 | | | F3,T31-1層 | 椀形鍛冶滓 | 扁平小型の椀形鍛冶滓。上面は紫紅色、下面もきれいな面をなす。 | 4.5 | 2.9 | 1.4 | 4 | なし | 32.8 |
| 32 | | | F3,Ⅳ層 | 鍛冶滓 | 酸化土砂に囲まれた椀形鍛冶滓？破片。水洗不良。 | 3.5 | 4.6 | 2.5 | 5 | なし | 44.2 |
| 33 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 扁平小型の椀形滓。No.31にやや似る。下面は平坦。 | 4.0 | 3.4 | 1.7 | 4 | なし | 32.2 |
| 34 | 欠番 | | | | | | | | | | |
| 35 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓の中核部破片。上下側面とも不規則で木炭痕が目立つ。下面には鍛冶炉の炉床土散在。 | 5.0 | 3.1 | 2.8 | 4 | なし | 70 |
| 36 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓の肩部破片。やや粘土質で気孔多し。 | 3.6 | 2.8 | 2.2 | 2 | なし | 24.6 |
| 37 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 扁平で横に拡がる椀形鍛冶滓。下面は粉炭痕上面は不規則なへこみ。ややまとまり悪し。 | 7.9 | 4.0 | 1.8 | 2 | なし | 60 |
| 38 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 中型の椀形鍛冶滓の側部破片。厚みをもちしっかりしている。 | 7.5 | 6.2 | 4.0 | 4 | なし | 168 |
| 39 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 小振りの椀形滓片。付着土砂が厚く、下面には炉床土多い。詳細不明。 | 3.8 | 3.9 | 2.6 | 3 | なし | 39.8 |
| 40 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 中核部破片。側面三面と下面は破面。結晶やや発達。 | 3.3 | 3.7 | 2.3 | 3 | なし | 34.4 |
| 41 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 扁平な椀形鍛冶滓片。上面はゆるやかな波状、下面は粉炭痕。 | 3.5 | 2.8 | 2.0 | 3 | なし | 25.2 |
| 42 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | きわめて扁平な椀形滓の肩部破片。上下面とも木炭痕あり。 | 4.4 | 3.1 | 1.5 | 3 | なし | 20.2 |

## 鉄滓・鉄製品観察表

| No. | 遺物番号 | 挿図 | 地区 層位・遺構 | 器種 | 特徴 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 磁着度 | メタル度 | 重量 (g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 形状の不規則な椀形滓片。上下側面ともほとんど椀形形態をもたない。不規則な突出部をもつ。 | 5.7 | 5.2 | 2.1 | 3 | なし | 71.5 |
| 44 | 欠番 | | | | | | | | | | |
| 45 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 小型ながらきれいな形状をもつ。下面は椀形で炉床土と粉炭痕混在。やや半円形の形態。 | 7.6 | 4.5 | 2.6 | 1 | なし | 94 |
| 46 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 3片が接合。上面は流動状、下面は錆色で突出。一見製錬滓様。 | 3.6 | 5.6 | 4.2 | 5 | なし | 112 |
| 47 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 小振りの椀形鍛冶滓。側部の一部が欠ける。水洗不良。 | 5.1 | 4.3 | 2.3 | 4 | なし | 51 |
| 48 | | | F3,Ⅵ層 | 椀形鍛冶滓 | やや比重の高い塊状の滓。磁着は弱い。中型の椀形鍛冶滓の肩部破片か。 | 4.7 | 3.6 | 3.0 | 3 | なし | 67.5 |
| 49 | 欠番 | | | | | | | | | | |
| 50 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓の破片。やや密度が低い。 | 3.6 | 4.0 | 2.2 | 4 | なし | 27.2 |
| 51 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 小型の椀形鍛冶滓。側面片側は破面。 | 4.3 | 3.9 | 1.7 | 2 | なし | 19 |
| 52 | | | F5,Ⅲ層 | 椀形鍛冶滓 | 塊状の鍛冶滓片。底面に炉壁土固着。 | 4.5 | 3.0 | 2.2 | 4 | なし | 28.8 |
| 53 | | | F5,Ⅲ層 | 椀形鍛冶滓 | 比重の高い酸化土砂に覆われた椀形鍛冶滓。側部二面は破面。 | 5.9 | 5.9 | 3.5 | 4 | なし | 132 |
| 54 | | | G2,灰褐色粘質土 | 椀形鍛冶滓 | 小型で長手の椀形鍛冶滓。底面は舟底状、肩部は小破面が連続。 | 5.6 | 3.6 | 2.4 | 4 | なし | 69 |
| 55 | | | G3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓の肩部より破片。上面は波状、下面は木炭痕が激しい。 | 6.7 | 3.4 | 3.1 | 2 | なし | 95 |
| 56 | | | G4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓 | 酸化土砂に覆われた椀形鍛冶滓の中核の破片。滓の密度は高い。 | 5.9 | 4.5 | 2.3 | 4 | なし | 68 |
| 57 | | | G4,Ⅲ層 | 椀形鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓肩部破片。厚みをもち、下面の一部は破面となる。部分的に銹化。 | 4.6 | 3.9 | 2.6 | 5 | なし | 58.5 |
| 58 | F19 | 84 | F4,Ⅳ層 | 鍛冶滓 | 不定形な鍛冶滓。内部や側部に木炭痕が激しい。上手側破面に鍛冶炉の炉床土。 | 5.6 | 3.3 | 1.6 | 3 | なし | 37 |
| 59 | F39 | 89 | F4,テラス15②層 | 鍛冶滓 | 鍛冶炉の炉壁表面に接して形成された鍛冶滓。内部に多量の気孔や木炭痕を残すため比重が低い。羽口先右手形成か。 | 4.1 | 5.0 | 1.9 | 2 | なし | 42.4 |
| 60 | F40 | 89 | G4,テラス15 | 鍛冶滓（粘土質） | 微細な気孔の多い粘土質の鍛冶滓。内面は平坦で一部にコバルト色の発色。これは灰分由来か。 | 3.9 | 2.6 | 2.4 | 2 | なし | 16.4 |
| 61 | | | F5,Ⅱ層 | 鍛冶滓 | 錆色で滓である。詳細不明。 | 2.3 | 1.8 | 2.0 | 2 | なし | 10.8 |
| 62 | | | F5,Ⅱ層 | 鍛冶滓 | 小型の椀形鍛冶滓の側部破片か。側部はやや椀形。 | 4.3 | 2.3 | 1.8 | 3 | なし | 14.4 |
| 63 | | | F5,Ⅱ層 | 鍛冶滓 | 土砂に覆われ端部に僅かに滓部残る。 | 2.3 | 1.6 | 0.8 | 2 | なし | 4.9 |
| 64 | | | F4,Ⅳ層 | 鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓の肩部破片の可能性あり。上面中央以外は全体が酸化土砂に覆われる。 | 2.6 | 3.1 | 1.8 | 3 | なし | 14.2 |
| 65 | | | F3,Ⅳ層 | 鍛冶滓 | 酸化土砂に覆われた滓片。詳細不明。 | 2.1 | 1.8 | 1.1 | 3 | なし | 5.9 |
| 66 | | | E・F5,22-1層 | 鍛冶滓 | 1cm大の木炭痕が目立つ流動気味の滓。上面は紫紅色。 | 2.2 | 2.4 | 1.4 | 2 | なし | 11 |
| 67 | | | F4,Ⅳ層 | 鍛冶滓 | 小塊状の滓。表面は土砂で水洗不良。 | 2.6 | 3.2 | 1.9 | 2 | なし | 11.4 |
| 68 | F20 | 84 | G4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 一見板状の含鉄の滓。下面が大きく欠落し、上手に僅かに椀形滓の側部が残る。鉄部は僅かで放射割れが生ずる。 | 5.3 | 3.9 | 1.8 | 9 | △ | 55 |
| 69 | F21 | 84 | G4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | かぎのて状に曲がった異形の含鉄の滓。左端部は付着土砂。僅かに椀形の形状を窺わせる。破面は酸化土砂のため不明。 | 5.9 | 9.2 | 3.4 | 6 | △ | 156 |
| 70 | F41 | 89 | F3,テラス15 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | やや扁平、表面は土砂、芯部は気孔の残る銹化物。磁着は強い。下面はやや凹凸あり。 | 6.1 | 3.5 | 2.3 | 7 | △ | 57 |
| 71 | | | E5,テラス19 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | やや不規則な形状をもつ。部分的に黒錆や放射割れがのぞく。側部から上面が異形。 | 4.3 | 5.2 | 3.1 | 4 | △ | 66 |
| 72 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 酸化土砂に覆われた塊状の資料。滓の密度は高い。 | 4.7 | 4.5 | 3.6 | 5 | △ | 91 |
| 73 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 扁平で小型の鍛冶滓の上皮破片。水洗不良。 | 4.6 | 3.3 | 2.1 | 6 | △ | 35 |
| 74 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 含鉄の椀形鍛冶滓の中核部破片。側部は¥前面破面。僅かに黒錆がのぞく。 | 4.9 | 3.8 | 3.0 | 5 | △ | 59 |
| 75 | | | F3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 土砂に覆われた滓片。水洗不良。詳細不明。 | 3.8 | 2.5 | 2.0 | 2 | △ | 27 |
| 76 | | | F4,T6-2層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 黒錆や錆膨れが目立つ塊状の資料。破面には銹化物が残る。 | 4.5 | 3.7 | 2.6 | 5 | △ | 55 |
| 77 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 小さなわりには比重の高い含鉄の滓。放射割れが発達しかけている。 | 3.3 | 3.7 | 3.2 | 4 | △ | 43.4 |
| 78 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 中型の椀形鍛冶滓の側部破片。放射割れや錆膨れがやや目立つ。 | 4.7 | 4.2 | 3.5 | 6 | △ | 86 |
| 79 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 二片が接合。小振りな椀形滓。破面は全体が鉄銹化物。 | 3.5 | 4.4 | 2.6 | 5 | △ | 64 |
| 80 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 含鉄の滓片。表面は酸化土砂。 | 4.2 | 2.7 | 1.8 | 5 | △ | 23 |
| 81 | | | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 厚みをもった含鉄の椀形滓片。表面は土砂が厚い。 | 4.8 | 4.9 | 3.3 | 7 | △ | 81 |
| 82 | | | F5,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 含鉄の滓片。二片が接合。破面は鉄酸化物。 | 3.4 | 2.4 | 1.6 | 5 | △ | 10.6 |
| 83 | | | F5,Ⅲ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 放射割れの目立つ含鉄資料。表面は分厚い酸化土砂。全体にゴツゴツする。 | 5.2 | 4.2 | 3.0 | 4 | △ | 79.5 |
| 84 | | | F5,T6-3層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | やや前者と似た資料。放射割れはごく僅か。 | 5.4 | 4.2 | 2.4 | 6 | △ | 75.5 |
| 85 | | | G3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 比較的しっかりした含鉄の椀形鍛冶滓。形状は不規則。鉄部は小範囲。 | 6.5 | 5.3 | 2.5 | 9 | △ | 11.4 |
| 86 | | | G3,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 不定形な含鉄の滓。酸化土砂が厚く、端部に銹化物がのぞく。 | 4.3 | 4.4 | 2.5 | 5 | △ | 46.4 |
| 87-1 | F22 | 84 | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（銹化） | 椀形鍛冶滓の肩部破片。表面は酸化土砂。左側部と手前が破面。下面はきれいな椀形。水洗不良。 | 3.6 | 3.0 | 2.4 | 6 | △ | 28.4 |
| 87-2 | F23 | 84 | F4,Ⅳ層 | 椀形鍛冶滓（銹化） | ややゴツゴツした含鉄の滓。左側部は破面。上面中央に内部の鉄銹化物がのぞく。 | 5.6 | 4.5 | 3.0 | 6 | △ | 82.5 |
| 88 | F42 | 89 | F4,テラス15 | 含鉄鉄滓 | 放射割れと黒錆の目立つ資料。二片に割れるが本来は同一個体。芯部に鉄部をもち表面は滓。構成No.95に近い。 | 5.1 | 5.0 | 2.3 | 5 | L(●) | 56.5 |
| 89 | F24 | 84 | F6,テラス11 | 含鉄鉄滓 | 不定形な含鉄の滓。比重が高く内部から黒錆と放射割れが発達気味。本来は含鉄の椀形鍛冶滓か。 | 7.7 | 8.2 | 4.9 | 8 | L(●) | 328 |

## 鉄滓・鉄製品観察表

| No. | 遺物番号 | 挿図 | 地区<br>層位・遺構 | 器種 | 特徴 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 磁着度 | メタル度 | 重量(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 90 | | | F3,T31-1層 | 含鉄鉄滓<br>(銹化) | 錆膨れが目立つ小さな滓片。 | 1.8 | 2.4 | 0.8 | 4 | △ | 4.3 |
| 91 | | | G6 | 含鉄鉄滓<br>(銹化) | 一見鉄器を思わせる含鉄の滓。<br>側部に黒錆の破面。 | 2.2 | 3.7 | 1.7 | 4 | △ | 8.1 |
| 92 | F43 | 89 | F3,テラス15 | 鉄製品<br>(釘かくし？) | 薄い鉄板を饅頭型に加工し、その中央部を細い<br>丸釘で外部からとめている。一種の饅頭金具か。 | 2.7 | 4.3 | 1.0 | 4 | △ | 11.4 |
| 93 | F44 | 89 | F4,テラス15 | 鉄斧 | やや銹化の激しい鍛造のもの。袋部は<br>左右からの折り曲げ加工。刃部先端は<br>弧状。放射割れが強く入り始めている。 | 8.1 | 6.3 | 2.0 | 8 | L(●) | 138 |
| 94 | F65 | 92 | F4,Ⅲ層 | 鉄器(鎹状) | ややひしゃげた足部が開き気味の鎹。<br>足部片側は欠落。下面に土師器片固着。<br>足部が長く体部の短い形態の鎹。 | 9.5 | 9.3 | 1.9 | 2 | △ | 40.2 |
| 95 | F45 | 89 | F3,テラス15 | 鎌 | 左右両端部が欠ける。切先側は古い割れ、基部側は<br>新しい破面。鉄部は層状の銹化。片刃？ | 3.5 | 4.7 | 1.5 | 6 | △ | 22.8 |
| 96 | F46 | 89 | F3,テラス15 | 鎌 | 左右の両端部が欠ける。左側部は新しい<br>欠け、右側部は古い割れ。資料は錆落とし<br>時に5片に割れる。35と接合する可能性あり。 | 5.2 | 2.9 | 1.1 | 3 | △ | 25.2 |
| 97 | F47 | 89 | F3,テラス15 | 鎌 | 鎌刃部中央付近の破片。左右は新しい破面。<br>片刃気味。 | 3.3 | 4.4 | 1.2 | 4 | △ | 19.4 |
| 98 | F48 | 89 | F4,テラス15 | 鎌？ | 鎌基部の破片。折り返し部は不明瞭。切先側は欠落。<br>全体に酸化土砂が広く表面状態がわかりにくい。 | 3.5 | 5.4 | 0.6 | 3 | △ | 24.4 |
| 99 | F25 | 84 | F4,Ⅳ層 | 鎌 | 刃先の短い左鎌。2片に割れるがほぼ完形。<br>左端に僅かな折り返し部。 | 4.0 | 10.5 | 1.2 | 4 | △ | 45.4 |
| 100 | F26 | 84 | F5,Ⅳ層 | 鎌？ | 銹化により表層に部厚い水酸化物。切先側破片。<br>両端部欠落。全体に弧状に反る。 | 2.9 | 6.6 | 1.3 | 7 | △ | 44.2 |
| 101 | F49 | 89 | F3,テラス15 | 刀子？ | 両端部欠落。刀子と推定されるが、付着する酸化土砂のため<br>断定はしにくい。表裏逆位の可能性あり。 | 2.2 | 4.5 | 0.8 | 3 | △ | 8.9 |
| 102 | F50 | 89 | F3,テラス15 | 刀子？ | こぶ状の錆膨れと酸化土砂に覆われる。左側部に<br>破面。刀子と推定される。41と似るが接合せず。 | 2.9 | 4.7 | 1.0 | 5 | △ | 22.2 |
| 103 | F27 | 84 | F4,Ⅳ層 | 刀子 | 3片に割れる柄部から刃部にかけての破片。<br>両端部は欠落。柄部が長く、刃部は細身。 | 2.6 | 8.0 | 1.1 | 3 | △ | 37.4 |
| 104 | F51 | 89 | F4,テラス15<br>②層 | 刀子 | 小型の刀子。柄部側の端部が欠落。<br>2片が接合。刃部は短く細身。 | 1.7 | 9.2 | 1.2 | 5 | △ | 21 |
| 105 | F28 | 84 | F4,Ⅳ層 | 刀子(特殊) | 4片に割れる。柄部から刃部にかけての破片。43に<br>やや似る別個体。酸化土砂がコブ状に固着。 | 1.9 | 10.2 | 1.1 | 3 | △ | 43.6 |
| 106 | F29 | 84 | F4,Ⅳ層 | 刀子 | 細身の刀子。両端部が欠ける。遺存するものは<br>主として刃部側。上面にコブ状の酸化土砂。 | 2.1 | 7.5 | 1.3 | 2 | △ | 8.9 |
| 107 | F52 | 89 | F4,テラス15 | 刀子 | 刀子切先部の小破片。表面はやや厚い<br>酸化土砂。 | 1.8 | 2.2 | 1.2 | 2 | △ | 4.6 |
| 108 | F30 | 84 | F5,Ⅳ層 | 刀子(板部) | 木部に刺さったまま遺存する刀子柄部。両端部が欠けている。<br>木部の厚みは約3mm。締具は現状では不明。 | 2.0 | 4.6 | 1.5 | 3 | △ | 9.4 |
| 109 | F9 | 79 | F5,Ⅵ層？ | 刀子？ | 柄部側端部1.7cmほどが折れ曲がる。<br>両端部欠落。刃部そのものは遺存せず。<br>刀子以外の可能性もややあり。 | 1.5 | 5.6 | 0.8 | 2 | △ | 8.6 |
| 110 | F31 | 84 | F6,テラス12 | 鉄器<br>(板状不明) | 分厚い酸化土砂に覆われた板状不明品。<br>左側部に僅かに錆膨れがのぞく。 | 4.6 | 5.1 | 2.3 | 8 | △ | 67 |
| 111 | F53 | 89 | F4,テラス15 | 鉄製品<br>(板状不明<br>未製品？) | 長方形板状の小鉄片。表面は凹凸が<br>激しく、黒錆や放射割れがはじまる。<br>鉄器としては楔状未製品の可能性あり。 | 2.2 | 5.0 | 1.2 | 5 | L(●) | 27.6 |
| 112 | F54 | 89 | F3,テラス15 | 鉄器<br>(棒状不明) | 刀子柄状の鉄器片。表面には厚い<br>酸化土砂。右端部が僅かに弧状。 | 1.5 | 2.7 | 1.4 | 2 | △ | 4.5 |
| 113 | F32 | 84 | F4,Ⅳ層 | 鉄器<br>(棒状不明) | 断面方形の棒状鉄器片。釘の可能性あり。 | 1.2 | 2.8 | 1.1 | 2 | △ | 3.9 |
| 114 | F55 | 89 | F4,テラス15 | 鉄器<br>(釘状不明) | 分厚いコブ状の酸化土砂に覆われた鉄器片。右側部に鉄部は<br>のぞく。横断面形は小振りの長方形。 | 3.3 | 6.0 | 1.9 | 3 | △ | 38.8 |
| 115 | F56 | 89 | G3,テラス15 | 鉄器<br>(棒状不明) | 断面方形の棒状鉄製品。右端部は破面。左側部は<br>酸化土砂のため不明。鏃または釘か。 | 1.7 | 4.8 | 0.6 | 3 | △ | 8.8 |
| 116 | F57 | 89 | G3,テラス15 | 鉄器<br>(棒状不明) | 断面長方形の棒状鉄製品。右側部は破面。<br>左側部は不明。 | 1.5 | 2.7 | 1.2 | 2 | △ | 4.9 |
| 117 | F58 | 89 | F3,テラス15 | 鉄器<br>(不明、銹化) | 大きく弧状に反り返った不明鉄製品。表面の<br>酸化土砂が厚い。折り曲げた刀子刃部か。 | 2.3 | 6.0 | 1.4 | 6 | △ | 26.4 |
| 118 | F59 | 89 | F3,テラス15 | 鉄器<br>(渦巻状) | 酸化物に覆われた鉄器。先端部は渦巻状に<br>内側に向かい巻き込まれている。 | 2.1 | 3.3 | 1.0 | 5 | △ | 10.4 |
| 119 | F33 | 84 | F4,Ⅳ層 | 鉄器(不明) | 断面方柱状の鉄製品。やや弧状に曲がる。<br>酸化土砂に覆われ製品名不明。 | 1.1 | 2.2 | 0.9 | 3 | △ | 2.8 |
| 120 | F34 | 84 | F5,Ⅳ層 | 鉄器(不明) | 横断面形やや長方形の鉄器破片。右側部が<br>大きく欠落。刀子柄の一部か。 | 1.5 | 1.5 | 0.9 | 3 | △ | 2.6 |
| 121 | | | E5,テラス19 | 鉄製品(細片<br>化不明) | 銹化のため粉末化。 | 粉状 | | | 3 | なし | 19.8 |
| 122 | F60 | 89 | F4,テラス15 | 炉壁<br>(鍛冶炉) | 鍛冶炉の炉壁表面破片。内面は滓化し部分的に<br>紫紅色。羽口先左側破片か。鍛冶炉胎土は灰色<br>に被熱した僅かに砂質土。 | 5.6 | 6.1 | 1.5 | 2 | なし | 44.4 |
| 123 | | | F4,Ⅳ層 | 炉壁<br>(鍛冶炉) | 半溶解の炉壁片。表面には木炭痕点在。 | 3.0 | 3.4 | 2.3 | 2 | なし | 11.4 |
| 124 | F61 | 89 | F3,テラス15 | 炉壁溶解物 | 鍛冶系の炉壁溶解物。全体に発泡し<br>ガラス質。裏面は炉壁土の圧痕か。 | 3.0 | 3.2 | 2.4 | 2 | なし | 13.4 |
| 125 | | | F4,Ⅳ層 | 炉壁溶解物<br>(鍛冶系) | ガラス質の炉壁溶解物。<br>一部に異質部が残る。 | 2.2 | 1.9 | 1.7 | 1 | なし | 4.5 |
| 126 | F35 | 84 | F5,Ⅳ層 | 黒鉛化木炭 | 内部が焼失し外周部のみ黒鉛化した黒鉛化木炭。広葉樹材を<br>縦に細くミカン割り。製錬炉系の木炭資料。 | 1.7 | 2.8 | 5.5 | 3 | なし | 2.8 |
| 127 | F81 | 116 | J7,溝12 | 炉壁<br>(精錬炉) | 二片接合。内面がガラス質に溶解。胎土はスサ入り。石英粒子混在。<br>滓化状態から通風口上部と推定。 | 4.0 | 5.2 | 4.2 | 3 | なし | 75.5 |
| 128 | F68 | 114 | F5,土器溜<br>(3層) | 精錬滓<br>(炉内滓？) | きれいな流動状。上半部に肥大した気孔。上下面に<br>炉壁片前面固着。滓は緻密でやや光沢あり。 | 7.5 | 7.1 | 2.9 | 1 | なし | 186 |
| 129 | F83 | 116 | K8,溝14 | 精錬滓<br>(炉内滓？) | 風化した滓。側面から上面は破面。<br>内部に大振りの気孔、下面に炉壁土が<br>面的に固着。結晶が発達し光沢をもつ。 | 6.3 | 7.7 | 4.2 | 2 | なし | 242 |
| 130 | 欠番 | | | | | | | | | | |

## 鉄滓・鉄製品観察表

| No. | 遺物番号 | 挿図 | 地区 層位・遺構 | 器種 | 特徴 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 磁着度 | メタル度 | 重量 (g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 131 | F66 | 98 | E4,テラス19 | 椀形鍛冶滓 | まとまりの弱い椀形鍛冶滓の半欠品。上面やや流動状。下面は木炭痕で凹凸やや強い。側部は不規則。 | 7.6 | 6.2 | 2.7 | 5 | なし | 136 |
| 132 | | | F4,Ⅱa層 | 椀形鍛冶滓 | 2片接合。小型扁平な椀形滓。下面は粉炭痕。 | 5.2 | 3.8 | 1.6 | 3 | なし | 37 |
| 133 | | | F4,Ⅱa層 | 椀形鍛冶滓 | 長手の平面形をもつ椀形滓。側部肩側は不自然な破面。 | 6.1 | 3.7 | 2.0 | 4 | なし | 52 |
| 134 | | | F5,土器溜（2層） | 椀形鍛冶滓 | やや炉壁よりで形成された鍛冶滓。全体に粘土質。裏面には淡い赤褐色の炉壁土。 | 8.4 | 5.6 | 3.0 | 4 | なし | 134 |
| 135 | 欠番 | | | | | | | | | | |
| 136 | F69 | 114 | F5,土器溜（3層） | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 表面にコブ状の酸化物を突出。内部は不規則な気孔が目立つ。一部に鉄銹化物。本来は浅い皿形。 | 5.1 | 4.6 | 2.9 | 6 | △ | 65 |
| 137 | F67 | 101 | F6,土坑14 | 含鉄鉄滓 | 赤錆の目立つ不規則な含鉄の滓。部分的に放射割れ。木炭痕は2cm大以上が残る。水洗不良。 | 7.1 | 5.8 | 4.5 | 6 | H(○) | 188 |
| 138 | F70 | 114 | E5,土器溜（3層） | 含鉄鉄滓（銹化） | 茶褐色の酸化土砂に覆われた含鉄の滓。内部には気孔が多く密度低い。本来は椀形鍛冶滓か。 | 4.6 | 5.7 | 2.5 | 5 | △ | 19.1 |
| 139 | F71 | 114 | F5,土器溜（2層） | 含鉄鉄滓（銹化） | 下面に大きな錆膨れの欠けが残る。黒錆が各所から激しく放射割れも発達しかけている。鉄器片の可能性もややあり。 | 2.2 | 3.7 | 1.4 | 4 | △ | 15.2 |
| 140 | F72 | 114 | F5,土器溜（3層） | 刀子 | ごく一般的な形状の刀子。両端部が欠ける。背がやや厚く、右側に僅かな柄部を残す。上面は錆膨れ。 | 1.6 | 6.6 | 0.8 | 3 | △ | 13.4 |
| 141 | F73 | 114 | F5,土器溜（3層） | 刀子（特殊） | 刀子またはカギ状の鉄製品。両端部欠落。横断面形が楕円気味。体部は直線状。表面にコブ状の酸化土砂。 | 1.9 | 8.4 | 0.9 | 2 | △ | 26.2 |
| 142 | F74 | 114 | F5,土器溜（2層） | 鉄器(工具?) | 横断面形が直方形板状の鉄製品破片。全体にS字状に屈曲。製品名不明。 | 1.6 | 3.7 | 0.8 | 3 | △ | 9.1 |
| 143 | F75 | 114 | F5,土器溜（2層） | 鉄斧 | 分厚い酸化土砂に覆われた鉄斧。刃部は丸味をもち蛤刃状。側部は直線状の折り返しをもち、中央部に隙間。側部に直線状の放射割れ強い。 | 5.7 | 7.6 | 4.1 | 8 | H(○) | 162 |
| 144 | F76 | 114 | F6,土器溜（3層） | 鎌 | やや幅広の鎌状の鉄製品。小片に割れるが接合か。鎌とすれば刃部は左端部に僅かか。 | 3,9 | 9.2 | 0.9 | 3 | △ | 28.2 |
| 145 | F77 | 114 | F6,土器溜（3層） | 刀子 | 刀子の可能性大。両端部欠落。表面に厚い酸化土砂。柄部から刃部にかけての部位。 | 1.8 | 4.5 | 0.4 | 3 | △ | 10.8 |
| 146 | F78 | 114 | G4,Ⅱa層 | 鉄器（棒状不明） | 不明鉄製品。右側部は破面。横断面形は楕円気味。左側はコブ状の酸化土砂のため不明。 | 1.7 | 4.6 | 0.8 | 2 | △ | 10.8 |
| 147 | F79 | 114 | G4,Ⅱa層 | 鉄器（三角形不明） | 長手の三角形をした鑿状の刃先をもつ鉄製品。全体に弧状に反り返り、上手先端部は斜めに成形。基部は極端に細身となる。 | 6.8 | 3.3 | 1.8 | 3 | △ | 27.6 |
| 148 | F80 | 114 | G6,22-1層 | 釘 | 釘の体部破片。頭部、側端部とも欠落。下面に錆膨れ。 | 3.3 | 1.2 | 1.1 | 3 | △ | 3.4 |
| 149 | F82 | 116 | J9,テラス21層 | 鉄製品（タガ状） | 薄板状の環状に成形された鉄製品。一種の締具か。左側部は全面破面。右側部は斜め方向に伸びる自然面。 | 3.8 | 3.1 | 0.9 | 3 | △ | 14 |
| 150-1 | F94 | 131 | C4,集石7周辺 | 刀子（特殊） | 小柄状の細身の鉄製品。2片に割れ、先端部は83となる可能性大。基部から3.1cmのところに1mm大の目釘穴。表面にはコブ状の錆膨れが点在。 | 2.8 | 13.7 | 0.8 | 4 | △ | 32.2 |
| 150-2 | F93 | 129 | B3,テラス25 | 刀子（特殊） | 2片に割れるが同一個体。左端部は極めて薄手の細い切先。右端部は自然に折れ曲がった破面。82と同一個体の可能性大。 | 8.1 | 1.9 | 0.3 | 3 | △ | 7.9 |
| 150-3 | F84 | 119 | E6,テラス24 | 釘 | やや細身の釘。頭と足端部が欠落。足端部が僅かに弧状。 | 4.8 | 1.2 | 0.8 | 2 | △ | 3.4 |
| 151 | F85 | 119 | E6,テラス24 | 鉄器（棒状不明） | 短い頭折れ釘。頭はやや斜め、足端部は直角に曲がる。表面に錆膨れ。 | 3.2 | 1.4 | 1.2 | 4 | △ | 3.4 |
| 152 | F86 | 129 | B3,土坑17 | 鉄器（棒状不明） | ゆるやかなL字状に曲がる釘体部。頭と足端部欠落。断面方形。 | 2.8 | 1.2 | 0.8 | 2 | △ | 1.9 |
| 153 | F87 | 129 | C2,Ⅰ層 | 釘 | 頭部が斜め上にのびる釘の上半部。足部は欠落。上面には大きな貝殻状錆膨れ。 | 3.2 | 1.1 | 1.1 | 3 | △ | 3.1 |
| 154 | F88 | 129 | C2,P.79 | 釘 | 釘の足部小破片。頭部と足端部欠落。ゆるやかに「く」字状に曲がる。 | 2.5 | 0.75 | 0.7 | 3 | △ | 1.6 |
| 155 | F89 | 129 | D2,Ⅰ層 | 釘 | 釘の足端部破片。断面方形。「の」字状に曲がる。 | 1.1 | 1.9 | 0.4 | 3 | △ | 0.9 |
| 156 | F97 | 137 | L9,池状遺構③層 | 鉄製品（鋳造品円盤状不明品） | 放射割れと黒錆の激しい板状の鉄製品。上下にコブ状の酸化土砂が固着。鋳造品の可能性大。厚みはやや不安定。 | 3.9 | 4.7 | 2.3 | 4 | △ | 34.2 |
| 157 | F96 | 137 | L9,池状遺構③層 | 鉄製品（細片化不明） | 銹化のため細片化した遺物。詳細不明。 | 粉状 | | | 3 | なし | 16.8 |
| 158 | F92 | 129 | B3,テラス25 | 精錬滓（流動滓） | きれいな流動状の製錬滓。下面には粉炭痕が固着。滓は緻密。8世紀後半代の同種の資料と類似。 | 2.8 | 2.7 | 1.4 | 1 | なし | 17 |
| 159 | | | E3,表土 | 椀形鍛冶滓 | 典型的な椀形鍛冶滓の中核部破片。やや二段椀形滓気味。下面はきれいな椀形で、微細な粉炭痕。 | 9.3 | 6.4 | 3.9 | 3 | なし | 276 |
| 160 | F95 | 134 | C5,表土 | 椀形鍛冶滓 | しっかりした椀形鍛冶滓の側部破片。内部に微細な気孔。底面は浅い皿状。僅かに炉床土固着。 | 7.5 | 6.2 | 3.3 | 4 | なし | 196 |
| 161 | F98 | 138 | F4,表採 | 椀形鍛冶滓 | 椀形鍛冶滓の肩部小破片。微細な気孔が散在。上下面ともやや不規則。 | 2.7 | 3.7 | 2.4 | 4 | なし | 32.6 |
| 162 | F99 | 138 | F4 | 椀形鍛冶滓（含鉄銹化） | 薄手の椀形鍛冶滓。2片接合。上面不規則な波状、下面は木炭痕やや激しい。底面きわめて浅い皿状。 | 9.7 | 6.4 | 3.1 | 6 | △ | 156 |
| 163 | F100 | 138 | E3 | 鍛冶滓 | 薄手の椀形の鍛冶滓。気孔は少なく密度は高い。水洗不良。 | 2.7 | 2.3 | 1.4 | 4 | なし | 13.6 |
| 164 | | | F5 | 鍛冶滓 | ごく小さな鍛冶滓片。水洗不良。 | 1.7 | 1.9 | 1.0 | 4 | なし | 3.1 |
| 165 | F101 | 138 | F3 | 椀形鉄塊 | 3片に割れるが接合。銹化が激しく中核部は錆が目立つ。外周部は酸化物。凹凸があるが、本来は椀形か。水洗不良。 | 7.7 | 6.3 | 3.6 | 5 | 特L（☆） | 134 |
| 166 | F90 | 129 | D3 | 釘 | やや粗いつくりの釘。頭部と足端部は欠落。頭側に向かい弧状で断面長方形気味。足部に錆膨れ。 | 4.8 | 2.0 | 0.9 | 3 | △ | 7.7 |
| 167 | F91 | 129 | D3 | 刀子 | 鉄器表面の酸化土砂または表面錆。裏面は大半が酸化土砂。 | 2.0 | 3.2 | 0.5 | 4 | △ | 4.3 |

## 鉄滓・鉄製品観察表

| No. | 遺物番号 | 挿図 | 地区 層位・遺構 | 器種 | 特徴 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 磁着度 | メタル度 | 重量 (g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 168 | F102 | 138 | F4 | 鉄器(棒状不明?) | 断面方形の細身の鉄製品。上端部は薄板状、下端部は方柱状。表面には木炭由来の繊維痕が目立つ。 | 4.5 | 1.3 | 0.8 | 3 | △ | 3.8 |
| 169 | F103 | 138 | F4 | 鎌 | 鎌の基部側破片。先端部側は欠落。基部の返しはしっかりしている。裏面に分厚い酸化土砂。身厚の薄い鎌。 | 3.3 | 6.5 | 1.0 | 3 | △ | 23.4 |
| 170 | F104 | 138 | G3 | 鉄鏃 | 平面正三角形をした異形の鉄製品。2片が接合。刃部をもつものか不明。キリクズ様。 | 3.2 | 6.3 | 1.0 | 4 | △ | 24 |

## 表11　第６章　土器観察表

1．法量について、復元値は＊、残存値は△で示した。単位はcmである

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 189 | 79 | テラス9 | 須恵器 | 杯 | — | △1.85 | 底部回転糸切り。体部から上欠損。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 190 | 79 | テラス9 | 須恵器 | 高台付杯 | — | △4.0 | 体部回転ナデ。底部器壁厚い。 | 密良好 | 青灰色 | |
| 191 | 79 | テラス9 | 土師器 | 甕 | *25.6 | △6.0 | 口縁部ナデ。口縁緩やかに外反。器壁厚い。頸部以下外面タテハケ、内面ケズリ。全体的に磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 192 | 79 | テラス9 | 土師器 | 甕 | *26.0 | △10.1 | 口縁部ナデ。頸部以下外面タテハケ、内面ヨコハケ以下ケズリ。全体的に磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 193 | 79 | テラス9 | 土師器 | 甕 | *41.4 | △5.9 | 口縁部ナデ。頸部以下外面粗いタテハケ、内面ケズリ。頸部外面に明瞭な稜線。全体的に磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 194 | 79 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | *12.6 | 4.9 | 底部回転糸切り。全体磨滅。非常に焼成不良で軟質。 | やや粗軟 | 淡黄褐色 | |
| 195 | 79 | Ⅵ層 | 須恵器 | 壺 | — | △6.2 | 回転ナデ。体部算盤玉状に中位に明瞭な稜線がある。 | 密良好 | 青灰色 | |
| 196 | 79 | Ⅵ層 | 土師器 | 皿 | *16.2 | 2.9 | 回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。全面に赤色塗彩。 | 密良好 | 褐色 | |
| 197 | 82 | テラス10 | 土師器 | 皿 | *13.8 | 2.0 | 体部ナデ、底部はヘラケズリ。内外面とも赤色塗彩後ミガキか。外面一部に黒斑あり。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 198 | 82 | テラス10 | 土師器 | 皿 | *16.0 | △2.0 | 内外面赤色塗彩。磨滅し調整は不明。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 199 | 82 | テラス10 | 土師器 | 皿 | *16.1 | 2.0 | 口縁部ナデ、底部ヘラ切り後ナデ。内外赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 200 | 82 | テラス10 | 土師器 | 杯 | *15.1 | 3.3 | 内外面赤色塗彩。磨滅し調整は不明。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 201 | 82 | テラス10 | 土師器 | 杯 | *16.4 | △4.65 | 内面ナデ。外面上半はナデ、下半ケズリ。器壁厚い。内外面赤色塗彩。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 202 | 82 | テラス11 | 須恵器 | 杯 | *11.2 | 4.0 | 底部回転糸切り後ナデ。外面体部わずかに器表面つるつる感がある。 | やや粗良好 | 灰色 | |
| 203 | 82 | テラス11 | 須恵器 | 杯 | — | △3.6 | 全体磨滅。底部回転糸切り後ナデか。粘土粒状のもの付着。 | やや粗やや軟 | 淡灰色 | |
| 204 | 82 | テラス10 | 須恵器 | 甕 | *20.2 | △8.1 | 口縁回転ナデ。体部外面平行、内面同心円タタキ。 | 密良好 | 灰色 | |
| 205 | 82 | テラス10 | 土師器 | 甕 | *31.0 | △6.6 | 口縁部ヨコナデ。外面頸部以下タテ方向ハケメ。内面はケズリ。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 206 | 82 | テラス10 | 土師器 | 甕 | *20.6 | △6.9 | 口縁ナデ。外面磨滅し調整不明。内面はケズリ後、頸部は指オサエ。 | 粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 207 | 82 | テラス10 | 弥生土器 | 壺 | — | △9.2 | 外面タテハケ、胴部中位はヨコハケ。内面ケズリ。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 208 | 82 | テラス11 | 須恵器 | 杯 | — | △2.3 | 底部回転糸切り。体部稜線は細い沈線状。 | 密良好 | 淡青灰色 | |
| 209 | 82 | テラス11 | 土師器 | 鉢 | *20.4 | △9.8 | 全体に磨滅。外面ハケメ、内面ケズリ。口縁端部内側に突帯状のものが巡る。 | やや粗軟 | 黄褐色 | |
| 210 | 82 | テラス12 | 須恵器 | 杯 | *11.8 | 3.5 | 底部回転糸切り。器表面つるつるではないがナデの稜線はみえない。体部外面下位および内面下半淡 | 密やや軟 | 暗灰色 | |
| 211 | 82 | テラス12 | 須恵器 | 杯 | *12.0 | 4.5 | 底部回転糸切り。体部下半は若干暗褐色を呈し、焼成あまい。 | 密やや軟 | 暗褐色 | |
| 212 | 82 | テラス12 | 須恵器 | 高台付杯 | *17.4 | 5.4 | 底部回転ヘラ切り後ナデ。高台は器壁薄く、端部外側に突出。 | 密良好 | 青灰色 | |
| 213 | 82 | テラス12 | 土師器 | 甕 | *24.2 | △4.2 | 口縁ナデ。外面頸部下にスス付着。 | 粗軟 | 黄褐色 | |
| 214 | 82 | テラス13 | 須恵器 | 高台付杯 | *15.1 | 6.1 | 底部回転糸切り後ナデか。全体に器壁厚い。 | 密良好 | 灰色 | |
| 215 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 蓋 | *13.8 | △2.45 | 宝珠つまみをもつ。上面はやや窪み、器壁厚い。胎土・焼成良く他のものと異なる感じを受ける。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 216 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 蓋 | *13.0 | 3.7 | 回転ナデ。宝珠つまみがつく。 | 密良好 | 暗灰褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 217 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 皿 | *13.4 | 2.0 | 底部回転ヘラ切りか。全面磨滅し調整不明瞭。 | やや粗<br>やや軟 | 暗灰色 | |
| 218 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | *11.8 | 3.1 | 底部回転糸切り後ナデか。焼成ややあまく、外面上半淡褐色を呈す以外は暗褐色。 | 密<br>やや軟 | 暗褐色 | |
| 219 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | *13.6 | 3.1 | 底部回転糸切り。底部縁辺部に2ヶ所指頭圧痕。体部外面つるつる。上半分黒斑。 | 密<br>良好 | 青灰色 | |
| 220 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | *12.2 | 3.1 | 口縁端部内側から体部外面にかけて表面つるつる。体部上位でやや屈曲し、口縁は直立する。屈曲部から上は暗灰褐色。底部回転糸切り。部分的にナデ | 密<br>良好 | 灰色 | |
| 221 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | 12.5 | 3.8 | 胎土非常によい。口縁端部から外面底部境まで表面非常につるつる。全体的に滑らか感があるが、内面はややあまい。内底面もつるつる。底部回転糸切り後ナデ。外面体部上半淡褐色を呈す。 | 密<br>良好 | 灰色 | |
| 222 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | *12.8 | 4.0 | 底部回転糸切り。体部外面および底部内面つるつる。外面体部下半暗灰褐色。 | やや粗<br>良好 | 灰色 | |
| 223 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | *12.6 | 3.4 | 底部回転糸切りか。体部最大径部分を境に口縁は青灰色、下は灰褐色を呈し、下半部は器表面滑ら | 密<br>良好 | 灰褐色 | |
| 224 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 杯 | *13.2 | 2.7 | 底部回転糸切りか。かなり窪み底になる。外面つるつる。 | 密<br>やや軟 | 灰褐色 | |
| 225 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 高台付杯 | *13.4 | 4.3 | 底部回転ヘラ切り後ナデ。 | やや粗<br>良好 | 暗灰色 | |
| 226 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 高台付杯 | *17.6 | 5.7 | 底部回転糸切り後ナデ。ただし調整粗く、付着物が多い。体部は表面滑らか。とくに高台端部は滑らかであるが、これは磨滅によるものか。 | 密<br>良好 | 灰色 | |
| 227 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 皿 | 8.8 | 2.5 | 底部回転糸切り。底部中央は器壁薄い。口縁部内面にスス付着。 | 密<br>良好 | 暗灰褐色 | |
| 228 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 甕 | — | △5.1 | 外面平行タタキ、内面車輪状タタキ。 | 密<br>良好 | 淡灰色 | |
| 229 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 甕 | *32.6 | △9.7 | 回転ナデ。口縁部に4条の沈線帯をもち、その間に櫛描波状文。 | 密<br>良好 | 黄灰色 | |
| 230 | 82 | Ⅵ層 | 須恵器 | 短頸壺 | *11.8 | △6.2 | 回転ナデ。口縁短く直立。 | 密<br>良好 | 灰色 | |
| 231 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | 皿 | *12.8 | 2.3 | 全体磨滅し調整不明。内面および口縁外面に黒斑。内外面とも赤色塗彩。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 232 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | 皿 | *13.0 | △2.8 | 外面甚だしく磨滅。内外面ナデ、内外赤色塗彩。 | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 233 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | 杯 | — | △2.1 | 全体に磨滅。体部回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ。内外面とも赤色塗彩。底部器壁厚い。須恵器に近い | やや粗<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 234 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | 高杯 | — | △2.6 | 全体磨滅。脚部面取り、内面はケズリか。内外赤色塗彩。坏部は剥離。 | 密<br>やや軟 | 淡褐色 | |
| 235 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | ミニチュア支脚 | 2.1 | 3.4 | 体部はわずかに面取りを意識しているか。上下面とも窪む。 | やや粗<br>やや軟 | 褐色 | |
| 236 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | 支脚 | — | △8.5 | 外面磨滅し調整不明。底面は窪み、ナデおよび指頭圧痕が一部に残る。 | 粗<br>やや軟 | 暗褐色 | |
| 237 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | 甕 | *27.8 | △9.0 | 全体磨滅。口縁ナデ、頸部は内面以下ケズリ。 | 粗<br>軟 | 灰褐色 | |
| 238 | 83 | Ⅵ層 | 土師器 | 甕 | *31.2 | △6.8 | 口縁部ナデ。外面頸部以下タテハケ、内面ケズリ。 | 粗<br>やや軟 | 暗褐色 | |
| 239 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 皿 | *13.4 | 2.1 | 底部静止糸切り後ナデ。体部外面、底面内部つるつる。 | やや粗<br>良好 | 青灰色 | |
| 240 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 皿 | *14.0 | 2.3 | 底部回転ヘラ切り。 | やや粗<br>良好 | 暗紫褐色 | |
| 241 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 皿 | *13.8 | 2.6 | 底部回転糸切り。体部外面および底部内面つるつる。 | やや粗<br>良好 | 灰色 | |
| 242 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 皿 | *15.4 | 2.9 | 底部回転糸切り後ナデ消し。体部外面および底部内面つるつる。 | 密<br>良好 | 赤みがかる灰褐色 | |
| 243 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 杯 | 11.8 | 4.2 | 回転ヘラ切り後ナデ。外面つるつる。 | 密<br>良好 | 暗灰色 | |
| 244 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 杯 | *12.2 | 4.6 | 底部回転糸切り。外面はつるつるしない。 | 密<br>良好 | 青灰色 | |
| 245 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 杯 | *11.0 | 4.3 | 底部回転糸切り。丸底状を呈す。体部外面つるつる。回転ナデの稜線が消される。 | 密<br>良好 | 淡青灰色 | 胎土分析資料66 |
| 246 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 杯 | *11.8 | 4.2 | 底部回転糸切り後指オサエ。 | 密<br>良好 | 暗灰色 | |
| 247 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 杯 | *13.6 | 4.6 | 回転ナデ。全体に磨滅。 | 密<br>良好 | 灰褐色 | |
| 248 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 杯 | *12.6 | 4.3 | 底部回転糸切り。体部外面つるつる。 | 密<br>良好 | 淡灰色 | |
| 249 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 杯 | *13.6 | 4.6 | 底部回転糸切り。全体磨滅。焼成あまい。 | やや粗<br>やや軟 | 黄灰色 | |
| 250 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付皿 | *18.0 | 4.1 | 回転ナデ。口縁部やや外反。 | やや粗<br>良好 | 黄灰色 | |
| 251 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付皿 | *18.4 | 2.7 | 底部回転ヘラ切り。 | やや粗<br>良好 | 暗青灰色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 252 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付皿 | *20.2 | 3.7 | 底部回転ヘラ切り。 | 密良好 | 灰色 | |
| 253 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付杯 | *15.8 | 6.2 | 回転ナデ。外面体部下位は暗褐色を呈す。 | 密良好 | 暗青灰色 | |
| 254 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付杯 | *16.4 | △5.9 | 回転ナデ。 | 密良好 | 外：暗灰色<br>内：灰色 | |
| 255 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付杯 | *17.6 | 6.1 | 底部ヘラ切り後ナデ。 | 密良好 | 暗灰褐色 | |
| 256 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付 | — | △3.7 | 底部静止糸切り後ナデ。高台端面に1条の浅い沈線。 | 密良好 | 青灰色 | |
| 257 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 高台付 | — | △11.7 | 外面体部下位格子目タタキ、中位はタタキ後回転ナデ。内面底部同心円タタキ。体部回転ナデ。 | 密良好 | 灰色 | |
| 258 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 甕 | *22.6 | △13.9 | 口縁ナデ、外面平行タタキ、内面同心円タタキ。 | 密良好 | 灰色 | |
| 259 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 甕 | — | △7.9 | 外面ナデ、体部は平行タタキ。内面は車輪状タタキ。 | 密良好 | 淡灰色 | |
| 260 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 横瓶 | *12.2 | △17.7 | 口縁ナデ、頸部内面に指頭圧痕。外面平行タタキ、内面は同心円タタキ後ナデか。横瓶短径部分。 | 密良好 | 暗灰色 | 胎土分析資料71 |
| 261 | 86 | テラス15 | 須恵器 | 横瓶 | *11.4 | △15.5 | 口縁ナデ、外面格子目タタキ、内面は車輪状タタキ。 | 密良好 | 暗灰褐色 | 胎土分析資料70 |
| 262 | 87 | テラス15 | 土師器 | 皿 | *18.0 | 2.0 | 全体に磨滅。外面底部黒斑。内外面とも赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 263 | 87 | テラス15 | 土師器 | 高台付皿 | — | △1.8 | 全体に磨滅。底面ヘラ切り後ナデか。内外面とも赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 褐色 | 胎土分析資料72 |
| 264 | 87 | テラス15 | 土師器 | 高台付皿 | — | △3.0 | 全体に磨滅。高台高い。内外面とも赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料73 |
| 265 | 87 | テラス15 | 土師器 | 高台付皿 | — | △2.6 | 全体に磨滅しており、詳細不明瞭。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 266 | 87 | テラス15 | 土師器 | 蓋 | *13.4 | 3.7 | 全体磨滅。つまみはボタン状。内外面とも赤色塗彩。 | 密やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 267 | 87 | テラス15 | 土師器 | 高杯 | — | △2.7 | 全体磨滅。脚部面取り、内面はケズリか。内外赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 268 | 87 | テラス15 | 土師器 | 低脚杯 | — | △5.3 | 内外ともナデ。外面は表面滑らかであり、あるいは磨かれるか。時期不明。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 269 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *17.6 | △7.6 | 二次焼成により赤変し、全体磨滅。口縁ナデ、内面頸部以下ケズリ。 | 粗軟 | 淡褐色 | |
| 270 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *22.2 | △10.7 | 全体に磨滅。口縁端部は二次焼成により赤変か。口縁ナデ、内面ケズリ。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 271 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *23.2 | △10.1 | 外面タテハケ後、口縁部ヨコナデ。内面はケズリ。外面にスス付着。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料67 |
| 272 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *24.2 | △15.4 | 全体に磨滅。内面頸部以下ケズリ。底部近くに黒斑。 | やや粗やや軟 | 褐色 | |
| 273 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *23.2 | △7.9 | 全体に磨滅し調整不明。口縁ナデ、内面以下ケズリ。二次焼成により外面体部および口縁端部赤変。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 274 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *25.4 | △12.3 | 全体に磨滅し調整不明。外面スス多量に付着。 | 粗やや軟 | 褐色 | |
| 275 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *29.2 | △11.6 | 口縁ナデ、外面頸部以下は磨滅し不明。内面はケズリ。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 276 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *29.4 | △14.3 | 調整不明瞭。口縁ナデ、体部内面ケズリ。器壁薄い。外面に黒斑。二次焼成のため劣化。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 277 | 87 | テラス15 | 土師器 | 甕 | *30.6 | △10.4 | 全体に磨滅。口縁ナデ。体部外面の一部にハケメのこる。内面はケズリ。外面の全面にススが付着する。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 278 | 88 | テラス15 | 土師器 | 竈 | 27.1 | 36.4 | 内面は横方向ケズリ。外面はナデか。庇部分から内面の同じ高さにスス、黒斑が顕著にみられる。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 279 | 88 | テラス15 | 土師器 | 竈 | — | △17.0 | 内面ケズリ。外面はかなり磨滅。ケズリ、指頭圧痕。外面黒斑。 | 粗やや軟 | 暗橙褐色 | |
| 280 | 88 | 集石1 | 土師器 | 竈 | — | △10.8 | 全体に磨滅し調整不明。内面ケズリ。 | 粗やや軟 | 暗橙褐色 | |
| 281 | 88 | テラス15 | 土師器 | 支脚 | — | △16.2 | 体部ハケメ。支柱は3つとも欠損。全体磨滅。 | 粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 282 | 88 | テラス15 | 土師器 | 土錘 | 1.2 | 3.6 | やや胴部中位が膨らむ。穴径は0.4cm。 | 密やや軟 | 淡黄灰色 | |
| 283 | 88 | テラス15 | 土師器 | 土錘 | 1.2 | 4.1 | ほぼ直線的な胴部。穴径は0.4cm。 | 密やや軟 | 淡黄灰色 | |
| 284 | 88 | テラス15 | 土師器 | 土錘 | 1.1 | 4.1 | ほぼ直線的な胴部。穴径は0.45cm。 | 密やや軟 | 淡黄灰色 | |
| 285 | 90 | テラス16 | 土師器 | 杯 | *14.0 | △5.6 | 内外面ミガキ。両面とも部分的に黒斑がある。 | 粗やや軟 | 褐色 | |
| 286 | 91 | テラス17 | 須恵器 | 灯明皿 | 9.1 | 2.8 | 底部回転糸切り。口縁部内面にスス付着。 | 密良好 | 灰色 | |
| 287 | 91 | テラス17 | 須恵器 | 皿 | *14.8 | 2.1 | 底部回転ヘラ切り。器壁厚く、胎土は粗。 | 粗良好 | 青灰色 | |
| 288 | 91 | テラス17 | 須恵器 | 壺 | *12.3 | △23.4 | 全体的に磨滅気味。頸部に自然釉。内面頸・胴部境段状になり、接合痕が明瞭に残る。その下位に同心円タタキがあるが、ナデ消される。 | 密良好 | 淡灰色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 289 | 91 | テラス17 | 土師器 | 皿 | *14.4 | 2.6 | 口縁ナデ、底部ヘラ切り後ナデ。内外面とも赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 褐色 | |
| 290 | 91 | テラス17 | 土師器 | 皿 | *14.2 | △2.5 | 全体に磨滅しており調整不明。内外面とも赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料68 |
| 291 | 91 | テラス17 | 土師器 | 高台付皿 | — | △1.5 | 低い高台をもつ。底部ヘラ切り後ナデ。やや丸底を呈し、器壁厚い。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 292 | 91 | テラス17 | 土師器 | 支脚 | — | △4.6 | 外面雑な仕上げ。内面にはヘラ状工具による刺突が密にある。 | 粗やや軟 | 淡灰褐色 | |
| 293 | 91 | テラス17 | 土師器 | 甕 | *28.8 | △5.2 | 口縁ナデ。内面ケズリ、外面ハケメ。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 294 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 杯 | *13.2 | 4.3 | 底部回転糸切り。部分的にナデ消しか。外面口縁～体部にかけてつるつる。底部内面も磨かれている | 密良好 | 青灰色 | |
| 295 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 杯 | *11.4 | 3.7 | 底部回転糸切り。外面つるつるでない。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 296 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 杯 | *12.0 | 3.9 | 底部回転糸切り。体部外面つるつる。 | 密良好 | 灰色 | |
| 297 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 杯 | *12.2 | 4.3 | 底部回転糸切り後ナデ。体部外面つるつる。 | 密良好 | 暗灰色 | |
| 298 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 杯 | *12.5 | 4.0 | 底部回転糸切り。部分的にナデ消しか。外面口縁～体部にかけてつるつる。底部内面も磨かれている | 密良好 | 淡灰色 | |
| 299 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 壺 | — | △3.8 | 外面平行タタキ、内面同心円タタキ。 | 密良好 | 灰褐色 | |
| 300 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 蓋 | — | △1.5 | 回転ナデ。つまみは剥落か。 | 密良好 | 淡灰色 | |
| 301 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 短頸壺 | 10.9 | 7.8 | 底部静止糸切り。 | 密良好 | 灰色 | |
| 302 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 杯 | — | △1.8 | 底部回転糸切り。焼きのわるいもの。全体に磨滅。 | 粗軟 | 淡褐色 | 胎土分析資料69 |
| 303 | 92 | Ⅲ層 | 土師器 | 支脚 | — | △4.6 | 全体磨滅。外面に指頭圧痕。 | 粗軟 | 褐色 | |
| 304 | 92 | Ⅲ層 | 土師器 | 甕 | *18.6 | △6.9 | 全体磨滅。口縁ナデ、内面ケズリ。体部器壁薄く、頸部～口縁部厚い。 | 粗やや軟 | 褐色 | 胎土分析資料64 |
| 305 | 92 | Ⅲ層 | 土師器 | 甕 | *17.0 | △6.8 | 全体磨滅。口縁ナデ、内面ケズリ。 | 粗軟 | 暗褐色 | |
| 306 | 92 | Ⅲ層 | 土師器 | 甕 | *24.8 | △5.2 | 二次焼成により全体磨滅。口縁端部、外面頸部以下赤変。口縁ナデ、体部内面ケズリ。口縁外反度やや | 粗軟 | 淡黄灰色 | |
| 307 | 92 | Ⅲ層 | 土師器 | 甕 | *24.2 | △9.5 | 全体磨滅。口縁ナデ、内面ケズリ。体部外面頸部にハケメあるか。 | 粗軟 | 明褐色 | 胎土分析資料65 |
| 308 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 甕 | *23.0 | △12.0 | 口縁ナデ。外面平行タタキ、内面同心円タタキ。309と同一個体。 | 密良好 | 灰色 | |
| 309 | 92 | Ⅲ層 | 須恵器 | 甕 | — | △36.6 | 外面平行タタキ、内面同心円タタキ。 | 密良好 | 灰色 | |
| 310 | 93 | D2 | 須恵器 | 杯 | *13.4 | 4.0 | 底部回転糸切り後ナデか。底面厚く、段状になっている。口縁端部、口縁外面沈線下から底部までつるつ | 密良好 | 淡青灰色 | |
| 311 | 93 | Ⅱa層 | 須恵器 | 杯 | *11.8 | 4.3 | 底部回転糸切り。外面つるつる。底部丸底状を呈す。 | 密良好 | 淡灰色 | |
| 312 | 93 | Ⅴ層 | 須恵器 | 杯 | 11.7 | 4.0 | 底部回転糸切り。外面つるつる。底部丸底状を呈す。 | 密良好 | 淡灰色 | |
| 313 | 93 | Ⅴ層 | 須恵器 | 横瓶 | *10.2 | △21.7 | 外面平行タタキ、内面同心円タタキ。 | 密良好 | 淡灰色 | |

表 12　第６章　石製品観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 石材 | 長さ・高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S14 | 83 | 50 | Ⅳ層 | 磨石 | 安山岩 | 10.0 | 9.1 | 4.65 | 595.0 | |
| S15 | 83 | 50 | Ⅳ層 | 敲石 | 安山岩 | 6.35 | 2.25 | 1.9 | 39.0 | |
| S16 | 83 | 50 | Ⅳ層 | 敲石 | 安山岩 | 10.0 | 3.4 | 2.15 | 102.0 | |
| S17 | 88 | 50 | テラス15 | 磨石 | 閃緑岩 | 9.1 | 8.75 | 4.2 | 550.0 | |
| S18 | 88 | 50 | テラス15 | 磨石 | 安山岩 | 10.0 | 9.0 | 5.62 | 810.0 | |

# 第７章　平安時代の調査

## 第１節　概要　（図 96）

本調査地において、もっとも良好な資料が出土した時代である。

遺構は谷１区とそれに続く尾根１区南側斜面部、および谷２区において検出した。谷１区では標高 43.0 m前後の平坦面にテラスおよび土坑があり、その範囲はＥ６・７、Ｆ６・７グリッドの中にほとんど収まるほど限られている。そのレベルはそのまま北へ 16 号墳のほうに向かっていくが、わずかな土器片などが出土しただけで、とくに遺構などはなかった。

谷２区は東側に現代の堤が設けられ、また南側が調査地外になっているため限られた範囲の調査であったが、尾根２区南斜面をカットしてつくられるテラス群があり、その上にピットや溝を検出した。さらに調査地東境には暗灰色系粘質土が堆積する池状遺構があり、ここにも互層状の遺物包含層およびそれを掘り込む土坑を検出した。

一方これら谷に挟まれる尾根２区には、非常に幅広い平坦面があるにもかかわらず当該期における活動の痕跡は見出せない。尾根２区上に堆積する奈良時代後期～平安時代初頭の堆積層（Ｖ層）上面においては、本時期に比定できる堆積層もなく、室町時代の土壙群が掘られているのみであった。またこの尾根の北側斜面はやはりＶ層から続くと思われるⅣ層に覆われたテラス群が存在するが、その上層においても遺物が散見されるだけであった。谷２区の向かい側にある北向き斜面地は調査地外であるためその様相はわからないが、本調査地内の状況からみると、この時期は南向きの場所だけに遺構がつくられているといえよう。

谷１・２区からは多量の土器資料が得られた。これらは堆積層および遺構内の一括資料であり、資料数の少ない山陰地方において今後検討されていくべきものと考えられる。そのため実測するにあたっては以下の点に留意した。

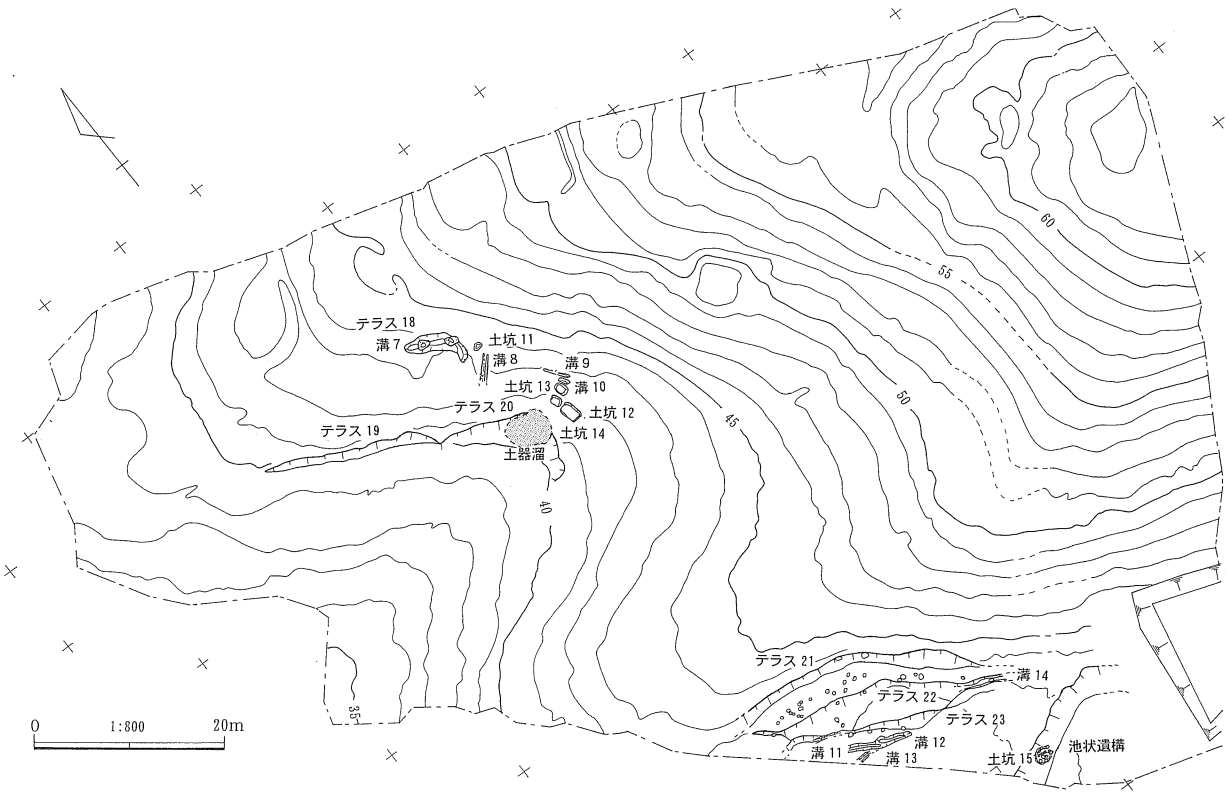



図 96　平安時代遺構分布出土遺物

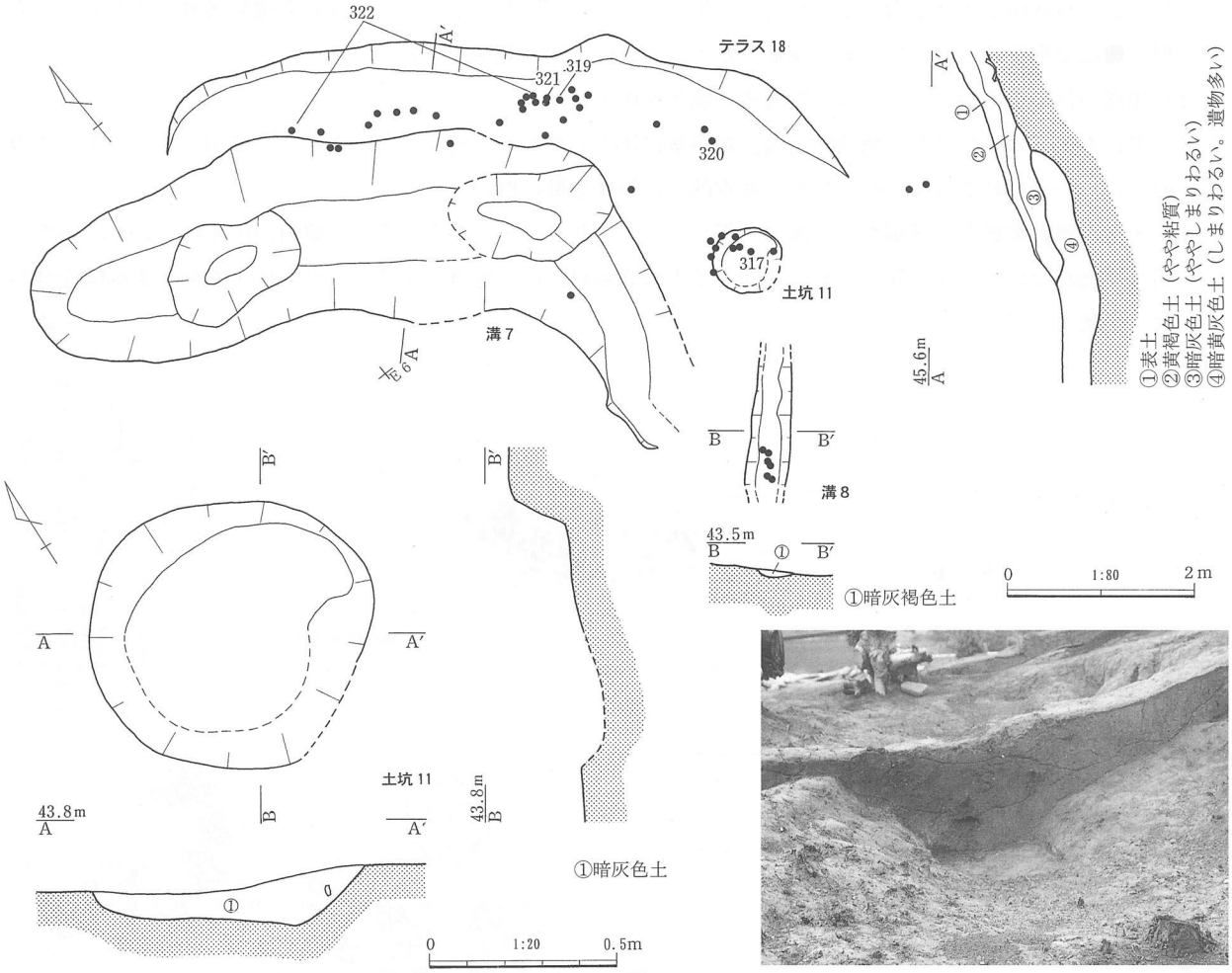



Fig.8　溝７土層断面（東から）

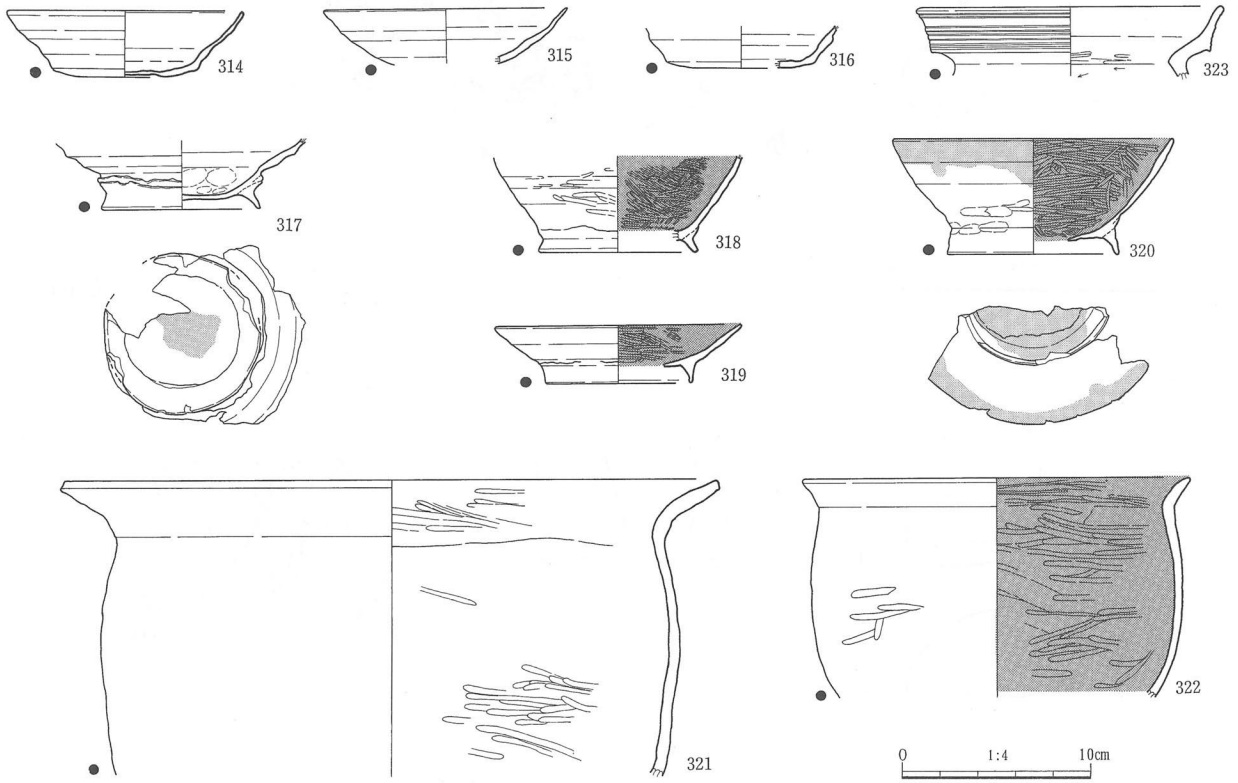



図 97　テラス 18 周辺遺構群およびテラス 18 出土遺物

1）いびつな個体が大半を占めるために、完形であるかどうかを明示した。すなわち遺物番号のみのものは完形、●は反転復元したもの、部分反転したものは外郭にその範囲を示した。

2）黒斑の付いたものについては、極力その範囲を図示した。

3）形状不定形のいわゆる「焼成粘土塊」が多量に出土したため、その主だったものを提示した。しかしその向きについてはわからなかったため、基本的には長径を縦に置いた。

4）米子市教育委員会の試掘が土器溜の一部にかかっており、そこからも多くの資料が出土している。当然一括して扱わなければならないため、今回米子市教育委員会のご好意により、それら出土遺物の実測図を合わせて掲載することができた。

（中森）

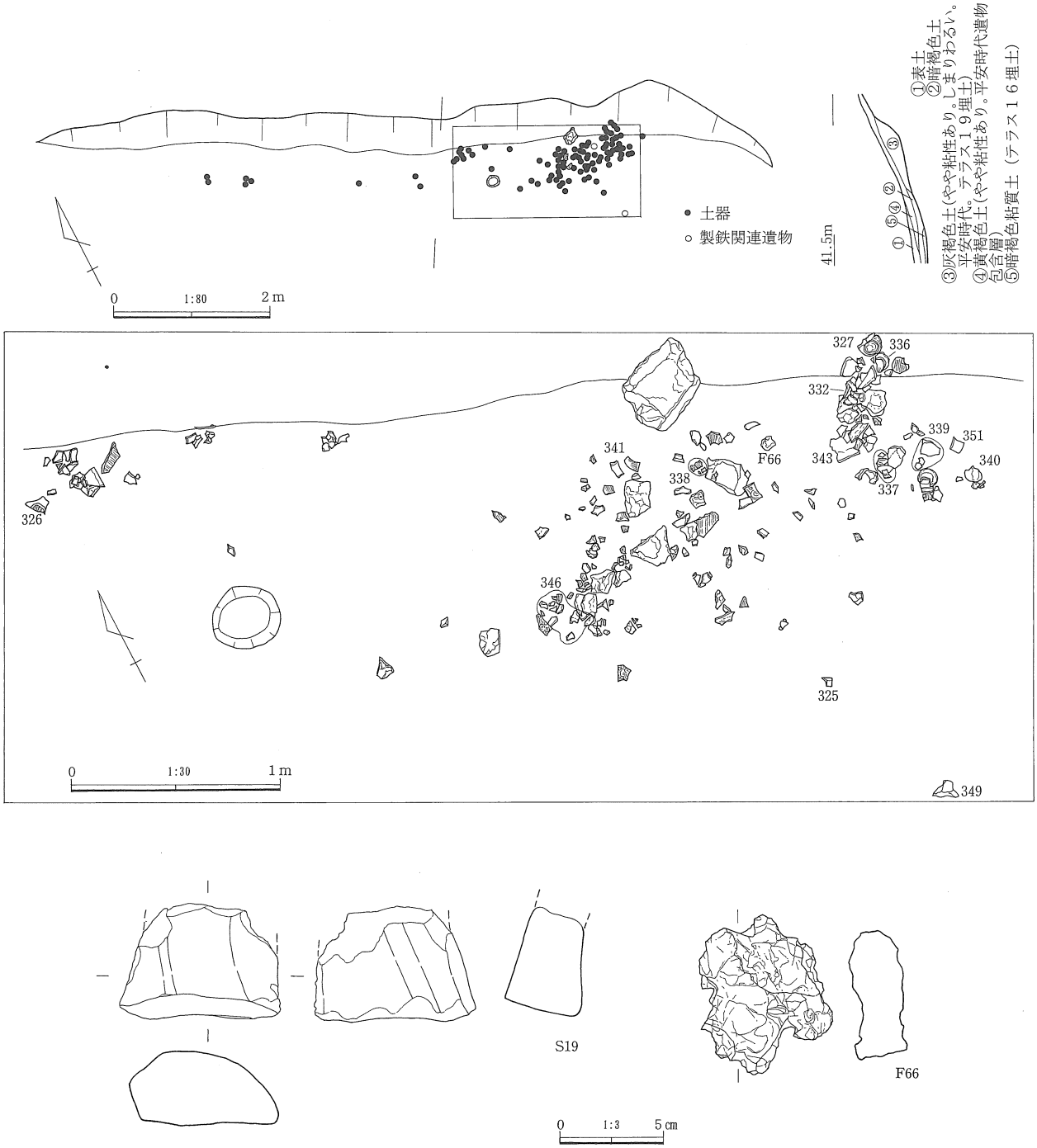



図 98　テラス 19 および出土遺物（１）

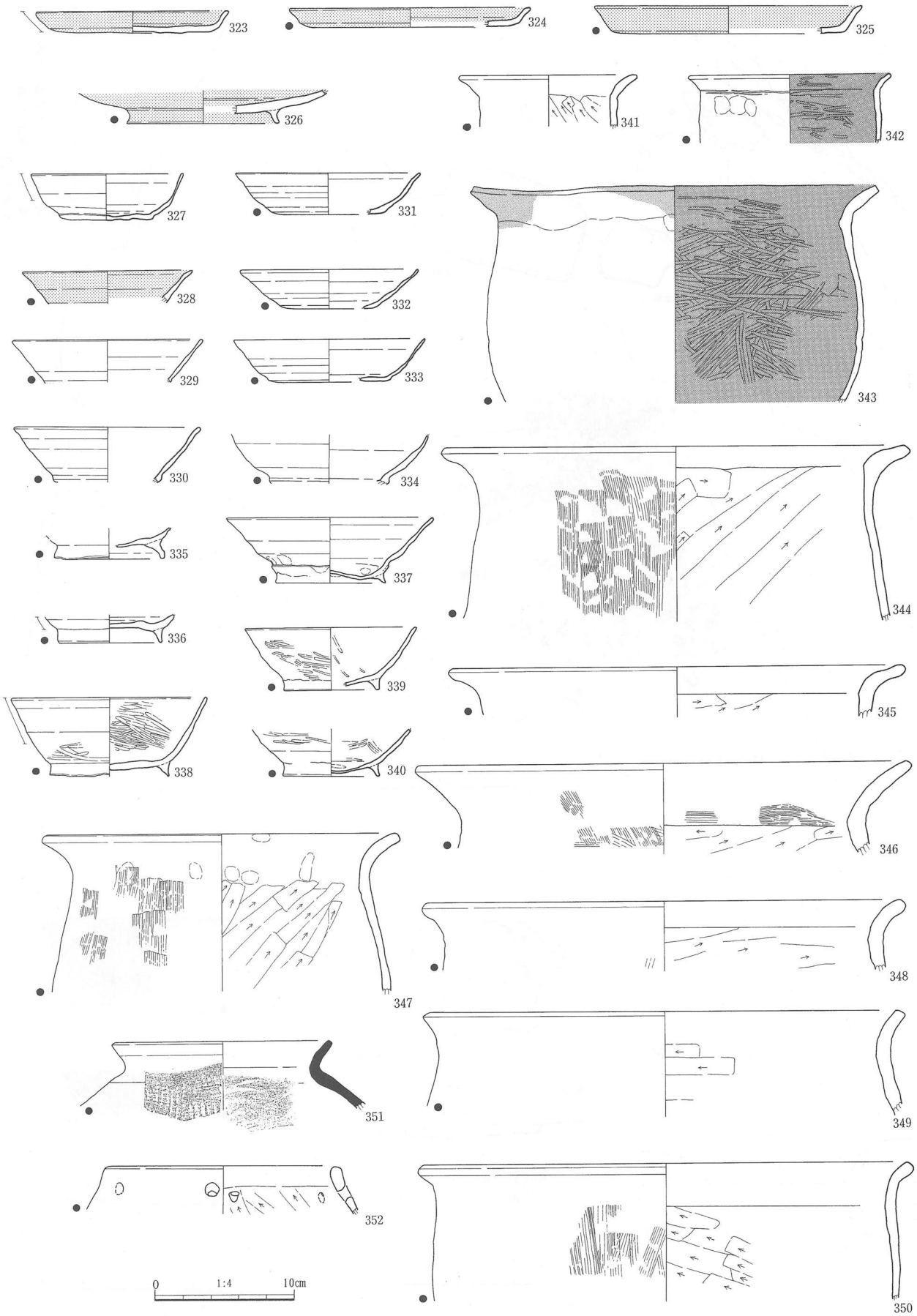
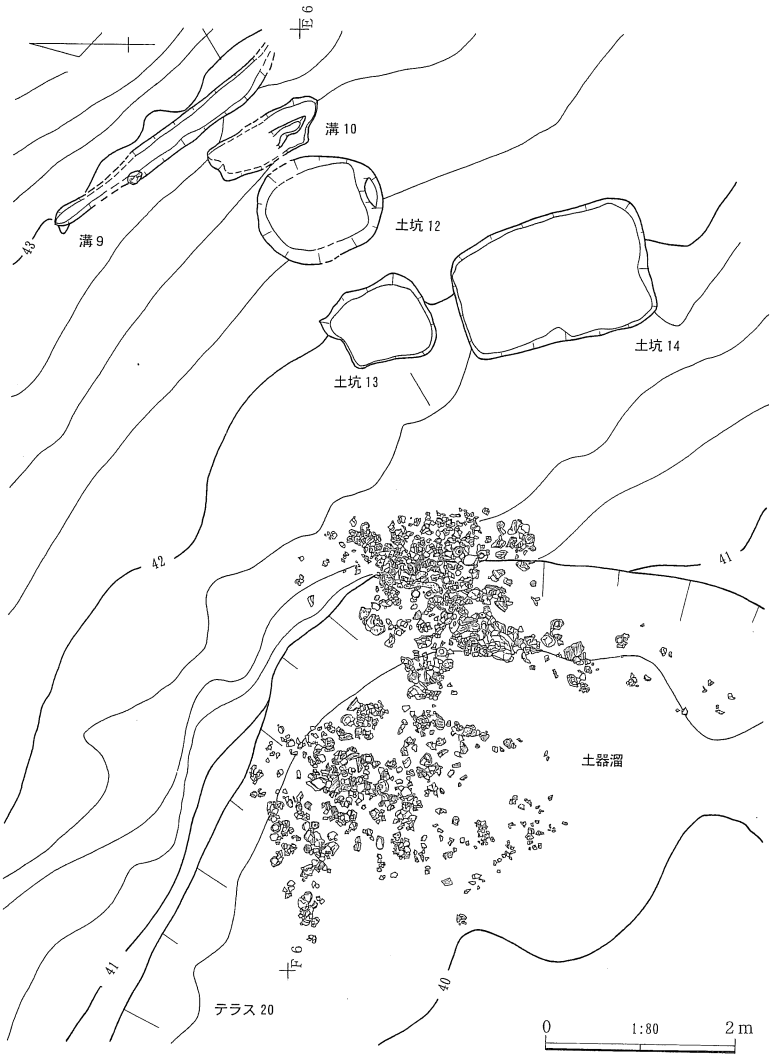
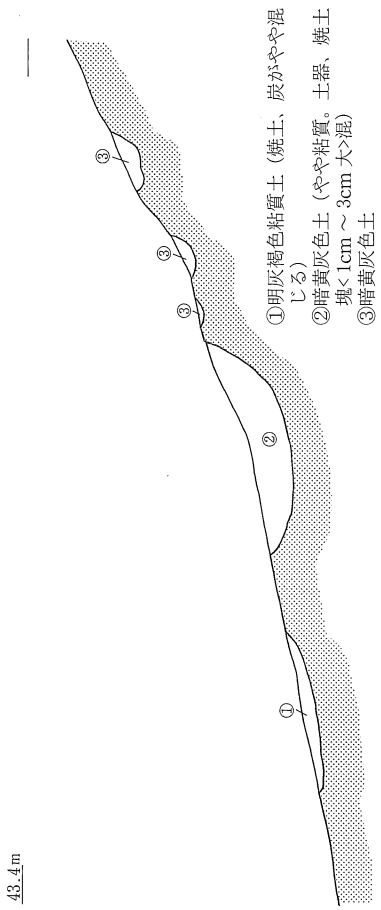
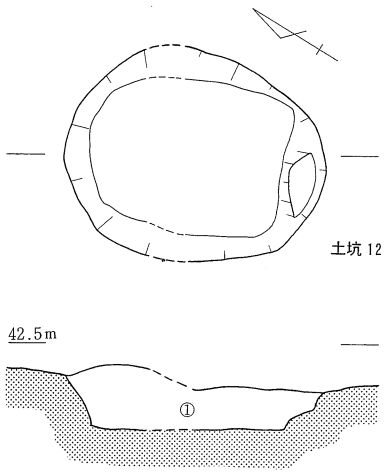
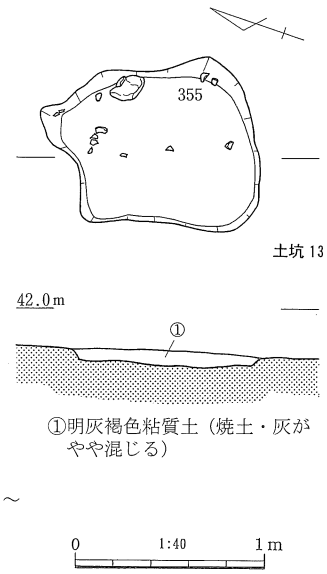



図 99　テラス 19 出土遺物（２）



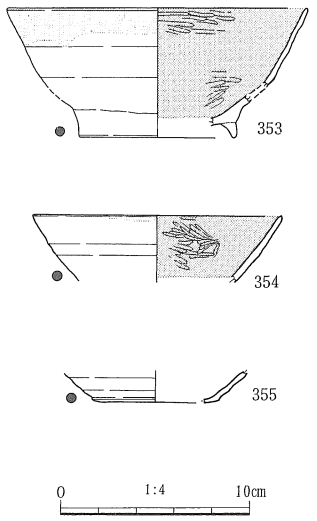




図 100　土器溜周辺遺構群および土坑 12・13 出土遺物

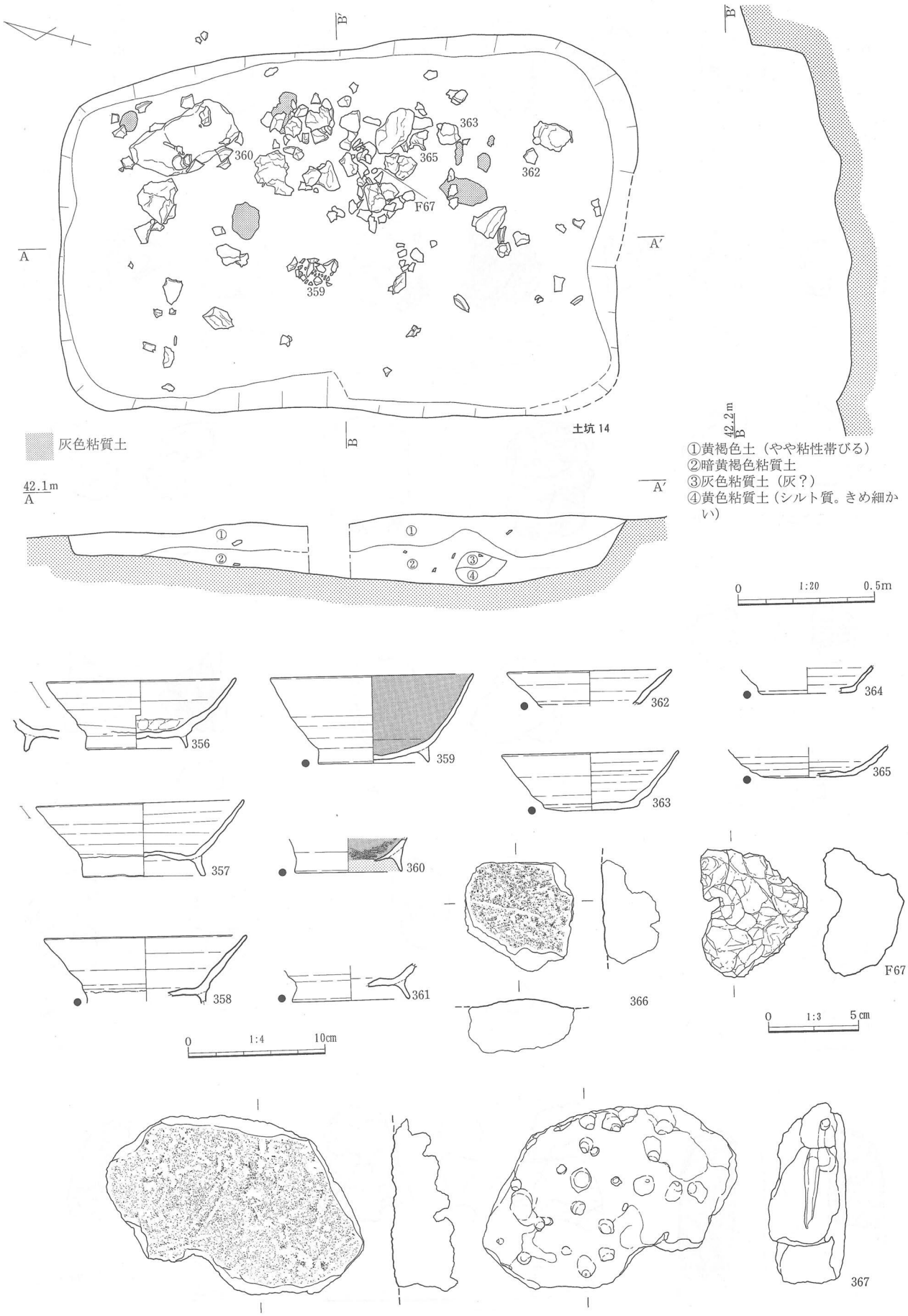



図 101　土坑 14 および出土遺物

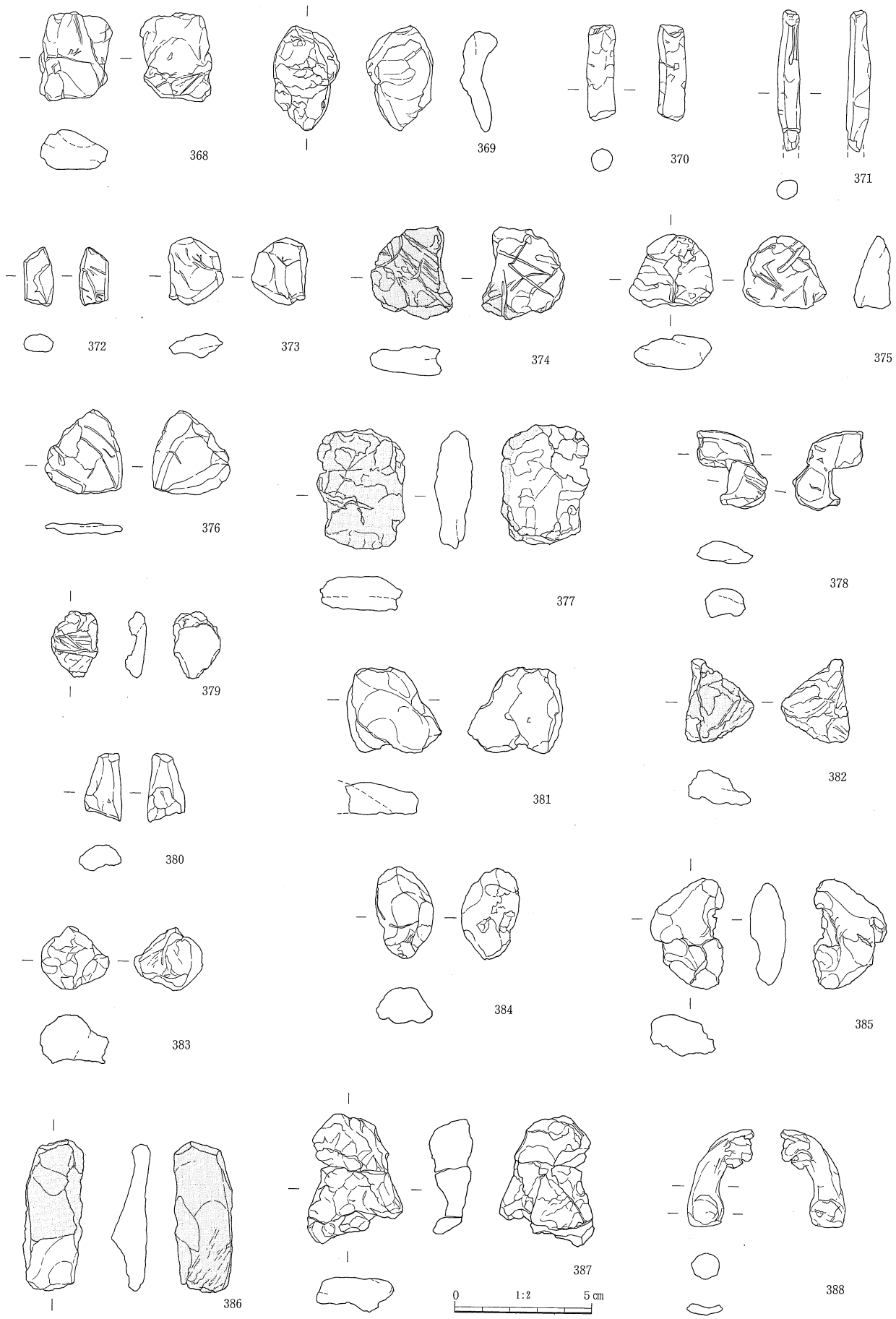



図 102　テラス 18・19 および土坑 14 ほか出土焼成粘土塊

## 第２節　谷１区検出の遺構と遺物

尾根１区南側斜面部では弥生時代後期の竪穴住居跡２、および古墳時代中期の古市21号墳によってできた平坦面を利用し、テラス18と土坑11・溝８がつくられる。またここから南東へ10ｍほどのところに土坑群（土坑12～14）および溝（溝９・10）がある。この遺構群のすぐ西には奈良時代後期～平安時代初頭につくられたテラス10があり、それが埋まりやや緩やかな斜面となっている。そこから多量の土器が出土した（土器溜）。土師器杯・高台付杯、内黒杯・高台付杯・高台付皿、甕（内黒）があり、これらに若干の須恵器が伴う。またこの土器溜中には、径５cm前後を測る焼けた粘土の塊（焼成粘土塊）を多量に含んでいた。

この土器溜から西に続く平坦面上にテラス19は位置する。土器溜からこのテラスにかけては、ほぼ標高40.0ｍで面が揃っている。

**テラス18、土坑11、溝７・８**　（図97・102、図版60）

尾根１区Ｄ・Ｅ６グリッドにまたがる位置にあり、下層には弥生時代後期の竪穴住居跡２がある。層位的（Ａ－Ａ’）にはこの埋土上面に溝７があり、さらにその上にテラス18が存在することになる。そのため溝７とテラス18は明らかに同時期のものではなく、本来分けて記述すべきであるが、溝７から出土した遺物もテラスと同様であったため、ここに含めた。

溝７は東西方向に伸びる幅約２ｍのもので、東側で南東部へと曲がる。深さは0.1～0.2ｍと浅い。これはテラスにより削平された可能性も考えられよう。埋土には土師器片がまとまってあったが、小片ばかりであった。

テラス７長さ約7.4ｍを測り、北東部斜面側は鎌倉時代のテラス24に切られる。平坦面南部には径1.5ｍ、深さ0.3ｍほどの円形土坑11、さらにその南に長さ1.8ｍ、幅0.4ｍ、深さ0.1ｍほどの直線的な溝８がある。遺物は壁面下からにまとまって出土している。314～316は杯、317は高台が付く。318・320は内黒の杯、319は内黒皿。321・322は甕で、後者は内黒である。上記の土師器以外にまた弥生時代後期の甕（323）も出土している。竪穴住居跡２に属するものか、あるいは斜面上方にあるテラス１から転落したものであろう。　（中森）

**テラス19**　（図98・99・102、図版60）

谷１区Ｅ４・５グリッドに位置し、土器溜の西側に続くテラスである。長さは約9.4ｍを測る。東端はＦ６杭の北西部で収束し、そのやや南東から土器溜のあるテラス20は始まる。南側に平坦面が広く拡がるが、範囲を明確にはできない。おそらく斜面側をカットしただけのものであろう。その際に前時代のテラス16を削平したと考えられる。

遺物は全体的にあるものの、壁面近くの中央やや東よりのところにまとまって出土した。土師器が大半を占める。323～325は赤色塗彩された皿、326は高台付杯でやはり赤色塗彩がある。327～334は杯、335～340は高台付杯である。328は内外面とも赤色塗彩。338～340は内面全体および外面の一部をミガくが、黒色処理はされていない。341～350は甕。大型・小型の２種類があり、それぞれ内黒のものも出土した。351は須恵器の甕、352は無頸壺で、口縁下に穿孔される。破片ではあったが穿孔部を２ヶ所確認できたことから、計４ヶ所にあるものと判断した。弥生時代後期に属する。また焼成粘土塊も出土している（図102-372～374・376～378）。（中森）

**土坑12・13、溝９・10**　（図100、図版62）

Ｅ６杭西側に位置する遺構群である。その位置は土器溜の東上方にもあたる。もっとも北東に位置するのが溝９で、長さ約3.0ｍ、幅は0.3ｍ、深さ0.2ｍの直線的なものである。西南に隣接し並行する溝10は長さ1.3ｍ、幅0.5ｍほどであった。これは溝中央部がやや盛り上がっており、あるいは２条の溝となる可能性もある。

上記溝の向きに並行、つまり等高線に沿うように土坑群は長軸を合わせる。溝10に西接している土坑12は、長径1.4ｍ、短径1.1ｍほどの楕円形を呈し、埋土に炭や１～３cm大の焼土塊を含む。その南西にある土坑13は長径1.0ｍ、短径0.8ｍ、深さ0.1ｍほどで北側が不定な長方形を呈す。やはり埋土中に焼土、炭が混じる。

遺物は両土坑とも少ない。土坑12からは内黒の高台付杯（353）が出土している。内黒杯（354）・杯（355）は土坑13出土。　（中森）

図 103　土器溜検出状況

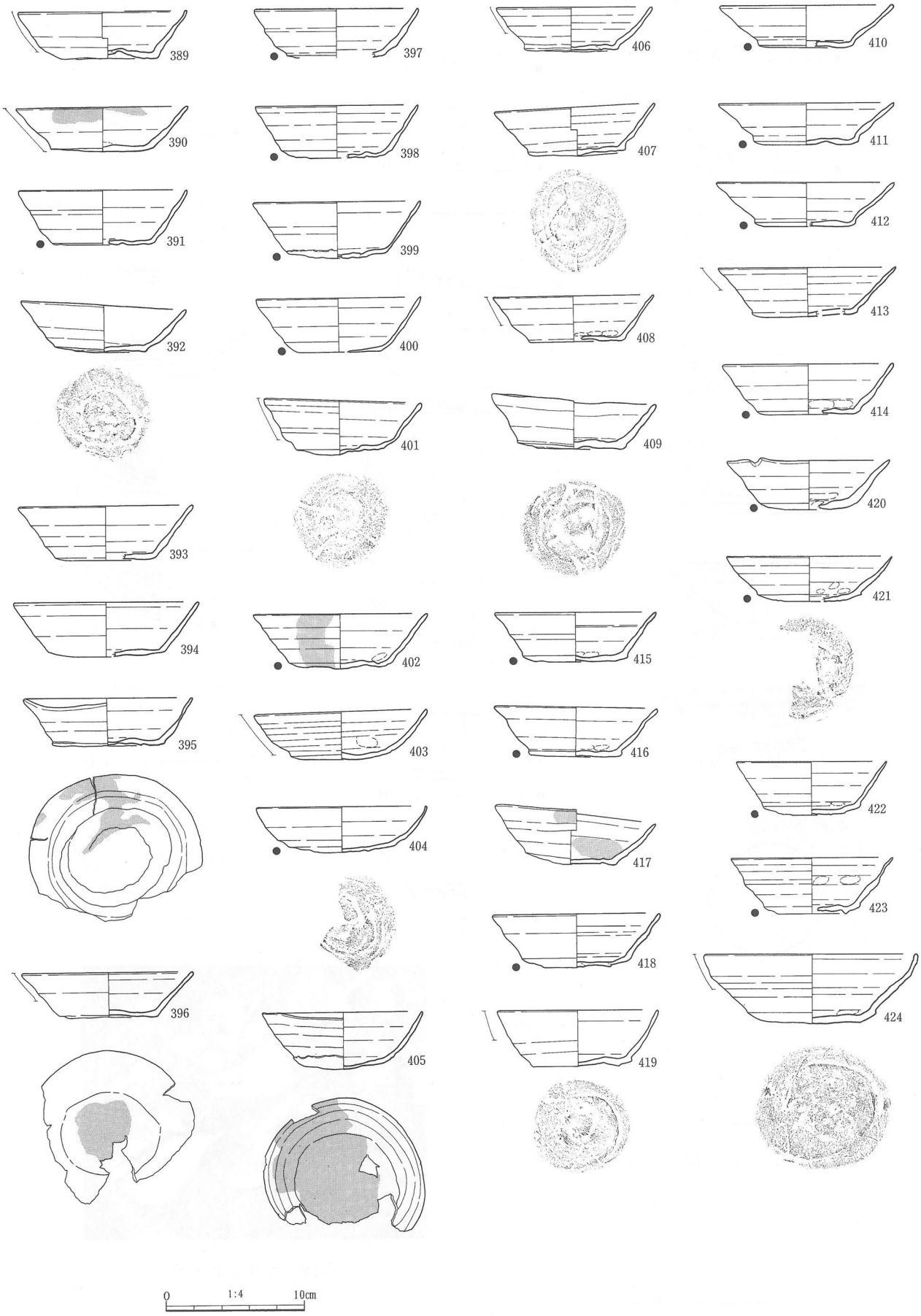



図104　土器溜出土遺物（１）

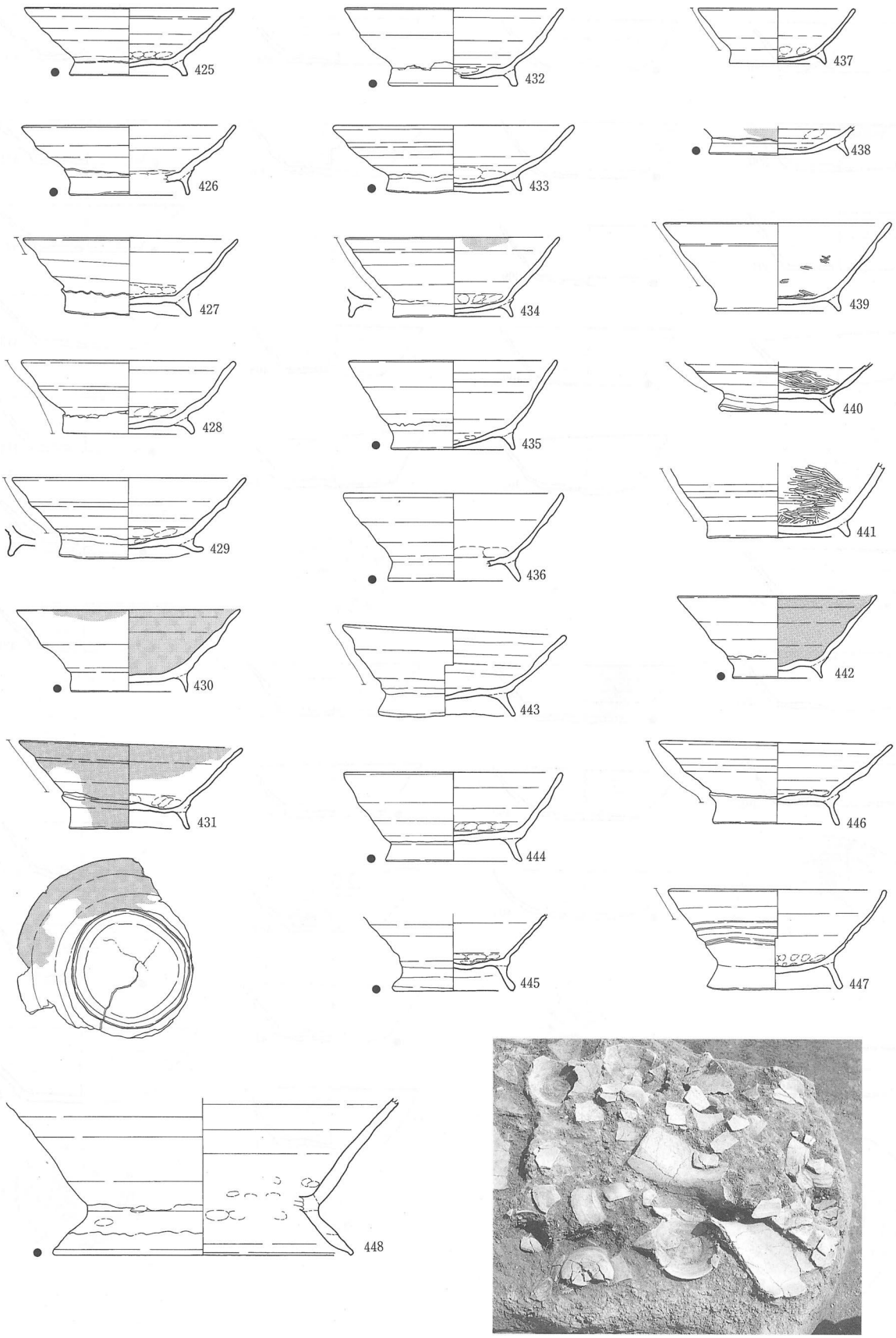





Fig.9　土器出土状況

0　1:4　10cm

図 105　土器溜出土遺物（２）

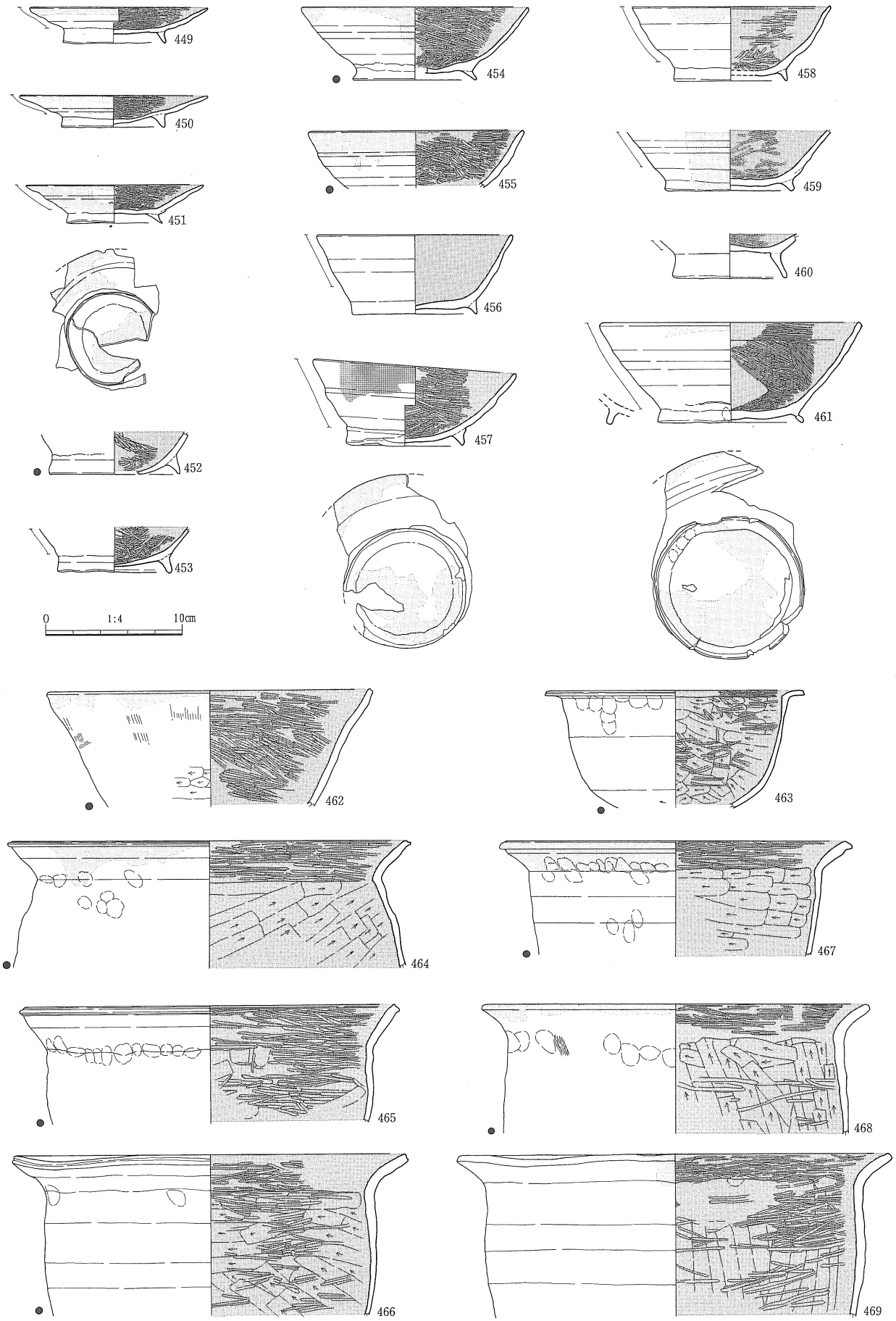



図 106　土器溜出土遺物（３）

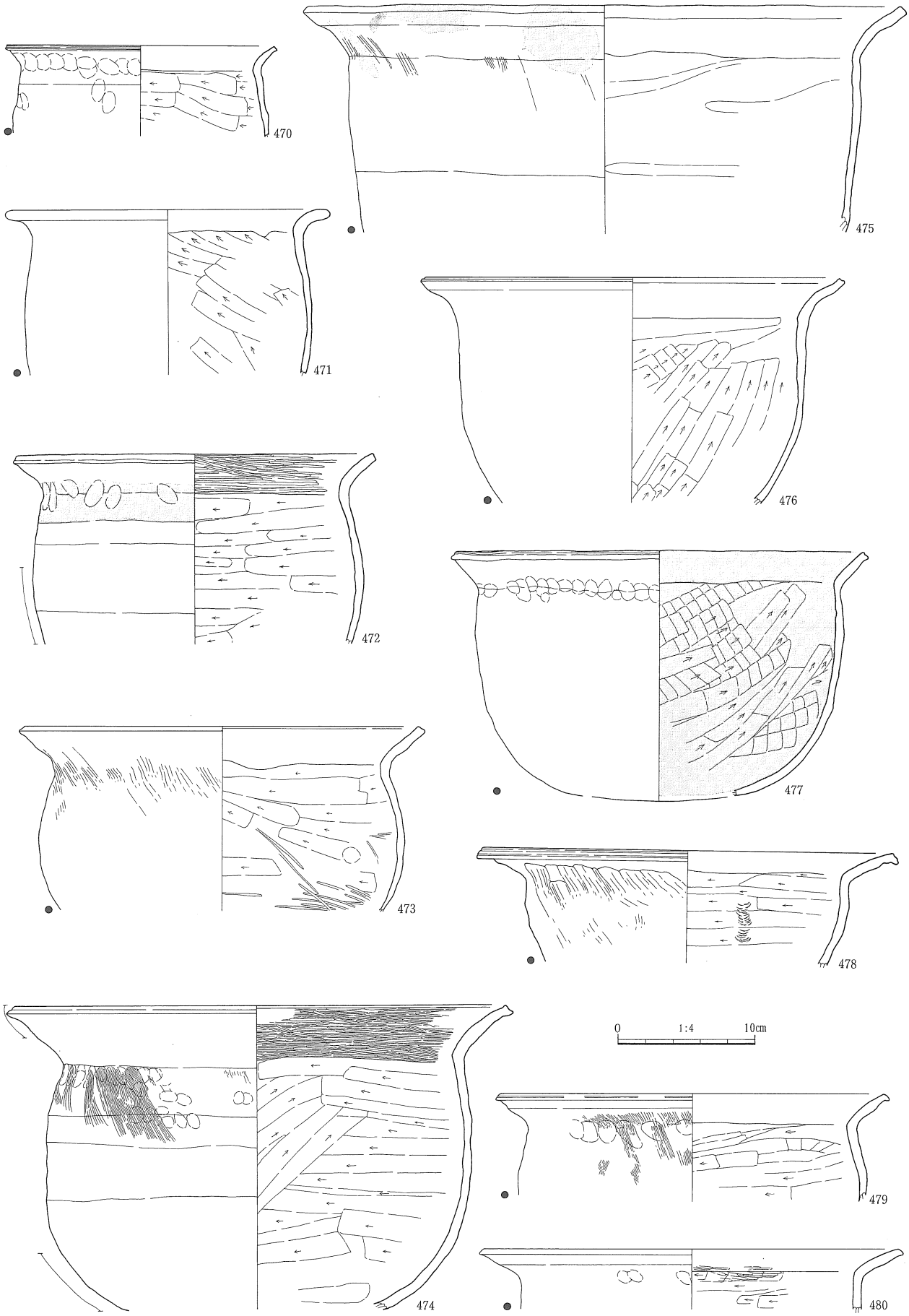



図 107　土器溜出土遺物（４）

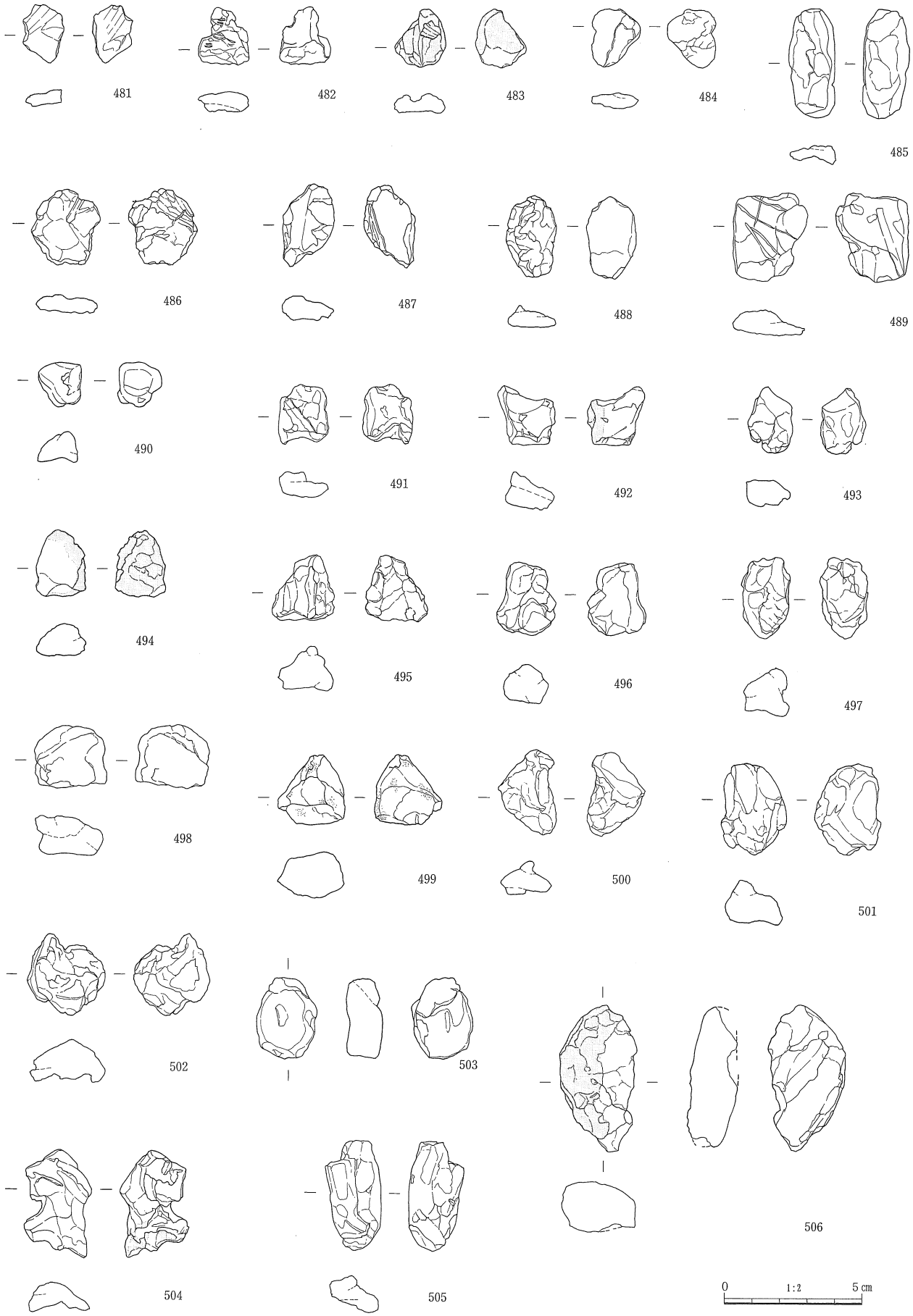



図 108　土器溜出土遺物（５）

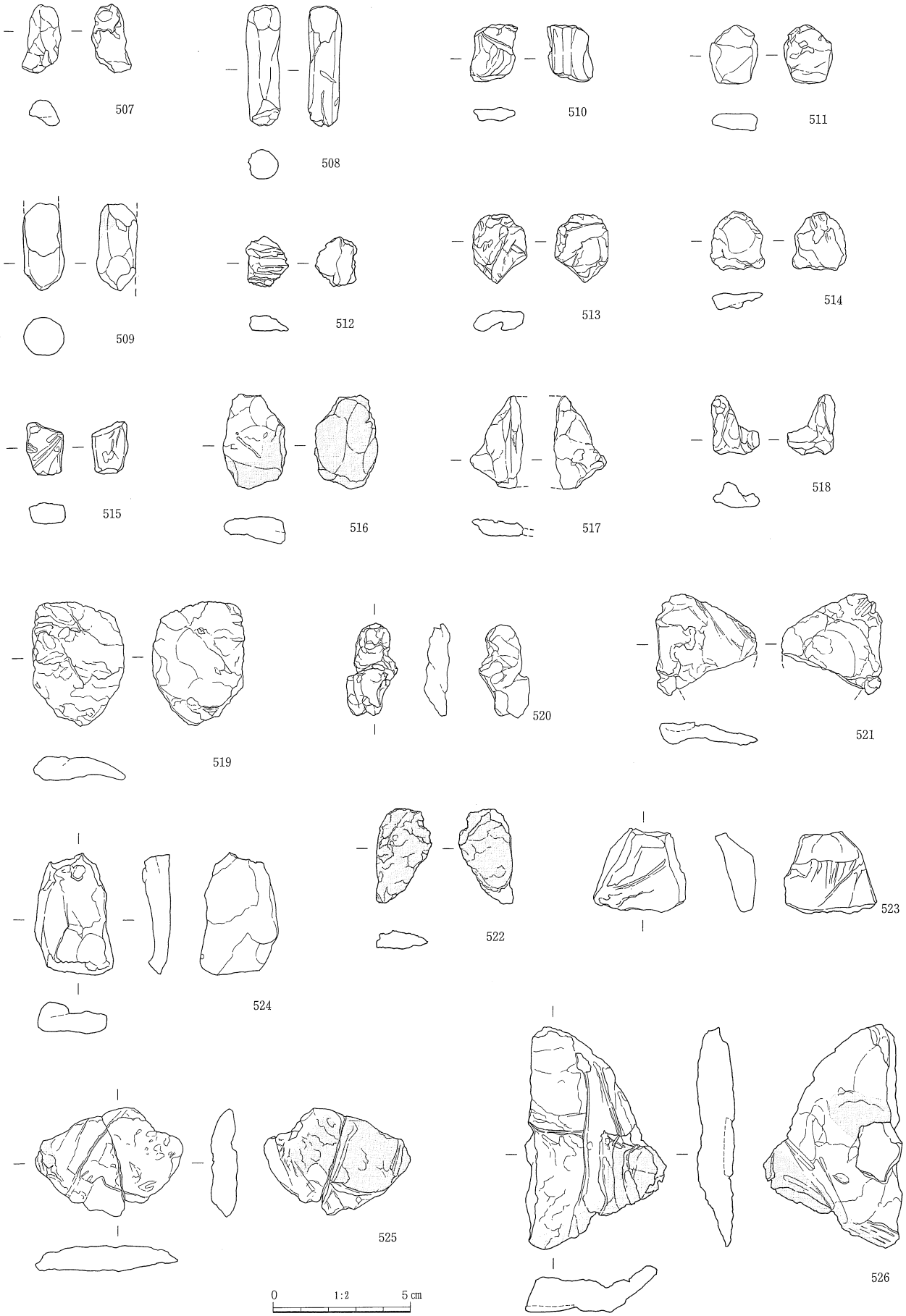



図 109　土器溜出土遺物（６）

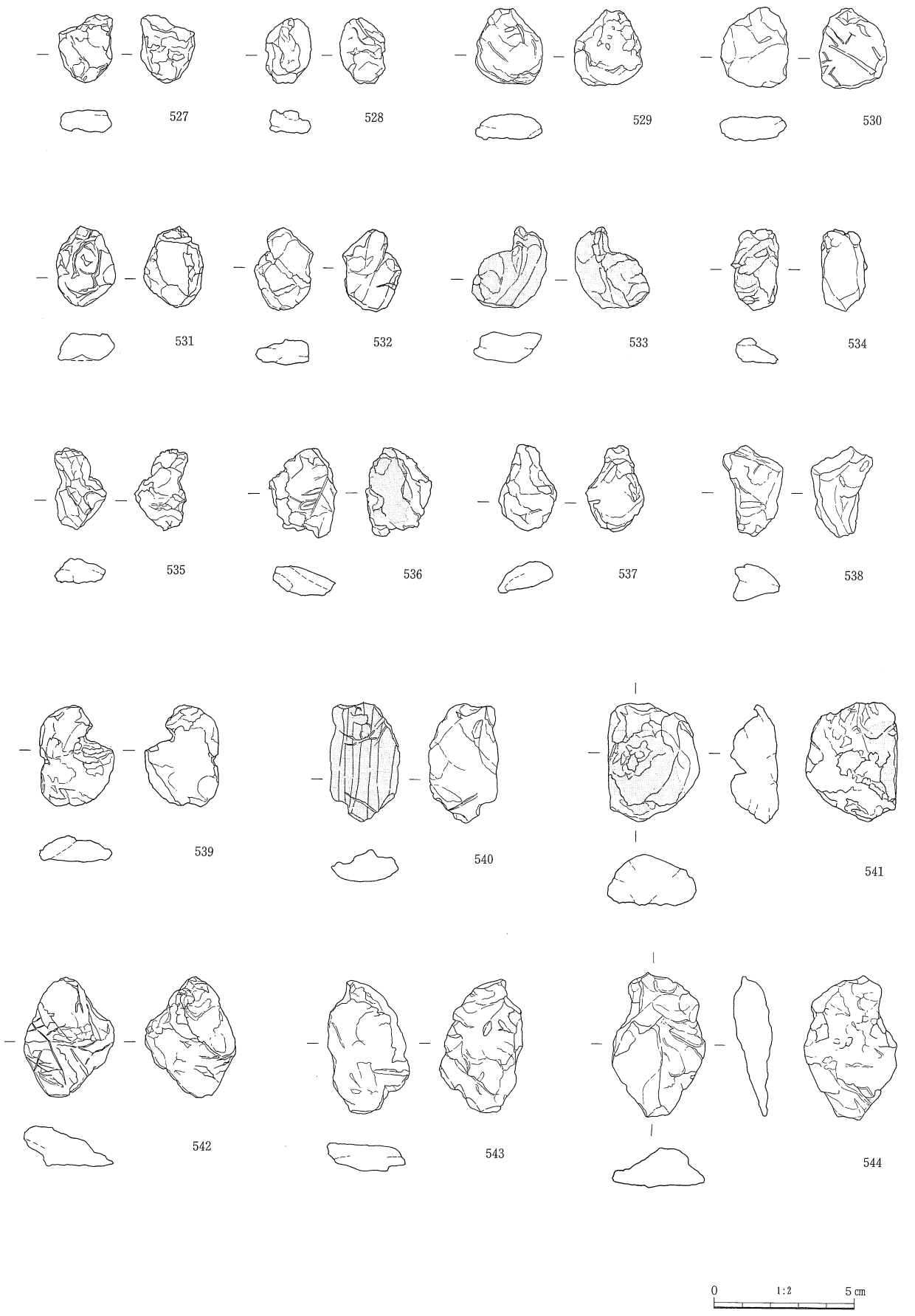



図 110　土器溜出土遺物（７）

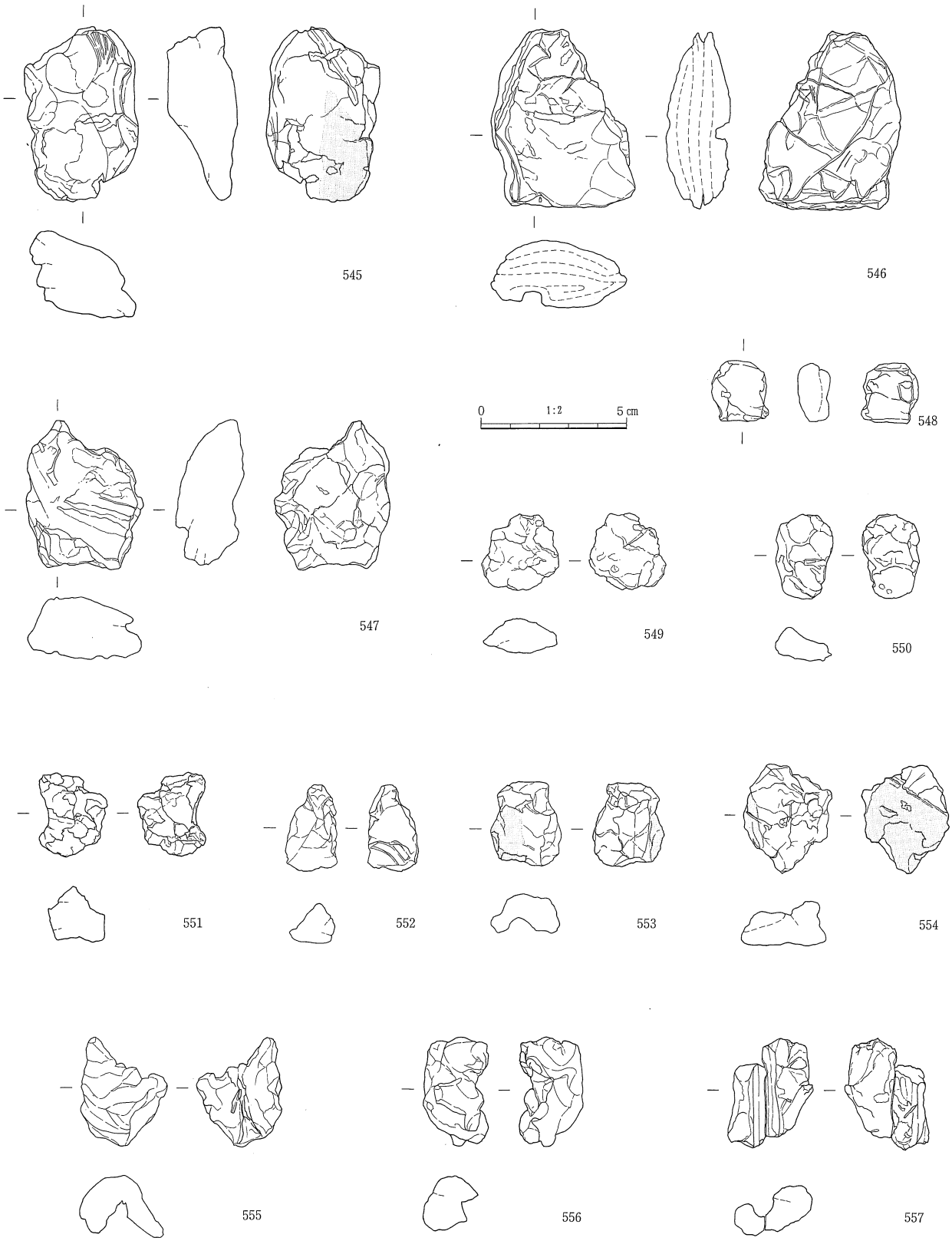



図 111　土器溜出土遺物（８）

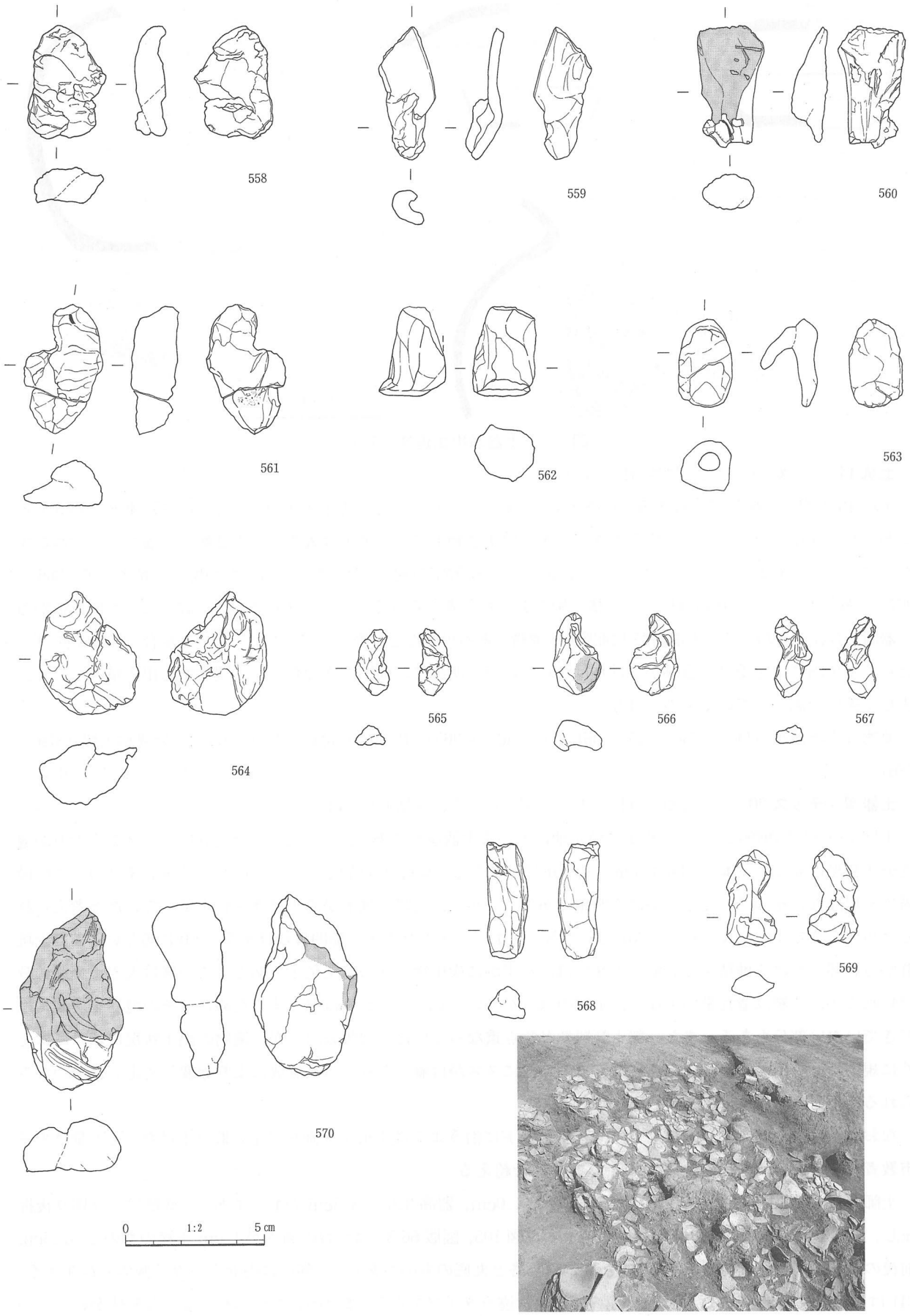



Fig.10　土器出土状況（西から）

図 112　土器溜出土遺物（９）

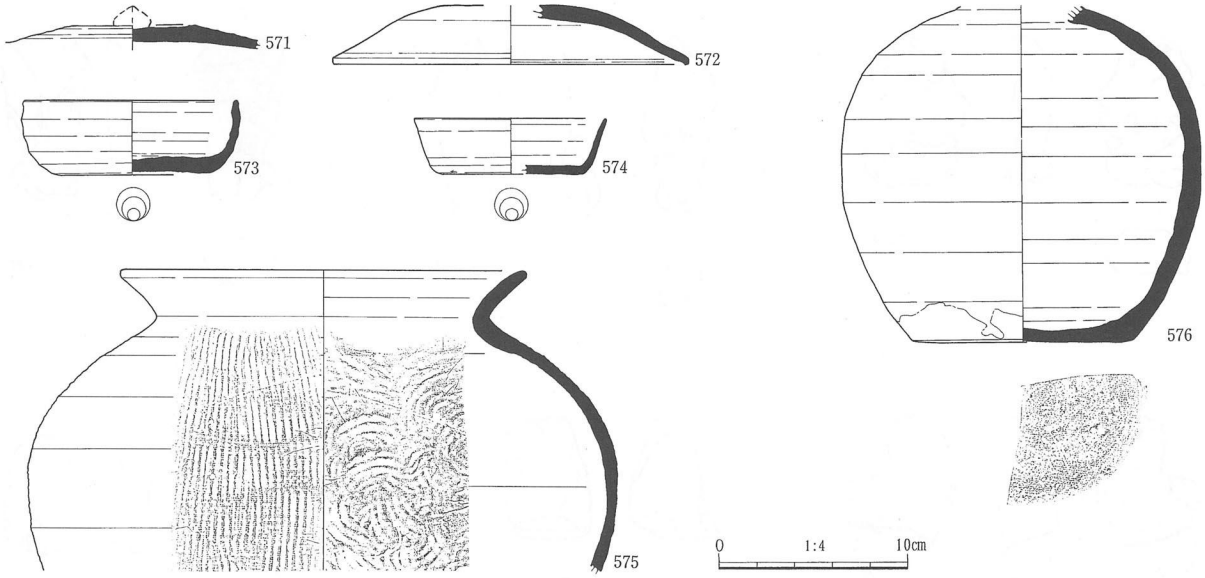



図 113　土器溜出土遺物（10）

**土坑 14**　（図 101・102、図版 61 ～ 63・69）

土坑 13 の南側に接して位置する。長径 2.1 m、短径 1.3 mを測る長方形の土坑である。深さは東側で約 0.2 m であった。先述の土坑よりも規模が大きく、また出土遺物も多い。埋土は大きく上下２層に分層でき、炭はわずかに含む。また床面上で、灰のようなシルト質の土を部分的に検出した。さらに面をもつ焼けた粘土の塊（366 ～ 367）を検出したが、これらは壁などの構造物であったと考えられる。そこで後述するように、この西側に拡がる土器溜の存在と合わせて、本遺構が土師器焼成遺構である可能性を指摘したい。ただそうした場合、必要条件（註１）として土坑内に火を受けた痕跡がなければならないが、明確には検出できなかった。炭化物も出土量は少なく、決して条件を満たしているものではない。

遺物は土師器高台付杯（356 ～ 359・361）、杯（362 ～ 365）、内黒高台付杯（361）のほか、焼成粘土塊（379 ～ 386）が出土した。　（中森）

**土器溜、テラス 20**　（図 103 ～ 114、カラー図版６・７、図版 63 ～ 71）

土坑 13・14 の西側にある、緩やかな傾斜地に拡がる土器溜りである。斜面上方の土坑群に近いところの方が遺物分布密度は高く、全体の範囲は５m × 3.5 mほどになる。傾斜は前時代のテラス 10 埋土上面にあたり、この段階で平坦面などをつくりだしたかは不明確である。しかし、当時の地形が若干テラス状を呈していたと考えられるため、ここではテラス（テラス 20）として扱っておく。そのためその範囲はほぼテラス 10 に等しい。また土坑群から谷部へかけて堆積するⅡ層（図８）は、わずかに炭化物を含む暗褐色土である。この層は大きく２層に分けられるが、上層は遺物量が少なく、下層のほうが多い。しかしこれらは混在するために、その境界を明確にはできていない部分もある。また一部土師器杯が数点重なっていた（図版 65-1）が、遺物の出土状況においてはとくに規則性は見出せない。ただし甕は、その外面にススが付着したり、二次焼成により赤変し劣化したものがみられるなど明らかに使用痕が看取できた。

なお遺物はすべてを実測した上で、10 mグリッドに沿うように１m小区画を設定し取り上げた。その量は米子市教育委員会のものも合わせ、コンテナに 20 箱を超える。

土師器杯（図 104、図版 67）は口径が 12.0 ～ 14.0cm、器高 3.0 ～ 3.5cm のものである。底部はヘラ切り後押圧し、凸凹なものが多い（図版 67-2）。高台付杯（図 105、図版 66-3）は高台の高さが１ cm 未満のものと、1.5cm 前後のものの大きく２種類がある。また底部が平底と丸底のものがあり、一部には内面をミガく個体も存在する。441 は器壁が厚く内面を密にミガき、他の個体とは違うタイプである。また高台がつぶれたような個体がいくつかあった（図版 66-2）。

内面を黒色処理しミガキを施す、いわゆる内黒の土師器も多く出土している（図 106）。皿、杯（図版 66-1）ともすべて高台の付くタイプで、杯は底部丸底のものが主流である。高台も低く、唯一 460 のみ高い。462 は口縁が大きく、直線的に外反するものである。鉢か。甕には大小２タイプがある。また大型のものでは体部が直立するもの（465 ～ 469）と丸味をもつもの（464）がある。これらは口縁内面を丁寧にミガキ、体部上半もやや粗くミガく。土師器甕（図 107、図版 70）も同様な法量のバリエーションがあるが、口縁部の長さや、頸部の屈曲度合いなどに違いがありそうである。また口縁内面をミガくものもいくつかみられるが、基本的にはナデ仕上げで終わる。

これらのほかに、コンテナにして２箱分の焼成粘土塊が出土した（図 108 ～ 112、図版 68・69-3）。大きさは２～７ cm とさまざまであり、厚みのある塊状のものや、扁平なもの、棒状などに分けられるか。また板状粘土を折り返すないしは貼り付け、互層状あるいは塊状にするものがあった。このほか土器片がつくもの（526）、黒斑をもつものや、植物繊維と思われる細い沈線状の痕跡をもつものもみられる。

このほか須恵器がわずかに出土している（図 113、図版 71-1）。571・572 は蓋。571 はつまみが剥落した痕跡がある。573・574 は杯、575 は甕、576 は壺である。

また土器に混じり、製鉄関連遺物および鉄製品も若干出土している。Ｆ 68 は製錬滓、Ｆ 70 は椀形鍛冶滓、Ｆ 71・Ｆ 72 は含鉄鉄滓である。Ｆ 72・Ｆ 73・Ｆ 77 は刀子、Ｆ 74 は工具か。Ｆ 75 は鉄斧、Ｆ 76 は鎌である。Ｆ 78 ～Ｆ 80 はⅡ層上層から出土したもの。Ｆ 80 は釘、他の２点は不明である。これらの製鉄関連遺物および鉄製品は、下層の奈良時代後期～平安時代初頭に属する可能性が考えられる。

以上のようにみてくると、

・焼成土坑に伴うとされる多種の粘土塊が出土していること。

・高台がつぶれたような不良品を含むこと。

・完形に近い杯類に黒斑のあるものが一定量みられること。

など出土遺物の様相は、ある程度土師器焼成に関連する要素を含んでいる。そして遺物の分布傾向が土坑群に近

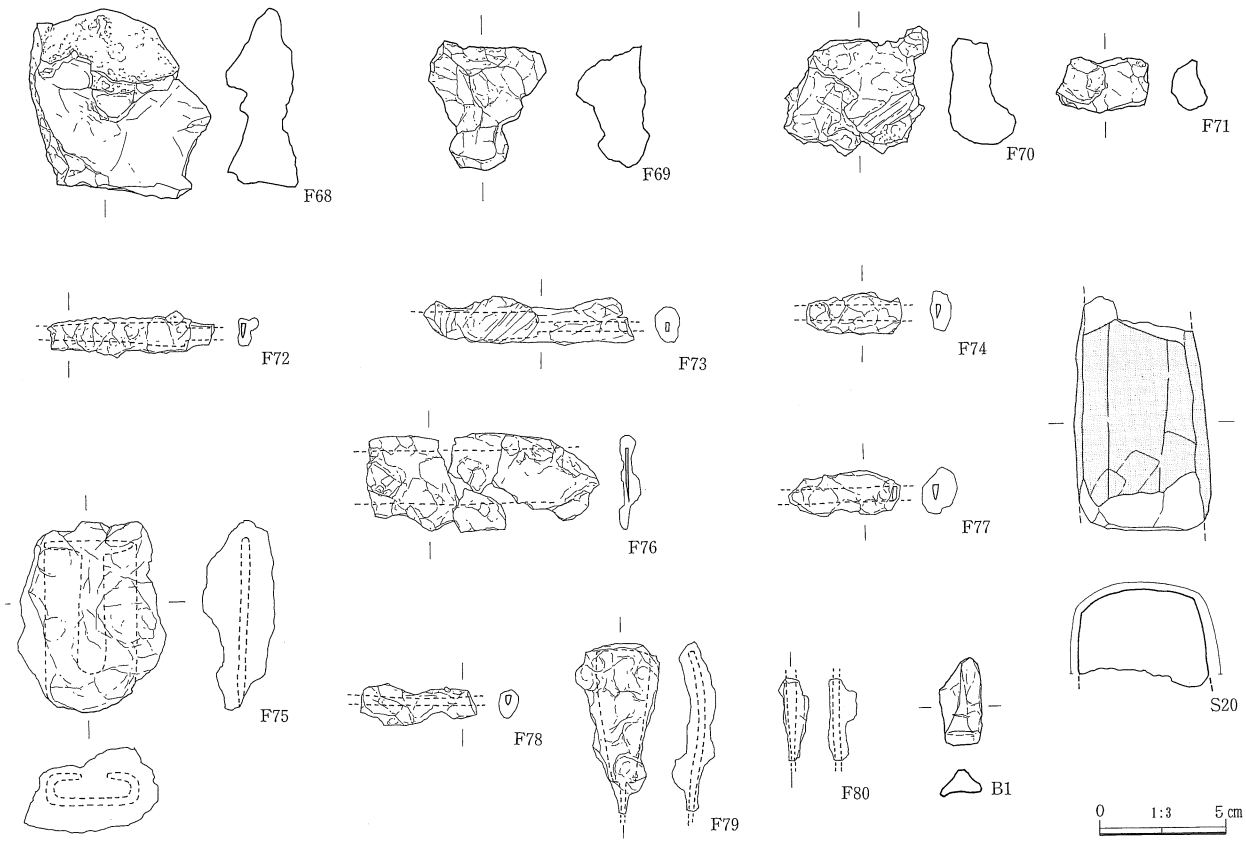



図 114　土器溜および周辺出土製鉄関連遺物ほか

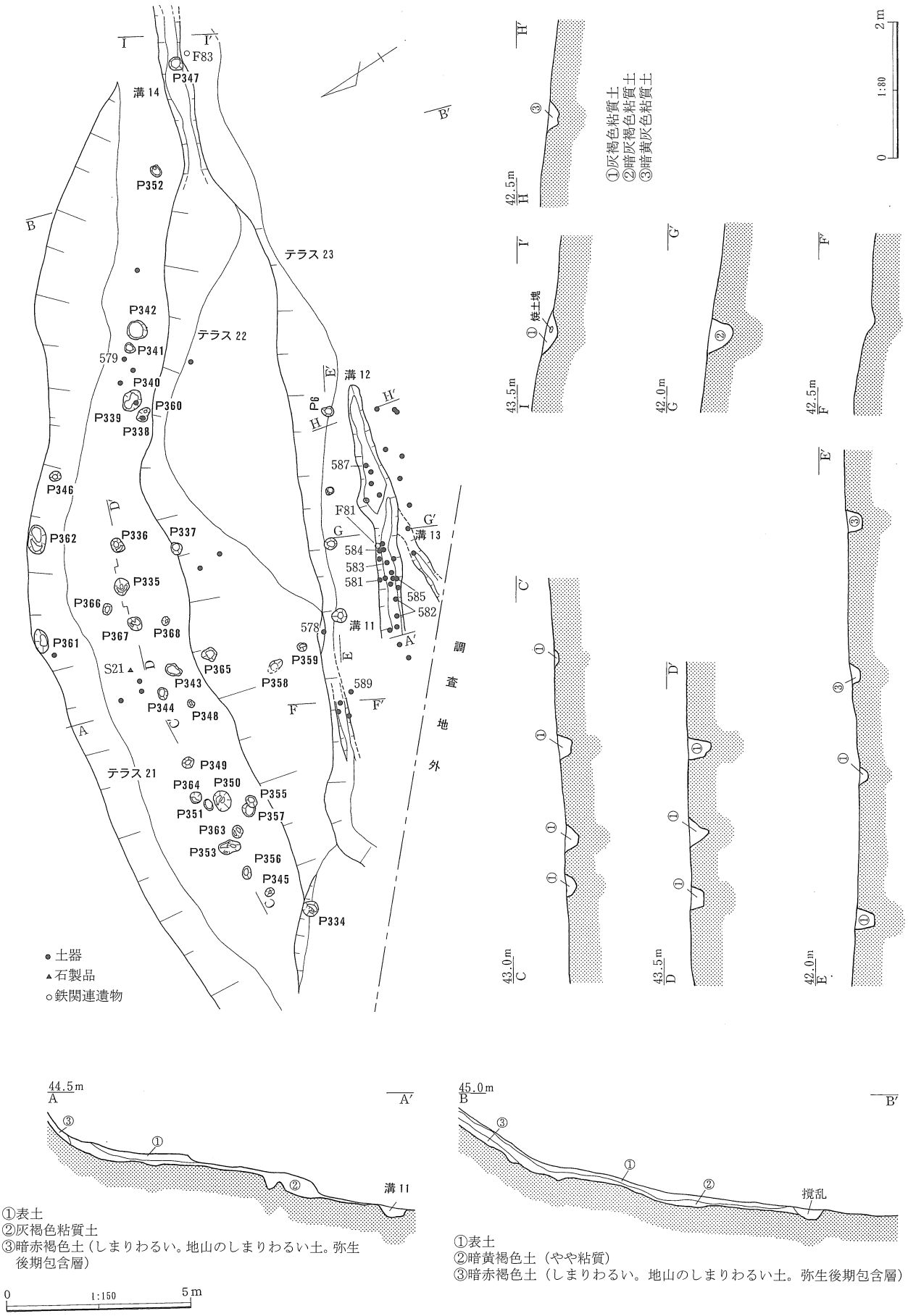



図 115　テラス 21 ～ 23

いところの方が密度が高く、その出土状況に規則性はみられない。このことは土坑群側から廃棄された状況を示すと考えられる。つまり先の土坑 14 を中心に、この場所で土師器が製作された可能性があるのではなかろうか。なお甕には二次的な使用痕があり、これらについてはこの場所でつくられたものではないと考えられる。しかし胎土分析の結果（第 10 章特論６）では杯類と大きな差異はなく、近接した場所のものといえよう。　（中森）

## 第３節　谷２区検出の遺構と遺物

谷２区において検出した遺構と遺物は、ほぼ本時期に限られるといってもよい。

階段状に展開するテラス群、およびそれに続く池状遺構などを検出したが、調査地の関係から、範囲は尾根２区に近い北側しか調査していない。しかし谷部は南側へと続いており、そこにも当該期の遺構があると推定される。

**テラス 21 ～ 23、溝 11 ～ 14**　（図 115・116、図版 72・73-3）

南向きに幅の狭いテラスが３段つくられる。最上段のテラス 21 がもっとも長く、約 26 ｍを測る。ピットが多く直線的に並ぶものが２列ほどあるが、建物構造を復元できるものはない。南東端に直線的な溝 14 がある。長さは４ｍ、幅 0.4 ｍほどであった。中段のテラス 22 は明瞭に壁を削りだしたものではなく、緩斜面から下がったところに平坦面がある。しかしピットなどは検出されず、遺物もほとんど出土していない。

最下段のテラス 23 には溝が３条掘り込まれている。これらは切り合い関係にあるが、その前後についてはわからなかった。また溝 12・13 は直線的な位置関係にあり、一連のものと考えられる。

遺物はテラス 21 から 577 ～ 580、Ｓ 21、Ｆ 82、溝 11 から 581 ～ 588、Ｆ 81、溝 12 から 587、溝 14 からはＦ 83

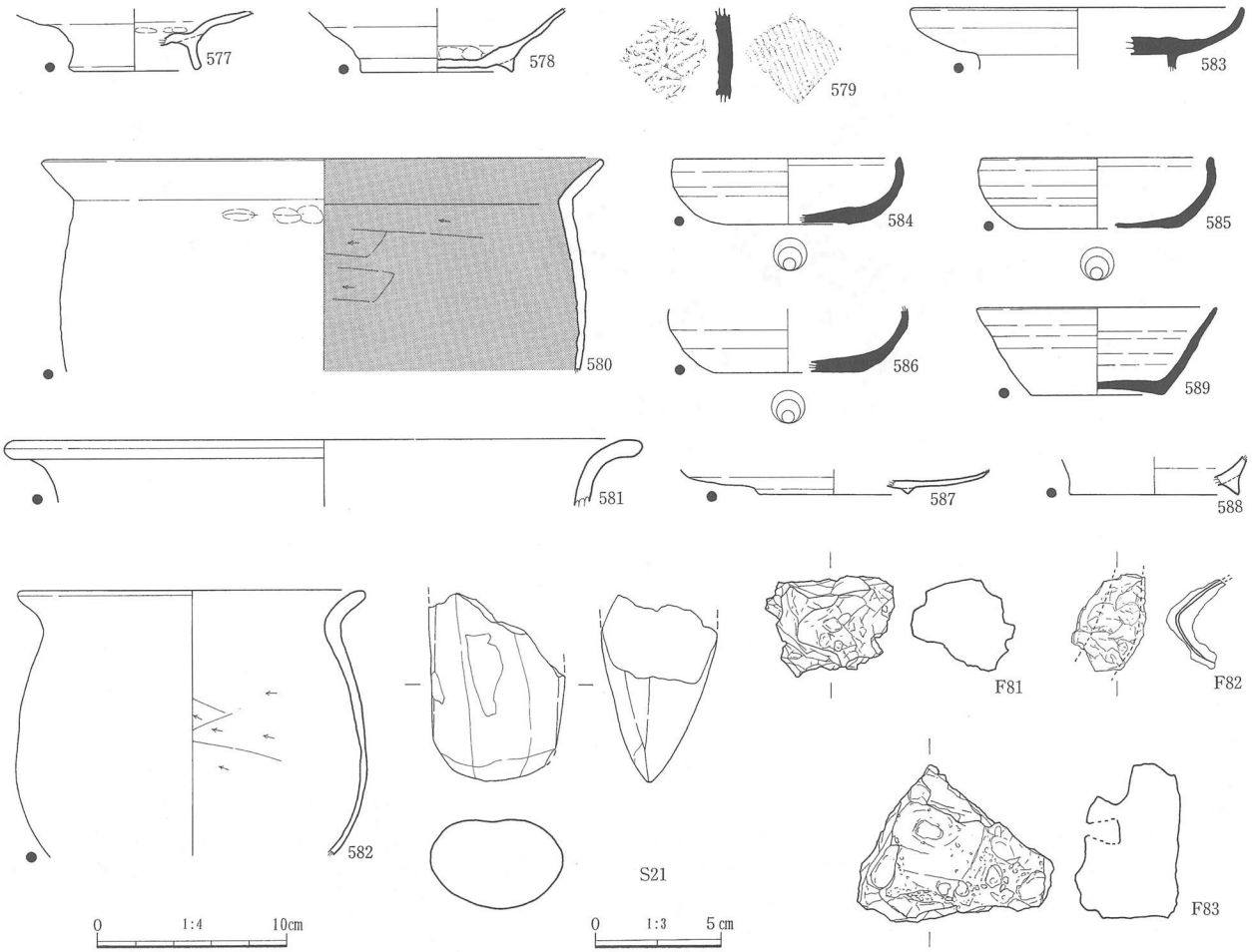



図 116　テラス 21 ～ 23 出土遺物

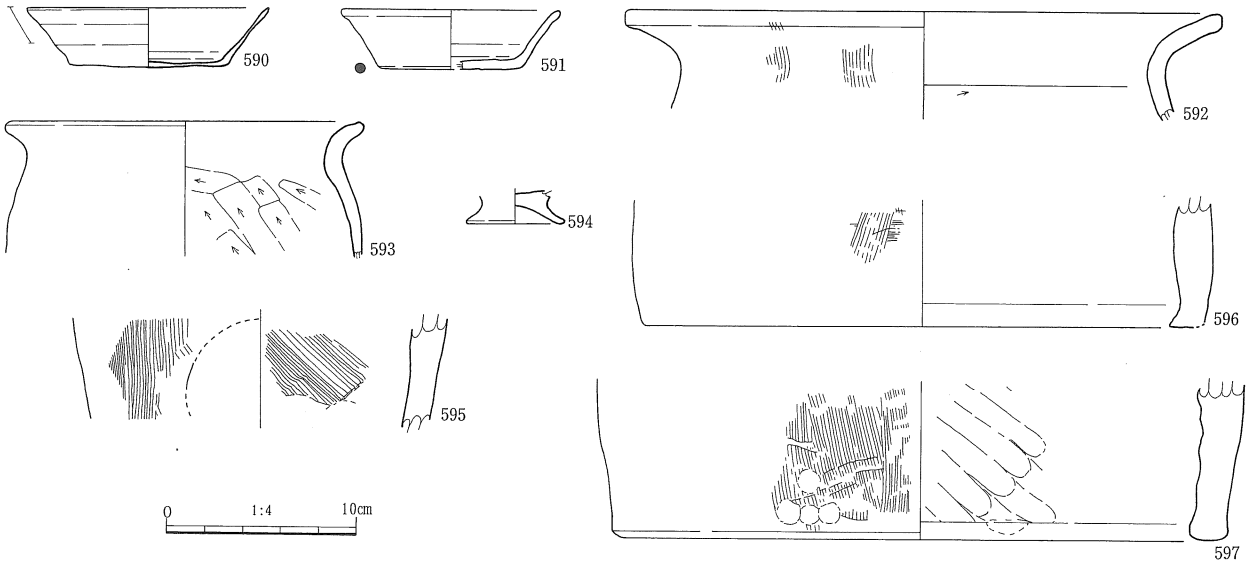
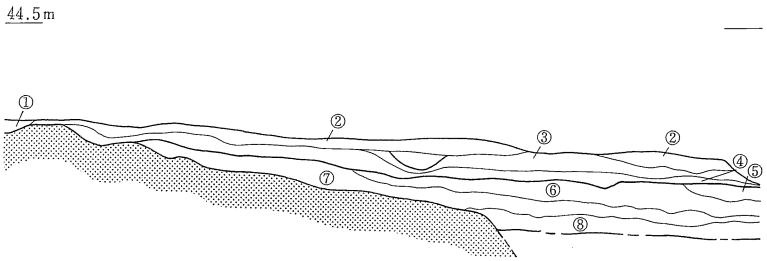



図 117　池状遺構⑦層出土遺物




①表土
②暗灰褐色粘質土
③暗灰褐色粘質土（①より黒味強い）
④暗褐色粘質土
⑤黒色粘質土（黄色粗砂を多量に含む）
⑥暗褐色砂質土（粘性あり。粗砂含む。遺物が多い）
⑦暗灰色粘質土（しまり強い）
⑧暗灰褐色砂礫

図 118　池状遺構⑥層遺物分布および土層断面

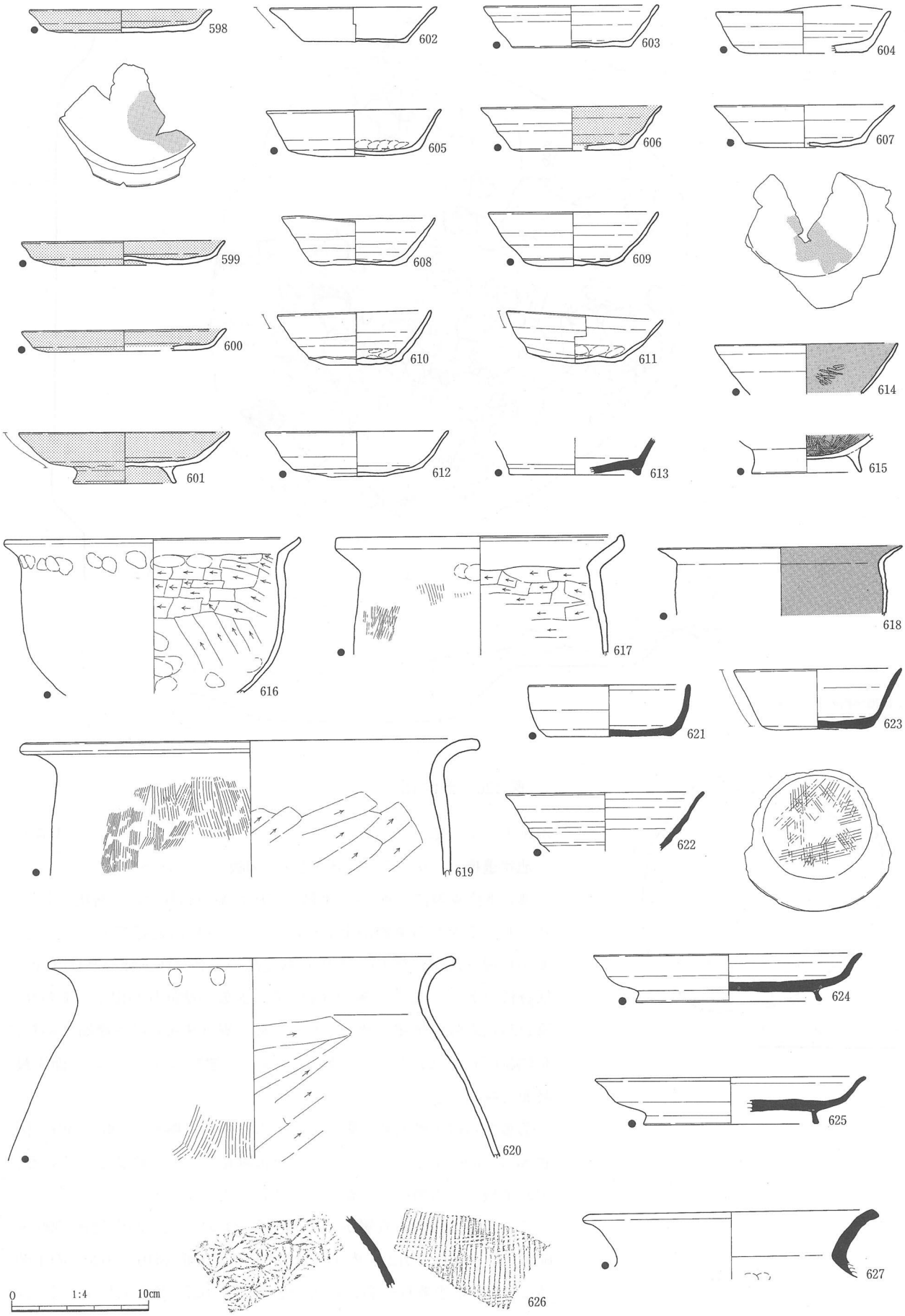
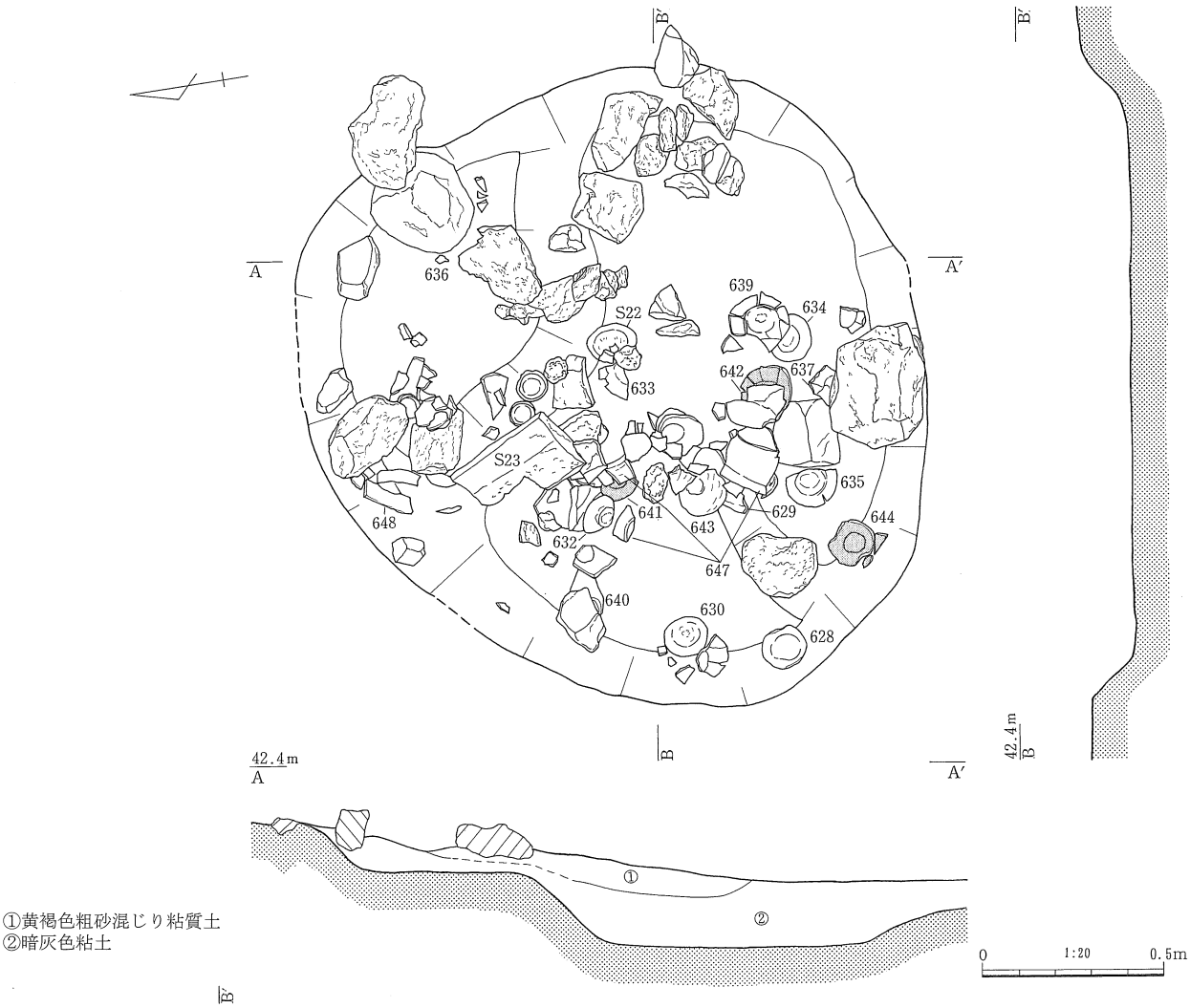



図 119　池状遺構⑥層出土遺物



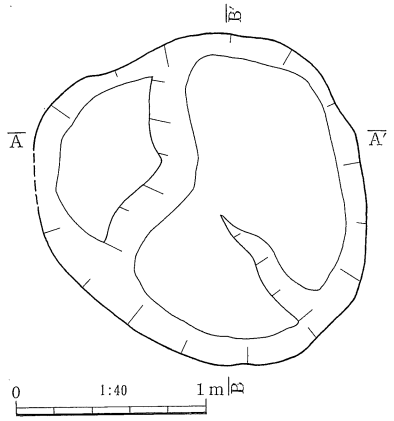




図 120　土坑 15

が出土している。　（中森）

**池状遺構**　（図 117 ～ 119・122、図版 73-1・76 ～ 78）

調査地南東隅に位置する。堆積は暗灰色系の粘質土が互層状にあり、④・⑥・⑦層から遺物が出土した。とくに⑥層は良好であり、この上面から掘り込まれた土坑 15 からも完形の土師器杯・甕など良好な一括資料があった。また上層の③層からは瓦質の擂鉢片が出土しており、鎌倉時代以降の堆積と考えられる。最下層（⑧層）は砂礫層であり、角礫凝灰岩の巨大なものが混じっていた。遺物はなく、この上面を最終面と判断した。

⑦層からは土師器杯、甕などとともに円筒埴輪片（595 ～ 597、図版 87-1）が出土した。おそらく、分布調査によって確認されている、南側尾根部の古墳群から転落してきたものであろう。

この上に堆積する⑥層からは赤色塗彩された皿・高台付杯（598 ～ 601）、杯（602 ～ 612）、内黒杯（614・615）、甕（616 ～ 620）の土師器のほか、須恵器杯や高台杯皿、甕（621 ～ 627）が出土している（図版 76・77）。626 は底部外面に交差するハケメ状の痕跡をもつ。土師器杯は口径 13cm 前後、器高 3 cm 前後のものが多い。また須恵器の

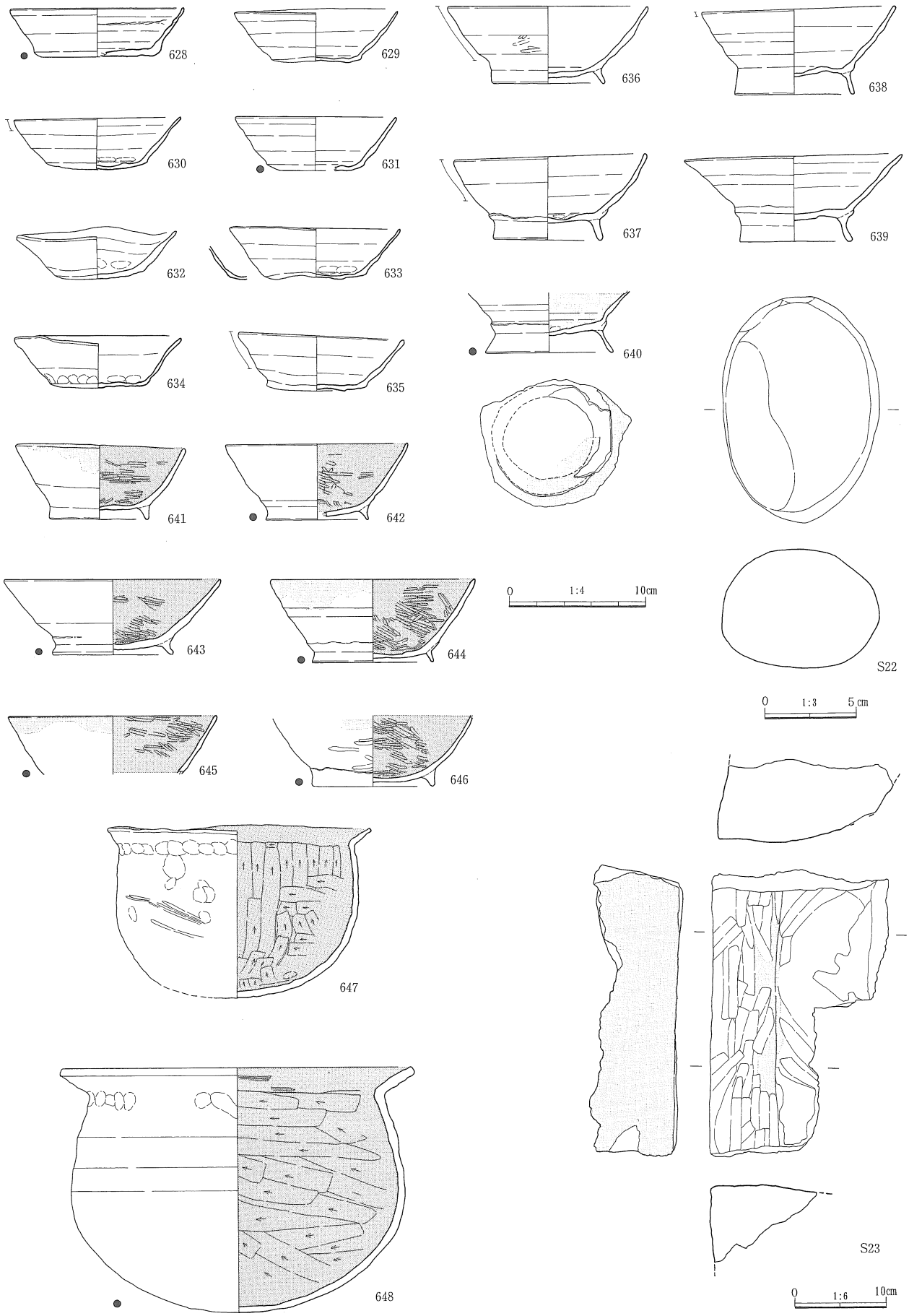



図 121　土坑 15 出土遺物

量も多くかつヴァリエーションもあり、先の土器溜とは様相が異なる。

後述する土坑 15 を覆う④層から、わずかに遺物が出土した（図 122）。649 は高台の位置が土器の中央に付かない、異形のものであろうか。

出土した土師器は一様に器表面が白色を呈していた。しかし断面は橙褐色であり、おそらく水分を多く含む土質であるためその影響を受け変色した可能性が考えられる。（中森）

**土坑 15**　（図 120・121、図版 73-2・74・75）

池状遺構⑥層を掘り込んでつくられる径約 1.8 mの円形土坑である。底面は２段に掘られ、北側が浅く、南側が深い。

南側で深さ約 0.3 mを測る。拳から人頭大以上の礫に混じって、完形の土師器杯や甕が出土した。遺物は南側下

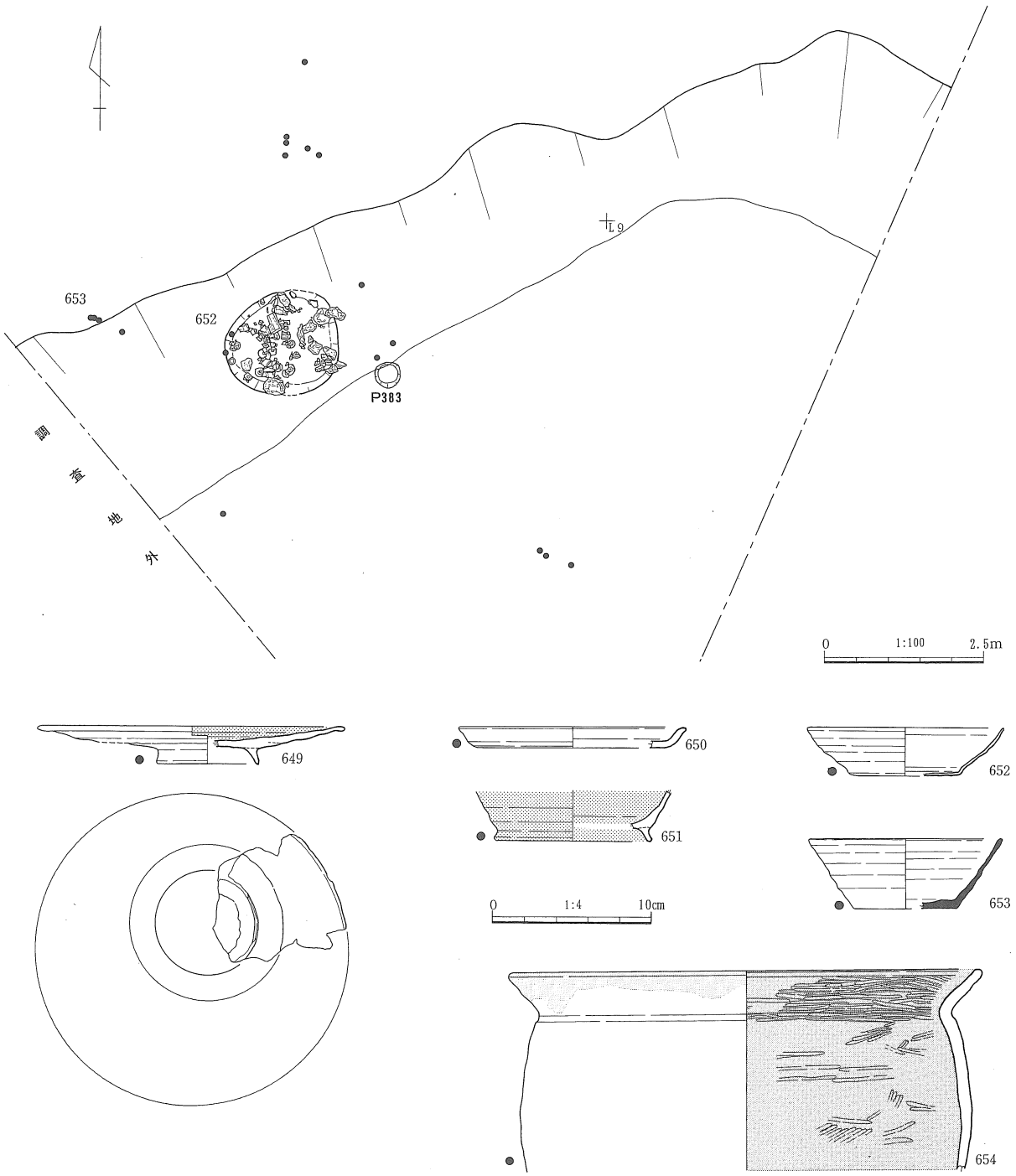



図 122　池状遺構④層出土遺物

段に集中する。礫の中には明らかに面取りしたもの（Ｓ 23）も含まれるが、その用途は不明である。

土器は杯が主体をなし、甕は少ない。628 ～ 635 は杯、636 ～ 640 は高台付杯である。高台は高いものが目立つ。641 ～ 646 は内黒高台付杯。やや深い椀状のものと口径の大きいものがみられる。甕は体部に丸みをもつものと直立的なものに分かれる。（中森）

（註）

1．木立雅朗　1997「土師器焼成坑の定義と型式分類」窯跡研究会編『古代の土師器生産と焼成遺構』真陽社

表 13　平安時代ピット一覧

| No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 | No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | F5 | 39 | 32 | 17 | Ⅱ | | 105 | C3 | 75 | 55 | 32 | Ⅱa | |
| 2 | F5 | 43 | 38 | 21 | Ⅱ | | 136 | D3 | 36 | 32 | 14 | Ⅱa | |
| 3 | F5 | 57 | 44 | 27 | Ⅱ | 黒色土ブロックを含む | 141 | F4 | 45 | 42 | 12 | Ⅱa | 暗褐色土含む |
| 4 | G4 | 27 | 22 | 21 | Ⅱ | 黄色土粒混 | 142 | F4 | 49 | 45 | 16 | Ⅱa | YT24ベルト |
| 5 | F5 | 28 | 20 | 12 | Ⅱ | 暗黄色土含む | 193 | F4 | 36 | － | 28 | Ⅱa | |
| 6 | G6 | 50 | 34 | 13 | Ⅱ | | 194 | F4 | 20 | － | 21 | Ⅱa | 土器 |
| 7 | G6 | 25 | 22 | 6 | Ⅱ | | 195 | F3 | 27 | 25 | 20 | Ⅱa | |
| 8 | G6 | 33 | 28 | 22 | Ⅱ | | 196 | F4 | 28 | 24 | 34 | Ⅱa | Ⅱaに、炭、焼土混 |
| 9 | G6 | 27 | 15 | 8 | Ⅱ | | 197 | G4 | 42 | － | 40 | Ⅱa | |
| 29 | F5 | 35 | 29 | 18 | Ⅱ | | 198 | F3 | 41 | 32 | 9 | Ⅱa | |
| 30 | F5 | 23 | 21 | 23 | Ⅱ | | 199 | F3 | 33 | 22 | 16 | Ⅱa | |
| 31 | F5 | 33 | 32 | 26 | Ⅱ | | 200 | F3 | 30 | － | 13 | Ⅱa | |
| 32 | f5 | 35 | 19 | 13 | Ⅱ | | 202 | F4 | 20 | 20 | 8 | Ⅱa | |
| 33 | F5 | 30 | 26 | 13 | Ⅱ | | 245 | F4 | 34 | 30 | 18 | Ⅱa | |
| 34 | F5 | 34 | 32 | 9 | Ⅱ | | 334 | J6 | 41 | 40 | 17 | ⅩⅥ | |
| 35 | F6 | 31 | 28 | 8 | Ⅱ | | 335 | J7 | 41 | 40 | 16 | ⅩⅥ | |
| 36 | F6 | 30 | 22 | 10 | Ⅱ | 土器 | 336 | J7 | 37 | 35 | 23 | ⅩⅥ | |
| 37 | F5 | 40 | 31 | 5 | Ⅱ | | 337 | J7 | 36 | 30 | 14 | ⅩⅥ | |
| 38 | F5 | 31 | 30 | 31 | Ⅱ | | 338 | J7 | 30 | 26 | 18 | ⅩⅥ | 土器359 |
| 39 | F5 | 33 | 29 | 12 | Ⅱ | | 339 | J7 | 35 | 28 | 27 | ⅩⅥ | |
| 40 | F5 | 37 | 35 | 10 | Ⅱ | | 340 | J6 | 43 | 38 | 24 | ⅩⅥ | |
| 41 | F5 | 49 | 36 | 18 | Ⅱ | | 341 | J7 | 26 | 26 | 31 | ⅩⅥ | |
| 42 | F4 | 22 | 20 | 12 | Ⅱ | | 342 | J7 | 54 | 51 | 46 | ⅩⅥ | |
| 43 | E5 | 41 | 28 | 12 | Ⅱ | | 343 | J6 | 45 | 30 | 12 | ⅩⅥ | |
| 44 | F5 | 39 | 36 | 11 | Ⅱ | | 344 | J6 | 30 | 28 | 21 | ⅩⅥ | |
| 45 | F5 | 26 | 24 | 11 | Ⅱ | | 345 | J6 | 28 | 24 | 11 | ⅩⅥ | |
| 46 | E5 | 41 | 39 | 36 | Ⅱ | | 346 | J6 | 21 | 21 | 29 | ⅩⅥ | |
| 47 | F5 | 24 | 20 | 8 | Ⅱ | | 347 | J7 | 38 | 35 | 30 | ⅩⅥ | |
| 48 | F5 | 29 | 24 | 12 | Ⅱ | | 348 | J6 | 21 | 20 | 24 | ⅩⅥ | |
| 49 | F5 | 30 | 17 | 12 | Ⅱ | | 349 | J6 | 33 | 30 | 9 | ⅩⅥ | |
| 50 | G4 | 20 | 15 | 10 | Ⅱa | | 350 | J6 | 59 | 47 | 45 | ⅩⅥ | |
| 51 | G4 | 50 | 50 | 21 | Ⅱa | | 351 | J6 | 37 | 25 | 18 | ⅩⅥ | 土器 |
| 58 | G5 | 45 | 45 | 14 | Ⅱ | | 352 | J7 | 35 | 32 | 40 | ⅩⅥ | |
| 59 | G5 | 22 | 26 | 9 | Ⅱ | | 353 | J6 | 61 | 42 | 37 | ⅩⅥ | |
| 60 | G5 | 25 | 22 | 7 | Ⅱ | | 354 | J7 | 27 | 23 | 13 | ⅩⅥ | |
| 61 | G5 | 32 | 31 | 7 | Ⅱ | | 355 | J6 | 38 | 35 | 26 | ⅩⅥ | |
| 62 | F5 | 35 | 32 | 12 | Ⅱ | 暗褐色土含む | 356 | J6 | 31 | 25 | 17 | ⅩⅥ | |
| 63 | F5 | 35 | 35 | 14 | Ⅱ | | 357 | J6 | 40 | 34 | 13 | ⅩⅥ | |
| 64 | F5 | 25 | 25 | 8 | Ⅱ | | 358 | J6 | 35 | － | 30 | ⅩⅥ | |
| 65 | F5 | 31 | 27 | 20 | Ⅱ | | 359 | J6 | 26 | 22 | 8 | ⅩⅥ | |
| 66 | F5 | 27 | 25 | 21 | Ⅱ | | 360 | J6 | 28 | 18 | 14 | ⅩⅥ | |
| 67 | F5 | 45 | 36 | 22 | Ⅱ | | 361 | J7 | 63 | 33 | 15 | ⅩⅥ | |
| 68 | F5 | 20 | 18 | 11 | Ⅱ | | 362 | J7 | 80 | 48 | 36 | ⅩⅥ | |
| 69 | F5 | 30 | 21 | 20 | Ⅱ | | 363 | J6 | 21 | 20 | 12 | ⅩⅥ | |
| 71 | F4 | 31 | 28 | 22 | Ⅱ | | 364 | J6 | 34 | 33 | 10 | ⅩⅥ | |
| 74 | F5 | 41 | 27 | 5 | Ⅱ | | 365 | J6 | 43 | 42 | 23 | ⅩⅥ | |
| 75 | F6 | 33 | 20 | 10 | Ⅱ | | 366 | J7 | 29 | 26 | 25 | ⅩⅥ | |
| 76 | F6 | 41 | 40 | 22 | Ⅱ | | 367 | J6 | 36 | 36 | 17 | ⅩⅥ | |
| 77 | F6 | 37 | 33 | 20 | Ⅱ | | 368 | J6 | 23 | 23 | 16 | ⅩⅥ | |
| 83 | C3 | 75 | 60 | 32 | Ⅱa | | 369 | K7 | 39 | 33 | 32 | ⅩⅥ | |
| 84 | C3 | 73 | 56 | 33 | Ⅱa | | 370 | K8 | 35 | 32 | 17 | ⅩⅥ | |
| 86 | C3 | 75 | 30 | 18 | Ⅱa | | 371 | K7 | 28 | 25 | 22 | ⅩⅥ | |
| 88 | C3 | 65 | 35 | 10 | Ⅱa | | 372 | K7 | 80 | 48 | 5 | ⅩⅥ | |
| 89 | C3 | 70 | 40 | 15 | Ⅱa | | 373 | K7 | 31 | 25 | 6 | ⅩⅥ | |
| 90 | C3 | 43 | 42 | 56 | Ⅱa | | 374 | K7 | 31 | － | 21 | ⅩⅥ | |
| 91 | C3 | 32 | 22 | 12 | Ⅱa | | 375 | K7 | 22 | 12 | 13 | ⅩⅥ | |
| 92 | D3 | 60 | 55 | 12 | Ⅱa | | 376 | K7 | 23 | － | 24 | ⅩⅥ | |
| 94 | C3 | 30 | 28 | 14 | Ⅱa | | 377 | E4 | 38 | － | 12 | 黄褐色土 | |
| 95 | C3 | 47 | 27 | 31 | Ⅱa | | 378 | D6 | 41 | 30 | 17 | 灰褐色土 | |
| 96 | C2 | 33 | 33 | 69 | Ⅱa | | 379 | D6 | 45 | 35 | 22 | 灰褐色土 | |
| 97 | C2 | 65 | 53 | 23 | Ⅱa | | 380 | D6 | 37 | 28 | 22 | 灰褐色土 | |
| 98 | C2 | 43 | 33 | 65 | Ⅱa | | 381 | D6 | 45 | 40 | 18 | 灰褐色土 | |
| 99 | C3 | 72 | 52 | 23 | Ⅱa | | 382 | D6 | 31 | － | 12 | 灰褐色土 | |
| 104 | C3 | 39 | 32 | 10 | Ⅱa | | 383 | K8 | 43 | 40 | 15 | 暗灰色粘土 | |

表 14　第７章土器観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 314 | 97 | テラス18 | 土師器 | 杯 | *12.5 | 3.6 | 体部回転ナデ。内面は丁寧なナデ。底部ヘラ切り後押圧。立ち上がり部は凸状にはりだし。体部はカギ状に屈曲する。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 315 | 97 | テラス18 | 土師器 | 杯 | *12.8 | △2.9 | 体部回転ナデ。口縁部は器壁が薄くなる。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 316 | 97 | テラス18 | 土師器 | 杯 | — | △2.3 | 体部回転ナデ。外面はとくに丁寧なナデ。あるいは部分的にミガキか。底部回転ヘラケズリ後ナデ。底部が凸状に出るもの。底部から立ちあがった部分は強いナデにより器壁薄い。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 317 | 97 | テラス18 | 土師器 | 高台付杯 | — | △3.7 | 体部回転ナデ。底面ナデ。内面に指頭圧痕みられる。高台接合雑で、段状になる。底部裏面に黒斑。高台は薄く、ハ状に | 密良 | 橙褐色 | |
| 318 | 97 | テラス18 | 内黒 | 高台付杯 | — | △5.1 | 体部回転ナデ後、ヘラミガキ。高台接合部は凸状に盛り上がる。内面黒色処理後非常に丁寧なミガキ。底部裏面も黒色 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 319 | 97 | テラス18 | 内黒 | 高台付皿 | *13.2 | 3.1 | 底部から直線的に外反。体部回転ナデ。内面は黒色処理が不十分で、黒斑状になっている。密なミガキ。磨滅により部分的に不明瞭。高台端部は強いナデにより玉縁状を呈す。 | やや粗良 | 外面：淡橙褐色 | |
| 320 | 97 | テラス18 | 内黒 | 高台付杯 | *14.8 | 6.1 | 体部回転ナデ。内面黒色処理後丁寧なミガキ。口縁外面にも黒色部まわる。底部裏面にも黒斑。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 321 | 97 | テラス18 | 土師器 | 甕 | *17.6 | △5.8 | 口縁内面ヨコナデ後ミガキ。体部にも部分的にミガキ。口縁端部面取り。外面口縁部ヨコナデ。体部は部分的にナデ。全体に黒色化。 | 粗やや軟 | 内面：黄褐色 | |
| 322 | 97 | テラス18 | 内黒 | 甕 | *20.7 | △11.7 | 内面黒色処理後ナデ、ミガキ。部分的に黒色化しないところあり。外面頸部から上ナデ。体部タテナデ。一部ミガキ。外面口縁に黒斑。体部には部分的にスス付着。 | やや粗やや軟 | 外面：淡褐色 | |
| 322a | 97 | テラス18 | 弥生土器 | 甕 | *16.0 | △3.8 | 口縁ナデ。内面頸部ミガキ、以下ケズリ。外面ナデ。ススが付着。 | やや粗やや軟 | 褐色 | |
| 323 | 99 | テラス19 | 土師器 | 皿 | 13.7 | 1.7 | 口縁ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内外赤色塗彩。底部外面一部に黒斑。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 324 | 99 | テラス19 | 土師器 | 皿 | *17.6 | 1.4 | 口縁ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内外赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 325 | 99 | テラス19 | 土師器 | 皿 | *19.4 | 2.1 | 口縁ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内外赤色塗彩。 | 密やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 326 | 99 | テラス19 | 土師器 | 高台付皿 | — | △2.5 | 体部ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内外赤色塗彩。底部外面に黒斑。 | 密やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 327 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | *10.8 | 3.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り。全体に器壁薄い。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 328 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | *12.0 | △2.4 | 体部回転ナデ。内外面赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 329 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | *13.4 | △3.1 | 体部回転ナデ。外面赤色塗彩か。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 330 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | *13.6 | 4.0 | 体部回転ナデ。 | やや粗やや軟 | 褐色 | |
| 331 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | *13.4 | △3.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 332 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | *12.7 | 2.9 | 体部回転ナデ。口縁部は強いナデで、器壁非常に薄い。底部ヘラ切り後押圧。外面に黒斑。 | 密良 | 淡褐色 | |
| 333 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | *13.8 | 3.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 334 | 99 | テラス19 | 土師器 | 杯 | — | △3.5 | 体部回転ナデ。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 335 | 99 | テラス19 | 土師器 | 高台付杯 | — | △2.2 | 非常にいびつな高台で、平面形はやや楕円を呈す。底部ヘラ切り後押圧。高台内側は杯部との接合あまく、接合痕明瞭 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 336 | 99 | テラス19 | 土師器 | 高台付杯 | — | △2.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内外面に黒斑。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 337 | 99 | テラス19 | 土師器 | 高台付杯 | *14.6 | 4.8 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。底部とくに器壁薄い。外面黒斑。 | 密良 | 黄褐色 | 胎土分析資料No.39 |
| 338 | 99 | テラス19 | 土師器 | 高台付杯 | *13.8 | 5.8 | 体部回転ナデ後、内面非常に丁寧なミガキ。外面も高台貼付け部分にミガキがみられる。底部ヘラ切り後ナデ。やや丸底を呈し、器形は黒色土器に類似。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 339 | 99 | テラス19 | 土師器 | 高台付杯 | *12.4 | 4.6 | 体部回転ナデ後、内外面ともミガキ。口縁端部内側に一部黒斑あり。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 340 | 99 | テラス19 | 土師器 | 高台付杯 | — | △3.5 | 体部回転ナデ後、内面丁寧なミガキ。外面にも体部中位にミガキみられる。底部丸底を呈し、黒色土器に器形は共通す | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 341 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *12.8 | △3.7 | 口縁ナデ。頸部以下内面ケズリ、外面ナデ。頸部内面に明瞭な稜線はない。外面に多量のスス付着。 | 粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 342 | 99 | テラス19 | 内黒 | 甕 | *14.6 | △5.0 | 内面黒色処理後ミガキ。外面ナデ。一部黒色化。頸部に細い沈線状のもの巡り、以下指頭圧痕後粗いナデ。 | 粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 343 | 99 | テラス19 | 内黒 | 甕 | *29.0 | △15.7 | 内面黒色処理後ミガキ。外面粗いナデ。一部黒色化。 | 粗やや軟 | 淡黄褐色 | 胎土分析資料No.42 |
| 344 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *33.2 | △12.7 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ、外面タテハケ。外面に黒斑、スス付着。 | 粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 345 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *32.2 | △3.7 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ、外面タテハケ。 | 粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 346 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *35.2 | △6.5 | 口縁ナデ。内面頸部はハケ後ナデか。以下ケズリ、外面ハケ。外面一部にスス付着。 | 粗やや軟 | 赤褐色 | 胎土分析資料No.41 |
| 347 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *25.0 | △11.4 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ、外面ナデか。外面頸部にスス付着。 | 粗やや軟 | 淡褐色 | 胎土分析資料No.40 |
| 348 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *34.0 | △5.0 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ、外面タテハケ。内面にスス付着。 | 粗やや軟 | 淡灰褐色 | |
| 349 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *33.8 | △7.6 | 全体にかなり磨滅。体部内面はケズリ後ナデ、外面はナデ。 | 粗やや軟 | 淡黄褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 350 | 99 | テラス19 | 土師器 | 甕 | *35.0 | △10.0 | 口縁ナデ。内面頸部以下ケズリ、外面タテハケ。 | 粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 351 | 99 | テラス19 | 須恵器 | 甕 | *16.2 | △3.5 | 口縁部ナデ。体部外面格子目タタキ、内面同心円？タタキ。 | 密良 | 暗青灰色 | |
| 352 | 99 | テラス19 | 弥生土器 | 無頸壺 | *15.4 | △5.0 | 口縁部に7、8ヶ所穿孔か。外面ハケメ後ナデ。内面口縁ナデ、穿孔部以下ケズリ後ナデか。外面に黒斑あり。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 353 | 100 | 土坑12 | 内黒 | 高台付杯 | *16.0 | 6.9 | 体部回転ナデ。内面黒色処理後丁寧なミガキ。口縁外面にも黒色部まわる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 354 | 100 | 土坑13 | 内黒 | 杯 | *13.0 | △3.6 | 体部回転ナデ。内面黒色処理後丁寧なミガキ。口縁外面にも黒色部まわる。 | やや粗やや軟 | 外面：淡橙褐色 | |
| 355 | 100 | 土坑13 | 土師器 | 杯 | — | △1.7 | 体部回転ナデ。全体に磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 356 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 高台付杯 | *13.8 | 5.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗良 | 橙褐色 | |
| 357 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 高台付杯 | *15.3 | 5.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 358 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 高台付杯 | *14.8 | △5.0 | 体部回転ナデ。ナデは内面の方が外面より丁寧。底部ヘラ切り後押圧。底部裏面に植物質圧痕。 | やや粗良 | 橙褐色 | |
| 359 | 101 | 土坑14 | 内黒 | 高台付杯 | *15.0 | 6.5 | 体部回転ナデ。内面黒色処理後ミガキか。全体に磨滅しており調整不明瞭。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 360 | 101 | 土坑14 | 内黒 | 高台付杯 | — | △2.5 | 体部回転ナデ。内面黒色処理後丁寧なミガキ。底部裏面赤色塗彩。 | 密良 | 外面：淡橙褐色 | 胎土分析資料No.37 |
| 361 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 高台付杯 | — | △2.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗良 | 橙褐色 | |
| 362 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 杯 | *12.0 | △3.7 | 全体に磨滅。体部回転ナデ。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 363 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 杯 | *13.1 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 | やや粗良 | 橙褐色 | |
| 364 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 杯 | — | △2.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 365 | 101 | 土坑14 | 土師器 | 杯 | — | △2.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.36 |
| 389 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.2 | 3.5 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 390 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.6 | 3.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 | 密良 | 橙褐色 | 試掘資料 |
| 391 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.1 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデか。 | 密良 | 暗褐色 | |
| 392 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | 11.8 | 3.8 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | 試掘資料 |
| 393 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.6 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 394 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *13.4 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体にやや磨滅。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 395 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | 12.1 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。口縁いびつ。縦にヒビが入る。外面黒斑。 | 密良 | 淡褐色 | |
| 396 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.2 | 3.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。調整雑。底部外面に黒斑。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 397 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.8 | — | 体部回転ナデ。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 398 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。外面一部に黒斑。赤色塗彩があるか。全体に磨滅。 | 密やや軟 | 黄褐色 | |
| 399 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.0 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。調整雑で底部内外面に調整痕。内外面一部に黒斑。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 400 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.9 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。底部器壁薄い。外面一部に黒斑。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 401 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.3 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体にやや磨滅。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 402 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.5 | 4.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。 | 密良 | 淡褐色 | 試掘資料 |
| 403 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.3 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 404 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.2 | 3.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。粘土紐単位が残る。内面および外面底面を中心に黒斑。 | やや粗良 | 暗褐色 | |
| 405 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.5 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。外面に黒斑。 | 密良 | 淡褐色 | |
| 406 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.2 | 3.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 407 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.5 | 3.8 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 408 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.7 | 3.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 409 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | 11.8 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | 試掘資料 |
| 410 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.2 | 3.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体にやや磨滅。 | 密やや軟 | 橙褐色 | |
| 411 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.8 | 3.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 412 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.6 | 3.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。底部内面および口縁外面に黒斑。全体に磨滅気味。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料No.14 |
| 413 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.9 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 414 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.2 | 3.7 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体にやや磨滅。 | 密やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 415 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.6 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。外面一部に黒斑か。 | 密良 | 暗橙褐色 | |
| 416 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 3.7 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。底面比較的平滑。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 417 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | 11.7 | 4.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。底部丸底状を呈す。内外に一部黒斑。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 418 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *12.0 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。底面調整雑。内外面一部に黒斑か。 | 密良 | 暗橙褐色 | |
| 419 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.6 | 4.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ、押圧。接合痕残る。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 420 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。口縁部いびつで、一部刻み状の窪みがある。 | 密良 | 淡褐色 | 試掘資料 |
| 421 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.9 | 3.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 422 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *10.8 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内外黒斑。 | 密良 | 淡褐色 | |
| 423 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *11.6 | 4.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。接合痕が残り、調整雑。全体にやや磨滅。 | やや粗良 | 淡褐色 | |
| 424 | 104 | 土器溜 | 土師器 | 杯 | *15.3 | 5.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。大型のもの。 | 密良 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.15 |
| 425 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.2 | 4.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 426 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.4 | 4.8 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。高台一部つぶれ。外面磨滅。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 427 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.5 | 5.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 428 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.2 | 5.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体に磨滅。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 429 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *15.8 | 5.5 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。高台いびつに変形。 | 密良 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.24 |
| 430 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *15.0 | 5.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | 試掘資料 |
| 431 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *15.0 | 6.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内外面に薄墨のように黒斑。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 432 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.4 | 5.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内外面とも黒色化。スス状に黒光りする部分もある。全体にやや磨滅。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 433 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *16.0 | 4.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧か。底部丸底。高台形状いびつ。部分的につぶれる。杯部の器高は浅い。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 434 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.2 | 5.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧か。底部やや丸底。高台形状いびつ。端部丸みをもつ部分と尖る部分あり。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 435 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.2 | 6.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧か。底部丸底。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 436 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.7 | 6.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧か。底部丸底。高台形状いびつ。部分的につぶれる。 | 密良 | 淡褐色 | |
| 437 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *10.2 | 3.8 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧か。内面底部ミガキか。器表面つるつるしている。底部丸底。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 438 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | — | △2.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。底部丸底。全体に磨滅。二次焼成を受けたものか。器表面にクレーター状の割れが目立つ。 | 密やや軟 | 淡褐色 | |
| 439 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *15.2 | 6.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧か。内面ミガキ。底部丸底。 | 密良 | 橙褐色 | 試掘資料 |
| 440 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | — | △3.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内面体部および外面高台接着面粗いミガキ。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 441 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | — | △5.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧か。底部丸底。内面は黒色化か。後ミガキ。器壁非常に薄い。 | 密良 | 淡褐色 | |
| 442 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *13.4 | 5.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内面黒斑。 | 密良 | 橙褐色 | 試掘資料 |
| 443 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.9 | 6.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。高台ややいびつ。やや磨滅。部分的にミガキがあるか。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 444 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *14.6 | 6.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。高台ややいびつ。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 445 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | — | △5.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。高台は高くいびつ。端部丸みをもつ。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 446 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | *15.4 | 5.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。底部外面に黒斑。 | 密良 | 淡橙褐色 | 試掘資料 |
| 447 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | 14.5 | 6.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。高台ややいびつ。 | 密良 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.23 |
| 448 | 105 | 土器溜 | 土師器 | 高台付杯 | — | △10.7 | 体部回転ナデ。鼓形器台のような大きさ。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 449 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付皿 | *12.8 | 2.6 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。口縁外面に黒色処理がまわる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 450 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付皿 | *13.6 | 2.3 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。口縁外面に黒色処理がまわる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 試掘資料 |
| 451 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付皿 | *12.9 | 2.9 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。口縁外面に黒色処理がまわる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 452 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | — | △3.1 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部は丸底で、底面は高台端部とほぼ同レベルになる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 453 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | — | △3.4 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後丁寧なナデ。底部裏薄い黒色。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 胎土分析資料No.27 |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 454 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | *16.4 | 5.4 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。口縁外面に黒色処理がまわる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 胎土分析資料No.29 |
| 455 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | *15.6 | △4.2 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。口縁外面に黒色処理がまわる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 456 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | *14.0 | 5.8 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後丁寧なナデ。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 試掘資料 |
| 457 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | *14.7 | *5.4 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。外面底部および口縁外面に黒斑。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 胎土分析資料No.28 |
| 458 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | *14.6 | 5.5 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。口縁外面に黒色処理がまわる。全体に磨滅。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 459 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | — | △4.5 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後丁寧なナデ。外面黒斑。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 試掘資料 |
| 460 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | — | △3.3 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後丁寧なナデ。高台高い。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 試掘資料 |
| 461 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 高台付杯 | *18.8 | 7.4 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。外面底部および口縁外面に黒斑。大型のもので、つくりは雑。底部外面に黒斑。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 462 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 鉢 | *23.6 | △8.5 | 外面ケズリ後ナデ。口縁下にはタテ方向にハケメ残る。内面丁寧なミガキ。黒色処理は口縁外面にもまわる。 | 密良 | 外面：淡橙褐色 | |
| 463 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 甕 | *18.0 | △8.6 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ後粗いミガキ。外面頸部ユビオサエ、以下粗いナデ。口縁外面に黒色処理まわる。 | 粗やや軟 | 外面：黄褐色 | |
| 464 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 甕 | *28.8 | △9.3 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ。外面頸部ユビオサエ、以下調整雑。口縁外面に黒色処理まわる。 | 粗やや軟 | 外面：灰褐色 | 胎土分析資料No.32 |
| 465 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 甕 | *27.0 | △8.6 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ後粗いミガキ。外面粗いナデ。外面にスス付着。 | 粗やや軟 | 外面：褐色 | |
| 466 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 甕 | *28.5 | △11.8 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ後上半部粗いミガキ。外面頸部ユビオサエ、以下粗いナデ。口縁外面に黒色処理まわ | 粗やや軟 | 外面：黄褐色 | 胎土分析資料No.35 |
| 467 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 甕 | *25.0 | △8.4 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ。外面頸部ユビオサエ、以下調整雑。口縁外面に黒色処理まわる。外面スス付着。 | 粗やや軟 | 外面：灰褐色 | |
| 468 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 甕 | *27.6 | △9.5 | 口縁内面一部ミガキ、頸部以下ケズリ。外面頸部ユビオサエ、一部にハケメ。口縁外面に黒色処理まわる。 | 粗やや軟 | 外面：灰褐色 | |
| 469 | 106 | 土器溜 | 内黒 | 甕 | *30.4 | △11.9 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ後丁寧なミガキ。外面粗いナデ。外面にスス付着。 | 粗やや軟 | 外面：暗黄褐色 | |
| 470 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *19.6 | △6.7 | 口縁内面ナデ、頸部以下ケズリ。外面口縁ナデ、頸部ユビオサエ、以下粗くナデ。外面スス付着。 | 粗やや軟 | 灰褐色 | 胎土分析資料No.34 |
| 471 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *22.6 | △12.1 | 全体磨滅。内面頸部以下ケズリ。 | 粗やや軟 | 暗褐色 | 胎土分析資料No.31 |
| 472 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | 26.1 | △14.0 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ。外面口縁ナデ、頸部ユビオサエ、以下粗くナデ。外面頸部黒斑。 | 粗やや軟 | 褐色 | 試掘資料 |
| 473 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *29.0 | △13.6 | 口縁部ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面頸部ユビオサエ、以下粗くナデ。上位にハケメ残る。二次焼成により赤変。 | 粗やや軟 | 赤褐色 | 試掘資料 |
| 474 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | 36.0 | △16.9 | 口縁内面ミガキ、頸部以下ケズリ。外面口縁ナデ、頸部ユビオサエ、以下粗くナデ。上位にハケメ残る。外面スス付着。 | 粗やや軟 | 褐色 | |
| 475 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *43.2 | △16.9 | 口縁ヨコナデ。体部外面のみケズリ後粗くナデか。内面ナデ。口縁外面黒斑。 | 粗やや軟 | 褐色 | |
| 476 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *30.4 | △16.5 | 口縁内面ナデ、頸部以下ケズリ。外面口縁ナデ、頸部ユビオサエ、以下粗くナデ。外面スス付着。 | 粗やや軟 | 灰褐色 | 胎土分析資料No.33 |
| 477 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *29.8 | *18.4 | 口縁ヨコナデ。内面はミガキか。体部内面のケズリはある程度乾いた状態で施されたためか、段状を呈す。外面粗いナデ。外面にスス付着。 | 粗やや軟 | 淡灰褐色 | |
| 478 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *30.0 | △8.3 | 口縁内面ナデ、頸部以下ケズリ。一部に爪痕状のものあり。外面口縁ナデ、頸部以下粗くハケメ。 | 粗やや軟 | 淡褐色 | 試掘資料 |
| 479 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *30.4 | △4.4 | 口縁内面一部ミガキ、頸部以下ケズリ後、部分的にミガキか。外面頸部ユビオサエ、以下ナデ。外面にスス付着。 | 粗やや軟 | 灰褐色 | |
| 480 | 107 | 土器溜 | 土師器 | 甕 | *28.2 | △7.9 | 口縁内面ナデ、頸部以下ケズリ。外面口縁ナデ、頸部ユビオサエ、以下粗くナデか。頸部にタテハケ一部残る。外面二次焼成により赤変。 | 粗やや軟 | 灰褐色 | |
| 571 | 113 | 土器溜 | 須恵器 | 蓋 | — | △1.3 | 宝珠つまみ剥落。内面つるつる。転用硯か。 | 密良 | 青灰色 | |
| 572 | 113 | 土器溜 | 須恵器 | 蓋 | *18.6 | 3.1 | 回転ナデ。頂部はヘラ切り。全体につるつる。回転ナデの稜線消される。 | 密良 | 淡黄灰色 | |
| 573 | 113 | 土器溜 | 須恵器 | 杯 | *11.0 | 4.0 | 底部回転糸切り後ややナデか。 | 密良 | 青灰色 | |
| 574 | 113 | 土器溜 | 須恵器 | 杯 | *10.0 | 3.0 | 底部回転糸切り。 | 密良 | 暗青灰色 | |
| 575 | 113 | 土器溜 | 須恵器 | 甕 | *21.1 | △15.9 | 口縁内面はつるつるなナデ仕上げ。体部内面同心円、外面平行タタキ。 | 密良 | 灰色 | |
| 576 | 113 | 土器溜 | 須恵器 | 壺 | — | △17.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後中央部はナデて窪む。外面底部近くまで暗灰色釉がかかる。 | 密良 | 灰色 | |
| 577 | 116 | テラス21 | 土師器 | 高台付杯 | — | △3.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密やや軟 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.56 |
| 578 | 116 | テラス21 | 土師器 | 高台付杯 | — | △3.4 | 全体に磨滅。体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 579 | 116 | テラス21 | 須恵器 | 甕 | — | △4.7 | 内面車輪状タタキ、外面平行タタキ。 | 密良 | 淡灰色 | |
| 580 | 116 | テラス21 | 内黒 | 甕 | *29.4 | △11.3 | 全体に磨滅し調整不明。口縁部ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面粗いナデ。外面にスス付着。黒色処理が口縁外面にお | やや粗やや軟 | 外面：淡橙褐色 | |
| 581 | 116 | 溝12 | 土師器 | 甕 | *34.0 | △3.5 | 全体に磨滅し調整は不明瞭。外面はヨコナデ。 | 粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 582 | 116 | 溝12 | 土師器 | 甕 | *18.2 | △14.1 | 口縁部ナデ。内面体部ケズリ。外面は赤褐色を呈し、二次焼成を受けたものか。 | 粗やや軟 | 赤褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 583 | 116 | 溝12 | 須恵器 | 高台付皿 | *17.6 | △3.3 | 全体的に磨滅しており調整不明。 | 密良 | 灰色 | 胎土分析資料No.57 |
| 584 | 116 | 溝12 | 須恵器 | 杯 | *12.0 | 3.5 | 底部回転糸切り。体部外面はつるつる。 | 密良 | 灰色 | |
| 585 | 116 | 溝12 | 須恵器 | 杯 | *12.2 | 3.8 | 底部回転糸切り。 | 密良 | 灰褐色 | |
| 586 | 116 | 溝12 | 須恵器 | 杯 | — | △3.4 | 底部回転糸切り後ナデ消し。体部外面は表面滑らか。 | 密良 | 灰色 | |
| 587 | 116 | 溝12 | 土師器 | 高台付皿 | — | △1.3 | 全体に磨滅。調整不明。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 588 | 116 | 溝12 | 土師器 | 高台付杯 | — | △2.1 | 全体に磨滅。調整不明。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 589 | 116 | 溝11 | 須恵器 | 杯 | *12.8 | 4.7 | 体部回転ナデ。底部は窪み、回転糸切りであったと考えられる。全体的に磨滅。 | 密良 | 灰白色 | |
| 590 | 118 | 池状遺構⑦層 | 土師器 | 杯 | *11.6 | 3.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密やや軟 | 橙褐色 | |
| 591 | 118 | 池状遺構⑦層 | 土師器 | 杯 | *12.8 | 3.2 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。 | 密やや軟 | 淡褐色 | |
| 592 | 118 | 池状遺構⑦層 | 土師器 | 甕 | *31.2 | △5.7 | 内面口縁ヨコナデ、頸部以下ケズリ。外面口縁までタテハケが達する。ハケメは粗い。口縁はその後ナデ。外面にスス。 | 粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 593 | 118 | 池状遺構⑦層 | 土師器 | 甕 | *18.5 | △7.2 | 全体に磨滅し調整不明。口縁部ナデ、内面頸部以下ケズリ。 | 粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 594 | 118 | 池状遺構⑦層 | 土師器 | 低脚杯 | — | △1.8 | 全体磨滅。内外ヨコナデ。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 595 | 118 | 池状遺構⑦層 | 須恵質 | 円筒埴輪 | — | △6.3 | 外面タテハケ、内面は斜方向ハケメ。円形透かし孔もつ。 | やや粗良 | 外面：橙褐色内面：褐色 | |
| 596 | 118 | 池状遺構⑥層 | 土師質 | 円筒埴輪 | — | △6.7 | 全体に磨滅。外面わずかにハケメ残る。 | 粗やや軟 | 灰褐色 | |
| 597 | 118 | 池状遺構⑥層 | 土師質 | 円筒埴輪 | — | △8.3 | 外面細かいタテハケ。内面は斜方向ナデ。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 598 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 皿 | *13.2 | 1.8 | 体部ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。全体に磨滅。内外赤色塗彩。底部外面に黒斑。 | 密やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 599 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 皿 | *14.8 | 1.8 | 体部ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。全体に磨滅。内外赤色塗彩。 | 密やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 600 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 皿 | *14.8 | 1.6 | 体部ナデ。底部ヘラ切り後ナデか。内外赤色塗彩。 | 密やや軟 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.5 |
| 601 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 高台付杯 | *15.4 | 3.8 | 体部ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデか。全体に磨滅し調整不明瞭。内外赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 602 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *12.2 | 2.7 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。全体に磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料No.6 |
| 603 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *12.8 | 3.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料No.3 |
| 604 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *12.8 | 3.5 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。底部器壁非常に厚い。口縁部はいびつで1/4ほどの残存ながら、波状を呈す | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 605 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *12.8 | 3.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。全体に磨滅。 | 密良 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.2 |
| 606 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *13.2 | 3.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。底部内面に赤色塗彩残る。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 607 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *13.2 | 3.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。内面底部境に赤色塗彩残るか。底部外面に黒斑。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 608 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | 11.2 | 3.7 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体にかなり磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 609 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *12.5 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 610 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *11.2 | 4.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗良 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.1 |
| 611 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *11.3 | 4.1 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体にかなり磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 612 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 杯 | *13.4 | 3.4 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体に磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 613 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 高台付杯 | — | △2.7 | 全体磨滅し調整不明。 | やや粗やや軟 | 灰白色 | 胎土分析資料No.13 |
| 614 | 119 | 池状遺構⑥層 | 内黒 | 高台付杯 | *13.4 | △3.7 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。口縁外面に黒色処理がまわる。全体に磨滅し調整不明瞭。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 615 | 119 | 池状遺構⑥層 | 内黒 | 高台付杯 | — | △2.9 | 内面ミガキ。底部ヘラ切り後ナデ。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 616 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 甕 | *21.4 | △11.4 | 口縁部ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面頸部ユビオサエ、以下粗いナデ。外面にスス付着。 | 粗やや軟 | 暗褐色 | |
| 617 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 甕 | *20.8 | △8.7 | 口縁部ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面ハケメ。 | 粗やや軟 | 暗灰色 | 胎土分析資料No.7 |
| 618 | 119 | 池状遺構⑥層 | 内黒 | 甕 | *18.0 | △5.1 | 全体磨滅し調整不明。頸部外面まで黒色処理およぶ。 | 粗やや軟 | 外面：淡褐色 | |
| 619 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 甕 | *33.6 | △10.0 | 口縁部ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面ハケメ。外面にスス付着。 | 粗やや軟 | 淡灰褐色 | 胎土分析資料No.8 |
| 620 | 119 | 池状遺構⑥層 | 土師器 | 甕 | *29.2 | △14.7 | 口縁部ナデ。内面頸部以下ケズリ。外面ハケメ後ナデか。 | 粗やや軟 | 淡灰褐色 | 胎土分析資料No.9 |
| 621 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 杯 | *11.8 | 3.8 | 底部回転糸切りか。全体に磨滅し調整不明瞭。 | やや粗やや軟 | 淡灰色 | |
| 622 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 杯 | *14.5 | △4.3 | 体部回転ナデ。 | 密良 | 淡灰色 | 胎土分析資料No.11 |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 623 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 杯 | *12.3 | 4.5 | 全体磨滅し調整不明瞭。底部器壁厚く、外面に8条一単位のハケメが放射状に施される。 | 密やや軟 | 淡灰色 | |
| 624 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 高台付皿 | *19.6 | 3.5 | 全体磨滅し調整不明。 | やや粗やや軟 | 淡灰色 | 胎土分析資料No.12 |
| 625 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 高台付皿 | *19.6 | 3.5 | 全体磨滅し調整不明。 | やや粗やや軟 | 淡灰色 | 胎土分析資料No.10 |
| 626 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 甕 | — | △5.3 | 外面格子目、内面車輪状タタキ。 | 密良 | 淡灰色 | |
| 627 | 119 | 池状遺構⑥層 | 須恵器 | 甕 | *20.8 | △5.0 | 口縁ヨコナデ。内面頸部ユビオサエ。 | 密良 | 淡灰色 | |
| 628 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | *12.7 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後ナデ。内外面ともナデの稜線は不明瞭。内面に接合痕あり。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.45 |
| 629 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | 11.9 | 4.0 | 体部回転ナデ。調整は磨滅により不明瞭。底部ヘラ切り後押圧。器壁非常に薄い。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 630 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | *12.1 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体に磨滅。ややいびつなつくり。口縁一部に黒斑。 | 密やや軟 | 橙褐色 | |
| 631 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | *11.7 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体に磨滅。 | 密やや軟 | 橙褐色 | |
| 632 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | 11.5 | 3.8 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体に磨滅。全体にいびつなつくりで口縁は波状を呈する。 | やや粗やや軟 | 黄褐色 | |
| 633 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | 12.4 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。全体に磨滅。器壁薄い。ややいびつなつくり。 | 密やや軟 | 橙褐色 | |
| 634 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | 12.1 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。体部境界は密なユビオサエ。つくりはしっかりしている。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 635 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 杯 | *12.0 | *4.3 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内外面ともナデの稜線は不明瞭。内面に付着物多量。ススか。口縁外面に黒斑。 | やや粗良 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.44 |
| 636 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 高台付杯 | *14.5 | 5.7 | 体部回転ナデ。磨滅して不明瞭ながらミガキがあるか。底部ヘラ切り後押圧、ナデ。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 637 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 高台付杯 | *14.0 | 5.9 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。内面に黒斑あるか。全体的に磨滅。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | 胎土分析資料No.46 |
| 638 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 高台付杯 | *14.1 | 6.5 | 体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。かなりいびつ。器壁薄い。全体的に磨滅。 | やや粗良 | 橙褐色 | |
| 639 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 高台付杯 | 15.9 | 8.4 | 体部回転ナデ。かなり丁寧。底部ヘラ切り後押圧、後ナデ。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 640 | 121 | 土坑15 | 土師器 | 高台付杯 | — | △4.4 | 体部回転ナデ。底部内外面に黒斑。高台剥離部分にも黒斑状のものあり。 | やや粗良 | 橙褐色 | |
| 641 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 高台付杯 | 12.2 | 5.6 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部は押圧痕残る。口縁外面に黒色処理がまわる。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 642 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 高台付杯 | *13.3 | 5.6 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後ナデ。口縁外面に黒色処理がまわる。全体に磨滅。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 643 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 高台付杯 | *15.6 | 5.6 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後ナデ。口縁外面に黒色処理がまわる。全体に磨滅。 | やや粗良 | 外面：橙褐色 | 胎土分析資料No.49 |
| 644 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 高台付杯 | *15.0 | 6.2 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後ナデ。口縁外面に黒色処理がまわる。全体に磨滅。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 胎土分析資料No.47 |
| 645 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 高台付杯 | *15.2 | △4.3 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後ナデ。口縁外面に黒色処理がまわる。全体に磨滅。 | 密良 | 外面：橙褐色 | 胎土分析資料No.48 |
| 646 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 高台付杯 | — | △5.3 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。底部ヘラ切り後ナデ。口縁外面に黒色処理がまわる。全体に磨滅。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 647 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 甕 | 19.0 | 12.8 | 口縁部ヨコナデ後、内面はミガキか。体部内面ケズリ。外面頸部ユビオサエ。体部は粗いナデ。 | 粗やや軟 | 外面：灰白色 | 胎土分析資料No.50 |
| 648 | 121 | 土坑15 | 内黒 | 甕 | *25.5 | 18.1 | 口縁部ヨコナデ後、内面ミガキ。体部内面ケズリ。外面頸部ユビオサエ。体部は粗いナデ。外面にスス。 | 粗やや軟 | 外面：灰白色 | 胎土分析資料No.51 |
| 649 | 122 | 池状遺構④・⑥層 | 土師器 | 高台付皿 | *19.0 | 2.4 | 全体に磨滅。体部回転ナデ。口縁に対し、高台の位置がずれている。内面赤色塗彩。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 650 | 122 | 池状遺構④層 | 土師器 | 皿 | *14.0 | 1.4 | 体部回転ナデ。内外面赤色塗彩であったか。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 651 | 122 | 池状遺構④層 | 土師器 | 高台付杯 | — | △3.2 | 体部回転ナデ。内外面とも赤色塗彩。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 652 | 122 | 池状遺構④層 | 土師器 | 杯 | *12.3 | 3.1 | 全体に磨滅甚だしい。器壁も非常に薄い。体部回転ナデ。底部ヘラ切り後押圧。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | 胎土分析資料No.52 |
| 653 | 122 | 池状遺構④層 | 須恵器 | 杯 | *12.2 | 4.5 | 底部回転糸切り。磨滅気味だが、硬質のもの。 | 密良 | 淡灰色 | |
| 654 | 122 | 池状遺構④層 | 内黒 | 甕 | *29.4 | △12.9 | 口縁部ヨコナデ。内面黒色処理後ミガキ。頸部以下ケズリ後一部ミガキ。体部外面粗いナデ。口縁外面に黒色化およぶ。 | 粗やや軟 | 淡褐色 | 胎土分析資料No.53 |

表 15　平安時代焼成粘土塊観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 特徴 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 368 | 102 | テラス18 | 上面は厚さ0.5cmほどの棒状塊を貼り付け、下面はシボリ状。黒斑あるいは焼成不良による暗青灰色。 | 3.2 | 2.5 | 1.5 | 10.2 | |
| 369 | 102 | テラス18 | 上面上側折り返しにより突出。下面は指頭圧により、大きく窪む。 | 3.7 | 2.4 | 1.0 | 7.1 | |
| 370 | 102 | テラス18 | 円柱状。下部は欠損か。上端部一部折り返し。 | 3.5 | 1.0 | 0.8 | 3.4 | |
| 371 | 102 | テラス18 | 棒状。下端部欠損。上端部はやや細くなる。 | 5.2 | 0.8 | 0.7 | 3.1 | |
| 372 | 102 | テラス19 | 横断面楕円を呈す棒状。やや湾曲する。 | 2.1 | 1.1 | 0.7 | 1.7 | |
| 373 | 102 | テラス19 | 右側から折り返し。上面は断面弧状。 | 2.5 | 2.0 | 0.9 | 3.5 | |
| 374 | 102 | テラス19 | 上面および下面左側端部黒斑。下側膨らんでおり、折り返しによるものか。上下面繊維 | 3.4 | 2.9 | 1.1 | 8.5 | |
| 375 | 102 | テラス18 | 下側は破面状。上面は繊維痕か。 | 2.7 | 3.0 | 1.3 | 8.4 | |
| 376 | 102 | テラス19 | ギターのピック状を呈す、薄い三角形。下面は指頭圧によりやや凹凸。 | 3.1 | 2.9 | 0.4 | 3.0 | |
| 377 | 102 | テラス19 | 上面および下面左側端部黒斑。厚さ5～6mmの薄板状を上側で折り返し。上下各端部は未調整。 | 4.4 | 3.2 | 1.3 | 16.8 | |
| 378 | 102 | テラス19 | 下半部左側半分をちぎり、右側へ折り曲げたよう。右側部は赤彩か。 | 2.6 | 2.1 | 1.1 | 4.3 | |
| 379 | 102 | 土坑14 | 上面上端折り返し。中央部は横方向に窪み。繊維状の痕跡。 | 2.5 | 1.7 | 0.8 | 2.0 | |
| 380 | 102 | 土坑14 | 棒状。下部が幅広い。 | 2.5 | 1.4 | 0.8 | 2.7 | |
| 381 | 102 | 土坑14 | 左側破面。0.5～0.8cmほどの薄板状を折り返す。 | 3.2 | △3.4 | 1.2 | 8.8 | |
| 382 | 102 | 土坑14 | 上面黒斑。左側部は破面か。右側は段状で襞状。 | 3.1 | 2.4 | 1.2 | 5.4 | |
| 383 | 102 | 土坑14 | 塊状。下面中央は窪む。 | 2.3 | 2.5 | 1.6 | 6.8 | |
| 384 | 102 | 土坑14 | 玉子状の塊。下面はやや平坦で凹凸がある。 | 3.3 | 2.1 | 1.4 | 9.0 | |
| 385 | 102 | 土坑14 | 左側は折り返し、半円状空洞ができる。右側下面は指頭圧痕状。大型。 | 4.0 | 2.4 | 1.2 | 5.4 | |
| 386 | 102 | 土坑14 | 内外面黒斑。下面は平坦で下部はシボリ状の痕跡。上面三角形に突出。 | 5.5 | 2.1 | 1.5 | 11.4 | |
| 387 | 102 | D5・Ⅰ層 | 土偶などの腕状。下端部は受け皿状に丸く窪む。上端部はひきちぎったままのよう。 | 4.1 | 1.3 | 0.9 | 4.4 | |
| 388 | 102 | C5・Ⅰ層 | 3片に割れる。下部は横方向に窪む。下面下半部は剥離か。 | 4.6 | 3.5 | 1.6 | 18.0 | |
| 481 | 108 | 土器溜 | 下面は擦痕か。 | 2.0 | 1.5 | 0.5 | 1.3 | |
| 482 | 108 | 土器溜 | 下半部は折り返す。上面は細い沈線状のものが数単位みられる。爪痕か。 | 2.1 | 1.9 | 0.8 | 2.0 | |
| 483 | 108 | 土器溜 | 上面右に径0.5cmほどの粘土片接着。上面は繊維痕か。内外黒斑。 | 2.1 | 1.9 | 0.7 | 2.0 | |
| 484 | 108 | 土器溜 | 上面右側折り返し。下面は凹凸。 | 2.2 | 1.8 | 0.6 | 4.4 | |
| 485 | 108 | 土器溜 | 上面右側折り返し。上下面とも中央部窪む。 | 4.0 | 1.7 | 0.7 | 4.9 | |
| 486 | 108 | 土器溜 | 薄板状。上下面繊維痕。 | 2.8 | 2.4 | 0.7 | 4.3 | |
| 487 | 108 | 土器溜 | 上面は上から左側面にかけていびつ。下面は黒斑あるいは焼成不良による青灰色。 | 3.1 | 1.9 | 0.9 | 3.7 | |
| 488 | 108 | 土器溜 | 上面左側から折り返し。縦に襞状になる。下面は平坦。 | 3.0 | 1.8 | 0.8 | 3.5 | |
| 489 | 108 | 土器溜 | 厚さ0.4～0.5cmの板状のものを折り返し、右側でつなぐ。中央上側は膨らむ。上面に細い繊維状の痕跡。 | 3.2 | 2.7 | 1.0 | 6.1 | |
| 490 | 108 | 土器溜 | 三角おにぎり状の塊。下面は丸く窪む。 | 1.7 | 1.6 | 1.1 | 2.3 | |
| 491 | 108 | 土器溜 | 左側から折り返し段状になる。下面は表面滑らか。 | 2.0 | 1.9 | 1.0 | 2.6 | |
| 492 | 108 | 土器溜 | 厚さ0.5～0.6cmの板状のものを折り返し上側でつなぐ。一部に黒斑。あるいは焼成不良によって青灰色になったか。 | 2.2 | 2.0 | 1.3 | 3.8 | |
| 493 | 108 | 土器溜 | 上面左下は窪む。 | 2.4 | 1.7 | 1.0 | 3.0 | |
| 494 | 108 | 土器溜 | 上面は表面滑らか。下面は破面のようにガタガタ。下面全体黒斑で上面にもまわる。 | 2.4 | 1.9 | 1.2 | 3.8 | |
| 495 | 108 | 土器溜 | 三角おにぎり状の塊。上下端部は小さく折り返しか。 | 2.4 | 2.3 | 1.5 | 5.7 | |
| 496 | 108 | 土器溜 | 上面は粘土貼り付けで山状になる。 | 2.6 | 2.2 | 1.4 | 6.0 | |
| 497 | 108 | 土器溜 | 塊状。上下から2枚接着か。 | 3.0 | 1.8 | 1.8 | 7.0 | |
| 498 | 108 | 土器溜 | 厚さ0.7cmほどの2枚が接着。 | 2.3 | 2.6 | 1.5 | 7.2 | |
| 499 | 108 | 土器溜 | 三角おにぎり状の塊。表面細かく多孔質。 | 2.6 | 2.4 | 1.7 | 6.7 | |
| 500 | 108 | 土器溜 | 下面上側から折り返し。上面右側指頭圧により中央部凸状に盛り上がる。 | 3.1 | 1.9 | 1.2 | 4.2 | |
| 501 | 108 | 土器溜 | 塊状。下面は窪む。 | 3.3 | 2.4 | 1.6 | 10.0 | |
| 502 | 108 | 土器溜 | 上面から折り返し。一見クルミ表皮状の内外面。 | 2.6 | 2.8 | 1.5 | 6.5 | |
| 503 | 108 | 土器溜 | 平面楕円形で厚みは一定。上部は長さ2cm、厚さ0.5cmほどの塊を接着させる。 | 3.0 | 2.2 | 1.3 | 8.0 | |
| 504 | 108 | 土器溜 | 下面両端から折り返し。上面丸みをもち滑らか。下面は凹凸。下面下半黒斑。 | 3.7 | 3.3 | 0.9 | 7.2 | |
| 505 | 108 | 土器溜 | 棒状。上面左側および下面右側から折り返し。 | 4.0 | 2.0 | 1.1 | 7.2 | |
| 506 | 108 | 土器溜 | 上面黒斑。上下2枚接着か。 | 5.2 | 2.8 | 2.0 | 21.4 | |
| 507 | 109 | 土器溜 | 下部は若干靴下状に反る。下面上側は折り返して段状になる。 | 2.5 | 1.3 | 0.9 | 2.1 | |
| 508 | 109 | 土器溜 | 棒状。下面上端部欠損。 | 4.5 | 1.3 | 1.1 | 6.2 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 特徴 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 509 | 109 | 土器溜 | 棒状。上下端部一部欠損。下面に黒斑。 | 3.2 | 1.5 | 1.4 | 6.0 | |
| 510 | 109 | 土器溜 | 小型の薄板状。 | 2.1 | 1.6 | 0.5 | 1.8 | |
| 511 | 109 | 土器溜 | 0.1～0.2cmの石英粒が目立つ。 | 2.2 | 1.7 | 0.7 | 2.1 | |
| 512 | 109 | 土器溜 | 上面襞状。下面は平坦。全体に暗灰色。 | 1.9 | 1.5 | 0.6 | 1.3 | |
| 513 | 109 | 土器溜 | 下面やや折り返し。斜方向に溝ができる。 | 2.5 | 2.0 | 0.8 | 2.9 | |
| 514 | 109 | 土器溜 | 上下面指頭圧による窪み。下面上側から棒状のものを折り返し。 | 2.2 | 2.0 | 0.6 | 2.4 | |
| 515 | 109 | 土器溜 | やや厚みのある小型のもの。 | 2.0 | 1.4 | 0.8 | 2.1 | |
| 516 | 109 | 土器溜 | 1～3mmほどの石英粒など多く含み胎土粗。内外面黒斑。下面やや窪む。 | 3.4 | 2.3 | 0.9 | 6.7 | |
| 517 | 109 | 土器溜 | 右側破面。直角三角形状を呈す。 | 3.4 | △1.9 | 0.6 | 2.5 | |
| 518 | 109 | 土器溜 | L字状を呈す個体。右側先端部は上へ折り曲げ。 | 2.2 | 1.8 | 0.9 | 1.6 | |
| 519 | 109 | 土器溜 | 上面左側折り返し。下表面滑らかでやや窪む。 | 4.5 | 3.4 | 0.9 | 11.6 | |
| 520 | 109 | 土器溜 | 2片を上下に接着。下半部は左右2片接着か。 | 3.4 | 1.7 | 0.9 | 0.8 | |
| 521 | 109 | 土器溜 | 三角形状を呈す薄板だが、下部は欠損。左側は折り曲げる。下面は中央から左側へかけ | △3.6 | 3.6 | 0.8 | 7.4 | |
| 522 | 109 | 土器溜 | ほぼ全面黒斑か。上面植物質繊維痕。 | 3.3 | 2.0 | 0.7 | 3.8 | |
| 523 | 109 | 土器溜 | 平面台形。上面はやや反り、下面は中位で屈曲。縦方向に襞状になる。上部は窪む。 | 3.0 | 3.4 | 1.2 | 9.3 | |
| 524 | 109 | 土器溜 | 左側部折り返し。下端部もやや折り曲げるように上方をむく。 | 4.4 | 2.7 | 1.1 | 11.0 | |
| 525 | 109 | 土器溜 | 一見分銅形土製品の下半部状。下面黒斑顕著。 | 4.0 | 5.3 | 1.0 | 14.4 | |
| 526 | 109 | 土器溜 | 大型で石匙状を呈す。右側突出部は上側をむく。下面に土師器片含まれる。上下面とも繊維痕顕著。 | 8.2 | 4.9 | 1.3 | 37.0 | |
| 527 | 110 | 土器溜 | 上面繊維痕。薄板状粘土を貼り付けか。 | 2.5 | 1.9 | 0.8 | 3.3 | |
| 528 | 110 | 土器溜 | 上面上から棒状のもの折り返し。 | 2.3 | 1.5 | 0.8 | 2.7 | |
| 529 | 110 | 土器溜 | 上下2枚接着。下端部は下面から折り返し、ないしは棒状を接着。 | 2.7 | 2.4 | 0.9 | 4.8 | |
| 530 | 110 | 土器溜 | 下面繊維痕目立つ。 | 2.9 | 2.4 | 0.9 | 5.8 | |
| 531 | 110 | 土器溜 | 上面繊維痕か。下面中央部欠損。 | 2.9 | 2.1 | 1.0 | 5.2 | |
| 532 | 110 | 土器溜 | 上面上側から折り返しか。 | 3.0 | 2.0 | 0.8 | 4.5 | |
| 533 | 110 | 土器溜 | 巻貝状。全面黒斑により黒色化。 | 3.0 | 2.4 | 1.0 | 5.4 | |
| 534 | 110 | 土器溜 | 上面中央部別個体を接着。上面黒斑。下面はやや窪む。 | 3.0 | 1.7 | 0.9 | 4.0 | |
| 535 | 110 | 土器溜 | いびつな棒状。下部は上面から折り返しか。全体的に暗灰色。 | 2.8 | 1.9 | 0.9 | 3.4 | |
| 536 | 110 | 土器溜 | 2枚の薄板状を接着。上面に繊維痕。下面黒斑。 | 3.2 | 2.4 | 1.1 | 5.5 | |
| 537 | 110 | 土器溜 | 上面から包むように薄板をかぶせ接着。下面は指頭圧により窪む。 | 3.1 | 2.0 | 1.0 | 4.9 | |
| 538 | 110 | 土器溜 | 上面丸みをもつ。下面はほぼ平坦。上下2片を接着か。 | 3.2 | 2.1 | 1.3 | 5.7 | |
| 539 | 110 | 土器溜 | ほぼ中位にある斜方向のくびれ部は、上下2個体の接着によるもの。下面は平坦。 | 3.6 | 2.7 | 0.9 | 7.7 | |
| 540 | 110 | 土器溜 | 上面縦方向に2条の溝。中央部凸状に盛り上がる。黒斑。下面表面は滑らかで、丸みをも | 4.3 | 2.5 | 1.2 | 9.8 | |
| 541 | 110 | 土器溜 | 上面中央から下面にかけ黒斑。下面は平坦。上面膨らみをもち厚みがある。 | 4.3 | 3.3 | 1.9 | 19.8 | |
| 542 | 110 | 土器溜 | 下面は下部側から折り返し。さらにねじれるようにした後、上側でつまみあげ。繊維痕状の細線が多く縦横にある。 | 4.3 | 3.2 | 1.4 | 12.4 | |
| 543 | 110 | 土器溜 | 板状。上面はナデで平滑。下面は未調整。 | 4.8 | 2.8 | 1.0 | 12.4 | |
| 544 | 110 | 土器溜 | ギョーザ状に上方につまみあげられる。下面は比較的平坦。 | 5.2 | 3.3 | 1.3 | 15.0 | |
| 545 | 111 | 土器溜 | 薄板状のものを2～3枚重ねて接着したものか。下面に黒斑。 | 6.0 | 3.8 | 2.6 | 49.6 | |
| 546 | 111 | 土器溜 | 1枚の薄板を2～3重に折り返すものが2枚上下に接着される。 | 6.2 | 4.7 | 2.3 | 58.0 | |
| 547 | 111 | 土器溜 | 上面は比較的滑らかだが、右側から下面にかけて凹凸はげしい。 | 5.0 | 4.1 | 2.2 | 38.6 | |
| 548 | 111 | 土器溜 | 上面滑らかで丸みをもつ。下側から折り返し。 | 2.1 | 1.9 | 1.0 | 4.2 | |
| 549 | 111 | 土器溜 | 上から覆いかぶせるように粘土片を接着か。 | 2.6 | 2.7 | 1.2 | 5.6 | |
| 550 | 111 | 土器溜 | 上面右側が窪む。 | 2.9 | 2.0 | 1.0 | 4.8 | |
| 551 | 111 | 土器溜 | 表面全体的に凹凸のある塊状。 | 2.8 | 2.2 | 1.9 | 8.3 | |
| 552 | 111 | 土器溜 | 右側は破面。上面左側指頭圧による窪み。 | 3.0 | △1.8 | 1.4 | 5.0 | |
| 553 | 111 | 土器溜 | 上面黒斑。下面は中央部縦に窪む。 | 2.9 | 2.4 | 1.2 | 6.9 | |
| 554 | 111 | 土器溜 | 上面いびつ。上部は粘土片を押し付けるように接着し窪んだか。下面黒斑。 | 3.7 | 3.0 | 1.6 | 10.0 | |
| 555 | 111 | 土器溜 | 上面襞状。半分に折り曲げられる。 | 3.5 | 3.0 | 1.7 | 12.2 | |
| 556 | 111 | 土器溜 | 上面コブ状に粘土片貼り付け。二次焼成により赤変か。下面左側部は内側に折り返され | 3.8 | 2.2 | 1.8 | 10.2 | |
| 557 | 111 | 土器溜 | 中央部縦に樋状。上部右側折り返し。下面には繊維痕。 | 3.3 | 2.8 | 1.4 | 9.6 | |
| 558 | 112 | 土器溜 | 上側上半部は別個体貼り付け。下半部は脚状に二股に分けたものをあぐらをかくように接 | 4.0 | 2.6 | 1.3 | 9.7 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 特徴 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 559 | 112 | 土器溜 | 上半は薄板状。中位で上方に屈曲し、左側を折り返し空間ができる。 | 4.8 | 1.9 | 1.1 | 4.8 | |
| 560 | 112 | 土器溜 | 上部幅広く刃先状。下部は柄状に丸みをもつ。下部右側は折り曲げ、柄状部分シボリ。端部近く炭化物が粘土内にある。上面顕著な黒斑。 | 4.4 | 2.4 | 1.3 | 9.2 | |
| 561 | 112 | 土器溜 | 上面右側から折り返し。上部側に粉炭痕。下面は平坦。全体的に暗褐色を呈す。黒斑か。 | 4.5 | 2.9 | 1.7 | 14.8 | |
| 562 | 112 | 土器溜 | 下端部はつま先状につまみ出す。下面上半欠損。 | △3.2 | 2.2 | 2.2 | 15.0 | |
| 563 | 112 | 土器溜 | 薄板を巻き上半部で接着。中央に空洞をつくる。下面は指頭圧により窪む。 | 3.2 | 2.0 | 2.0 | 7.6 | |
| 564 | 112 | 土器溜 | 分厚い粘土を折り曲げ、上部は襞状におさめる。下面繊維痕多い。 | 4.5 | 3.6 | 2.3 | 20.8 | |
| 565 | 112 | 土器溜 | 下面に径0.5cmほどの粘土片接着。若干ねじったような形状を呈す。 | 2.4 | 1.2 | 0.7 | 1.7 | |
| 566 | 112 | 土器溜 | 上面下半部上から折り返し、厚みをもつ。上半部は細くなり右側から強く指頭圧で大きな円形窪み。窪み内に横方向にある沈線は爪痕か。 | 3.0 | 1.8 | 1.1 | 4.0 | |
| 567 | 112 | 土器溜 | 細棒状に左右両側から折り曲げ。「く」字状を呈す。内外面黒斑状に暗灰色を呈す。 | 3.0 | 1.1 | 0.7 | 1.5 | |
| 568 | 112 | 土器溜 | 板状のものを巻き込み棒状にする。右側部はつまみ襞状になる。 | 4.3 | 1.4 | 1.1 | 6.8 | |
| 569 | 112 | 土器溜 | 棒状の中央が窪む。ややねじったようなもの。 | 3.5 | 1.8 | 1.0 | 4.2 | |
| 570 | 112 | 土器溜 | 棒状の塊を2個接着させたもの。上面大半黒斑。 | 6.2 | 3.7 | 2.0 | 38.8 | |

表 16　平安時代被熱粘土塊観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 特徴 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 566 | 101 | 土坑14 | 表面は平坦で、植物質繊維痕目立つ。内側クレーター状に穴があく。 | △13.0 | △17.1 | △4.6 | ##### | |
| 567 | 101 | 土坑14 | 表面ほぼ平坦。焼けしまった感じ。 | △8.1 | △8.0 | △4.3 | 220.0 | |

表 17　第７章　石製品観察表

遺物観察表

1. 法量について、復元値は＊、残存値は△で示した。単位はcmである

古市宮ノ谷山遺跡

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 石材 | 長さ・高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S19 | 98 | 77 | テラス19 | 砥石 | 細粒花崗岩 | 5.35 | 7.6 | 3.65 | 195.0 | |
| S20 | 114 | 77 | 土器溜および周辺 | 砥石 | 細粒花崗岩 | 9.2 | 5.3 | 3.7 | 234.0 | |
| S21 | 116 | 6 | テラス21～23 | 磨製石斧 | 安山岩 | 7.1 | 5.35 | 3.6 | 170 | |
| S22 | 121 | 77 | 土坑15 | 磨石 | 安山岩 | 12.5 | 8.6 | 6.7 | 875.0 | |
| S23 | 121 | 77 | 土坑15 | 未製品 | 流紋岩 | 19.7 | 31.5 | 9.9 | 6500 | |

# 第８章　鎌倉時代～室町時代の調査

## 第１節　概要　（図 123）

この時期のものは大きく２時期に分けられる。ひとつは 13 世紀後半～ 14 世紀前半に比定できる遺構群であり、これは尾根１区の土坑 16、テラス 24 が相当する。もう一群は尾根１区先端部にあるテラス、集石、土坑ならびに尾根２区の土壙群である。これら遺構に伴う遺物は非常に少ないが、尾根１区Ｉ層から出土した土師器および集石群に伴う五輪塔の型式学的検討から、15 世紀後半～ 16 世紀に比定するものと考えられる。また表土などからも当該期の貿易陶磁器、国産陶器が出土しており、これら遺構群と関連するものと思われる。　（中森）

## 第２節　検出した遺構と遺物

**土坑 16**　（図 124 ～ 126、図版 80・81、カラー図版８）

Ｄ４グリッドに位置する。長径 1.15 m、短径 0.65 m、深さ 0.25 mほどを測り、北側が尖り気味の形状である。土坑内中央やや南よりから、完形品を主体とする土師器杯の集積を検出した。この中央部には南北方向に若干隙間がみられ、東西に２分することができる。西群のほうが土器量は多く、密度は高い。口縁を下側に伏せた状態の個体と上側に向けたもののどちらもみられたのに対し、東群は口縁を上に向けたものが多い。しかし両群ともきちんと積み重ねたような状況ではなかった。またどちらも底面より 5 cm ほど浮いている。この検出状況からは箱などに納め置かれたとは考えにくく、東西２群に分け、袋などに入れられていた可能性もあろう。まったく欠損していない完形資料も含まれており、単なる廃棄行為とは考えにくい。

出土した土器のうち完形および完形に近い 58 点を図示したが、残存率 50%以下のものも多くあり、全体としては 100 個体近くあったと推定できる。いずれの杯も口径 12cm 前後、底径 5 cm 前後、器高 4.5cm 前後と均一で、底面は静止糸切りである。底面に板目の残るものもある。また 710 ～ 712 は口縁部を波状に打ち欠いたもので、711・712 の波状部分にはススが付着している。平口縁のものにはススが付いたものはないことから、灯明皿とし

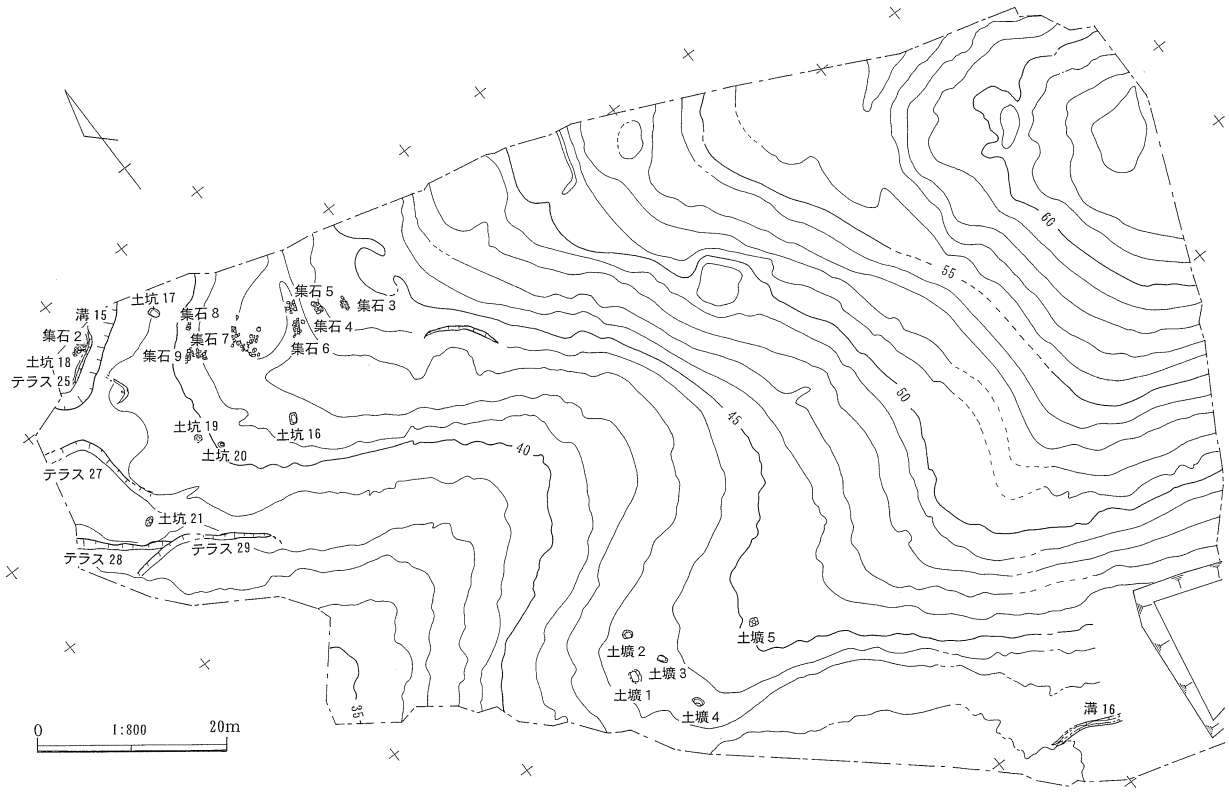



図 123　鎌倉時代～室町時代遺構分布

て利用するために意図的に波状に打ち欠いたものであろう。杯の形態から八峠編年の中世Ⅲ期（13 世紀代）に比定できよう。（中森）

**テラス 24**　（図 127、図版 79）

Ｅ６グリッドに位置し、平安時代のテラス 18 埋土を切ってつくられる。東西幅は 4.8 ｍほどで、床面北側中央部で長径 0.35 ｍ、短径 0.3 ｍ、深さ 0.1 ｍの楕円形土坑を検出した。その中からちょうど収まるように瓦質の擂鉢（714）があり、それは底部が打ち欠かれていた。その底部部分に土師器杯（713）が置かれ、さらにその上におそらく１個体になる鉄製品（刀子、Ｆ 84・Ｆ 85）があった。こうした状況がどのような性格をもつものかは不明である。713 は土坑 16 出土の杯と同じものであり、同時期の遺構であると判断した。（中森）

**テラス 25・土坑 18・集石２・溝 15**　（図 128・129、図版 83）

尾根１区の先端部で北西を向くテラスおよび、それに伴なう土坑・集石を検出した。テラス壁面の立ち上がり部分には溝 15 が巡り、床面中央やや東よりに集石２がある。1.2 ｍほどの範囲に拳から人頭大の角礫凝灰岩があ

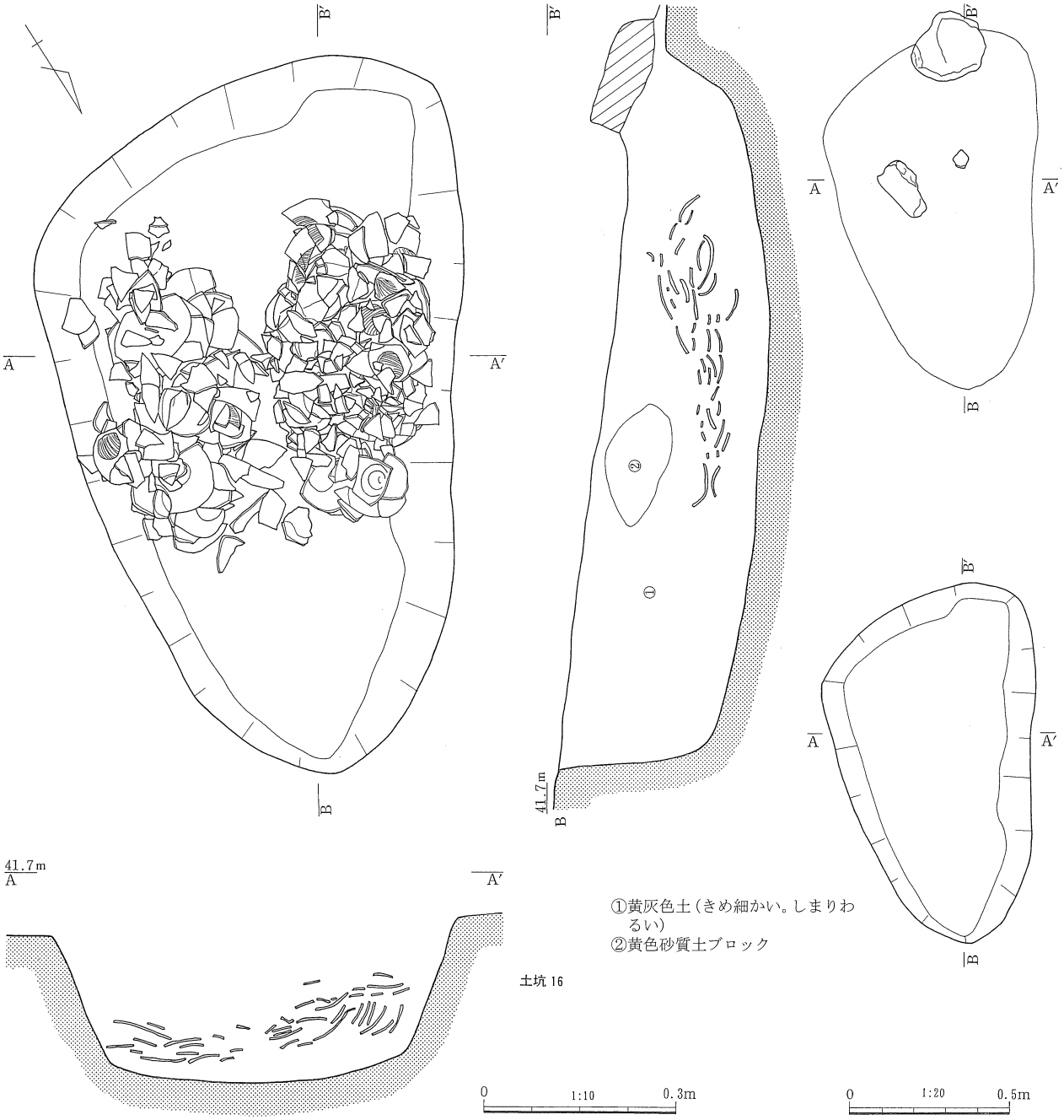



図 124　土坑 16

り、そのやや西側に土坑 18 が位置する。これは径約 0.8 mの円形土坑で、深さは 0.3 mほどであった。集石２との関係は不明瞭であった。集石内から白磁Ⅸ類皿（716）が出土した（註1）。また土坑内から釘（F 86）、テラス床面上から土師器皿（717）、鉄製鎌・斧（F 92・F 93）が出土しており、この土師器皿からこれら遺構は 15 ～ 16 世紀のものと考えられる。（中森）

**テラス 26**　（図 128・129）

弥生時代後期の竪穴住居跡８の北側に位置する。南北６m、東西４mほどで、L字状に地山をカットしてつくられている。床面から土師器皿（719）が出土した。15 ～ 16 世紀代であろう。（中森）

**テラス 27・土坑 21**　（図 128・129）

テラス 27 は尾根１区先端部で検出した西側を向くものであり、南西部にはテラス 28・29 が位置する。南北幅

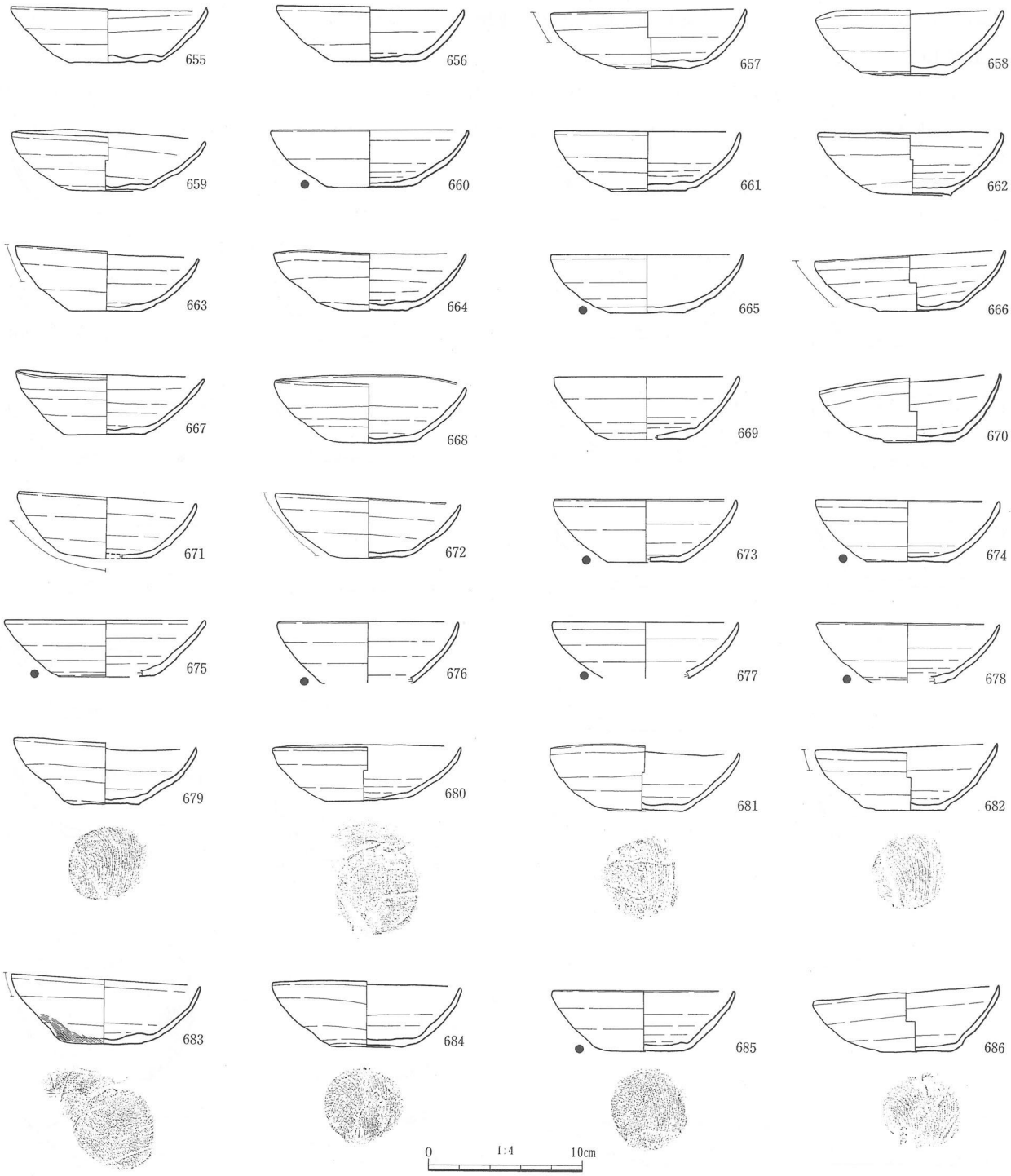



図 125　土坑 16 出土遺物（１）

14 m、東西７ｍほどを検出し、西側は調査地境に接する。床面南側に土坑 21 がある。長径 1.05 m、短径 0.6 m ほどの楕円形土坑で、西側は２段に掘られ、そこに人頭大の礫が３個あった。いずれも埋土②層上面において検出したが、土坑上面にあったものが落ち込んだ可能性もあろう。あるいは墓か。（中森）

**テラス 28・29**　（図 128・129、図版 83-5）

尾根１区先端部南向き斜面に位置する。等高線に沿って東西方向に２基あり、テラス 29 はテラス 28 より１段下がる。テラス 29 の南側下層には奈良時代後期～平安時代初頭のテラス 17 があり、弥生時代中期包含層（③層）を削っている。同テラスから瓦質羽釜（715）が出土している。16 世紀代か。（中森）

**土坑 17**　（図 128）

Ｃ２グリッドに位置する、長径 1.2 m、短径 0.55 mの隅丸長方形を呈した土坑である。深さは 0.5 mほどあり、上面から 0.35 ～ 0.4 mの厚さでＩ層相当の黄褐色土が堆積する。遺物は出土していない。（中森）

**土坑 19**　（図 128）

Ｄ３グリッドにあり、弥生時代後期のテラス８を掘り込む。西側はトレンチにより掘られているが楕円形を呈す土坑と思われる。長径 0.8 m、短径 0.3 mほどを検出している。埋土はＩ層相当である。（中森）

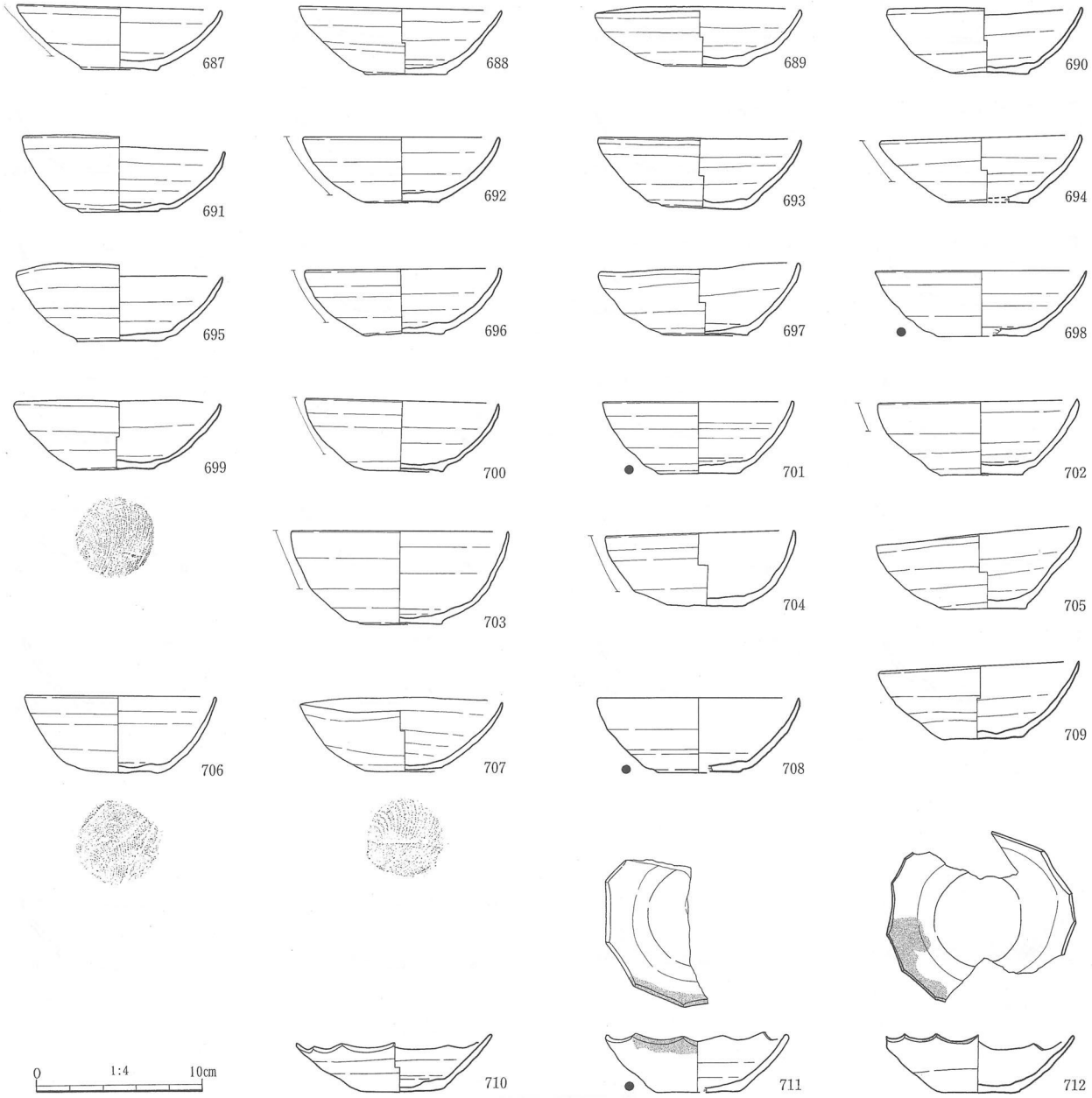



図 126　土坑 16 出土遺物（２）

**土坑 20**　（図 128）

土坑 19 の南約 3.5 mに位置する。長径 0.7 m、短径 0.55 mほどの楕円形土坑で、深さは約 0.25 mを測る。埋土はⅠ層、遺物は出土していない。（中森）

**尾根１区の集石群**　（図 130）

古市 15・16 号墳上面および墳端部で安山岩製の五輪塔を伴う集石を７基検出した。そのうち 15 号墳墳頂部の集石７は下層から成人女性の火葬骨が出土したことから、墓としての性格をもつ可能性が考えられる。またその他の集石も同様のものと位置付けられよう。五輪塔の型式から 15 ～ 16 世紀代のものと考えられる。なお五輪塔以外の礫は角礫凝灰岩が大半を占める。16・17 号墳の埋葬施設が攪乱され、15 号墳埋葬施設が確認できなかったことなどは、これら集石墓の造営に関連すると思われる。（中森）

**集石３**　（図 134）

16 号墳埋葬施設の西側で検出した。拳大の礫が長さ 1.1 m、幅 0.6 mほどの範囲に集中する。礫は角礫凝灰岩で、おそらく古墳の埋葬施設石棺材を抜き取り、砕いたものと思われる。五輪塔は伴っていない。なお 16 号墳周溝上層から小型の火輪（S 40、図版 84-4）と思われるもののほか、鉄滓（F 95）が出土している。（中森）

**集石４**　（図 134）

16 号墳西側墳裾で検出した。拳から人頭大の礫が長さ 1.2 m、幅 0.6 mほどの範囲に集中する。傾斜面にある

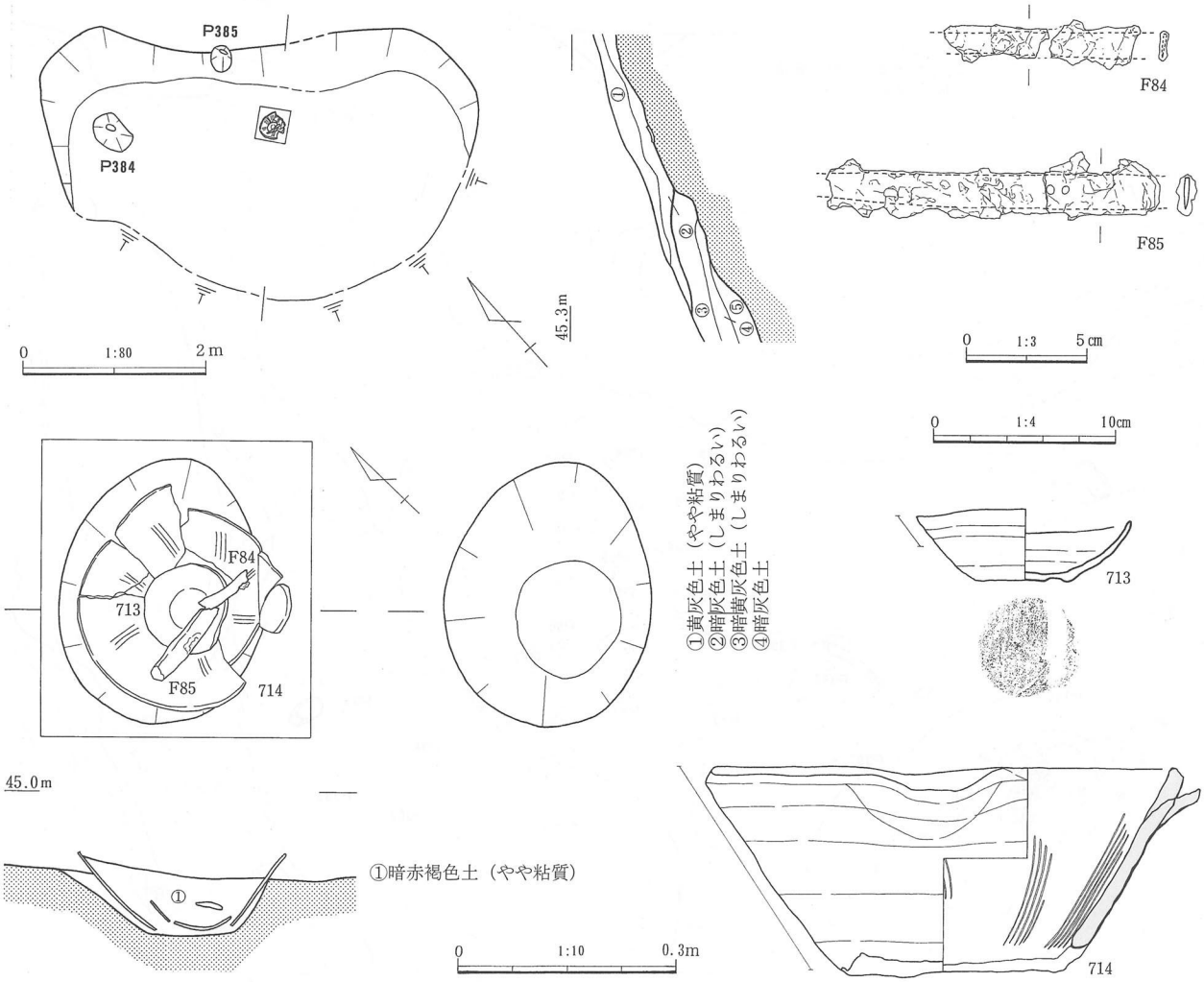
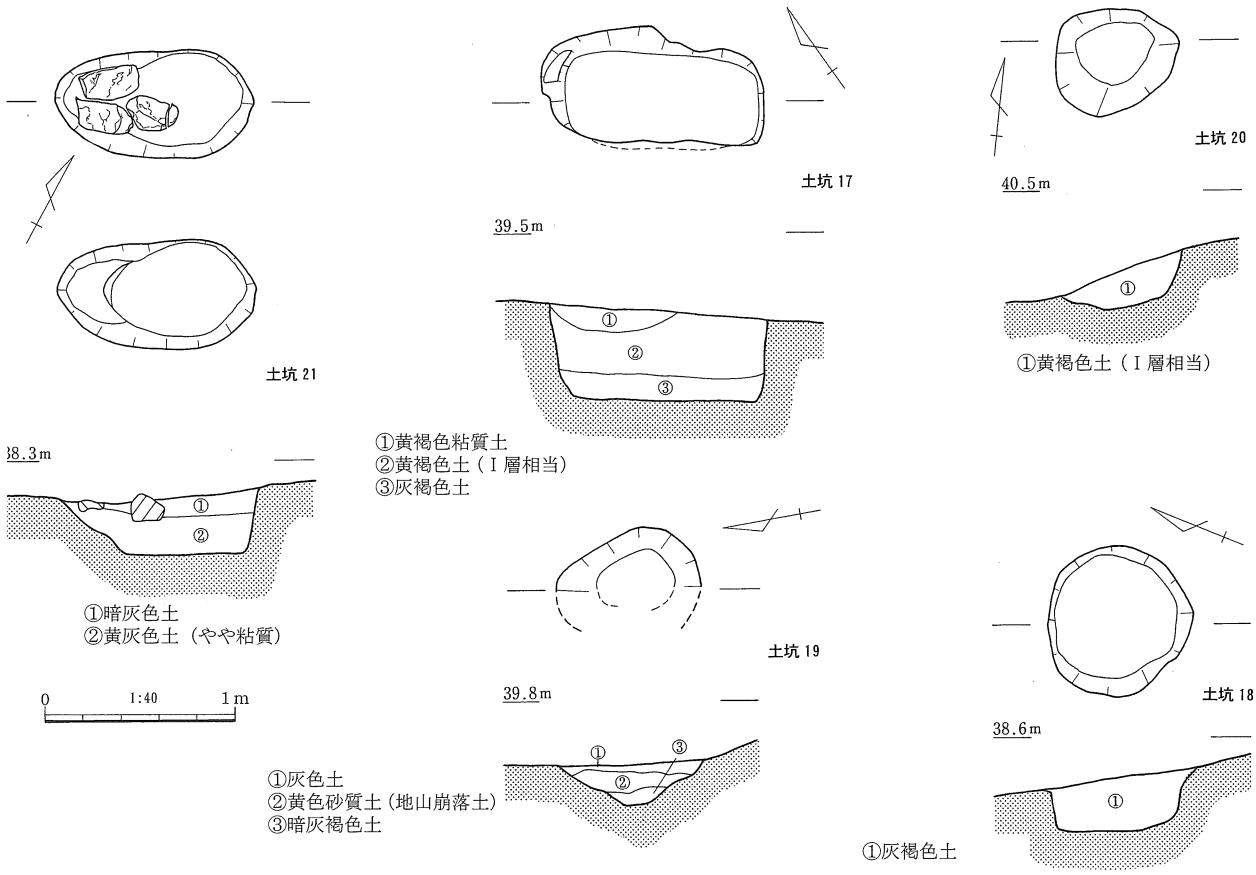



図 127　テラス 24 および出土遺物

が明確な掘り方は確認できなかった。遺物は出土していない。（中森）



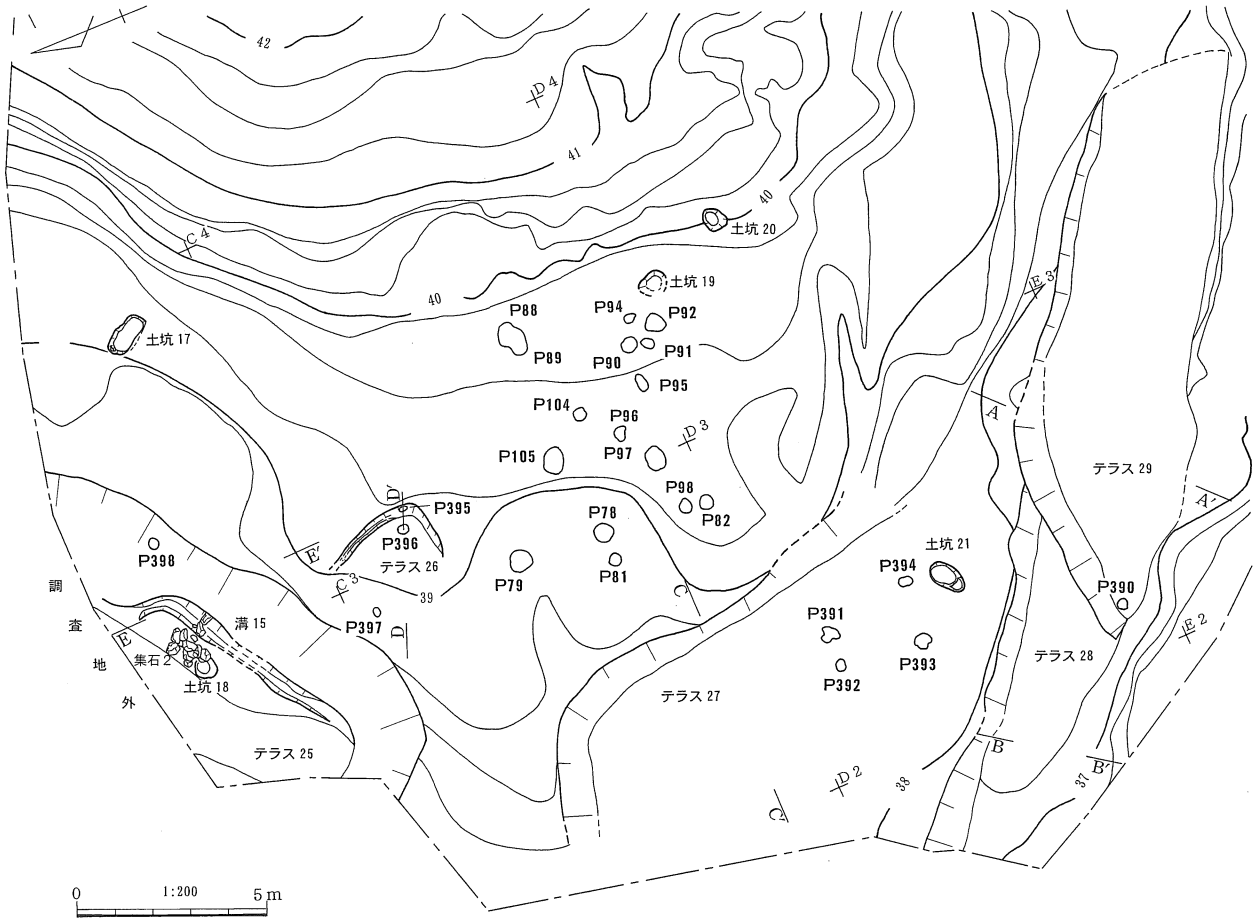




図 128　尾根１区先端部遺構群

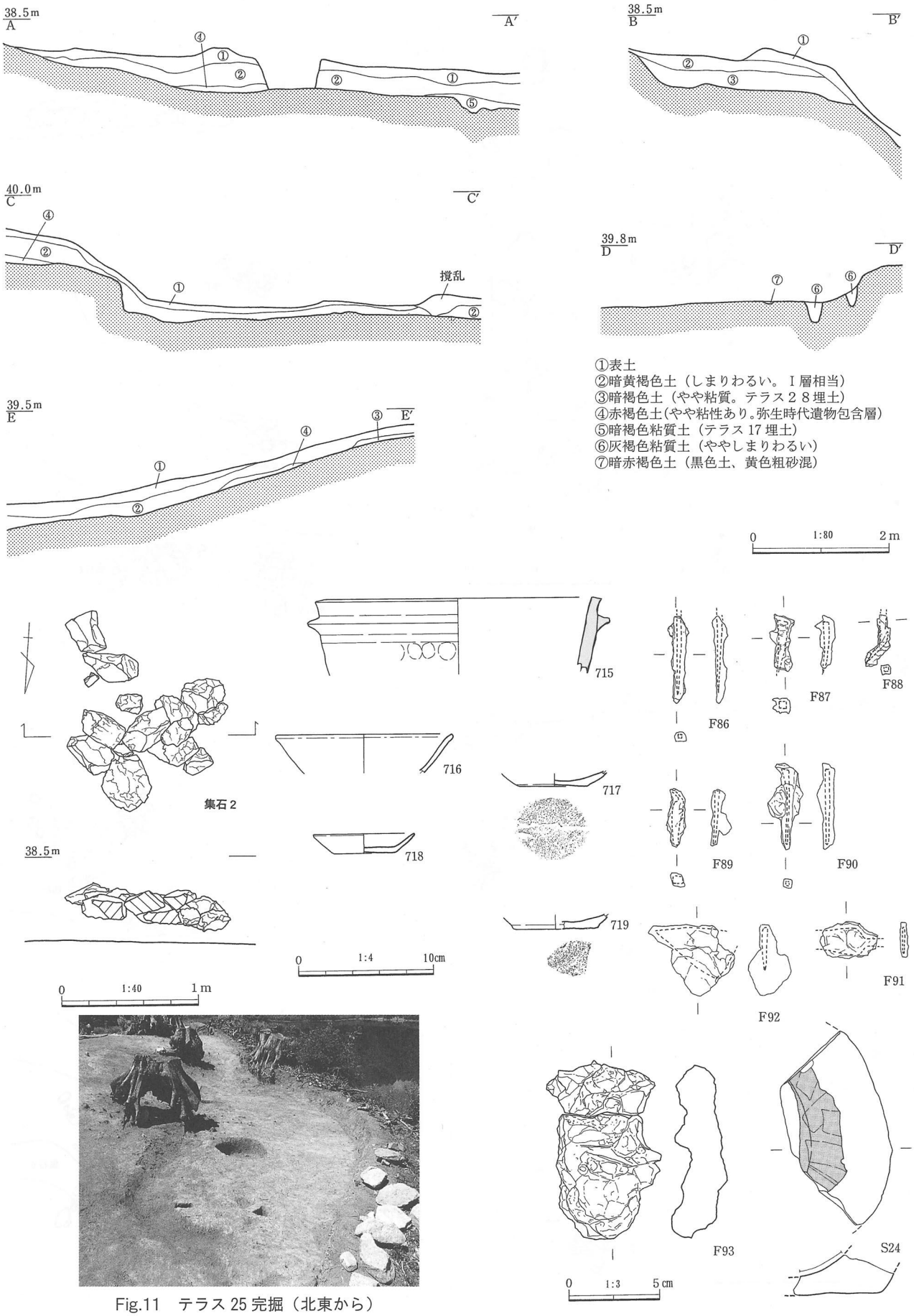



Fig.11　テラス 25 完掘（北東から）

図 129　尾根１区先端部土層断面および出土遺物

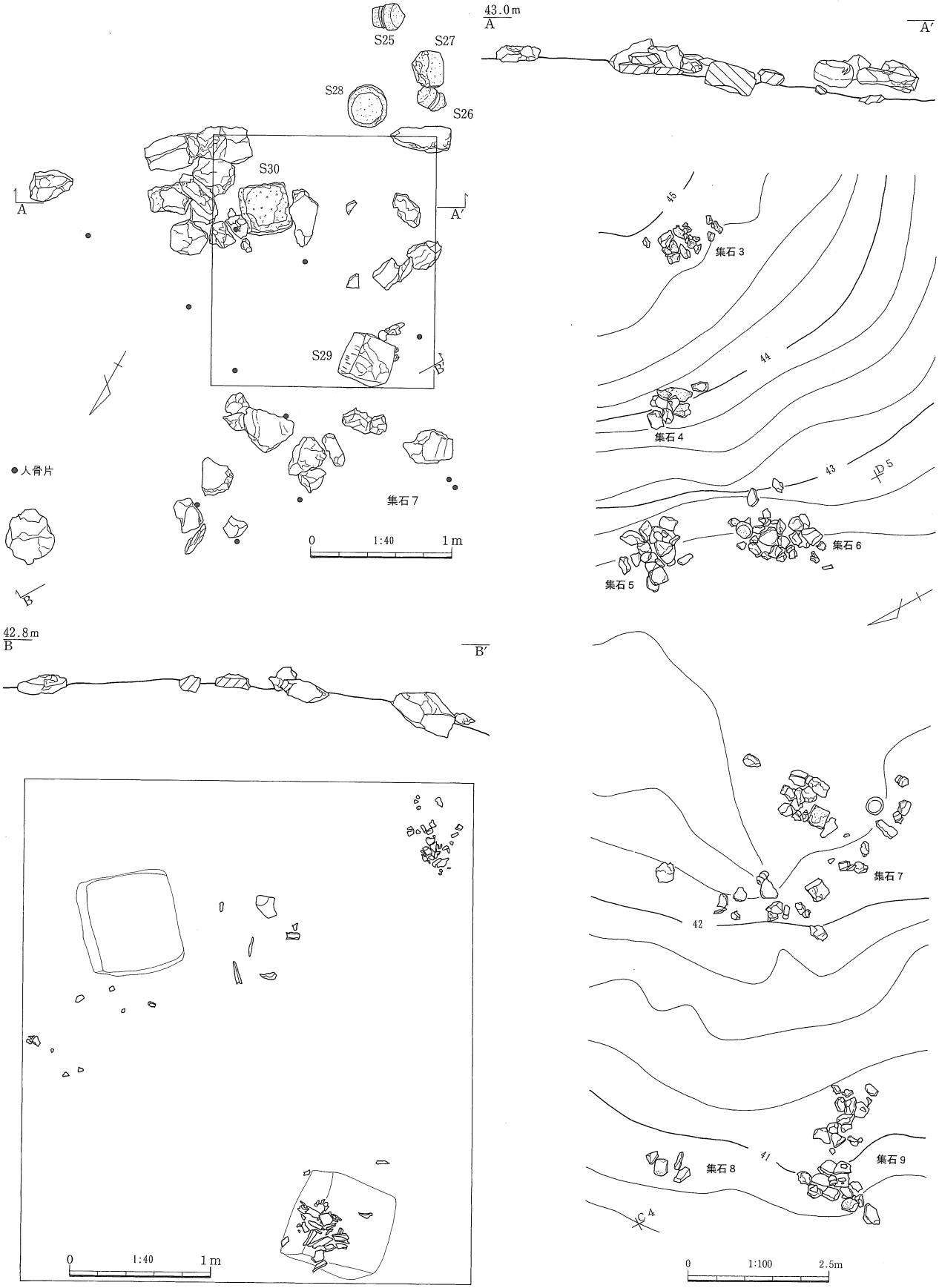
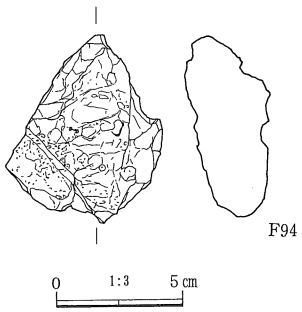



図 130　集石群検出状況および集石７

図 131　集石７出土遺物




**集石５**　（図 132・133）

15 号墳周溝埋土上、Ⅰ層上面に位置する。長さ 1.4 m、幅 1.0 mほどの範囲に礫は集中し、それら礫中に火輪と地輪（Ｓ 33・Ｓ 35）を含む。集石の中心部は礫を２、３段積む。なおこの下層から砥石（Ｓ 41、図版 87-2）が出土している。　（中森）

**集石６**　（図 132・133）

集石５の南に隣接する。長さ 1.8 m、幅 1.0 mほどの範囲にあり、空風輪と水輪（Ｓ 32・Ｓ 36）を集石北西端に接して検出した。やはり集石の中心から西側は礫を２、３段積んでいる。　（中森）

**集石７**　（図 130・131、図版 82）

15 号墳墳丘上で検出した集石である。他の集石と異なり 4.0 × 3.0 mほどの広い範囲に礫および五輪塔が散在

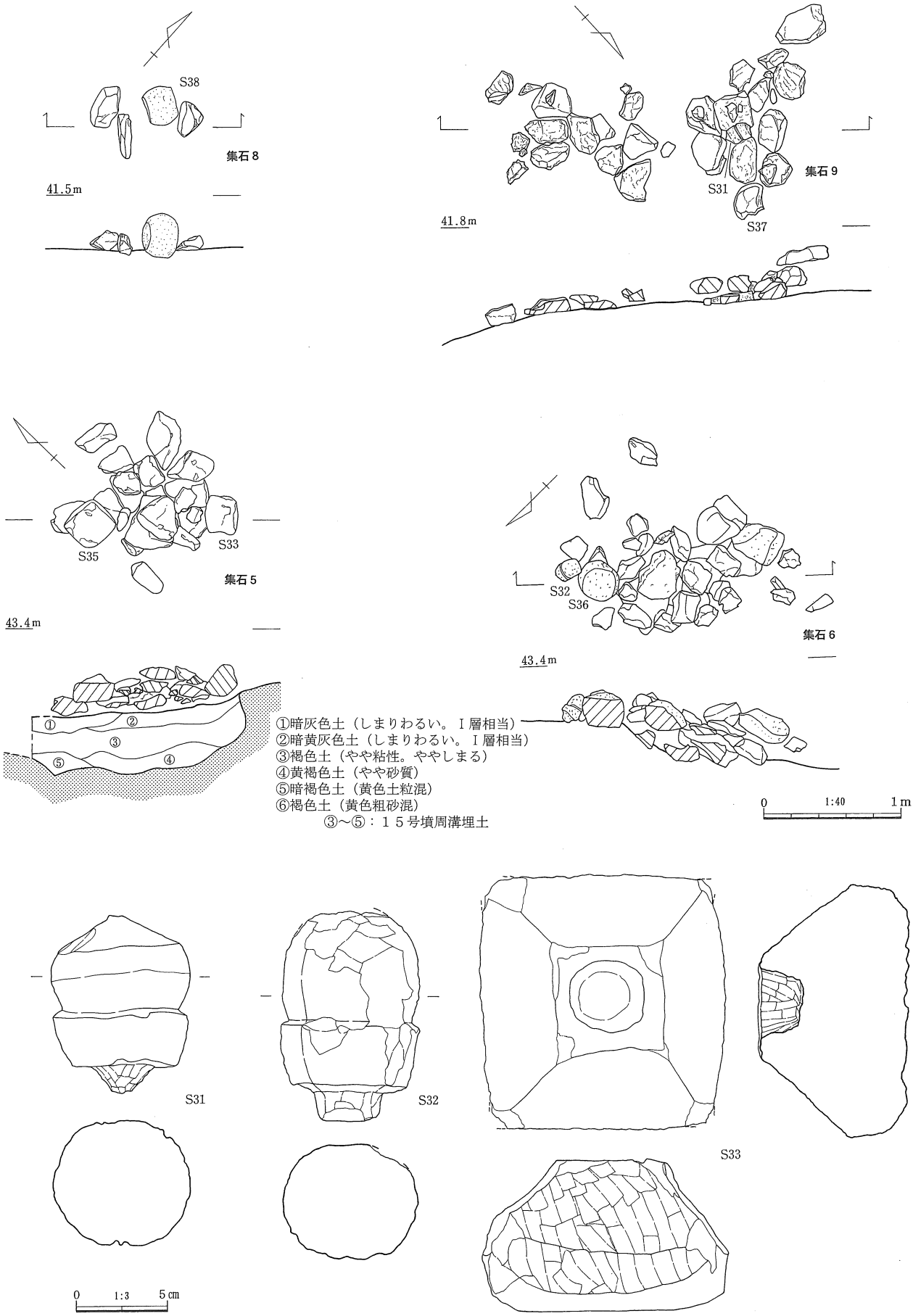



図132　集石５・６・８・９および出土遺物（1）

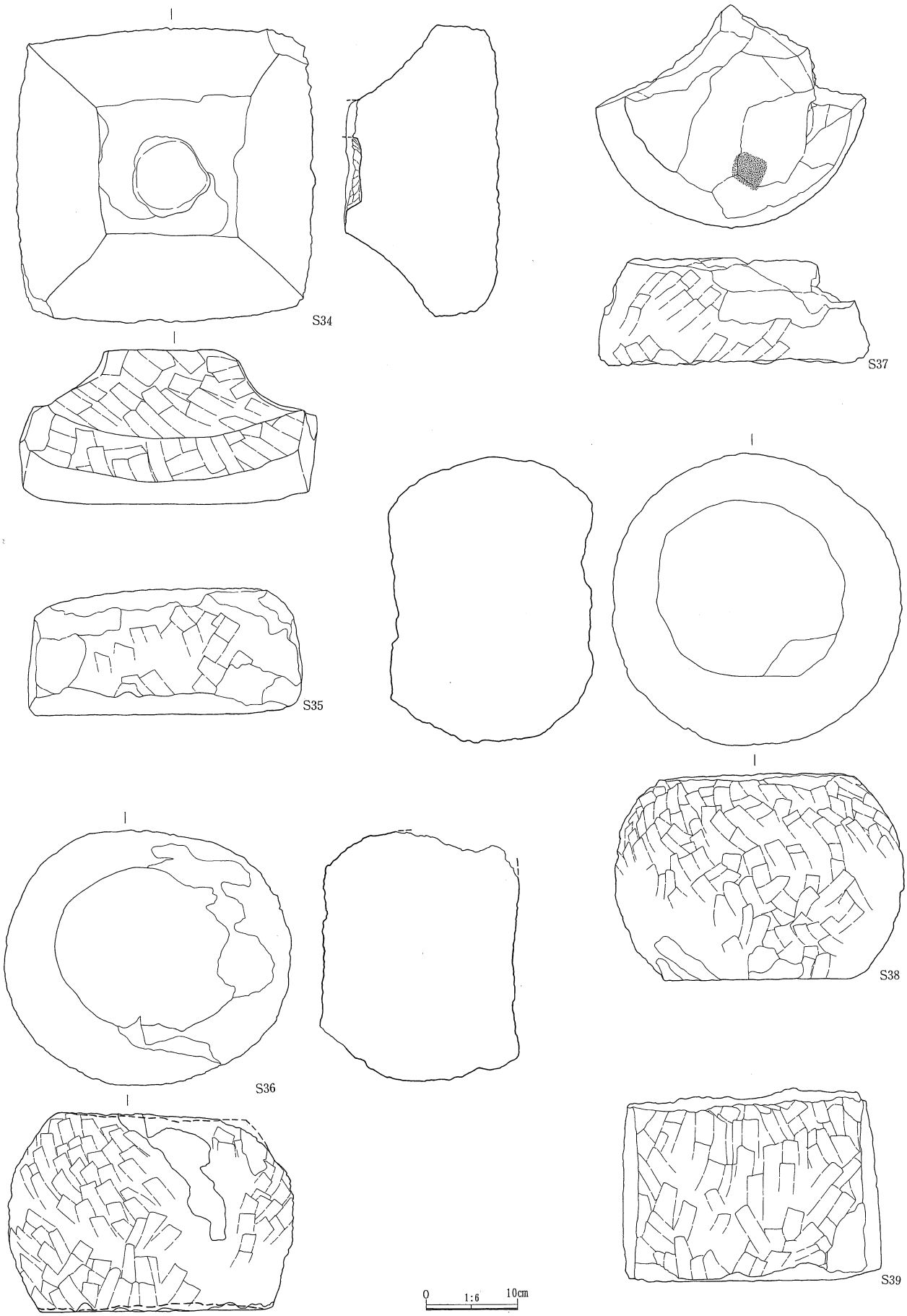



図 133　集石群出土遺物（2）

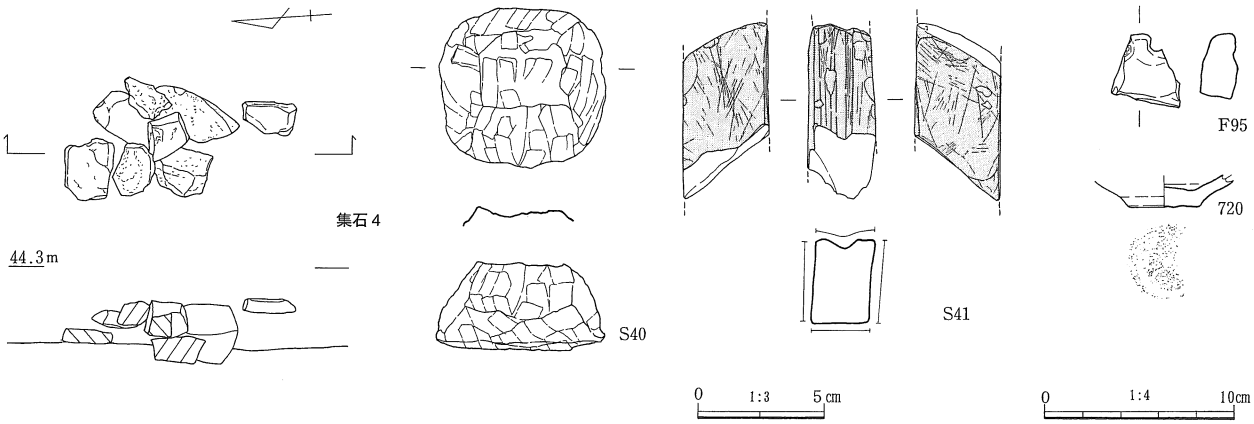
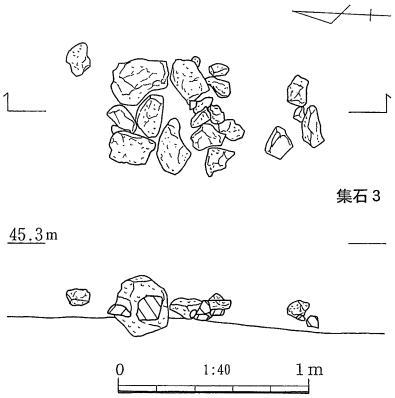



図 134　集石３、４および Ⅰ 層出土遺物（1）




する。北側には巨大な木の根があり、その南側を取り囲むような状態であった。地輪（Ｓ 30）の東に礫が密集する部分があり、そこからもう１点の地輪（Ｓ 29）西側にかけて集石下から人骨がまばらに出土した。人骨は火葬骨で成人女性のものであり、また大きく３群にまとまって分布するが、その量からみて１体であろうと推測される（第 10 章特論９）。周辺に焼けた痕跡や炭化物、灰などがないため、おそらく別の場所で荼毘に付され、この場所に散骨されたものと考えられる。

五輪塔は地輪２基に対し空風輪は２基あるが（Ｓ 25・Ｓ 26）、火輪（Ｓ 27）、水輪（Ｓ 28）は１基ずつしかない。このほか鉄滓が１点（Ｆ 94）出土しているが、遺構との関連は不明である。　（中森）

**集石８**　（図 132・133）

15 号墳の西側墳端部付近に位置する。長さ 0.85 m、幅 0.5 mほどの範囲にわずか４点の礫で構成される。そのうち水輪（Ｓ 38）が１点、横位の状態で出土した。　（中森）

**集石９**　（図 132・133）

集石８の南側に位置する。長さ 2.5 m、幅 1.5 mほどの範囲に分布しており、中央部には礫のない部分がある。西群には空風輪（Ｓ 31）とほぼ半分ほど欠損する水輪（Ｓ 37）があるが、東群には五輪を含まない。

遺構外谷１区から水輪（Ｓ 42）、尾根１区先端部から地輪（Ｓ 43）が出土した。　（中森）

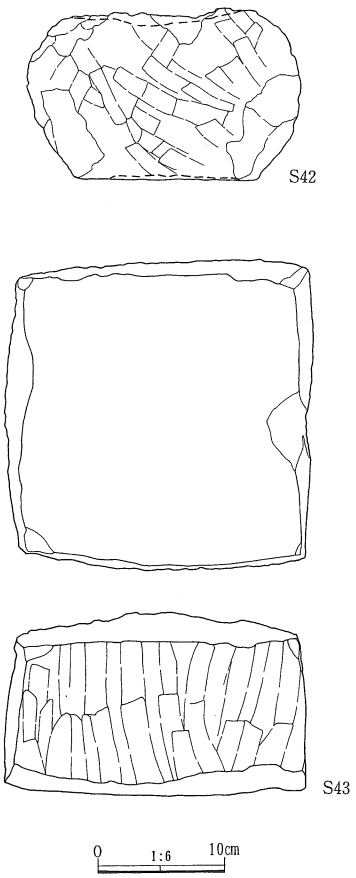



図 135　谷１区出土遺物（1）

### 尾根２区の土壙群

尾根２区の先端部付近に５基の土坑を検出した。いずれも埋土が暗褐色系でしまりのわるい土であることから、同一時期のものと考えられる。土坑形状、規模はさまざまであるが、埋土上層に人頭大礫を含むものがあり、そのうち土壙２からは火輪が出土した。そこで先の礫は墓壙上面の標石である可能性を考え、これら土坑を墓であるとした。また時期を示すものは火輪以外になく、それが先述の集石群に伴うものと同型式であることから、15 ～ 16 世紀のものと判断した。　（中森）

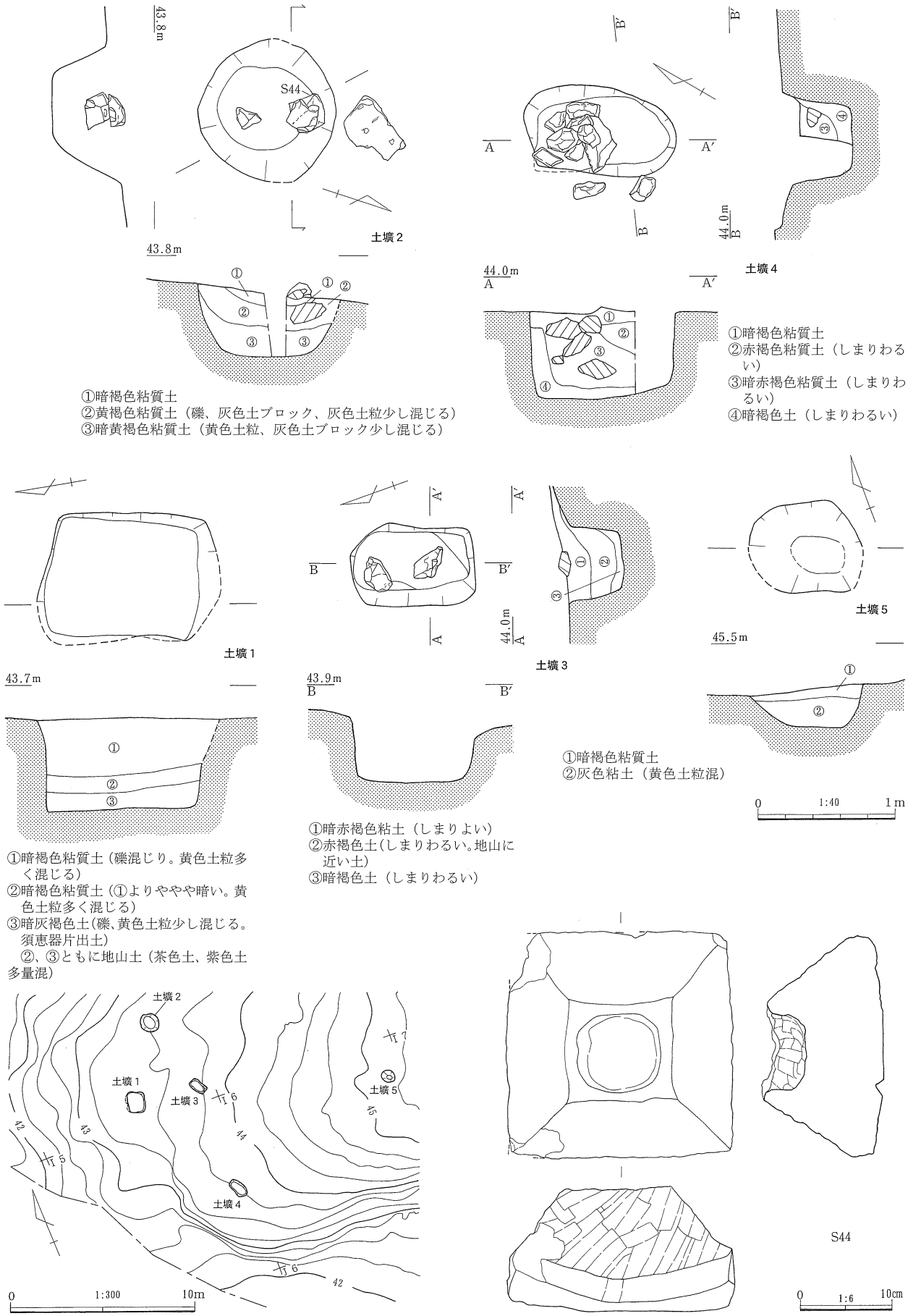



図 136　尾根２区土壙群および出土遺物

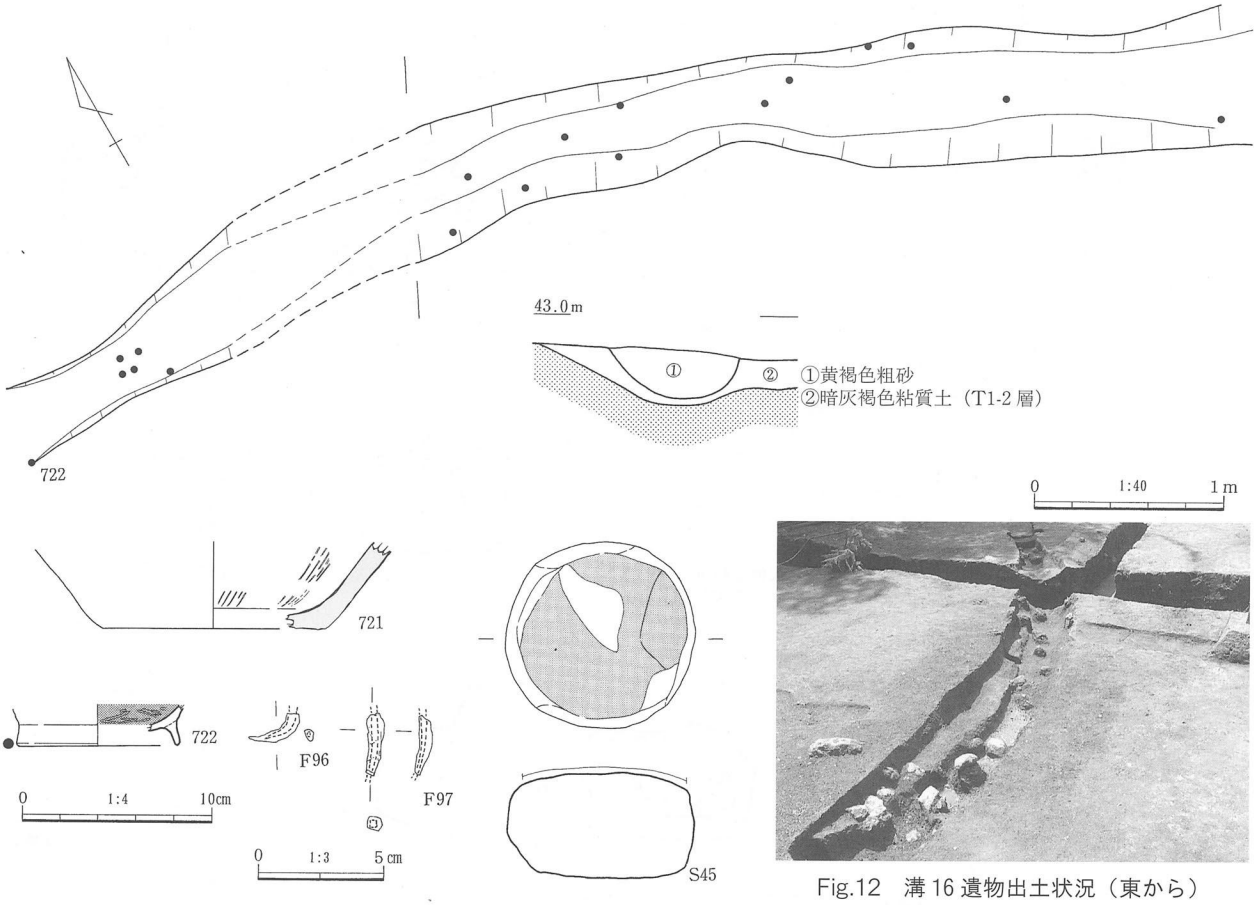



Fig.12　溝 16 遺物出土状況（東から）

図 137　溝 16 および出土遺物

**土壙１**　（図 136）

Ｈ５グリッド南側にあり、長径 1.3 m、短径 0.95 mほどを測る隅丸長方形の土壙である。他の土壙に比べ規模は大きく、深さも約 0.7 mと深い。最下層から古代の須恵器坏片が出土している。（中森）

**土壙２**　（図 136、図版 85-1 ～ 3）

土壙１の北側に位置する、径約１mの円形を呈する土壙である。深さは約 0.5 mで、埋土上層には人頭大の礫があり、その直下で火輪（Ｓ 44）が出土した。（中森）

**土壙３**　（図 136）

土壙１の東に位置する、長径 0.9 m、短径 0.55 m、深さ 0.45 mほどを測る隅丸長方形の土壙である。上面から人頭大礫を検出した。（中森）

**土壙４**　（図 136、図版 84-4・85-4・5）

土壙３から５mほど南に位置する。長径 1.1 m、短径 0.65 mほどの楕円形を呈し、深さは約 0.65 mあった。埋土最下層の④層は壁面から底面にかけＬ字状に堆積し、その内側にある③層内で拳から人頭大の礫を検出した。この③層と④層の境目が木棺の痕跡を示すものかもしれない。（中森）

**土壙５**　（図 136）

先の４基から 10 m近く東に離れて位置する。長径 0.85 m、短径 0.65 m、深さ 0.3 mほどを測る楕円形土壙である。上層はしまりのわるい暗褐色粘質土であるが下層は灰色粘土であり、時期が異なる可能性をもつ。（中森）

**溝 16**　（図 137）

谷２区、池状遺構③層（図 118）を掘り込んでいる溝。東から西へ向けて流れるやや弧状のものである。東側は調査地外へと続き、西側は後世の削平を受けている。検出した長さはほぼ７mで、幅 0.7 m、深さは 0.25 mほど

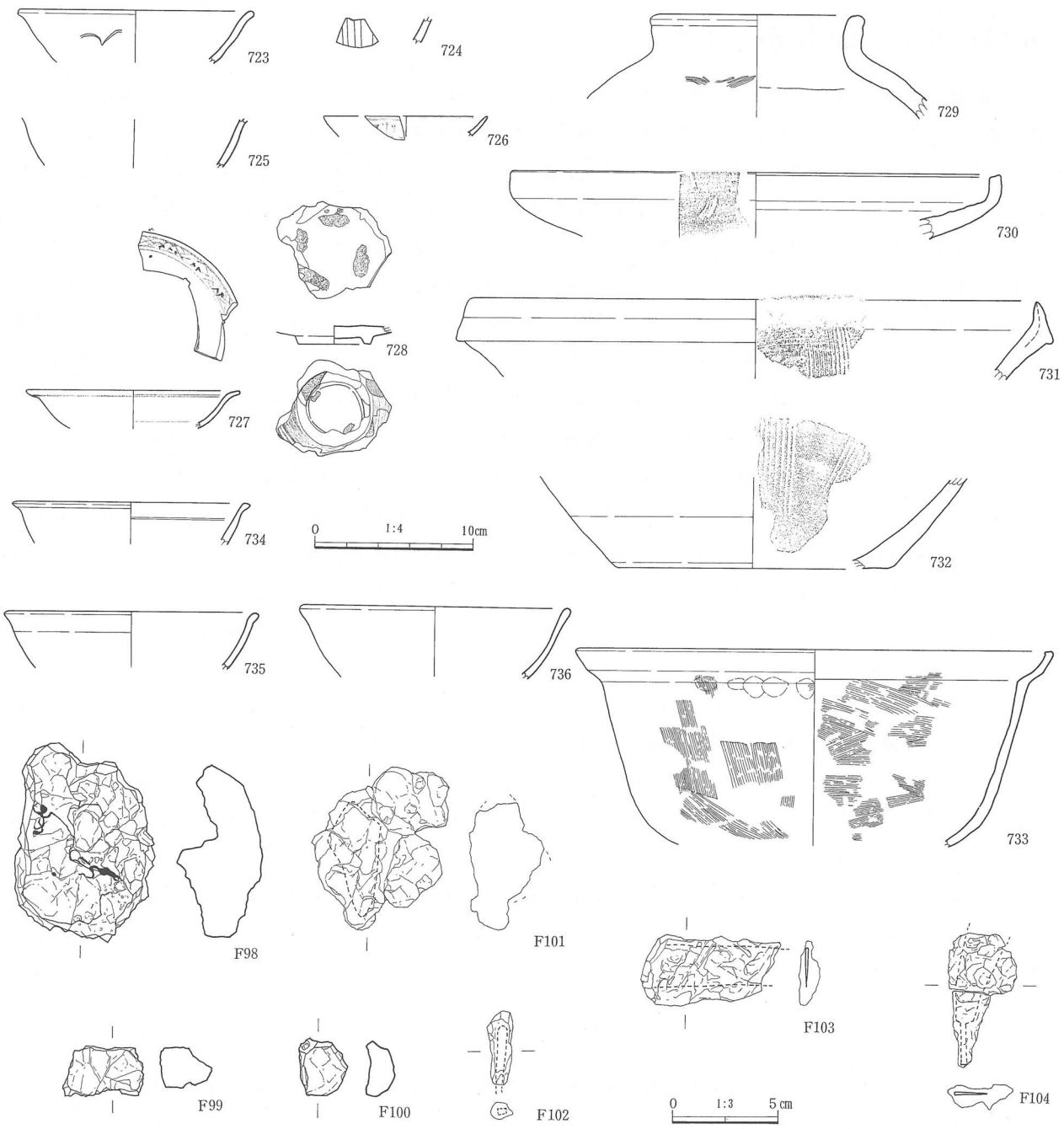



図 138　遺構外出土遺物

を測る。池状遺構③層から瓦質擂鉢（721）が出土していることから、13 ～ 14 世紀以降のものと判断した。同層から鉄釘（F 96・F 97）も出土している。溝埋土からは内黒の高台付杯（722）が出土している。下層のものが混入したのであろう。S 45 は磨石で、埋土上層で見つかった。（中森）

**遺構外出土の遺物**　（図 138、図版 84-3）

遺構外からわずかに貿易陶磁器、国産陶器が出土している。723 ～ 725 は青磁。723 は上田Ｃ類、724 はＢ類、725 はＤ類に相当する（註2）。726 は青花皿Ｃ群（註3）。727 は漳州窯系皿、728 は朝鮮産陶器皿の底部片である。高台の大半が割れ、体部も打ち欠かれたようになっており、いわゆる円盤状土製品であろうか。729 ～ 732 は備前産陶器である。733 は土師器鍋。弥生時代後期の竪穴住居跡５上層から出土した。734 ～ 736 は本調査地の北西部に近い古市コガノ木遺跡出土遺物である。その報告書に未掲載だったため今回実測し掲載した。734 は白磁Ⅸ類皿、735・736 は青磁Ｄ類である。（中森）

## 第３節　出土した五輪塔について

今回尾根１区を中心に18点の五輪塔を検出した。その大半は集石などに伴うものであったが、五輪塔以外にこれら遺構の時期を判断する材料に乏しかった。しかし鳥取県西部地域をみると、13世紀末～14世紀代に比定しうる積石基壇の日下古墳群SS01(註4)、15世紀中頃の土壙と考えられる会見町金田堂ノ脇遺跡SX01(註5)、16世紀代の土葬墓および火葬墓が検出された西伯町福成早里遺跡(註6)など時期のわかる遺構に伴って五輪塔が出土している。ここではそれらのうち特に形態的な変化がわかりやすい空風輪および火輪について検討してみる(註7)。

まずそれぞれの法量についてみてみる。もっとも古い日下古墳群SS01では空風輪が９点出土しており、高さ15.0～40.0cmと幅があるが、22.5～31.5cmあたりに集中するか。幅は17.5～23.5cmの間に収まる。金田堂ノ脇遺跡SX01には高さ22.7cm、幅16.2cmと小型の１点しかなく、傾向はつかめない。福成早里遺跡では５点のうち４点が高さ20.5～24.5cm、幅15.0～17.5cmの範囲に集中する。本調査地出土の空風輪も同様にみると４点のうち３点が高さ19.5～23.5cm、幅15.5～17.5cmの範囲にあり、この分布傾向は福成早里遺跡に類似する。

火輪は日下で８点ある。高さ20.0～25.5cmに７点が集中し、幅は30.0～46.0cmで35.0cmを超えるものが５点ある。金田では５点出土しており、やや法量にばらつきがあるが高さ15.0cm前後、幅30.0cm前後に集中しそうである。福成は５点で、高さ13.0～14.0cm、幅22.0～30.0cmの範囲に集中している。こうしてみると14世紀代に高さ20cm、幅35cmを超える大型のものが、16世紀代には小型化している様子が窺えそうである。幅をもちながらもやや小型のものが多い傾向の金田の事例は、15世紀の半ばというこれらの過渡的な時期といえようか。なお古市の火輪は４点あり、高さ14.0～17.0cm、幅25.0～33.0cmに収まり、これも福成と類似したあり方である。この結果は出土層位などの成果とも矛盾しない。金田堂ノ脇遺跡の例もあることからやや遡らせて考えておくと、本調査地の五輪塔は15世紀後半～16世紀代という時期が当てられよう。

また石材については安山岩系のものが圧倒的に多く、連綿と使用されている。おそらく大山西麓が産地と推定されるが、その石切場跡などは明らかになっていない。一方島根県安来市では凝灰岩が使われており、その流通域についても今後検討していかなければならない。

今回五輪塔によっても、この地域においてある程度時期判定ができることを提示した。まだ良好な出土資料が少なく大まかなものでしかないが、そうした資料を蓄積していく一方、型式学的検討を行っていくなどまだまだ残された課題は多い。

（中森）

（註）

（１）横田賢次郎・森田　勉　1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について―型式分類と編年を中心として」『九州歴史資料館研究論集』４

（２）上田秀夫　1982「14～16世紀の青磁椀の分類について」『貿易陶磁研究』No.２

（３）小野正敏　1982「15～16世紀の染付椀、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.２

（４）小原貴樹ほか編　1992『日下古墳群発掘調査報告書』米子市教育委員会

（５）西川　徹、高尾浩司編　1998『御内谷遺跡群』鳥取県教育文化財団

（６）北浦弘人ほか編　1998『福成早里遺跡』鳥取県教育文化財団

（７）本節の内容は石造物研究会第２回研究会において発表したものの一部である。
中森　祥　2001「出土した五輪塔、宝篋印塔―鳥取県西部を中心に―」　石造物研究会編『来待石を中心とした日本海文化』

表 18　五輪塔法量比較

| 古市宮ノ谷山遺跡 | | | | | | 金田堂ノ脇遺跡 | | | | | | 日下古墳群 | | | | | | 福成早里遺跡 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺物番号 | 空風輪 | | 遺物番号 | 火輪 | | 遺物番号 | 空風輪 | | 遺物番号 | 火輪 | | 遺物番号 | 空風輪 | | 遺物番号 | 火輪 | | 遺物番号 | 空風輪 | | 遺物番号 | 火輪 | |
| | 幅 | 高さ | | 幅 | 高さ | | 幅 | 高さ | | 幅 | 高さ | | 幅 | 高さ | | 幅 | 高さ | | 幅 | 高さ | | 幅 | 高さ |
| S26 | 17.2 | 22 | S33 | 28.4 | 16.7 | 12 | 16.2 | 22.7 | 1 | 33.9 | 17.9 | 1 | 17.5 | 22.7 | 13 | 30 | 17.2 | 1 | 19 | 29.9 | 1 | 35.4 | 17 |
| S25 | 18.9 | 27.2 | S44 | 25.2 | 13.9 | | | | 2 | 26.5 | 16.2 | 2 | 18.9 | 24.5 | 14 | 40.5 | 25.5 | 2 | 15 | 21.9 | 5 | 29.1 | 13.8 |
| S32 | 15.4 | 23.5 | S33 | 33 | 17 | | | | 3 | 28.4 | 15.2 | 3 | 18.8 | 25.9 | 15 | 46 | 25.3 | 3 | 16.3 | 22.2 | 6 | 28.2 | 13 |
| S31 | 15.3 | 19.9 | S27 | 27.5 | 16.4 | | | | 4 | 31.3 | 15 | 4 | 22.6 | 30.1 | 16 | 36.9 | 25.5 | 4 | 17.4 | 19.7 | 10 | 24.3 | 13.6 |
| | | | | | | | | | 5 | 34.2 | 22.3 | 5 | 22.7 | 36.5 | 17 | 43.2 | 25.3 | 9 | 16.5 | 24.3 | 11 | 22.1 | 12.8 |
| | | | | | | | | | | | | 6 | 20.2 | 29.6 | 18 | 37.4 | 23.6 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 7 | 20.4 | 31.3 | 19 | 32 | 20.5 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 8 | 15.9 | 21.4 | 20 | 32.8 | 20.5 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 9 | 23.6 | 39.9 | | | | | | | | | |

*遺物番号は各報告書による。

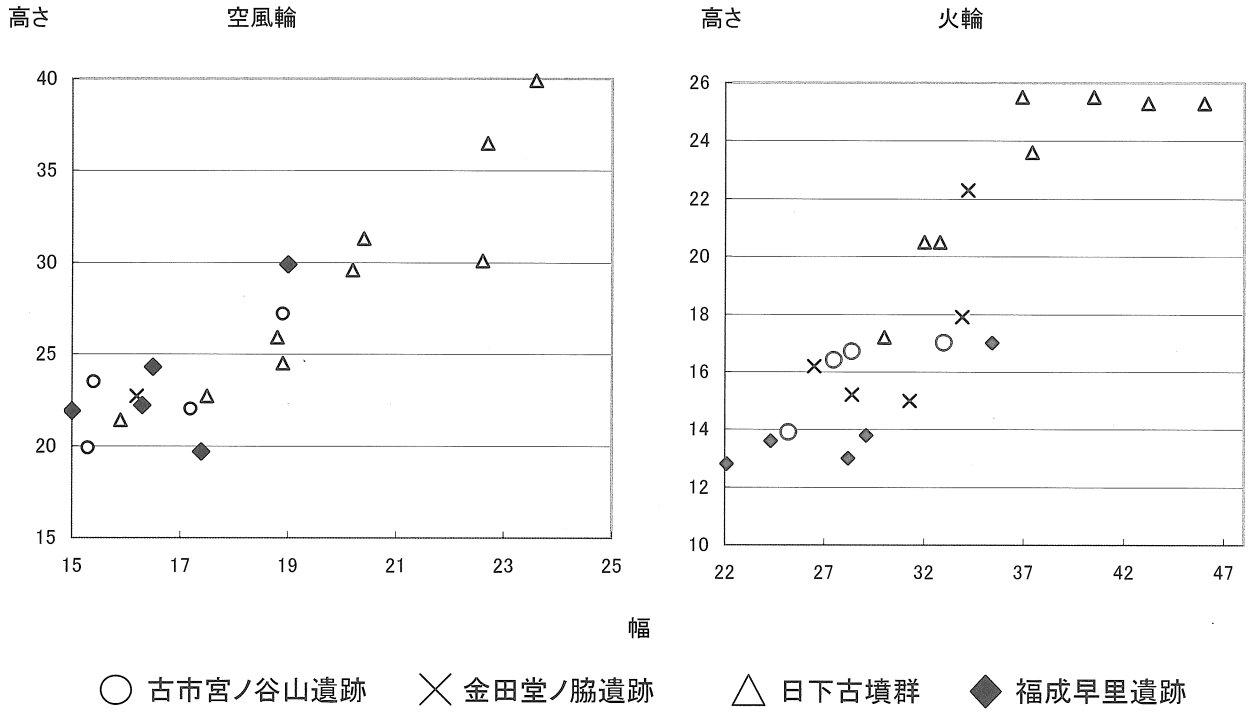



表 19　鎌倉時代～室町時代ピット一覧

| No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 | No | 地区 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 78 | C2 | 54 | 55 | 69 | I | | 389 | D6 | 76 | 72 | 22 | 黄褐色土 | 〃、底に石18X12X7 |
| 79 | C2 | 64 | 57 | 75 | I | | 390 | E2 | 31 | 29 | 18 | 灰褐色土<br>しまりわるい | |
| 80 | C2 | 42 | 38 | 21 | I | | | | | | | | |
| 81 | C2 | 38 | 33 | 53 | I | | 391 | D2 | 58 | 35 | 30 | I | |
| 82 | C3 | 41 | 37 | 20 | I | | 392 | D2 | 33 | 32 | 27 | I | |
| 108 | C3 | 41 | 40 | 23 | I | | 393 | D2 | 46 | 46 | 49 | I | |
| 128 | | | | | | 欠番 | 394 | D2 | 39 | 32 | 18 | I | |
| 384 | D6 | 45 | 34 | 14 | 黄褐色土 | T15-1層 | 395 | C3 | 24 | 20 | 52 | 灰褐色粘質土<br>ややしまりわるい | |
| 385 | D6 | 29 | 23 | 26 | 黄褐色土 | 〃 | | | | | | | |
| 386 | D6 | 43 | 40 | 15 | 黄褐色土 | 〃 | 396 | C3 | 36 | 31 | 39 | 〃 | |
| 387 | D6 | 33 | 23 | 12 | 黄褐色土 | 〃 | 397 | C3 | 31 | 20 | 19 | 暗赤褐色土(黒色土,<br>黄色粗砂混) | 395,396と異なる埋土 |
| 388 | D6 | 39 | 30 | 29 | T15-1層 | | | | | | | | |

## 表 20　第８章土器観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 655 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.6 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 656 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.1 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。全体にやや磨滅。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 657 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.5 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 658 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 659 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.5 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 660 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.7 | 3.7 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 661 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.0 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 662 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.9 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 663 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.9 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 664 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.4 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 665 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.4 | 3.8 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 666 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.4 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 667 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.1 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 668 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.4 | 4.4 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 669 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.0 | 4.1 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。全体に磨滅。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 670 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.8 | 4.5 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 671 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.5 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 672 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.0 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 673 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 4.1 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 674 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 675 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *13.0 | 3.7 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 676 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.6 | △4.0 | 体部回転ナデ。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 677 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.0 | △3.6 | 体部回転ナデ。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 678 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。全体に磨滅。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |
| 679 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.8 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面いびつで平面形楕円状。 | 密良 | 内：淡黄褐色<br>外：淡橙褐色 | |
| 680 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 3.7 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面に板目圧痕。体部下半に糸切りの圧痕がある。底部器壁薄い。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 681 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面裏に幅1.1cmの板目。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 682 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.7 | 4.5 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面に沈線状の圧痕。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 683 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.3 | △4.5 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。体部下位にまで糸切りの痕跡とどめる。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 684 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面に1条沈線状のものがある。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 685 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 686 | 125 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.0 | 4.4 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面に粘土粒付着。板目圧痕。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 687 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.3 | 3.9 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 688 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 橙褐色 | |
| 689 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 690 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.7 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 691 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 4.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。口縁高さいびつ。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 692 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 693 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 4.4 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 694 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.0 | 4.2 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 内：淡黄褐色<br>外：淡橙褐色 | |
| 695 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.4 | 4.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。器形ややいびつで平面形は楕円形を呈す。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 696 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.8 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。全体に磨滅。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 697 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.9 | 4.5 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 698 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.7 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。口縁から体部器壁薄い。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 699 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.3 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面に板目。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 700 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.6 | 4.3 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。磨滅している。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 701 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.4 | 4.4 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 702 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.0 | 4.7 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。口縁部器壁やや厚い。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 703 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *13.0 | 5.7 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。全体に磨滅。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 704 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *11.4 | 4.9 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 705 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.3 | 5.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 706 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 11.4 | 4.8 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面に幅2.4cmほどの板目圧痕。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 707 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 4.5 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。口縁高さいびつ。 | 密良 | 淡黄褐色 | |
| 708 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | *12.2 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 淡橙褐色 | |
| 709 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 杯 | 12.0 | 4.8 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 710 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 灯明皿 | 11.8 | 3.7 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。口縁部を波状にカット。やや磨滅気味。 | 密良 | 暗褐色 | 胎土分析資料№59 |
| 711 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 灯明皿 | *10.7 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。口縁部は波状にカットする。一部にスス付着。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 712 | 126 | 土坑16 | 土師器 | 灯明皿 | 11.5 | 3.6 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。口縁波状に打ち欠き、その口縁端部にスス付着。 | 密良 | 黄褐色 | |
| 713 | 127 | テラス24 | 土師器 | 杯 | 11.8 | 4.0 | 体部回転ナデ。底部静止糸切り。底面に幅1cmほどの板目圧痕あり。その窪んだ面にも糸切り痕残る。やや磨滅。 | 密やや軟 | 黄褐色 | |
| 714 | 127 | テラス24 | 瓦質 | 擂鉢 | 25.2 | 11.6 | 底部を打ち欠く。内面に5条一単位のオロシ目が8単位。片口の反対側口縁部に黒斑。 | 密やや軟 | 灰白色 | |
| 715 | 129 | テラス29 | 瓦質 | 羽釜 | *20.0 | △5.6 | 口縁端部面取りし、外面はやや外側に出る。突帯下ユビオサエ。 | 密やや軟 | 灰白色 | |
| 717 | 129 | テラス25 | 土師器 | 皿 | — | △1.2 | 底部回転糸切り。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 718 | 129 | E2・表土 | 土師器 | 灯明皿 | *7.4 | 1.5 | 底部回転糸切り。口縁端部にスス付着。 | やや粗やや軟 | 淡褐色 | |
| 719 | 129 | テラス26 | 土師器 | 皿 | — | △1.1 | 底部回転糸切り。全体磨滅し調整不明。 | やや粗やや軟 | 淡黄褐色 | |
| 720 | 134 | C6・Ⅰ層 | 土師器 | 皿 | — | △1.7 | 底部回転糸切り。 | やや粗やや軟 | 橙褐色 | |
| 721 | 137 | 池状遺構②層 | 瓦質 | 擂鉢 | — | △4.6 | 6条一単位のオロシ目が2単位残る。 | 密やや軟 | 灰白色 | |
| 722 | 137 | 溝16 | 内黒 | 高台付杯 | — | △2.2 | 体部回転ナデ。内面丁寧なミガキ。全体に磨滅。 | 密良 | 外面：橙褐色 | |
| 733 | 138 | F8・竪穴住居跡4表土 | 土師器 | 鍋 | *29.9 | △12.4 | 口縁部ナデ。体部は外面タテハケ、内面はヨコハケ。外面頸部に指頭圧痕。外面全体にスス付着。 | やや粗やや軟 | 淡橙褐色 | |

表 21　第８章陶磁器観察表

| 遺物番号 | 挿図 | 地区遺構 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 特徴 | 胎土 | 製作地 | 製作年代 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 716 | 129 | 集石2 | 白磁 | 皿 | *13.0 | △2.9 | 森田Ⅸ類。釉は淡灰色を帯びる。 | 灰白色 | 中国系 | 11 C～12 C初め | |
| 723 | 138 | 谷2区表土 | 青磁 | 碗 | *14.4 | △3.4 | 外面は連弁文か。上田C類。 | 灰色 | 龍泉窯系 | 15世紀代 | |
| 724 | 138 | F5 | 青磁 | 碗 | ― | △1.5 | 片切り彫りの連弁文。釉は淡青緑色を呈しガラス質。光沢をもち、内外面わずかに貫入。上田B類。 | 灰色 | 龍泉窯系 | 15世紀代 | |
| 725 | 138 | H5 | 青磁 | 碗 | ― | △3.0 | 釉は淡緑灰色を呈し、内外にわずかに貫入。上田D類。 | 灰色 | 龍泉窯系 | 15世紀代 | |
| 726 | 138 | 谷2区表土 | 青花 | 皿 | *10.2 | △1.3 | 小野分類C群。 | 白色 | 中国系 | 16世紀代 | |
| 727 | 138 | H4 | 青花 | 皿 | *13.5 | △2.4 | 口縁内面四方襷文。貫入多い。 | 白色 | 漳州窯系 | 16世紀代 | |
| 728 | 138 | G3 | 陶器 | 皿 | ― | △1.2 | 胎土がマーブル状。見込みに砂目痕。高台にも残る。高台部もかなり打ち欠かれている。円盤状土製品か。 | 灰色 | 朝鮮系 | 16世紀代 | |
| 729 | 138 | G4 | 陶器 | 壺 | *12.4 | △6.5 | 口縁ほぼ直立し、外面に浅い沈線が巡る。外面頸部下に波状文。 | 褐色 | 備前系 | 15世紀代 | |
| 730 | 138 | 谷2区表土 | 陶器 | 盤 | *30.5 | △4.2 | 口縁が直立するもの。 | 褐色 | 備前系 | 16世紀代 | |
| 731 | 138 | I6・表土 | 陶器 | 擂鉢 | *35.4 | △7.0 | 口縁端部尖り、下端はやや垂下。外面は無文。オロシ目の各単位間の幅広い。 | 褐色 | 備前系 | 15世紀代 | |
| 732 | 138 | E5・表土 | 陶器 | 擂鉢 | ― | △5.7 | 8＋αのオロシ目。かなり内面は磨滅。 | 褐色 | 備前系 | 15世紀代 | |
| 734 | 138 | FKG2区L41 | 白磁 | 碗 | *14.4 | △2.7 | 森田Ⅴ－2類。 | 白色 | 中国系 | 11c中～12c初 | |
| 735 | 138 | FKG2区L41 | 青磁 | 碗 | *15.4 | △3.6 | 上田D類。 | 灰色 | 龍泉窯系 | 15世紀代 | |
| 736 | 138 | FKG2区L41 | 青磁 | 碗 | *16.6 | △4.5 | 上田D類。 | 灰色 | 龍泉窯系 | 15世紀代 | |

表 22　第８章石製品観察表

1．法量について、復元値は＊、残存値は△で示した。単位は cm である

石器

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 地区遺構 | 器種 | 石材 | 長さ・高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S24 | 129 | 77 | 表土 | 不明 | 流紋岩質凝灰岩 | 10.1 | 5.6 | 2.15 | 110 | |
| S41 | 134 | 87 | 集石4下 | 砥石 | 安山岩 | 6.7 | 2.7 | 3.4 | 81.5 | |
| S45 | 137 | 77 | 溝16 | 磨石 | 安山岩 | 7.55 | 7.35 | 4.2 | 336.0 | |

五輪塔

| 遺物番号 | 挿図 | 図版 | 遺構名 | 部位 | 石材 | 幅(cm) | 高(cm) | 重量(kg) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S25 | 131 | 84 | 集石7 | 空風輪 | 安山岩 | 18.9 | 27.2 | 7.6 | |
| S26 | 131 | 84 | 集石7 | 空風輪 | 安山岩 | 17.15 | 22 | 6.5 | |
| S27 | 131 | 84 | 集石7 | 火輪 | 安山岩 | 27.5 | 16.4 | 12.8 | |
| S28 | 131 | | 集石7 | 水輪 | 安山岩 | 29.5 | 16.6 | 15.3 | |
| S29 | 131 | | 集石7 | 地輪 | 砂岩 | 33 | 20 | 37.3 | |
| S30 | 131 | | 集石7 | 地輪 | 安山岩 | 35.9 | 19.4 | 39.6 | |
| S31 | 132 | 84 | 集石9 | 空風輪 | 安山岩 | 15.25 | 19.9 | 4.1 | |
| S32 | 132 | 84 | 集石6 | 空風輪 | 安山岩 | 15.35 | 23.5 | 5.2 | |
| S33 | 132 | 84 | 集石5 | 火輪 | 安山岩 | 28.4 | 16.7 | 13.1 | |
| S34 | 133 | 84 | B2グリッドⅠ層 | 火輪 | 安山岩 | 33 | 17 | 21.7 | |
| S35 | 133 | | 集石5 | 地輪 | 安山岩 | 30.6 | 13.95 | 18.8 | |
| S36 | 133 | | 集石6 | 水輪 | 安山岩 | 32 | 22.3 | 24.7 | |
| S37 | 133 | | 集石9 | 水輪 | 砂岩 | ＊30.0 | 11.8 | ＊7.9 | |
| S38 | 133 | | 集石8 | 水輪 | 安山岩 | 32.5 | 23 | 32.6 | |
| S39 | 133 | | B2グリッドⅠ層 | 地輪 | 安山岩 | 30.6 | 21.35 | 31 | |
| S40 | 134 | 84 | C6グリッドⅠ層 | 火輪 | 安山岩 | 6.65 | 3.5 | 1.46 | |
| S42 | 135 | | G3グリッド | 水輪 | 安山岩 | 22 | 13.9 | 7.3 | |
| S43 | 135 | | H2グリッド表土 | 地輪 | 安山岩 | 25 | 14.7 | 12.9 | |
| S44 | 136 | 84 | 土壙2 | 火輪 | 安山岩 | 25.2 | 13.85 | 6.8 | |

# 第９章　時期不明の遺構

## 第１節　概要　（図 139）

時期不明の遺構のうち、溝 17 を除くすべての土坑は最終遺構面で検出している。土坑 36 以外の土坑は尾根１区に集中し、その大半が古墳盛土下の地山面から掘り込まれている。同一面では弥生時代後期の遺構も検出しているが、それらとは明らかに埋土が異なり、また遺物も出土しなかったため本章に一括してまとめた。

これら遺構は切り合い、および層位的な関係から古墳時代以前と以後の大きく２時期に分けられる。明らかに前者に属するものとして、15 号墳盛土下から検出した土坑群（土坑 22 ～ 26）、19 号墳埋葬施設１に切られる土坑 29、20 号墳盛土下の土坑 30、22 号墳盛土流出土下面検出の土坑 33 がある。また層位的にはわからないが、これらと埋土が似るものとして、土坑 31・32・34・35 があり、同様の時期と判断した。

後者のものには、15 号墳西側にある溝 17 がある。これは表土下から掘り込まれる直線的な溝である。この他 17 号墳埋葬施設１を切る土坑 27、同周溝埋土を掘り込む土坑 28 がある。とくに土坑 28 は中世後期遺物包含層であるⅠ層上面から掘り込まれており、それ以降のものとすることができる。

尾根２区の先端部に１基単独で土坑 36 は位置する。奈良時代後半～平安時代初頭の遺物包含層であるⅤ層下面で検出している。　（中森）

## 第２節　検出した遺構

**古市 15 号墳下層の遺構群**　（図 140）

15 号墳盛土を除去後、地山面で５基の土坑を検出した。いずれも灰色系のしまった土を埋土とするもので、これら土坑群の西側（14 号墳周辺）において検出した弥生時代中・後期の遺構群とは埋土を異にする。またこうした灰色系のしまった土が堆積するところも他になく、遺物もまったく伴わないことから時期を判定できなかった。

（中森）

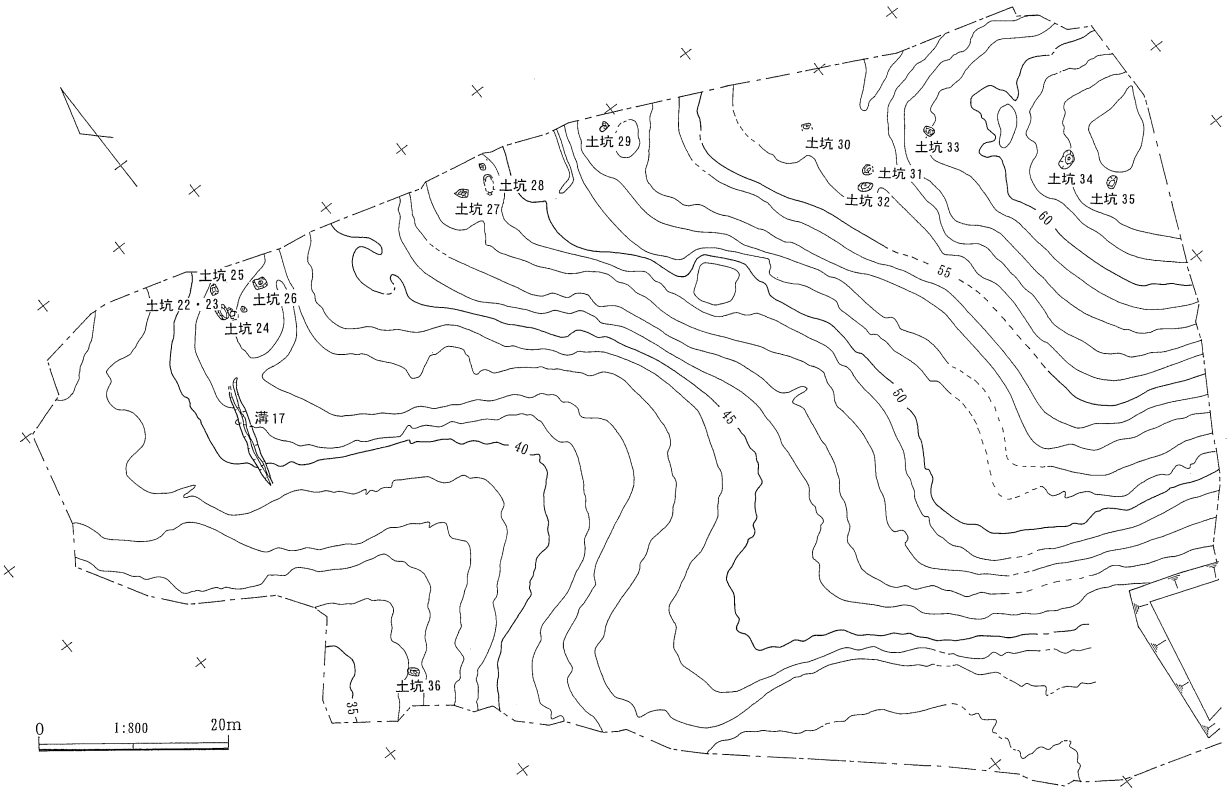



図 139　遺構外出土遺物

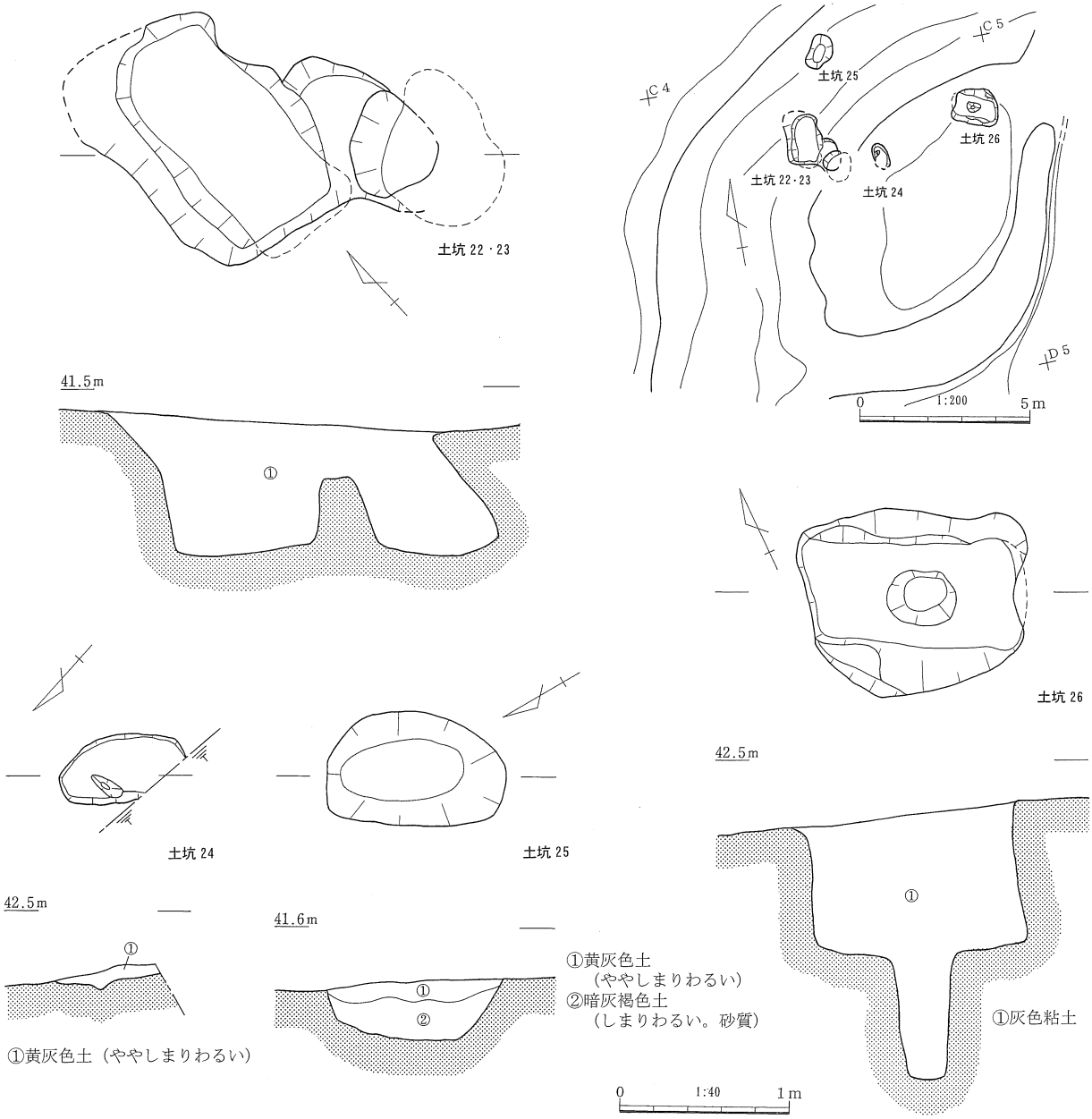



図 140　15 号墳下層土坑群

**土坑 22・23**　（図 140、図版 86-3）

Ｄ４グリッドにあり、２基の土坑が連結している。西側の土坑 22 は長軸がほぼ南北を向く。長径 1.5 m、短径 1.1 mほどの長方形を呈し、南側底面はフラスコ状で上場よりも外側にでる。深さは約 0.85 mであった。また土坑 23 は断面袋状を呈する土坑で、上場は長径 0.6 m、短径 0.5 mほどの不整円形である。底面は長径 0.9 m、短径 0.7 mほどを測り、深さは約 0.75 mである。土坑 22・23 の底面はほぼ標高 40.5 mで揃う。

土坑 22・23 との間がわずかに平坦で回廊状になっており、ここにもうひとつ土坑があった可能性も考えられる。しかしこれらは同一埋土であり、切り合い関係は認められなかった。（中森）

**土坑 24**　（図 140）

Ｄ４グリッドに位置し、長軸を南北方向に採る土坑である。南西部分はトレンチで切られてしまっているが、長径 0.75 m、短径 0.4 mほどの楕円形を呈する。深さは約 0.1 mと浅い。また土坑底面西側に長径 0.2 mほど、深さ 0.05 mの楕円形窪みがある。（中森）

**土坑 25**　（図 140）

Ｃ４グリッドにある長径 1.05 m、短径 0.7 m、深さ 0.35 mほどを測る楕円形の土坑である。埋土は２層に分

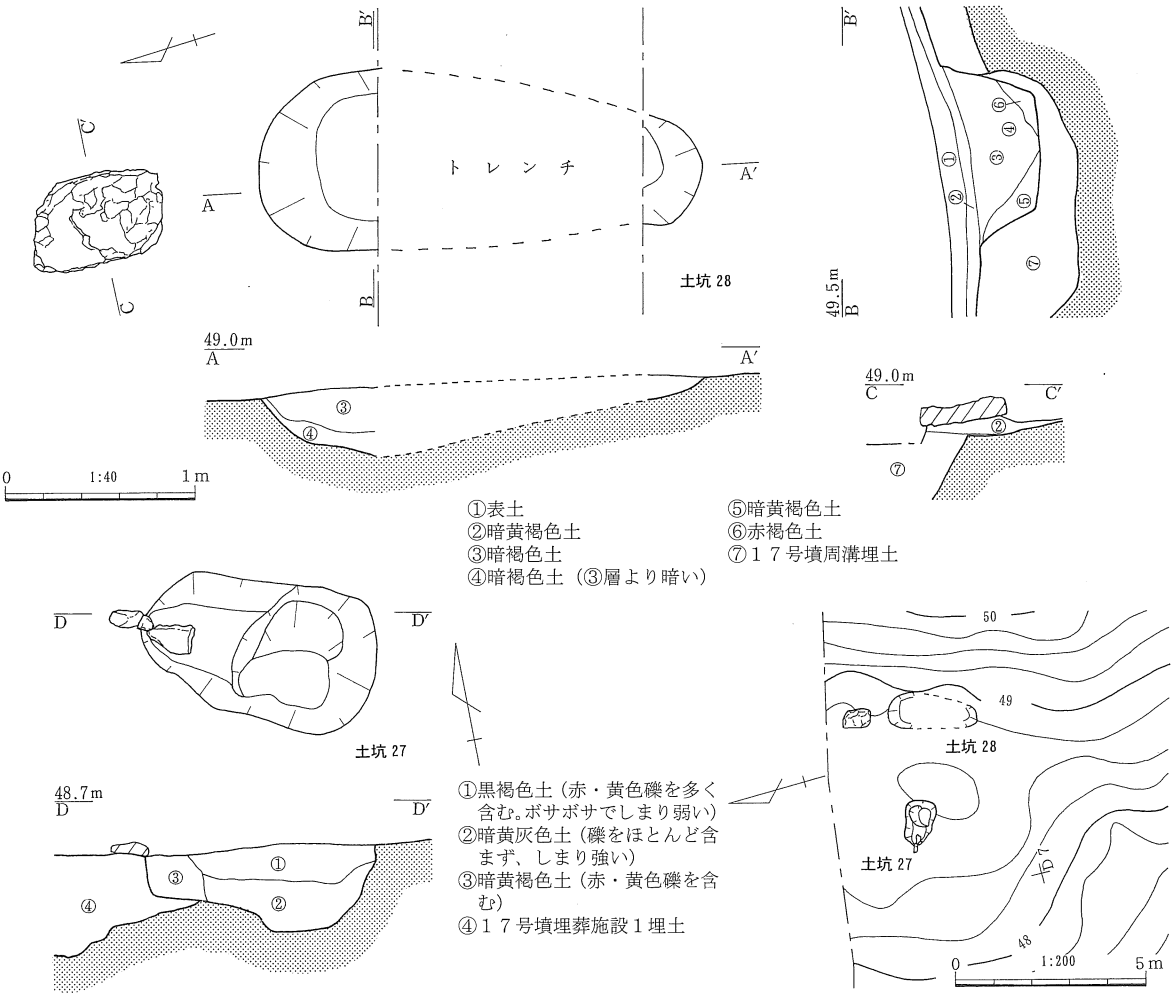



図 141　17 号墳上層土坑群

層でき、上層がしまりのよい灰色系の土であった。　（中森）

**土坑 26**　（図 140）

Ｄ４グリッドの北東部に位置する。長径 1.2 m、短径 1.1 mほどのほぼ隅丸長方形を呈する土坑である。底面までの深さは約 0.85 mで、その中央部に長径 0.4 m、短径 0.3 m、深さ 0.75 mほどのピットが掘られる。埋土はピット内も含め分層できず、同一であった。　（中森）

**溝 17**　（図 139）

15 号墳の南西部に位置する、長さ 11.5 m、幅 1.5 mほどの直線的な溝である。深さは約 0.3 mで、表土直下で検出、中世後期包含層であるＩ層を掘り込む（図 11）。遺物は出土しておらず、中世後期以降としか判断できなかった。　（中森）

**古市 17 号墳上層の遺構群**　（図 141）

２基の土坑を検出した。どちらも切り合い関係から、古墳築造後のものであることは明らかである。とくに土坑 28 は中世後期遺物包含層であるＩ層をも掘り込んでおり、それ以降のものと考えられる。しかしこれら２基の埋土は異なり、その関係については判然としない。　（中森）

**土坑 27**　（図 141）

埋葬施設１東側を掘り込んでつくられる。長径 1.25 m、短径 0.75 mほどを測り、東側は２段に掘られている。その深さは約 0.5 mであった。土坑西側埋土には、埋葬施設の石棺材をわずかに含む。埋葬施設１は攪乱を受け、石棺材も抜かれていたことから、その攪乱と関連する可能性も考えられる。　（中森）

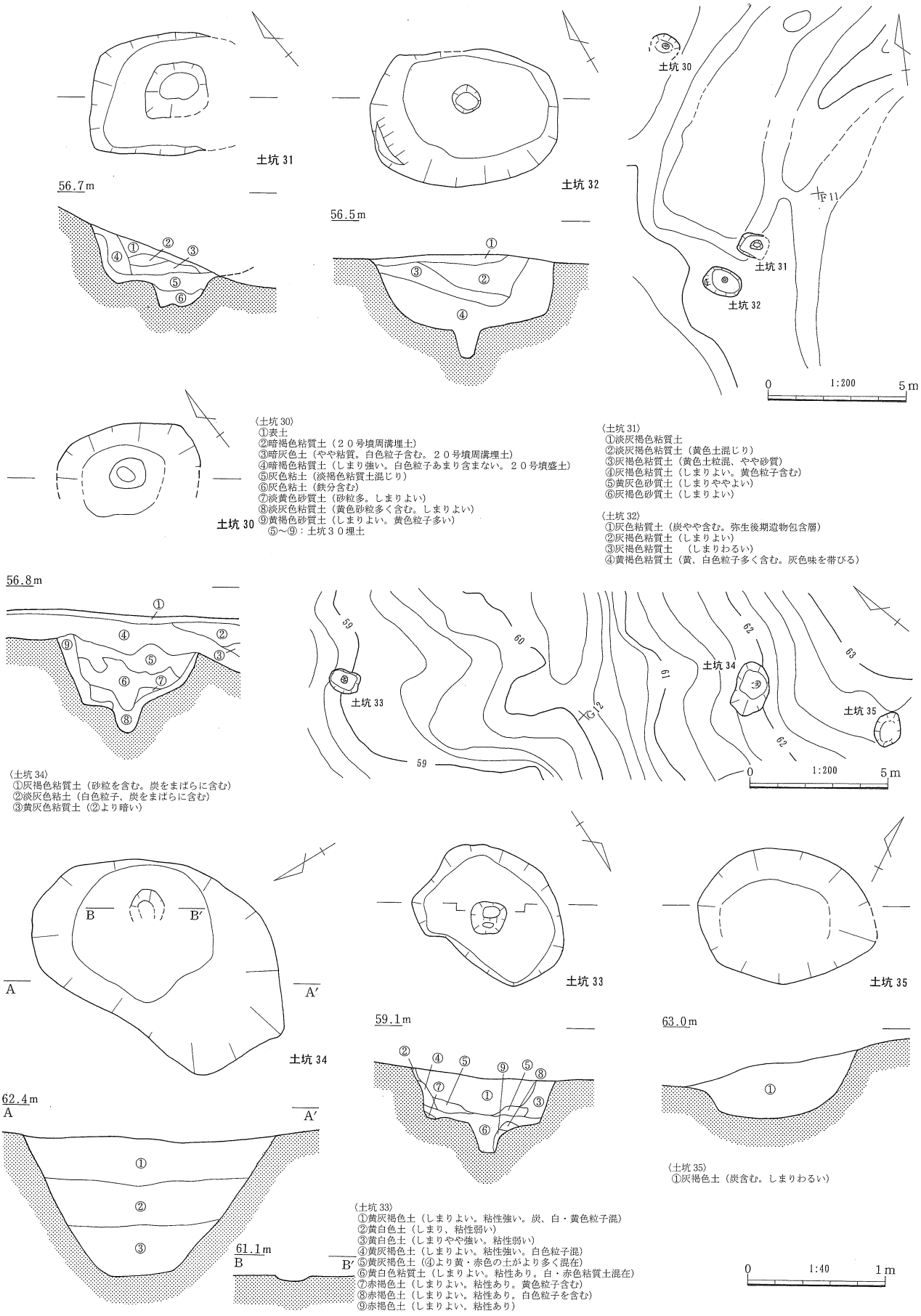



図 142　20・22・23 号墳下層土坑群

**土坑 28**　（図 141）

周溝埋土、およびＩ層を掘り込む土坑である。長軸は南北方向を向くが、その中央部は米子市教育委員会の試掘によりなくなっていた。検出できた長径は 2.35 m、短径 0.95 mほどを測る。底面は北側が深く南へ行くほど浅く傾斜していたと考えられ、深いところでは約 0.35 mであった。なお土坑北側約 0.5 mのところに、長径 0.7 m、短径 0.45 m、厚さ 0.1 mほどの板状石があった。層位的には土坑を覆う②層上面で検出しており、直接関連するものかどうかはわからない。石質は角礫凝灰岩であり、その形状から埋葬施設の石棺材であった可能性が考えられる。（中森）

**古市 20・22・23 号墳周辺遺構群**　（図 142、図 86-5）

20 号墳周辺と 22・23 号墳周辺にそれぞれ３基ずつの土坑を検出した。土坑 30 が 20 号墳盛土下、土坑 33 を 22 号墳盛土流出土下、土坑 35 は 23 号墳周溝下で検出しており、少なくともこの３基は古墳築造以前のものと考えられる。また土坑 32 は弥生時代後期遺物包含層に覆われている。これら土坑の埋土は灰色ないし黄色系のしまった土で、いずれも類似する。そのためほぼ同時期のものと判断した。なおその形態は平面隅丸長方形ないしは楕円形を呈し、土坑 35 を除きいずれも底面にピットをもつ。（中森）

**土坑 30**　（図 142）

20 号墳周溝西側に位置し、その盛土下層において検出した。南側半分はトレンチにより上場を削平されその規模は不明確であるが、長径 1.05 m、短径は 0.7 ～ 0.8 mほどになると思われる。底面までの深さは 0.5 mで、さらにそこから径 0.2 ～ 0.25 m、深さ 0.2 mほどのピットが掘り込まれる。遺構壁面および底面で厚さ 5 cm ほどの黄褐色砂質土を検出したが、あたかも貼ったかのように全面に広がっていた。またこれを切ってピット埋土は堆積していた。その性格については判然としない。（中森）

**土坑 31**　（図 142）

20 号墳周溝南東部にあるマウンド状高まりの東裾部に位置する。西には 20 号墳埋葬施設３があり、南西にはほぼ平行して土坑 32 がある。南東部分は削平されもとの形状をとどめないが、残存値で短径は 0.9 m、深さ 0.45 m ほどを測る。長径は 1.2 mほどであったか。底面に長径 0.45 m、短径 0.4 mほどの隅丸方形を呈したピットが深さ約 0.2 m掘られる。他の土坑に比べこのピットは平面規模が大きい。

土坑 30 同様壁面に黄灰色砂質土があったが 10cm 前後と厚く、また底面ピットを覆って堆積していた。（中森）

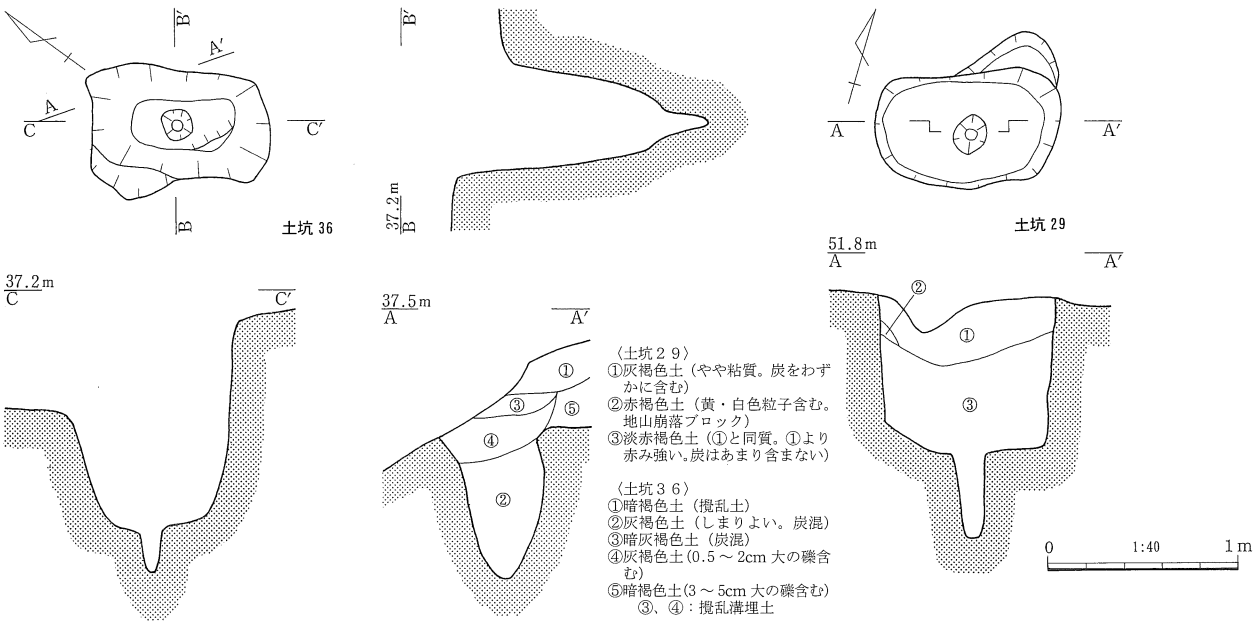



図 143　土坑 29・36

**土坑 32**　（図 142）

土坑 31 の南西に位置し、長軸はほぼ平行する。長径 1.35 m、短径 1.0 mほどの隅丸長方形を呈し、底面までの深さは約 0.5 mであった。底面ほぼ中央に径 0.2 m、深さ 0.2 mほどの円形ピットがある。最上層は弥生後期遺物包含層に相当すると考えられ、それ以前の所産と考えられよう。（中森）

**土坑 33**　（図 142、図版 86-2）

22 号墳北西部に位置する土坑で、その盛土流出土下面で検出した。長軸はほぼ南北方向で、長さ 1.1 m、短径は 0.85 mほどを測る。底面までの深さは約 0.4 mで、深さ 0.2 m、径 0.25 mほどの隅丸方形を呈したピットがある。土坑 30 同様壁面などに黄白色土が５～ 10cm ほどの厚さで堆積する。（中森）

**土坑 34**　（図 142）

22 号墳と 23 号墳の間に位置する。長径 2.0 m、短径 1.2 m、深さ 1.05 mほどを測る大型の土坑である。底面には径約 0.25 mの浅い円形ピットがある。埋土は 0.3 m前後の粘質土が３層、ほぼ水平に堆積している。（中森）

**土坑 35**　（図 142）

23 号墳周溝下で検出した。長径 1.3 m、短径 1.0 mほどの楕円形を呈した土坑で、深さは約 0.3 mを測る。東側から黄褐色粘質土が一度に流れ込んだような堆積状況を示す。底面にピットはない。（中森）

**土坑 29**　（図 143、図 86-4）

19 号墳埋葬施設１に切られる土坑である。長径 1.0 m、短径 0.6 mほどの隅丸長方形を呈し、底面までの深さは約 0.8 mであった。底面中央に径 0.2 m、深さ 0.45 mほどのピットが掘られる。時期は古墳以前であること以外わからない。（中森）

**土坑 36**　（図 143）

尾根２区先端部、Ｇ３グリッドの最終遺構面で検出した。長径 0.9 m、短径 0.55 mほどの隅丸長方形の土坑である。底面までの深さは約 1.0 mで、中央部に径 0.15 m、深さ 0.25 mの円形ピットが掘られる。上面を攪乱されており時期は不明であるが、遺構埋土は周辺の堆積土と異なり 15 号墳下層遺構群と類似することから、おそらく弥生時代後期以前のものではないかと考えられる。（中森）